Salesforce Winter '20 リリースノート

Salesforce, Winter '20

まったく新しい方法で顧客とつながる

@salesforcedocs

最終更新日: 2019/10/11

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2019 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Winter '20 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
機能が使用可能になる方法と状況 16
サポートされるブラウザ 64
Salesforce 全体 68
モバイル 108
Essentials Edition 141
Salesforce Einstein 142
セールス 148
サービス 233
Analytics 287
コミュニティ 366
Chatter 403
Files 405
Industries 408
カスタマイズ 455
セキュリティと ID 517
リリース 546
開発 546
Quip 662
マーケティング 670
重要な更新とセキュリティの更新 670
コンテンツへのスポットライト 675
その他の Salesforce 製品とサービス 678

Salesforce Winter '20 リリースノート

Winter'20リリースは、モバイル、業種ソリューション、さらにインテリジェントに顧客とつながって重要な瞬間を増やすためのAIに関する広範なイノベーションを実現します。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforceのリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '20の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce ClassicまたはLightning Experienceのどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce全体: Lightning Experienceに移行し、生産性の大幅な向上のための追加のツール

Lightning Experienceは有効化すると永続的に有効になります。追加のツールやアプリケーション内応答画面は新しいインターフェースへの移行に役立ちます。さらに、アプリケーション内ガイダンスでLightning Experienceのユーザをエンゲージしてガイドする方法も追加されます。ヘルプメニューに表示される内容をより詳細に制御します。Lightning Experienceでごみ箱にアクセスします。新しいテーマとトピック検索条件でレコードとリストビューをトピック別に整理します。検索語とクイック検索条件を使用してリストに対する一括アクションを微調整します。凝縮された印刷用リストでインクを節約します。Einstein検索が導入され、よりスマートでパーソナライズされた方法でSalesforceの作業を完了できます。Salesforceアンケートでアンケートを管理するためのより多くのインサイトと方法を利用できます。Lightning Schedulerで、より多くのツールでリソースと同時予定を管理してスケジュールを最適化します。改良されたセキュリティ更新ハブでデータを安全に保ちます。追跡および管理ツールが追加され、ドキュメントの処理方法が合理化されます。ワークフローを管理するダイアログは、そのダイアログが開かれたタブにのみ表示されます。また、Lightningコンソールアプリケーションでユーティリティアイコンの色をカスタマイズできます。

モバイル: カスタマイズされたモバイルエクスペリエンスと新しいSalesforceモバイルアプリケーション

最新のモバイルアップデートにより、デスクトップで使い慣れたLightning Experienceが新しいSalesforceモバイルアプリケーション用に最適化され、2019年10月14日の週から利用できるようになります。Mobile Publisherに追加されるカスタム通知やディープリンクといった主要な機能により、システム管理者はユーザのモバイルエクスペリエンスをカスタマイズできます。モバイルポートフォリオ全体を通して、システム管理者はかつてないほど強力な機能を駆使し、モバイルエクスペリエンスをカスタマイズして1つの統合されたSalesforceエクスペリエンスをユーザに提供できるようになります。

Salesforce Essentials: 新しい動画、設定フローの更新、その他の変更点

Salesforce サブスクリプションを最大限活用できるように、新しい動画シリーズで 1 ミニッツヒントをすばやく取得してください。サービスに重点を置くいくつかの設定フローが改良され、設定がさらに容易に(かつ、さらに快適に)なりました。自分に関連する更新を見つけることができるように、新しい Essentials 検索条件を使用して、セールスとサービスへのその他の変更を確認してください。

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

四半期ごとの売上予測スケジュールで Einstein 売上予測を使用します。Einstein ケース分類によって、予測項目値を自動的にケースに保存します。コーディングなしで、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery 予測スコアを自動的に書き込みます。

セールス: High Velocity Sales の分岐、Einstein のレポートと四半期別売上予測、カスタマイズ可能な取引先チームと取引先責任者の役割

通話の結果に基づいてステップに分岐するセールスケイデンスを作成します。商談スコアリングモデルの要素に関するレポートを作成し、Einstein 売上予測を四半期別売上予測に使用します。取引先チームと商談取引先責任者の役割にカスタム項目、トリガ、およびワークフロールールを使用します。Einstein 活動キャプチャで何をキャプチャして同期するかを制御します。Google と Microsoft のメールインテグレーションが改良されています。Salesforce Billing 支払コンポーネントを使用して、顧客やパートナーはより簡単かつセキュアに支払ができます。さらに、Pardot アクティビティデータセットでエンゲージメントパターンに関するインサイトを得ることができます。

サービス: Einstein 記事のおすすめ、Field Service のタイムシート、ナレッジチャネルの追加、事前チャット情報のすばやい確認、その他の多くの改善

サービスに加えられた多くの更新によりエージェントの時間を節約し、顧客の満足度を高めます。推奨記事を使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。フィールドサービスの派遣作業員が作業時間を外出先で記録できるようにします。より多くのチャネルを使用してナレッジ記事を送信します。チャットを受け入れる前に、エージェントが事前チャット情報および訪問されたページを確認できるようにします。セカンダリルーティング優先度を使用して、エージェントが最初に適切なケースに取り組むことができるようにします。ケースフィードで拡張メール環境を使用して、エージェントの生産性を向上します。ケースのクローズ時にアンケートを自動的に送信して、顧客が考えていることを確認します。サードパーティの自然言語処理エンジンを Einstein ボットに統合します。

Analytics: 行レベルの数式、コード不要のモデルリリース、新しいホーム、Salesforce モバイルアプリケーションのインテグレーション

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。このリリースの Analytics 機能の数と範囲は、Winter '20 の期間中適用されます。Lightning レポートビルダーで直接、行レベルの数式を記述する機能が正式リリースされます。コードを記述することなく、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery 予測スコアを自動的に書き込みます。新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドです。Salesforce モバイルアプリケーションを離れることなく、全画面ダッシュボードの表示からお気に入りの追加まで、多数の重要な Einstein Analytics タスクを実行します。他にも多くのアクションがあります。

コミュニティ: Salesforce CMS、アクセス制御、ゲストユーザのセキュリティ強化

Salesforce CMS を使用した Salesforce でのコンテンツの作成、整理、公開が正式にリリースされました。ワークスペースのアクセス制御を使用して、コミュニティの公開および編集が可能なユーザをより厳密に制御できます。また、認証されていないコミュニティユーザにアクセス権を付与すると同時に、Salesforce によるデータの保護を確実にできます。

Chatter: 質問の文字数制限、ケースフィード項目の表示、モバイルレコードナビゲーション

質問の文字数制限が明確になりました。ケースフィード項目の設定を公開または非公開に設定します。新しい Salesforce モバイルアプリケーションで、より多くのレコードフィード情報を表示するかスキップするかを選択します。

ファイル: ファイル共有の改善、削除なしでのファイルの削除

レコードのファイルの処理方法を強化しました。ファイルは、ファイルに関連付けられているレコードの共有設定を継承できます。Salesforce からファイルを削除せずに、レコードからファイルを削除できます。コミュニティを使用する組織では、顧客にレコードのファイルを表示できます。

業種: Manufacturing Cloud と Consumer Goods Cloud の導入

Salesforce の業種別ソリューション群に、生産性とセールスプロセスを追跡できる Manufacturing Cloud と、店舗の在庫管理に正面から取り組むことができる Consumer Goods Cloud が加わりました。また、Financial Services Cloud には住宅ローン顧客に対応するための新しい方法が導入され、Health Cloud ではケア提供者や患者とのつながりが向上しました。

カスタマイズ: Einstein 予測ビルダー、Lightning アプリケーションビルダーの改善、および Lightning フローの改善

Einstein 予測ビルダーで、予測と比較の検索条件を使用できます。Lightning アプリケーションビルダーで、新しい Salesforce モバイルアプリケーションに合わせてページを設定できます。より多くのビルディングブロックで、より良いプロセスを構築できます。

セキュリティと ID: Identity Connect 3.0、検証の改善、ドメインの Edge サービス、リアルタイムイベントモニタリング、拡張トランザクションセキュリティの正式リリース

Identity Connect 3.0 にアップグレードすると、Microsoft Active Directory との同期が迅速になり、ユーザ管理が簡単になります。ユーザの検証方法を登録する独自の ID 検証ページを作成できます。Salesforce Edge を使用して Salesforce およびコミュニティドメインを提供することで、接続およびパフォーマンスを改善できます。設定変更履歴とカスタム表示ラベルを使用して接続アプリケーションを管理し、[ドメイン] 設定ページで表示する HTTPS 詳細を増やすことができます。リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティが正式リリースされました。

リリース: 新しい変更セットコンポーネント

新しいコンポーネントを変更セットに使用できます。変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの構築

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Quip: 簡素化された設定、モバイルでの Quip 文書、新しいライブアプリケーション、Einstein Analytics ダッシュボードなど

外出先で Quip 文書を確認できます。Quip で Einstein Analytics ダッシュボードを開くことができます。Salesforce リストビューや Salesforce レポートなどの Salesforce データを Quip に埋め込むことができます。プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、ビジネスを自動化してチームの時間を節約できます。

マーケティング: Audience Studio ID と Personal Social Manager

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

重要な更新とセキュリティの更新

このリリースには、ロケールの形式、`@AuraEnabled` Apex メソッド、アクション、およびその他の変更に関する新しい重要な更新があります。[セキュリティの更新] ページの更新と、以前にリリース済みで、新しく適用された重要な更新も確認してください。

コンテンツへのスポットライト

Trailhead のモジュール、トレイル、プロジェクトが追加され、手順動画が作成および更新されました。Manufacturing Cloud と Consumer Goods Cloud の新しいガイドを導入しました。

その他の Salesforce 製品とサービス

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「既知の問題」のサイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

このリリースについて計画するときに重要なのは、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのためリリースノートでは、環境に関する情報をすぐ目に付く中央に記載しています。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、Salesforce アプリケーション (モバイル)、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

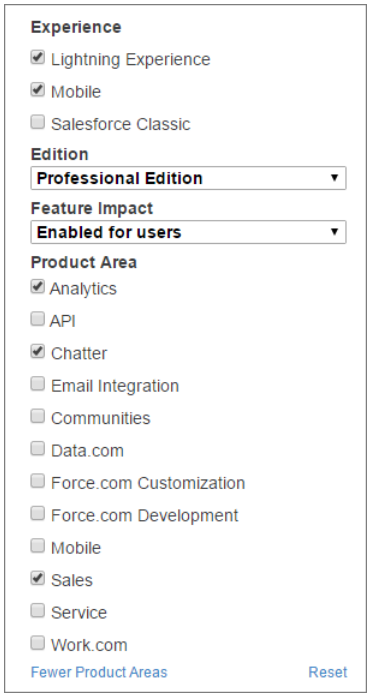
機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、右側にある [条件を表示] をクリックします。



絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択して URL をコピーし、その URL を任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

このリリースについて計画するときに重要なのは、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのためリリースノートでは、環境に関する情報をすぐ目に付く中央に記載しています。

リリースノートの「対象」セクションで、変更が適用されるユーザ環境を確認してください。たとえば、Lightning Experience のみの機能である場合、「対象」セクションには、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。主要機能が Salesforce モバイルアプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでもその点を示しています。または、新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することができます。

「このリリースの Lightning Experience の機能」リストをお探しですか?

すべての新しい Salesforce イノベーションは Lightning Experience のみに加えられます。つまり、リリースノートで発表される更新のほとんどは、多くの場合 Lightning Experience のみに適用されます。Salesforce Classic のみに適用される場合、通常はリリースノートにその旨が記載されます。ただし、更新が適用されるインターフェースを確認するために、リリースノートの「対象」セクションを常に参照することができます。

Winter '20 以降、「このリリースの Lightning Experience の機能」セクションが削除されます。

Lightning Experience でまだ使用できない Salesforce Classic 機能をお探しですか?

Salesforce ヘルプの「Lightning Experience と Salesforce Classic との間にある機能の違い」を参照してください。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
Salesforce 全体	
Lightning Experience - Recycle Bin (Lightning Experience - ごみ箱)	Lightning Experience でのごみ箱へのアクセス (ページ 82)
Printable View for List Views in Lighting as in Classic (Classic のような Lighting のリストビューの印刷可能なビュー)	リストの印刷用表示でインクと用紙の節約 (ページ 84)
Lightning Topics - Filter List Views by Topics (Lightning トピック - トピックでのリストビューの絞り込み) To use Topics in view filters and to get Related to Topics in global search (参照検索条件でトピックを使用し、グローバル検索で関連トピックを取得する方法) *(部分的に実現)* Personal Tags in List Views or Reports (リストビューまたはレポートでの個人タグ) Topics: Ability to pull a list of records together in Lightning (トピック: Lightning で一連のレコードをまとめて取り込む機能) View all Files Related to a Topic in Chatter (Chatter のトピックに関連するすべてのファイルの表示)	トピック検索条件によるトピックへのリストビューの固定化 (ページ 82)
Topics: Ability to pull a list of records together in Lightning (トピック: Lightning で一連のレコードをまとめて取り込む機能) View all Files Related to a Topic in Chatter (Chatter のトピックに関連するすべてのファイルの表示) View Subject Records for Topics in Lightning (Lightning でのトピックの件名レコードの表示) Provide List Views for Topics To See Object Records (トピックのリストビューを提供してオブジェクトレコードを表示) Topics for Object Added to Topic Pages (トピックページに追加されたオブジェクトのトピック)	トピックの詳細ページでのトピック別のレコードの表示
Sales Cloud	
Customizable Sales Teams and Account Teams (カスタマイズ可能な営業チームと取引先チーム)	取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

IdeaExchange	実現したアイデア
Allow triggers on Account Team Member Object (取引先チームメンバーオブジェクトでのトリガーの許可)	取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上
Account Team Reporting - Need ID field (取引先チームのレポート - ID 項目が必要)	取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上
Enable Sort Button for Opportunity Product in Lightning (Lightning での商談商品の並び替えボタンの有効化)	Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え
Dependent picklist fields on Opportunity Product are all locked in Lightning (商談商品の連動選択リスト項目が Lightning ですべてロックされる)	Lightning Experience での商談への商品の迅速な追加
Make "My Team's Opportunities" available as a View option ([私のチームの商談] を [参照] オプションとして使用可能にする)	Lightning Experience でチームが所有する商談を 1 クリックで表示
カスタマイズ	
Where is this field used (page layout or formula) (この項目の使用場所 (ページレイアウトまたは数式))	項目の参照の確認とそれを使用したレポートの検索 (正式リリース)
Dynamic Values/Variables/Choices in the same Flow screen (同じフロー画面での動的な値/変数/選択肢)	条件付き表示を使用した動的なフロー画面の作成
Lookup field in Visual Workflow (Visual Workflow の参照項目)	フローでのレコード検索時のユーザ支援
New Cloud Flow - Associating Variable (新しい Cloud Flow - 変数の関連付け)	Flow Builder でのリソース作成の容易化
Activate Flow within Flow Builder (Flow Builder 内でのフローの有効化)	Flow Builder からのフローの有効化
Show longer element descriptions in Flow Builder (Flow Builder での長い要素説明の表示)	Flow Builder の長くなった要素ラベル、パン機能の改善、ドラッグによる選択
Ability to declaratively schedule flows or processes (フローやプロセスを宣言型によってスケジュールする機能)	スケジュールによるフローの開始
プロセスビルダーによる AccountTeamMember の作成の許可 - および他のすべてのオブジェクト	プロセスビルダーによる取引先チームの自動作成
Analytics	
Report Filters Should Be Able To Compare Fields To Each Other (レポートの検索条件で項目を相互比較できるようにする必要がある)	項目間の絞り込みによる項目の比較を使用したレポートの絞り込み (ベータ)
Report Option for Distinct/Unique Records (個別/一意のレコードのレポートオプション)	レポート結果での値のユニーク数 (ベータ)

IdeaExchange	実現したアイデア
Possibility to subscribe to an Einstein Analytics dashboard (Einstein Analytics ダッシュボードへの登録の可能性)	主要な総計値に関するメール更新の登録 (ベータ)

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの新機能

- リリース概要デッキ (ROD)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- リリースマトリックス。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- Winter '20 プレリリースのサインアップ。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- Winter '20 リリース Web サイト。新しい機能を確認します。
- 「Winter '20 リリースの特長」モジュール。Winter '20 Trailhead バッジを取得します。
- Release in a Box。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- リリースのマイルストン。リリースの重要な日付を確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、**[Instances (インスタンス)]** をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。
- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- カスタマーサクセスのイベントカレンダー。リリースの概要の Web セミナーに登録したり、Web セミナーの録画にアクセスしたりします。
- Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。

- Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)。メールに登録してリリースの準備を整えます。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

2019 年 10 月 16 日

管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法

Einstein Analytics Adoption アプリケーションの新バージョンを発表します。

経時的な精度の分析による予測の改善

経時的な予測精度を表示するアプリケーションを作成するための新しいモデルマネージャ機能を発表します。

オブジェクト検出の最大画像サイズが 5 MB に増加

Einstein Vision のオブジェクト検出データセットに追加できる画像の最大サイズを 1 MB から 5 MB に増やしました。

テキストデータセットが 300 万ワードまで格納可能に

テキストデータセットの最大ワード数が 300 万に増えました。

Bulk API 2.0: レポートされた結果でのオーバーフローエラーの回避

`/services/data/v`***`XX.X`***`/jobs/ingest/`***`jobID`*** のレスポンスボディで変更された項目種別に関する情報です。

AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent イベントオブジェクトが使用不可に

AdminSetupEvent イベントオブジェクトと AdminSetupEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれていますが、以前はベータでした。

ナビゲーションバー項目での上位の検索結果の表示が中止に

検索機能の削除に関する情報を追加しました。

Inbox モバイルアプリケーション (ページ 202)

iOS と Android 用の最新 Inbox リリースで登場した Inbox Mobile アプリケーション機能に関するリリースノートを追加しました。

2020 年 10 月に Microsoft Office 365 での一部の Lightning Sync ユーザへのサービスを停止

Office 365® での Lightning Sync ユーザが必要なセットアップについてお知らせします。

Einstein 予測ビルダー: 比較による絞り込み

「Einstein 予測ビルダーの検索条件を使用した将来の予測」のリリースノートは、該当機能が使用できなくなりましたので削除しました。

販売契約および取引先売上予測を使用した医療機器販売の簡略化 (正式リリース)

Manufacturing Cloud への参照を修正しました。

パーソナライズされた検索結果を使用した生産性の向上 (ベータ) (ページ 87)

Sandbox 組織や Salesforce Shield Platform Encryption が有効化されている組織では、検索インデックスファイルに対してパーソナライズされた検索が使用できないことを説明しています。

Field Service のパフォーマンスの向上 (ページ 249)
ガントチャートで表示できるサービステリトリーの数が 2,000 件に増えました。

2019 年 10 月 9 日

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)
タブ中心のダイアログは、デフォルトでは有効にならなくなりました。重要な更新でタブ中心のダイアログを有効にできます。

Einstein Analytics for iOS/Android の Winter '20 バージョンへのアップグレード
Einstein Analytics for iOS/Android バージョン 8.0 が、App Store と Google Play で正式リリースされました。

デフォルトのメールフォントの設定
メールへのデフォルトフォントの適用方法を明記しました。

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)
重要な更新を有効化する前にパッケージプロバイダを確認するための推奨事項を追加しました。通貨のロケールとして英語(カナダ)を有効にするステップを追加しました。記載されている API バージョンを導入しなくても UI の変更を適用できることを明記しました。

Lightning 専用タブの表示または非表示
Lightning 専用タブの表示/非表示などの設定がプロファイルで行えるようになったことに関する情報を追加しました。

インドの州選択リストへのテランガーナの追加
州と国/テリトリーの選択リストにこの州が追加されたことを明記しました。テランガーナを選択リストに追加する手順を追加しました。

活動ダッシュボードでユーザ別の取引先と商談が非表示に
Einstein 活動キャプチャユーザが使用する活動ダッシュボードへの変更に関するリリースノートを追加しました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`lightning:breadcrumb`、`lightning:datatable`、`lightning:tree` への属性変更を追加しました。

変更された Lightning Web コンポーネント
`lightning-breadcrumb`、`lightning-datatable`、`lightning-tree` への属性変更を追加しました。

新規または変更された CLI コマンド
新しい Salesforce CLI コマンドとパラメータを追加しました。

レコード削除トーストの新しい取り消しリンク
レコード削除トーストメッセージの新しい取り消しリンクに関するリリースノートを追加しました。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント
FlowExecutionErrorEvent からの通知が画面フローエラーに関するものであることを明記しました。

削除: Field Service の配信設定の管理
この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が完了するまでは削除します。現在、Field Service Lightning は通知ビルダーをサポートしていません。

Apex コードでの Einstein 予測の取得
Apex 用 Einstein Discovery 予測 API に関するリリースノートを追加しました。

HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)
重要な更新の適用日を明記しました。

コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)
重要な更新の適用日を明記しました。

削除: CSS スタイルルールの共有
この機能は、まだ Lightning Web コンポーネント開発者が使用できる準備が整っていません。使用可能になった時点でお知らせいたします。

Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ) (ページ 554)
Lightning Web コンポーネントで使用できる新しいローカル開発機能に関するリリースノートを追加しました。

データセットなしでの Salesforce データの直接調査
Einstein Analytics Salesforce Direct に関するリリースノートを追加しました。

2019 年 10 月 7 日

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート
Winter '20 での有効化が予定されていたこの重要な更新の自動有効化が 2020 年 1 月に開始されることを発表しました。

2019 年 10 月 2 日

大きすぎる画像を埋め込もうとした場合の通知
エージェントが大きすぎる画像をメールに追加しようとした場合に表示される警告を明記しました。

コンテンツへのスポットライト
最新のコンテンツ (Trailhead モジュール、トレイル、プロジェクト、手順動画) の改善と、Manufacturing Cloud および Consumer Goods Cloud の新しいガイドに関する情報を追加しました。

重要な更新「暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで without sharing を使用」の廃止
重要な更新がすべての組織で自動的に有効化されるわけではないことを明記しました。

検索: Einstein 検索の導入 (ベータ)、よりスマートになった Salesforce での作業
Einstein 検索機能が使用できるようになる時期に関する情報を追加しました。

JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換
JavaScript アラートの変換に関する情報を追加しました。

iPad デバイスでの Safari から Salesforce へのアクセス (ベータ)
Apple の新しい iPadOS リリースと、iPad での Salesforce へのアクセスへの影響に関するリリースノートを追加しました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートで簡単にアップグレード
モバイル Lightning ページレポート用の Salesforce Optimizer の実行に関する推奨事項を削除しました。モバイル Lightning ページレポート用の Salesforce Optimizer はまだ使用できません。

iPad での Safari からの Salesforce リンクへのアクセス
iPadOS で Salesforce ページへのリンクを開く方法の変更に関するリリースノートを追加しました。

未認証の参加者による回答の許可
ゲストユーザが未認証のアンケートへの招待を表示して回答する方法に関するリリースノートを追加しました。

非システム管理者ユーザの新しい権限の要件
Salesforce Billing での新しい権限の要件に関するトピックを追加しました。

安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデル (セキュリティの更新)
安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデルに対するセキュリティの更新に関するリリースノートを追加しました。

2019 年 9 月 25 日

メタデータ API で公開される設定
追加された項目を反映して、LightningExperienceSettings メタデータ型の説明を更新しました。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント
LightningUriEvent および LightningUriEventStream の `SessionLevel` 項目が将来の使用のために予約されていることに関する注意事項を追加しました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
検索可能になったオブジェクトに関する情報を追加しました。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)
自動有効化日付の延期に関するリリースノートを追加しました。

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)
API 45.0 以降での要件を明記しました。

Optimizer レポートでは Inbox ではなくファイルに着目
Salesforce Optimizer の成功メールの変更に関するリリースノートを追加しました。

組織のセキュリティ担当者の管理 (ページ 104)
セキュリティ担当者オプションに関するリリースノートを追加しました。

Lightning Locker の API バージョンの選択
カスタムコンポーネントを使用している組織に関する情報を削除しました。Locker API バージョンの変更リストを追加しました。

2019 年 9 月 18 日

お客様のご要望
当社が配信したアイデアが追加されました。

ケースフィードで未読フィード項目がある場合の表示 (ページ 279)
この機能を有効にするには Salesforce に連絡するように指示する情報を追加しました。

欠損値の予測によるデータの補完
予測欠損値レシピ変換に関するリリースノートを追加しました。

変更された Apex クラス
新しい isCurrentUserLicensedForPackage Apex メソッドに関する情報を追加しました。

新規 Apex クラス
新しいパッケージクラスの新しい getCurrentPackageId Apex メソッドに関する情報を追加しました。

削除: 見積、修正、および更新ジョブ要求へのガードレールの追加
この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が完了するまでは削除します。

Einstein 活動キャプチャのデータストレージ容量の変更
時間の経過と共に格納される活動の量に関するリリースノートを追加しました。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド
準備状況チェックの更新に関する発表を追加しました。

メールではなく設定コンバータでのスキャン結果の表示
Lightning Experience 設定コンバータの変更に関するリリースノートを追加しました。

Lightning Experience に向けて組織を準備するためのガイダンス
システム管理者向け移行応答画面に関するリリースノートを追加しました。

組織全体のアクセスを制限した後でのプロファイルと権限セットに対するカスタム設定へのアクセス権の付与 (重要な更新) (ページ 512)
カスタム設定へのアクセス許可に関するリリースノートを追加しました。

拡張された取引先リレーション構造による顧客リレーションの深化 (ページ 441)
「関連トピック」リンクを更新しました。

2019 年 9 月 11 日

プログラムへの患者の登録および同意の取得
ケアプログラムのエンロールメントはデスクトップでのみサポートされ、Microsoft Edge はサポートされないという注意事項を削除しました。

ドキュメント追跡と承認 (正式リリース)
ドキュメント追跡と承認の説明を Salesforce 全体から Industries の Financial Services Cloud に移動しました。

重要な更新のリリースノートにセキュリティの更新を追加
重要な更新に関するリリースノートでは、[設定]の[セキュリティの更新]ページに表示されるすべての更新も参照されるようになりました。

AppExchange Checkout で強力なカスタマー認証をサポート
AppExchange Checkout は、欧州経済圏での支払で強力なカスタマー認証をサポートするようになりました。

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新)
適用日が変更されました。この要件は、組織が Spring '20 リリースにアップグレードした時点で適用されます。

Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示
Lightning Experience コミュニティページの新しい Einstein Discovery Predictions コンポーネントをコミュニティリリースノートに追加しました。

Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示
Lightning Experience コミュニティページの新しい Einstein Discovery Predictions コンポーネントを Analytics リリースノートに追加しました。

Lightning Experience レコードページでの Einstein Discovery 予測の表示方法のカスタマイズ
強化された Lightning Experience レコードページの Einstein Discovery Predictions コンポーネントに関するリリースノートを追加しました。

Einstein Discovery Classic の廃止
Spring '20 での Einstein Discovery Classic の廃止に関するリリースノートを追加しました。

新規または変更された CLI コマンド
新しい CLI コマンドの `force:auth:device:login` に関する情報を追加しました。

2019 年 9 月 4 日

見積によるサブスクリプション商品の按分がより正確に
[サブスクリプションの按分精度] パッケージ設定の 2 つの新しい値に関するリリースノートを追加しました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト (ページ 622)
Shift オブジェクトの新しい 3 つの項目に関するリリースノートを追加しました。

モバイル: カスタマイズされたモバイルエクスペリエンスと新しい Salesforce モバイルアプリケーション
モバイルや関連するリリースノートを更新し、新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは Essentials エディションが使用できないことを記述しました。

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新) (ページ 506)
新しい組織では、この重要な更新が Winter '20 から有効化されることを明記しました。

イベントデータのほぼリアルタイムのストリーミングおよび保存 (正式リリース)
Salesforce が組織を Winter '20 にアップグレードする際に、イベントチャネルの登録を解除し、その後に再登録するように指示する説明を追加しました。

メタデータ API で公開される設定 (ページ 652)
MobileSettings オブジェクトの `enablePopulateNameManuallyInToday` 項目に関するリリースノートを追加しました。

2019 年 8 月 28 日

Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け
セットアップ手順を更新して、Salesforce カスタマーサポートではなく Salesforce CPQ および Salesforce Billing サポートに連絡するように注意事項を追加しました。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート
本番組織で重要な更新がいつ有効化されるのかを調べる方法についての情報を追加しました。

Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス
Lightning Experience を有効化した後にユーザに表示されるインターフェースに関する詳細を修正しました。

ケースフィード内のフィード項目の表示設定 (ページ 403)
Lightning コミュニティ、Lightning Experience、Lightning サービスコンソールでのケースフィード投稿の表示方法を設定します。

Lightning Experience で取引先および商談チームの誰が何を見られるかを知る方法
この変更が適用されるエディションのリストから Essentials を削除しました。

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新) (ページ 583)
例の URL を修正しました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
Lightning Scheduler の時間枠オブジェクトに追加された 2 つの項目に関するリリースノートと、CronJobDetail オブジェクトの `JobType` 項目の新しい選択リスト値に関するリリースノートを追加しました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト (ページ 622)
MobileFieldServiceSettings オブジェクトの `IsTimeSheetEnabled` 項目に関するリリースノートを追加しました。

リッチテキストエディタでスタイルを使用した作成
許可されていないスタイルのリストに `background-image` スタイル属性を追加しました。

2 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)
この機能の (パイロット) 指定を追加しました。

2019 年 8 月 19 日

Salesforce Winter '20 リリースノート
公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **Trailblazer Community** — Release Readiness Trailblazers グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ (#Winter20Feedback など) を使用してください。
- フィードバックフォーム: Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '20 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザ	✅			
Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザのアクセスを不可にする	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザ	✅			
Einstein Analytics でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

Lightning Experience は有効化すると永続的に有効になります。追加のツールやアプリケーション内応答画面は新しいインターフェースへの移行に役立ちます。さらに、アプリケーション内ガイダンスで Lightning Experience のユーザをエンゲージしてガイドする方法も追加されます。ヘルプメニューに表示される内容をより詳細に制御します。Lightning Experience でごみ箱にアクセスします。新しいテーマとトピック検索条件でレコードとリストビューをトピック別に整理します。検索語とクイック検索条件を使用してリストに対する一括アクションを微調整します。凝縮された印刷用リストでインクを節約します。Einstein 検索が導入され、よりスマートでパーソナライズされた方法で Salesforce の作業を完了できます。Salesforce アンケートでアンケートを管理するためのより多くのインサイトと方法を利用できます。Lightning Scheduler で、より多くのツールでリソースと同時予定を管理してスケジュールを最適化します。改良されたセキュリティ更新ハブでデータを安全に保ちます。追跡および管理ツールが追加され、ドキュメントの処理方法が合理化されます。ワークフローを管理するダイアログは、そのダイアログが開かれたタブにのみ表示されます。また、Lightning コンソールアプリケーションでユーティリティアイコンの色をカスタマイズできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience の移行: 重要な更新、応答画面、ツール				
Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート		✅		
Salesforce での Lightning Experience の恒久的な有効化		✅		
Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience に向けて組織を準備するためのガイダンス		✅		
準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド		✅		
Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、ハードコード化された URL、AppExchange パッケージ、その他				
Lightning Experience での URL 機能の保持 (ベータ)		✅		
Lightning Experience に対する AppExchange パッケージの準備状況の確認 (ベータ)		✅		
[Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブ (正式リリース)		✅		
JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換		✅		
メールではなく設定コンバータでのスキャン結果の表示		✅		
Government Cloud 組織での Lightning Experience 移行ツールへのアクセス				
Lightning Experience エンゲージメント: 応答画面とヘルプメニュー				
機能の発見と採用のためのアプリケーション内の案内の追加 (正式リリース)			✅	
ユーザに表示するヘルプメニューリンクの制御			✅	
カスタムヘルプメニューへの長い URL の追加		✅		
レコード削除トーストの新しい取り消しリンク	✅			
Lightning Experience でのごみ箱へのアクセス	✅			
トピック検索条件によるトピックへのリストビューの固定化	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
トピックの詳細ページでのトピック別のレコードの表示	✅			
検索結果およびクイック検索条件に対する一括アクションの正確な実行	✅			
リストの印刷用表示でインクと用紙の節約	✅			
アプリケーションへの直接移動		✅		
検索				
パーソナライズされた検索結果を使用した生産性の向上 (ベータ)			✅	
拡張されたインスタント結果を使用した検索ボックスの活用(ベータ)			✅	
対話形式の検索での適切な検索条件をすべて使用したインスタントレポートの作成 (ベータ)			✅	
おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)			✅	
プロファイル固有の検索結果レイアウトを使用したプロファイルの強化 (ベータ)			✅	
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に		✅		
ナビゲーションバー項目での上位の検索結果の表示が中止に		✅		
Salesforce アンケート: 容易なインテグレーション、詳細な制御、分析の向上				
サポートケースのインサイトの取得		✅		
アンケートによるマーケティングキャンペーンの向上	✅			
プロセスビルダーを使用したアンケートへの招待の自動化		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
特定のレコードに対して顧客が提供したスコアの表示 (パイロット)		✅		
アンケートへのトピックの割り当て		✅		
アンケートの所有者による回答の管理			✅	
サンプルアンケートによる作業の迅速化			✅	
詳細なインサイトのために応答のエクスポート	✅			
アンケートへの回答の容易な分析	✅			
参加者へのお知らせページの表示の選択	✅			
クリックでアンケートバージョンの切り替え	✅			
レコードに関連付けられた招待と回答の表示		✅		
未認証の参加者による回答の許可			✅	
Lightning Scheduler: マルチリソーススケジュールと同時スケジュール				
マルチリソーススケジュールを使用したグループ予定の予約			✅	
同時スケジュールによる効率性の向上			✅	
海外の予定の迅速なスケジュール			✅	
予定のスケジュールへのミーティングの準備と移動時間の組み込み			✅	
変更されたフォームを使用した Salesforce へのフィードバックの送信	✅			
新しいハブでのセキュリティの更新の把握		✅		
組織のセキュリティ担当者の管理			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コンソール				
タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)	✅			
新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したユーティリティアイコンの色のカスタマイズ		✅		
Optimizer レポートでは Inbox ではなくファイルに着目		✅		
iPad デバイスでの Safari から Salesforce へのアクセス (ベータ)	✅			
オプティマイザ設定の刷新		✅		
TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素種別の変更		✅		

モバイル

最新のモバイルアップデートにより、デスクトップで使い慣れた Lightning Experience が新しい Salesforce モバイルアプリケーション用に最適化され、2019 年 10 月 14 日の週から利用できるようになります。Mobile Publisher に追加されるカスタム通知やディープリンクといった主要な機能により、システム管理者はユーザのモバイルエクスペリエンスをカスタマイズできます。モバイルポートフォリオ全体を通して、システム管理者はかつてないほど強力な機能を駆使し、モバイルエクスペリエンスをカスタマイズして 1 つの統合された Salesforce エクスペリエンスをユーザに提供できるようになります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce アプリケーションのすべての新機能			✅	
Salesforce アプリケーション: 新しい Salesforce Authenticator モバイルアプリケーションへようこそ				
新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 使用開始				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートで簡単にアップグレード		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しいSalesforceモバイルアプリケーションドキュメントを参照してスムーズな切り替え		✅		
Lightningアプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除			✅	
ユーザへの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのアクセス権の付与			✅	
新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 操作方法				
使い慣れたナビゲーション項目で新しいモバイルアプリケーションへのシームレスな移行			✅	
親指対応のナビゲーションバーで迅速な操作			✅	
表示場所が新しくなったアクションおよび新しいアクセス方法			✅	
モバイルのアプリケーションランチャーを使用したLightning Experienceアプリケーションの起動			✅	
新しいスタイル設定とコンポーネントによるレコードページの改善			✅	
プロファイルメニューで取引先の切り替え、フィードバックの送信、およびヘルプの表示			✅	
新しい Salesforce モバイル アプリケーション: ユーザエクスペリエンスのカスタマイズ				
ユーザの携帯電話でのカスタムレコードページの提供		✅		
デバイス別のレコードページコンポーネントの表示または非表示		✅		
携帯電話、デスクトップ、および両方からLightningアプリケーションへのアクセスを可能に		✅		
Salesforce アプリケーションの Einstein Analytics: より強力なインタラクション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイル アプリケーションでの組み込み Einstein Analytics ダッシュボードとのインタラクション				
Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセス				
Salesforce for iOS からわずか 1 回のタップでお気に入りのダッシュボードにアクセス				
Salesforce for iOS で Einstein Analytics ダッシュボードを検索				
強化されたモバイルセキュリティによる Salesforce アプリケーションの保護				✅
Salesforce アプリケーション: その他の機能強化				
Salesforce アプリケーションの要件の変更	✅			
新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント	✅			
新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Twitter コンポーネントへのユーザアクセス権の付与	✅			
あらゆる場所でサポートする取引先チームのビジネスケースの増加			✅	
レコードの強調表示パネルに表示される項目数の追加	✅			
必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)	✅			
使い慣れたリストでレポートとダッシュボードを簡単に検索			✅	
通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Flow Builder を使用したカスタム通知の送信			✅	
iPad での Safari からの Salesforce リンクへのアクセス				
Mobile Publisher				
iOS および Android 向けのカスタムプッシュ通知を使用したユーザへの最新情報の伝達			✅	
ユーザエクスペリエンスを高めるためのネイティブ機能へのアクセス			✅	
アプリケーション内エクスペリエンスのためのディープリンクの設定			✅	
外出先でアクセスするための Salesforce ファイルのダウンロードと共有	✅			
Android 向けの AppLinks によるアプリケーションの直接実行	✅			

Essentials Edition

Salesforce サブスクリプションを最大限活用できるように、新しい動画シリーズで 1 ミニッツヒントをすばやく取得してください。サービスに重点を置くいくつかの設定フローが改良され、設定がさらに容易に (かつ、さらに快適に) なりました。自分に関連する更新を見つけることができるように、新しい Essentials 検索条件を使用して、セールスとサービスへのその他の変更を確認してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Essentials を知る、一度に 1 分	✅			
改良された設定フローを使用したメールとソーシャルケースの設定	✅			
Essentials 検索条件を使用したセールスとサービスの変更点の確認	✅			

セールス

通話の結果に基づいてステップに分岐するセールスケイデンスを作成します。商談スコアリングモデルの要素に関するレポートを作成し、Einstein売上予測を四半期別売上予測に使用します。取引先チームと商談取引先責任者の役割にカスタム項目、トリガ、およびワークフロールールを使用します。Einstein活動キャプチャで何をキャプチャして同期するかを制御します。Google と Microsoft のメールインテグレーションが改良されています。Salesforce Billing 支払コンポーネントを使用して、顧客やパートナーはより簡単かつセキュアに支払ができます。さらに、Pardot アクティビティデータセットでエンゲージメントパターンに関するインサイトを得ることができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
High Velocity Sales				
通話の結果に基づく営業アウトリーチの変更	✅			
High Velocity Sales レポート: Einstein Analytics ダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善				
一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (ベータ)	✅			
セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加			✅	
作業キューでのサードパーティスコアを使用したレコードの優先順位付け			✅	
High Velocity Sales の [設定] から実行できる設定の増加			✅	
セールスケイデンスの対象を削除できるユーザの増加	✅			
セールスケイデンスでの見込み客の担当者の確認			✅	
セールスケイデンスステップのエンゲージメントの成功の評価			✅	
コールスクリプトのリッチテキストの使用			✅	
High Velocity Sales のその他の機能強化			✅	
Sales Cloud Einstein				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 商談スコアリング				
標準レポートへの商談スコアの追加	✅			
商談カスタムレポートタイプへのモデル要素の追加			✅	
SOAP API を使用した商談スコアリングモデルに関する情報へのアクセス			✅	
Einstein 売上予測			✅	
Einstein リードスコアリング:スコアリングするリードの制御			✅	
Einstein 自動取引先責任者	✅			
Einstein 活動キャプチャ			✅	
中核的なセールス機能				
取引先責任者			✅	
取引先			✅	
見積	✅			
商談				
Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え	✅			
Lightning Experience での商談への商品の迅速な追加			✅	
営業担当が商談を入力するときの商品数量のデフォルト設定			✅	
Lightning Experience でチームが所有する商談を 1 クリックで表示	✅			
コラボレーション売上予測			✅	
エンタープライズテリトリー管理				
テリトリー詳細による活動レポートの強化	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
テリトリーを割り当てるための権限要件の変更			✅	
価格表エントリ	✅			
パス			✅	
中核的なセールス機能のその他の変更				
Lightning Experience で取引先および商談チームの誰が何を見られるかを知る方法	✅			
商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加	✅			
取引先に関連する取引先責任者の関連リストへの行レベルアクションの追加	✅			
エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
カスタマイザブル売上予測の廃止		✅		
元のテリトリー管理の廃止		✅		
エンタープライズテリトリー管理への円滑な移行作業				✅
生産性機能				
Einstein 活動キャプチャ				
Einstein 活動キャプチャを使用してメールデータをキャプチャするかどうかの制御			✅	
Einstein 活動キャプチャ設定に追加できるユーザの明瞭化		✅		
Einstein 活動キャプチャで特定の行動の同期防止	✅			
Einstein 活動キャプチャを使用した Salesforce と Microsoft アカウント間での繰り返される行動の同期			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アカウント接続に注意が必要な場合の通知の受信	✅			
行動の同期の改善	✅			
Einstein 活動キャプチャのデータストレージ容量の変更		✅		
活動ダッシュボードでユーザ別の取引先と商談が非表示に		✅		
メール操作環境				
パートナーおよびカスタマーコミュニティユーザのリストメールを使用したコミュニケーションの強化	✅			
ワンクリックで検索できるメール添付ファイル	✅			
メールへのインライン画像の迅速な追加	✅			
スタイルを保持したままのメールへのテーブルの追加	✅			
デフォルトのメールフォントの設定	✅			
再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (重要な更新、適用)		✅		
Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備			✅	
柔軟性が向上したメールの [宛先]、[CC]、[BCC] 項目	✅			
メールテンプレート				
メールテンプレートに表示されるスタイルの増加	✅			
メールテンプレートへの署名の追加	✅			
重要なメールテンプレートの迅速な検索	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限(重要な更新、適用)		✅		
活動				
アーカイブ済み活動の迅速な検索	✅			
活動タイムラインのスキャンおよびスクロール	✅			
ワンクリックでの ToDo の完了	✅			
Lightning Dialer	✅			
Inbox アプリケーション	✅			
カレンダー				
対応可能状況ビューでの全員に適した時間の把握			✅	
ワンクリックで開くことができるお気に入りのカレンダービュー	✅			
迅速に確認できる行動の詳細の増加	✅			
Google とのインテグレーション				
Gmail™ インテグレーション				
Gmail から Salesforce にメールを記録するためのアラームの取得	✅			
Gmail でのメールの自動追跡	✅			
Gmail で追跡の詳細を表示するときの時間の節約	✅			
[メールをスケジュール]の機能強化	✅			
Gmail で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示	✅			
Gmail でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示	✅			
Lightning Sync for Google	✅			
Microsoft® とのインテグレーション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Outlook® インテグレーション				
Outlook で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示	✅			
Outlook でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示	✅			
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				
行動の同期の改善	✅			
2020 年 10 月に Microsoft Office 365 での一部の Lightning Sync ユーザへのサービスを停止			✅	
Salesforce CPQ と Salesforce Billing				
Salesforce CPQ				
営業担当の価格設定ガイダンス使用頻度の確認	✅			
見積によるサブスクリプション商品の按分がより正確に	✅			
Salesforce CPQ のその他の変更	✅			
Salesforce Billing				
Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け	✅			
非システム管理者ユーザの新しい権限の要件	✅			
Pardot				
B2B Marketing Analytics での結合されたプロスペクトとアクティビティデータの探索	✅			
B2B Marketing Analytics 2.0 に移行されたデータセット	✅			
スニペットを使用したキャンペーンメール間でのコンテンツの再利用			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
オブジェクトマネージャでのマーケティングコンテンツのカスタマイズ			✅	
エンゲージメント履歴ダッシュボードを使用した取引先レコードの詳細な調査			✅	
エンゲージメント履歴のデータ型の増加				
プロスペクトの心に最も響くアセットの確認			✅	
行動スコアによるプロスペクトレポートのグループ化	✅			
必要な Einstein リードまたは行動スコアのみの取得			✅	
カスタムレポートでのキャンペーンインサイトの確認	✅			
Sales Cloud のその他の変更				
Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止			✅	
Sales Cloud 機能の配信設定の管理			✅	
オムニチャネルによるメッセージングチャネルの転送	✅			

サービス

サービスに加えられた多くの更新によりエージェントの時間を節約し、顧客の満足度を高めます。推奨記事を使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。フィールドサービスの派遣作業員が作業時間を外出先で記録できるようにします。より多くのチャネルを使用してナレッジ記事を送信します。チャットを受け入れる前に、エージェントが事前チャット情報および訪問されたページを確認できるようにします。セカンダリルーティング優先度を使用して、エージェントが最初に適切なケースに取り組むことができるようにします。ケースフィードで拡張メール環境を使用して、エージェントの生産性を向上します。ケースのクローズ時にアンケートを自動的に送信して、顧客が考えていることを確認します。サードパーティの自然言語処理エンジンを Einstein ボットに統合します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein for Service				
Einstein ボット				
ボットチャットの自動終了			✅	
顧客へのナレッジ記事の容易な配信			✅	
エージェントの対応可能状況の確認によるボットの引き継ぎの改善			✅	
ボットの設定に関するヘルプのカルーセルを使用したスキルの向上			✅	
Einstein ケース分類				
Einstein ケースルーティングによるケースへの Einstein 予測値の自動適用			✅	
Einstein が行った変更の識別			✅	
Einstein が変更を行った後のルールの実行			✅	
エージェントに対する Einstein ケース分類の有効性の理解		✅		
遅延のない Einstein レコメンデーションの表示		✅		
Field Service				
モバイルタイムシートによる外出先での作業時間の記録 (ベータ)			✅	
状態チェックによる健全性の維持 (ベータ)		✅		
拡張一致作業ルールを使用した効率的なサービス予定のスケジュール			✅	
アイコンと色を使用したレポートの地図表示			✅	
クルー管理スケジュールポリシーの瞬時の切り替え	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティでのサービス契約と契約品目による顧客との信頼の構築			✅	
サービス契約と契約品目でのクイックアクションの活用			✅	
条件に基づく共有ルールを使用したサービス契約へのアクセス権の拡大			✅	
取引先の[納入商品]関連リストの情報の絞り込み		✅		
Field Service のパフォーマンスの向上		✅		
チャネル				
メール: 取引先責任者ルックアップ、ドッキングへのポップアウトモード、折りたたみ可能なメール、レスポンシブメールテンプレート				
Lightning Experience の取引先責任者ルックアップによるメールの適切な宛先の検索	✅			
Lightning Experience のケースフィードでのメールの折りたたみによる画面スペースの増加	✅			
ドッキングされたメールコンポーザでのメールの作成	✅			
レスポンシブメールテンプレートによる顧客満足度の向上			✅	
大きすぎる画像を埋め込もうとした場合の通知	✅			
Messaging				
WhatsApp での顧客とのつながり (パイロット)			✅	
WeChat での顧客とのつながり (パイロット)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
取引先責任者の詳細ページからの会話開始			✅	
ワンクリックで放置セッションをクリア			✅	
会話の標準レポートの実行			✅	
取引先責任者の詳細ページの [メッセージングセッション] 関連リストの作成			✅	
適切な人へのインタラクションのすばやいリンク (ベータ)			✅	
チャット				
チャットの前の顧客情報の迅速なプレビュー			✅	
オムニチャネルを使用した特定のエージェントへの顧客の送信			✅	
チャットウィンドウでのファイルのプレビュー			✅	
会話への Chatter の取り込み			✅	
ケースフィードでの会話の追跡			✅	
ソーシャルカスタマーサービス				
リードのソーシャルクイックアクションを使用して顧客に迅速に応答		✅		
Lightning Experience での Instagram コメントへの返信		✅		
Facebook ソーシャル投稿の app-scoped ID を page-scoped ID に移行		✅		
チャネルオブジェクトリンク		✅		
モバイルアプリケーション用埋め込みサービス		✅		
Web 用埋め込みサービス				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
チャットのカスタムイベントを使用したエージェントへのより詳細な制御の提供			✅	
右から左へ記述される言語のユーザへの対応 (ベータ)			✅	
予定のホームの表示ラベルのプレビュー			✅	
ナレッジ				
さらに多くのチャネルでナレッジを広める			✅	
リストビューで他の記事を検索	✅			
ドラフト記事とアーカイブ済み記事へのアクセス権の微調整	✅			
Lightning Knowledge に移行するときに添付ファイルへのアクセス権を維持		✅		
リッチテキストエディタでスタイルを使用した作成	✅			
Lightning スマートリンクの対象の設定				
より多くの場所から記事の削除			✅	
ルーティング				
スキルベースルーティングの属性設定 (正式リリース) におけるコーディングの省略			✅	
エージェントが適切なケースに最初に取り組むようにする設定			✅	
Sales Cloud でのオムニチャネルルーティングの使用	✅			
公開グループのサーチ		✅		
色分けされたウィジェットによるエージェント状況の表示	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
チャットユーザへの予想待ち時間の提供 (ベータ)			✅	
ケース管理				
ケース				
Lightning Experience のケースフィードでのフィード項目の公開および非公開表示の設定	✅			
ケースフィードで未読フィード項目がある場合の表示				✅
ケースコメントが非公開である場合の表示	✅			
フィード項目の古い順での並び替え	✅			
ワンクリックでのすべての投稿の展開	✅			
ケースに関するアンケートの送信			✅	
電話のケースレコードページでサポートされるアコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネント			✅	
ダイアログでの作業中に電話に応答	✅			
クイックテキストのチャネルとしてのチャットの選択	✅			
サービスの Lightning フロー				
リリースの必須化と適切なアクションの表示 (重要な更新)	✅			
エージェントの ToDo リストへの自動起動フローの追加	✅			
リストを邪魔しない一時停止中のフローの表示	✅			

Analytics

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。このリリースの Analytics 機能の数と範囲は、Winter '20 の期間中適用されます。Lightning レポートビルダーで直接、行レベルの数式を記述する機能が正式リリースされます。コードを記述することなく、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery 予測スコアを自動的に書き込みます。新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドです。Salesforce モバイルアプリケーションを離れることなく、全画面ダッシュボードの表示からお気に入りの追加まで、多数の重要な Einstein Analytics タスクを実行します。他にも多くのアクションがあります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
行レベルの数式によるレポート内の各レコードの評価(正式リリース)	✅			
項目間の絞り込みによる項目の比較を使用したレポートの絞り込み(ベータ)			✅	
レポートとダッシュボードでの右から左へ記述される言語のサポート (ベータ)	✅			
レポート結果での値のユニーク数(ベータ)			✅	
レポート結果で長いテキスト項目を折り返すことによる読みやすさの改善	✅			
活動レポートでのテリトリー詳細の表示	✅			
レポートとダッシュボードへの取引先チームサポートの追加	✅			
Einstein Analytics				
設定およびデータインテグレーション				
アプリケーション内ガイド付き学習で設定に慣れる			✅	
新しい Analytics 組織でデフォルトで有効になるデータ同期		✅		
データ同期スケジュールのアラームでデータを最新に保つ		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Snowflake Computing および Amazon S3 接続で同期できるデータの増加		✅		
最新データの高速キャプチャ			✅	
共有継承で対象とされないユーザの識別			✅	
「レシピエディタ」から「データの準備」へ名称変更	✅			
欠損値の予測によるデータの補完	✅			
ディメンションと日付への列の変換	✅			
データセットの日付形式の標準化	✅			
より柔軟なレシピの検索条件で適切なデータの取得	✅			
レシピおよびデータフロー管理の簡易化	✅			
Analytics が Einstein Discovery にエクスポートされたデータセットにセキュリティを適用	✅			
より長いセキュリティ述語でデータセットのセキュリティを強化	✅			
事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション				
Einstein Discovery for Sales Analytics を使用したセールスデータの強化		✅		
Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の精度向上		✅		
管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法		✅		
アプリケーションの構築				
テーブルへの総計および小計の表示 (ベータ)				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
中点グラフを使用した総計値と定性的ベンチマークの比較	✅			
比較テーブル列エディタの数式に文字列値を使用		✅		
計算ディメンションへの条件付き書式の適用		✅		
すべてのグラフとテーブルで数値を書式設定		✅		
データセットなしでの Salesforce データの直接調査		✅		
Einstein Analytics の Classic デザイナの廃止	✅			
ダッシュボード内のステップをクエリに名前変更		✅		
ユーザ定義値を使用したカスタムクエリの作成				
ダッシュボードデザイナでカスタムオンボーディング動画のプレビュー		✅		
SAQL での rollup 修飾子と grouping() 関数を使用した総計と小計の計算		✅		
アセットバージョン履歴を使用した Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのバックアップ作成と復元		✅		
Analytics Web SDK を使用した保存済みビューの表示と取得、および複数のクエリの実行		✅		
Analytics Web SDK を使用したダッシュボードの状態の取得と設定		✅		
Analytics テンプレート SDK の機能を Lightning コンポーネントに追加		✅		
CDN の有効化による Einstein Analytics の読み込みの高速化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Discovery				
コードを記述せずに予測を Salesforce レコードにリリース(正式リリース)		✅		
2つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)		✅		
リリース済みモデルの精度のリアルタイムでの監視 (正式リリース)		✅		
総計値を比較してモデルを改善		✅		
対象しきい値を使用したモデルの精度の改善		✅		
自動設定でストーリー作成の迅速化		✅		
経時的な精度の分析による予測の改善		✅		
残差プロットグラフによるモデルパフォーマンスの視覚化		✅		
モデルからバイアスがかかった変数の除去		✅		
説明のみのインサイトのストーリー作成の迅速化		✅		
データセットの更新でストーリーを更新		✅		
Einstein データインサイトで処理可能なレポートデータの増加		✅		
述語が設定されたデータセットを使用したストーリーの作成		✅		
Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示		✅		
Lightning Experience レコードページでの Einstein Discovery 予測の表示方法のカスタマイズ		✅		
Apex コードでの Einstein 予測の取得		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Discovery Classic の廃止		✅		
すべてのユーザのための Analytics				
Analytics ホームで重要なインサイトに迅速にアクセス	✅			
学習センターでのガイド付き学習ジャーニーと進行状況の追跡	✅			
主要な総計値に関するメール更新の登録 (ベータ)			✅	
学習体験アプリケーションを使用して Studio で詳しく学習	✅			
Quip スライドへのダッシュボードとレンズの公開			✅	
印刷または PDF として保存する前にダッシュボードをプレビュー	✅			
Lightning ページタブに Einstein Analytics ダッシュボードからレコードを開く		✅		
モバイルアプリケーション	✅			

コミュニティ

Salesforce CMS を使用した Salesforce でのコンテンツの作成、整理、公開が正式にリリースされました。ワークスペースのアクセス制御を使用して、コミュニティの公開および編集が可能なユーザをより厳密に制御できます。また、認証されていないコミュニティユーザにアクセス権を付与すると同時に、Salesforce によるデータの保護を確実にできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CMS				
Salesforce CMS の機能の利用 (正式リリース)		✅		
Salesforce CMS カスタムコンテンツの表示方法の制御		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CMS ワークスペースへの言語の追加			✅	
Salesforce CMS での翻訳済みコンテンツの使用		✅		
Lightning コミュニティ				
Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新			✅	
柔軟なレイアウトによる革新的なデザイン		✅		
ビルダーでの寄稿者とそのロールの管理		✅		
ナビゲーションメニューのバリエーションの設定	✅			
質問の文字制限の明確化	✅			
トピックと詳細の間のナビゲーションの改善	✅			
レコードのファイルを顧客に表示	✅			
API を使用した多くのオーディエンスの作成と割り当て (パイロット)				✅
権限セットの代理管理		✅		
代理システム管理者による新規ユーザ作成の容易化		✅		
より詳細な幅の制御による視野の拡大		✅		
新しい Google Analytics™ スタンダードを使用した追跡の改善		✅		
コミュニティテンプレートの切り替え前の警告		✅		
取引先チームのカスタマイズによるチームセリングの強化			✅	
商談および見積での商品順序の設定	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加	✅			
チームが所有する商談の1クリックでの絞り込み	✅			
取引先と商談チームメンバーアクセス権に関するインサイトの入手	✅			
コミュニティビルダーでの Lightning コンポーネント				
タイルメニューを使用したコミュニティの活性化 (正式リリース)		✅		
コードリストコンポーネントのヘッダーのカスタマイズ		✅		
ユーザプロファイルの写真の非表示		✅		
Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示		✅		
ケース詳細ページのバリエーションとコンポーネントが Winter '20 で廃止		✅		
より多くのケースを回避できる新しい [ケースデフレクション] コンポーネント		✅		
ゲストユーザセキュリティ				
ゲストユーザのレコードアクセス権を保護する新しい設定 (リリース遅延)			✅	
ゲストユーザの組織全体のデフォルトを非公開に設定 (リリース遅延)			✅	
コミュニティとゲストユーザの可視性の管理			✅	
ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティの更新)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (セキュリティの更新)			✅	
安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデル (セキュリティの更新)			✅	
共有ルールを使用したゲストユーザへのレコードアクセス権の付与 (リリース遅延)			✅	
共有とセキュリティ				
新しい組織でのコミュニティとポータルユーザの表示のデフォルトでの無効化		✅		
コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティおよび重要な更新、適用)			✅	
コミュニティとサイトのHTTPS接続にはTLS 1.2が必要 (重要な更新、適用)			✅	
セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用の制限 (セキュリティの更新と重要な更新、適用済み)			✅	
Lightning コミュニティのメールアドレス確認の設定			✅	
外部ユーザによる ID 検証方法の登録方法のカスタマイズ		✅		
コミュニティユーザ権限の効率化		✅		
外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)		✅		
コミュニティのその他の変更				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ビルダーでのワークスペースと私のコミュニティの名前変更		✅		
自信を持った Lightning Web コンポーネントでの属性の使用		✅		
非公開メッセージでのニックネームを使用したコミュニティユーザのプライバシーの改善		✅		
Chatter の配信設定の管理			✅	
ケースフィード内のフィード項目の表示設定	✅			

Chatter

質問の文字数制限が明確になりました。ケースフィード項目の設定を公開または非公開に設定します。新しいSalesforceモバイルアプリケーションで、より多くのレコードフィード情報を表示するかスキップするかを選択します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
質問の文字制限の明確化	✅			
ケースフィード内のフィード項目の表示設定	✅			
必要な場合にレコードの詳細をさらに表示(不要な場合は表示しない)	✅			
Chatter の配信設定の管理			✅	

Files

レコードのファイルの処理方法を強化しました。ファイルは、ファイルに関連付けられているレコードの共有設定を継承できます。Salesforceからファイルを削除せずに、レコードからファイルを削除できます。コミュニティを使用する組織では、顧客にレコードのファイルを表示できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レコード設定を継承するようにファイル共有を設定			✅	
どの場所のファイルも削除することなくレコードからファイルを削除	✅			
レコードのファイルをコミュニティの顧客に表示	✅			

Industries

Salesforceの業種別ソリューション群に、生産性とセールスプロセスを追跡できるManufacturing Cloudと、店舗の在庫管理に正面から取り組むことができるConsumer Goods Cloudが加わりました。また、Financial Services Cloudには住宅ローン顧客に対応するための新しい方法が導入され、Health Cloudではケア提供者や患者とのつながりが向上しました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Manufacturing Cloud: 販売契約と取引先売上予測を使用したビジネスの簡潔化 (正式リリース)				
販売契約: ビジネス交渉のワンストップショップ				
販売環境と販売契約の統合			✅	
独自の総計値を使用したさまざまな要件の追跡			✅	
契約条件の総計値の選択			✅	
注文と契約を介した実際の数量の自動更新			✅	
1回のクリックによる販売契約の実績の再計算			✅	
複数の改定を通じて1つの有効な販売契約バージョンを管理			✅	
事前の計画および販売契約の更新			✅	
マニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートを使用したパートナーとのコラボレーションの改善			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示			✅	
取引先売上予測: 正確で全体的な売上予測による事前対応				
周期売上予測の自動的な生成および表示			✅	
社内の計画期間に合わせた売上予測に対する手動調整の計画			✅	
数式ビルダーを使用した売上予測用の複数の数式の作成			✅	
取引先売上予測の総計値の選択			✅	
売上予測をパーソナライズするための各取引先の成長総計値の指定			✅	
複数のユーザ別の売上予測値に対する手動調整の追跡			✅	
1回のクリックでの調整期間中の売上予測の再計算			✅	
推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示			✅	
Einstein Analytics for Manufacturing を使用したビジネスの成長と営業業務の簡略化			✅	
Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト		✅		
Consumer Goods Cloud: 消費財バリューチェーン全体でのより緊密な接続の作成 (正式リリース)				
類似する店舗、店舗内の場所、および商品のグループ化によるビジネスプロセスの合理化			✅	
効果的な店舗訪問の計画			✅	
在庫監査による売上アップ			✅	
モバイル注文キャプチャで実店舗の売り上げを最大化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
プロモーションキャンペーンの効果の評価			✅	
カスタム ToDo による一意のビジネスデータのキャプチャ			✅	
アンケートによるビジネスインサイトの収集			✅	
Einstein Object Detection の監査の精度と生産性の向上			✅	
SFMap による営業テリトリーの管理とルートの最適化			✅	
小売実行の新しいオブジェクト		✅		
REST API を使用した画像内のオブジェクトの検出			✅	
Financial Services Cloud				
Financial Services Cloud の住宅ローン: データモデルの機能強化、標準フロー、画面コンポーネント (正式リリース)				
Financial Services Cloud データモデルの機能強化による債務者情報の収集		✅		
住宅ローンフローテンプレートを使用したガイド付き住宅ローン申請フローの作成			✅	
フロー画面コンポーネントを使用したフローの拡張		✅		
MuleSoft: Blend コネクタと Roostify コネクタ		✅		
ドキュメント追跡と承認 (正式リリース)			✅	
Financial Services Cloud の保険: 事業保険契約管理、独立系エージェント向けポータル、コンポーネントの機能強化など				
保険契約者の機密情報の保護			✅	
アクションプランを使用した保険エージェントの繰り返し ToDo の自動化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ルックアップによる積み上げ集計を使用した保険契約者の世帯保険契約の可視化			✅	
エージェントへの保険契約および請求に関するアラート通知			✅	
機能豊富なポータルによる独立系エージェントの生産性向上			✅	
保険エージェントアクション項目を使用した計画と優先度付けの向上			✅	
Einstein Analytics for Insurance を使用した完全な顧客インテリジェンスソリューションのエージェントとマネージャへの提供			✅	
個人ライフイベントコンポーネント: ビジネスマイルストン、コンテキストアクション、検索条件など			✅	
保険契約のタイプ別整理			✅	
Lightning Scheduler: 顧客の予定のスケジュールの最適化			✅	
拡張された取引先リレーション構造による顧客リレーションの深化			✅	
Analytics for Wealth Management を使用した重要な Financial Services データへの注力			✅	
Analytics for Retail Banking の新規リリースを使用した顧客インサイトの調整			✅	
Financial Services Cloud の新しいオブジェクト		✅		
新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目		✅		
Health Cloud				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
プログラムへの患者の登録および同意の取得				✅
提供者リレーションの追跡				✅
患者と適切なヘルスケア提供者の迅速な接続				✅
Lightning Scheduler を使用したケア提供者の診察予約				✅
販売契約および取引先売上予測を使用した医療機器販売の簡略化 (正式リリース)				✅
ライフイベント: 患者リレーションの強化と改善				
患者のライフイベントのインサイトの取得			✅	
配慮が必要なライフイベント種別の非表示			✅	
ライフイベントの絞り込み			✅	
Einstein Analytics を使用した健康改善と患者エンゲージメントの向上				✅
利用管理のセキュリティアップグレード				✅
Health Cloud オブジェクトの項目レベルセキュリティの編集			✅	
Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト		✅		

カスタマイズ

Einstein 予測ビルダーで、予測と比較の検索条件を使用できます。Lightning アプリケーションビルダーで、新しい Salesforce モバイルアプリケーションに合わせてページを設定できます。より多くのビルディングブロックで、より良いプロセスを構築できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 予測ビルダー				
Einstein 予測ビルダーの比較による絞り込み			✅	
Lightning アプリケーションビルダー				
電話フォーム要素に合わせた Lightning レコードページのカスタマイズ		✅		
新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント	✅			
フォーム要素に応じた Lightning ページテンプレートの選択		✅		
コンポーネントパレットでのサポートされているフォーム要素の表示		✅		
[ページ] メニューからのアプリケーションのデフォルトフォーム要素の割り当ての表示		✅		
デバイスに応じたレコードページコンポーネント表示ルールの設定		✅		
ホームページへのタブコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加		✅		
カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントを使用したアンケート結果の迅速な表示 (パイロット)			✅	
アンケートへのトピックの追加			✅	
更新された表示ラベルによるフォーム要素ごとのコンポーネント表示ルールの容易な設定		✅		
改善されたプレースホルダコンポーネントのデザインとメッセージ		✅		
固定領域ページテンプレートの表示ラベルの変更		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightningアプリケーションビルダーでの容易なレコードページツアー		✅		
承認				
承認プロセスの制限緩和		✅		
承認申請の配信設定の管理			✅	
Next Best Action				
Next Best Actionのおすすめからの自動フロー起動の呼び出し		✅		
戦略テンプレートの作成および知的財産としての戦略の保護		✅		
戦略作成時の元に戻す/やり直す		✅		
Next Best Action Strategy Builder での分岐式の容易な作成		✅		
容易に識別できるおすすめのタイトル		✅		
アプリケーションのホームページでのおすすめの表示		✅		
Lightning フロー				
Flow Builder				
強力でパフォーマンスを高めるLightning Web コンポーネントのフロー画面への追加		✅		
スケジュールによるフローの開始		✅		
変数を作成しない [画面] 要素と [レコードを取得] 要素の設定		✅		
フローでのレコード検索時のユーザ支援		✅		
条件付き表示を使用した動的なフロー画面の作成		✅		
割り当て要素と決定要素での演算子によるApex で定義されたデータ型のコレクション変数の使用		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Flow Builder を使用したカスタム通知の送信			✅	
Flow Builder でのリソース作成の容易化		✅		
テキストテンプレートでのリッチテキストの使用		✅		
Flow Builder の長くなった要素ラベル、パン機能の改善、ドラッグによる選択		✅		
Flow Builder からのフローの有効化		✅		
[高度な設定] でのフロー種別の検索		✅		
デスクトップ Flow Designer の廃止		✅		
Lightning フローの管理				
拡張された [フロー] リストビューでのフローの管理		✅		
フローエラーイベント発生時の適切なユーザへの警告		✅		
プロファイルと権限セットを使用したユーザの個別フローの実行制御		✅		
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新)		✅		
オートメーションホームでのフローアクティビティグラフへのアクセスの制御 (ベータ)	✅			
独自のフローテストカバー率要件の設定		✅		
プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (重要な更新、適用済み)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)		✅		
プロセスビルダー				
プロセスビルダーによる取引先チームの自動作成		✅		
アンケートへの招待メール送信の自動化		✅		
プロセスビルダーでのプラットフォームイベントからの差し込み項目の追加		✅		
トランザクションが失敗したときでもプロセスがイベントメッセージを公開するかどうかの表示		✅		
データ保護とプライバシー				
項目のデータに関連するコンプライアンス分類の記録		✅		
データ分類メタデータのレポート作成		✅		
同意レコードの変更通知の受信		✅		
権限セットグループ: ユーザロールに基づく権限セットのグループ化による割り当ての簡略化 (ベータ)			✅	
オブジェクトおよび項目				
組織にインストールできるカスタムオブジェクトの増加		✅		
項目の参照の確認とそれを使用したレポートの検索 (正式リリース)		✅		
共有				
ゲストユーザの共有設定の保護			✅	
より多くの標準オブジェクトでの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
エンタープライズテリトリー管理に移行する場合の共有レコードの保持				✅
グローバリゼーション				
ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)			✅	
各コンポーネントへの長い翻訳の更新	✅			
レポートとダッシュボードでの右から左への読み取り (ベータ)	✅			
インドの州選択リストへのテランガーナの追加	✅			
AppExchange				
会社にインストールされている AppExchange パッケージに関するインサイトの取得		✅		
AppExchange Checkout で強力なカスタマー認証をサポート		✅		
一般設定				
デスクトップ、電話、またはその両方をサポートするための Lightning アプリケーションの設定		✅		
組織全体のアクセスを制限した後でのプロファイルと権限セットに対するカスタム設定へのアクセス権の付与 (重要な更新)		✅		
システムの概要でのカスタムオブジェクトの設定カウントの監視		✅		
Lightning 専用タブの表示または非表示		✅		
レコードのレイアウト変更が保存後に表示されるまでの遅延		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
DATEVALUE() による正確な夏時間値の取得			✅	
OData 追跡を使用した OData 接続のトラブルシューティング (リリース遅延)				
不要になった「カスタマイズしたアクションへのアクセスを許可」権限		✅		
カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新、延期)		✅		

セキュリティと ID

Identity Connect 3.0 にアップグレードすると、Microsoft Active Directory との同期が迅速になり、ユーザ管理が簡単になります。ユーザの検証方法を登録する独自の ID 検証ページを作成できます。Salesforce Edge を使用して Salesforce およびコミュニティドメインを提供することで、接続およびパフォーマンスを改善できます。設定変更履歴とカスタム表示ラベルを使用して接続アプリケーションを管理し、[ドメイン] 設定ページで表示する HTTPS 詳細を増やすことができます。リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティが正式リリースされました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
ID 検証方法のカスタマイズ			✅	
メールアドレスの変更に対する検証の必須化			✅	
カスタム範囲のカスタム表示ラベル		✅		
接続アプリケーション設定の変更の追跡		✅		
Identity Connect の機能強化				✅
接続アプリケーションの作成	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
API 応答からのコンシューマの秘密の除外			✅	
ID 検証イベントの追跡		✅		
認証エラーのセキュリティの改善	✅			
SamlSsoConfig MDAPI 種別の変更			✅	
Salesforce Shield				
プラットフォームの暗号化: 保険項目、メタデータ API を介した設定、確定的暗号化のスキニーテーブル (正式リリース)				
顧客の保険情報の暗号化			✅	
セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用した、より多くの項目のデータの同期			✅	
メタデータ API を使用したプログラムでのプラットフォーム暗号化設定の有効化			✅	
スキニーテーブルを使用した暗号化データの絞り込みの強化 (正式リリース)			✅	
ユーザ自身によるチャットトランスクリプトの暗号化の有効化		✅		
イベントモニタリング: リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティの正式リリース、従来のトランザクションセキュリティの廃止				
リアルタイムイベントモニタリングの正式リリース			✅	
拡張トランザクションセキュリティの正式リリース			✅	
AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent のベータの継続				✅
従来のトランザクションセキュリティポリシーの移行 (重要な更新)			✅	
新しい TxnSecurity.AsyncCondition Apex インターフェース			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
条件ビルダーの変更			✅	
パッケージによるすべてのポリシーのサポート			✅	
無効なユーザで失敗しなくなったポリシー		✅		
LoginEvent でのログイン失敗によりロックするまでの回数のキャプチャ			✅	
新しい Apex REST Api EventLogFile イベント種別		✅		
Apex 実行イベントデータの改善		✅		
新しいプラットフォームイベント組織設定種別		✅		
その他の変更				
Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新)			✅	
Salesforce Edge を介したカスタムドメイン要求の加速	✅			
ドメインに関する詳細の取得	✅			
セッションセキュリティレベルポリシーを使用した権限セット、プロファイル、およびパスワードリセットへのアクセスの管理		✅		
HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)			✅	
Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)			✅	
ゲストユーザプロファイルの保護			✅	

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
Lightning Web コンポーネント: オープンソース		✅		
カスタムタブとしての Lightning Web コンポーネントの追加		✅		
DOM API の変更		✅		
Jest を使用したテストの新しいパッケージ名		✅		
Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)		✅		
Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)		✅		
サーバ側アクションの Apex 制限到達を予測しやすい		✅		
同じパッケージの公開 Apex メソッドのみにアクセスできる Lightning コンポーネント		✅		
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止			✅	
RTL 言語の Aura CSS のフリップの上書き		✅		
Lightning Locker の API バージョンの選択		✅		
ユーザのアプリケーションへの直接移動		✅		
重要な更新: @AuraEnabled Apex クラスをデフォルトで with sharing に設定、@AuraEnabled Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)			✅	
ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)			✅	
Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (重要な更新)			✅	
重要な更新「暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで without sharing を使用」の廃止			✅	
暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで with sharing を使用 (重要な更新)			✅	
動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
重要な更新「管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期			✅	
Einstein Platform Services				
Einstein Vision: 新しい language 項目と algorithm 項目				
API 応答 JSON に新しい language 項目を追加		✅		
Object Detection API 応答 JSON に新しい algorithm 項目を追加		✅		
オブジェクト検出の最大画像サイズが 5 MB に増加		✅		
Einstein Language: 新しい language 項目と algorithm 項目				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
API 応答 JSON に新しい language 項目を追加		✅		
Intent API 応答 JSON に新しい algorithm 項目を追加		✅		
テキストデータセットが300万ワードまで格納可能に		✅		
Einstein プラットフォーム				
インサイトを使用した予測構築の改善		✅		
Visualforce				
Lightning メッセージチャネルを使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)		✅		
Lightningアプリケーションビルダーで使用可能になった [表示ラベルの表示] チェックボックス		✅		
古いサイトとコミュニティの Sandbox ブックマークの確認			✅	
Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルのURLからのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)			✅	
Apex				
Apex での項目レベルセキュリティの適用 (ベータ)		✅		
長時間要求の制限からコールアウトを除外		✅		
ApexSettings メタデータ型を使用した Apex テストの拡張		✅		
組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)		✅		
API				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)			✅	
MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)		✅		
Bulk API 2.0 のクエリ		✅		
取得ジョブの数が多すぎる推測の排除				
カスタムメタデータ型				
カスタムメタデータ型への参照アクセス権を取得するユーザの制御		✅		
第二世代パッケージでのカスタムメタデータ型の保護		✅		
カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新)		✅		
パッケージ化				
第二世代管理パッケージ (正式リリース) を使用したアプリケーションの容易な開発			✅	
ロック解除済みパッケージのコードカバー率の計算			✅	
スクラッチ組織: 新機能				
機能が追加されたスクラッチ組織の作成		✅		
スクラッチ組織設定への移行		✅		
AppExchange パートナー				
Marketplace Analytics を使用した AppExchange リストの健全性の確認		✅		
管理パッケージの API イベント使用状況の分析				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ISV ハンマーを使用したパッケージバージョンのテスト (ベータ)				
パッケージバージョンと登録者組織での ISV ハンマーの実行				✅
登録者によって作成された Apex テストの実行によるパッケージの機能のテスト		✅		
ISV ハンマーテストからのオプトアウト				✅
変更データキャプチャ				
メタデータ API と Tooling API を使用した変更データキャプチャチャネルとメンバーの移行		✅		
常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)				✅
新しい changedFields ヘッダー項目を使用した変更された項目の特定		✅		
追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信		✅		
プラットフォームイベント				
イベント検索条件で CometD サブスクリプションを使用した関連イベントメッセージの受信(パイロット)				✅
REST API でのプラットフォームイベント公開の使用状況の監視		✅		
メタデータ API を使用したストリーミング API の設定		✅		

Quip

外出先で Quip 文書を確認できます。Quip で Einstein Analytics ダッシュボードを開くことができます。Salesforce リストビューや Salesforce レポートなどの Salesforce データを Quip に埋め込むことができます。プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、ビジネスを自動化してチームの時間を節約できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce への Quip の迅速な接続			✅	
Quip 文書およびスプレッドシートの Salesforce レコードの追加 (正式リリース)			✅	
モバイルでの Quip 文書を使用した最新情報の把握			✅	
Quip 文書からの活動の記録	✅			
Quip からの Salesforce リストビューの更新	✅			
Salesforce レポートの Quip 文書への追加	✅			
同期された権限を使用したレコードに埋め込まれた Quip 文書の自動的な共有 (詳細な権限)			✅	
Quip 文書からのリンクされた Salesforce レコードの確認			✅	
Einstein Analytics ダッシュボードおよびレンズの Quip スライドへの公開	✅			
プロセスとフローを使用した Quip スライドおよびスプレッドシートの自動更新		✅		

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ
Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザのアクセスを不可にする

組織に Internet Explorer 11 の延長サポートがない場合、IE11 で作業している Lightning Experience のみのユーザは Salesforce Classic にアクセスできなくなります。以前は、IE11 のサポートがないことに関するメッセージを受け取ったユーザは、Salesforce Classic に移動することを選択できました。Lightning Experience でサポートされるブラウザへの切り替えを提案するエラーメッセージが表示されるようになり、ユーザは Salesforce Classic に移動できなくなりました。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x をサポートしています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic、Lightning Experience、または Salesforce モバイル Web のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを埋め込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザのリストについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。
- ベータ機能として、システム管理者が Lightning Experience の完全なデスクトップバージョンへのアクセス権を iPad iOS 12.0 ユーザに付与できるようにします。詳細は「iPad ブラウザでの Lightning Experience (ベータ)」を参照してください。また、Apple では iPad 用の新しいオペレーティングシステムとなる iPadOS を 2019 年の秋にリリースする予定です。デフォルトでは、iPadOS で Safari を使用して Salesforce にアクセスすると、以前の Salesforce モバイルブラウザエクスペリエンスではなく、デスクトップブラウザユーザエクスペリエンスが読み込まれます。詳細は、ナレッジ記事「Salesforce on the New iPadOS Operating System (新しい iPadOS オペレーティングシステムでの Salesforce)」を参照してください。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。

- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- コミュニティビルダーで Internet Explorer 11 を使用しないことを強くお勧めします。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	12.x+
Lightning コミュニティ	IE 11	最新	最新	最新	12.x+
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Salesforce Classic への IE11 Lightning Experience ユーザのアクセスを不可にする

組織に Internet Explorer 11 の延長サポートがない場合、IE11 で作業している Lightning Experience のみのユーザは Salesforce Classic にアクセスできなくなります。以前は、IE11 のサポートがないことに関するメッセージを受け取ったユーザは、Salesforce Classic に移動することを選択できました。Lightning Experience でサポートされるブラウザへの切り替えを提案するエラーメッセージが表示されるようになり、ユーザは Salesforce Classic に移動できなくなりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 次のすべての条件が一致する場合に、この変更が適用されます。

- 組織に IE11 の延長サポートがない。
- ユーザまたは組織に Salesforce Classic へのアクセス権がないため、ユーザに Lightning Experience へのアクセス権のみがある。
- ユーザが IE11 ブラウザで作業している。

理由: Lightning Experience へのアクセス権のみを持つユーザが Salesforce Classic ページにアクセスできないようします。

会社で IE11 を Lightning Experience で引き続き使用するように計画している場合、2020 年 12 月 31 日までの IE11 の延長サポートにオプトインすることをお勧めします。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x をサポートしています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

	Microsoft Internet Explorer	Microsoft Edge	Google Chrome	Mozilla Firefox	Apple Safari
Salesforce Classic	IE 11	最新	最新	最新	12.x+
Salesforce コンソール	IE 11	最新	最新	最新	なし
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	なし	なし	あり

メモ: 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Salesforce 全体: Lightning Experience に移行し、生産性の大幅な向上のための追加のツール

Lightning Experience は有効化すると永続的に有効になります。追加のツールやアプリケーション内応答画面は新しいインターフェースへの移行に役立ちます。さらに、アプリケーション内ガイダンスで Lightning Experience のユーザをエンゲージしてガイドする方法も追加されます。ヘルプメニューに表示される内容をより詳細に制御します。Lightning Experience でごみ箱にアクセスします。新しいテーマとトピック検索条件でレコードとリストビューをトピック別に整理します。検索語とクイック検索条件を使用してリストに対する一括アクションを微調整します。凝縮された印刷用リストでインクを節約します。Einstein 検索が導入され、よりスマートでパーソナライズされた方法で Salesforce の作業を完了できます。Salesforce アンケートでアンケートを管理するためのより多くのインサイトと方法を利用できます。Lightning Scheduler で、より多くのツールでリソースと同時予定を管理してスケジュールを最適化します。改良されたセキュリティ更新ハブでデータを安全に保ちます。追跡および管理ツールが追加され、ドキュメントの処理方法が合理化されます。ワークフローを管理するダイアログは、そのダイアログが開かれたタブにのみ表示されます。また、Lightning コンソールアプリケーションでユーティリティアイコンの色をカスタマイズできます。

このセクションの内容:

Lightning Experience の移行: 重要な更新、応答画面、ツール

Winter '20 に、すべての組織で Lightning Experience が有効になり、無効化するオプションが削除されます。新しいユーザインターフェースに向けた組織とユーザの準備に役立つ、主要なアクションおよび移行ツールを推奨する応答画面と案内が Salesforce Classic に追加されました。

Lightning Experience エンゲージメント: 応答画面とヘルプメニュー

アプリケーション内ガイダンスが機能強化されて応答画面の作成とテストが容易になり、正式リリースされました。ヘルプメニューに表示される Salesforce リソースを制御します。

レコード削除トーストの新しい取り消しリンク

レコードを削除した後で気が変わった場合は、ごみ箱を開かなくても削除を取り消すことができます。

Lightning Experience でのごみ箱へのアクセス

Salesforce Classic に切り替えなくても、ごみ箱にアクセスできるようになりました。自分のごみ箱または組織のごみ箱の項目を表示、復元、削除できるようになりました。

トピック検索条件によるトピックへのリストビューの固定化

トピックに基づく検索条件を追加してリストビューを整理します。1 つのリストビューに最大 2 つのトピックについて検索条件を追加できます。

トピックの詳細ページでのトピック別のレコードの表示

トピックを使用すると、レコードをテーマ別に整理できます。Lightning Experience では、同じトピックのレコードをすべて 1 つの便利なリストに表示できるようになりました。作業している場所からトピックをクリックして詳細ページに移動し、[関連] タブでレコードを参照します。

検索結果およびクイック検索条件に対する一括アクションの正確な実行

リストのサブセットに対してのみ一括アクションを実行する必要がありますか?対象を絞り込むだけのために特別な 1 回限りのリストを作成する必要ありません。一括アクションは、リストビューの検索結果または関連リストビューのクイック検索条件の結果に対して機能するようになりました。結果に対して一括アクションを実行するには、検索語句または検索条件を適用し、その結果のすべてまたはサブセットを選択します。元のリストでの作業に戻るには、検索語句またはクイック検索条件をクリアします。

リストの印刷用表示でインクと用紙の節約

リストのハードコピーを作成するために画面全体を印刷する必要はありません。[印刷用に表示] を使用して、インクを節約するために最小限に縮約されたリストまたは関連リストを表示します。

アプリケーションへの直接移動

アプリケーションに直接移動し、ブックマークや共有のためのアプリケーション固有のリンクを作成します。

検索: Einstein 検索の導入 (ベータ)、よりスマートになった Salesforce での作業

Einstein により、検索の知力が大幅に向上します。Salesforce での作業方法に合わせて調整された、より実効性のある検索結果で検索や実行を迅速に行うことができるようになりました。2019 年 10 月 25 日以降、Einstein 検索を有効にすることができます。

Salesforce アンケート: 容易なインテグレーション、詳細な制御、分析の向上

ケースやマーケティングキャンペーンに対するアンケートを送信します。プロセスビルダーを使用してアンケートへの招待を自動化します。サンプルアンケートを使用して機能をテストします。参加者にお知らせページを表示するかどうかと、アンケート所有者が回答を管理できるかどうかを決定します。特定のレコードに関連付けられている招待と応答を確認します。改良された [分析] タブを使用して、回答をダウンロードしたり、質問ごとの回答の分布を確認したりします。

Lightning Scheduler: マルチリソーススケジュールと同時スケジュール

マルチリソーススケジュールで、顧客の予定に合わせて専門家のグループを作成し、同時スケジュールでスケジュール効率を最適化します。

変更されたフォームを使用した Salesforce へのフィードバックの送信

フィードバックは、Salesforce があらゆるユーザのためにユーザエクスペリエンスを改良する際に寄与するため、意見の送信や支援の要請がしやすいように少し変更を加えました。支援が必要な場合は、Trailblazer Community と Salesforce サポートへのリンクを提示します。フィードバックを送る場合は、件名のリストから選択してその領域に焦点を絞ることができます。さらに、スクリーンショットを添付することで、問題について長い説明を入力しなくてもすみます。

新しいハブでのセキュリティの更新の把握

お客様のデータの安全を確保することは、Salesforce の最も重要な仕事です。そのため新しいユーザインターフェースでは、セキュリティの更新を目に付きやすく、直感的にし、詳細な説明と推奨事項を表示するようにしました。

組織のセキュリティ担当者の管理

組織の主要メンバーがセキュリティインシデントについて把握していることは重要です。情報セキュリティインシデントが組織に影響する場合に担当者に通知されるように、Salesforce ヘルプの組織のセキュリティ担当者を変更できるようになりました。

Lightning コンソールアプリケーション: フォーカスが設定されたダイアログ、カスタマイズ可能なユーティリティアイコンの色

ダイアログが画面全体をブロックすることはなくなりました。新しい API を使用してユーティリティアイコンの色を変更します。

Optimizer レポートでは Inbox ではなくファイルに着目

2019 年 9 月末から、Optimizer PDF レポートが正常に作成されたことを通知するメールにこのレポートが添付されなくなりました。代わりに、Salesforce Files に移動してレポートのコピーを見つけます。

iPad デバイスでの Safari から Salesforce へのアクセス (ベータ)

新しい iPadOS オペレーティングシステムの Safari で組織の設定に応じて Lightning Experience または Salesforce Classic のフルデスクトップバージョンが開きます。以前は、ユーザが iPad デバイスで Lightning Experience のフルデスクトップバージョンを実行できるようにするにはアクセス権をオンにする必要がありました。iPadOS にアップグレードすると、この設定手順をスキップできます。

オプティマイザ設定の刷新

[設定]の[オプティマイザ]ページのデザインが新しくなりましたが、これまでと同じようにカスタマイズを簡略化し、機能採用を促進するための推奨が表示されます。パーソナライズされた PDF レポートを作成するには、[レポート実行] ボタンを使用する代わりに、[PDF の作成] をクリックして開始します。

TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素種別の変更

取引先や商談などのオブジェクト種別を正しく参照するように TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素種別が変更されました。以前は、エンティティ要素種別は契約オブジェクト種別のみを参照していました。この変更により、TopicAssignment オブジェクトを使用して、トピックを持つさまざまなオブジェクト種別のレコードの名前と ID を適切に照会できるようになります。

Lightning Experience の移行: 重要な更新、応答画面、ツール

Winter '20 に、すべての組織で Lightning Experience が有効になり、無効化するオプションが削除されます。新しいユーザインターフェースに向けた組織とユーザの準備に役立つ、主要なアクションおよび移行ツールを推奨する応答画面と案内が Salesforce Classic に追加されました。

このセクションの内容:

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート

以前は、この重要な更新が Winter '20 で有効化されると発表しました。入念な検討の結果、この機能の自動有効化を延期することを決定しました。この機能は、2020 年 1 月 7 日から 72 時間以内に有効化されます。

Salesforce での Lightning Experience の恒久的な有効化

Winter '20 から、社内のシステム管理者または Lightning Experience の重要な更新のいずれかの方法で Lightning Experience を有効化すると、Lightning Experience は恒久的に有効になります。Lightning Experience は一度有効化すると、無効化できません。すべてのユーザは Salesforce Classic に引き続きアクセスし、必要に応じて 2 つのインターフェース間を切り替えることができます。

Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス

Lightning Experience が有効になった後のユーザのデフォルトのインターフェースは、ユーザが組織に追加されたタイミングによって異なります。デフォルトのインターフェースに関係なく、Lightning Experience が有効になったユーザはスイッチャを使用して Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替えることができます。

Lightning Experience に向けて組織を準備するためのガイダンス

Lightning Experience に向けて組織を準備するために最初に何を行うべきかご存知ですか? 2019 年 9 月から、Lightning Experience をまだ有効化していない組織のシステム管理者には、移行のための推奨手順に役立つ一連の推奨アクションが送信されています。推奨アクションを実行する準備が整っていない場合は、後で通知を受け取ることを選択できます。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド

Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Winter'20 では、機能の変更に合わせ、フィードバックに適切に対応するために準備状況チェックが更新されています。2019 年 10 月から、準備状況チェックレポートはメールに添付される代わりに Salesforce ファイルに保存されます。

Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、ハードコード化された URL、AppExchange パッケージ、その他

Lightning Experience 設定コンバータを使用して、移行に関する共通の ToDo を合理化および自動化します。[Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブが正式リリースされました。JavaScript アラートを変換することもできます。また、このツールは AppExchange パッケージやハードコード化された URL にも役立ちます。

Government Cloud 組織での Lightning Experience 移行ツールへのアクセス

Heroku に存在する Lightning Adoption 移行ツールへのアクセスを有効にすることで、円滑に移行を行います。組織のいずれかのシステム管理者が Heroku ベースのアプリケーションの利用規約を読んで承認すると、組織のすべてのシステム管理者が Salesforce Optimizer、Lightning Experience 設定コンバータ、Lightning Experience 準備状況チェック、Change Management Hub にアクセスできるようになります。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート

以前は、この重要な更新が Winter '20 で有効化されると発表しました。入念な検討の結果、この機能の自動有効化を延期することを決定しました。この機能は、2020 年 1 月 7 日から 72 時間以内に有効化されます。

対象: この変更は、まだ Lightning Experience が有効になっていないすべての組織の Group Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

時期: この更新は、Spring '19 から使用可能になっています。この更新は 2020 年 1 月 7 日から順次、自動的に有効化されます。

有効化日についてのリマインダーが Salesforce Classic に表示されます。

対象ユーザ:「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者の [設定] にこの重要な更新が表示されます。

この更新は、「Lightning Experience ユーザ」権限を持つユーザ、つまり、標準プロファイルを持つすべてのユーザと「Lightning Experience ユーザ」権限が有効化されたカスタムプロファイルまたは権限セットを持つユーザに適用されます。

Lightning Experience を有効にすると、「Lightning Experience ユーザ」権限を持つユーザには、Salesforce Classic ヘッダーに [Lightning Experience に切り替え] リンクが表示されます。Lightning Experience が有効になっていて Salesforce Classic を使用しているユーザは、週に 1 回、自動的に Lightning Experience にログインされます。これらのユーザは、必要に応じて Salesforce Classic に戻すことができます。

理由: リリースプロセスの一貫として、複数のチェックポイントで厳密なテストとビルドを実施することで品質を保証しています。そして、Winter '20 リリース全体のエクスペリエンスに影響する可能性のある、Lightning Experience には関連しない潜在的な技術問題を検出しました。カスタマーサクセスを優先するため、念には念を入れ、Lightning Experience の重要な更新を含めたリリース後の活動の一部を延期します。

方法: 1 月前でも Lightning Experience を自分で有効化することができますし、Lightning Experience が提供する機能を活用するためには有効化をお勧めします。ご存じのように、Salesforce Lightning は、Salesforce のユーザエクスペリエンスとプラットフォームの機能であり、ビジネスリーダーやユーザからシステム管理者や IT チームまで、すべての人に恩恵をもたらします。

すでに重要な更新に向けて組織とユーザの準備を進めているのであれば、更新の延期は Lightning Experience 自身とは無関係であるため、すぐに Lightning Experience を有効化しても安全です。この更新を Sandbox または Developer Edition 組織でテストしてから、本番組織で有効にすることをお勧めします。更新を有効にするには、[設定] の [重要な更新] に移動し、[Lightning Experience を有効化する] の横にある [有効化] を選択します。

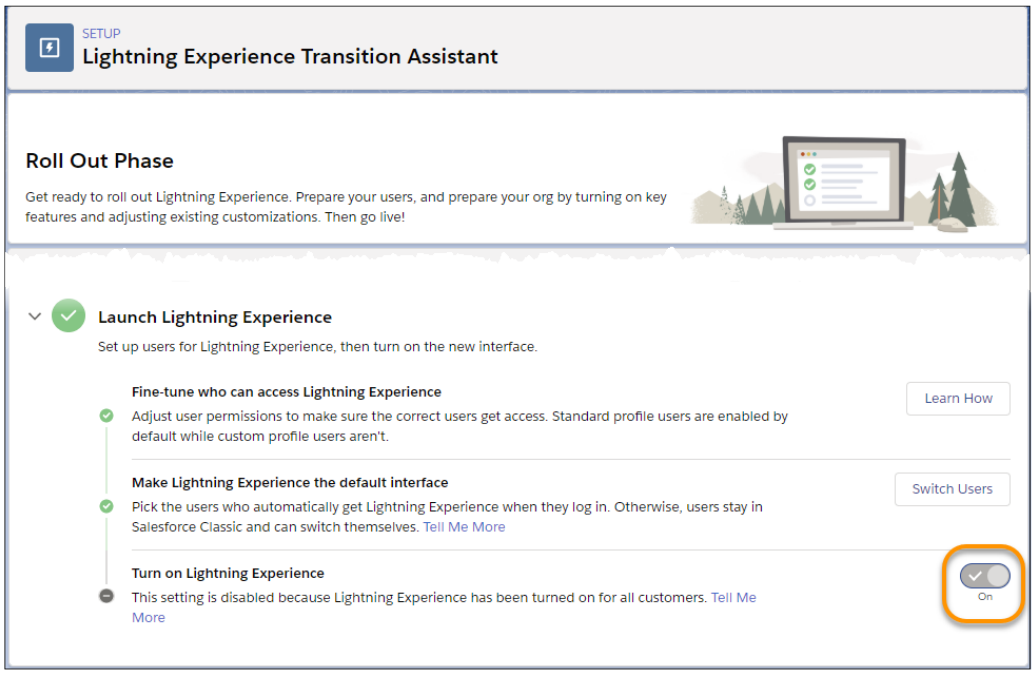
Lightning Experience 移行アシスタントなど、移行プロセスを自動化してスピードアップするためのツールを用意しています。また、Lightning Now Trailblazer Community では、Lightning Experience の専門家からアドバイスを貰えます。

Salesforce での Lightning Experience の恒久的な有効化

Winter '20 から、社内のシステム管理者または Lightning Experience の重要な更新のいずれかの方法で Lightning Experience を有効化すると、Lightning Experience は恒久的に有効になります。Lightning Experience は一度有効化すると、無効化できません。すべてのユーザは Salesforce Classic に引き続きアクセスし、必要に応じて 2 つのインターフェース間を切り替えることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: 組織で Lightning Experience を有効化した後、Lightning Experience 移行アシスタントの [Lightning Experience を有効化] 切り替えボタンはグレー表示になります。



また、任意のバージョンの Metadata API で `S1DesktopEnabled` 組織設定を使用して Lightning Experience を無効化するオプションも無効になります。

関連トピック:

- Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート
- *Salesforce* ヘルプ: 組織の Lightning Experience の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience の有効化後のデフォルトのユーザエクスペリエンス

Lightning Experience が有効になった後のユーザのデフォルトのインターフェースは、ユーザが組織に追加されたタイミングによって異なります。デフォルトのインターフェースに関係なく、Lightning Experience が有効になったユーザはスイッチャを使用して Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替えることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法:

- **Lightning Experience が有効になっている場合**

  現在存在しているすべてのユーザは、「Lightning Experience ユーザ」権限が割り当てられている場合、Salesforce Classic に残ります。これは、Lightning Experience が有効になったときに既存のユーザに権限があるか、後で権限が割り当てられるかに関係なく同様です。ユーザ権限が標準プロファイル、権限が有効になっているカスタムプロファイル、または権限セットのどれから継承されているかは重要ではありません。

- **Lightning Experience を有効にした後**

Lightning Experience を有効にした後で組織に追加されたユーザの場合は異なります。こうしたユーザでは、「Lightning Experience ユーザ」権限が割り当てられると、そのタイミング(最初に追加されたときまたは後日)に関係なく必ず Lightning Experience がデフォルトのインターフェースになります。この場合も、ユーザ権限が標準プロファイル、権限が有効になっているカスタムプロファイル、または権限セットのどれから継承されているかは重要ではありません。

すべての Lightning Experience 対応ユーザには自動的にスイッチャが表示され、必要に応じてこれを使用して Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替えられます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のユーザの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience に向けて組織を準備するためのガイダンス

Lightning Experience に向けて組織を準備するために最初に何を行うべきかご存知ですか? 2019 年 9 月から、Lightning Experience をまだ有効化していない組織のシステム管理者には、移行のための推奨手順に役立つ一連の推奨アクションが送信されています。推奨アクションを実行する準備が整っていない場合は、後で通知を受け取ることを選択できます。

対象: この変更は、まだ Lightning Experience が有効になっていない組織の Group Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

時期: 最初の応答画面は 2019 年 9 月に表示されました。後続の応答画面のタイミングは、推奨アクションをいつ完了するかによって異なります。

対象ユーザ: アラームは「すべてのデータの編集」権限と「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を持つシステム管理者に対してのみ表示されます。

理由: 推奨アクションを適時完了すると、Winter '20 に適用される重要な更新「Lightning Experience の有効化」に向けて組織を準備するのに役経ちます。

方法: 応答画面を制御することができます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。応答画面の表示を停止するには、**[Lightning Experience 移行の管理通知を無効化]** を選択します。

応答画面を無効化すると、関連する重要な更新「Lightning Experience の有効化」の自動有効化日付をカウントダウンする [まもなく Lightning Experience が有効になります] 通知も無効化されます。

準備状況チェックを使用した Lightning Experience の移行のガイド

Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Winter '20 では、機能の変更に合わせ、フィードバックに適切に対応するために準備状況チェックが更新されています。2019 年 10 月から、準備状況チェックレポートはメールに添付される代わりに Salesforce ファイルに保存されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: Salesforce は、Lightning Experience 準備状況チェックに関するフィードバックに耳を傾けてきました。レポートが合理化されて Lightning Experience 設定コンバータとの連携が向上しています。これにより、Salesforce 組織の準備状況に関する最も正確な情報を取得できます。

方法: [設定] から準備状況チェックを実行します。[Lightning Experience 移行アシスタント] の下にある [使用を開始する] をクリックします。[発見フェーズ] タイルで [手順に進む] をクリックします。[Lightning Experience 利点と準備状況をチェックする] を展開し、[準備状況をチェック] をクリックします。

準備状況チェックレポートを表示するには、チェックの完了時に受信するメールのリンクをクリックします。または、Salesforce にログインして Salesforce ファイルを確認します。

Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、ハードコード化された URL、AppExchange パッケージ、その他

Lightning Experience 設定コンバータを使用して、移行に関する共通の ToDo を合理化および自動化します。[Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブが正式リリースされました。JavaScript アラートを変換することもできます。また、このツールは AppExchange パッケージやハードコード化された URL にも役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning Experience での URL 機能の保持 (ベータ)
[私のドメイン] を有効にすると、組織の元の URL に対するハードコード化された参照が機能しない場合があります。Lightning Experience 設定コンバータの [Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブを使用し、ハードコード化された URL をすべて排除してから 1 回のクリックで更新します。Lightning Experience 準備状況チェックの [ハードコード化された URL] セクションが [Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブに置き換えられ、機能が強化されています。

Lightning Experience に対する AppExchange パッケージの準備状況の確認 (ベータ)
Lightning Experience 設定コンバータの [AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブに移動し、インストール済みパッケージのメタデータをスキャンし、Lightning Experience 用に AppExchange パッケージを準備します。Lightning Experience に対する準備が整っているパッケージを確認します。残りのパッケージの更新、置換、確認についての推奨事項を取得します。Lightning Experience 準備状況チェックの [AppExchange] セクションが [AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブに置き換えられ、機能が強化されています。

[Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブ (正式リリース)
Winter '19 のベータ機能としてリリースされた Lightning Experience 設定コンバータの [Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブが正式リリースされました。組織の標準、カスタム、グローバルアクションおよびボタンをスキャンし、Salesforce Classic のアクションとボタンから Lightning Experience アクションに簡単に移行します。すべてのアクションとボタンを一度に移行するか、ツールガイドに従って各オブジェクトの移行プロセスを実行します。

JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換
Lightning Experience 設定コンバータを使用して、簡単な JavaScript アラートを Lightning コンポーネントに変換し、Lightning Experience への組織の移行を迅速化します。ツールで変換できない複雑なアラート (複数の操作が含まれるアラートなど) の場合、手動で変換するために実行できるアクションが設定コンバータによって推奨されます。

メールではなく設定コンバータでのスキャン結果の表示

Visualforce ページのスキャン後や JavaScript アクションおよびボタンの完了後にシステム管理者に送信されるメールの添付ファイルとしてスキャン結果が含まれなくなりました。

Lightning Experience での URL 機能の保持 (ベータ)

[私のドメイン] を有効にすると、組織の元の URL に対するハードコード化された参照が機能しない場合があります。Lightning Experience 設定コンバータの [Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブを使用し、ハードコード化された URL をすべて排除してから 1 回のクリックで更新します。Lightning Experience 準備状況チェックの [ハードコード化された URL] セクションが [Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブに置き換えられ、機能が強化されています。

対象: この変更は、[私のドメイン] が有効化された、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: Lightning Experience 設定コンバータの [Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。[Hard-Coded URLs (ハードコード化された URL)] タブについてのフィードバックと提案は、Lightning Exp Configuration Converter Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: ハードコード化された URL 機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

方法: ツールは、元の URL への静的参照を新しい [私のドメイン] URL に置換します。個々の URL を選択して 1 つずつ置換するか、ハードコード化された URL をすべて一度に置換します。

設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

Lightning Experience に対する AppExchange パッケージの準備状況の確認 (ベータ)

Lightning Experience 設定コンバータの [AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブに移動し、インストール済みパッケージのメタデータをスキャンし、Lightning Experience 用に AppExchange パッケージを準備します。Lightning Experience に対する準備が整っているパッケージを確認します。残りのパッケージの更新、置換、確認についての推奨事項を取得します。Lightning Experience 準備状況チェックの [AppExchange] セクションが [AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブに置き換えられ、機能が強化されています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: Lightning Experience 設定コンバータの [AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。[AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブについてのフィードバックと提案は、Lightning Exp Configuration Converter Trailblazer Community からお寄せください。

方法: 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

[Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブ (正式リリース)

Winter '19 のベータ機能としてリリースされた Lightning Experience 設定コンバータの [Actions and Buttons (アクションとボタン)] タブが正式リリースされました。組織の標準、カスタム、グローバルアクションおよびボタンをスキャンし、Salesforce Classic のアクションとボタンから Lightning Experience アクションに簡単に移行します。すべてのアクションとボタンを一度に移行するか、ツールガイドに従って各オブジェクトの移行プロセスを実行します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: アクションとボタン機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

方法: 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

JavaScript アラートから Lightning コンポーネントへの変換

Lightning Experience 設定コンバータを使用して、簡単な JavaScript アラートを Lightning コンポーネントに変換し、Lightning Experience への組織の移行を迅速化します。ツールで変換できない複雑なアラート (複数の操作が含まれるアラートなど) の場合、手動で変換するために実行できるアクションが設定コンバータによって推奨されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: [JavaScript ボタン] タブを使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

メールではなく設定コンバータでのスキャン結果の表示

Visualforce ページのスキャン後や JavaScript アクションおよびボタンの完了後にシステム管理者に送信されるメールの添付ファイルとしてスキャン結果が含まれなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象: 2019 年 10 月から、メールにファイルが添付されなくなります。

方法: スキャン結果を表示するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ で Lightning Experience 設定コンバータにログインします。

Government Cloud 組織での Lightning Experience 移行ツールへのアクセス

Heroku に存在する Lightning Adoption 移行ツールへのアクセスを有効にすることで、円滑に移行を行います。組織のいずれかのシステム管理者が Heroku ベースのアプリケーションの利用規約を読んで承認すると、組織のすべてのシステム管理者が Salesforce Optimizer、Lightning Experience 設定コンバータ、Lightning Experience 準備状況チェック、Change Management Hub にアクセスできるようになります。

対象: この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Government Cloud のお客様が使用できます。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を持つすべてのシステム管理者。

理由: Heroku は、別個のインフラストラクチャで Salesforce が提供するサービスです。Government Cloud 組織は、移行ツールにアクセスする前に、データがどこで処理されるかを理解する必要があります。

方法: 組織のいずれかのシステム管理者が利用規約に同意すると、組織のすべてのシステム管理者が Heroku ベースの移行ツールにアクセスできるようになります。[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「外部アプリケーション設定」* と入力し、[外部アプリケーション設定] を選択します。

Lightning Experience エンゲージメント: 応答画面とヘルプメニュー

アプリケーション内ガイダンスが機能強化されて応答画面の作成とテストが容易になり、正式リリースされました。ヘルプメニューに表示される Salesforce リソースを制御します。

このセクションの内容:

機能の発見と採用のためのアプリケーション内の案内の追加 (正式リリース)
応答画面のコピー。応答画面のテスト。さらに Salesforce が作成したすべての応答画面を簡単な方法で制御できるようになりました。

ユーザに表示するヘルプメニューリンクの制御
ユーザ、組織の設定、またはカスタムヘルプ設定によっては、ユーザがヘルプメニューを開いたときにすべての Salesforce 項目を表示する必要がない場合があります。改良された [ヘルプメニュー] 設定ページを使用して、Lightning Experience ヘルプメニューにどの Salesforce セクションとリンクを表示するかを決定します。

カスタムヘルプメニューへの長い URL の追加
お客様のフィードバックに基づき、URL の文字数制限を 255 文字から 1,000 文字に増やしました。

機能の発見と採用のためのアプリケーション内の案内の追加 (正式リリース)

応答画面のコピー。応答画面のテスト。さらに Salesforce が作成したすべての応答画面を簡単な方法で制御できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Summer'19 ベータリリースでの応答画面のアーリーアダプターからのフィードバックに基づき、応答画面の作成とテストを容易にするいくつかの機能強化を行いました。

パッケージ所有者が設定した公開状況を応答画面で維持
: たとえば、パッケージで有効とマークされた応答画面は、組織へのインストール後に有効になります。以前は、インストール後のパッケージ応答画面は、パッケージ所有者が設定した公開設定に関係なく無効になっていました。

アプリケーションとパッケージが変更されると応答画面を更新
: アプリケーション名を更新すると、その変更はリストビューに反映されます。アプリケーションを削除すると、その応答画面は削除されます。パッケージを削除すると、パッケージからインストールされた応答画面は削除されます。

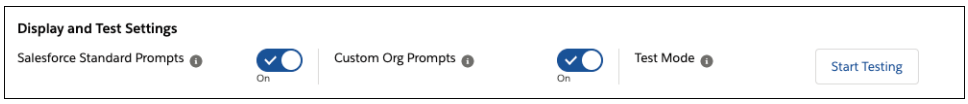
ライセンス管理のフルサポート
: 管理パッケージからインストールされた応答画面を使用して、ライセンスの割り当て、再割り当て、削除、追加ができます。

Salesforce が作成した応答画面の非表示
: Salesforce が作成したすべての Lightning Experience アプリケーション内ガイダンスを無効にして、ユーザに表示される内容を制御できます。Salesforce によって、有用で生産性を高める応答画面、歓迎メッセージ、その他のガイダンスが提供されます。たとえば次のものがあります。

- Essentials Edition、Lightning Experience、設定アシスタント、High Velocity Sales の歓迎メッセージ
- Lightning Dialer、表示密度、ごみ箱、ナビゲーションバーのパーソナライズ、Salesforce モバイルアプリケーション、ヘルプメニュー、各種関連リスト機能、リストビューの固定、カレンダー、商談スコア、Einstein 検索 (ベータ)、Kanban に関する機能発見の応答画面とポップオーバー
- Lightning Experience のダッシュボード、レポート、カレンダー、ToDo がより優れていることを説明する機能採用応答画面

有効な応答画面を無効にするための新しい場所
: 組織でインストールまたは作成されたすべての応答画面を無効にする機能が中心部に表示されます。これまで、切り替えは応答画面リストビューにありました。

応答画面のテスト
: 特定のユーザとしてログインして、ユーザエクスペリエンスを実際に確認することで、応答画面をテストします。応答画面のテスト中、スケジュール設定と応答画面間の時間指定による遅延は削除されます。インタラクション総計値もログに記録されません。テストは Sandbox でも機能します。そのために追加のステップで [採用アシスタンス] 設定ページの [Sandbox 組織での採用アシスタンス] を有効にする必要はありません。



行レベルアクションとしてのコピー
すでに作成済みの応答画面やパッケージからインストール済みの応答画面を使用して、さまざまなユーザ向けの一連の応答画面をすばやく作成します。コピーした応答画面で、応答画面種別とページの場所以外のすべての設定を編集できます。

ドッキング応答画面の番号付き箇条書きと箇条書き
リッチテキストエディタに 2 つのリストスタイルが追加されました。

より長い URL
URL の文字数制限が 255 文字から 1,000 文字に増加しました。

相対 URL
カスタムアクションボタンに追加できるのは完全修飾(絶対)URL のみという制限がなくなりました。これまでのリリースでは、完全な URL 「`https://www.org.lightning.force.com/lightning/o/Account/home`」を追加していました。今後は、「`/lightning/o/Account/home`」と入力できます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での応答画面の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザに表示するヘルプメニューリンクの制御

ユーザ、組織の設定、またはカスタムヘルプ設定によっては、ユーザがヘルプメニューを開いたときにすべての Salesforce 項目を表示する必要がない場合があります。改良された [ヘルプメニュー] 設定ページを使用して、Lightning Experience ヘルプメニューにどの Salesforce セクションとリンクを表示するかを決定します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce が既存の [ヘルプメニュー] 表示設定を移行する時間が取れるように、新しいセクションはリリース後数日間グレー表示されます。たとえば、以前は **[Salesforce ヘルプコンテンツをユーザに表示]** を無効にしていた場合、[使用開始] セクション、[このページのヘルプ] セクション、および Salesforce ドキュメントの検索機能は、引き続きユーザには表示されません。移行プロセスが完了すると、設定に以前の設定が反映され、さらに変更を加えることができます。

理由: 過去のリリースには、[Salesforce ヘルプコンテンツをユーザに表示] という設定が 1 つだけありました。今後は、ヘルプメニューの項目ごとにユーザ表示を制御できます。

- [使用開始] セクション
- [このページのヘルプ] セクション
- [ドキュメントを検索] リンク
- [キーボードショートカットを表示] リンク
- [Trailhead に移動] リンク

- [サポートを利用] リンク
- [Salesforce にフィードバックを送信] リンク

システム管理者には、リリースノートへのリンクをはじめ、すべてのリソースが表示されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ヘルプメニュー」と入力し、[ヘルプメニュー] を選択します。[Salesforce ヘルプコンテンツ] で、ユーザに表示する項目を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience ヘルプメニューのカスタムヘルプの定義(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムヘルプメニューへの長い URL の追加

お客様のフィードバックに基づき、URL の文字数制限を 255 文字から 1,000 文字に増やしました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

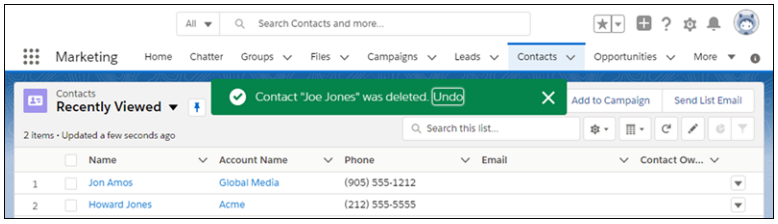
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience ヘルプメニューのカスタムヘルプの定義(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レコード削除トーストの新しい取り消しリンク

レコードを削除した後で気が変わった場合は、ごみ箱を開かなくても削除を取り消すことができます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: レコードを削除します。ブラウザウィンドウの一番上に表示されるトーストメッセージ中の取り消しリンクをクリックします。



関連トピック:

Lightning Experience でのごみ箱へのアクセス

Lightning Experience でのごみ箱へのアクセス

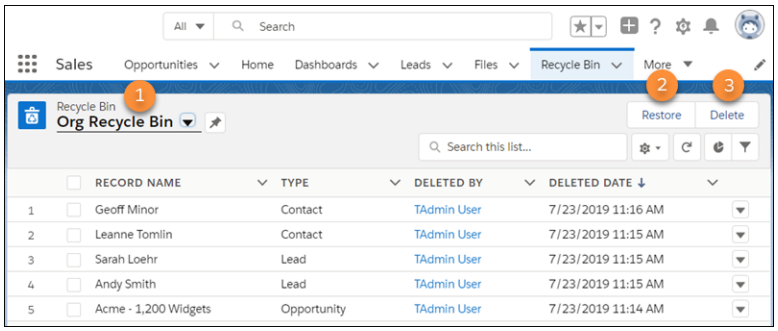
Salesforce Classic に切り替えなくても、ごみ箱にアクセスできるようになりました。自分のごみ箱または組織のごみ箱の項目を表示、復元、削除できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ごみ箱にアクセスするには、アプリケーションランチャーの [すべての項目] から選択するか、ナビゲーションバーをパーソナライズします。または、Lightning アプリケーションビルダーで組織に [ごみ箱] タブを追加します。

Lightning Experience のごみ箱は、Salesforce Classic と同様に動作しますが、いくつか異なる点があります。Lightning Experience では次のように動作します。

- 組織のごみ箱は [組織のごみ箱] (1) と呼ばれます。Salesforce Classic での名称は [すべてのごみ箱] です。
- [復元] (2) をクリックしてレコードを復元します。Salesforce Classic では [復元] です。
- レコードを完全に削除するには、レコードを選択して [削除] (3) をクリックします。Salesforce Classic には [復元] と [ごみ箱を空にする] があります。
- レポートとダッシュボードを復元することはできません。ごみ箱内のこれらにアクセスするには、Salesforce Classic に切り替えます。



関連トピック:

- レコード削除トーストの新しい取り消しリンク
- *Salesforce* ヘルプ: Access the Recycle Bin in Lightning Experience (Lightning Experience のごみ箱へのアクセス) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Lightning Experience - Recycle Bin (Lightning Experience - ごみ箱)

トピック検索条件によるトピックへのリストビューの固定化

トピックに基づく検索条件を追加してリストビューを整理します。1 つのリストビューに最大 2 つのトピックについて検索条件を追加できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のリストビュー検索条件の編集 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Lightning Topics - Filter List Views by Topics (Lightning トピック - トピックによるリストビューの絞り込み)

IdeaExchange: To use Topics in view filters and to get Related to Topics in global search (ビュー検索条件でトピックを使用する方法とグローバル検索で関連先トピックを取得する方法) *(部分的に実現)*

IdeaExchange: Topics: Ability to pull a list of records together in Lightning (トピック: Lightning でレコードのリストをまとめる機能)

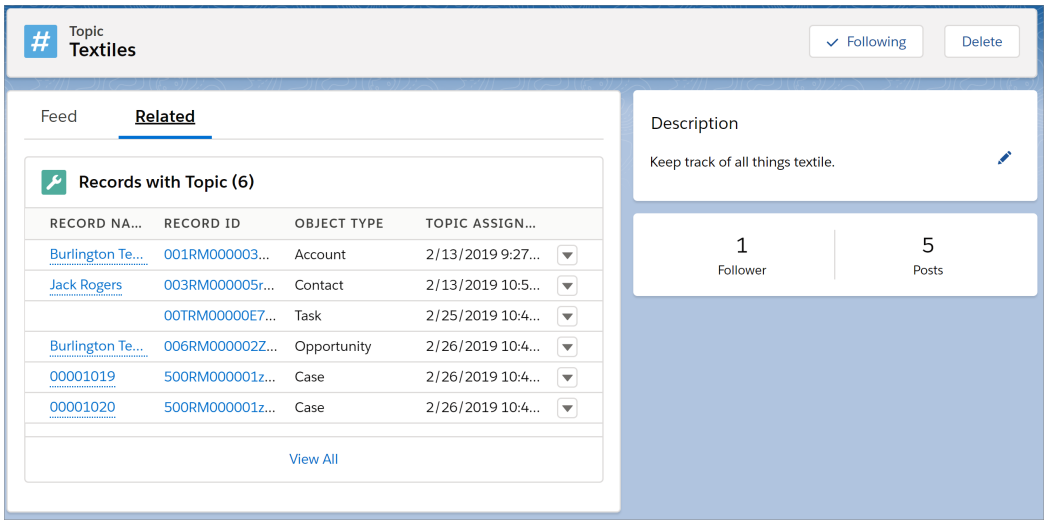
IdeaExchange: View all Files Related to a Topic in Chatter (Chatter でのトピックに関連するすべてのファイルの表示)

トピックの詳細ページでのトピック別のレコードの表示

トピックを使用すると、レコードをテーマ別に整理できます。Lightning Experience では、同じトピックのレコードをすべて 1 つの便利なリストに表示できるようになりました。作業している場所からトピックをクリックして詳細ページに移動し、[関連] タブでレコードを参照します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: たとえば、さまざまなレコードに「Textiles (繊維)」というトピックを追加して整理することができます。Textiles (繊維) トピックページの [関連] タブのリストには、種別を問わず最大 6 件のレコードが表示されます。



[すべて表示] をクリックすると、レコード名、レコード ID、トピックの割り当て日で並べ替えることができる完全なリストが表示されます。クイック検索条件を使用して、レコード名またはトピックの割り当て日でリストを絞り込みます。

[フィード] タブは変更されていません。トピックの投稿とコメントが引き続きすべて表示されます。

関連トピック:

IdeaExchange: Topics: Ability To Pull a List of Records Together in Lightning (トピック: Lightning でレコードのリストをまとめる機能)

IdeaExchange: View all Files Related to a Topic in Chatter (Chatter でのトピックに関連するすべてのファイルの表示)

IdeaExchange: View Subject Records for Topics in Lightning (Lightning でのトピックの件名レコードの表示)

IdeaExchange: Provide List Views for Topics To See Object Records (トピックのリストビューの提供によるオブジェクトレコードの表示)

IdeaExchange: Topics for Object Added to Topic Pages (トピックページに追加されたオブジェクトのトピック)

検索結果およびクイック検索条件に対する一括アクションの正確な実行

リストのサブセットに対してのみ一括アクションを実行する必要がありますか? 対象を絞り込むだけのために特別な1回限りのリストを作成する必要ありません。一括アクションは、リストビューの検索結果または関連リストビューのクイック検索条件の結果に対して機能するようになりました。結果に対して一括アクションを実行するには、検索語句または検索条件を適用し、その結果のすべてまたはサブセットを選択します。元のリストでの作業に戻るには、検索語句またはクイック検索条件をクリアします。

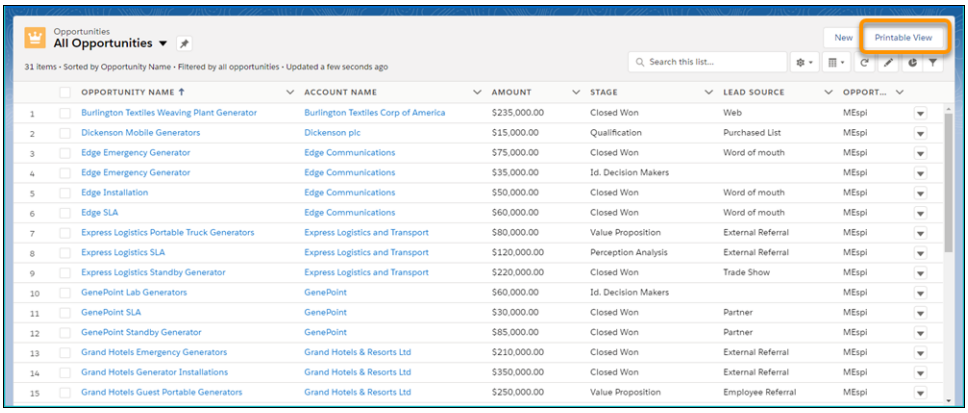
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

リストの印刷用表示でインクと用紙の節約

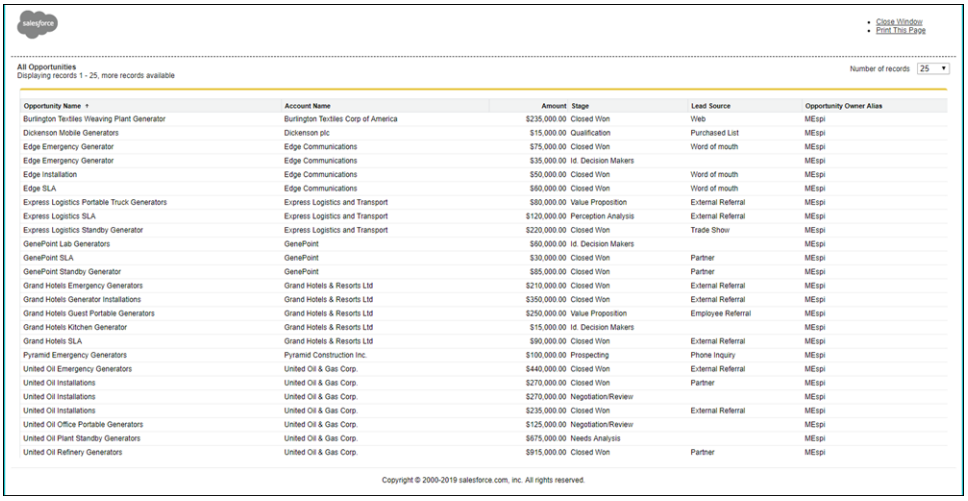
リストのハードコピーを作成するために画面全体を印刷する必要はありません。[印刷用に表示] を使用して、インクを節約するために最小限に縮約されたリストまたは関連リストを表示します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: リストから [印刷用に表示] を選択します。



印刷用表示の列と項目には、ページレイアウトまたは関連リストの設定が反映されます。



All Opportunities
Displaying records 1 - 25, more records available

Number of records 25

Opportunity Name	Account Name	Amount	Stage	Lead Source	Opportunity Owner Alias
Burlington Textiles Weaving Plant Generator	Burlington Textiles Corp of America	$235,000.00	Closed Won	Web	MEspi
Dickenson Mobile Generators	Dickenson plc	$15,000.00	Qualification	Purchased List	MEspi
Edge Emergency Generator	Edge Communications	$75,000.00	Closed Won	Word of mouth	MEspi
Edge Emergency Generator	Edge Communications	$35,000.00	Id. Decision Makers		MEspi
Edge Installation	Edge Communications	$50,000.00	Closed Won	Word of mouth	MEspi
Edge SLA	Edge Communications	$60,000.00	Closed Won	Word of mouth	MEspi
Express Logistics Portable Truck Generators	Express Logistics and Transport	$80,000.00	Value Proposition	External Referral	MEspi
Express Logistics SLA	Express Logistics and Transport	$120,000.00	Perception Analysis	External Referral	MEspi
Express Logistics Standby Generator	Express Logistics and Transport	$220,000.00	Closed Won	Trade Show	MEspi
GenePoint Lab Generators	GenePoint	$60,000.00	Id. Decision Makers		MEspi
GenePoint SLA	GenePoint	$30,000.00	Closed Won	Partner	MEspi
GenePoint Standby Generator	GenePoint	$85,000.00	Closed Won	Partner	MEspi
Grand Hotels Emergency Generators	Grand Hotels & Resorts Ltd	$210,000.00	Closed Won	External Referral	MEspi
Grand Hotels Generator Installations	Grand Hotels & Resorts Ltd	$350,000.00	Closed Won	External Referral	MEspi
Grand Hotels Guest Portable Generators	Grand Hotels & Resorts Ltd	$250,000.00	Value Proposition	Employee Referral	MEspi
Grand Hotels Kitchen Generator	Grand Hotels & Resorts Ltd	$15,000.00	Id. Decision Makers		MEspi
Grand Hotels SLA	Grand Hotels & Resorts Ltd	$90,000.00	Closed Won	External Referral	MEspi
Pyramid Emergency Generators	Pyramid Construction Inc.	$100,000.00	Prospecting	Phone Inquiry	MEspi
United Oil Emergency Generators	United Oil & Gas Corp.	$440,000.00	Closed Won	External Referral	MEspi
United Oil Installations	United Oil & Gas Corp.	$270,000.00	Closed Won	Partner	MEspi
United Oil Installations	United Oil & Gas Corp.	$270,000.00	Negotiation/Review		MEspi
United Oil Installations	United Oil & Gas Corp.	$235,000.00	Closed Won	External Referral	MEspi
United Oil Office Portable Generators	United Oil & Gas Corp.	$125,000.00	Negotiation/Review		MEspi
United Oil Plant Standby Generators	United Oil & Gas Corp.	$675,000.00	Needs Analysis		MEspi
United Oil Refinery Generators	United Oil & Gas Corp.	$915,000.00	Closed Won	Partner	MEspi

Copyright © 2000-2019 salesforce.com, inc. All rights reserved.

[印刷用に表示] では次のブジェクトがサポートされます。

- 取引先
- 活動
- キャンペーン
- ケース
- 取引先責任者
- 契約
- カスタムオブジェクト
- ドキュメント
- リード
- 商談
- 権限セット
- 価格表
- プロファイル
- 商品
- ソリューション

[印刷用に表示] は [最近参照したデータ] リストまたは関連リストでは使用できません。印刷用表示の生成時に検索結果または関連リストのクイック検索条件は使用されません。

アプリケーションへの直接移動

アプリケーションに直接移動し、ブックマークや共有のためのアプリケーション固有のリンクを作成します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。この変更は、Lightning Out、Lightning コミュニティ、Salesforce モバイルアプリケーションには適用されません。

方法: アプリケーションランチャーから新しいタブでアプリケーションを開き、アプリケーションの URL を取得できるようになりました。

- 新しいウィンドウでアプリケーションを開くには、アプリケーションランチャーからアプリケーションを右クリックして開きます。
- ブックマークや共有のためのアプリケーション固有のリンクを作成するには、アプリケーションランチャーからアプリケーションを右クリックして、アプリケーションのURLをコピーします。次に、URLの末尾にアプリケーションコンテキストを追加します。たとえば、`appDeveloperName` を使用してアプリケーション内のオブジェクトレコードのページへのリンクを作成するには、`/lightning/app/standard__LightningSales/o/Case/home` の URL パターンを使用します。

関連トピック:

Salesforce リリースノート: アプリケーションへのユーザの移動

検索: Einstein 検索の導入 (ベータ)、よりスマートになった Salesforce での作業

Einsteinにより、検索の知力が大幅に向上します。Salesforceでの作業方法に合わせて調整された、より実効性のある検索結果で検索や実行を迅速に行うことができるようになりました。2019年10月25日以降、Einstein検索を有効にすることができます。

メモ: Einstein検索はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対してSalesforceは一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein検索に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Communityからお寄せください。

このセクションの内容:

パーソナライズされた検索結果を使用した生産性の向上 (ベータ)

Salesforceでの作業の進め方に合わせて検索結果を調整することですばやく検索できるようにするために、検索のパーソナライズが実装されました。地理的な場所、業界、状況、製品エリア、人を含めて、最も重要な項目に基づいた検索結果によって、目的の結果がすばやく見つかります。

拡張されたインスタント結果を使用した検索ボックスの活用 (ベータ)

拡張されたインスタント結果により、グローバル検索ボックスが生産性の大幅に向上したハブになります。検索ボックス内をクリックすれば、レコードプレビュー、ページレベルのレコードアクション、関連リストのクイックリンク、推奨検索にすばやくアクセスできます。

対話形式の検索での適切な検索条件をすべて使用したインスタントレポートの作成 (ベータ)

レポートが見つからない場合やレポートを作成している時間がない場合は、対話形式の検索を使用すれば、検索語をレコード検索条件に変えることで、重要なデータにすばやくアクセスできます。対話を開始するときと同じように、検索語を入力するだけです。たとえば、「my closed cases this month (今月クローズしたケース)」と入力すると、状況がクローズになっている最近のケースのリストが表示されます。

おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)

おすすめの結果により、探している内容が明らかである場合には適切なレコードがすばやく見つかります。これはまるで、空港の手荷物回転台の多くの荷物の中で自分の荷物を目立たせるために紫色の縞模様にするようなものです。

プロファイル固有の検索結果レイアウトを使用したプロファイルの強化 (ベータ)

検索結果には最も重要なものが表示される必要があります。営業担当の場合、取引先所有者と業種を知ることが不可欠です。サービス担当の場合、取引先のサポートレベルが重要な情報です。プロファイル固有のレイアウトを使用すると、組織内の一意のプロファイルごとにオブジェクトの検索結果レイアウトを微調整できます。プロファイル固有のレイアウトは、カスタマイズ可能なレイアウトがあるオブジェクトでのみサポートされます。プロファイル固有のレイアウトが割り当てられていないユーザには、デフォルトの検索結果レイアウトが表示されます。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Financial Services Cloud、Health Cloud、Sales Cloud、および Consumer Goods Cloud のより多くのオブジェクトが検索可能になりました。

ナビゲーションバー項目での上位の検索結果の表示が中止に

想定よりも低いパフォーマンスのため、アプリケーションのナビゲーションバーのパーソナライズを上位の検索結果に結びつける機能を削除しました。この機能は Summer '19 リリースから開始されました。

関連トピック:

ナレッジ記事: Notice of Einstein Search Data Usage (Einstein 検索データ使用状況の通知) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

パーソナライズされた検索結果を使用した生産性の向上 (ベータ)

Salesforce での作業の進め方に合わせて検索結果を調整することですばやく検索できるようにするために、検索のパーソナライズが実装されました。地理的な場所、業界、状況、製品エリア、人を含めて、最も重要な項目に基づいた検索結果によって、目的の結果がすばやく見つかります。

対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 検索のパーソナライズには、Einstein 検索権限セットライセンスが必要です。

検索のパーソナライズを有効にするには、組織が次の要件を満たす必要があります。

- 150 個以上の有効なユーザライセンス
- Unlimited Edition、Enterprise Edition、または Performance Edition
- Lightning Experience が有効

理由: 取引先、取引先責任者、ケース、リード、または商談を検索するときに、以下を基準として自分に関連のある結果が表示されるようになりました。

- 活動 — レコードを表示する頻度や最近のレコードの表示
- 場所 — 自分にとって重要な市区町村、都道府県または国に関連したレコード
- 所有 — 自分にとって重要な人が所有する、または変更したレコード
- 特化—関心のある業界または製品エリアに関連したレコード、または関心のある状況またはフェーズにあるレコード

メモ:

- インスタント結果は活動にのみ基づいてパーソナライズされます。
- Salesforce Shield Platform Encryption が有効化されている組織では、パーソナライズされた検索結果は使用できません。
- 検索のパーソナライズは Sandbox 組織では使用できません。

方法:検索のパーソナライズを有効にするには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*検索設定*」と入力し、[検索設定] を選択します。続いて、[すべてのユーザにパーソナライズした検索結果を表示する (ベータ)] を選択します。

関連トピック:

ナレッジ記事: Notice of Einstein Search Data Usage (Einstein 検索データ使用状況の通知) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:検索のパーソナライズの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

拡張されたインスタント結果を使用した検索ボックスの活用 (ベータ)

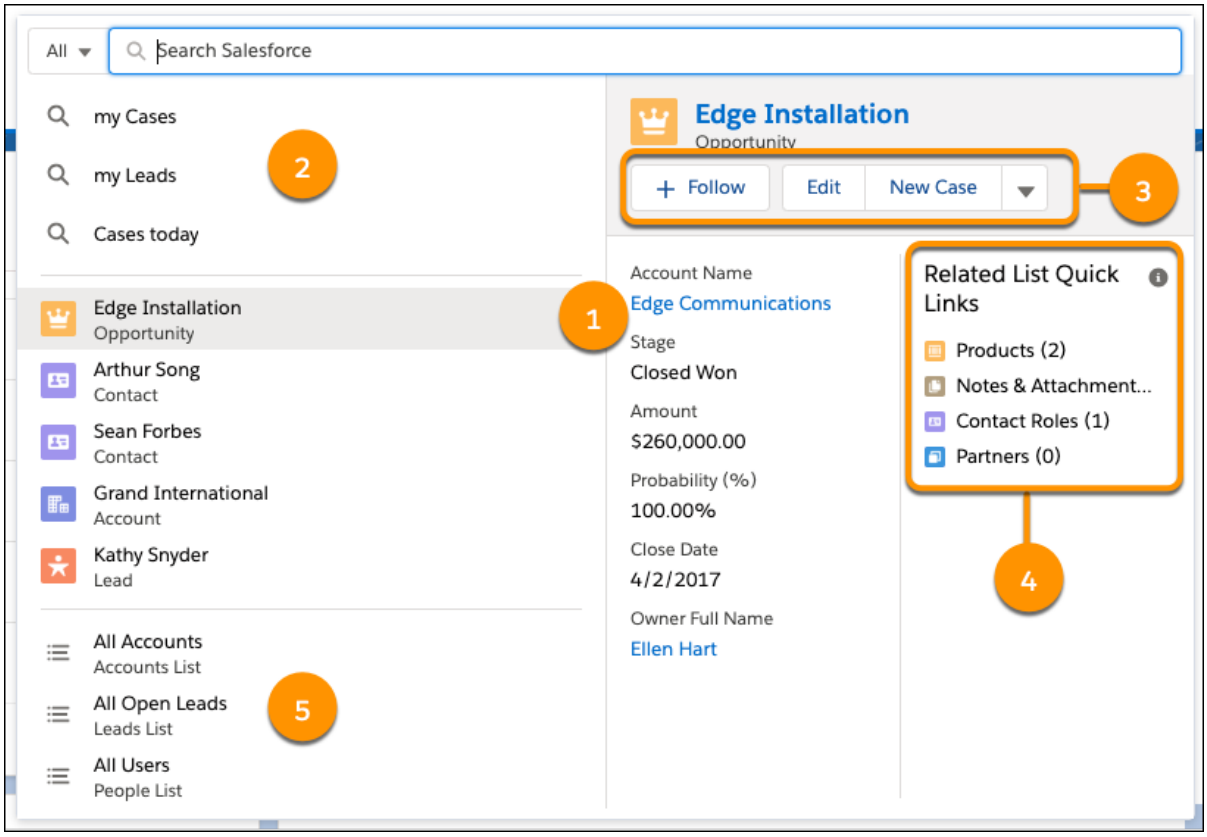
拡張されたインスタント結果により、グローバル検索ボックスが生産性の大幅に向上したハブになります。検索ボックス内をクリックすれば、レコードプレビュー、ページレベルのレコードアクション、関連リストのクイックリンク、推奨検索にすばやくアクセスできます。

対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 拡張されたインスタント結果には、Einstein 検索権限セットライセンスが必要です。

理由: クリックの中には特に効果的なクリックもあります。拡張されたインスタント結果により、検索ボックス内をクリックすると、すぐに次の項目にアクセスできます。

- (1) レコードプレビュー。レコードにマウスポインタを置いて、探している内容かどうかを確認します。最大 10 個の項目を表示して、関連リストに直接移動できます。
- (2) 推奨された対話形式の検索。対話形式の検索により、検索語がレコード検索条件になります。たとえば、「my open opportunities this month (今月進行中の商談)」と入力すると、状況が進行中になっている最近の商談のリストが表示されます。
- (3) ページレベルのレコードアクション。使い慣れているレコードページの同じアクション (カスタムアクションを含む) にすばやくアクセスできるようになりました。
- (4) 関連リストのクイックリンク。直接レコードの関連リストに移動できます。
- (5) リストビュー。リストビューページに移動せずに、より少ないクリック数で適切なリストビューが見つかります。検索ボックス内をクリックすると推奨のリストビューが表示され、入力に従って更新されます。プレビューを表示するには、マウスポインタを置きます。



メモ: ナレッジの高度な検索は拡張されたインスタント結果のドロップダウンでは使用できません。

対話形式の検索での適切な検索条件をすべて使用したインスタントレポートの作成 (ベータ)

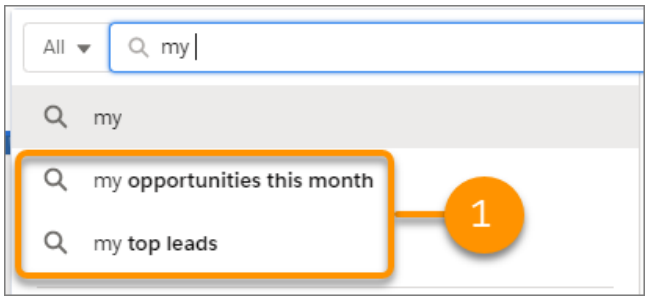
レポートが見つからない場合やレポートを作成している時間がない場合は、対話形式の検索を使用すれば、検索語をレコード検索条件に変えることで、重要なデータにすばやくアクセスできます。対話を開始するときと同じように、検索語を入力するだけです。たとえば、「my closed cases this month (今月クローズしたケース)」と入力すると、状況がクローズになっている最近のケースのリストが表示されます。

対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 対話形式の検索には、Einstein 検索および対話形式の検索に基づいた Einstein 検索結果権限セットのライセンスが必要です。

理由: 対話形式の検索は、Salesforce オブジェクトの名前を「my (私の)」、「last week (先週)」、「closed (クローズ)」などの日常語と共に入力した場合に機能します。対話形式の検索結果は、検索の意図が認識された場合のみ表示されます。必要な場合は、これまでどおり標準的な検索結果を表示することもできますので、心配はいりません。

開始方法がわからない場合は、対話形式の検索を開始してみましょう。グローバル検索ボックスをクリックして入力を開始すると、関心がありそうな対話形式の検索が推奨されます (1)。



メモ: 対話形式の検索では、取引先、取引先責任者、ケース、リード、商談の各オブジェクトをサポートしています。

関連トピック:

ナレッジ記事: Notice of Einstein Search Data Usage (Einstein 検索データ使用状況の通知) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 対話形式の検索を使用した条件設定済みレポートの作成 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)

おすすめの結果により、探している内容が明らかである場合には適切なレコードがすばやく見つかります。これはまるで、空港の手荷物回転台の多くの荷物の中で自分の荷物を目立たせるために紫色の縞模様にするようなものです。

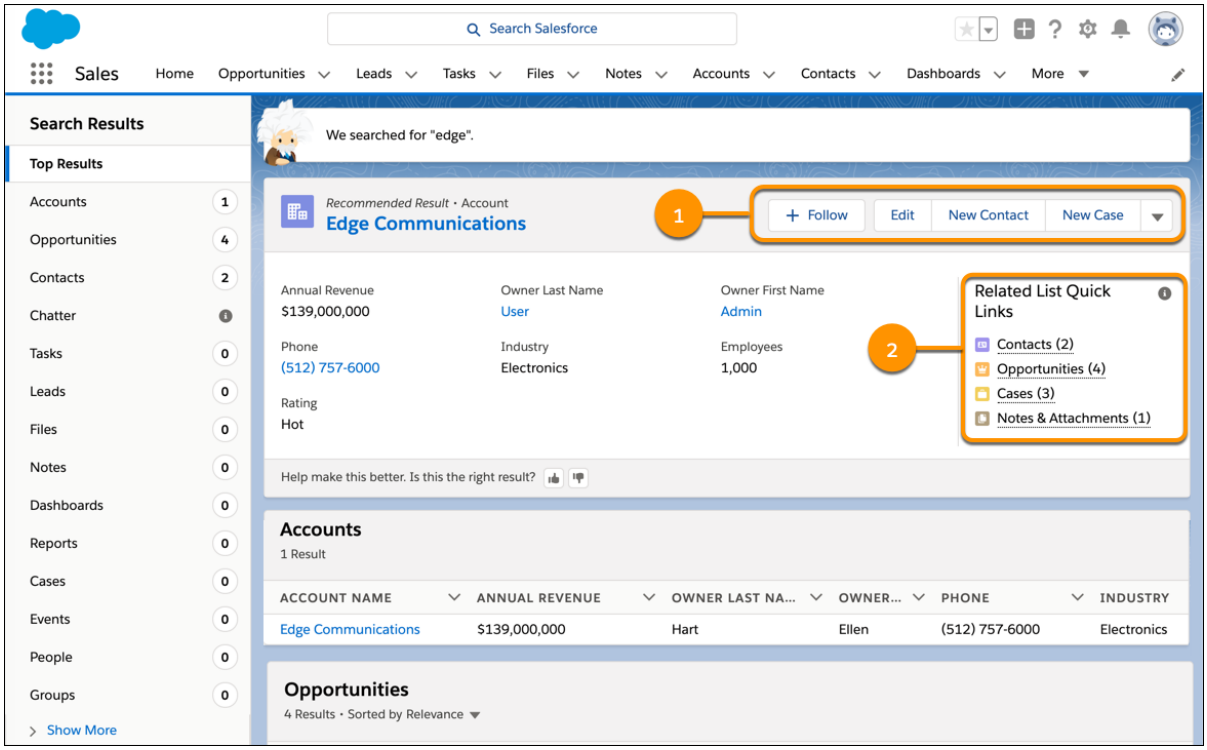
対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: おすすめの結果には、Einstein 検索権限セットライセンスが必要です。レコードプレビューには、Einstein 検索レコードプレビュー権限セットライセンスが必要です。

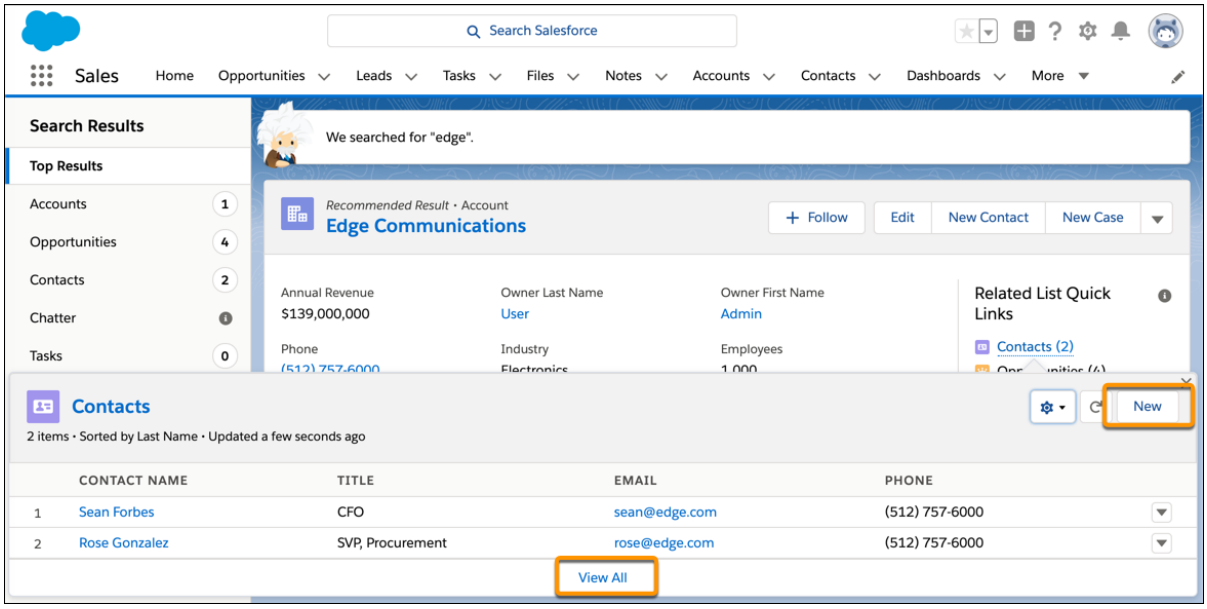
理由: 検索結果ページの上部に、レコードのプレビューが表示されます。そのため、探していたレコードであるかどうかをすぐに判断できます。

これはわかりやすいだけでなく、アクション可能でもあります。レコードページで実行できるのと同じアクションをここでも実行できるため、検索結果ページから離れることなく多くの作業を実行できます (1)。

おすすめの結果の関連レコードに対してアクションを実行することもできます。[関連リストのクイックリンク] (2) でリンクにマウスポインタを置けば、最大 10 件の関連レコードと実行可能なアクションが表示されます。



関連レコードの完全なリストを表示するには、[すべて表示] を選択します。リストが新しいページで開きます。



関連トピック:

- プロファイル固有の検索結果レイアウトを使用したプロファイルの強化 (ベータ)
- *Salesforce* ヘルプ: おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プロファイル固有の検索結果レイアウトを使用したプロファイルの強化 (ベータ)

検索結果には最も重要なものが表示される必要があります。営業担当の場合、取引先所有者と業種を知ることが不可欠です。サービス担当の場合、取引先のサポートレベルが重要な情報です。プロファイル固有のレイアウトを使用すると、組織内の一意のプロファイルごとにオブジェクトの検索結果レイアウトを微調整できます。プロファイル固有のレイアウトは、カスタマイズ可能なレイアウトがあるオブジェクトでのみサポートされます。プロファイル固有のレイアウトが割り当てられていないユーザには、デフォルトの検索結果レイアウトが表示されます。

対象: この変更は、Unlimited Edition、Enterprise Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: プロファイル固有の検索結果レイアウトには、Einstein 検索権限セットライセンスが必要です。

方法: ユーザプロファイルに基づいてオブジェクトの検索結果レイアウトを指定するには、2つのオプションがあります。

- Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*検索レイアウト*」と入力し、[検索レイアウト] を選択します。または
- Lightning Experience の [設定] からオブジェクトマネージャに移動し、[検索レイアウト] を選択します。

関連トピック:

- おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)
- *Salesforce* ヘルプ: プロファイル固有の検索結果レイアウトの作成 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Financial Services Cloud、Health Cloud、Sales Cloud、および Consumer Goods Cloud のより多くのオブジェクトが検索可能になりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

理由: 以下のオブジェクトは Lightning Experience で検索可能です。

オブジェクト	対象
AccountForecastAdjustment	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition
AccountForecastPeriodMetric	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition

オブジェクト	対象
AccountForecast	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition
AccountProductForecast	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition
AccountProductPeriodForecast	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition
データセット	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
検出されたオブジェクト	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
ビジョンモジュール	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
モデル総計値	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
オブジェクト総計値	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
画像	Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Consumer Goods Cloud
BusinessMilestone	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
BusinessProfile	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicant	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicantAddress	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicantDeclaration	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicantEmployment	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicantIncome	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicantLiability	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicationAsset	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud
LoanApplicationFinancial	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition **の** Financial Services Cloud

オブジェクト	対象
LoanApplicationLiability	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Financial Services Cloud
LoanApplicationProperty	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Financial Services Cloud
LoanApplicationTitleHolder	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Financial Services Cloud
ResidentialLoanApplication	Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Financial Services Cloud
SalesAgreement	Developer Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition
SecuritiesHolding	Enterprise Edition、Unlimited Edition、Professional Edition
Snippet	Enterprise Edition、Unlimited Edition、Preboot Execution Environment、Professional Edition、Pardot (任意のエディション)

以下のオブジェクトは、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **で検索可能です。**

オブジェクト	対象
CareProgramEnrollmentCard	Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Health Cloud
CareProgramProvider	Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Health Cloud
CareProviderAdverseAction	Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Health Cloud

ナビゲーションバー項目での上位の検索結果の表示が中止に

想定よりも低いパフォーマンスのため、アプリケーションのナビゲーションバーのパーソナライズを上位の検索結果に結びつける機能を削除しました。この機能は Summer '19 **リリースから開始されました。**

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience **に適用されます。**

関連トピック:

Salesforce **リリースノート: 移動方法を反映する検索結果を使用した必要な情報の迅速な発見**

Salesforce アンケート: 容易なインテグレーション、詳細な制御、分析の向上

ケースやマーケティングキャンペーンに対するアンケートを送信します。プロセスビルダーを使用してアンケートへの招待を自動化します。サンプルアンケートを使用して機能をテストします。参加者にお知らせページを表示するかどうかと、アンケート所有者が回答を管理できるかどうかを決定します。特定のレコードに関連付けられている招待と応答を確認します。改良された[分析]タブを使用して、回答をダウンロードしたり、質問ごとの回答の分布を確認したりします。

このセクションの内容:

サポートケースのインサイトの取得

アンケートの質問またはアンケートへのリンクを含むフォローアップメールをケースの取引先責任者に送信します。自動レスポンスルールを満たす、またはケースがクローズすると、メールを送信します。

アンケートによるマーケティングキャンペーンの向上

キャンペーンのライフサイクル中にいつでもアンケートを送信してマーケティング活動の効果を高めます。

プロセスビルダーを使用したアンケートへの招待の自動化

プロセスビルダーで[アンケートへの招待を送信]アクション種別の条件を定義し、リード、取引先責任者、ユーザにアンケートへの招待メールを送信します。

特定のレコードに対して顧客が提供したスコアの表示 (パイロット)

カスタマーエクスペリエンススコア Lightning コンポーネントを使用して、顧客が提供したスコアを表示します。このコンポーネントは、カスタムオブジェクトおよび標準オブジェクトである取引先、ケース、取引先責任者、およびユーザに追加できます。

アンケートへのトピックの割り当て

テーマ別に整理しやすくするために、アンケート、質問、回答の選択肢、回答にトピックをタグ付けします。

アンケートの所有者による回答の管理

以前は、アンケートへの招待の所有者のみがアンケートの回答を管理することができました。アンケート所有者もこの機能を使用できるようになりました。

サンプルアンケートによる作業の迅速化

用意されている2つのサンプルアンケートを使用して、アンケートの作成をすばやく開始できます。また、それらをカスタマイズして送信することもできます。アンケートを有効にすると、2つのサンプルアンケートが組織の [アンケート] リストビューに追加されます。

詳細なインサイトのために応答のエクスポート

エクスポート条件を設定し、アンケートバージョンの応答をメールでダウンロードします。[分析] タブで [回答をエクスポート] を選択します。

アンケートへの回答の容易な分析

改善されたレポートとグラフで各質問種別の回答を分析します。回答の分布を 1 ページずつ表示できるようになりました。

参加者へのお知らせページの表示の選択

華やかなお知らせメッセージを表示するか、[お知らせページ] を無効にして、参加者がクリックする手間を省くことができます。アンケートビルダーの [ビルド] タブで [お知らせページ] を無効にします。

クリックでアンケートバージョンの切り替え

アンケートビルダーでは、バージョンセレクタドロップダウンを使用してアンケートバージョンを簡単に比較できます。

レコードに関連付けられた招待と回答の表示

SurveySubject オブジェクトでサポートされているレコードに関連付けられている招待を表示できるようになりました。また、その招待に関連付けられている回答レコードを表示することもできます。[アンケートの招待と回答] 関連リストをオブジェクトのページレイアウトに追加します。

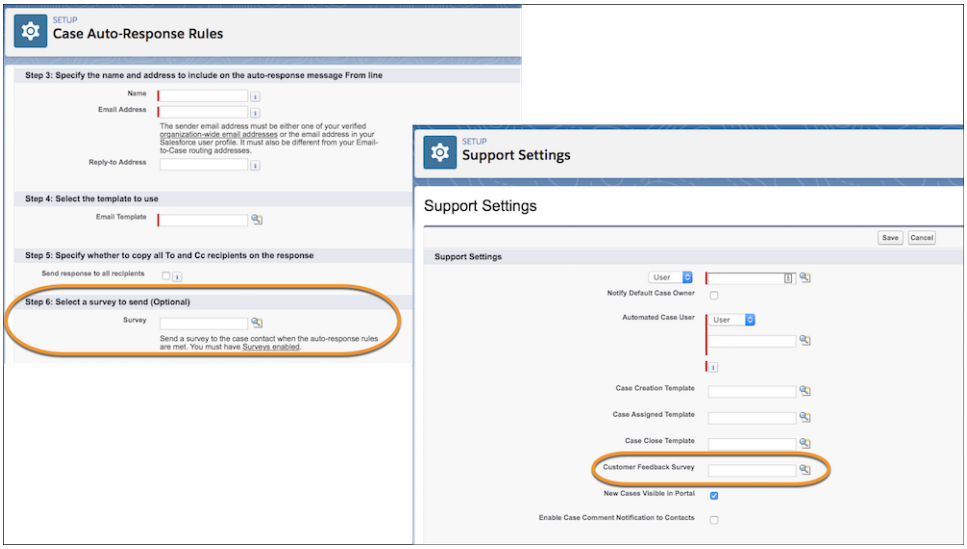
未認証の参加者による回答の許可

未認証のアンケートへの招待では、ゲストユーザがアンケートの表示やアンケートへの回答を行うことができます。Salesforce 組織外の参加者から引き続き回答を受け取るために、ゲストユーザアクセスを組織のオブジェクトレコードに制限しないでください。

サポートケースのインサイトの取得

アンケートの質問またはアンケートへのリンクを含むフォローアップメールをケースの取引先責任者に送信します。自動レスポンスルールを満たす、またはケースがクローズすると、メールを送信します。

対象: この変更は、Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。



関連トピック:

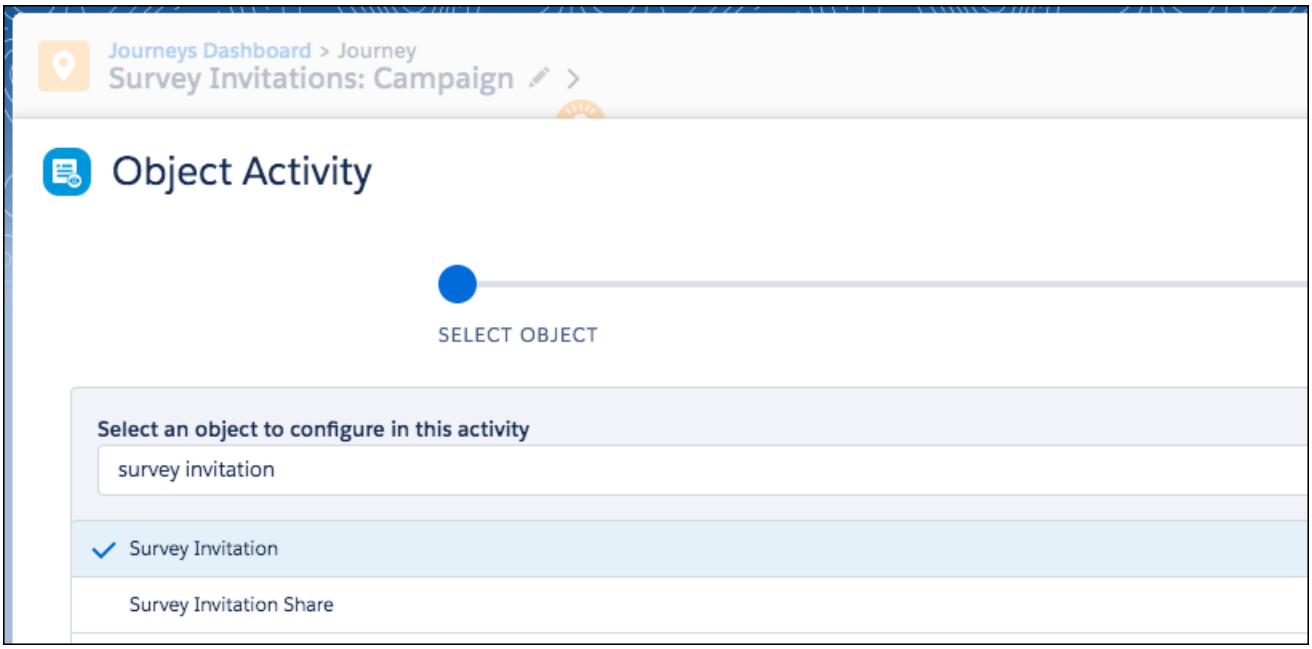
- ケースに関するアンケートの送信

アンケートによるマーケティングキャンペーンの向上

キャンペーンのライフサイクル中にいつでもアンケートを送信してマーケティング活動の効果を高めます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Journey Builder キャンバスにオブジェクトアクティビティをドロップしてクリックします。オブジェクトとして [アンケートへの招待] を選択し、このアクティビティを設定します。

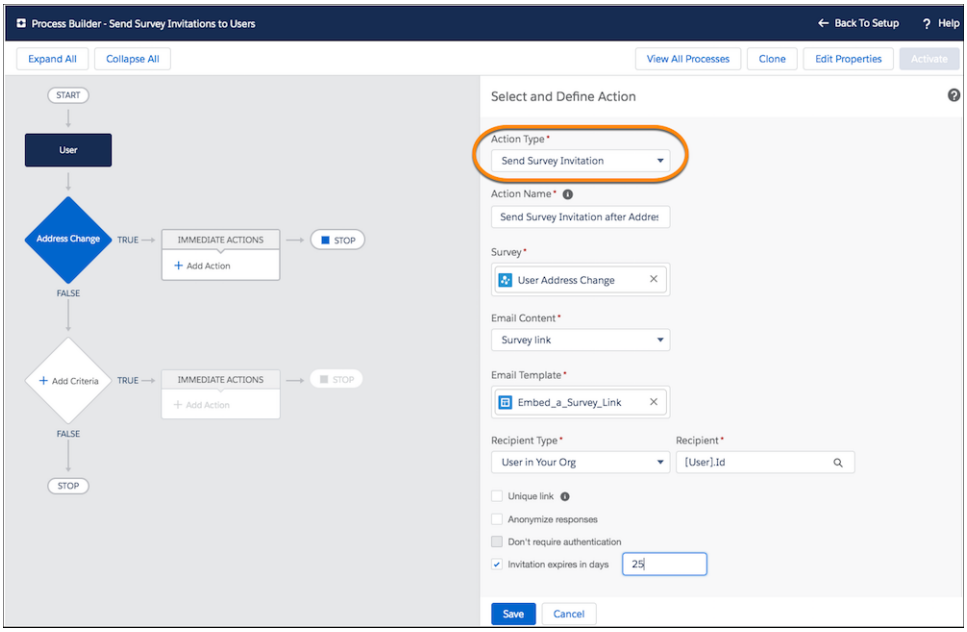


プロセスビルダーを使用したアンケートへの招待の自動化

プロセスビルダーで [アンケートへの招待を送信] アクション種別の条件を定義し、リード、取引先責任者、ユーザにアンケートへの招待メールを送信します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: プロセスビルダーでアクション種別として [アンケートへの招待を送信] を選択します。



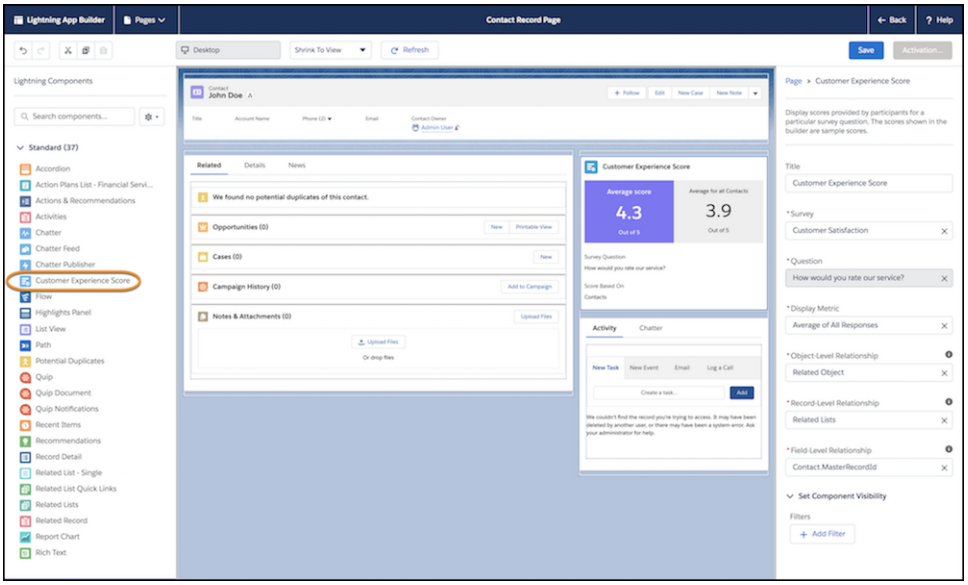
特定のレコードに対して顧客が提供したスコアの表示 (パイロット)

カスタマーエクスペリエンススコア Lightning コンポーネントを使用して、顧客が提供したスコアを表示します。このコンポーネントは、カスタムオブジェクトおよび標準オブジェクトである取引先、ケース、取引先責任者、およびユーザに追加できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法: カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントをレコードページにドラッグします。最新スコアと平均スコアのどちらを表示するかと、スコアの計算方法を選択します。



アンケートへのトピックの割り当て

テーマ別に整理しやすくするために、アンケート、質問、回答の選択肢、回答にトピックをタグ付けします。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce Classic のアンケート、アンケートの質問、アンケートの質問の選択肢、アンケートの質問への回答オブジェクトでトピックを有効にします。これらのオブジェクトのレコードページにトピック Lightning コンポーネントを追加します。

アンケートの所有者による回答の管理

以前は、アンケートへの招待の所有者のみがアンケートの回答を管理することができました。アンケート所有者もこの機能を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アンケート所有者が回答を管理できるようにするには、[アンケートの設定] ページで [アンケート所有者が回答を管理できる] を有効にします。

サンプルアンケートによる作業の迅速化

用意されている 2 つのサンプルアンケートを使用して、アンケートの作成をすばやく開始できます。また、それらをカスタマイズして送信することもできます。アンケートを有効にすると、2 つのサンプルアンケートが組織の [アンケート] リストビューに追加されます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

詳細なインサイトのために応答のエクスポート

エクスポート条件を設定し、アンケートバージョンの応答をメールでダウンロードします。[分析] タブで [回答をエクスポート] を選択します。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

アンケートへの回答の容易な分析

改善されたレポートとグラフで各質問種別の回答を分析します。回答の分布を1ページずつ表示できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

参加者へのお知らせページの表示の選択

華やかなお知らせメッセージを表示するか、[お知らせページ] を無効にして、参加者がクリックする手間を省くことができます。アンケートビルダーの [ビルド] タブで [お知らせページ] を無効にします。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

クリックでアンケートバージョンの切り替え

アンケートビルダーでは、バージョンセレクタドロップダウンを使用してアンケートバージョンを簡単に比較できます。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

レコードに関連付けられた招待と回答の表示

SurveySubject オブジェクトでサポートされているレコードに関連付けられている招待を表示できるようになりました。また、その招待に関連付けられている回答レコードを表示することもできます。[アンケートの招待と回答] 関連リストをオブジェクトのページレイアウトに追加します。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

関連トピック:

Salesforce **ヘルプ**: SurveySubject (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

未認証の参加者による回答の許可

未認証のアンケートへの招待では、ゲストユーザがアンケートの表示やアンケートへの回答を行うことができます。Salesforce組織外の参加者から引き続き回答を受け取るために、ゲストユーザアクセスを組織のオブジェクトレコードに制限しないでください。

対象: この変更は、Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] セクションで [編集] をクリックします。[その他の設定] セクションで、[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] チェックボックスをオフにします。

関連トピック:

ナレッジ記事:ゲストユーザレコードアクセスが保護されていると、未認証のアンケートへの招待が開かない (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Scheduler: マルチリソーススケジュールと同時スケジュール

マルチリソーススケジュールで、顧客の予定に合わせて専門家のグループを作成し、同時スケジュールでスケジュール効率を最適化します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

このセクションの内容:

マルチリソーススケジュールを使用したグループ予定の予約

マルチリソーススケジュールを使用して、顧客の予定に合わせてファイナンシャルアドバイザー、公認会計士、弁護士など専門家のグループを集めます。各リソースのスキルと対応可能状況に基づいて、顧客のニーズを満たす適切な人とアセットを見つけます。すべてのミーティング出席者の対応可能時間を表示できるため、予定の枠を見つけやすくなります。

同時スケジュールによる効率性の向上

同じ時間枠に複数の顧客の予定を簡単にスケジュールできるようになりました。たとえば、診療所で複数の患者が午後 1 時の予定を予約できるようにして、医師の空き時間が生じるのを防ぐことができます。リソースと場所ごとに最大の予定数を定義して、スケジュール効率を最適化できます。

海外の予定の迅速なスケジュール

タイムゾーンが異なる参加者と予定をスケジュールする必要がありますか?タイムゾーン選択メニューを表示し、適切なタイムゾーンですべての空き時間枠を確認します。

予定のスケジュールへのミーティングの準備と移動時間の組み込み
予定の前後の時間をミーティングの準備や移動時間としてブロックすることで、ユーザがカレンダーの対応可能状況をより詳細に制御できます。さらに、これらの時間ブロックが Salesforce カレンダーに表示されます。

関連トピック:

Lightning Scheduler: 顧客の予定のスケジュールの最適化

マルチリソーススケジュールを使用したグループ予定の予約

マルチリソーススケジュールを使用して、顧客の予定に合わせてファイナンシャルアドバイザー、公認会計士、弁護士など専門家のグループを集めます。各リソースのスキルと対応可能状況に基づいて、顧客のニーズを満たす適切な人とアセットを見つけます。すべてのミーティング出席者の対応可能時間を表示できるため、予定の枠を見つけやすくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

対象ユーザ: アセットのスケジュールは、Asset Scheduling ライセンスのある組織で使用できます。

方法: [マルチリソーススケジュール] 組織設定を有効化します。

同時スケジュールによる効率性の向上

同じ時間枠に複数の顧客の予定を簡単にスケジュールできるようになりました。たとえば、診療所で複数の患者が午後1時の予定を予約できるようにして、医師の空き時間が生じるのを防ぐことができます。リソースと場所ごとに最大の予定数を定義して、スケジュール効率を最適化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

方法: [同時スケジュール] 組織設定を有効化します。

海外の予定の迅速なスケジュール

タイムゾーンが異なる参加者と予定をスケジュールする必要がありますか? タイムゾーン選択メニューを表示し、適切なタイムゾーンですべての空き時間枠を確認します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

方法: Flow Builder で、showTimeZone 選択リスト変数を {!$Global.Constant.True} に設定します。

予定のスケジュールへのミーティングの準備と移動時間の組み込み

予定の前後の時間をミーティングの準備や移動時間としてブロックすることで、ユーザがカレンダーの対応可能状況をより詳細に制御できます。さらに、これらの時間ブロックが Salesforce カレンダーに表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

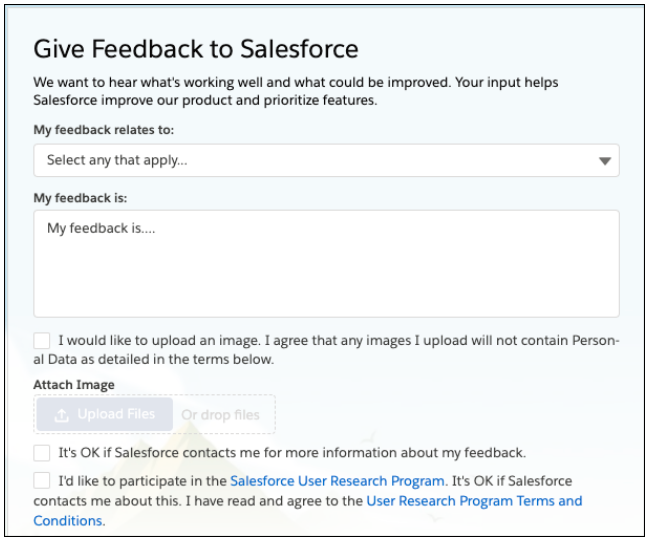
方法: [リソースの対応可能時間をブロック] および [行動管理] 組織設定を有効化します。

変更されたフォームを使用した Salesforce へのフィードバックの送信

フィードバックは、Salesforce があらゆるユーザのためにユーザエクスペリエンスを改良する際に寄与するため、意見の送信や支援の要請がしやすいように少し変更を加えました。支援が必要な場合は、TrailblazerCommunity と Salesforce サポートへのリンクを提示します。フィードバックを送る場合は、件名のリストから選択してその領域に焦点を絞ることができます。さらに、スクリーンショットを添付することで、問題について長い説明を入力しなくてもすみます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。似たバージョンのフィードバックフォームが、すべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに表示されます。

方法: Lightning Experience の任意のページからヘルプメニューを開き、**[Salesforce にフィードバックを送信]** を選択します。



関連トピック:

- ユーザに表示するヘルプメニューリンクの制御
- プロファイルメニューで取引先の切り替え、フィードバックの送信、およびヘルプの表示
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience でのヘルプの検索 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience ヘルプメニューのカスタムヘルプの定義(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しいハブでのセキュリティの更新の把握

お客様のデータの安全を確保することは、Salesforce の最も重要な仕事です。そのため新しいユーザインターフェースでは、セキュリティの更新を目に付きやすく、直感的にし、詳細な説明と推奨事項を表示するようにしました。

対象: この変更は、すべての Lightning Experience および Salesforce Classic 組織に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つすべてのユーザに表示されます。

方法:注意が必要なセキュリティ更新を表示するには、[設定] で新しい [セキュリティの更新] ノードに移動します。

セキュリティの更新はすべて重要ですが、作業に優先順位を付けることができるように、それぞれ異なるレベルの注意が割り当てられます。

状況	定義
必須	必須のセキュリティの更新は設定に影響する可能性があります。推奨事項とステップバイステップガイドを使用して組織への影響を評価してください。このセキュリティの更新はオプトアウトできず、変更は適用日に適用されます。
推奨	このセキュリティの更新は、現在の組織の設定には影響しませんが、ステップバイステップガイドを使用して動作を評価することをお勧めします。
情報のみ	組織のセキュリティを向上させるためにセキュリティのクリーンアップを行いました。推奨事項を確認してください。ただし、設定についてアクションを実行する必要はありません。

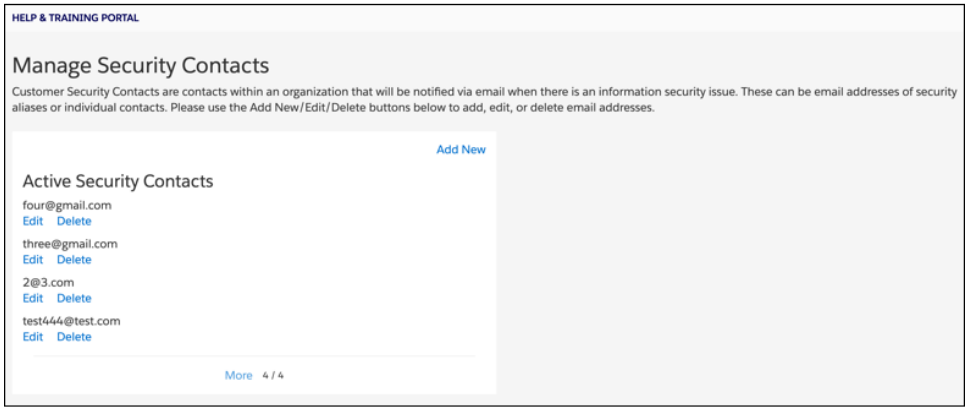
更新では、適用日、組織内の変更内容、組織への影響についての説明が表示されます。一連のステップに従い、組織の更新準備を行うことができます。何もする必要がない場合もありますが、Salesforce では何が行われるかについてお知らせしておきたいと考えています。変更が組織に影響する可能性がある場合は、どのような影響があるのかをお客様がしっかりと認識することができ、修正を行うために必要なすべての情報を提供します。推奨事項の最後には、情報と推奨事項を確認したことを通知する確認ステップがあります。

組織のセキュリティ担当者の管理

組織の主要メンバーがセキュリティインシデントについて把握していることは重要です。情報セキュリティインシデントが組織に影響する場合に担当者に通知されるように、Salesforce ヘルプの組織のセキュリティ担当者を変更できるようになりました。

対象: この機能は、Trailblazer Community の [サポートとサービス] リンクを介してアクセスできます。

方法:セキュリティ担当者を設定するには、Salesforce ヘルプにログインします。[私のプロファイル設定] タイルの [お客様のセキュリティ担当者] の横にある [サポートおよびサービス] > [管理] をクリックします。ここで、セキュリティ担当者のメールアドレスを追加、編集、および削除できます。



関連トピック:

ナレッジ記事: Manage Security Contacts for Your Organization (**組織のセキュリティ担当者の管理**)

Lightning コンソールアプリケーション: フォーカスが設定されたダイアログ、カスタマイズ可能なユーティリティアイコンの色

ダイアログが画面全体をブロックすることはなくなりました。新しい API を使用してユーティリティアイコンの色を変更します。

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、プッシュ通知などの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちら。

このセクションの内容:

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)
Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したユーティリティアイコンの色のカスタマイズ
`iconVariant` オプションを使用して、ユーティリティアイコンの色を定義します。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有

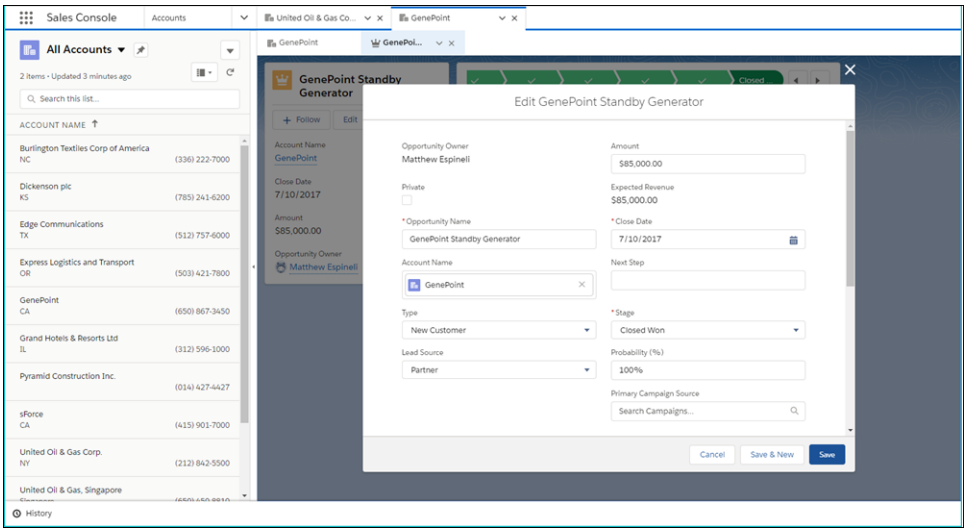
するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: この更新は Winter '20 で有効化できます。有効化しない場合、この更新は 2020 年 2 月 17 日に自動的に有効化されます。

理由: Winter '20 リリース以前は、Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブまたはサブタブでトリガされたすべてのダイアログがアプリケーション全体のフォーカスを獲得していました。この更新では、ダイアログが、そのダイアログをトリガしたタブのフォーカスのみを必要とするようになるため、アプリケーションの他の部分とのインタラクションが邪魔されることがなくなります。

方法: 2020 年 2 月 17 日より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。Enable Tab-Focused Dialogs in Lightning コンソールアプリケーションでタブ中心のダイアログを有効にするには、[有効化] をクリックします。

更新後、ダイアログがトリガされても、そのダイアログを作成したタブに制限されます。



関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティの更新

新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したユーティリティアイコンの色のカスタマイズ

`iconVariant` オプションを使用して、ユーティリティアイコンの色を定義します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

- Lightning コンソール JavaScript API

Optimizer レポートでは Inbox ではなくファイルに着目

2019 年 9 月末から、Optimizer PDF レポートが正常に作成されたことを通知するメールにこのレポートが添付されなくなりました。代わりに、Salesforce Files に移動してレポートのコピーを見つけます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

iPad デバイスでの Safari から Salesforce へのアクセス (ベータ)

新しい iPadOS オペレーティングシステムの Safari で組織の設定に応じて Lightning Experience または Salesforce Classic のフルデスクトップバージョンが開きます。以前は、ユーザが iPad デバイスで Lightning Experience のフルデスクトップバージョンを実行できるようにするにはアクセス権をオンにする必要がありました。iPadOS にアップグレードすると、この設定手順をスキップできます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

メモ: iPad ブラウザの Lightning Experience はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。iPad ブラウザの Lightning Experience についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

メモ: iPad での Salesforce Classic の使用は推奨またはサポートされていません。一部の機能で予期しない動作をすることがあります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: iPad ブラウザの Lightning Experience (ベータ)

Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

ナレッジ記事: 新しい iPad OS 上の Salesforce

オプティマイザ設定の刷新

[設定] の [オプティマイザ] ページのデザインが新しくなりましたが、これまでと同じようにカスタマイズを簡略化し、機能採用を促進するための推奨が表示されます。パーソナライズされた PDF レポートを作成するには、[レポート実行] ボタンを使用する代わりに、[PDF の作成] をクリックして開始します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素種別の変更

取引先や商談などのオブジェクト種別を正しく参照するように TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素種別が変更されました。以前は、エンティティ要素種別は契約オブジェクト種別のみを参照していました。この変更により、TopicAssignment オブジェクトを使用して、トピックを持つさまざまなオブジェクト種別のレコードの名前と ID を適切に照会できるようになります。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic (使用できない組織もあります) と Lightning Experience に適用されます。

理由: Enterprise Web Services Description Language (WSDL) **では、TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素は次のとおりでした。**

```
<element name="Entity" nillable="true" minOccurs="0" type="ens:Contract"/>
```

エンティティ要素が次のように変更されました。

```
<element name="Entity" nillable="true" minOccurs="0" type="ens:sObject"/>
```

TopicAssignment オブジェクトのエンティティ要素を使用して契約オブジェクト種別のみを返している場合、この動作を使用するコードおよびインテグレーションを変更する必要があります。

方法: インテグレーションを引き続き使用できるようにするには、カスタムコード、レポート、フロー、プロセス、トリガを確認し、使用されている TopicAssignment オブジェクトを特定します。TopicAssignment のエンティティ要素の名前または ID のみを照会するようにします。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Changes to "Entity" Field on TopicAssignment Object (TopicAssignment オブジェクトの [Entity] 項目への変更)

モバイル: カスタマイズされたモバイルエクスペリエンスと新しい Salesforce モバイルアプリケーション

最新のモバイルアップデートにより、デスクトップで使い慣れた Lightning Experience が新しい Salesforce モバイルアプリケーション用に最適化され、2019 年 10 月 14 日の週から利用できるようになります。Mobile Publisher に追加されるカスタム通知やディープリンクといった主要な機能により、システム管理者はユーザのモバイルエクスペリエンスをカスタマイズできます。モバイルポートフォリオ全体を通して、システム管理者はかつてないほど強力な機能を駆使し、モバイルエクスペリエンスをカスタマイズして 1 つの統合された Salesforce エクスペリエンスをユーザに提供できるようになります。

このセクションの内容:

- Salesforce アプリケーションのすべての新機能

  Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへの準備

期待される新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に登場します。システム管理者は、かつてないほど強力な機能を使用できるようになり、モバイル向けに最適化されたコンポーネントによって、作業負荷を軽減してユーザに嬉しいモバイルエクスペリエンスを構築できます。Salesforce ユーザは、作業の方法や場所を問わず、デスクトップとモバイルで統一されたエクスペリエンスを得ることができます。

Salesforce モバイルアプリケーションのその他の機能強化

Winter '20 では、Salesforce モバイルアプリケーションの現行バージョンと新バージョンで機能が追加されます。より直感的なナビゲーション、レポートやダッシュボードへのアクセス、より詳細な通知設定などの機能により、システム監理者はユーザが使いやすいカスタムモバイルソリューションを作成できます。

Mobile Publisher:カスタムプッシュ通知、ファイルのダウンロード、任意の場所での共有、ほか

Mobile Publisher の新機能および機能強化によって、コミュニティの変革とカスタマイズを継続できます。Mobile Publisher アプリケーションにカスタムプッシュ通知を送信し、デバイスの位置情報にアクセスできます。ディープリンクを設定し、Salesforce ファイルをダウンロードして共有し、Android 向けの AppLinks を使用してユーザがアプリケーションの使用を継続できるようにします。

Salesforce アプリケーションのすべての新機能

Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

ほとんどの機能は、2019 年 10 月 14 日の週に、現在の、そして新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになります。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
使用開始				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートで簡単にアップグレード				✔
新しい Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントを参照してスムーズな切り替え				
Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除				✔
ユーザへの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのアクセス権の付与	✔	✔		✔
操作方法				

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
使い慣れたナビゲーション項目で新しいモバイルアプリケーションへのシームレスな移行	✔	✔		✔
親指対応のナビゲーションバーで迅速な操作	✔	✔		✔
表示場所が新しくなったアクションおよび新しいアクセス方法	✔	✔		
モバイルのアプリケーションランチャーを使用したLightning Experience アプリケーションの起動	✔	✔		✔
新しいスタイル設定とコンポーネントによるレコードページの改善	✔	✔		✔
プロファイルメニューで取引先の切り替え、フィードバックの送信、およびヘルプの表示	✔	✔		
ユーザ環境のカスタマイズ				
ユーザの携帯電話でのカスタムレコードページの提供	✔	✔		✔
デバイス別のレコードページコンポーネントの表示または非表示	✔	✔		✔
携帯電話、デスクトップ、および両方からLightning アプリケーションへのアクセスを可能に	✔	✔		✔
ブラウザとオペレーティングシステム				
Salesforce アプリケーションの要件の変更	✔	✔	✔	
iPad での Safari からの Salesforce リンクへのアクセス		✔*		
Einstein Analytics				
Salesforce モバイル アプリケーションでの組み込み Einstein Analytics ダッシュボードとのインタラクション	✔	✔*		
Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセス		✔*		
Salesforce for iOS からわずか 1 回のタップでお気に入りのダッシュボードにアクセス		✔*		
Salesforce for iOS で Einstein Analytics ダッシュボードを検索		✔*		
データのアクセスおよび表示				
新しいSalesforceモバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント	✔	✔	✔	✔

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
レコードの強調表示パネルに表示される項目数の追加	✔	✔	✔	✔
セールス機能				
あらゆる場所でサポートする取引先チームのビジネスケースの増加	✔*	✔*	✔*	✔
生産性機能				
新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Twitter コンポーネントへのユーザアクセス権の付与	✔*	✔*	✔*	✔
レポートとダッシュボード				
使い慣れたリストでレポートとダッシュボードを簡単に検索	✔	✔		
Chatter				
必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)	✔	✔	✔	✔
通知				
通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理	✔*	✔*		✔
Flow Builder を使用したカスタム通知の送信	✔*	✔*		✔
アクセスおよびセキュリティ				
強化されたモバイルセキュリティによる Salesforce アプリケーションの保護	✔*	✔*		✔

* は、刷新された Salesforce モバイルアプリケーションに加えて、新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できる機能を示しています。

Salesforce アプリケーションの機能

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへの準備

期待される新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に登場します。システム管理者は、かつてないほど強力な機能を使用できるようになり、モバイル向けに最適化されたコンポーネントによって、作業負荷を軽減してユーザに嬉しいモバイルエクスペリエンスを構築できます。Salesforce ユーザは、作業の方法や場所を問わず、デスクトップとモバイルで統一されたエクスペリエンスを得ることができます。

このセクションの内容:

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 使用開始
新しいモバイル環境が選択されたので、準備ができたらいつでも使用を開始することができます。クイックスタートページに設定の手順が表示されます。ヒントとベストプラクティスを入手してください。また、Lightning アプリケーションビルダーの新しいモバイルオプションも確認してください。すべての準備が整ったら、ユーザへのアクセス権の付与は簡単です。

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 操作方法
モバイルでの小さな変更が大きな変化をもたらします。新しい Salesforce モバイルアプリケーションに切り替えると、ナビゲーションとレコードページにいくつかの変更があることに気が付くでしょう。他のよく知られた操作しやすいアプリケーションや Lightning Experience デスクトップからヒントを得て、ナビゲーションをより直感的なものに再設計しました。これらの変更は些細でユーザが動揺するほどのことではありませんが、生産性を大きく向上させる十分な意義があります。

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: ユーザエクスペリエンスのカスタマイズ
新しい Salesforce モバイルアプリケーションを使用することにした場合、携帯電話で使用する Lightning アプリケーション、レコードページ、コンポーネントの表示ルールを設定できます。

Salesforce アプリケーションの Einstein Analytics: より強力なインタラクション
最新バージョンの Salesforce アプリケーションでは、Einstein Analytics ユーザは、アプリケーションを切り替えなくても、より多くの作業を行えるようになります。Salesforce for iOS のお気に入り、グローバル検索、リンク、レコードページ、Lightning ページから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスします。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードする組織では、Salesforce for Android ユーザはレコードに埋め込まれたダッシュボードにアクセスできます。

強化されたモバイルセキュリティによる Salesforce アプリケーションの保護
モバイルアプリケーション管理 (MAM) が新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになりました。強化されたモバイルセキュリティの便利で高度にカスタマイズ可能な保護により、アプリケーションの安全性を確保します。以前は、高度なセキュリティやコンプライアンスに対するニーズを抱えたお客様は外部のモバイルデバイス管理 (MDM) ソリューションを利用してアプリケーションを使用する必要がありました。MDM と異なり、MAM はアプリケーションレベルで保護するため、ユーザのデバイス全体を管理する必要がありません。

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 使用開始

新しいモバイル環境が選択されたので、準備ができたらいつでも使用を開始することができます。クイックスタートページに設定の手順が表示されます。ヒントとベストプラクティスを入手してください。また、Lightning アプリケーションビルダーの新しいモバイルオプションも確認してください。すべての準備が整ったら、ユーザへのアクセス権の付与は簡単です。

このセクションの内容:

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートで簡単にアップグレード
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートでは、新しい Salesforce モバイルアプリケーション環境へのシームレスなアップグレードが一元管理されています。システム管理者やユーザが使用できる便利で強力な新機能について確認します。Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションを有効化します。数回のクリックで既存のアプリケーションとページをモバイル用に更新します。準備が整ったら、ユーザに新しい Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス権を付与します。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントを参照してスムーズな切り替え
新しい Salesforce モバイルアプリケーションへの切り替えを検討されていますか?そのプロセスによってどのような中断があるか確信がありませんか?それをサポートするドキュメントが用意されています。変更管理を容易にする次のリソースを参照してください。

Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除
ユーザ用にカスタマイズした Lightning アプリケーション、コンポーネント、レコードページを作成することは、生産性を高めるためにユーザが必要な情報を正確に提供できる優れた方法です。ユーザは、携帯電話でも新規および既存のカスタマイズを適用できるようになりました。カスタマイズがどのように表示されるか確認しますか?新しい Salesforce モバイルアプリケーションを選択すると、モバイルプレビューを表示し、新しい設定オプションを操作できます。心配はいりません。新しいモバイルアプリケーションへのアクセス権を付与するまで、ユーザに変更は表示されません。

ユーザへの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのアクセス権の付与
Lightning のカスタマイズの準備ができている場合でも、刷新された直感的なナビゲーション環境をユーザに提供する場合でも、新しい Salesforce モバイルアプリケーションをいつ稼働させるかは、システム管理者が決定します。組織を有効化した後、新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を一部またはすべてのユーザと自分自身に割り当てます。システム管理者とユーザは、引き続きデスクトップで Salesforce Classic を使用できます。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートで簡単にアップグレード

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートでは、新しい Salesforce モバイルアプリケーション環境へのシームレスなアップグレードが一元管理されています。システム管理者やユーザが使用できる便利で強力な新機能について確認します。Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションを有効化します。数回のクリックで既存のアプリケーションとページをモバイル用に更新します。準備が整ったら、ユーザに新しい Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス権を付与します。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

方法: 使用を開始するには、[設定] で「クイックスタート」を検索します。

関連トピック:

Salesforce Help: モバイルレポートを作成するための Salesforce Optimizer の実行

新しい Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントを参照してスムーズな切り替え

新しい Salesforce モバイルアプリケーションへの切り替えを検討されていますか? そのプロセスによってどのような中断があるか確信がありませんか? それをサポートするドキュメントが用意されています。変更管理を容易にする次のリソースを参照してください。

- Lightning コンポーネントのロードマップ — 新しい Salesforce モバイル アプリケーションで利用できるすべてのコンポーネントに乗り遅れないでください。
- Lightning アプリケーションビルダーヘルプ — これらのヘルプトピックを参照し、新しいモバイルのカスタマイズ機能について知る必要がある情報を確認してください。
- Salesforce モバイルアプリケーションのヘルプ — 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのセキュリティ、ナビゲーション、通知などに関する最新のガイダンスを提供するモバイルヘルプトピックを参照してください。
- ナビゲーションのカスタマイズ — Trailhead の「Salesforce モバイルアプリケーションのカスタマイズ」モジュールのこの単元で、Mobile Only アプリケーションの詳細を確認してください。
- Salesforce モバイルアプリケーションの基礎 — 切り替えによってユーザのワークフローが中断されないように、新しいアプリケーションのツアーを提供するこの Trailhead モジュールをユーザに受講してもらいます。
- アプリケーション内ヘルプポータル — エンドユーザ向けの実用的なガイダンスを提供するアプリケーション内ヘルプを使用して、その場で情報を入手します。主要なトピックとして、アプリケーションランチャー、Mobile Only アプリケーション、iOS 向けの親指に適したナビゲーションショートカットがあります。

更新された資料を歓迎し、廃止された *『Salesforce アプリケーション管理ガイド』* に別れを告げましょう。このガイドのすべての情報(とさらに多くの情報)は、完全に検索可能で、すべてのサポート対象言語に翻訳されている Salesforce ヘルプと Trailhead で使用できます。また、Lightning Experience デスクトップに並びつつある新しい Salesforce モバイルアプリケーションに集中できるように *『Salesforce アプリケーション開発者ガイド』* も廃止されました。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

ユーザ用にカスタマイズした Lightning アプリケーション、コンポーネント、レコードページを作成することは、生産性を高めるためにユーザが必要な情報を正確に提供できる優れた方法です。ユーザは、携帯電話でも新規および既存のカスタマイズを適用できるようになりました。カスタマイズがどのように表示されるか確認しますか? 新しい Salesforce モバイルアプリケーションを選択すると、モバイルプレビューを表示し、新しい設定オプションを操作できます。心配はいりません。新しいモバイルアプリケーションへのアクセス権を付与するまで、ユーザに変更は表示されません。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

方法: 組織を有効化するには、[設定] で「クイックスタート」を検索し、新しい Salesforce モバイルアプリケーションのクイックスタートにアクセスします。Salesforce Classic を使用している場合は、最初に Lightning Experience 組織設定を有効化します。システム管理者とユーザは、引き続きデスクトップで Salesforce Classic を使用できます。

ユーザへの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのアクセス権の付与

Lightningのカスタマイズの準備ができている場合でも、刷新された直感的なナビゲーション環境をユーザに提供する場合でも、新しいSalesforceモバイルアプリケーションをいつ稼働させるかは、システム管理者が決定します。組織を有効化した後、新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を一部またはすべてのユーザと自分自身に割り当てます。システム管理者とユーザは、引き続きデスクトップで Salesforce Classic を使用できます。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。新しいSalesforceモバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: 操作方法

モバイルでの小さな変更が大きな変化をもたらします。新しいSalesforceモバイルアプリケーションに切り替えると、ナビゲーションとレコードページにいくつかの変更があることに気が付くでしょう。他のよく知られた操作しやすいアプリケーションや Lightning Experience デスクトップからヒントを得て、ナビゲーションをより直感的なものに再設計しました。これらの変更は些細でユーザが動揺するほどのことではありませんが、生産性を大きく向上させる十分な意義があります。

このセクションの内容:

使い慣れたナビゲーション項目で新しいモバイルアプリケーションへのシームレスな移行

新しい Salesforce モバイルアプリケーションに初めてログインすると、以前の Salesforce モバイルアプリケーションで使用していたのと同じ項目が表示されます。これは「Mobile Only(モバイルのみ)」というアプリケーションに移動されました。Mobile Only アプリケーションは、新しいモバイルアプリケーションに切り替えるときにユーザのワークフローが中断されないようにします。

親指対応のナビゲーションバーで迅速な操作

頻繁に使用される項目が新しいナビゲーションバーの一部になり、アクセスが容易になりました。ナビゲーションバーは、お気に入り(有効な場合)、検索、通知(有効な場合)、メニューへのリンクが常に表示される場所です。

表示場所が新しくなったアクションおよび新しいアクセス方法

アクションバーが画面上部に表示されるようになりました。この変更により、ナビゲーションバーの新たな場所が確保され、アクションとナビゲーションが中心に配置されます。

モバイルのアプリケーションランチャーを使用した Lightning Experience アプリケーションの起動

モバイルにアプリケーションランチャーが導入されました。Lightning Experience デスクトップと同様に、お気に入りの Lightning アプリケーション間を切り替えることができます。

新しいスタイル設定とコンポーネントによるレコードページの改善

Lightning Experience デスクトップのレコードページの改善がモバイルにまで適用されました。リフレッシュされたスタイル設定と機能の改善により、データの検索と必要なアクションの実行が容易になりました。

プロファイルメニューで取引先の切り替え、フィードバックの送信、およびヘルプの表示

ユーザは、画面上部のプロファイルアイコンから、自分のプロファイルと取引先アクションにアクセスできるようになりました。別の Salesforce アカウントや組織へのアクセス、設定の更新、ヘルプの入手、およびフィードバックの提供ができます。

使い慣れたナビゲーション項目で新しいモバイルアプリケーションへのシームレスな移行

新しいSalesforceモバイルアプリケーションに初めてログインすると、以前のSalesforceモバイルアプリケーションで使用していたのと同じ項目が表示されます。これは「Mobile Only (モバイルのみ)」というアプリケーションに移動されました。Mobile Only アプリケーションは、新しいモバイルアプリケーションに切り替えるときにユーザのワークフローが中断されないようにします。

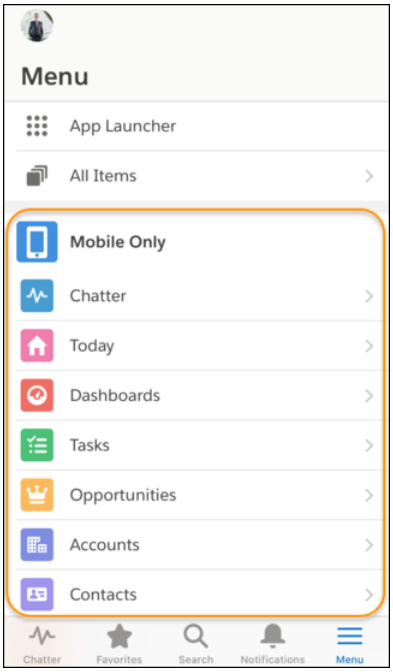
対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

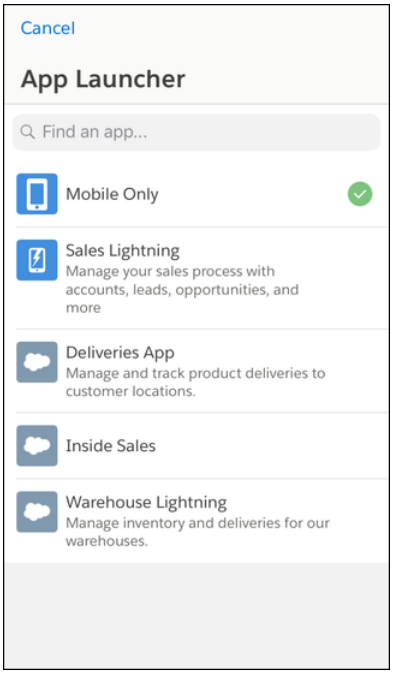
対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: モバイル環境は、Lightning Experience デスクトップとより連携するようになりました。たとえば、Lightning アプリケーションランチャーのモバイルバージョンから Lightning アプリケーションにアクセスできるようになりました。Lightning アプリケーションを使用している場合、デスクトップバージョンのアプリケーションのナビゲーションタブは、モバイルのメニューナビゲーション項目と同期します。同期されたナビゲーション項目は、デスクトップからモバイルへシームレスな環境を提供します。ただし、組織にモバイル対応の Lightning アプリケーションがない場合や、あったとしても、新しいアプリケーションを初めて使用するユーザにとって、同期されたナビゲーションは変化が大きすぎるかもしれません。

そこで「Mobile Only」の出番です。新しいモバイルアプリケーションに初めてログインすると、以前のメニュー項目が表示されます。



Mobile Only アプリケーションを引き続き使用するか、アプリケーションランチャーを使用して Lightning アプリケーションに切り替えることができます。以前のナビゲーション項目に再びアクセスする必要がある場合は、アプリケーションランチャーを使用して Mobile Only に切り替えることができます。



方法: Mobile Only アプリケーションに表示されるナビゲーション項目を設定できます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「Salesforce ナビゲーション」* と入力し、**[Salesforce ナビゲーション]** を選択します。ただし、ユーザが新しいモバイルアプリケーションに移行している間、設定はそのままにしておくことをお勧めします。

親指対応のナビゲーションバーで迅速な操作

頻繁に使用される項目が新しいナビゲーションバーの一部になり、アクセスが容易になりました。ナビゲーションバーは、お気に入り (有効な場合)、検索、通知 (有効な場合)、メニューへのリンクが常に表示される場所です。

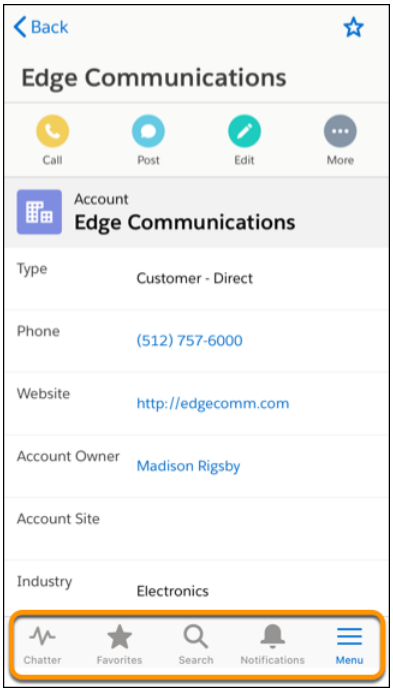
対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

方法: ユーザは、お気に入り、検索、通知、またはメニュー項目をカスタマイズすることができません。ただし、Lightning アプリケーションを使用する場合、モバイルナビゲーションバーの最初のアイコンには、ユーザが作業中の Lightning アプリケーションの最初のタブが反映されます。ユーザがデスクトップでそのタブをパーソナリズする権限を持っている場合は、変更内容がモバイルアプリケーションに反映されます。

Mobile Only アプリケーションでは、ナビゲーションバーの最初の項目は、ナビゲーションメニューの最初の項目です。



表示場所が新しくなったアクションおよび新しいアクセス方法

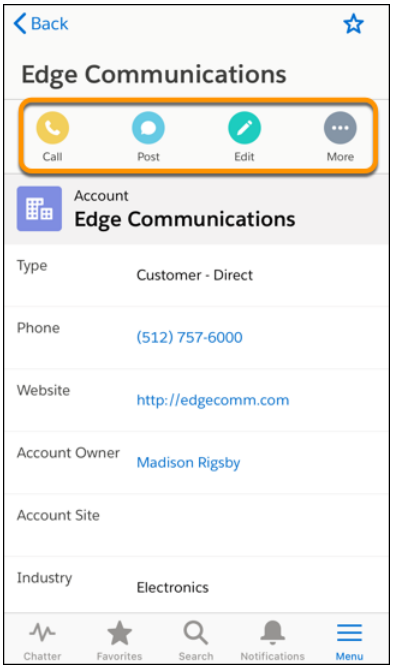
アクションバーが画面上部に表示されるようになりました。この変更により、ナビゲーションバーの新たな場所が確保され、アクションとナビゲーションが中心に配置されます。

対象: この変更は、Essentials **および** Database.com **を除くすべてのエディションの** iOS **および** Android **用の新しい** Salesforce **モバイルアプリケーションに適用されます。**

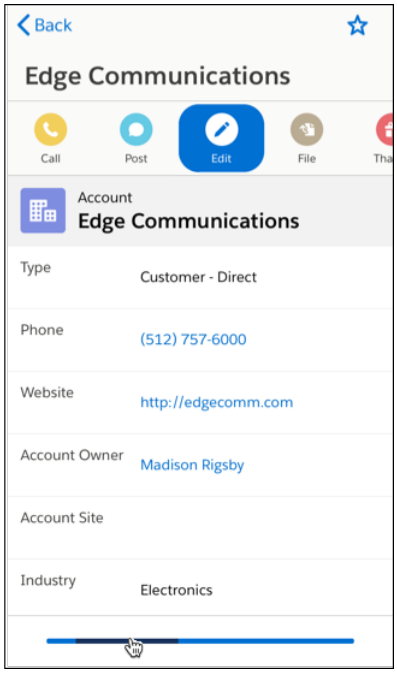
時期: 新しい Salesforce **モバイルアプリケーションは** 2019 **年** 10 **月** 14 **日の週に使用可能になります。**

対象ユーザ: 新しい Salesforce **モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。**

理由: アクションバーには、ページレイアウトから、最初の 4 **つではなく** 3 **つのアクションが表示されます。**



ただし、iOSデバイスで親指を使用したい場合はそれも可能です。ナビゲーションバーを押したままにすると、アクションバーが展開されます。アクションをスクロールするには、前後にスワイプします。アクションを選択するには、指を放します。選択せずに移動するには、ナビゲーションバーから指をドラッグして放します。



モバイルのアプリケーションランチャーを使用した Lightning Experience アプリケーションの起動

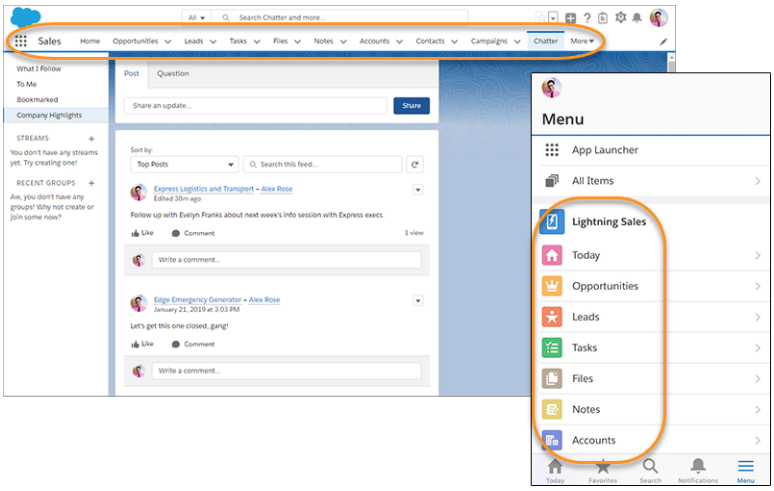
モバイルにアプリケーションランチャーが導入されました。Lightning Experience デスクトップと同様に、お気に入りの Lightning アプリケーション間を切り替えることができます。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: これまで、Lightning アプリケーションの便利な機能をすべて使用するには、デスクトップコンピュータを使用する必要がありました。どこからでも Lightning アプリケーションにアクセスできるようになりました。



新しいスタイル設定とコンポーネントによるレコードページの改善

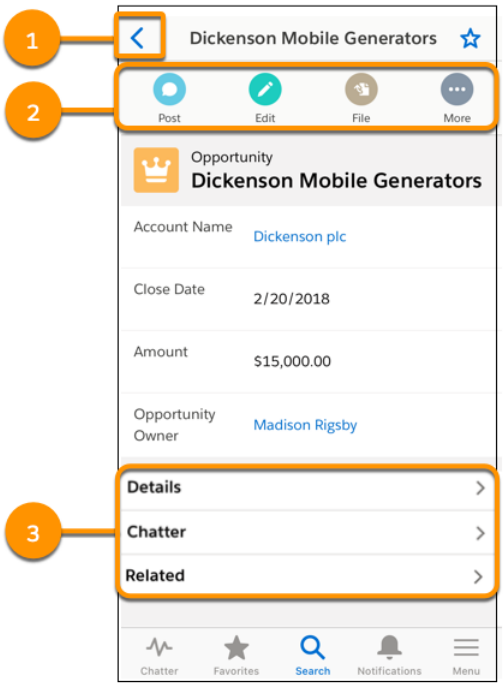
Lightning Experience デスクトップのレコードページの改善がモバイルにまで適用されました。リフレッシュされたスタイル設定と機能の改善により、データの検索と必要なアクションの実行が容易になりました。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: 戻るボタンが見やすくなりました (1)。アクションは画面上部に表示されるようになり (2)、その下にレコードの詳細が表示されます。タブが縦並びになったため (3)、すばやくタップしてドリルダウンできます。ナビゲーション項目は、アプリケーション全体を通して最下部に表示されます。また、デスクトップでパスコンポーネントがサポートされている同じオブジェクトで、モバイルでもパスコンポーネントがサポートされるようになりました。パスコンポーネントを使用して、外出先の営業担当に商談を成立させるために必要なガイダンスを示します。



関連トピック:

- ユーザの携帯電話でのカスタムレコードページの提供
- デバイス別のレコードページコンポーネントの表示または非表示
- レコードの強調表示パネルに表示される項目数の追加
- 必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)

プロファイルメニューで取引先の切り替え、フィードバックの送信、およびヘルプの表示

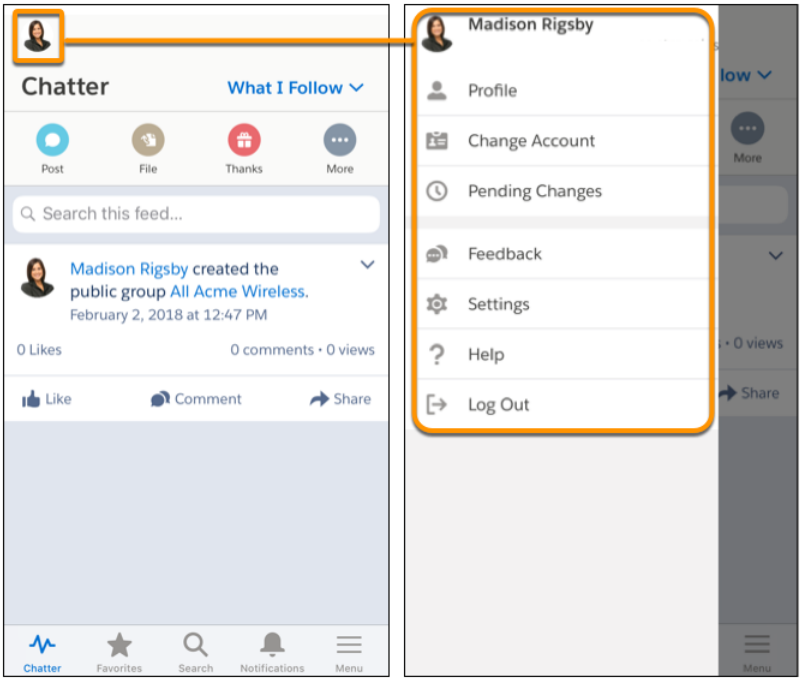
ユーザは、画面上部のプロファイルアイコンから、自分のプロファイルと取引先アクションにアクセスできるようになりました。別の Salesforce アカウントや組織へのアクセス、設定の更新、ヘルプの入手、およびフィードバックの提供ができます。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: 以前は、個人や取引先に関連した重要な設定を見つけるまでに、長いメニューの一番下までスクロールしなければなりませんでした。今度からは画面の一番上にこれらの情報が表示されます。



次に使用したときに、フィードバックをお送りください。新しいモバイルフィードバックフォームは、Lightning Experience の新しいフォームを基にし、モバイル対応レイアウトで表示されます。

関連トピック:

- 変更されたフォームを使用した Salesforce へのフィードバックの送信

新しい Salesforce モバイル アプリケーション: ユーザエクスペリエンスのカスタマイズ

新しい Salesforce モバイルアプリケーションを使用することにした場合、携帯電話で使用する Lightning アプリケーション、レコードページ、コンポーネントの表示ルールを設定できます。

このセクションの内容:

ユーザの携帯電話でのカスタムレコードページの提供

カスタム Lightning レコードページをデスクトップでのみ使用できるという制限はなくなりました。携帯電話でページを参照するときだけに表示される、モバイルユーザのニーズに合わせたレコードページを作成できるようなりました。

デバイス別のレコードページコンポーネントの表示または非表示

ページを参照しているデバイス種別に基づいてレコードページコンポーネントを表示または非表示にして、モバイルユーザがレコードページで必要としている情報を正確に指定します。

携帯電話、デスクトップ、および両方から Lightning アプリケーションへのアクセスを可能に

Lightning アプリケーションを作成または編集するときに、アプリケーションでサポートされ、アプリケーションを表示できるフォーム要素を設定できます。モバイルアプリケーションユーザ専用のアプリケーションを作成している場合は、Lightning アプリケーションを電話用に指定します。

ユーザの携帯電話でのカスタムレコードページの提供

カスタム Lightning レコードページをデスクトップでのみ使用できるという制限はなくなりました。携帯電話でページを参照するときだけに表示される、モバイルユーザのニーズに合わせたレコードページを作成できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

時期: この機能は、Lightning アプリケーションビルダーですぐに試すことができますが、2019 年 10 月 14 日の週に新しい Salesforce モバイル アプリケーションがリリースされるまでは、ユーザには表示されません。

関連トピック:

電話フォーム要素に合わせた Lightning レコードページのカスタマイズ

デバイス別のレコードページコンポーネントの表示または非表示

ページを参照しているデバイス種別に基づいてレコードページコンポーネントを表示または非表示にして、モバイルユーザがレコードページで必要としている情報を正確に指定します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

時期: この機能は、Lightning アプリケーションビルダーですぐに試すことができますが、2019 年 10 月 14 日の週に新しい Salesforce モバイル アプリケーションがリリースされるまでは、ユーザには表示されません。

関連トピック:

デバイスに応じたレコードページコンポーネント表示ルールの設定

携帯電話、デスクトップ、および両方から Lightning アプリケーションへのアクセスを可能に

Lightning アプリケーションを作成または編集するときに、アプリケーションでサポートされ、アプリケーションを表示できるフォーム要素を設定できます。モバイルアプリケーションユーザ専用のアプリケーションを作成している場合は、Lightning アプリケーションを電話用に指定します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

時期: この機能は、Lightning アプリケーションビルダーですぐに試すことができますが、2019 年 10 月 14 日の週に新しい Salesforce モバイル アプリケーションがリリースされるまでは、ユーザには表示されません。

関連トピック:

デスクトップ、電話、またはその両方をサポートするための Lightning アプリケーションの設定

Salesforce アプリケーションの Einstein Analytics: より強力なインタラクション

最新バージョンの Salesforce アプリケーションでは、Einstein Analytics ユーザは、アプリケーションを切り替えなくても、より多くの作業を行えるようになります。Salesforce for iOS のお気に入り、グローバル検索、リンク、レコードページ、Lightning ページから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスします。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにアップグレードする組織では、Salesforce for Android ユーザはレコードに埋め込まれたダッシュボードにアクセスできます。

このセクションの内容:

- Salesforce モバイル アプリケーションでの組み込み Einstein Analytics ダッシュボードとのインタラクション
  Salesforce アプリケーションは、Salesforce アプリケーション内のほとんどの場所で組み込みダッシュボードとインタラクションできるようになりましたが、いくつかの制約と、iOS と Android の間での違いがあります。Einstein Analytics アプリケーションユーザにとっては、使い慣れたエクスペリエンスとなります。モバイルユーザは外出時にダッシュボードにアクセスすることが多いため、1つのアプリケーションだけを使用できるようにすることでユーザの時間を節約できます。アプリケーション間でモバイルエクスペリエンスを統一することで、仕事で両方のアプリケーションにアクセスする必要があるときでも直感的にアプリケーション間を移動できるようになります。
- Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセス
  Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスできます。Chatter への投稿や Lightning ページ、その他どのような場所からでも、Salesforce アプリケーションを終了することなく、最適化されたモバイルダッシュボードエクスペリエンスが実現します。Einstein Analytics for iOS をデバイスにインストールしてある場合は、Salesforce for iOS からダッシュボードを開いて、より詳細な調査を行うことができます。
- Salesforce for iOS からわずか 1 回のタップでお気に入りのダッシュボードにアクセス
  Salesforce for iOS のお気に入りから Einstein Analytics ダッシュボードを開きます。ユーザは、最もよく使うダッシュボードや他の重要な Salesforce オブジェクトに、1つの便利な場所からすべて簡単にアクセスできます。完全な Salesforce サイトのお気に入りに Einstein Analytics アセットを追加します。レンズや他のアセットをお気に入りに追加すると Salesforce アプリケーションで見ることができますが、Salesforce アプリケーションで開けるのはダッシュボードだけです。
- Salesforce for iOS で Einstein Analytics ダッシュボードを検索
  Salesforce for iOS のグローバル検索で Einstein Analytics ダッシュボードを検索できます。検索には、ユーザがアクセスできるすべてのダッシュボードが含まれるため、名前を知っているダッシュボードであれば簡単に見つけることができます。以前は、直接リンク経由でなければダッシュボードにはアクセスできませんでした。Salesforce アプリケーションの検索結果にはレンズも返されますが、Salesforce アプリケーションで開けるのはダッシュボードのみです。

関連トピック:

- Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用
- Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用

Salesforce モバイル アプリケーションでの組み込み Einstein Analytics ダッシュボードとのインタラクション

Salesforce アプリケーションは、Salesforce アプリケーション内のほとんどの場所で組み込みダッシュボードとインタラクションできるようになりましたが、いくつかの制約と、iOS と Android の間での違いがあります。Einstein Analytics アプリケーションユーザにとっては、使い慣れたエクスペリエンスとなります。モバイルユーザは外出時にダッシュボードにアクセスすることが多いため、1 つのアプリケーションだけを使用できるようにすることでユーザの時間を節約できます。アプリケーション間でモバイルエクスペリエンスを統一することで、仕事で両方のアプリケーションにアクセスする必要があるときでも直感的にアプリケーション間を移動できるようになります。

対象: この変更は、現在の iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションと、iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、2019 年 10 月 14 日の週に利用可能になります。

方法: Salesforce for iOS ユーザは、速度と使いやすさが最適化された全画面ダッシュボードで、検索条件を適用してコンポーネントとインタラクションすることができます。

メモ: Salesforce for Android では、レコードページと Lightning ページの組み込みダッシュボードにいくつかの制約があります。現行バージョンの Salesforce for iOS のレコードページの組み込みダッシュボードにいくつかの制約があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:モバイルデバイスでの組み込みダッシュボードの表示(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセス

Salesforce for iOS のリンクから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスできます。Chatter への投稿や Lightning ページ、その他どのような場所からでも、Salesforce アプリケーションを終了することなく、最適化されたモバイルダッシュボードエクスペリエンスが実現します。Einstein Analytics for iOS をデバイスにインストールしてある場合は、Salesforce for iOS からダッシュボードを開いて、より詳細な調査を行うことができます。

対象: この変更は、現在の Salesforce モバイルアプリケーションと iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、2019 年 10 月 14 日の週に利用可能になります。

Salesforce for iOS からわずか 1 回のタップでお気に入りのダッシュボードにアクセス

Salesforce for iOS のお気に入りから Einstein Analytics ダッシュボードを開きます。ユーザは、最もよく使うダッシュボードや他の重要な Salesforce オブジェクトに、1 つの便利な場所からすべて簡単にアクセスできます。完全な Salesforce サイトのお気に入りに Einstein Analytics アセットを追加します。レンズや他のアセットをお気に入りに追加すると Salesforce アプリケーションで見ることができますが、Salesforce アプリケーションで開けるのはダッシュボードだけです。

対象: この変更は、現在の Salesforce モバイルアプリケーションと iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、2019 年 10 月 14 日の週に利用可能になります。

Salesforce for iOS で Einstein Analytics ダッシュボードを検索

Salesforce for iOS のグローバル検索で Einstein Analytics ダッシュボードを検索できます。検索には、ユーザがアクセスできるすべてのダッシュボードが含まれるため、名前を知っているダッシュボードであれば簡単に見つけることができます。以前は、直接リンク経由でなければダッシュボードにはアクセスできませんでした。Salesforce アプリケーションの検索結果にはレンズも返されますが、Salesforce アプリケーションで開けるのはダッシュボードのみです。

対象: この変更は、現在の Salesforce モバイルアプリケーションと iOS 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、2019 年 10 月 14 日の週に利用可能になります。

強化されたモバイルセキュリティによる Salesforce アプリケーションの保護

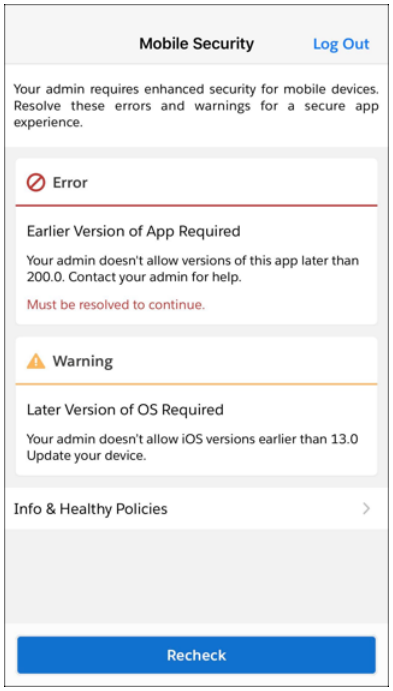
モバイルアプリケーション管理 (MAM) が新しい Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになりました。強化されたモバイルセキュリティの便利で高度にカスタマイズ可能な保護により、アプリケーションの安全性を確保します。以前は、高度なセキュリティやコンプライアンスに対するニーズを抱えたお客様は外部のモバイルデバイス管理 (MDM) ソリューションを利用してアプリケーションを使用する必要がありました。MDM と異なり、MAM はアプリケーションレベルで保護するため、ユーザのデバイス全体を管理する必要がありません。

対象: Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーション、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションで有料オプションで使用できます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

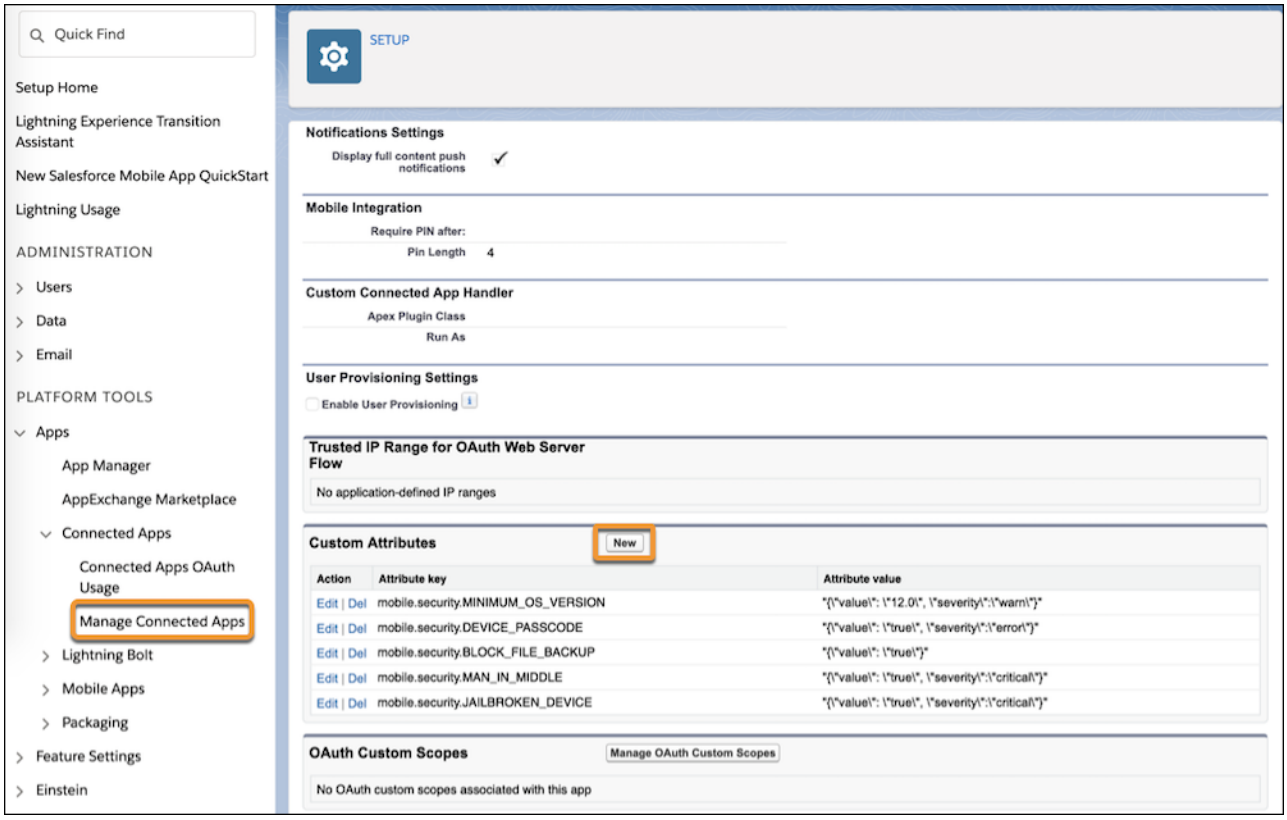
対象ユーザ:「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: モバイルセキュリティにより、Salesforce アプリケーションデータを安全に保ち、ユーザの個人データを保護します。ポリシーの範囲を制御して、組織のニーズに合わせて調整されたセキュリティソリューションを作成できます。オペレーティングシステムのバージョン、アプリケーションのバージョン、デバイスおよびネットワークのセキュリティに基づいてユーザアクセスを制限できます。違反の重要度を指定することもできます。



その他のポリシーの中には、ファイルのバックアップや3D Touchのブロックなど、アプリケーションで安全でない動作を禁止するポリシーもあります。通話、文字通信、メール、スクリーンショットなど、コンプライアンスチェックに必要なユーザアクションをログに記録できます。

方法: [設定] で「*接続アプリケーション*」を検索し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。変更するアプリケーションを選択し、ポリシーをカスタム属性として追加して設定します。



関連トピック:

Salesforce モバイルアプリケーションセキュリティガイド(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

Salesforce モバイルアプリケーションのその他の機能強化

Winter '20 では、Salesforce モバイルアプリケーションの現行バージョンと新バージョンで機能が追加されます。より直感的なナビゲーション、レポートやダッシュボードへのアクセス、より詳細な通知設定などの機能により、システム監理者はユーザが使いやすいカスタムモバイルソリューションを作成できます。

このセクションの内容:

Salesforce アプリケーションの要件の変更

Salesforce は、Android、iOS、およびモバイル Web 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント

モバイルナビゲーションおよび新しい Salesforce モバイルアプリケーションをサポートするため、[リストビュー] コンポーネント、[関連リスト – 1 つ] コンポーネント、[関連リスト] コンポーネント、[関連リストのクイックリンク] コンポーネントが更新されました。[リストビュー] コンポーネントをレコードページに配置したときに、[さらに表示] ボタンで一括で読み込まれるレコード数が増えたため、簡単により多くのレコードを取得したり、必要な情報までスクロールしたりできます。[関連リスト] コンポーネントによって、すべての関連リストが 1 つのセクションにグループ化されますが、ニュースと Twitter は含まれなくなりました。[関連リスト] コンポーネントでは、効率的なナビゲーションを実現するために [さらに表示] ボタンも使用します。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Twitter コンポーネントへのユーザアクセス権の付与

営業担当は新しい Salesforce モバイルアプリケーションの Twitter コンポーネントを使用して、Salesforce の取引先責任者および取引先の Twitter プロファイルに簡単にアクセスできます。

あらゆる場所でサポートする取引先チームのビジネスケースの増加

チームセリングには複雑な取引先リレーションが関与します。取引先チームは取引先チームレイアウトに追加したカスタム項目およびボタンを使用して、どこにいてもこうしたリレーションを管理できるようになりました。新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは、取引先チームの入力規則および Apex トリガがサポートされます。チームで使用するデバイスに関係なく、より多くの情報を収集し、データの整合性を保ち、プロセスを自動化できます。

レコードの強調表示パネルに表示される項目数の追加

担当者はレコードページの最上部から最もよく使用する情報にアクセスできます。特長領域に表示されるコンパクトレイアウト項目数が 4 個から 10 個に増えました。

必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)

レコード上の Chatter 投稿、レコード詳細項目、関連リスト項目の最初のセットの後に新しい [さらに表示] ボタンが表示されます。これらの項目の詳細を表示するには、[さらに表示] をクリックします。すべての情報が必要なければ、このボタンで詳細を隠すことで、その後にある情報にすばやくアクセスできます。

使い慣れたリストでレポートとダッシュボードを簡単に検索

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは、Lightning Experience と同じ方法で、完全な Salesforce サイトでリストを使用してレポートとダッシュボードを検索できます。レポートまたはダッシュボードで、リストから [私が作成]、[非公開レポート]、[すべてのレポート] などを選択して、一致するレポートやダッシュボードを表示します。前回のレポートセッションを簡単に再開したいですか?リストの下には、最近実行したレポートやダッシュボードのリストが表示されています。

通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理

Chatter 通知などの標準通知をユーザが希望する場所に配信します。以前は、Salesforce が標準通知種別の配信チャネルを定義していました。通知ビルダーを使用して、サポート対象の Salesforce アプリケーションなどのデスクトップおよびモバイルのどの配信チャネルで通知を表示するかを選択できるようになりました。すべての配信チャネルを選択解除して標準通知を完全にミュートすることも、標準通知をミュートして代わりにカスタム通知を作成することで置き換えることもできます。

Flow Builder を使用したカスタム通知の送信

Flow Builder を使用すると、誰が何をいつ知る必要があるかを制御できます。Flow Builder を使用すると、重要なイベントが発生した時点でカスタム通知を送信できます。以前は、カスタム通知はプロセスビルダーでしか完全にサポートされていませんでした。通知ビルダーで作成した通知種別 ID が Flow Builder UI で直接使用できるようになったため、重要なイベントが発生したときにこれまでより簡単にユーザに連絡できるようになりました。

iPad での Safari からの Salesforce リンクへのアクセス

Salesforce モバイルアプリケーションが iPad にインストールされている場合、iPadOS にアップグレードすると、一部のリンク機能が変更されます。メールまたは別のアプリケーションから Salesforce レコードへのリンクをタップすると、リンクは Salesforce モバイルアプリケーションではなく、Safari Web ブラウザで開きます。デフォルトでは、モバイルの Web サイト環境ではなくデスクトップの Web サイト環境がブラウザに表示されます。

Salesforce アプリケーションの要件の変更

Salesforce は、Android、iOS、およびモバイル Web 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

モバイルプラットフォーム要件

ユーザは、次のモバイルプラットフォーム要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce を実行できます。

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Android 6.0 以降	Android の Google Chrome
iOS 12.0 以降	iOS の Apple Safari

* モバイルブラウザの最新バージョンが必要です。モバイルブラウザ要件は、Salesforce モバイル Web にのみ適用されます。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforceの自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで Android、iOS、およびモバイル Web 用の Salesforce モバイルアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。Winter'20 リリースのテストでは、以下のデバイスを使用しました。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	• Google Pixel 3	• Samsung Tab A 9.7

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
	• Google Pixel 2 / Pixel 2 XL • Google Nexus 6P • Samsung Galaxy S10 • Samsung Galaxy S9 / S9+ • Samsung Galaxy S8 • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy Note 9 • Samsung Galaxy Note 5 • Samsung Galaxy Note 4	• Samsung Tab A 8.0
iOS	• iPhone XS Max • iPhone XR • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone 6S/6S Plus • iPhone 6/6 Plus • iPhone SE	• iPad Pro 12.9″ (第 2 世代) • iPad Pro 10.5″ • iPad Pro 9.7″ • iPad 2017 (第 5 世代) • iPad Air 2 • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce の更新

お客様のデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしていれば、Salesforce 機能の更新および修正を利用できます。

弊社の目標は、Salesforce の各メジャーリリースに合わせて Salesforce モバイル機能の更新をリリースすることです。この情報は、お客様のリリース計画を支援するために提供されていますが、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイル Web
拡張機能は、Salesforce の各メジャーリリースで自動的に使用できるようになります。

Android および iOS の Salesforce モバイルアプリケーション
拡張機能は、メジャーバージョンの更新で提供されます。すべての本番インスタンスに対する Salesforce の各メジャーリリースが完了してから Android および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの新しいメ

ジャーバージョンがリリースされる予定です。新しいメジャーバージョンがリリースされる期間は変動し、Apple や Google の新しい要件または iOS や Android のオペレーティングシステムの変更など、Salesforce が制御できない要素の影響を受ける可能性があります。

お客様のモバイルデバイスが Salesforce の現在のモバイルオペレーティングシステムの最小要件を満たしていれば、App Store や Google Play から新しいメジャーバージョンとバグ修正バージョンをインストールできます。デバイスで古いオペレーティングシステムが実行されている場合、Salesforce の更新バージョンは App Store に表示されません。

Salesforce のカスタマーサポートサービス

Salesforce カスタマーサポートは、次の場合に Salesforce の問題のトラブルシューティングを行うよう商業上合理的な努力を行うものとします。

- ユーザのデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしている
- Salesforce for Android/iOS ユーザが最新バージョンをインストールしている

お客様が Salesforce テスト対象デバイスで Salesforce を実行している場合、問題をより効率的にトラブルシューティングできます。お客様がテスト対象外デバイスを使用している場合、プラットフォームの最小要件を満たしていても、デバイスメーカー固有のカスタマイズのために一部の問題を再現できない可能性があります。

古いデバイスや計算およびメモリ機能が低いデバイスで Salesforce を実行すると、Salesforce テスト対象デバイスと比較して、パフォーマンスが低くなることがあります。

Salesforce ではリリースごとに機能を強化しているため、お客様は最新の Salesforce アプリケーションのアップデートを Google Play や App Store から入手してインストールする必要があります。また、サポート対象は最新バージョンのみとなります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント

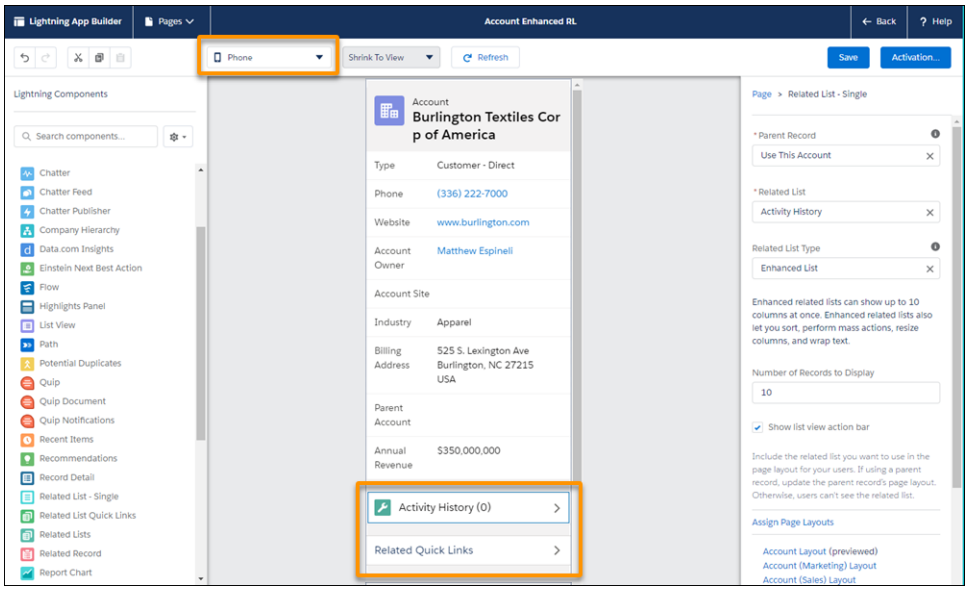
モバイルナビゲーションおよび新しい Salesforce モバイルアプリケーションをサポートするため、[リストビュー] コンポーネント、[関連リスト – 1 つ] コンポーネント、[関連リスト] コンポーネント、[関連リストのクイックリンク] コンポーネントが更新されました。[リストビュー] コンポーネントをレコードページに配置したときに、[さらに表示] ボタンで一括で読み込まれるレコード数が増えたため、簡単により多くのレコードを取得したり、必要な情報までスクロールしたりできます。[関連リスト] コンポーネントによって、すべての関連リストが 1 つのセクションにグループ化されますが、ニュースと Twitter は含まれなくなりました。[関連リスト] コンポーネントでは、効率的なナビゲーションを実現するために [さらに表示] ボタンも使用します。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この機能は、Lightning アプリケーションビルダーですぐに試すことができますが、2019 年 10 月 14 日の週に新しい Salesforce モバイル アプリケーションがリリースされるまでは、ユーザには表示されません。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

方法: [関連リスト - 1 つ] コンポーネントと [関連リストのクイックリンク] コンポーネントを新しい Salesforce モバイルアプリケーションに追加するには、モバイルビューを表示したまま Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページにコンポーネントを追加します。



ニュースと Twitter をページに戻すには、個別のコンポーネントを使用します。

関連トピック:

Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでの Twitter コンポーネントへのユーザアクセス権の付与

営業担当は新しい Salesforce モバイルアプリケーションの Twitter コンポーネントを使用して、Salesforce の取引先責任者および取引先の Twitter プロファイルに簡単にアクセスできます。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

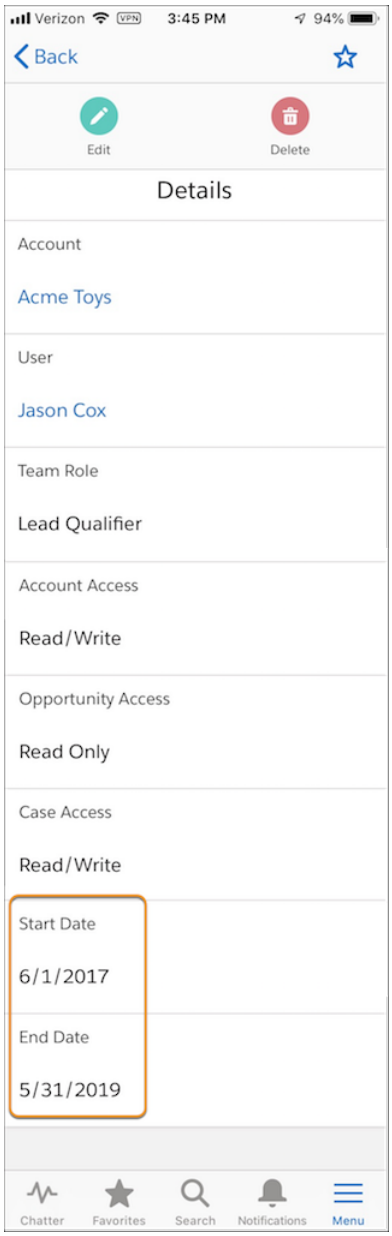
方法: [設定]から、*[クイック検索]* ボックスに「ソーシャルアカウント」と入力し、[ソーシャル取引先と取引先責任者の設定] と [ソーシャル取引先と取引先責任者を有効化] を選択します。[Twitter を有効化] と [保存] を選択します。新しい Salesforce モバイルアプリケーションでコンポーネントを使用できるようにするには、Lightning アプリケーションビルダーのモバイルビューで Lightning ページにコンポーネントを追加します。

あらゆる場所でサポートする取引先チームのビジネスケースの増加

チームセリングには複雑な取引先リレーションが関与します。取引先チームは取引先チームレイアウトに追加したカスタム項目およびボタンを使用して、どこにいてもこうしたリレーションを管理できるようになりました。新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは、取引先チームの入力規則および Apex トリガがサポートされます。チームで使用するデバイスに関係なく、より多くの情報を収集し、データの整合性を保ち、プロセスを自動化できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および現在の Salesforce モバイルアプリケーションと、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 営業担当は、電話をかけている最中でも、カスタム項目のデータを収集して自動化されたプロセスで作業を行うことができます。



関連トピック:

- 取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

レコードの強調表示パネルに表示される項目数の追加

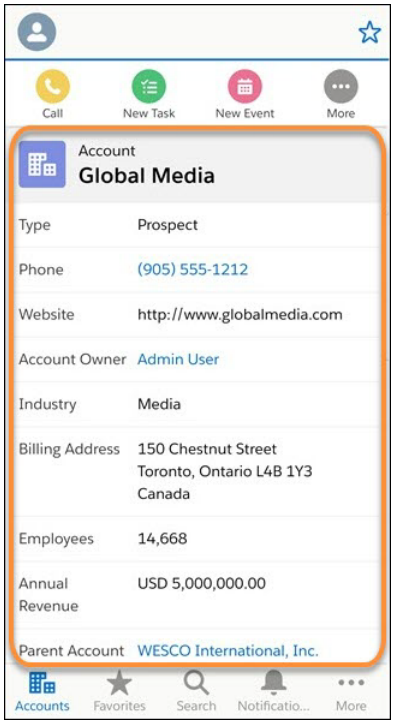
担当者はレコードページの最上部から最もよく使用する情報にアクセスできます。特長領域に表示されるコンパクトレイアウト項目数が 4 個から 10 個に増えました。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: モバイルデバイスユーザは必要な情報に簡単にアクセスできます。



必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)

レコード上の Chatter 投稿、レコード詳細項目、関連リスト項目の最初のセットの後に新しい [さらに表示] ボタンが表示されます。これらの項目の詳細を表示するには、[さらに表示] をクリックします。すべての情報が必要なければ、このボタンで詳細を隠すことで、その後にある情報にすばやくアクセスできます。

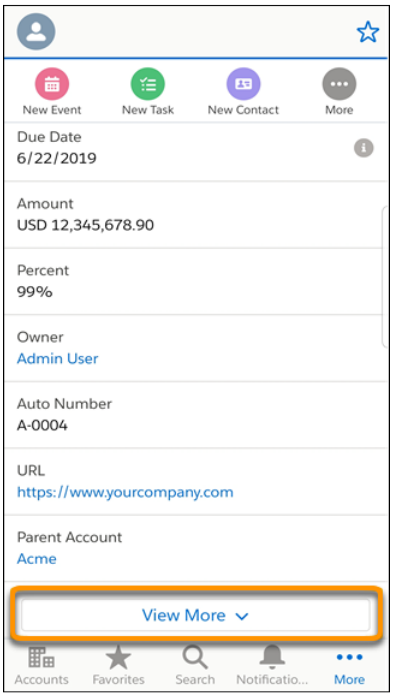
対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由:[さらに表示]ボタンを使用すると表示される項目が増え、[表示を減らす]を使用すると項目が非表示になります。最初に読み込まれる項目数と[さらに表示]をクリックするたびに読み込まれる項目数は、現在の表示場所に応じて異なります。

- 詳細では、最初に最大 20 個が読み込まれ、その後に 50 個が追加されます。
- 関連リストでは、最初に 8 個のリスト項目が読み込まれ、その後に 15 個が追加されます。
- Chatter では、最初に最大 6 個が読み込まれ、その後に 20 個が追加されます。



使い慣れたリストでレポートとダッシュボードを簡単に検索

新しい Salesforce モバイルアプリケーションでは、Lightning Experience と同じ方法で、完全な Salesforce サイトでリストを使用してレポートとダッシュボードを検索できます。レポートまたはダッシュボードで、リストから[私が作成]、[非公開レポート]、[すべてのレポート]などを選択して、一致するレポートやダッシュボードを表示します。前回のレポートセッションを簡単に再開したいですか? リストの下には、最近実行したレポートやダッシュボードのリストが表示されています。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは 2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

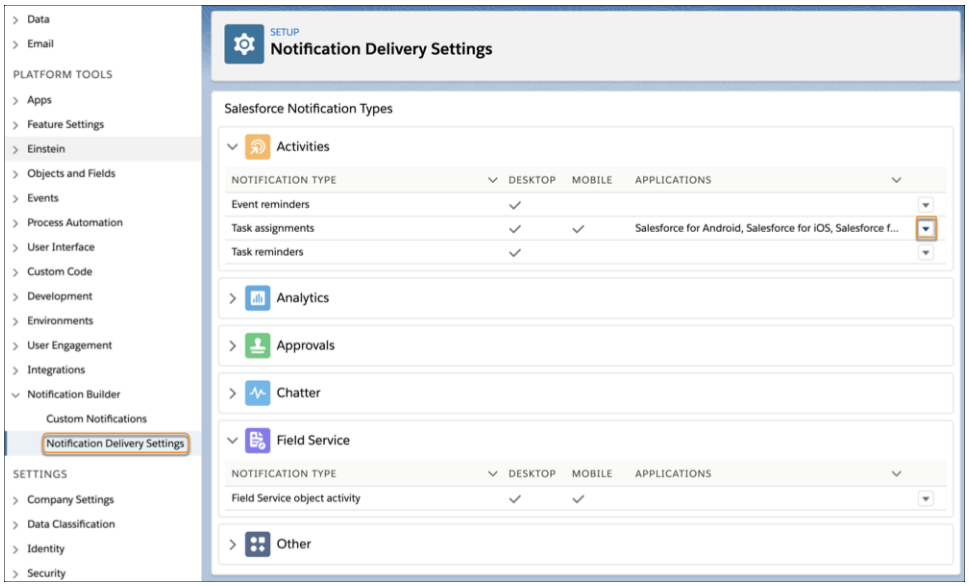
対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理

Chatter 通知などの標準通知をユーザが希望する場所に配信します。以前は、Salesforce が標準通知種別の配信チャネルを定義していました。通知ビルダーを使用して、サポート対象の Salesforce アプリケーションなどのデスクトップおよびモバイルのどの配信チャネルで通知を表示するかを選択できるようになりました。すべての配信チャネルを選択解除して標準通知を完全にミュートすることも、標準通知をミュートして代わりにカスタム通知を作成することで置き換えることもできます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と Salesforce Classic のデスクトップユーザ、Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーションのモバイルユーザ、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに送信できます。有料オプションで Mobile Publisher アプリケーションのユーザに通知を送信することもできます。

方法: [設定] で「*通知ビルダー*」を検索し、[通知配信設定] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:通知配信設定の管理(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Flow Builder を使用したカスタム通知の送信

Flow Builder を使用すると、誰が何をいつ知る必要があるかを制御できます。Flow Builder を使用すると、重要なイベントが発生した時点でカスタム通知を送信できます。以前は、カスタム通知はプロセスビルダーでしか完全にサポートされていませんでした。通知ビルダーで作成した通知種別 ID が Flow Builder UI で直接使用できるようになったため、重要なイベントが発生したときにこれまでより簡単にユーザに連絡できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と Salesforce Classic のデスクトップユーザ、Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーションのモバイルユーザ、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに送信できます。有料オプションで Mobile Publisher アプリケーションのユーザに通知を送信することもできます。

方法: [設定] で *「通知ビルダー」* を検索して、カスタム通知種別を作成します。

続いて、[カスタム通知を送信] アクションを Flow Builder のアクションに追加し、通知種別 ID を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプフローコアアクション:カスタム通知の送信(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

iPad での Safari からの Salesforce リンクへのアクセス

Salesforce モバイルアプリケーションが iPad にインストールされている場合、iPadOS にアップグレードすると、一部のリンク機能が変更されます。メールまたは別のアプリケーションから Salesforce レコードへのリンクをタップすると、リンクは Salesforce モバイルアプリケーションではなく、Safari Web ブラウザで開きます。デフォルトでは、モバイルの Web サイト環境ではなくデスクトップの Web サイト環境がブラウザに表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: iOS 12 以前では、Salesforce レコードページまたは Chatter 投稿へのリンクをメールまたは別のアプリケーションでタップすると、iPad にインストールされている Salesforce モバイルアプリケーションでリンクが開きます。iPadOS にアップグレードすると、リンクは iPad の Safari Web ブラウザで開きます。組織の設定方法に応じて、Lightning Experience または Salesforce Classic が表示されます。

デフォルトでは、モバイルのWebサイト環境ではなくデスクトップのWebサイト環境が表示されます。デフォルトをモバイルのWebサイト環境に変更する手順については、ブラウザのドキュメントを参照してください。

メモ: iPad での Salesforce Classic の使用は推奨またはサポートされていません。一部の機能で予期しない動作をすることがあります。

関連トピック:

ナレッジ記事: 新しい iPad OS 上の Salesforce

iPad デバイスでの Safari から Salesforce へのアクセス (ベータ)

Salesforce ヘルプ: iPad ブラウザの Lightning Experience (ベータ)(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Mobile Publisher:カスタムプッシュ通知、ファイルのダウンロード、任意の場所での共有、ほか

Mobile Publisherの新機能および機能強化によって、コミュニティの変革とカスタマイズを継続できます。Mobile Publisherアプリケーションにカスタムプッシュ通知を送信し、デバイスの位置情報にアクセスできます。ディープリンクを設定し、Salesforceファイルをダウンロードして共有し、Android向けのAppLinksを使用してユーザがアプリケーションの使用を継続できるようにします。

このセクションの内容:

iOSおよびAndroid向けのカスタムプッシュ通知を使用したユーザへの最新情報の伝達
通知ビルダーを使用して、カスタム通知をMobile Publisherアプリケーションに送信できます。以前は、Salesforceによりあらかじめ定義されたケースについてのみ通知を使用できました。ユーザがどこで作業していても、連絡を取って必要な情報、更新、リマイダーを送信できるようになりました。

ユーザエクスペリエンスを高めるためのネイティブ機能へのアクセス
位置情報ベースの総計値を使用して、カスタマイズしたコンテンツを配信して位置情報ベースのマーケティングを合理化できます。

アプリケーション内エクスペリエンスのためのディープリンクの設定
ディープリンクを使用して、ユーザを認証する他のアプリケーションのURLスキームを指定して、Mobile Publisherアプリケーションから開くことができます。以前は、ユーザがMobile Publisherアプリケーションを一旦終了して他のアプリケーションにアクセスしていました。Mobile Publisherアプリケーション内でコンテンツをユーザに送信できるようになりました。

外出先でアクセスするためのSalesforceファイルのダウンロードと共有
Mobile Publisherコミュニティから Salesforceファイルをダウンロードして共有し、ユーザがいつでもどこでもファイルにアクセスできるようになりました。

Android向けのAppLinksによるアプリケーションの直接実行
以前は、コミュニティへのリンクをAndroidデバイスでクリックすると、デバイスにアプリケーションがインストールされていても、ブラウザでコミュニティが開いていました。Android向けのAppLinksにより、Androidデバイスでリンクをクリックしたときに、コミュニティアプリケーションに直接すばやくアクセスできるようになりました。

iOSおよびAndroid向けのカスタムプッシュ通知を使用したユーザへの最新情報の伝達

通知ビルダーを使用して、カスタム通知をMobile Publisherアプリケーションに送信できます。以前は、Salesforceによりあらかじめ定義されたケースについてのみ通知を使用できました。ユーザがどこで作業していても、連絡を取って必要な情報、更新、リマイダーを送信できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceでアクセスする Lightningコミュニティに適用されます。

時期: この機能は、2019年10月14日の週に使用可能になります。

方法:通知ビルダーで、カスタム通知種別を作成して、配信チャネルとして Mobile Publisher アプリケーションを選択します。その後、プロセスビルダーで [カスタム通知を送信] アクションをプロセスに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:カスタム通知の送信(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザエクスペリエンスを高めるためのネイティブ機能へのアクセス

位置情報ベースの総計値を使用して、カスタマイズしたコンテンツを配信して位置情報ベースのマーケティングを合理化できます。

対象: この変更は、 Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **でアクセスする** Lightning **コミュニティに適用されます。**

時期: この機能は、 2019 **年** 10 **月** 14 **日の週に使用可能になります。**

方法: 位置情報ベースの機能は、位置データを使用している Mobile Publisher **コミュニティでは自動的に有効になります。**

アプリケーション内エクスペリエンスのためのディープリンクの設定

ディープリンクを使用して、ユーザを認証する他のアプリケーションの URL **スキームを指定して、** Mobile Publisher **アプリケーションから開くことができます。以前は、ユーザが** Mobile Publisher **アプリケーションを一旦終了して他のアプリケーションにアクセスしていました。** Mobile Publisher **アプリケーション内でコンテンツをユーザに送信できるようになりました。**

対象: この変更は、 Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **でアクセスする** Lightning **コミュニティに適用されます。**

時期: この機能は、 2019 **年** 10 **月** 14 **日の週に使用可能になります。**

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに 「`Mobile Publisher`」 **と入力し、[Mobile Publisher] を選択します。ディープリンクを設定するアプリケーションを選択します。[ホワイトリストに登録されたカスタム** URL **スキーマ] セクションで、[カスタム** URL **スキーマを追加] をクリックして、アプリケーションのディープリンク** URL **を入力します。**

外出先でアクセスするための Salesforce ファイルのダウンロードと共有

Mobile Publisher コミュニティから Salesforce ファイルをダウンロードして共有し、ユーザがいつでもどこでもファイルにアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、 Salesforce Files **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **でアクセスする** Lightning **コミュニティに適用されます。**

時期: この機能は、 2019 **年** 10 **月** 14 **日の週に使用可能になります。**

Android 向けの AppLinks によるアプリケーションの直接実行

以前は、コミュニティへのリンクを Android デバイスでクリックすると、デバイスにアプリケーションがインストールされていても、ブラウザでコミュニティが開いていました。Android 向けの AppLinks により、Android デバイスでリンクをクリックしたときに、コミュニティアプリケーションに直接すばやくアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

時期: この機能は、2019 年 10 月 14 日の週に使用可能になります。

Salesforce Essentials: 新しい動画、設定フローの更新、その他の変更点

Salesforce サブスクリプションを最大限活用できるように、新しい動画シリーズで 1 ミニッツヒントをすばやく取得してください。サービスに重点を置くいくつかの設定フローが改良され、設定がさらに容易に (かつ、さらに快適に) なりました。自分に関連する更新を見つけることができるように、新しい Essentials 検索条件を使用して、セールスとサービスへのその他の変更を確認してください。

このセクションの内容:

Essentials を知る、一度に 1 分
改良された設定フローを使用したメールとソーシャルケースの設定
Essentials 検索条件を使用したセールスとサービスの変更点の確認

Essentials を知る、一度に 1 分

Essentials について学ぶことはたくさんありますが、ユーザには探索に必要な多くの時間がありません。新しい「Salesforce Essentials 1-Minute Feature Tours (Salesforce Essentials 機能の 1 ミニッツツアー)」動画シリーズをご覧ください。Salesforce を使用して、データのインポートと整理、セールスプロセスの合理化、メールとソーシャルメディアページからのケースの取得を行う方法を確認します。Salesforce 内で電話を使用し、即座に顧客との会話を開始する方法を学習します。さらに多くの動画を制作中です。このプレイリストをブックマークし、常に確認してください。

改良された設定フローを使用したメールとソーシャルケースの設定

Facebook、Twitter、およびメール-to-ケースの設定フローの手順を簡素化しました。メール-to-ケースの設定フローに従って、Salesforce タブと Gmail タブを切り替えることができます。また、手順は非常に明確であり、手順には容易に従うことができます。Facebook および Twitter の設定フローを更新して、タイトルをより明確にしました。この 3 つのフローは、受信メールやソーシャルメディア投稿から Salesforce がケースを作成するのに役立ちます。このため、ユーザは追跡にかかる時間を短縮し、顧客の問題と質問への応答により多くの時間をかけることができます。

Essentials 検索条件を使用したセールスとサービスの変更点の確認

Salesforce の各リリースでは発表することが大量にあるため、Essentials に関連する事項を見つけやすくする必要があります。新しい Essentials 検索条件を使用して、不要な情報をカットし、中小企業にとって最も重要な情報を見つけます。

Essentials を知る、一度に 1 分

Essentials について学ぶことはたくさんありますが、ユーザには探索に必要な多くの時間がありません。新しい「Salesforce Essentials 1-Minute Feature Tours (Salesforce Essentials 機能の 1 ミニッツツアー)」動画シリーズをご覧ください。Salesforce を使用して、データのインポートと整理、セールスプロセスの合理化、メールとソーシャルメディアページからのケースの取得を行う方法を確認します。Salesforce 内で電話を使用し、即座に顧客との会話を開始する方法を学習します。さらに多くの動画を制作中です。このプレイリストをブックマークし、常に確認してください。

関連トピック:

動画シリーズ: Salesforce Essentials 1-Minute Feature Tours (Salesforce Essentials 機能の 1 ミニッツツアー)

改良された設定フローを使用したメールとソーシャルケースの設定

Facebook、Twitter、およびメール-to-ケースの設定フローの手順を簡素化しました。メール-to-ケースの設定フローに従って、Salesforce タブと Gmail タブを切り替えることができます。また、手順は非常に明確であり、手順には容易に従うことができます。Facebook および Twitter の設定フローを更新して、タイトルをより明確にしました。この 3 つのフローは、受信メールやソーシャルメディア投稿から Salesforce がケースを作成するのに役立ちます。このため、ユーザは追跡にかかる時間を短縮し、顧客の問題と質問への応答により多くの時間をかけることができます。

Essentials 検索条件を使用したセールスとサービスの変更点の確認

Salesforce の各リリースでは発表することが大量にあるため、Essentials に関連する事項を見つけやすくする必要があります。新しい Essentials 検索条件を使用して、不要な情報をカットし、中小企業にとって最も重要な情報を見つけます。

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

四半期ごとの売上予測スケジュールで Einstein 売上予測を使用します。Einstein ケース分類によって、予測項目値を自動的にケースに保存します。コーディングなしで、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery 予測スコアを自動的に書き込みます。

次に、Salesforce が世界で最もスマートな CRM になることに寄与している Einstein 機能のリストを示します。

Salesforce 全体

パーソナライズされた検索結果を使用した生産性の向上 (ベータ)

Salesforce での作業の進め方に合わせて検索結果を調整することですばやく検索できるようにするために、検索のパーソナライズが実装されました。地理的な場所、業界、状況、製品エリア、人を含めて、最も重要な項目に基づいた検索結果によって、目的の結果がすばやく見つかります。

拡張されたインスタント結果を使用した検索ボックスの活用 (ベータ)

拡張されたインスタント結果により、グローバル検索ボックスが生産性の大幅に向上したハブになります。検索ボックス内をクリックすれば、レコードプレビュー、ページレベルのレコードアクション、関連リストのクイックリンク、推奨検索にすばやくアクセスできます。

対話形式の検索での適切な検索条件をすべて使用したインスタントレポートの作成 (ベータ)

レポートが見つからない場合やレポートを作成している時間がない場合は、対話形式の検索を使用すれば、検索語をレコード検索条件に変えることで、重要なデータにすばやくアクセスできます。対話を開始するときと同じように、検索語を入力するだけです。たとえば、「my closed cases this month (今月クローズしたケース)」と入力すると、状況がクローズになっている最近のケースのリストが表示されます。

おすすめの結果を使用した適切なレコードの高速検索 (ベータ)

おすすめの結果により、探している内容が明らかである場合には適切なレコードがすばやく見つかります。これはまるで、空港の手荷物回転台の多くの荷物の中で自分の荷物を目立たせるために紫色の縞模様にするようなものです。

プロファイル固有の検索結果レイアウトを使用したプロファイルの強化 (ベータ)

検索結果には最も重要なものが表示される必要があります。営業担当の場合、取引先所有者と業種を知ることが不可欠です。サービス担当の場合、取引先のサポートレベルが重要な情報です。プロファイル固有のレイアウトを使用すると、組織内の一意のプロファイルごとにオブジェクトの検索結果レイアウトを微調整できます。プロファイル固有のレイアウトは、カスタマイズ可能なレイアウトがあるオブジェクトでのみサポートされます。プロファイル固有のレイアウトが割り当てられていないユーザには、デフォルトの検索結果レイアウトが表示されます。

セールス

Einstein 売上予測: 四半期別売上予測のサポート (正式リリース)

四半期別売上予測スケジュールを使用する場合、Einsteinの機能を使用して売上予測の精度を高めたり、結果を予測したり、営業チームの進捗状況を追跡したりできるようになりました。

Einstein リードスコアリング: スコアリングするリードの制御

営業チームが必要としているのは、一部のリードのみのリードスコアですか?特定の値のリード項目を持つリードのみをスコアリングするようにEinsteinに指示できます。たとえば、営業チームが通信業界のリードのみをスコアリングする必要がある場合に、そのリードのみを含めるようにEinsteinに指示します。

Einstein 自動取引先責任者: アクセス権のある取引先責任者データのみの表示

取引先責任者の役割の提案に、取引先責任者オブジェクトから項目レベルセキュリティが反映されるようになりました。メール、役職、電話などの取引先責任者項目へのアクセス権がない営業担当には、Einsteinコンポーネントまたはリストビューでこれらの項目が表示されなくなります。また、アクセス権のない取引先責任者レコードの取引先責任者項目値も表示されません。さらに、取引先責任者の役割の提案に関する詳細ページを表示する場合、取引先責任者項目は表示されません。取引先責任者項目を表示するには、取引先責任者レコードに移動します。

Einstein 活動キャプチャ: キャプチャおよび同期対象の決定

誰のメールデータをキャプチャするかをより詳細に制御します。[除外アドレス]リストを使用して、データが同期されないようにします。さらに、営業担当は一連の行動を同期できます。

標準レポートへの商談スコアの追加

標準レポートを使用して、商談スコアに基づいて商談を分析します。これまでは、カスタムレポートタイプでしか商談スコアを使用できませんでした。

商談カスタムレポートタイプへのモデル要素の追加

何が商談スコアを促進しているのかを明確に把握しましょう。商談スコアリングモデルの作成に使用されている要素をカスタムレポートタイプで使用できるようになりました。

SOAP API を使用した商談スコアリングモデルに関する情報へのアクセス

Einstein 商談スコアリングに 2 つの新規オブジェクトが導入されました。SalesAIScoreCycle オブジェクトと SalesAIScoreModelFactors オブジェクトを使用して、商談スコアとその要素に関する情報を取得します。

サービス

ボットチャットの自動終了

自動でクリーンアップを行うボットを作成します。ボットが会話の自然な終了を感知して訪問者に代わってセッションを自動的に閉じるのに役立つ条件を、[チャットを終了する]ルールアクションを使用して追加します。

エージェントの対応可能状況の確認によるボットの引き継ぎの改善

ボットとエージェントの連携が改善されます。転送前にエージェントの対応可能状況を確認することで転送をさらにスマートにしました。転送の状況について顧客に知らせるためのカスタムメッセージを定義します。

ボットの設定に関するヘルプのカルーセルを使用したスキルの向上

[設定] 画面でカルーセルを使用して、最も役立つ Einstein ボットコンテンツをすぐに取得します。ボットレシピ、トラブルシューティングのヒント、ベストプラクティスにアクセスします。

Analytics

コードを記述せずに予測を Salesforce レコードにリリース (正式リリース)

コードを使用せずに、選択した Salesforce 項目に予測スコアを自動的に書き込むことができます。プロセスビルダーや管理パッケージをトリガに関連付けることなく予測を容易に統合します。

2 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)

以前は、結果を予測するのに、Einstein Discovery は回帰モデルに依存していましたが、*勾配ブースティング* Einstein Discovery に学習アルゴリズムと呼ばれる予測最適化アプローチに基づく 2 番目のモデル種別が追加されるようになりました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery は両種別のモデルを使用して予測を生成し、パフォーマンスがより優れたモデルの結果を表示します。両方のアプローチから最も優れた結果を取得します。

リリース済みモデルの精度のリアルタイムでの監視 (正式リリース)

予測結果と実際の結果を視覚的に比較して、ロジスティックモデルの精度を判断します。次に、このフィードバックを使用して、モデルを調整し、予測を改善します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として注文の発送日があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによって Einstein Discovery はパフォーマンス分析に含める結果を識別できます。

総計値を比較してモデルを改善

モデル総計値では、複数のモデルの総計値を横に並べて表示できるようになりました。モデル総計値を互いに比較します。区分を比較して、各区分で最も重要な変数を明らかにします。この情報を使用してモデルを改善し、予測精度を高めます。

対象しきい値を使用したモデルの精度の改善

カテゴリ項目のモデルを作成するときに、予測する2つのバケットのカットオフを表す最適なしきい値を設定できます。たとえば、偽陽性と偽陰性のコスト比率を指定できます。次に、ストーリーに関連付けられたビジネスケース用に最適化されたしきい値をEinstein Discoveryに特定させます。しきい値は、真陽性率と偽陽性率のトレードオフを表します。

自動設定でストーリー作成の迅速化

ストーリーの目標について分析するために最適なデータをEinstein Discoveryに選択させます。Einstein Discoveryはデータベースを検索し、結果に相関する列を選択し、相関しない列を除外します。ストーリーが作成された後に、列の選択を手動で変更できます。

経時的な精度の分析による予測の改善

モデルが実際の結果をどれほど正確に予測しているかを監視し、このフィードバックを使用してモデルを調整して予測を改善できるようになりました。予測の精度は、ロジスティック回帰と線形回帰の両方で監視できます。

残差プロットグラフによるモデルパフォーマンスの視覚化

結果変数がテキスト項目であるロジスティック回帰モデルでは、新しい残差プロットグラフでモデルの堅牢性を示します。*残差*は、モデルの予測値と実際の結果値の差を表します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として、顧客が受け取った出荷物内の品数があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによってEinstein Discoveryはプロットグラフに含める結果を識別できます。

モデルからバイアスがかかった変数の除去

バイアスがかかっているデータで構築されたモデルからは、バイアスがかかった予測が生成される可能性があります。異種影響はその一例であり、初任給での男女間格差など特定のデモグラフィックに対する差別的慣行がデータに反映されます。Einstein Discoveryは、モデル内で不平等な扱いを受けている変数について警告します。より倫理的で説明可能なモデルを生成するために、予測から異種影響のバイアスを取り除くことができます。

説明のみのインサイトのストーリー作成の迅速化

データから得たい情報が[何が起きたか]インサイトのみの場合、データセットの予測分析をスキップできます。Einstein Discoveryが予測と改善を生成しないので、ストーリー作成は短時間で行われます。ストーリーが作成された後に気が変わった場合は、予測分析を手動で追加できます。

データセットの更新でストーリーを更新

ソースデータセットのデータが変更されると、ストーリーが作成されたときに取得したスナップショットの代わりに更新されたデータの分析を選択できるようなりました。ストーリーを開くと、列または行に変更があった場合はEinstein Discoveryがそれを通知します。以前は、ストーリーはデータの元のスナップショットに常に固定されていました。

Einstein データインサイトで処理可能なレポートデータの増加

Einstein データインサイトの制限が緩和されました。最大 500,000 行、50 列のデータを含むレポートからインサイトを作成できるようになりました。さらに、1 組織につき 1 日最大 1,000 個の Einstein データインサイト分析を作成できます。

述語が設定されたデータセットを使用したストーリーの作成

Einstein Discovery では、行レベルのセキュリティ述語と Salesforce 共有継承に関連付けられた共有ルールを使用して Einstein Analytics データセットを分析できるようになりました。ストーリーの結果は、ストーリーにアクセスできるすべてのユーザに表示されます。ストーリー作成者と同じ行レベルのアクセス権を持っている必要はありません。以前は、「データセットからストーリーを作成する場合に述語を無視」権限が必要でした。これは、Winter '20 リリースで非推奨になりました。

Lightning Experience レコードページでの Einstein Discovery 予測の表示方法のカスタマイズ

Lightning Experience レコードページで、Einstein Discovery 予測の表示方法をカスタマイズします。ロジスティック回帰モデル(バイナリ分類問題)の場合は、予測がモデルのしきい値より高い、または低い場合の表示ラベルを指定します。例: 成立または不成立、維持または離脱、等。プロジェクトの改善方法に関する検索条件の推奨事項。推奨事項の最大数を設定するか、結果への影響が最小パーセントである推奨事項を表示します。

Apex コードでの Einstein 予測の取得

Einstein Discovery でモデルをリリースしたら、Apex コードで `ConnectApi.SmartDataDiscovery.predict` メソッドを使用して、Salesforce オブジェクトの予測を取得します。

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止される予定です。現在の Einstein Discovery Classic ユーザは、Analytics Studio でデータセットとストーリーを再作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンス (Analytics の Einstein Discovery で必須) が必要です。Winter '20 リリースでは、Einstein Discovery Classic はすべての Developer 組織で新しい環境に置き換えられます。

カスタマイズ

Einstein 予測ビルダーの比較による絞り込み

絶対項目値のみの絞り込みに加えて、他の項目や特定の時点の値と比較した項目値でも絞り込めるようになりました。検索条件ロジックをよりわかりやすくして、予測の問題との関連性を高めることができます。

Next Best Action のおすすめからの自動フロー起動の呼び出し

サービスエージェントはすばやく行動を起こすことができます。おすすめからバックグラウンドでレコードを更新したりメールを送信したりする自動起動フローをコールできます。

戦略テンプレートの作成および知的財産としての戦略の保護

登録者がカスタマイズして戦略を構築するための戦略テンプレートを作成できます。戦略テンプレートは、AppExchange で公開する管理パッケージで共有されます。管理パッケージには、戦略テンプレートと、知的財産 (IP) として保護される戦略も含めることができます。登録者は、Strategy Builder でテンプレートを開いてコピーし、各自の用途に合わせてカスタマイズできます。テンプレートとしてマークされていない戦略は IP 保護で、編集またはコピーできません。戦略テンプレートと IP 保護戦略は、パッケージアップグレードの一部としてアップグレードできます。戦略テンプレートにアップグレードを転送する場合、登録者のコピーは影響を受けません。

戦略作成時の元に戻す/やり直す

戦略の作成中にミスをしてしまうことがあります。このリリースでは、間違って親要素を削除したり要素を分岐間で移動したりといったミスをしてしまった場合でも、変更を簡単に元に戻したり、やり直したりできるようになりました。

Next Best Action Strategy Builder での分岐式の容易な作成

ブランチセレクタ要素を使用しておすすめを分岐させる際に、式をよりすばやく正確に作成できます。選択リスト値を手動で入力する必要はありません。値を選択するだけで、Next Best Action が自動的に式を入力してくれます。

容易に識別できるおすすめのタイトル

属性のリストにタイトルを追加しました。これらのタイトルは、Lightning アプリケーションビルダーやコミュニティで Next Best Action Lightning コンポーネントのおすすめに表示できます。エージェントやユーザがおすすめの内容を容易に識別できるようにタイトルを付けることができます。

アプリケーションのホームページでのおすすめの表示

Lightning コンポーネントの Next Best Action をアプリケーションのホームページに追加することで、おすすめをまとめて表示できます。たとえば、フォローアップが必要な重要な取引先のリストを、前回の連絡から特定の日数が経過した時点でエージェントに表示することができます。

開発

Einstein Vision: 新しい language 項目と algorithm 項目

モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

Einstein Language: 新しい language 項目と algorithm 項目

モデル情報を返す Einstein Language API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

インサイトを使用した予測構築の改善

インサイトオブジェクトによって Einstein 予測の基盤となるロジックの詳細を取得します。Einstein 予測ビルダーなどの Einstein 機能が予測を行い、結果を保存すると、AIRecordInsight レコードといくつかの関連する子レコードが作成されます。これらのレコードを使用して、Einstein 予測がどのように行われるかを理解し、予測が保存された後にカスタムロジックを適用して、予測の改善やカスタマイズを行うことができます。

セールス: High Velocity Sales の分岐、Einstein のレポートと四半期別売上予測、カスタマイズ可能な取引先チームと取引先責任者の役割

通話の結果に基づいてステップに分岐するセールスケイデンスを作成します。商談スコアリングモデルの要素に関するレポートを作成し、Einstein売上予測を四半期別売上予測に使用します。取引先チームと商談取引先責任者の役割にカスタム項目、トリガ、およびワークフロールールを使用します。Einstein活動キャプチャで何をキャプチャして同期するかを制御します。Google と Microsoft のメールインテグレーションが改良されています。Salesforce Billing 支払コンポーネントを使用して、顧客やパートナーはより簡単かつセキュアに支払ができます。さらに、Pardot アクティビティデータセットでエンゲージメントパターンに関するインサイトを得ることができます。

このセクションの内容:

High Velocity Sales: セールスケイデンスの分岐、パフォーマンスダッシュボード、サードパーティスコアのサポート

Sales Cloud Einstein: レポートの向上、API アクセス、四半期別売上予測のサポート、データセグメンテーション

コアセールス機能:取引先責任者の役割と取引先チームのカスタマイズ、見積と商談の品目の並び替え、商品ファミリの売上予測種別の追加

生産性機能:Einstein活動キャプチャの改善、より堅牢になったメール、活動タイムラインの機能強化、カレンダーの効率化

High Velocity Sales: セールスケイデンスの分岐、パフォーマンスダッシュボード、サードパーティスコアのサポート

営業マネージャは、通話の結果に応じて複数のアウトリーチパスに分岐するセールスケイデンスを作成できます。また、マネージャは、より多くのレポート機能を使用して営業チームの状況を簡単に確認できます。営業担当は、サードパーティスコアを使用して関連性の高い順に見込み客を並び替えることができます。

Sales Cloud Einstein: レポートの向上、API アクセス、四半期別売上予測のサポート、データセグメンテーション

商談スコアとスコアリングモデル要素に関するレポートを作成します。SOAP API を使用してモデル要素情報にアクセスします。組織で四半期別売上予測スケジュールを使用している場合、売上予測の精度が向上します。Einstein でスコアリングするリードを選択できます。

コアセールス機能:取引先責任者の役割と取引先チームのカスタマイズ、見積と商談の品目の並び替え、商品ファミリの売上予測種別の追加

カスタマイズ可能な取引先責任者の役割を使用すると、収益を役割、役職、個人に柔軟に割り当てることができます。同様に、カスタマイズ可能な取引先チームを使用すると、より詳細かつ柔軟に複雑な取引先リレーションを管理できます。Lightning Experience では、営業担当は見積品目と商談商品を特定の順序で表示できます。コラボレーション売上予測では、スケジュール日と商品提供日別にロールベースの商品ファミリの売上予測がサポートされます。エンタープライズテリトリー管理のセキュリティとレポートが機能強化されました。価格表エントリで項目監査履歴と項目履歴管理がサポートされるようになりました。また、第一世代管理パッケージからパスを削除できます。

生産性機能:Einstein活動キャプチャの改善、より堅牢になったメール、活動タイムラインの機能強化、カレンダーの効率化

Einstein活動キャプチャの設定をより詳細に制御します。書式設定されたテーブルと関連ファイルを添付ファイルにしてメールを活用できます。新しい HTML タグを Lightning メールテンプレートで使用します。アーカイブされた活動が表示され、活動タイムラインからのナビゲーションが向上しています。Lightning Dialer でカスタム通話者 ID を使用します。対応可能状況ビューとユーザリストカレンダーを組み合わせて行動をよりすばやくスケジュールします。

Google とのインテグレーション: 記録とメール追跡のリマインダー、スケジュール、および同期の改善

メールを記録するためのリマインダーを受け取れます。より柔軟な制御により、メールを追跡したり、メールを後で送信するためにスケジュールしたりできるようになりました。さらに、行動の同期が改善されました。営業担当が行動に招待または関連付けたレコードが同期後に別のレコードと入れ替えられることはなくなりました。

Microsoft® とのインテグレーション: より関連性の高いオブジェクト、より関連性の高い一致レコード、同期の改善

メールやイベントを記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が表示されます。拡張メールが有効であれば、ユーザレコードはデフォルトの人レコードとして選択されます。さらに、行動の同期が改善されました。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 価格設定ガイダンスの改善、品目数の多い見積の契約の信頼性向上、コミュニティおよび Lightning ページでの顧客支払

営業担当がどこで推奨の割引を受け入れたか、または回避したかを表示することで、価格設定ガイダンスの有効性を高めます。品目数の多い見積の契約時のパフォーマンスを改善して、契約プロセスを円滑に進めます。新しい Salesforce Billing Lightning コンポーネントをパートナー向けコミュニティおよび Lightning ページに追加することで、顧客の支払とクレジットカードを管理します。

Pardot: B2B Marketing Analytics の新しいデータセット、メールで再利用可能なコンテンツなど

B2B Marketing Analytics に、プロスペクトデモグラフィックとエンゲージメントアクティビティデータがまとめられたデータセットが追加されました。新しいスニペット機能では、メールとメールテンプレートで再利用可能なコンテンツが提供されます。このリリースではまた、Pardot Einstein の機能である行動スコアリングとキャンペーンインサイトも更新され、オブジェクトマネージャのアセット処理が改善されました。

Sales Cloud のその他の変更

Data.com Prospector と Data.com Clean は、2020 年 7 月 31 日に廃止される要諦です。Sales Cloud 機能の配信設定を、通知ビルダーで管理できるようになりました。また、メッセージングチャネルをオムニチャネルで転送できます。

High Velocity Sales: セールスケイデンスの分岐、パフォーマンスダッシュボード、サードパーティスコアのサポート

営業マネージャは、通話の結果に応じて複数のアウトリーチパスに分岐するセールスケイデンスを作成できます。また、マネージャは、より多くのレポート機能を使用して営業チームの状況を簡単に確認できます。営業担当は、サードパーティスコアを使用して関連性の高い順に見込み客を並び替えることができます。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Lightning Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

通話の結果に基づく営業アウトリーチの変更

Sales Cadence の分岐を使用すると、マネージャは、通話の結果に応じてさまざまなアウトリーチステップに見込み客を誘導するセールスケイデンスを作成できます。たとえば、営業担当は、見込み客と話した場合はあるパスを進み、ボイスメールを残した場合は別のパスを進むことができます。

High Velocity Sales レポート: Einstein Analytics ダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善

営業マネージャは、詳細なエンゲージメントおよびセールスケイデンスパフォーマンス統計を表示し、リード、取引先責任者、個人取引先、およびセールスケイデンスデータでカスタムレポートを作成し、付属するレポートでより多くの情報にアクセスできます。

作業キューでのサードパーティスコアを使用したレコードの優先順位付け

サードパーティスコアから導き出されたカスタム数値項目を使用して作業キューを絞り込むように営業担当を設定します。営業担当は、最も注意する必要のある見込み客レコード (個人取引先、取引先責任者、リード) に集中できます。

High Velocity Sales の [設定] から実行できる設定の増加

再設計された High Velocity Sales の [設定] ページでは、設定を簡単に実行できます。セールスケイデンスステップコンポーネント、通話の結果のカテゴリ、個人取引先、カスタムオブジェクトスコアの設定にアクセスできるようにオプションが追加されました。また、異なる設定を見つけやすくするためにリード、取引先責任者、個人取引先で設定がグループ化されました。

セールスケイデンスの対象を削除できるユーザの増加

セールスケイデンスの対象任命先、対象レコード所有者、およびセールスケイデンス所有者が、セールスケイデンスから対象を削除できるようになりました。これまで、対象を削除できるのは、対象を追加したユーザまたは「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみでした。より広範囲にアクセスを許可する必要がある場合は、対象を削除するためのグループ権限を割り当てます。

セールスケイデンスでの見込み客の担当者の確認

営業マネージャは、セールスケイデンスで見込み客を担当している営業担当を一目で確認できるようになりました。さらにクリックする必要はありません。[セールスケイデンスの任命先] 項目は、リストビューおよびレコード詳細ページで使用できます。

セールスケイデンスステップのエンゲージメントの成功の評価

セールスケイデンスレコードの [セールスケイデンスステップ] 関連リストを使用すると、マネージャと営業担当は各セールスステップのエンゲージメント統計を簡単に確認できます。

コールスクリプトのリッチテキストの使用

営業マネージャは、コールスクリプトテキストのフォント、サイズ、色、配置を制御できるようになりました。箇条書きや番号付き箇条書きを追加して、より詳細で適切な書式のコールスクリプトを作成することもできます。

High Velocity Sales のその他の機能強化

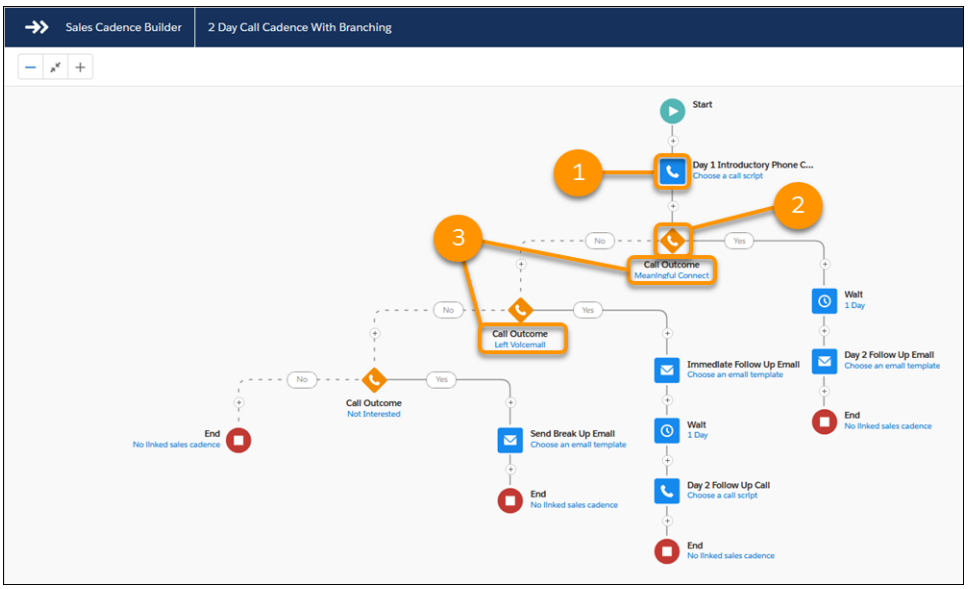
セールスケイデンスステップコンポーネントの情報がより詳細になり、署名をメールテンプレートで使用できます。

通話の結果に基づく営業アウトリーチの変更

Sales Cadence の分岐を使用すると、マネージャは、通話の結果に応じてさまざまなアウトリーチステップに見込み客を誘導するセールスケイデンスを作成できます。たとえば、営業担当は、見込み客と話した場合はあるパスを進み、ボイスメールを残した場合は別のパスを進むことができます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: 分岐するセールスケイデンスを有効化するには、まず Dialer の [設定] の [活動の記録] ページにある [通話の結果] を有効にします。通話の結果は、活動の記録時にキャプチャされる「ボイスメールを残した」などの処理の値です。次に、High Velocity Sales の [設定] で [通話の結果] 値を対応付けます。



営業マネージャは、セールスケイデンスの作成時に通話ステップ (1) を追加し、その後に分岐ステップ (2) を追加できます。分岐ステップごとに、[有意義なつながり] や [ボイスメールを残した] など、どの [通話の結果] 値を探すかを選択します (3)。

次に、セールスステップを [はい] および [いいえ] のパスに追加します。[通話の結果] が選択された値に一致すると、セールスケイデンスは [はい] パスを進みます。それ以外の場合、セールスケイデンスは [いいえ] パスを進みます。複数の [通話の結果] をチェックするには、複数分岐ステップを追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Define Call Outcomes for Branching (分岐のための通話の結果を定義) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

High Velocity Sales レポート: Einstein Analytics ダッシュボードとオペレーショナルレポートの改善

営業マネージャは、詳細なエンゲージメントおよびセールスケイデンスパフォーマンス統計を表示し、リード、取引先責任者、個人取引先、およびセールスケイデンスデータでカスタムレポートを作成し、付属するレポートでより多くの情報にアクセスできます。

このセクションの内容:

一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (ベータ)

営業マネージャは、Einstein Analytics パフォーマンスダッシュボードを使用して、顧客エンゲージメントや営業担当の状況をすばやく確認できます。たとえば、マネージャは、詳細な通話およびメール応答の統計と共に、進行中のセールスケイデンスの数を表示できます。さらに、営業担当がそれぞれのセールスケイデンスをどの程度有効に進めているかを確認できます。

セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加

レポートの機能強化により、営業マネージャは通話の結果、メールのエンゲージメント、営業担当の適時性、より詳細なセールスケイデンスと対象の結果を表示できます。

一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (ベータ)

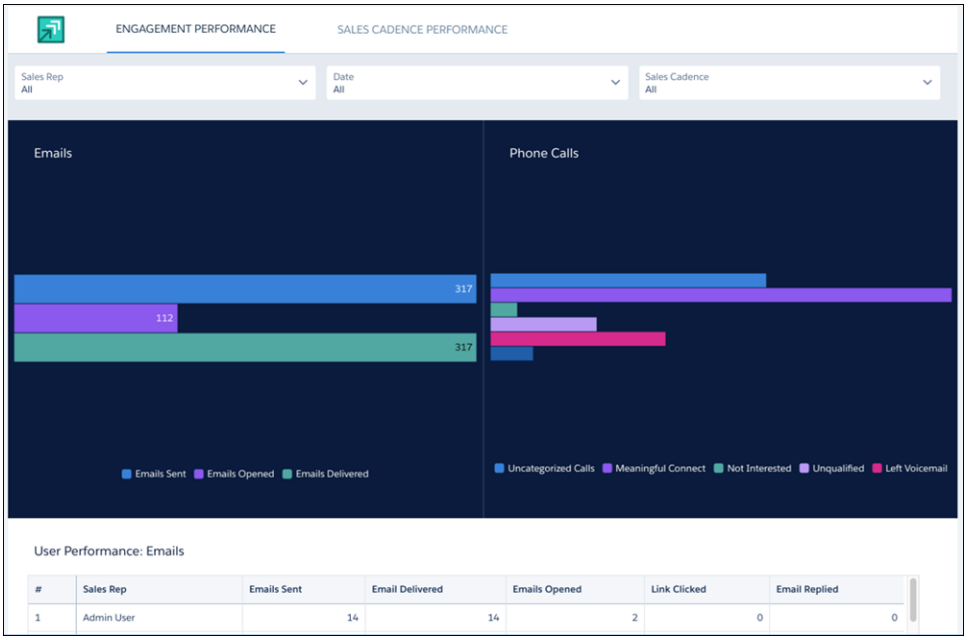
営業マネージャは、Einstein Analytics パフォーマンスダッシュボードを使用して、顧客エンゲージメントや営業担当の状況をすばやく確認できます。たとえば、マネージャは、詳細な通話およびメール応答の統計と共に、進行中のセールスケイデンスの数を表示できます。さらに、営業担当がそれぞれのセールスケイデンスをどの程度有効に進めているかを確認できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

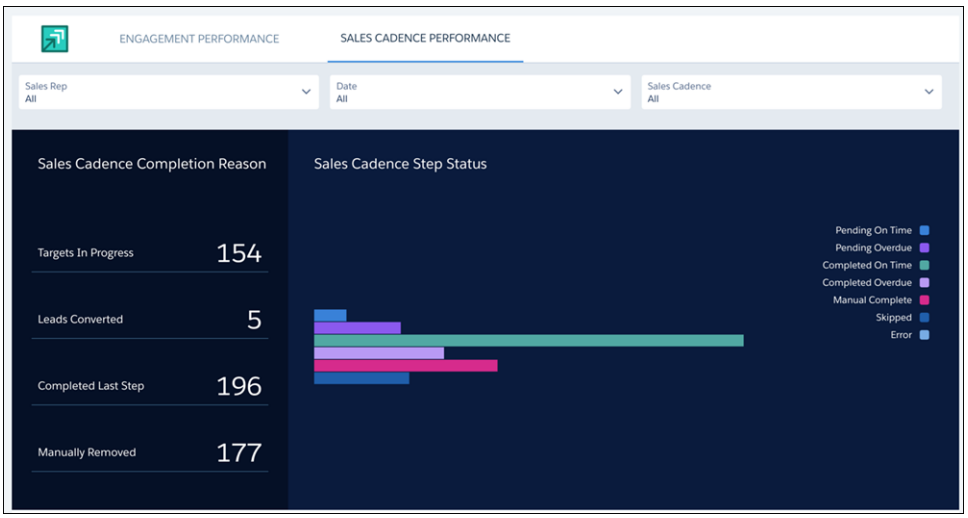
メモ: High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードを表示するには、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限と、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

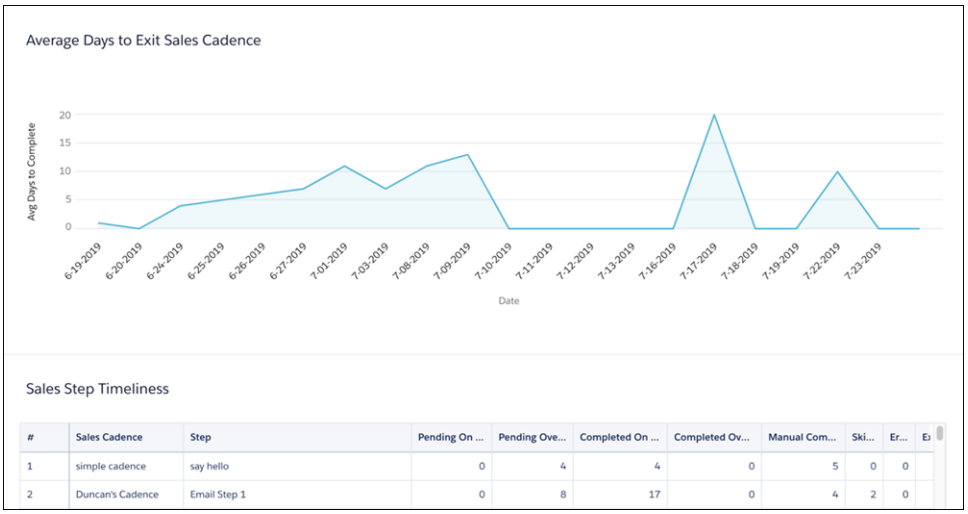
理由: エンゲージメントパフォーマンスダッシュボードで、マネージャはメールや電話に対する見込み客のエンゲージメント統計を、セールスケイデンス、日付範囲、営業担当、またはその組み合わせで並び替えて表示できます。



セールスケイデンスパフォーマンスダッシュボードを使用して、マネージャはセールスケイデンスの有効性を確認できます。詳細には、進行中の対象、リードの取引開始、セールスケイデンスの完了に関する統計が含まれます。



マネージャは、見込み客がセールスケイデンスを終えるまでにかかった期間や、営業担当がアウトリーチステップを予定どおりに完了したかどうかも確認できます。



方法: ダッシュボードを有効化するには、[通話の結果] 値を対応付け、[High Velocity Sales の [設定] で、High Velocity Sales パフォーマンス分析アプリケーションを有効にします。ダッシュボードを表示するには、営業マネージャが High Velocity Sales アプリケーションのナビゲーションメニューから [High Velocity Sales パフォーマンス] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Define Call Outcomes for Branching (分岐のための通話の結果を定義) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セールスケイデンスレポートに表示される情報の増加

レポートの機能強化により、営業マネージャは通話の結果、メールのエンゲージメント、営業担当の適時性、より詳細なセールスケイデンスと対象の結果を表示できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: High Velocity Sales レポートに対する複数の機能強化により、セールスケイデンスの有効性に対するマネージャの理解が深まります。

- 新しい通話スクリプトエンゲージメントレポートと既存のセールスケイデンスエンゲージメントレポートには、通話のステップごとに通話の結果が表示されます。
- メールテンプレートエンゲージメントレポートと通話スクリプトエンゲージメントレポートで、マネージャは、見込み客がテンプレートやスクリプトに基づいたメールや電話にどう反応したかを確認できます。各メールに返信した見込み客の数、成功した電話の数を正確に把握できます。これらのレポートは、サンプルセールスレポートフォルダに含まれています。
- 総計値項目の [予定どおり完了]、[期限切れ完了]、[スキップ]、[手動で完了] で、マネージャは営業担当のセールスケイデンス ToDo の完了状況を確認できます。これらの項目は、カスタムレポートタイプと、付属するセールスケイデンスエンゲージメントレポートで使用できます。High Velocity Sales を有効化したら、これらの項目を手動でセールスケイデンスエンゲージメントレポートに追加します。
- 既存のセールスケイデンスおよびトラッカーカスタムレポートタイプに、[セールスケイデンスの任命先] 項目が追加されました。このレポートタイプで、マネージャは、セールスケイデンス内のリード、取引先責任者、個人取引先と共に、各対象がどうセールスケイデンスを完了したかを確認できます。
- リード、取引先責任者、個人取引先をセールスケイデンストラッカーと組み合わせたカスタムレポートタイプを使用すると、営業マネージャはセールスケイデンス内のリード、取引先責任者、個人取引先と、それぞれがどうセールスケイデンスを完了したかを確認できます。

方法: レポートに [通話の結果] 値を表示するには、組織の通話の結果値を High Velocity Sales の [設定] で通話の結果に対応付けます。使用できる [通話の結果] 値として、[有意義なつながり]、[ボイスメールを残した]、[関心がない]、[未評価] が含まれます。

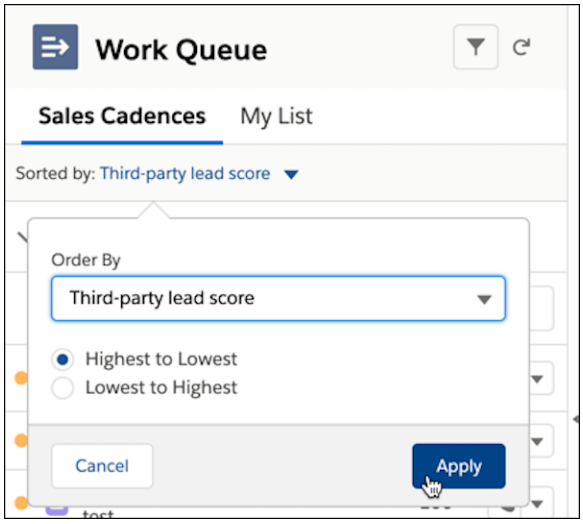
リード、取引先責任者、個人取引先をセールスケイデンストラッカーと組み合わせたカスタムレポートタイプをマネージャが使用できるようにするには、[レポートタイプ] の [設定] で定義します。

作業キューでのサードパーティスコアを使用したレコードの優先順位付け

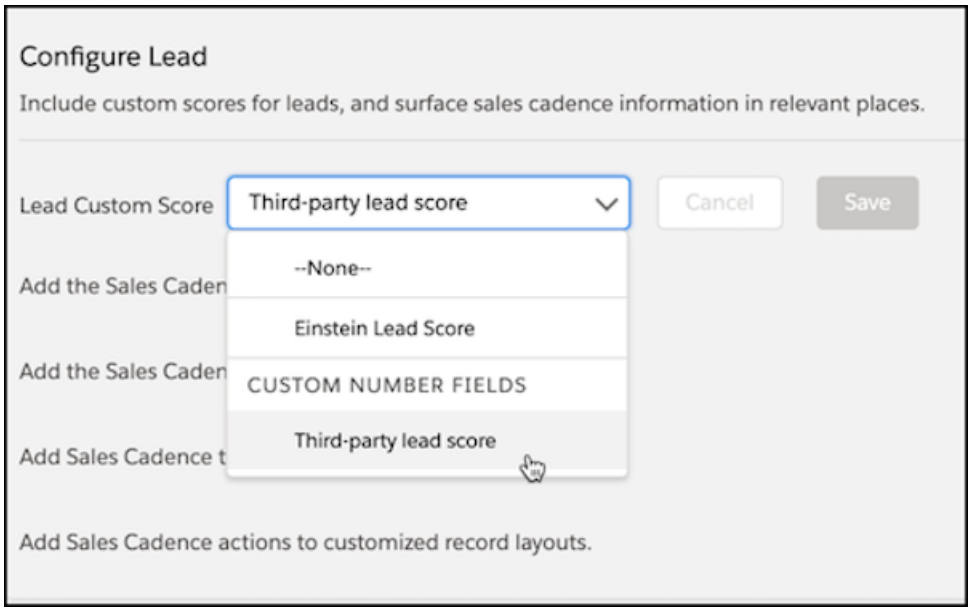
サードパーティスコアから導き出されたカスタム数値項目を使用して作業キューを絞り込むように営業担当を設定します。営業担当は、最も注意する必要のある見込み客レコード(個人取引先、取引先責任者、リード)に集中できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 営業担当が自分の作業キューをより詳細に制御できるようになりました。カスタム項目で並び替えるには、[並び替え基準] リンクをクリックし、並び替え基準となるカスタム項目を選択します。



方法: [High Velocity Sales] 設定から、カスタム項目を追加するオブジェクトの横にある [編集] をクリックします。オブジェクトのカスタムスコア項目の横で、適切なカスタム数値項目を選択します。項目は、営業担当の作業キューに表示され、セールスケイデンスの並び替えに使用できます。個人取引先の場合、取引先責任者のオブジェクト管理設定でカスタム数値項目を設定します。

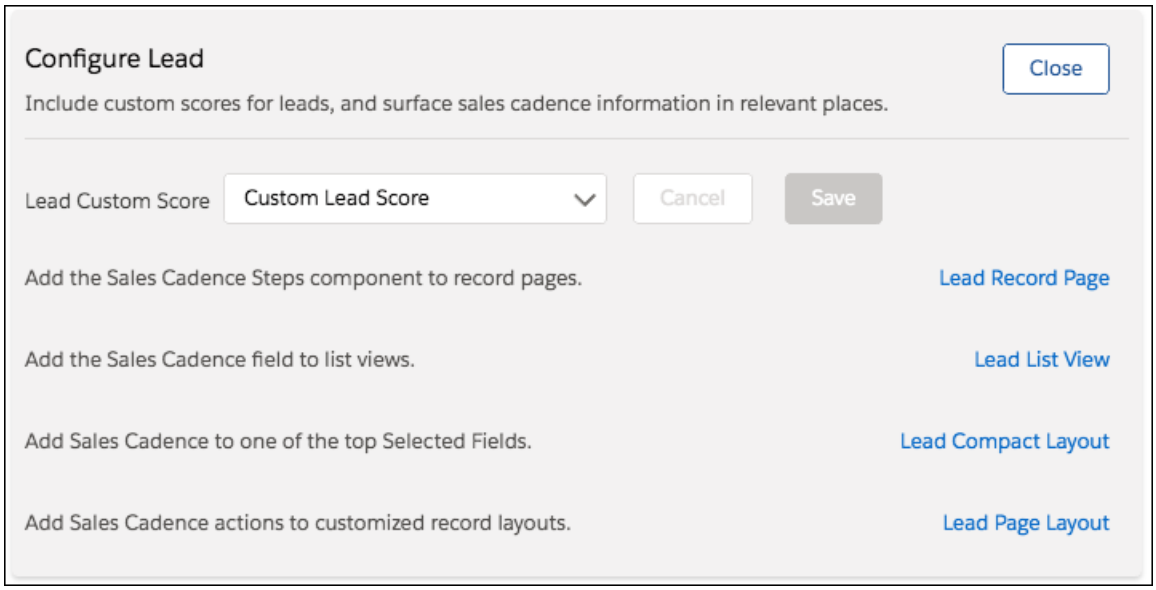


High Velocity Sales の [設定] から実行できる設定の増加

再設計された High Velocity Sales の [設定] ページでは、設定を簡単に実行できます。セールスケイデンスステップコンポーネント、通話の結果のカテゴリ、個人取引先、カスタムオブジェクトスコアの設定にアクセスできるようにオプションが追加されました。また、異なる設定を見つけやすくするためにリード、取引先責任者、個人取引先で設定がグループ化されました。

対象: この変更は Lightning Experience **での** High Velocity Sales **に適用されます。** High Velocity Sales **は、** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **のアドオンとして使用できます。**

理由: 組織に最も関連するレコードの設定に簡単にアクセスできます。関連する設定は、必要な詳細設定のみが表示されるように展開可能なセクションでグループ化されます。



セールスケイデンスの対象を削除できるユーザの増加

セールスケイデンスの対象任命先、対象レコード所有者、およびセールスケイデンス所有者が、セールスケイデンスから対象を削除できるようになりました。これまで、対象を削除できるのは、対象を追加したユーザまたは「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみでした。より広範囲にアクセスを許可する必要がある場合は、対象を削除するためのグループ権限を割り当てます。

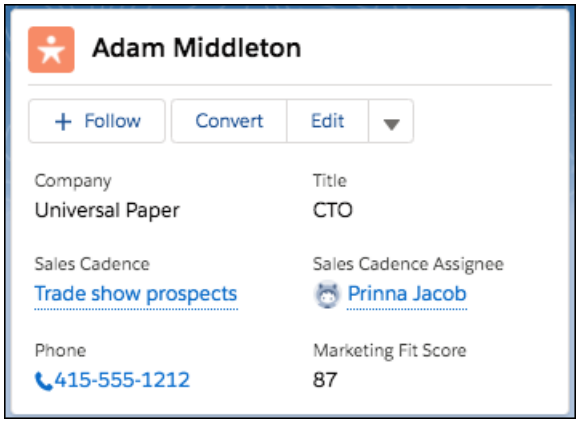
対象: この変更は Lightning Experience **での** High Velocity Sales **に適用されます。** High Velocity Sales **は、** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **のアドオンとして使用できます。**

セールスケイデンスでの見込み客の担当者の確認

営業マネージャは、セールスケイデンスで見込み客を担当している営業担当を一目で確認できるようになりました。さらにクリックする必要はありません。[セールスケイデンスの任命先]項目は、リストビューおよびレコード詳細ページで使用できます。

対象: この変更は Lightning Experience **での** High Velocity Sales **に適用されます。** High Velocity Sales **は、** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **のアドオンとして使用できます。**

理由: 営業マネージャと営業担当は、商談に対応しているユーザを関連するリード、取引先責任者、個人取引先レコードから確認できます。リストビューに [セールスケイデンスの任命先] 項目も表示されます。



方法:項目をレコードレイアウトに追加するには、[設定]の[オブジェクトマネージャ]に移動します。変更するオブジェクトを選択します。[コンパクトレイアウト]をクリックし、[セールスケイデンスの任命先]を上部のいずれかの[選択済み]項目に追加します。

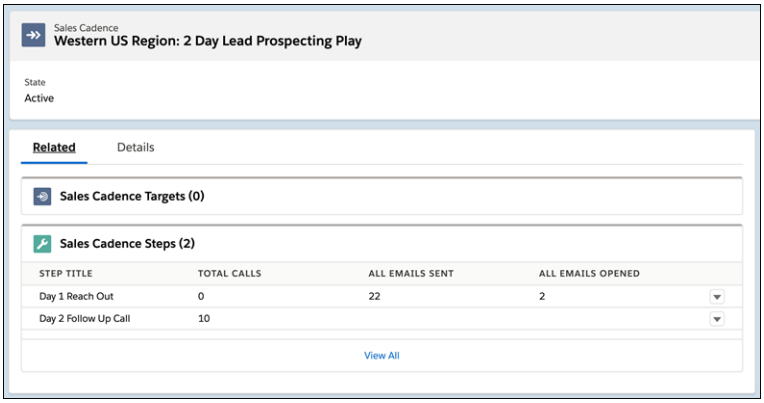
[セールスケイデンスの任命先]をリストビューに追加するには、項目を表示するリストビューに移動します。[リストビューコントロール]ドロップダウンをクリックし、[表示する項目を選択]をクリックして、[セールスケイデンスの任命先]を追加します。

セールスケイデンスステップのエンゲージメントの成功の評価

セールスケイデンスレコードの[セールスケイデンスステップ]関連リストを使用すると、マネージャと営業担当は各セールスステップのエンゲージメント統計を簡単に確認できます。

対象:この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由:セールスケイデンスのステップごとに、かけた電話、送信したメール、開封されたメールの数がユーザに表示されます。

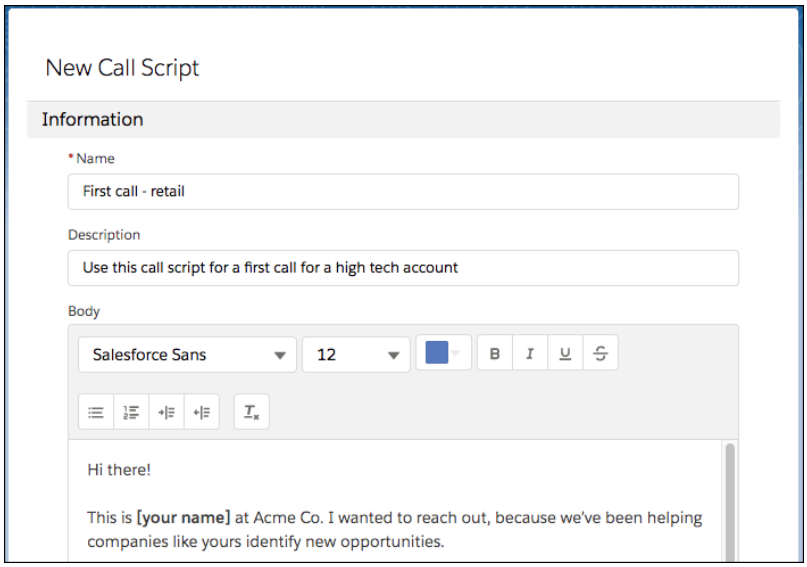


コールスクリプトのリッチテキストの使用

営業マネージャは、コールスクリプトテキストのフォント、サイズ、色、配置を制御できるようになりました。箇条書きや番号付き箇条書きを追加して、より詳細で適切な書式のコールスクリプトを作成することもできます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

方法: リッチテキストオプションは、エディタで使用できます。マネージャは、コールスクリプトの作成時に書式設定をテキストに追加できます。



High Velocity Sales のその他の機能強化

セールスケイデンスステップコンポーネントの情報がより詳細になり、署名をメールテンプレートで使用できます。

対象: これらの変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 次の変更点があります。

- ステップの期日が経過している場合、セールスケイデンスステップコンポーネントに通知が表示されるようになりました。そのため、営業担当は優先するステップを常に把握できます。
- セールスケイデンスステップコンポーネントは、リンクされたセールスケイデンスが近づいている場合に表示されます。営業担当は今後予想されることを把握でき、マネージャは見込み客の状況をより適切に追跡できます。
- セールスケイデンスステップコンポーネントは、前のステップまたは次のステップが分岐ステップの場合に表示されます。
- 営業マネージャは {{{Sender.Signature}}} 差し込み項目をメールテンプレートに追加してユーザの署名を動的に取り込めるようになりました。

方法: High Velocity Sales ユーザは、これらの機能強化を自動的に使用できるようになります。

Sales Cloud Einstein: レポートの向上、API アクセス、四半期別売上予測のサポート、データセグメンテーション

商談スコアとスコアリングモデル要素に関するレポートを作成します。SOAP API を使用してモデル要素情報にアクセスします。組織で四半期別売上予測スケジュールを使用している場合、売上予測の精度が向上します。Einstein でスコアリングするリードを選択できます。

このセクションの内容:

Einstein 商談スコアリング: レポートと API アクセスの向上
[スコア] 項目を標準の商談レポートに追加し、モデル要素のカスタムレポートタイプを作成します。さらに、SOAP API を使用してモデル要素情報にアクセスします。

Einstein 売上予測: 四半期別売上予測のサポート (正式リリース)
四半期別売上予測スケジュールを使用する場合、Einstein の機能を使用して売上予測の精度を高めたり、結果を予測したり、営業チームの進捗状況を追跡したりできるようになりました。

Einstein リードスコアリング: スコアリングするリードの制御
営業チームが必要としているのは、一部のリードのみのリードスコアですか?特定の値のリード項目を持つリードのみをスコアリングするように Einstein に指示できます。たとえば、営業チームが通信業界のリードのみをスコアリングする必要がある場合に、そのリードのみを含めるように Einstein に指示します。

Einstein 自動取引先責任者: アクセス権のある取引先責任者データのみの表示
取引先責任者の役割の提案に、取引先責任者オブジェクトから項目レベルセキュリティが反映されるようになりました。メール、役職、電話などの取引先責任者項目へのアクセス権がない営業担当には、Einstein コンポーネントまたはリストビューでこれらの項目が表示されなくなります。また、アクセス権のない取引先責任者レコードの取引先責任者項目値も表示されません。さらに、取引先責任者の役割の提案に関する詳細ページを表示する場合、取引先責任者項目は表示されません。取引先責任者項目を表示するには、取引先責任者レコードに移動します。

Einstein 活動キャプチャ: キャプチャおよび同期対象の決定
誰のメールデータをキャプチャするかをより詳細に制御します。[除外アドレス] リストを使用して、データが同期されないようにします。さらに、営業担当は一連の行動を同期できます。

Einstein 商談スコアリング: レポートと API アクセスの向上

[スコア]項目を標準の商談レポートに追加し、モデル要素のカスタムレポートタイプを作成します。さらに、SOAP API を使用してモデル要素情報にアクセスします。

このセクションの内容:

標準レポートへの商談スコアの追加
標準レポートを使用して、商談スコアに基づいて商談を分析します。これまでは、カスタムレポートタイプでしか商談スコアを使用できませんでした。

商談カスタムレポートタイプへのモデル要素の追加
何が商談スコアを促進しているのかを明確に把握しましょう。商談スコアリングモデルの作成に使用されている要素をカスタムレポートタイプで使用できるようになりました。

SOAP API を使用した商談スコアリングモデルに関する情報へのアクセス
Einstein 商談スコアリングに 2 つの新規オブジェクトが導入されました。SalesAIScoreCycle オブジェクトと SalesAIScoreModelFactors オブジェクトを使用して、商談スコアとその要素に関する情報を取得します。

標準レポートへの商談スコアの追加

標準レポートを使用して、商談スコアに基づいて商談を分析します。これまでは、カスタムレポートタイプでしか商談スコアを使用できませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

理由: 商談スコアのレポートには多くの用途があります。たとえば、スコアで商談をグループ化します。次に、商談フェーズなどの値とスコアを比較します。または、レポートの商談を[スコア]項目に基づいて優先度付けします。

方法: [スコア]項目を商談ベースのレポートに追加します。商談スコア別にレコードの並び替え、グループ化、絞り込みができます。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

商談カスタムレポートタイプへのモデル要素の追加

何が商談スコアを促進しているのかを明確に把握しましょう。商談スコアリングモデルの作成に使用されている要素をカスタムレポートタイプで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

対象ユーザ: カスタムレポートタイプでモデル要素を使用するには、ユーザに「スコアリングモデル要素を表示」権限が必要です。この権限はデフォルトでは有効になっていません。「Sales Cloud Einstein」権限セットをコピーし、「スコアリングモデル要素を表示」権限を有効にします。権限セットをユーザに割り当てます。

理由: モデル要素のレポートには多くの用途があります。たとえば、商談の上位モデル要素を調べて、どの要素が商談に最も影響を与えるかを確認できます。システム管理者とデータサイエンスに興味のあるユーザは、どの要素が予測モデルに含まれているかを確認でき、モデルの評価と改善に役立てることができます。

方法: カスタムレポートタイプを作成します。主オブジェクトとして、[セールス AI スコアモデル要素] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 商談スコアリングのカスタムレポートタイプの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SOAP API を使用した商談スコアリングモデルに関する情報へのアクセス

Einstein 商談スコアリングに 2 つの新規オブジェクトが導入されました。SalesAIScoreCycle オブジェクトと SalesAIScoreModelFactors オブジェクトを使用して、商談スコアとその要素に関する情報を取得します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

対象ユーザ: API でモデル要素にアクセスするには、ユーザに「スコアリングモデル要素を表示」権限が必要です。この権限はデフォルトでは有効になっていません。「Sales Cloud Einstein」権限セットをコピーし、「スコアリングモデル要素を表示」権限を有効にします。権限セットをユーザに割り当てます。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Einstein 売上予測: 四半期別売上予測のサポート (正式リリース)

四半期別売上予測スケジュールを使用する場合、Einstein の機能を使用して売上予測の精度を高めたり、結果を予測したり、営業チームの進捗状況を追跡したりできるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

対象ユーザ: Einstein 売上予測は、Sales Cloud Einstein ライセンスを有する営業マネージャが使用できます。

関連トピック:

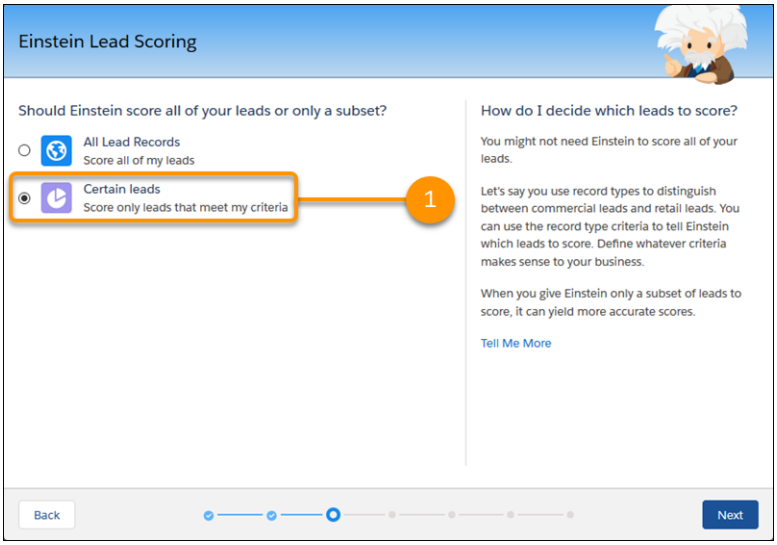
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測
Salesforce ヘルプ: Einstein 売上予測の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein リードスコアリング: スコアリングするリードの制御

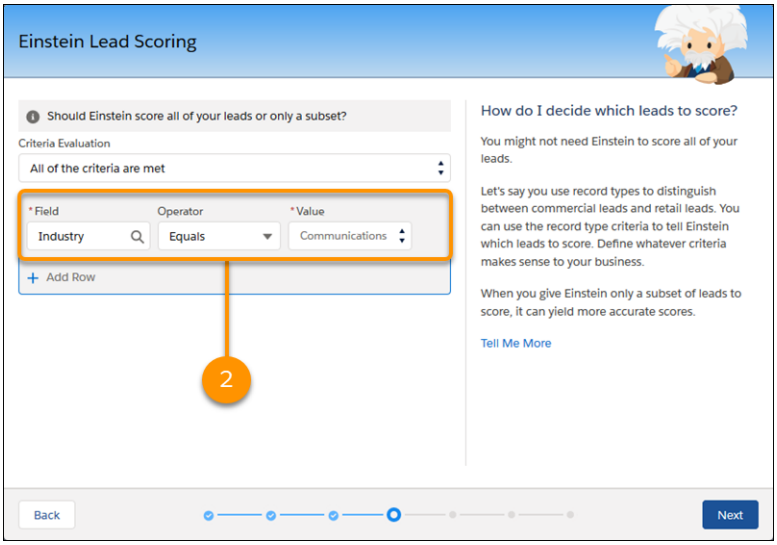
営業チームが必要としているのは、一部のリードのみのリードスコアですか?特定の値のリード項目を持つリードのみをスコアリングするように Einstein に指示できます。たとえば、営業チームが通信業界のリードのみをスコアリングする必要がある場合に、そのリードのみを含めるように Einstein に指示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 設定時に、分析にすべての項目は含めないように Einstein に指示します (1)。



次に、スコアリングするリードを示すリード項目値を選択します (2)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Einstein の設定に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 自動取引先責任者: アクセス権のある取引先責任者データのみの表示

取引先責任者の役割の提案に、取引先責任者オブジェクトから項目レベルセキュリティが反映されるようになりました。メール、役職、電話などの取引先責任者項目へのアクセス権がない営業担当には、Einstein コンポーネントまたはリストビューでこれらの項目が表示されなくなります。また、アクセス権のない取引先責任者レコードの取引先責任者項目値も表示されません。さらに、取引先責任者の役割の提案に関する詳細ページを表示する場合、取引先責任者項目は表示されません。取引先責任者項目を表示するには、取引先責任者レコードに移動します。

対象: この変更は Lightning Experience **での** Sales Cloud Einstein **に適用されます。** Sales Cloud Einstein **は、** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で有料オプションとして使用できます。**

関連トピック:

Salesforce Einstein: **四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測**

Einstein 活動キャプチャ: キャプチャおよび同期対象の決定

誰のメールデータをキャプチャするかをより詳細に制御します。[除外アドレス]リストを使用して、データが同期されないようにします。さらに、営業担当は一連の行動を同期できます。

対象: これらの変更は、 Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

関連トピック:

Einstein**活動キャプチャ:キャプチャして同期するデータのより詳細な制御、アカウントの接続に関する通知**

Salesforce Einstein: **四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測**

コアセールス機能: 取引先責任者の役割と取引先チームのカスタマイズ、見積と商談の品目の並び替え、商品ファミリの売上予測種別の追加

カスタマイズ可能な取引先責任者の役割を使用すると、収益を役割、役職、個人に柔軟に割り当てることができます。同様に、カスタマイズ可能な取引先チームを使用すると、より詳細かつ柔軟に複雑な取引先リレーションを管理できます。 Lightning Experience **では、営業担当は見積品目と商談商品を特定の順序で表示できます。コラボレーション売上予測では、スケジュール日と商品提供日別にロールベースの商品ファミリの売上予測がサポートされます。エンタープライズテリトリー管理のセキュリティとレポートが機能強化されました。価格表エントリで項目監査履歴と項目履歴管理がサポートされるようになりました。また、第一世代管理パッケージからパスを削除できます。**

このセクションの内容:

取引先責任者: カスタマイズ可能な取引先責任者の役割による追跡とレポートの改善

取引先責任者の役割のカスタマイズオプションを使用すると、柔軟に収益を追跡して、役割、役職、個人に割り当てることができます。カスタム項目とページレイアウト、入力規則、 Apex **トリガを使用して、取引先責任者の役割を、特定のセールスおよびレポートプロセスに合わせて設計できます。役職や役割などの新しいデータをキャプチャして、営業担当がより効率的に適切な取引先責任者を対象に設定できるように役立てることができます。**

取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

チームセリングには複雑な取引先リレーションが関与します。そうしたリレーションを Salesforce でより適切に管理できるようになりました。取引先チームレイアウトにカスタム項目、ボタン、リンクを追加することで、より多くの情報を収集できます。検証ルール、Apex トリガ、プロセスビルダー、ワークフロールールで取引先チームを使用すれば、データをクリーンに保ち、手動でのデータ入力を最小限に抑えることができます。また、取引先チームのレポートを作成することもできるようになりました。

見積: Lightning Experience での任意の順序への見積品目名の並び替え

営業担当は簡単に見積品目名を目的の順序に並び替えることができます。同期したときに、関連する商談と PDF 見積でも優先される並び替え順序が更新されます。これまで、見積品目名の並び替えは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

商談: 並び替え、連動選択リスト、デフォルトの商品数量、チームのリストビュー

Lightning Experience で作業を行う営業チームは、商談にリストされる商品の順序を設定できるようになりました。営業担当は、連動選択リストと商談商品のデフォルト数量を使用して商品をよりすばやく追加できます。商談ページの新しいリストビューを使用すると、営業マネージャはチームの進行状況に集中できます。

コラボレーション売上予測: Lightning Experience での商品ファミリ売上予測に追加されたオプション

コラボレーション売上予測は、商品提供日とスケジュール日を使用したロールベースの商品ファミリの売上予測をサポートするようになりました。以前は、商品ファミリの売上予測では完了日を使用していました。この変更により、会社でロール階層、商品ファミリ、そして商品提供日またはスケジュール日による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。売上予測のユーザは、クイックアクションや商談リストでのテキストの折返しなど、Salesforce Classic にはなかった機能を使用できます。

エンタープライズテリトリー管理: レポートと設定の改善

活動レポートにテリトリー情報が表示されるようになりました。割り当てルールを実行するための権限も変更され、[設定] でユーザが行える作業をより詳細に制御できるようになりました。

価格表エントリ: 項目履歴管理と項目監査履歴を使用した変更の追跡

価格表エントリで項目監査履歴と項目履歴管理がサポートされ、価格表エントリ項目への変更を簡単に追跡できるようになりました。

パス: 管理パッケージからの使用されていないパスの削除

管理パッケージに、ビジネスニーズに適合しないパスが含まれている場合があります。第一世代管理パッケージからパスを削除できるようになりました。レコードはデータベースに残りますが、インデックスや以降のアップグレードからは削除され、割り当てにはカウントされません。

中核的なセールス機能のその他の変更

Lightning Experience で作業する取引先チームと商談チームには、取引先および商談レコードへのチームメンバーのアクセス権が表示されます。商談商品の [スケジュール] 関連リストにレコードの [編集] および [削除] アクションが追加されました。また、取引先の [関連取引先責任者] 関連リストに [リレーションを編集] アクションも追加されました。必ずエンタープライズテリトリー管理の重要な更新を有効にしてください。カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。エンタープライズテリトリー管理への移行を容易にするために、メタデータ API が更新されました。

取引先責任者: カスタマイズ可能な取引先責任者の役割による追跡とレポートの改善

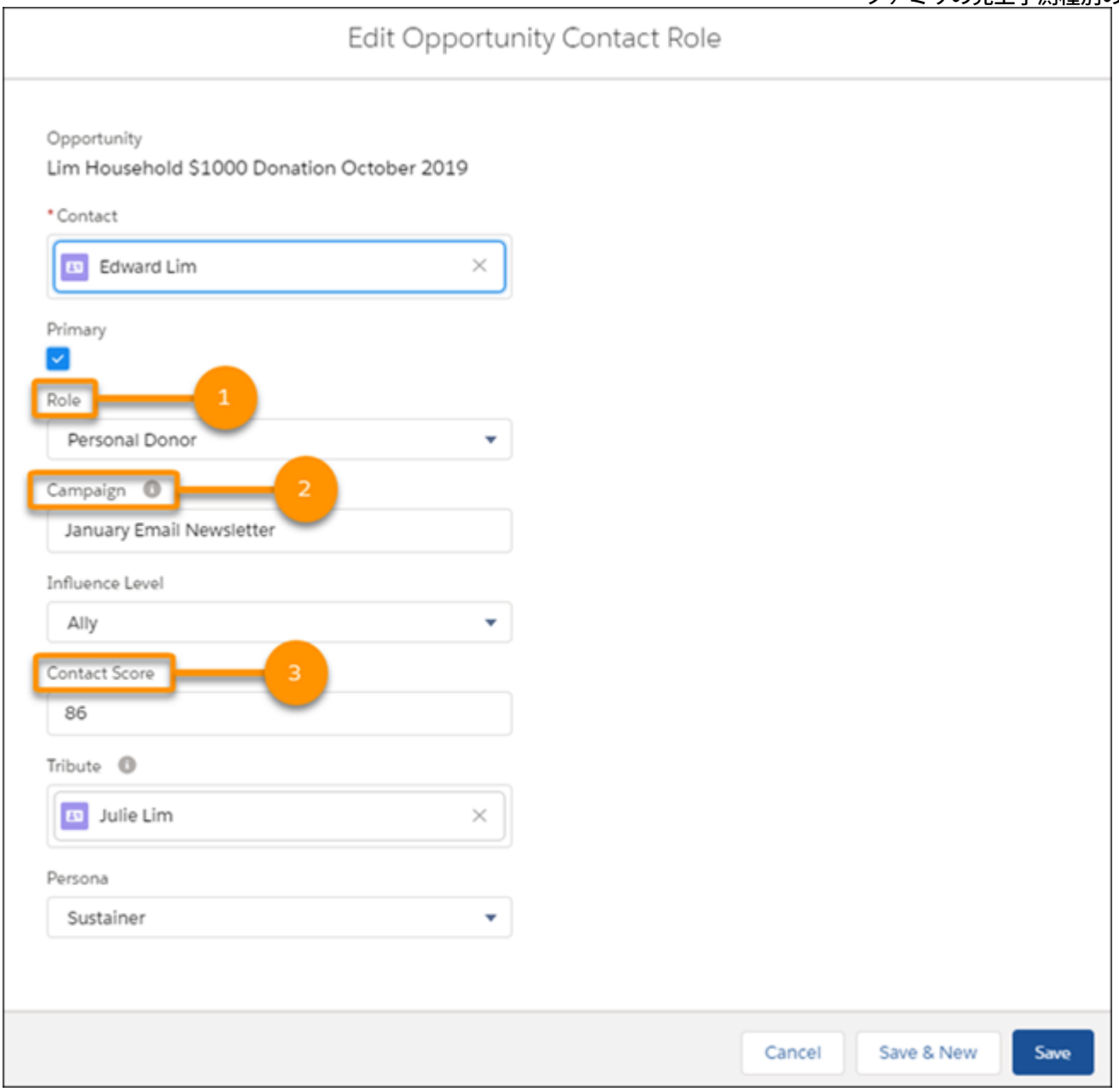
取引先責任者の役割のカスタマイズオプションを使用すると、柔軟に収益を追跡して、役割、役職、個人に割り当てることができます。カスタム項目とページレイアウト、入力規則、Apexトリガを使用して、取引先責任者の役割を、特定のセールスおよびレポートプロセスに合わせて設計できます。役職や役割などの新しいデータをキャプチャして、営業担当がより効率的に適切な取引先責任者を対象に設定できるように役立てることができます。

対象: この変更は、すべての Salesforce Edition (Sales Cloud または Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ:「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、取引先責任者の役割をカスタマイズできます。商談に対する「参照」権限を持つユーザは、カスタム項目などのカスタマイズを表示できます。商談の取引先責任者の役割を追加、編集、または削除するには、商談に対する「編集」権限と取引先責任者に対する「参照」権限も必要です。

理由:取引先責任者の役割をカスタマイズしてデータをキャプチャおよび追跡すると、リードの取引開始、キャンペーン、取引先責任者の役割などに基づいて ROI と収益をレポートできます。意思決定者などの特定の役割 (1) から、または取引先責任者に変換されたリードから収益と商談成立率への影響が表示されます。

たとえば、非営利組織は、「個人支援者」というカスタムの取引先責任者の役割を作成して、個人支援者からの寄付を直接追跡可能にすることができます。非営利組織は、寄付金額や取引先責任者の変更に基づいて、最良の支援者を識別してお礼のメールやその他のコミュニケーションを送信するトリガを設定できます。



カスタムの取引先責任者の役割レコードは、取引先責任者をキャンペーンベースのマーケティングの対象に設定する場合にも役立ちます (2)。収益、商品への関心、スコアリングデータなどキャプチャした新しいデータを使用して (3)、対象を絞ったキャンペーンの候補をより効果的に識別することができます。

トリガは、取引先責任者の役割が変わったときの情報や項目の更新など、営業担当のための内部アクションを起動できます。入力規則を使用すると、営業担当が必要な取引先責任者の役割を商談に入力したことを確認できます。

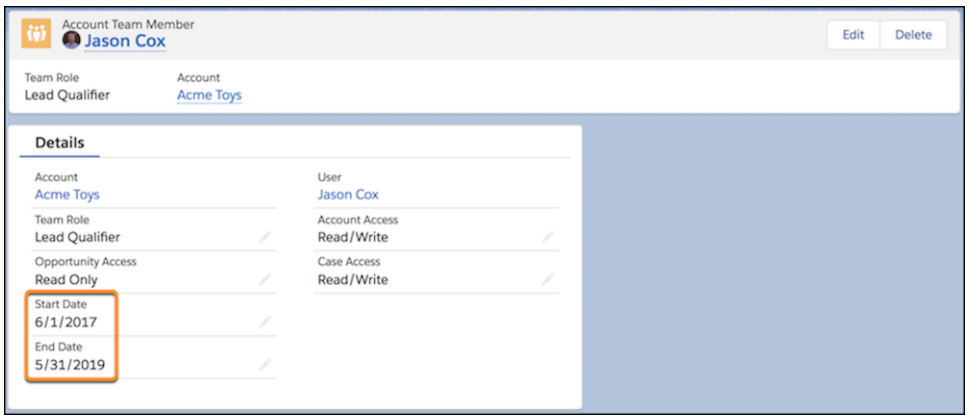
方法: [設定] でオブジェクトマネージャに移動し、[クイック検索] ボックスに *「取引先責任者の役割」* と入力します。[取引先責任者の役割] オブジェクトマネージャで、カスタム項目、ボタン、およびリンクの作成、カスタムページレイアウトの設計、トリガと入力規則の設定を行います。

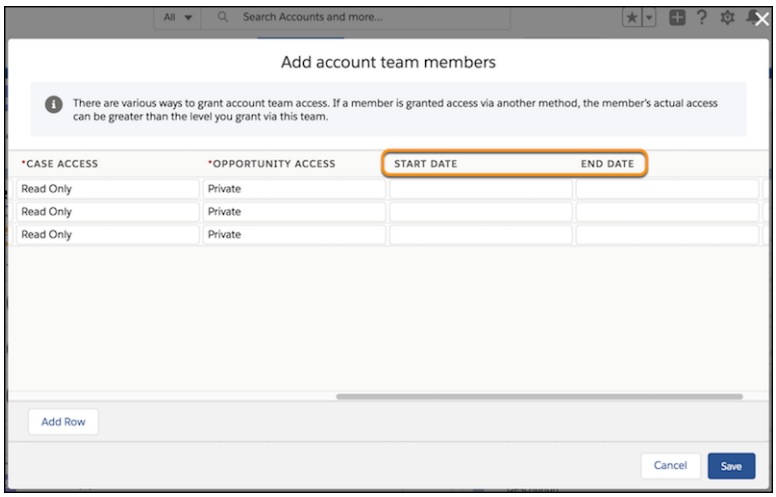
取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

チームセリングには複雑な取引先リレーションが関与します。そうしたリレーションをSalesforceでより適切に管理できるようになりました。取引先チームレイアウトにカスタム項目、ボタン、リンクを追加することで、より多くの情報を収集できます。検証ルール、Apexトリガ、プロセスビルダー、ワークフロールールで取引先チームを使用すれば、データをクリーンに保ち、手動でのデータ入力を最小限に抑えることができます。また、取引先チームのレポートを作成することもできるようになりました。

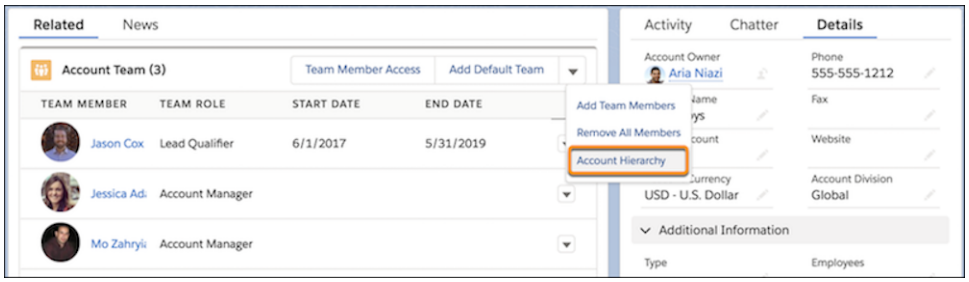
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning Experience、Salesforce Classic、および新しいSalesforceモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: [取引先チームメンバー]ページおよび[取引先チームメンバーの追加]複数行エディタでカスタム項目、ボタン、およびリンクを使用します。たとえば、各チームメンバーの参加の開始日と終了日を追加することで、取引先管理が徐々に容易になります。



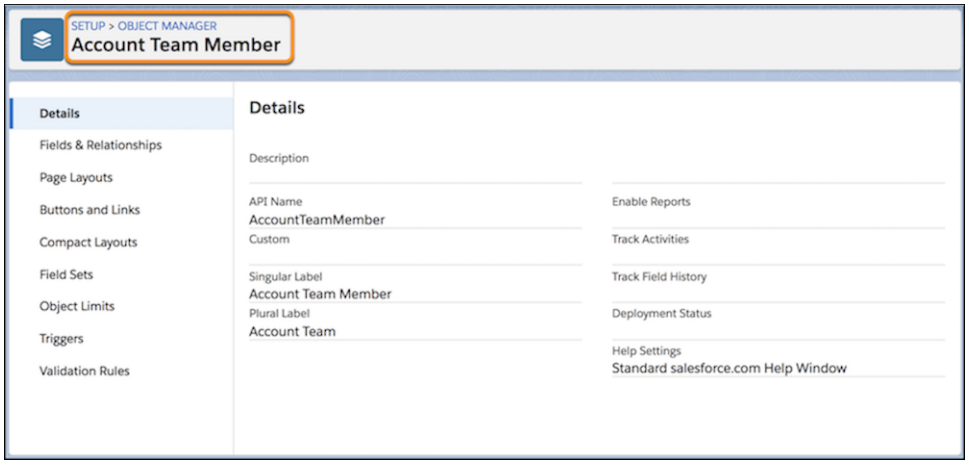


[取引先チーム]関連リストにカスタムボタンを追加することもできます。

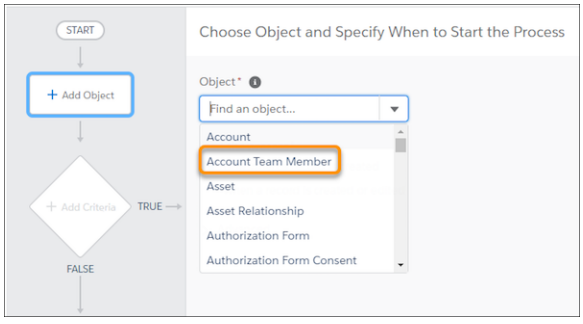


Lightning Experience では、ユーザが 1 人または複数の取引先チームメンバーを作成または編集するか、チームの全メンバーを削除するか、デフォルトの取引先チームを追加するときに、入力規則と Apex トリガが適用されます。Salesforce Classic では、入力規則と Apex トリガはスキップされます。

オブジェクトマネージャに[取引先チームメンバー]が追加されて、カスタムボタン、リンク、および項目を取引先チームメンバーレイアウトに追加できるようになりました。



取引先チームメンバーオブジェクトは、プロセスビルダーで使用できます。



取引先チームメンバーオブジェクトは、ワークフロールールを作成するときにも使用できます。

カスタムレポートタイプで取引先チームメンバーの [UserId (ユーザ ID)] 項目を使用して、取引先チームに関するレポートを作成できます。

関連トピック:

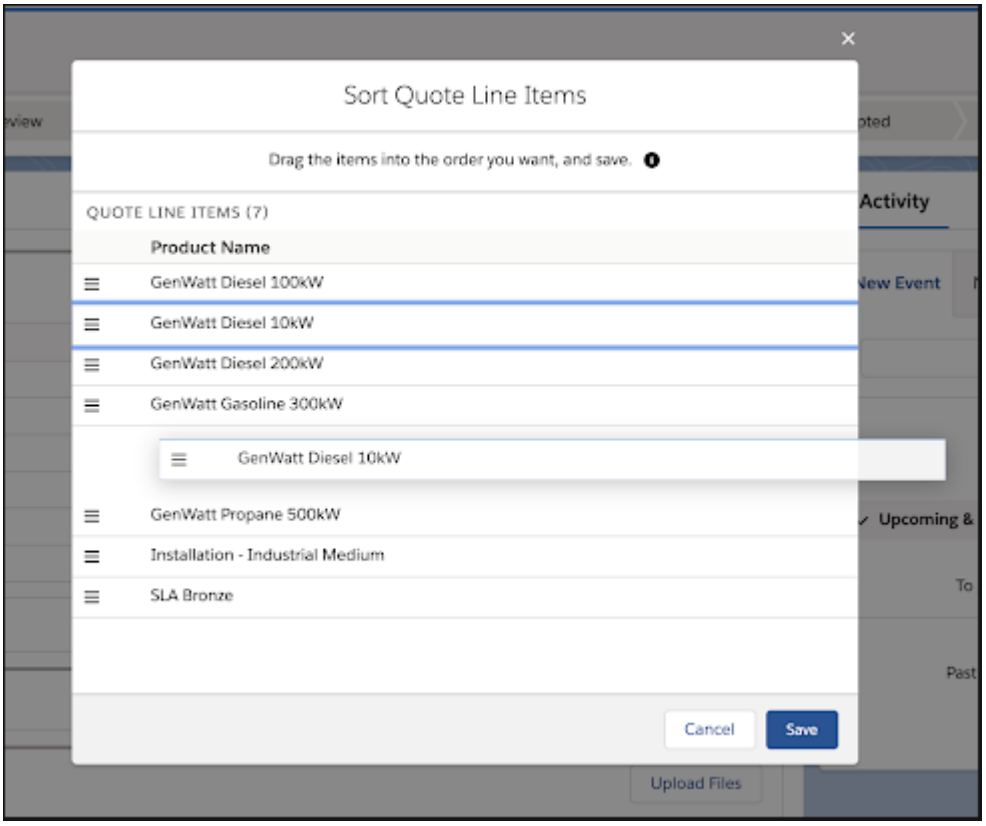
- 取引先責任者: カスタマイズ可能な取引先責任者の役割による追跡とレポートの改善
- プロセスビルダーによる取引先チームの自動作成

見積: Lightning Experience での任意の順序への見積品目名の並び替え

営業担当は簡単に見積品目名を目的の順序に並び替えることができます。同期したときに、関連する商談と PDF 見積でも優先される並び替え順序が更新されます。これまで、見積品目名の並び替えは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 編集中の見積のリストビューで、品目をドラッグし、必要な順序で並び替えます。見積は最大 200 品目まで並び替えできます。



関連トピック:

- Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え

商談: 並び替え、連動選択リスト、デフォルトの商品数量、チームのリストビュー

Lightning Experience で作業を行う営業チームは、商談にリストされる商品の順序を設定できるようになりました。営業担当は、連動選択リストと商談商品のデフォルト数量を使用して商品をよりすばやく追加できます。商談ページの新しいリストビューを使用すると、営業マネージャはチームの進行状況に集中できます。

このセクションの内容:

- Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え

  Lightning Experience で作業をしている営業担当は、商談の商品関連リストを簡単に整理できるようになりました。商品の並び方は、追加順には制限されなくなりました。以前は、Salesforce Classic でしか商品を並べ替えることはできませんでした。商談と見積がリンクされていて、どちらかのレコードで商品の並び順序を変更すると、同期時に並び順序が更新されます。

Lightning Experience での商談への商品の迅速な追加

営業担当が商品を商談に追加するときの生産性が向上します。連動選択リストにより、営業チームは商談の作成において完全な商品情報を指定できます。営業担当は、各商談商品を別々に開かなくても項目に入力することができるようになりました。すでに商談商品の複数行エディタで連動選択リストを使用している場合、営業担当は項目を編集できるようになりました。これまで、連動選択リスト項目は参照のみでした。

営業担当が商談を入力するときの商品数量のデフォルト設定

商談商品の数量をデフォルトで 1 に設定すると、営業担当が商品を商談に追加するときのクリック回数を減らすことができます。デフォルト値を追加することで、商品レイアウトから[数量]項目を削除できます。これまで、デフォルト数量を指定するには、カスタマーサポートに連絡する必要がありました。

Lightning Experience でチームが所有する商談を 1 クリックで表示

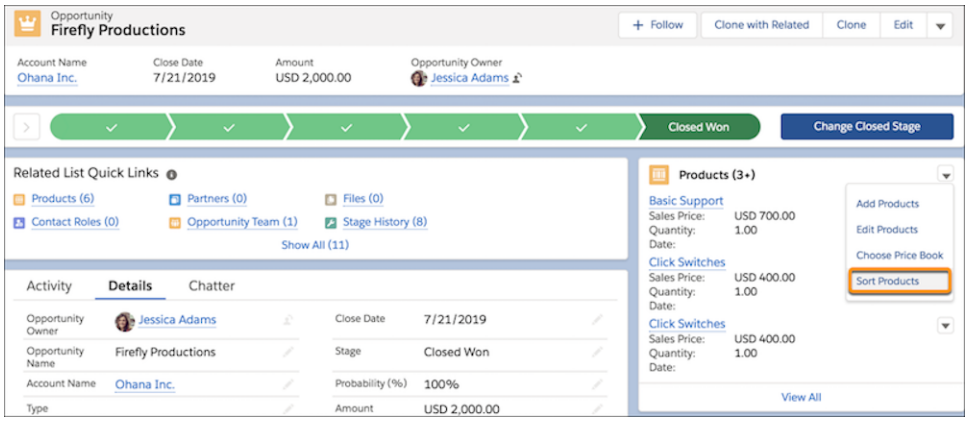
新しい [私のチームの商談] リストビューはロール階層に基づいています。営業マネージャはこれを使用して、直属部下やそれ以外の部下が所有するすべての商談を、関連リストビューを作成せずに簡単に表示できます。

Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え

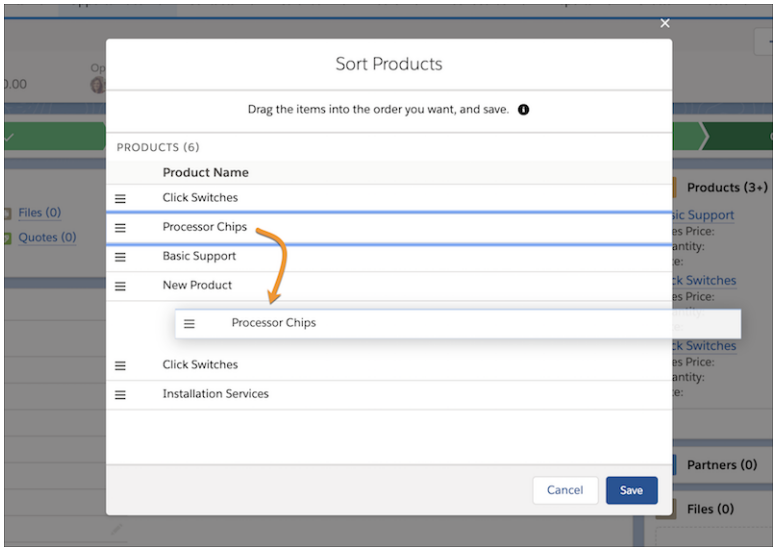
Lightning Experience で作業をしている営業担当は、商談の商品関連リストを簡単に整理できるようになりました。商品の並び方は、追加順には制限されなくなりました。以前は、Salesforce Classic でしか商品を並べ替えることはできませんでした。商談と見積がリンクされていて、どちらかのレコードで商品の並び順序を変更すると、同期時に並び順序が更新されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 営業担当は、[商品]関連リストの[商品を並び替え]アクションを使用して品目を並び替えることができます。



品目を目的の位置にドラッグします。



ユーザは、商品が 200 個以下の商談で順序を設定できます。

関連トピック:

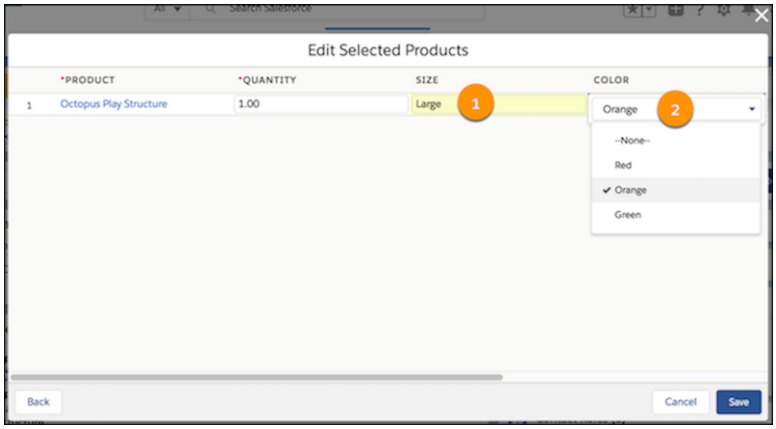
見積: Lightning Experience での任意の順序への見積品目名の並び替え

Lightning Experience での商談への商品の迅速な追加

営業担当が商品を商談に追加するときの生産性が向上します。連動選択リストにより、営業チームは商談の作成において完全な商品情報を指定できます。営業担当は、各商談商品を別々に開かなくても項目に入力することができるようになりました。すでに商談商品の複数行エディタで連動選択リストを使用している場合、営業担当は項目を編集できるようになりました。これまで、連動選択リスト項目は参照のみでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 商談商品の複数行エディタで連動選択リストを使用している場合、親選択リストのオプション (1) によって子選択リストで使用可能な選択肢 (2) が決まります。

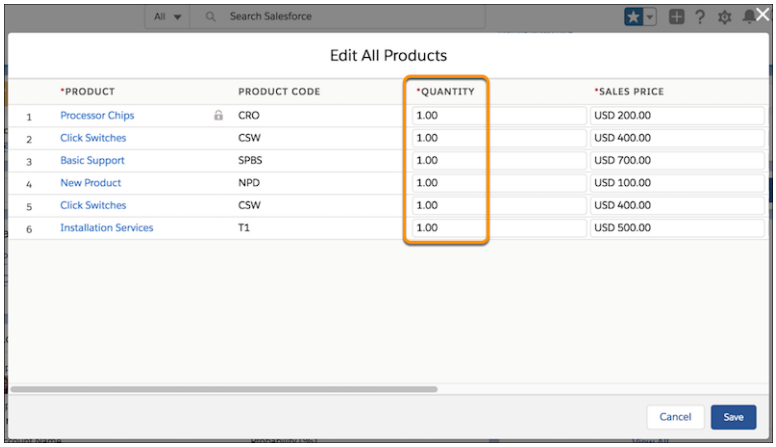


営業担当が商談を入力するときの商品数量のデフォルト設定

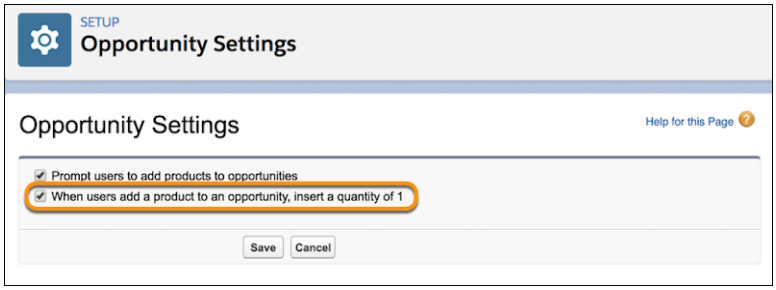
商談商品の数量をデフォルトで1に設定すると、営業担当が商品を商談に追加するときのクリック回数を減らすことができます。デフォルト値を追加することで、商品レイアウトから[数量]項目を削除できます。これまで、デフォルト数量を指定するには、カスタマーサポートに連絡する必要がありました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 数量が常に1の場合(サブスクリプションなど)や、入力時点では未定の場合、デフォルト数量1によって営業担当はより迅速に商品を追加できます。



方法: デフォルト数量1を追加するには、[商談の設定]ページに移動し、オプションを選択します。カスタマーサポートに連絡してデフォルト値を追加する場合、このオプションが選択されます。



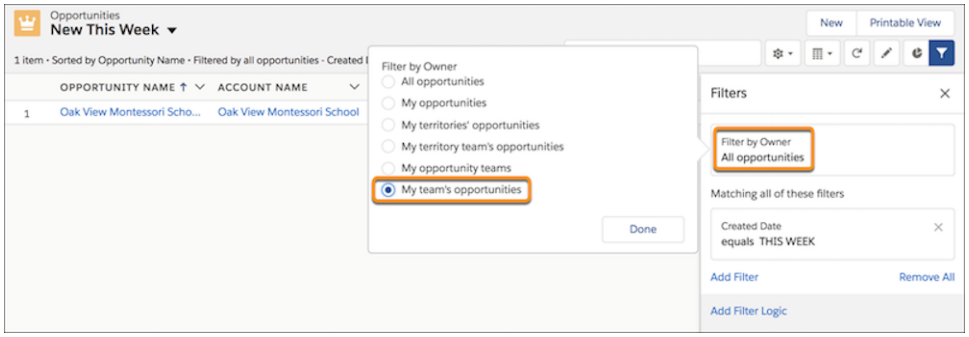
[数量]項目を非表示にするには、オブジェクトマネージャに移動し、[商談品目]ページレイアウトおよび複数行エディタレイアウトから項目を削除します。

Lightning Experience でチームが所有する商談を1クリックで表示

新しい[私のチームの商談]リストビューはロール階層に基づいています。営業マネージャはこれを使用して、直属部下やそれ以外の部下が所有するすべての商談を、関連リストビューを作成せずに簡単に表示できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [商談] ページで、、[所有者別に絞り込み] の順にクリックします。次に、[私のチームの商談] を選択します。[完了] をクリックします。



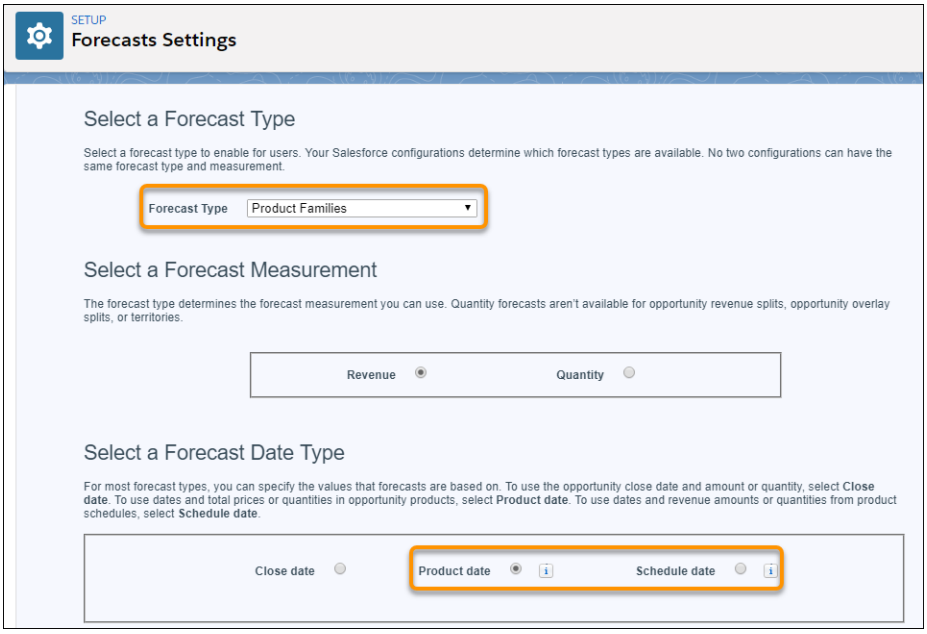
コラボレーション売上予測: Lightning Experience での商品ファミリ売上予測に追加されたオプション

コラボレーション売上予測は、商品提供日とスケジュール日を使用したロールベースの商品ファミリの売上予測をサポートするようになりました。以前は、商品ファミリの売上予測では完了日を使用していました。この変更により、会社でロール階層、商品ファミリ、そして商品提供日またはスケジュール日による売上予測をしている場合は、コラボレーション売上予測にビジネスモデルを反映させることができます。売上予測のユーザは、クイックアクションや商談リストでのテキストの折返しなど、Salesforce Classic にはなかった機能を使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [売上予測の設定] ページで売上予測種別を追加します。次の新しいロールベースの種別を使用できます。

- 商品提供日別商品ファミリ収益
- スケジュール日別商品ファミリ収益
- 商品提供日別商品ファミリ数量
- スケジュール日別商品ファミリ数量



SOAP API、REST API、そしてメタデータ API はコラボレーション売上予測をサポートします。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:コラボレーション売上予測の売上予測種別(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:コラボレーション売上予測の売上予測種別の有効化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:売上予測データ種別の理解(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: スケジュールまたは商品提供日売上予測種別の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンタープライズテリトリー管理: レポートと設定の改善

活動レポートにテリトリー情報が表示されるようになりました。割り当てルールを実行するための権限も変更され、[設定] でユーザが行える作業をより詳細に制御できるようになりました。

このセクションの内容:

テリトリー詳細による活動レポートの強化

営業チームは、有効なテリトリーモデルの情報を活動レポートに含めることができるようになりました。これにより、たとえば、ToDo と、関連付けられている取引先および割り当てられている有効なテリトリーのリストを作成できます。

テリトリーを割り当てるための権限要件の変更

テリトリー割り当てルールと商談テリトリー割り当て検索条件の実行には、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が不要になりました。「テリトリーの管理」権限があれば、これらの作業を実行できます。このセキュリティ強化により、[設定] でユーザが行える作業をより詳細に制御できるようになりました。たとえば、ビジネス担当マネージャーなどの興味のあるパーティに対して、機能のカスタマイズは許可せずに、テリトリー割り当てルールを実行できるように設定することができます。

関連トピック:

- エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)
- メタデータ API で公開される設定

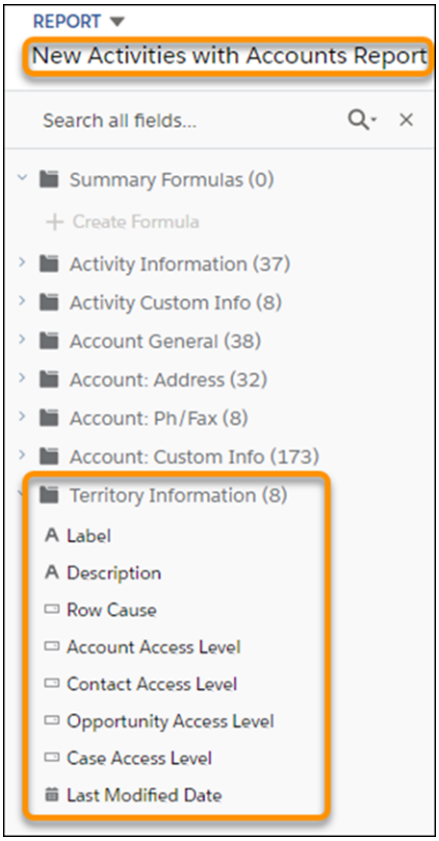
テリトリー詳細による活動レポートの強化

営業チームは、有効なテリトリーモデルの情報を活動レポートに含めることができるようになりました。これにより、たとえば、ToDo と、関連付けられている取引先および割り当てられている有効なテリトリーのリストを作成できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: これらの標準レポートを作成または編集するときに、テリトリー項目を追加します。

- 取引先が関連する活動
- 取引先責任者に関連する活動
- 商談に関連する活動
- 契約に関連する活動



メモ: 活動レポートの出力では、次のようになります。

- 「ラベル」がテリトリー名です。
- 「説明」がテリトリーの説明です。

元のテリトリー管理機能から移行した場合は、次のようにしてください。

- エンタープライズテリトリー管理を使用して活動レポートを再作成します。元の機能で活動レポートに追加されたテリトリー項目は、エンタープライズテリトリー管理のレポートには表示されません。
- 元のテリトリー管理機能で取引先をテリトリーに割り当てていた場合は、エンタープライズテリトリー管理の活動レポートに、それらのレコードの行が含まれますが、それ以外の情報は含まれません。レポートを絞り込んで、[ラベル] セルが空で [テリトリー割り当て方法] セルが定義されている行を除外します。

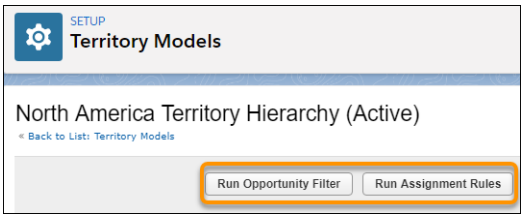
テリトリーを割り当てるための権限要件の変更

テリトリー割り当てルールと商談テリトリー割り当て検索条件の実行には、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が不要になりました。「テリトリーの管理」権限があれば、これらの作業を実行できます。このセキュリティ強化により、[設定] でユーザが行える作業をより詳細に制御できるようになりました。たとえば、ビジネス担当マネージャーなどの興味のあるパーティに対して、機能のカスタマイズは許可せずに、テリトリー割り当てルールを実行できるように設定することができます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「テリトリーの管理」権限または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザが、割り当てルールと割り当て検索条件を実行できます。

方法: ユーザに機能のカスタマイズは許可せずに、ユーザがテリトリー割り当てを自動化できるようにするには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限ではなく「テリトリーの管理」権限を付与します。



「テリトリーの管理」または「アプリケーションのカスタマイズ」が割り当てられているユーザには、[設定] に [商談検索条件の実行] ボタンと [割り当てルールの実行] ボタンが表示されます。

価格表エントリ: 項目履歴管理と項目監査履歴を使用した変更の追跡

価格表エントリで項目監査履歴と項目履歴管理がサポートされ、価格表エントリ項目への変更を簡単に追跡できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 項目履歴管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 項目監査履歴 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

パス: 管理パッケージからの使用されていないパスの削除

管理パッケージに、ビジネスニーズに適合しないパスが含まれている場合があります。第一世代管理パッケージからパスを削除できるようになりました。レコードはデータベースに残りますが、インデックスや以降のアップグレードからは削除され、割り当てにはカウントされません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] で、[クイック検索] を使用して [パス設定] を開きます。パスを見つけて削除します。

中核的なセールス機能のその他の変更

Lightning Experience で作業する取引先チームと商談チームには、取引先および商談レコードへのチームメンバーのアクセス権が表示されます。商談商品の [スケジュール] 関連リストにレコードの [編集] および [削除] アクションが追加されました。また、取引先の [関連取引先責任者] 関連リストに [リレーションを編集] アクションも追加されました。必ずエンタープライズテリトリー管理の重要な更新を有効にしてください。カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。エンタープライズテリトリー管理への移行を容易にするために、メタデータ API が更新されました。

このセクションの内容:

Lightning Experience で取引先および商談チームの誰が何を見られるかを知る方法
チームがコラボレーションする場合は、取引先や商談、そして関連するレコードを誰が表示または編集できるかを知っておいた方が効果的な作業が行えます。Lightning Experience で作業を行うチームは、他のチームメンバーによるレコードへのアクセス権について知ることができます。以前は、チームメンバーのアクセスは Salesforce Classic でしか表示できませんでした。

商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加
商談を扱う営業担当の使い勝手を向上させるため、スケジュール関連リストの項目に [編集] と [削除] のアクションを追加しました。

取引先に関連する取引先責任者の関連リストへの行レベルアクションの追加
取引先に関連する取引先責任者の処理を簡略化するために、行レベルの [リレーションを編集] アクションが取引先の [関連取引先責任者] 関連リストの項目に追加されました。これまで、ユーザが取引先–取引先責任者リレーションを編集するには、[取引先と取引先責任者のリレーション] 詳細ページに移動する必要がありました。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)
この更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

カスタマイザブル売上予測の廃止
カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理の廃止
元のテリトリー管理機能は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

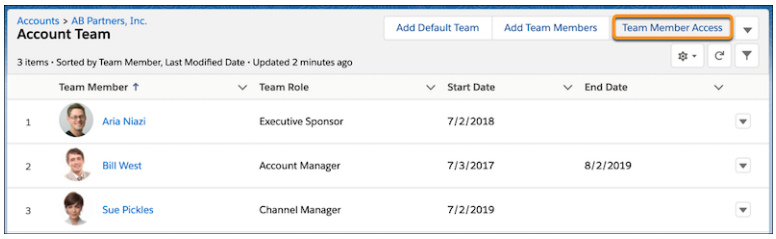
エンタープライズテリトリー管理への円滑な移行作業
元のテリトリー管理機能から移行する場合、適当なタイミングでメタデータ API を使用してテリトリー共有レコードを削除します。安全を期すために、共有レコードは、Salesforce カスタマーサポートが元の機能を無効にするまで削除されません。そのため、営業チームは移行中でも作業を継続できます。

Lightning Experience で取引先および商談チームの誰が何を見られるかを知る方法

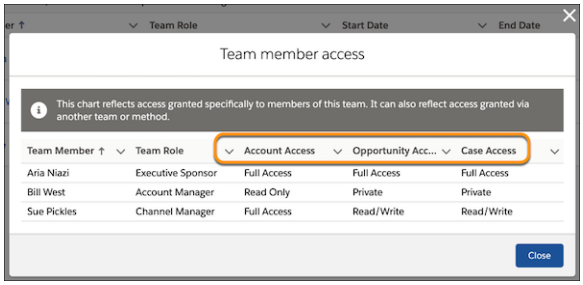
チームがコラボレーションする場合は、取引先や商談、そして関連するレコードを誰が表示または編集できるかを知っておいた方が効果的な作業が行えます。Lightning Experience で作業を行うチームは、他のチームメンバーによるレコードへのアクセス権について知ることができます。以前は、チームメンバーのアクセスは Salesforce Classic でしか表示できませんでした。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

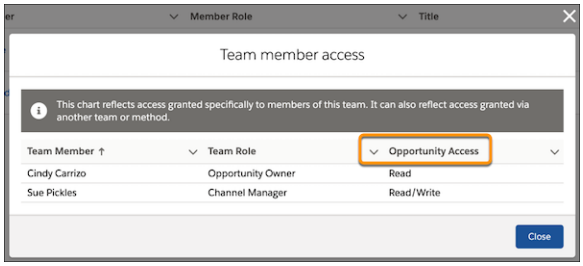
方法: [チームメンバーのアクセス権] アクションによってウィンドウが開き、各チームメンバーが編集または表示できるレコードが表示されます。各チームメンバーの最大アクセス権が表示されます。これは、取引先や商談に対して付与されているアクセス権とは異なる場合があります。



取引先チームの場合、このウィンドウには、取引先と関連するケースや商談に対する各メンバーのアクセス権が表示されます。取引先責任者の組織の共有設定が [親レコードに連動] の場合、ウィンドウには関連取引先責任者へのアクセス権も表示されます。



商談チームの場合、ウィンドウには、商談に対する各メンバーのアクセス権が表示されます。



商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加

商談を扱う営業担当の使い勝手を向上させるため、スケジュール関連リストの項目に [編集] と [削除] のアクションを追加しました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

取引先に関連する取引先責任者の関連リストへの行レベルアクションの追加

取引先に関連する取引先責任者の処理を簡略化するために、行レベルの[リレーションを編集]アクションが取引先の [関連取引先責任者] 関連リストの項目に追加されました。これまで、ユーザが取引先–取引先責任者リレーションを編集するには、[取引先と取引先責任者のリレーション] 詳細ページに移動する必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)

この更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この更新は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新はすぐに有効化できます。また、Spring '20 ではこの更新が自動的に有効化されます。

理由: Winter '19 以前:

- 取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに、`TerritoryManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれていました。
- 取引先をテリトリーグループと手動で共有することはできませんでした。

この更新が有効化されている場合:

- すべての `TerritoryManual` インスタンスが `Territory2AssociationManual` 理由コードに置き換えられます。
- 取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに、`Territory2AssociationManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれます。
- 取引先をテリトリーグループと手動で共有できます。

方法: この更新を Sandbox または Developer Edition 組織でテストしてから、本番組織で有効にすることをお勧めします。この更新を有効にするには、[設定] で [重要な更新] に移動し、[エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化] の横にある [有効化] をクリックします。更新を有効化すると無効化できません。

AccountShare オブジェクトを直接操作する Apex コードまたはインテグレーションがある場合、`TerritoryManual` 理由コードのすべてのインスタンスを `Territory2AssociationManual` に更新してください。この更新を有効化した後に Apex コードまたはインテグレーションで問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティの更新

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: コラボレーション売上予測の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。元のテリトリー管理機能を使用している場合も、エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

関連トピック:

- ナレッジ記事: カスタマイズ可能な売上予測を Summer '20 リリースで廃止
- 元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。カスタマイザブル売上予測を使用している場合も、コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

関連トピック:

- ナレッジ記事: 元のテリトリー管理モジュールを Summer '20 リリースで廃止
- エンタープライズテリトリー管理への円滑な移行作業
- カスタマイザブル売上予測の廃止

エンタープライズテリトリー管理への円滑な移行作業

元のテリトリー管理機能から移行する場合、適当なタイミングでメタデータ API を使用してテリトリー共有レコードを削除します。安全を期すために、共有レコードは、Salesforce カスタマーサポートが元の機能を無効にするまで削除されません。そのため、営業チームは移行中でも作業を継続できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce カスタマーサポートに連絡して、新しい共有設定メタデータ API 種別の `enableRemoveTMGroupMembership` 項目を有効にします。テリトリーモデルを有効にするときに、

`enableRemoveTMGroupMembership` 項目を使用して元のテリトリー共有レコードを削除します。その後で、テリトリーモデルを有効にして移行を完了します。

関連トピック:

元のテリトリー管理の廃止

生産性機能: Einstein 活動キャプチャの改善、より堅牢になったメール、活動タイムラインの機能強化、カレンダーの効率化

Einstein 活動キャプチャの設定をより詳細に制御します。書式設定されたテーブルと関連ファイルを添付ファイルにしてメールを活用できます。新しい HTML タグを Lightning メールテンプレートで使用します。アーカイブされた活動が表示され、活動タイムラインからのナビゲーションが向上しています。Lightning Dialer でカスタム通話者 ID を使用します。対応可能状況ビューとユーザリストカレンダーを組み合わせて行動をよりすばやくスケジュールします。

このセクションの内容:

Einstein 活動キャプチャ:キャプチャして同期するデータのより詳細な制御、アカウントの接続に関する通知

メールデータをキャプチャするかどうかを決定し、[除外アドレス] リストを使用してデータが同期されないようにして、営業担当に一連の行動の同期を許可できます。さらに、営業担当が接続の問題をトラブルシューティングするのが簡単になりました。

メール環境: 画像、テーブル、添付ファイル

営業担当は、より多くの方法でメールを活性化できます。営業担当は、書式設定されたテーブルを含めたり、インライン画像をコピーしたり、簡単に関連ファイルを添付ファイルとして追加したりできます。

メールテンプレート: 新しい HTML タグ、署名の差し込み項目、簡単なテンプレートの挿入

テンプレート作成者は、新しい HTML タグで Lightning メールテンプレートを活性化したり、差し込み項目を使用して送信者の署名を自動的に追加したりできます。営業担当は、更新された [メールテンプレートを挿入] モーダルですばやくテンプレートを挿入できます。

活動と ToDo: 活動タイムラインのアーカイブ済み活動および無限スクロール、および ToDo のクリックして完了

営業担当は、活動タイムラインのアーカイブ済み活動を使用して、顧客の履歴の最新情報を得られます。無限スクロールと月別にグループ化された活動により、営業担当は目的の活動に簡単にたどり着くことができます。さらに、営業担当はテーブルビューからワンクリックで ToDo を完了できるようになりました。

Lightning Dialer: カスタム通話者 ID の使用

営業担当が電話をかけるときに既存の電話番号を通話者 ID として使用できたらどうでしょうか? このリリースでは、携帯電話番号やメインのビジネス回線を個人設定から Lightning Dialer に割り当てることができるようになりました。

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

カレンダー: Lightning Experience の詳細および効率の向上

営業担当は、Lightning Experience で詳細をより短時間で確認できます。営業担当は、対応可能状況ビューとユーザリストを組み合わせてカレンダーを見比べて、顧客との予定をよりすばやくスケジュールできます。さらに、カレンダーにはデフォルトの週表示ではなく最近のビューが自動的に表示されます。また、営業担当は行動を開かなくても、件名、関連レコード、時間を確認できます。

Einstein 活動キャプチャ: キャプチャして同期するデータのより詳細な制御、アカウントの接続に関する通知

メールデータをキャプチャするかどうかを決定し、[除外アドレス] リストを使用してデータが同期されないようにして、営業担当に一連の行動の同期を許可できます。さらに、営業担当が接続の問題をトラブルシューティングするのが簡単になりました。

このセクションの内容:

Einstein 活動キャプチャを使用してメールデータをキャプチャするかどうかの制御

デフォルトでは、Einstein 活動キャプチャは、メールを営業担当の接続済みアカウントから関連 Salesforce レコードの活動タイムラインに追加します。Einstein 活動キャプチャの機能をより詳細に制御するため、メールキャプチャプロセスを無効にできるようになりました。

Einstein 活動キャプチャ設定に追加できるユーザの明瞭化

Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを追加するときに、追加可能なユーザのリストに Einstein 活動キャプチャユーザしか含まれないようになりました。以前のリストには、設定が適用されないユーザも含めてすべてのユーザが含まれていました。

Einstein 活動キャプチャで特定の行動の同期防止

自分または営業担当がメールアドレスまたはドメインを [除外アドレス] リストに追加すると、その人物または会社に関連付けられた行動は Salesforce と接続済みアカウント間で同期されません。この変更により、特定のデータを Einstein 活動キャプチャから除外する場合の動作がより予測しやすくなります。以前は、[除外アドレス] リストはメールおよび行動のキャプチャのみに適用されていました。

Einstein 活動キャプチャを使用した Salesforce と Microsoft アカウント間での繰り返される行動の同期

営業担当に、Lightning Experience または Salesforce アプリケーションと接続された Microsoft アカウント間で一連の行動と呼ばれる繰り返される行動の同期を許可できるようになりました。以前は、Einstein 活動キャプチャではユーザが一連の行動を同期することはできませんでした。

アカウント接続に注意が必要な場合の通知の受信

Einstein 活動キャプチャを使用するには、営業担当は Google または Microsoft アカウントを Salesforce に接続します。アカウント接続のいずれかに問題がある場合、アカウントを再接続できるように営業担当に通知されるようになりました。

行動の同期の改善

行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Einstein 活動キャプチャは常に営業担当が元々招待したレコードまたは行動に関連付けたレコードを保持します。

Einstein 活動キャプチャのデータストレージ容量の変更

経時的に保存される活動データの量にはデフォルトの量があります。Sales Cloud Einstein、Inbox、または High Velocity Sales で Einstein 活動キャプチャを使用している場合、デフォルトの量を 3 か月から 5 年の範囲で変更できます。以前はこの範囲は 30 日から 5 年でした。Einstein 活動の標準を使用している場合、デフォルトの量を 3 か月から 6 か月の範囲で変更できます。以前は、デフォルトの量は変更できませんでした。

活動ダッシュボードでユーザ別の取引先と商談が非表示に

Activities ダッシュボードの [詳細] タブには、活動を取引先と商談別に分類したグラフが含まれます。パフォーマンスを向上するため、グラフの分類項目にユーザは含まれなくなりました。

Einstein 活動キャプチャを使用してメールデータをキャプチャするかどうかの制御

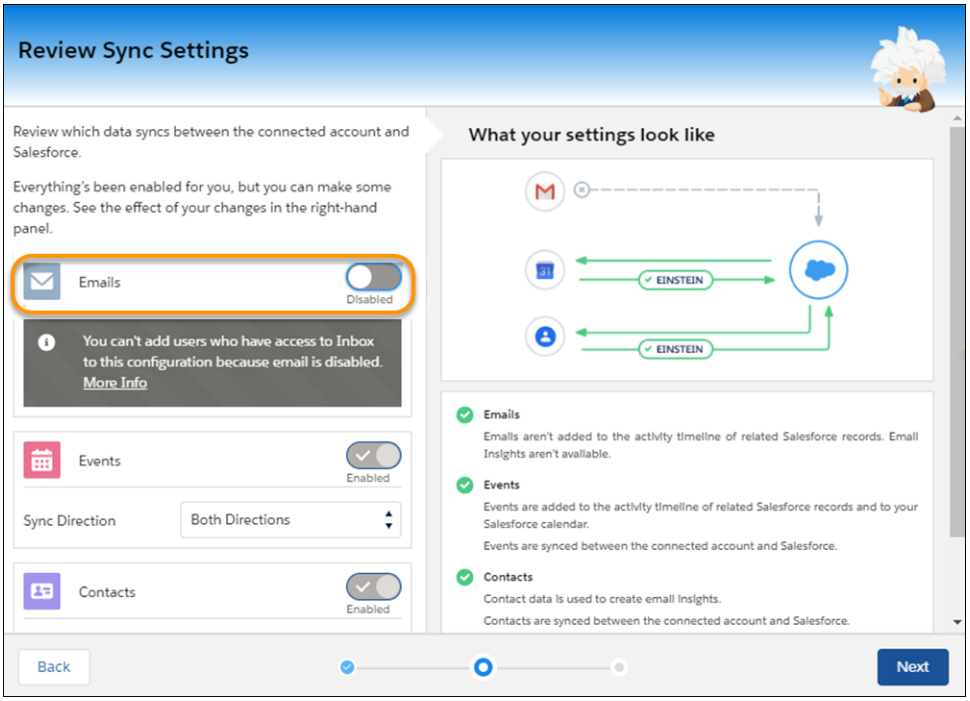
デフォルトでは、Einstein 活動キャプチャは、メールを営業担当の接続済みアカウントから関連 Salesforce レコードの活動タイムラインに追加します。Einstein 活動キャプチャの機能をより詳細に制御するため、メールキャプチャプロセスを無効にできるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Einstein 活動キャプチャユーザのメールの中には、Salesforce レコードでの表示に適していない機密データが含まれるものもあります。こうしたユーザのメールキャプチャを無効にすると、そのメールは関連 Salesforce レコードに表示されなくなります。さらに、Salesforce にはこうしたメールが保存されません。

方法: [Einstein 活動キャプチャ] 設定から、メールを無効にします。メールキャプチャは設定のすべてのユーザで無効になります。

メモ: Inbox へのアクセス権がある Einstein 活動キャプチャユーザのメールキャプチャを無効にすることはできません。メールデータは、対応可能時間の挿入や推奨接続など、Inbox の生産性機能に使用されます。



関連トピック:

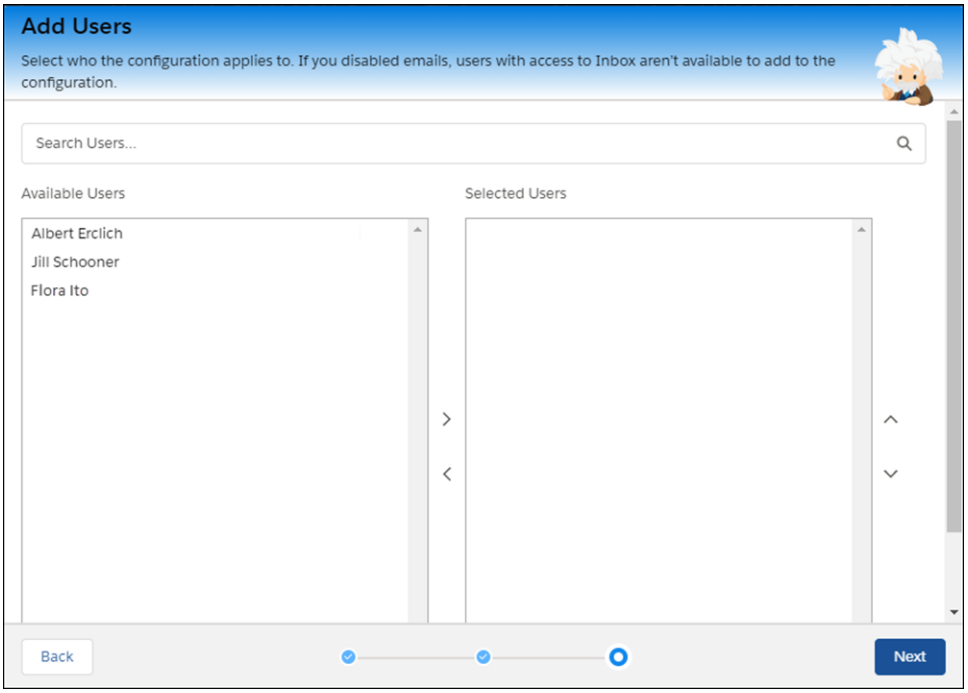
- Einstein 活動キャプチャ設定に追加できるユーザの明瞭化

Einstein 活動キャプチャ設定に追加できるユーザの明瞭化

Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを追加するときに、追加可能なユーザのリストに Einstein 活動キャプチャユーザしか含まれないようになりました。以前のリストには、設定が適用されないユーザも含めてすべてのユーザが含まれていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Einstein 活動キャプチャを使用している営業担当のみを表示することで、どのユーザを設定に追加するかをより簡単に確認できるようになりました。さらに、メールを無効にしている場合、Inbox へのアクセス権のある営業担当は設定に追加できず、これによって Inbox の機能の効率を最大限にできます。



関連トピック:

Einstein 活動キャプチャを使用してメールデータをキャプチャするかどうかの制御

Einstein 活動キャプチャで特定の行動の同期防止

自分または営業担当がメールアドレスまたはドメインを[除外アドレス]リストに追加すると、その人物または会社に関連付けられた行動は Salesforce と接続済みアカウント間で同期されません。この変更により、特定のデータを Einstein 活動キャプチャから除外する場合の動作がより予測しやすくなります。以前は、[除外アドレス] リストはメールおよび行動のキャプチャのみに適用されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Considerations for Excluding Data from Einstein Activity Capture (Einstein 活動キャプチャからデータを除外する場合の考慮事項) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

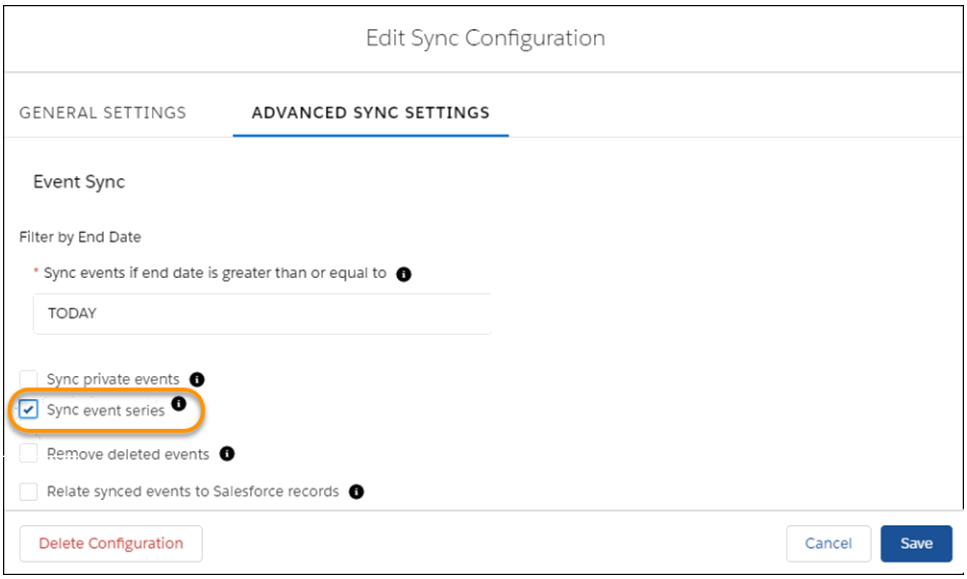
Einstein 活動キャプチャを使用した Salesforce と Microsoft アカウント間での繰り返される行動の同期

営業担当に、Lightning Experience または Salesforce アプリケーションと接続された Microsoft アカウント間で一連の行動と呼ばれる繰り返される行動の同期を許可できるようになりました。以前は、Einstein 活動キャプチャではユーザが一連の行動を同期することはできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: 一連の行動の同期を使用できるのは、Microsoft **アカウントを** Salesforce **に接続している** Einstein **活動キャプチャユーザです。**

方法: 設定を編集し、[高度な同期設定] タブをクリックします。[一連の行動を同期] を選択します。



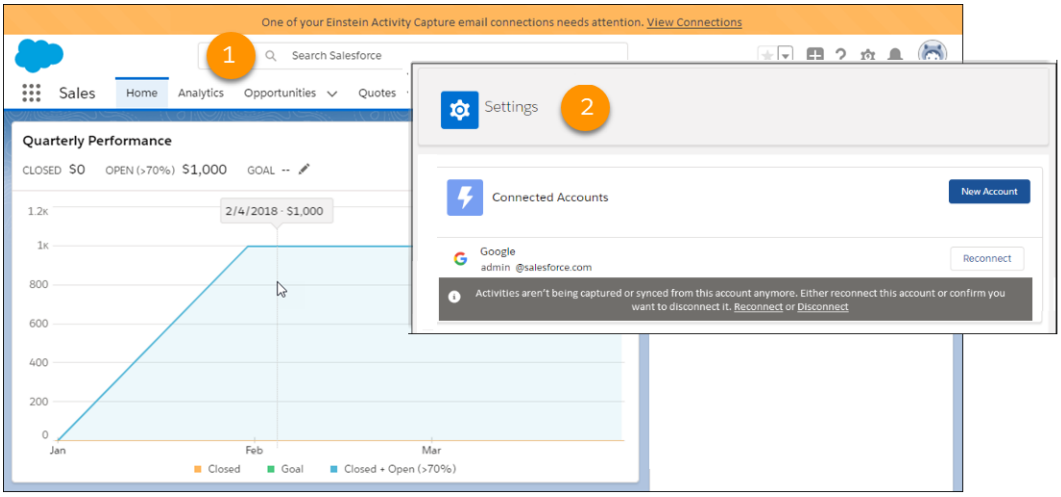
アカウント接続に注意が必要な場合の通知の受信

Einstein **活動キャプチャを使用するには、営業担当は** Google **または** Microsoft **アカウントを** Salesforce **に接続します。アカウント接続のいずれかに問題がある場合、アカウントを再接続できるように営業担当に通知されるようになりました。**

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

理由:

営業担当の接続に問題がある場合、通知 (1) **によって営業担当は接続設定ページ** (2) **に誘導されます。**



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャを使用したメールとカレンダーの Salesforce への接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

行動の同期の改善

行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Einstein 活動キャプチャは常に営業担当が元々招待したレコードまたは行動に関連付けたレコードを保持します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

Einstein 活動キャプチャのデータストレージ容量の変更

経時的に保存される活動データの量にはデフォルトの量があります。Sales Cloud Einstein、Inbox、または High Velocity Sales で Einstein 活動キャプチャを使用している場合、デフォルトの量を 3 か月から 5 年の範囲で変更できます。以前はこの範囲は 30 日から 5 年でした。Einstein 活動の標準を使用している場合、デフォルトの量を 3 か月から 6 か月の範囲で変更できます。以前は、デフォルトの量は変更できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: デフォルトのストレージ容量を変更するには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャのデータ保持 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動ダッシュボードでユーザ別の取引先と商談が非表示に

Activities ダッシュボードの [詳細] タブには、活動を取引先と商談別に分類したグラフが含まれます。パフォーマンスを向上するため、グラフの分類項目にユーザは含まれなくなりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Activities ダッシュボードの確認 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メール環境: 画像、テーブル、添付ファイル

営業担当は、より多くの方法でメールを活性化できます。営業担当は、書式設定されたテーブルを含めたり、インライン画像をコピーしたり、簡単に関連ファイルを添付ファイルとして追加したりできます。

このセクションの内容:

パートナーおよびカスタマーコミュニティユーザのリストメールを使用したコミュニケーションの強化

Partner または Customer Community ライセンスを持つユーザは、Lightning Experience を使用してキャンペーンの受信者や、取引先責任者、リード、個人取引先リストにリストメールを送信できます。また、リストビューの個々のレコードを選択することもできます。リストメールでは、グループ全体に1つのメールではなく、リストにある各受信者に個別のメールが送信されます。ユーザは、差し込み項目を使用して、受信者やそれらの関連レコードに固有のメールの各コピーを作成できます。

ワンクリックで検索できるメール添付ファイル

簡単にファイルをメール添付ファイルとして送信できるようになりました。営業担当は、メールに添付するファイルを選択するときに、新しい [関連ファイル] リンクを使用できます。リンクをクリックすると、レコードに含まれるすべてのファイルが表示されます。この機能は、活動が有効になっているすべてのオブジェクト (リード、取引先責任者、個人取引先、商談、ケース、カスタムオブジェクトなど) に適用されます。

メールへのインライン画像の迅速な追加

より迅速に画像をメールに追加できるようになりました。最初に画像を保存せずに、インターネットや他のアプリケーションの画像をメールコンポーザに直接コピーして貼り付けることができます。

スタイルを保持したままのメールへのテーブルの追加

メールコンポーザでスタイルタグを保持したままテーブルをコピーして貼り付けることができるようになりました。営業担当が元の形式で顧客と情報を共有できるように、テーブルではスタイル設定(太字のフォントや背景色など)が保持されます。メールプレビューでは、テーブルがコンポーザのメール本文のテーブルや受信者に送信されるテーブルと同じように表示されます。顧客が何を受信したのかを推測する必要はもうありません。

デフォルトのメールフォントの設定

営業担当のメールコンポーザのデフォルトフォントが、営業担当がブラウザで設定したフォントを反映するようになりました。同様に、メール受信者にはブラウザで設定されたデフォルトフォントでメールが表示されます。メール受信者に同じフォントでメールを表示するには、営業担当はメールコンポーザのツールバーを使用して、送信するコンテンツのフォントを明示的に選択できます。

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (重要な更新、適用)

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。代わりに、Salesforce によって公開鍵を含む TXT レコードが DNS に公開されます。鍵がサードパーティによって侵害されるリスクを軽減するため、自動的な鍵の循環も追加されます。古い方法で生成された鍵も機能しますが、Winter '20 では、新しい鍵を生成する場合、よりセキュアな方法を使用する必要があります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM 鍵のインポート機能が削除されます。

Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備

Summer '20 以降、Salesforce はメールアドレスに非ラテンベースの言語文字を使用できるように、UTF-8 文字コードを介してメールアドレスの国際化 (EAI) をサポートします。Salesforce は、すべての標準メール項目でこの切り替えの準備ができていることを確認しており、カスタムメール項目を準備するために実行できる手順も伝えています。切り替え後に国際メールアドレスを使用する必要はありませんが、使用する場合は、組織の準備によってスムーズに移行できます。

柔軟性が向上したメールの [宛先]、[CC]、[BCC] 項目

Salesforce から最大 150 人の受信者にメールを送信できます。以前は、[宛先] 項目に 100 件のメールアドレス、[CC] 項目と [BCC] 項目にそれぞれ 25 件のアドレスを含めることができました。3 つの項目の任意の組み合わせで 150 件のメールアドレス (項目ごとに最大 4,000 文字) を送信できるようになりました。

パートナーおよびカスタマーコミュニティユーザのリストメールを使用したコミュニケーションの強化

Partner または Customer Community ライセンスを持つユーザは、Lightning Experience を使用してキャンペーンの受信者や、取引先責任者、リード、個人取引先リストにリストメールを送信できます。また、リストビューの個々のレコードを選択することもできます。リストメールでは、グループ全体に 1 つのメールではなく、リストにある各受信者に個別のメールが送信されます。ユーザは、差し込み項目を使用して、受信者やそれらの関連レコードに固有のメールの各コピーを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: リストメールのサポートは、Partner Community または Customer Community 権限セットライセンスを持つ、コミュニティが有効になっている組織のユーザが利用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティテンプレートの標準のコンポーネントおよびページでサポートされるオブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

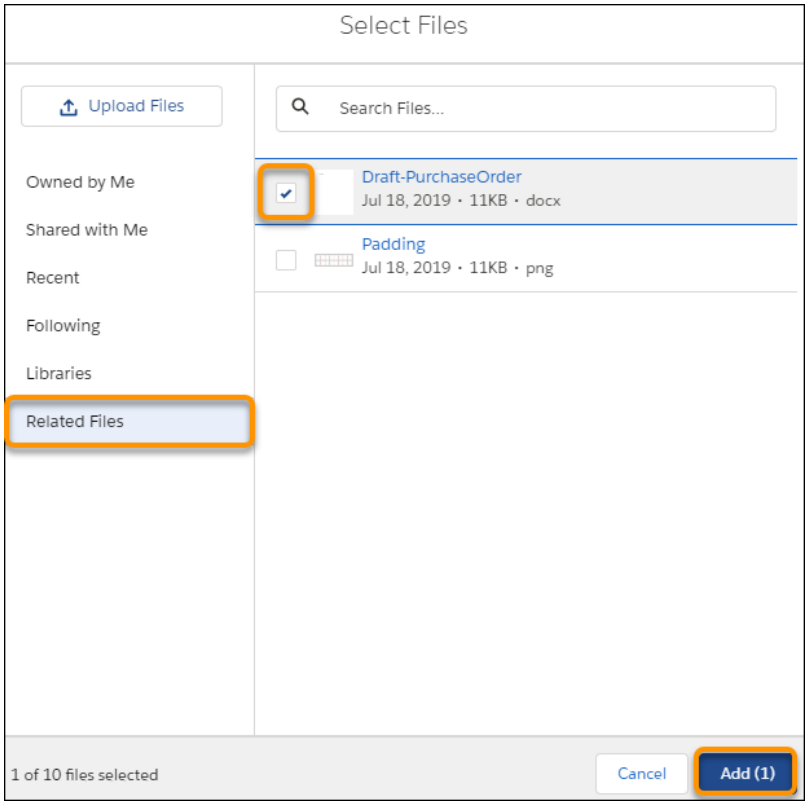
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのリストメールの送信に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ワンクリックで検索できるメール添付ファイル

簡単にファイルをメール添付ファイルとして送信できるようになりました。営業担当は、メールに添付するファイルを選択するときに、新しい[関連ファイル]リンクを使用できます。リンクをクリックすると、レコードに含まれるすべてのファイルが表示されます。この機能は、活動が有効になっているすべてのオブジェクト(リード、取引先責任者、個人取引先、商談、ケース、カスタムオブジェクトなど)に適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: メールに添付するファイルを選択するときに [関連ファイル] をクリックします。添付するファイルを選択し、[追加] をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのメール差し込み項目、テンプレート、および添付ファイルへのアクセスと共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールへのインライン画像の迅速な追加

より迅速に画像をメールに追加できるようになりました。最初に画像を保存せずに、インターネットや他のアプリケーションの画像をメールコンポーザに直接コピーして貼り付けることができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メール、メールテンプレート、拡張レターヘッドでの画像の使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

スタイルを保持したままのメールへのテーブルの追加

メールコンポーザでスタイルタグを保持したままテーブルをコピーして貼り付けることができるようになりました。営業担当が元の形式で顧客と情報を共有できるように、テーブルではスタイル設定 (太字のフォントや背景色など) が保持されます。メールプレビューでは、テーブルがコンポーザのメール本文のテーブルや受信者に送信されるテーブルと同じように表示されます。顧客が何を受信したのかを推測する必要はもうありません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールを処理するためのガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デフォルトのメールフォントの設定

営業担当のメールコンポーザのデフォルトフォントが、営業担当がブラウザで設定したフォントを反映するようになりました。同様に、メール受信者にはブラウザで設定されたデフォルトフォントでメールが表示されます。メール受信者に同じフォントでメールを表示するには、営業担当はメールコンポーザのツールバーを使用して、送信するコンテンツのフォントを明示的に選択できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: ボタンを使用してメールのフォントを変更します。この選択は、送信者と受信者のデフォルトのブラウザフォントを上書きします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールを処理するためのガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (重要な更新、適用)

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。代わりに、Salesforce によって公開鍵を含む TXT レコードが DNS に公開されます。鍵がサードパーティによって侵害されるリスクを軽減するため、自動的な鍵の循環も追加されます。古い方法で生成された鍵も機能しますが、Winter '20 では、新しい鍵を生成する場合、よりセキュアな方法を使用する必要があります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM 鍵のインポート機能が削除されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、Winter '20 リリースで適用されます。

関連トピック:

Winter '19 リリースノート: 再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善

Salesforce ヘルプ: 安全な DKIM 鍵の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティの更新

Summer '20 のメールアドレスの国際化への準備

Summer '20 以降、Salesforce はメールアドレスに非ラテンベースの言語文字を使用できるように、UTF-8 文字コードを介してメールアドレスの国際化 (EAI) をサポートします。Salesforce は、すべての標準メール項目でこの切り替えの準備ができていることを確認しており、カスタムメール項目を準備するために実行できる手順も伝えています。切り替え後に国際メールアドレスを使用する必要はありませんが、使用する場合は、組織の準備によってスムーズに移行できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: EAI は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

方法: 国際化メールを使用する場合、3 つのパートでメールアドレスの国際化 (EAI) のサポートを準備します。

- UTF-8 のサポートがメールのパス全体に存在していることを確認する
- 最新の Apex および API バージョンを採用する
- メールアドレスを保存するすべての項目でそのメールデータ型を使用していることを確認する

詳細は、ナレッジ記事「Prepare for Email Address Internationalization (メールアドレスの国際化の準備)」を参照してください。

柔軟性が向上したメールの [宛先]、[CC]、[BCC] 項目

Salesforce から最大 150 人の受信者にメールを送信できます。以前は、[宛先] 項目に 100 件のメールアドレス、[CC] 項目と [BCC] 項目にそれぞれ 25 件のアドレスを含めることができました。3 つの項目の任意の組み合わせで 150 件のメールアドレス (項目ごとに最大 4,000 文字) を送信できるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メールテンプレート: 新しい HTML タグ、署名の差し込み項目、簡単なテンプレートの挿入

テンプレート作成者は、新しい HTML タグで Lightning メールテンプレートを活性化したり、差し込み項目を使用して送信者の署名を自動的に追加したりできます。営業担当は、更新された [メールテンプレートを挿入] モーダルですばやくテンプレートを挿入できます。

このセクションの内容:

メールテンプレートに表示されるスタイルの増加
メールテンプレートで <head>、<meta>、<title>、<style> タグがサポートされるようになりました。これらのタグにより、営業サポートスタッフの創造性が高まります。また、コードで <style> タグを使用してレスポンシブ HTML メールを設計することもできます。これらのタグが含まれるメールテンプレートは、メール、リストメール、ケースで使用します。

メールテンプレートへの署名の追加
メールテンプレート作成者は、新しい {{{Sender.Signature}}} 差し込み項目を使用して、送信者の既存の署名をメールテンプレートに含めることができます。この項目は、差し込み項目ピッカーが存在する任意の場所 (メール、リストメール、拡張レターヘッドなど) で使用できます。

重要なメールテンプレートの迅速な検索
営業担当が最もよく使用するテンプレートを簡単に見つけることができるように [メールテンプレートを挿入] モーダルが改善されました。また、営業担当は必要なテンプレートの詳細を確認できます。

Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新、適用)
Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用の制限は、Summer '18 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から Salesforce にアクセスするときに HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザをお勧めします。

メールテンプレートに表示されるスタイルの増加

メールテンプレートで <head>、<meta>、<title>、<style> タグがサポートされるようになりました。これらのタグにより、営業サポートスタッフの創造性が高まります。また、コードで <style> タグを使用してレスポンシブ HTML メールを設計することもできます。これらのタグが含まれるメールテンプレートは、メール、リストメール、ケースで使用します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: メールテンプレートを作成するときに、本文にタグを入力またはコピーします。

メモ: タグを拡張レターヘッド、メール、リストメールに入力することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのメール差し込み項目、テンプレート、および添付ファイルへのアクセスと共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールテンプレートへの署名の追加

メールテンプレート作成者は、新しい {{{Sender.Signature}}} 差し込み項目を使用して、送信者の既存の署名をメールテンプレートに含めることができます。この項目は、差し込み項目ピッカーが存在する任意の場所 (メール、リストメール、拡張レターヘッドなど) で使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザは、[私のメール設定] で署名を設定します。

メモ: 差し込みピッカーでは、{{{Sender.Signature}}} 差し込み項目は [メールの署名] としてリストされます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メール設定の編集 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

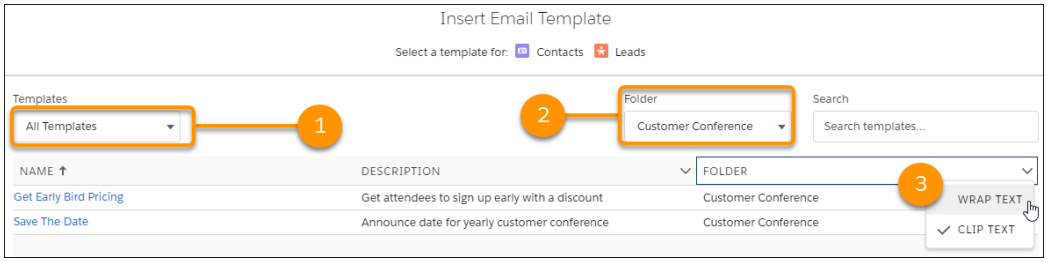
Salesforce ヘルプ: メールテンプレートとレターヘッドでの差し込み項目の使用に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要なメールテンプレートの迅速な検索

営業担当が最もよく使用するテンプレートを簡単に見つけることができるように [メールテンプレートを挿入] モーダルが改善されました。また、営業担当は必要なテンプレートの詳細を確認できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 最後のテンプレートカテゴリ (1) と営業担当が使用したフォルダ (2) は Salesforce に記憶されます。営業担当は、[テキストをラップ] (3) を選択して、[説明] および [フォルダ] 列のすべてのテキストを表示できます。



営業担当が最も重要な情報に集中できるように、[作成者]、[作成日]、[削除] 列が削除されました。

Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新、適用)

Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用の制限は、Summer '18 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から Salesforce にアクセスするときに HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザをお勧めします。

対象: この変更は、Personal Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、Winter '20 リリースで適用されます。

方法: HTML ベースのテンプレートに Internet Explorer を使用しないことをお勧めしますが、この制限を上書きすることができます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セッションの設定*」と入力し、[セッションの設定] を選択します。**[Internet Explorer を使用した Salesforce Classic の HTML ベースのメールテンプレートへのアクセスに対する制限を上書き]** を選択します。

関連トピック:

Summer '18 リリースノート: Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新)

重要な更新とセキュリティの更新

活動と ToDo: 活動タイムラインのアーカイブ済み活動および無限スクロール、および ToDo のクリックして完了

営業担当は、活動タイムラインのアーカイブ済み活動を使用して、顧客の履歴の最新情報を得られます。無限スクロールと月別にグループ化された活動により、営業担当は目的の活動に簡単にたどり着くことができます。さらに、営業担当はテーブルビューからワンクリックで ToDo を完了できるようになりました。

このセクションの内容:

アーカイブ済み活動の迅速な検索

営業担当は、すべての活動の全体像を把握できるようになりました。アーカイブ済み活動を含め、活動が活動タイムラインと [活動履歴] 関連リストに表示されます。営業担当は、アーカイブ済み活動を含め、任意の活動を開いて編集できます。以前は、アーカイブ済み活動は表示することしかできず、操作できませんでした。

活動タイムラインのスキャンおよびスクロール

活動タイムラインの改善により、営業担当は活動のスキャン、検索、アクションを簡単に実行できます。無限スクロールにより、営業担当はクリックすることなく、目的の活動を簡単にスキャンできます。[活動をさらに読み込む]ボタンはもうありません。活動タイムラインの活動を月別にグループ化することで、営業担当はすばやく活動を見つけたり、顧客の活動がない期間を理解したりできます。1、2、3か月前などの相対日付により、営業担当は活動のペースを確認できます。

ワンクリックでの ToDo の完了

営業担当は、テーブルビューからタスクを完了としてマークできるようになりました。つまり、営業担当は作業を成し遂げることにより多くの時間を費やし、リストから削除する時間を減らすことができます。

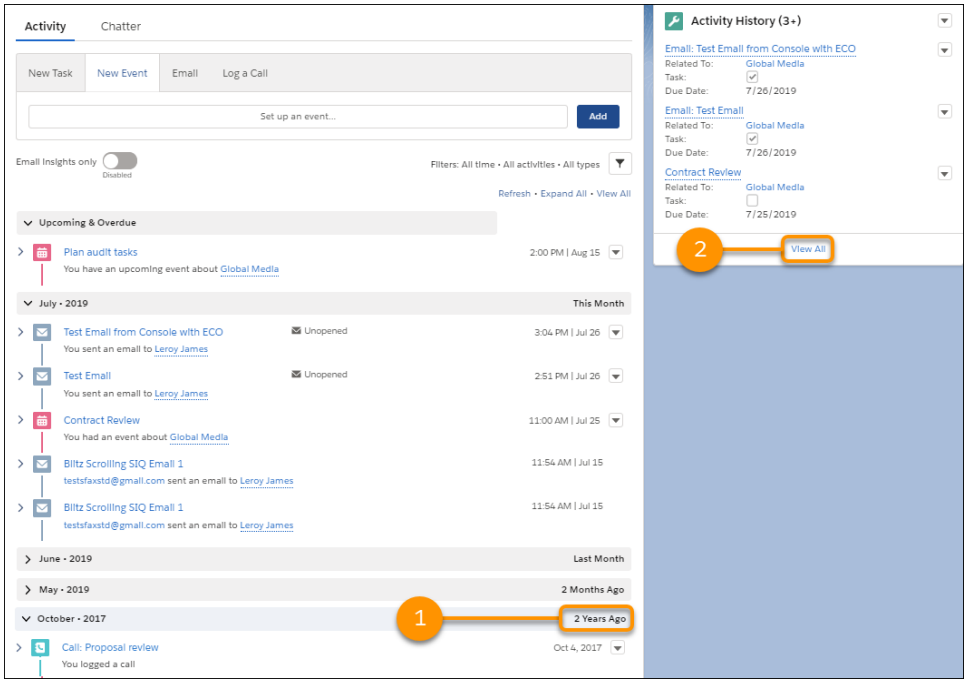
アーカイブ済み活動の迅速な検索

営業担当は、すべての活動の全体像を把握できるようになりました。アーカイブ済み活動を含め、活動が活動タイムラインと[活動履歴]関連リストに表示されます。営業担当は、アーカイブ済み活動を含め、任意の活動を開いて編集できます。以前は、アーカイブ済み活動は表示することしかできず、操作できませんでした。

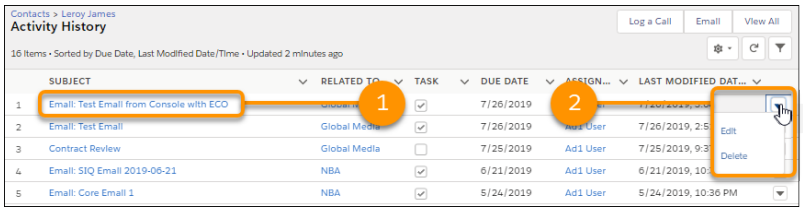
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当は、アーカイブ済み活動 (1) を含め、さまざまな場所から顧客とのやりとりの履歴を表示できます。

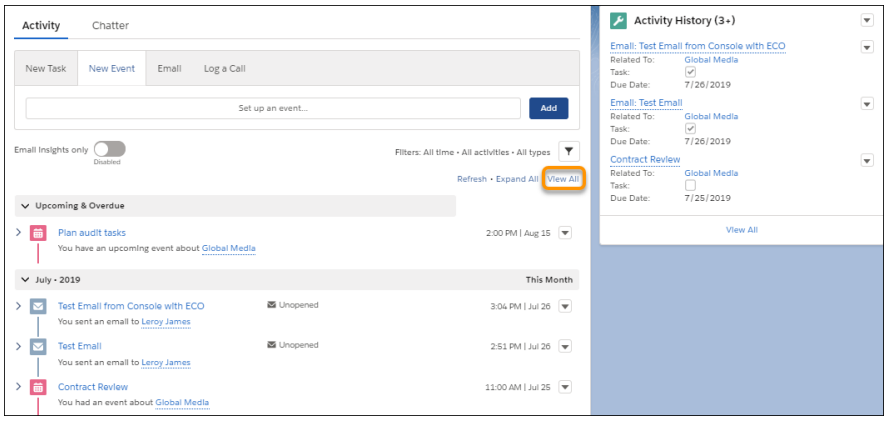
[活動履歴] 関連リストの [すべて表示] (2) をクリックすると、[活動履歴] タブが開きます。



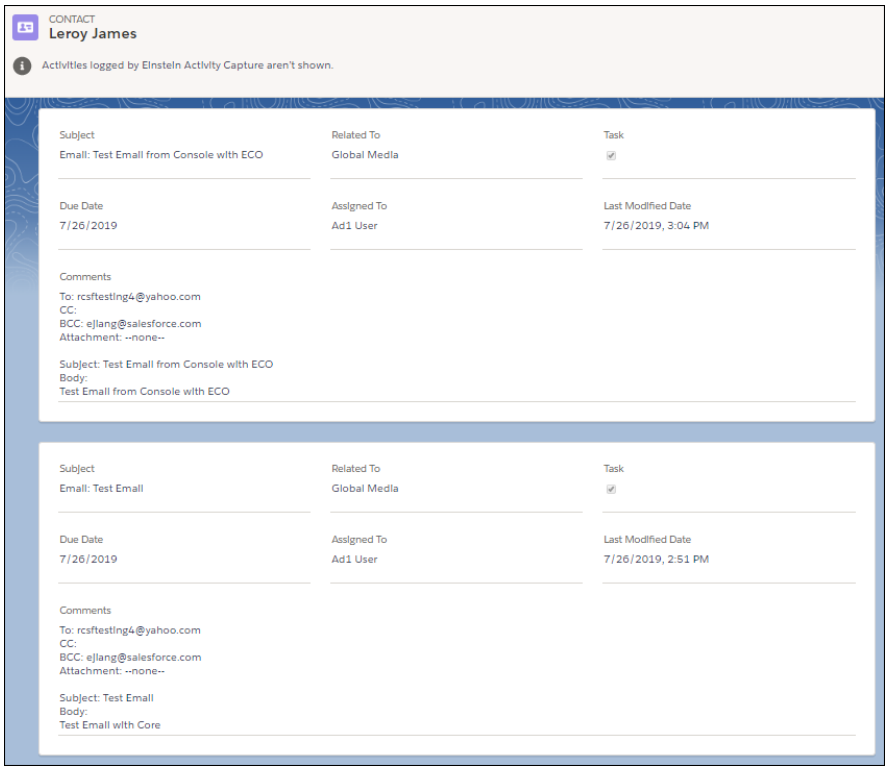
[活動履歴] タブで営業担当はエントリを並び替えることができます。件名 (1) をクリックすると、活動を開いて編集できます。また、行レベルのドロップダウン (2) を使用して、活動を編集または削除できます。



活動タイムラインの [すべて表示] をクリックすると、[すべての活動履歴] リストが開きます。



[すべての活動履歴] リストは、印刷に最適です。



関連トピック:

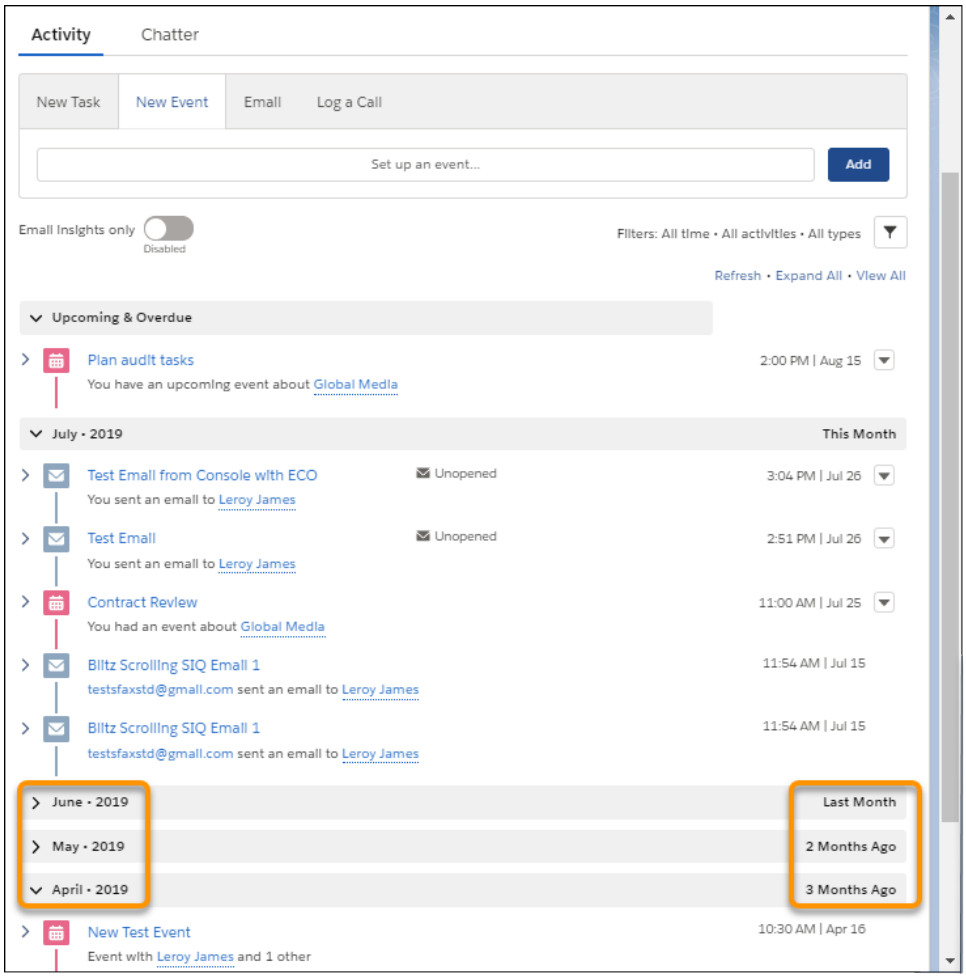
Salesforce ヘルプ: アーカイブされている活動の表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動タイムラインのスキャンおよびスクロール

活動タイムラインの改善により、営業担当は活動のスキャン、検索、アクションを簡単に実行できます。無限スクロールにより、営業担当はクリックすることなく、目的の活動を簡単にスキャンできます。[活動をさらに読み込む] ボタンはもうありません。活動タイムラインの活動を月別にグループ化することで、営業担当はすばやく活動を見つけたり、顧客の活動がない期間を理解したりできます。1、2、3 か月前などの相対日付により、営業担当は活動のペースを確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 活動の月別のグループにより、5 月のイベントや 3 か月前に受信したメールを簡単に見つけることができます。



メモ: 活動タイムラインコンポーネントをレイアウトの最下部に配置し、その下に他のコンポーネントを配置しないでください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 活動タイムラインのカスタマイズに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

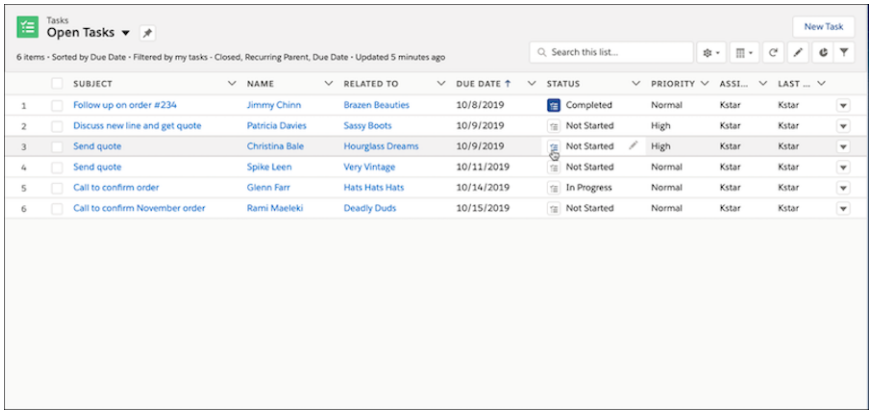
Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーションビルダーの考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ワンクリックでの ToDo の完了

営業担当は、テーブルビューからタスクを完了としてマークできるようになりました。つまり、営業担当は作業を成し遂げることにより多くの時間を費やし、リストから削除する時間を減らすことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ToDo の状況を更新するには、[完了としてマーク] を選択します。



Lightning Dialer: カスタム通話者 ID の使用

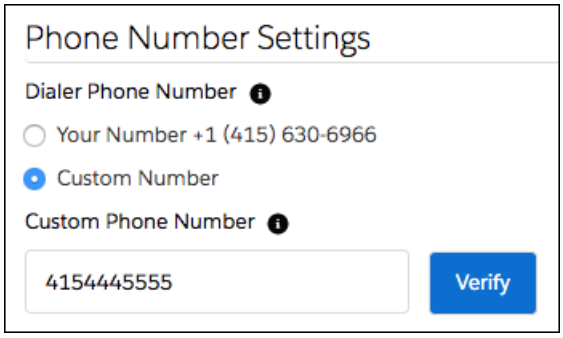
営業担当が電話をかけるときに既存の電話番号を通話者 ID として使用できたらどうでしょうか? このリリースでは、携帯電話番号やメインのビジネス回線を個人設定から Lightning Dialer に割り当てることができるようになりました。

メモ: 現時点では、米国とカナダへの発信通話のみがサポートされています。

対象: この変更は、Lightning Experience での Lightning Dialer に適用されます。Lightning Dialer は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます (有料オプション)。

対象ユーザ: ユーザがカスタム番号を割り当てるには、Dialer インバウンドと Dialer アウトバウンドの両方のライセンスが必要です。

方法: 営業担当は、個人設定または通話パネルを使用して、カスタム通知者 ID を [Dialer 設定] ページから追加できます。



営業担当は、番号を使用する前に、提供されたコードを入力して確認する必要があります。複数の営業担当が同じカスタム番号を使用することはできません。

メモ: カスタム番号へのインバウンドコールは、Lightning Dialer を介さずにモバイルまたは会社の回線に直接転送されます。

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- Inbox Mobile for iOS
- Inbox Mobile for Android

Inbox デスクトップの最新の機能と機能強化については、Salesforce リリースノートの Outlook インテグレーションセクションと Gmail インテグレーションセクションを参照してください。

関連トピック:

Outlook® インテグレーション:最初に表示されるようになった最も頻繁にアクセスされたレコード、人レコードの関連性の向上

Gmail™ インテグレーション:記録するためのアラーム、[メール追跡] の改善、[メールをスケジュール] の更新

カレンダー: Lightning Experience の詳細および効率の向上

営業担当は、Lightning Experience で詳細をより短時間で確認できます。営業担当は、対応可能状況ビューとユーザリストを組み合わせてカレンダーを見比べて、顧客との予定をよりすばやくスケジュールできます。さらに、カレンダーにはデフォルトの週表示ではなく最近のビューが自動的に表示されます。また、営業担当は行動を開かなくても、件名、関連レコード、時間を確認できます。

このセクションの内容:

対応可能状況ビューでの全員に適した時間の把握
新しい対応可能状況ビューを使用して、営業担当は簡単に昼食会を主催できるユーザを確認したり、Lightning Experience で直接クライアントへのセールストークを行ったりできます。Salesforce Classic のマルチユーザビューに切り替える必要はもうありません。ユーザリストを設定して、営業担当が複数のユーザをカレンダービューに追加できるようにし、個別に追加しなくても済むようにします。

ワンクリックで開くことができるお気に入りのカレンダービュー
営業担当は、ドロップダウンからビューを選択することなく最後に使用していたカレンダービューを確認できます。営業担当は、従来よりも迅速にビジネスイベントのスケジュール設定を開始できるようになりました。以前は、カレンダーにデフォルトビューとして週表示が表示されていました。

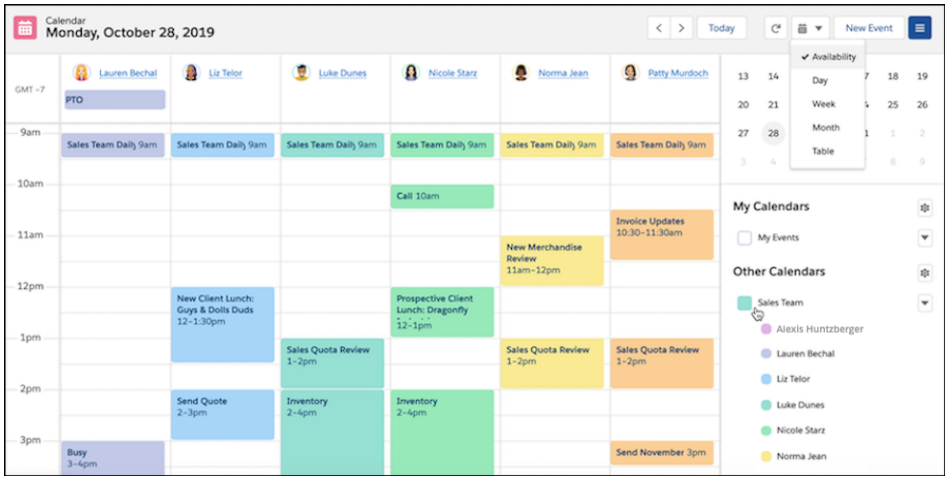
迅速に確認できる行動の詳細の増加
詳細を確認するために、行動をフロート表示したり、クリックしたり、開いたりする必要はもうありません。件名、時間、関連レコードが行動カードに追加されました。必要なすべての情報を一目で確認できます。

対応可能状況ビューでの全員に適した時間の把握

新しい対応可能状況ビューを使用して、営業担当は簡単に昼食会を主催できるユーザを確認したり、Lightning Experience で直接クライアントへのセールストークを行ったりできます。Salesforce Classic のマルチユーザビューに切り替える必要はもうありません。ユーザリストを設定して、営業担当が複数のユーザをカレンダービューに追加できるようにし、個別に追加しなくても済むようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当は、ユーザリストの代わりに共有カレンダーで対応可能状況ビューを使用できますが、これらの機能を組み合わせると最大のメリットを得られます。比較する標準カレンダーまたはユーザリストを選択したら、営業担当は対応可能状況ビューで最適なミーティング時間を確認できます。



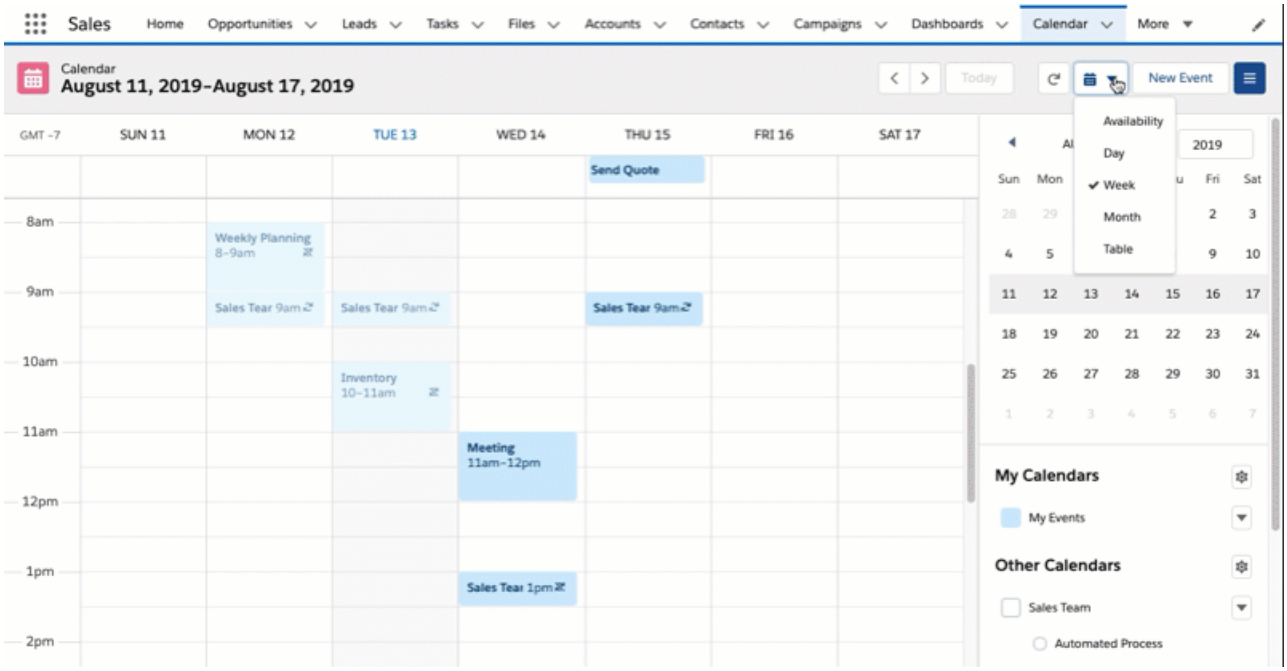
方法: 対応可能状況ビューでは、追加の設定は必要ありません。営業担当が各自のカレンダーでユーザリストを表示できるようにするには、[活動設定] 設定から、[Lightning Experience のカレンダービューにユーザリストを追加] を選択します。

ワンクリックで開くことができるお気に入りのカレンダービュー

営業担当は、ドロップダウンからビューを選択することなく最後に使用していたカレンダービューを確認できます。営業担当は、従来よりも迅速にビジネスイベントのスケジュール設定を開始できるようになりました。以前は、カレンダーにデフォルトビューとして週表示が表示されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 多忙な営業担当の Nicole は、カレンダーの月表示を使用してクライアントとのミーティングをスケジュールすることがよくあります。Nicole がミーティングをスケジュールした後に Salesforce タブに切り替えると、常に月表示が表示されるようになりました。カレンダーに戻るたびに月表示を選択する必要はありません。

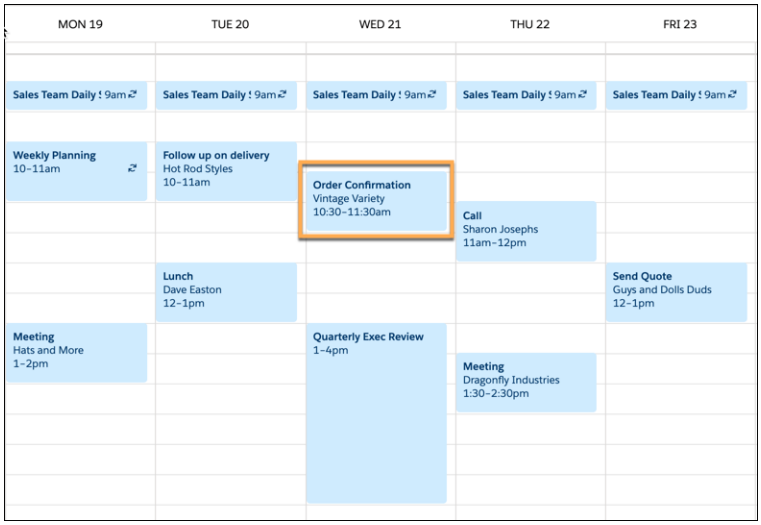


迅速に確認できる行動の詳細の増加

詳細を確認するために、行動をフロート表示したり、クリックしたり、開いたりする必要はもうありません。件名、時間、関連レコードが行動カードに追加されました。必要なすべての情報を一目で確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 任意のカレンダービューでイベントを表示して詳細を確認します。



Google とのインテグレーション: 記録とメール追跡のリマインダー、スケジュール、および同期の改善

メールを記録するためのリマインダーを受け取れます。より柔軟な制御により、メールを追跡したり、メールを後で送信するためにスケジュールしたりできるようになりました。さらに、行動の同期が改善されました。営業担当が行動に招待または関連付けたレコードが同期後に別のレコードと入れ替えられることはなくなりました。

このセクションの内容:

Gmail™ インテグレーション: 記録するためのアラーム、[メール追跡] の改善、[メールをスケジュール] の更新
営業担当は、送信したメールを記録するためのアラームを受信します。営業担当は、サイドパネルが閉じた状態でメールを追跡したり、追跡履歴から元のメールに移動したりできます。また、後で送信するようにスケジュールされたメールで使用できるオプションが増えています。

Lightning Sync for Google: 行動の同期の改善
行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Lightning Sync では常に、営業担当が最初に行動に招待または関連付けたレコードが保持されます。

Gmail™ インテグレーション: 記録するためのアラーム、[メール追跡] の改善、[メールをスケジュール] の更新

営業担当は、送信したメールを記録するためのアラームを受信します。営業担当は、サイドパネルが閉じた状態でメールを追跡したり、追跡履歴から元のメールに移動したりできます。また、後で送信するようにスケジュールされたメールで使用できるオプションが増えています。

このセクションの内容:

Gmail から Salesforce にメールを記録するためのアラームの取得
営業担当は多忙であるため、より少ないクリックですばやくメールを記録する必要があります。営業担当は、メールの送信後にメールを Salesforce に記録するように促されるようになりました。Gmail インテグレーションペインを展開してメールを記録する必要がなくなりました。営業担当は、送信済みフォルダから選び出してメールを記録する必要はもうありません。この機能により、営業担当は柔軟にワークフローを制御できるようになり、任意の方法でメールを記録できます。

Gmail でのメールの自動追跡
営業担当は、Gmail インテグレーションサイドパネルを開かずにメールを追跡できるようになりました。これにより、クリック数を削減しながら必要な情報を取得できます。インテグレーションペインでメール追跡を有効にします。これにより、最後の追跡設定が記憶されます。

Gmail で追跡の詳細を表示するときの時間の節約
営業担当は、[追跡] タブのエンゲージメント情報から直接、追跡されたメールに移動できるようになりました。メールコミュニケーションの検索時間が減ると、応答時間が短縮され、販売効率が向上します。

[メールをスケジュール] の機能強化
2つのことを同時にできます。営業担当は、後で送信するようにメールをスケジュールすると同時に、送信時にメールを記録および追跡できるようになりました。これまで、営業担当はスケジュールしたメールの追跡や記録ができませんでした。最も大きな影響を与える適切なタイミングでメールを送信し、受信者がエンゲージしたときに通知するようにメールを設定できるようになりました。

Gmail で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示
メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が営業担当に表示されるようになりました。最も頻繁にアクセスするものが最初に表示されれば、長いリストをスクロールして必要な情報を探す必要がなくなります。

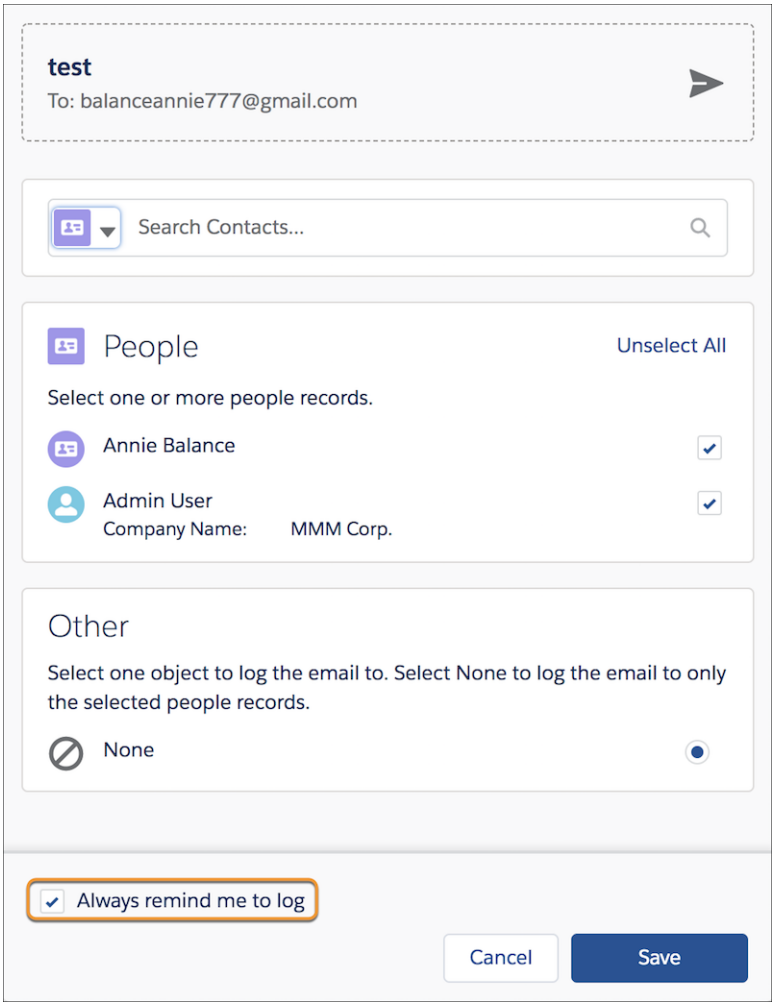
Gmail でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示
メールアドレスが Salesforce の取引先責任者またはリードに一致し、Salesforce ユーザにも一致する場合、そのユーザレコードがデフォルトの一致レコードとして選択されます。この選択は、関連レコードのリストを定義するのに役立ちます。必要に応じて、営業担当は別のレコードタイプをデフォルトとして選択できます。

Gmail から Salesforce にメールを記録するためのアラームの取得

営業担当は多忙であるため、より少ないクリックですばやくメールを記録する必要があります。営業担当は、メールの送信後にメールを Salesforce に記録するように促されるようになりました。Gmail インテグレーションペインを展開してメールを記録する必要がなくなりました。営業担当は、送信済みフォルダから選び出してメールを記録する必要はもうありません。この機能により、営業担当は柔軟にワークフローを制御できるようになり、任意の方法でメールを記録できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 誰でもアラームが毎回表示されないように設定できます。営業担当は初めてメールを送信するときに記録するように促されますが、このアラームを無効にできます。[記録するように常に促す]設定は、メールを記録するように選択するときに応答画面またはメールインテグレーションペインでいつでも変更できます。



関連トピック:

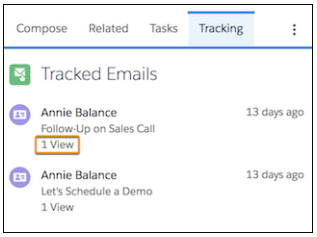
Salesforce ヘルプ: Inbox を備えた Gmail インテグレーションの操作のヒント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail でのメールの自動追跡

営業担当は、Gmail インテグレーションサイドパネルを開かずにメールを追跡できるようになりました。これにより、クリック数を削減しながら必要な情報を取得できます。インテグレーションペインでメール追跡を有効にします。これにより、最後の追跡設定が記憶されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できるデスクトップの Salesforce Inbox に適用されます。

方法: ユーザは、[追跡] タブでメール追跡の詳細を表示したり、メールの作成時に [作成] タブで追跡設定を変更したりできます。設定が有効になっている場合、インテグレーションペインが展開されていても、折りたたまれていても、メールが追跡されます。



関連トピック:

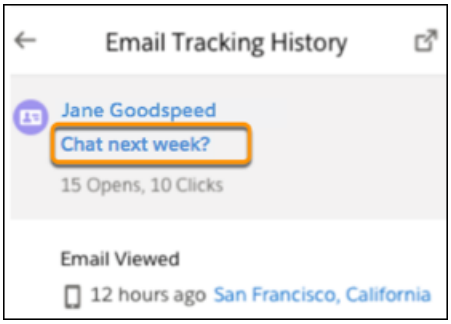
Salesforce ヘルプ: Outlook や Gmail でメールを作成する際のいろいろな機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail で追跡の詳細を表示するときの時間の節約

営業担当は、[追跡] タブのエンゲージメント情報から直接、追跡されたメールに移動できるようになりました。メールコミュニケーションの検索時間が減ると、応答時間が短縮され、販売効率が向上します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できるデスクトップの Salesforce Inbox に適用されます。

方法: 送信済みメールを [追跡] タブから直接開くには、追跡の詳細を展開して、メールの件名行をクリックします。



メモ: Winter '20 より前に新しい Gmail インターフェースから送信されたメールの中には、営業担当が [追跡] タブから直接移動できないものもあります。

関連トピック:

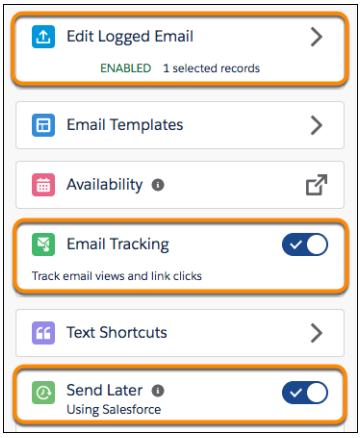
Salesforce ヘルプ: Gmail インテグレーションのメールの追跡に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[メールをスケジュール] の機能強化

2 つのことを同時にできます。営業担当は、後で送信するようにメールをスケジュールすると同時に、送信時にメールを記録および追跡できるようになりました。これまで、営業担当はスケジュールしたメールの追跡や記録ができませんでした。最も大きな影響を与える適切なタイミングでメールを送信し、受信者がエンゲージしたときに通知するようにメールを設定できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (**有料オプション**)、**および** Essentials Edition (**無料**) **で使用できるデスクトップの** Salesforce Inbox **に適用されます。**

方法: 後で送信するように各メールをスケジュールし、[作成] タブでログおよび追跡設定を定義または編集します。



関連トピック:

Salesforce **ヘルプ:** Outlook **や** Gmail **でメールを作成する際のいろいろな機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

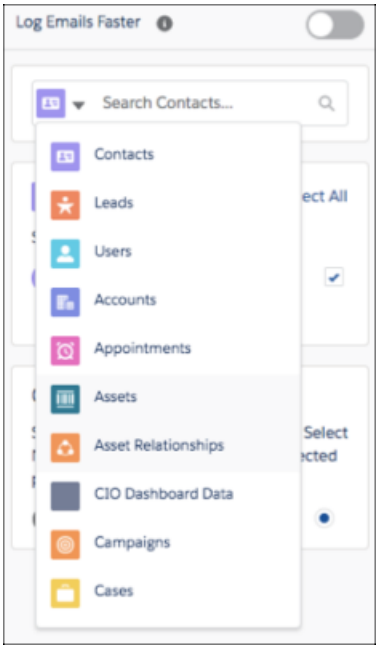
Salesforce **ヘルプ:** Inbox **を備えた** Gmail **インテグレーションの操作のヒント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

Gmail で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示

メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が営業担当に表示されるようになりました。最も頻繁にアクセスするものが最初に表示されれば、長いリストをスクロールして必要な情報を探す必要がなくなります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**

理由: オブジェクトのリストには、営業担当の最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別の上位 10 **件と、その後に他のオブジェクトのアルファベット順のリストが表示されます。**



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail から Salesforce へのメールとイベントのログ記録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

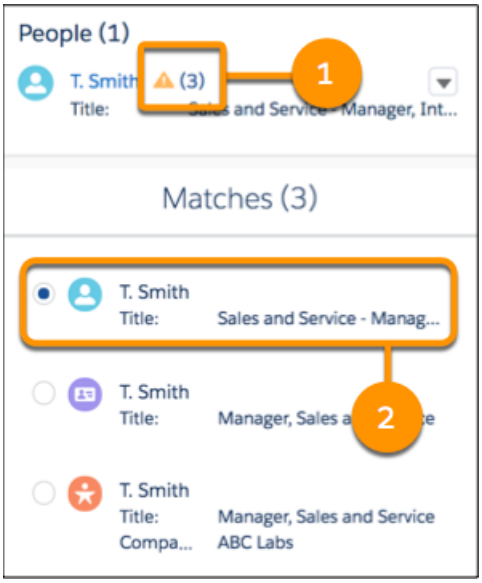
Gmail でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示

メールアドレスが Salesforce の取引先責任者またはリードに一致し、Salesforce ユーザにも一致する場合、そのユーザレコードがデフォルトの一致レコードとして選択されます。この選択は、関連レコードのリストを定義するのに役立ちます。必要に応じて、営業担当は別のレコードタイプをデフォルトとして選択できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、拡張メールが有効になっている組織で使用できます。

理由: 以前の Gmail インテグレーションでは、メールのアドレスに一致するすべての人レコードを返して関連レコードを推奨していました。営業担当は、メールの適切な人レコードを選択できました (1)。ユーザレコードが返された場合、それがデフォルトで選択されるようになりました (2)。他の関連レコードは、引き続き選択された人レコードに応じて返されます。これにより、メールを記録するレコードのリストの関連性が高くなります。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールおよび行動と Salesforce レコードとの照合方法 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Google: 行動の同期の改善

行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Lightning Sync では常に、営業担当が最初に行動に招待または関連付けたレコードが保持されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 同期中の行動に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Microsoft® とのインテグレーション: より関連性の高いオブジェクト、より関連性の高い一致レコード、同期の改善

メールやイベントを記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が表示されます。拡張メールが有効であれば、ユーザレコードはデフォルトの人レコードとして選択されます。さらに、行動の同期が改善されました。

このセクションの内容:

Outlook® インテグレーション:最初に表示されるようになった最も頻繁にアクセスされたレコード、人レコードの関連性の向上
メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が最初に表示されます。また、拡張メールが有効になっていて、複数の人レコードがメールと一致する場合、ユーザレコードがデフォルトとして一致します。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 行動の同期の改善、Microsoft Office 365 の一部のユーザで必要なアクション
行動の同期を調整する方法を学習します。また、2020 年 10 月の Microsoft のサポート終了に関する詳細を取得します。このサポート終了により、一部の Office 365® ユーザは同期を継続するために Lightning Sync 設定の調整が必要になります。

Outlook® インテグレーション: 最初に表示されるようになった最も頻繁にアクセスされたレコード、人レコードの関連性の向上

メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が最初に表示されます。また、拡張メールが有効になっていて、複数の人レコードがメールと一致する場合、ユーザレコードがデフォルトとして一致します。

このセクションの内容:

Outlook で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示
メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が営業担当に表示されるようになりました。最も頻繁にアクセスするものが最初に表示されれば、長いリストをスクロールして必要な情報を探す必要がなくなります。

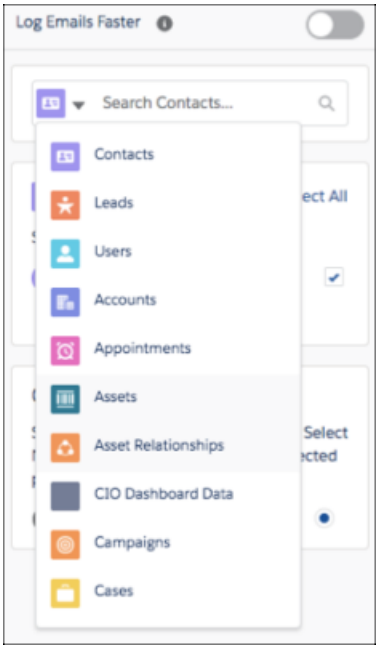
Outlook でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示
メールアドレスが Salesforce の取引先責任者またはリードに一致し、Salesforce ユーザにも一致する場合、そのユーザレコードがデフォルトの一致レコードとして選択されます。この選択は、関連レコードのリストを定義するのに役立ちます。必要に応じて、営業担当は別のレコードタイプをデフォルトとして選択できます。

Outlook で最も頻繁に使用するオブジェクト種別の表示

メールまたは行動を記録するときに、最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別が営業担当に表示されるようになりました。最も頻繁にアクセスするものが最初に表示されれば、長いリストをスクロールして必要な情報を探す必要がなくなります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: オブジェクトのリストには、営業担当の最も頻繁にアクセスされたオブジェクト種別の上位 10 件と、その後に他のオブジェクトのアルファベット順のリストが表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail から Salesforce へのメールとイベントのログ記録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

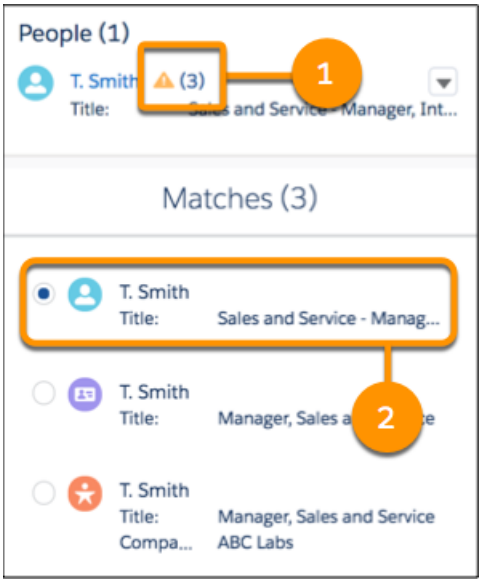
Outlook でのメールに一致する関連性の高いレコードの表示

メールアドレスが Salesforce の取引先責任者またはリードに一致し、Salesforce ユーザにも一致する場合、そのユーザレコードがデフォルトの一致レコードとして選択されます。この選択は、関連レコードのリストを定義するのに役立ちます。必要に応じて、営業担当は別のレコードタイプをデフォルトとして選択できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、拡張メールが有効になっている組織で使用できます。

理由: 以前の Outlook インテグレーションでは、メールのアドレスに一致するすべての人レコードを返して関連レコードが推奨されていました。営業担当は、メールの適切な人レコードを選択できました (1)。ユーザレコードが返された場合、それがデフォルトで選択されるようになりました (2)。他の関連レコードは、引き続き選択された人レコードに応じて返されます。これにより、メールを記録するレコードのリストの関連性が高くなります。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールおよび行動と Salesforce レコードとの照合方法 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 行動の同期の改善、Microsoft Office 365 の一部のユーザで必要なアクション

行動の同期を調整する方法を学習します。また、2020年10月のMicrosoftのサポート終了に関する詳細を取得します。このサポート終了により、一部の Office 365® ユーザは同期を継続するために Lightning Sync 設定の調整が必要になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

このセクションの内容:

行動の同期の改善

行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Lightning Sync では常に、営業担当が最初に行動に招待または関連付けたレコードが保持されます。

2020 年 10 月に Microsoft Office 365 での一部の Lightning Sync ユーザへのサービスを停止

保留中の Microsoft のサポート終了により、一部の Office 365® ユーザは Lightning Sync 設定の調整が必要になります。調整しない場合、営業担当の取引先責任者と行動はサポート終了時点で同期を停止します。

行動の同期の改善

行動の同期が改善されました。これまで、同期の後、営業担当が行動に招待または関連付けたユーザ、取引先責任者、リードが、同じメールアドレスを持つ別のレコードに変更されることがありました。この一致条件が改善されたため、営業担当がレコードを二重チェックする必要がなくなりました。Lightning Sync では常に、営業担当が最初に行動に招待または関連付けたレコードが保持されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 同期中の行動に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

2020 年 10 月に Microsoft Office 365 での一部の Lightning Sync ユーザへのサービスを停止

保留中の Microsoft のサポート終了により、一部の Office 365® ユーザは Lightning Sync 設定の調整が必要になります。調整しない場合、営業担当の取引先責任者と行動はサポート終了時点で同期を停止します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 2020 年 10 月、Microsoft は Exchange Online の基本認証のサポートを終了します。

対象ユーザ: このサポートの終了は、サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している Office 365 ユーザにのみ影響します。

理由: サービスアカウントを使用して接続している、Office 365 の Lightning Sync ユーザには、Exchange Online の基本認証が必要です。このユーザは 2020 年 10 までに、Office 365 ユーザが使用できる他の Lightning Sync 接続方法 (OAuth 2.0) に移行する必要があります。

基本認証は、Exchange 2016® または Exchange 2013® を使用している Lightning Sync ユーザにも必要です。ただし、Microsoft はオンプレミスサーバでは基本認証のサポートをこの時点で終了しません。

方法: まず、会社で Microsoft システム管理者または IT プロフェッショナルと連携し、会社が Exchange Online を使用しているかどうかを確認します。Exchange 2016® または Exchange 2013® を使用している場合、これ以上のアクションは不要です。

次に、使用している Lightning Sync 接続方法を確認します。[設定] から [Outlook インテグレーションおよび同期] ページに移動します。OAuth 2.0 が選択されている場合、これ以上のアクションは不要です。サービスアカウントが選択されている場合、Microsoft システム管理者または IT プロフェッショナルと調整して、2020 年 10 月まで

に OAuth 2.0 に移行します。プロセスを開始する前に必要な手順と Exchange 権限を確認してください。「OAuth 2.0 を使用した Salesforce と Microsoft Exchange の接続」を参照してください。

関連トピック:

外部リンク: End of support for Basic Authentication access to Exchange Online API's for Office 365 customers (Office 365 ユーザの Exchange Online API への基本認証アクセスのサポートの終了)

Salesforce ヘルプ: Microsoft ユーザ用の OAuth 2.0 接続

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync のシステム要件

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 価格設定ガイダンスの改善、品目数の多い見積の契約の信頼性向上、コミュニティおよび Lightning ページでの顧客支払

営業担当がどこで推奨の割引を受け入れたか、または回避したかを表示することで、価格設定ガイダンスの有効性を高めます。品目数の多い見積の契約時のパフォーマンスを改善して、契約プロセスを円滑に進めます。新しい Salesforce Billing Lightning コンポーネントをパートナー向けコミュニティおよび Lightning ページに追加することで、顧客の支払とクレジットカードを管理します。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ: 価格設定ガイダンス使用状況、品目数の多い見積の契約の改善、サブスクリプションの新しい按分オプション、見積品目の並び替え

営業担当がどこで推奨の割引を表示して受け入れたかを表示することで、価格設定ガイダンスの有効性を管理します。見積品目エディタで見積品目を並び替え、品目数の多い見積をエラーやタイムアウトなしで契約します。

Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け、セキュリティの向上

Lightning やコミュニティページでクレジットカード情報を保存するための安全かつ便利な方法を顧客に提供します。新しい権限設定を使用して機密データを詳細に制御します。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects and Fields for Salesforce CPQ and Billing Winter '20 (Salesforce CPQ および Billing Winter '20 の新しいオブジェクトと項目) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ: 価格設定ガイダンス使用状況、品目数の多い見積の契約の改善、サブスクリプションの新しい按分オプション、見積品目の並び替え

営業担当がどこで推奨の割引を表示して受け入れたかを表示することで、価格設定ガイダンスの有効性を管理します。見積品目エディタで見積品目を並び替え、品目数の多い見積をエラーやタイムアウトなしで契約します。

メモ: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

営業担当の価格設定ガイダンス使用頻度の確認
営業担当が価格設定ガイダンスを表示したかどうか、目標割引を受け入れたかどうかを表示する項目で、価格設定ガイダンスの有効性を確認します。レポートで使用すると、これらの項目は、どこで価格設定ガイダンスが使用されたかを確認し、それによって売上が増加したかどうか評価するのに役立ちます。

見積によるサブスクリプション商品の按分がより正確に
営業担当は、按分されたサブスクリプション商品の見積をより高い価格設定の精度で行うことができるようになりました。日ベースの按分に関して、サブスクリプション期間にうるう年が含まれるかどうかを評価する、サブスクリプションの按分精度値を追加しました。月ベースまたは月+日ベースの按分に関して、サブスクリプション期間内の各月の長さを評価する、サブスクリプションの按分精度値を追加しました。

Salesforce CPQ のその他の変更
価格設定ガイダンスのライセンスと設定オプションが新規追加され、見積品目数の多い契約のサポートが改善されました。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects and Fields for Salesforce CPQ and Billing Winter '20 (Salesforce CPQ および Billing Winter '20 の新しいオブジェクトと項目) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

営業担当の価格設定ガイダンス使用頻度の確認

営業担当が価格設定ガイダンスを表示したかどうか、目標割引を受け入れたかどうかを表示する項目で、価格設定ガイダンスの有効性を確認します。レポートで使用すると、これらの項目は、どこで価格設定ガイダンスが使用されたかを確認し、それによって売上が増加したかどうか評価するのに役立ちます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

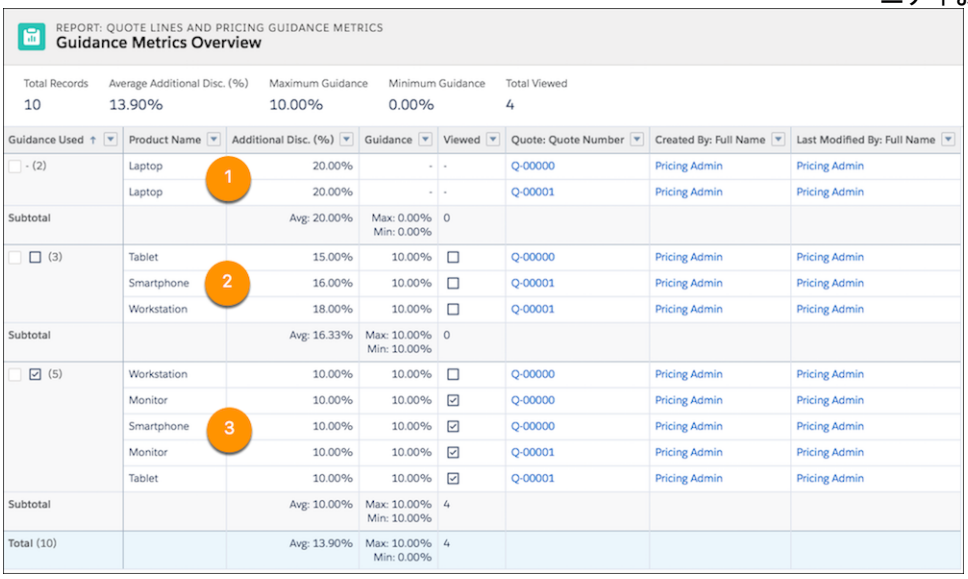
対象ユーザ: 価格設定ガイダンスは Salesforce CPQ+ ユーザが使用できます。Einstein Analytics Plus または CPQ Einstein Analytics ライセンスを持つ Salesforce CPQ+ ユーザは、[価格設定ガイダンスを作成] ページを使用できます。

方法: [表示済み] 項目と [使用されたガイダンス] 項目を見積品目価格設定ガイダンスページレイアウトに追加します。

表示済み
: 営業担当が見積品目の [価格設定ガイダンス] アイコンをクリックしてから、見積を保存または適用すると、Salesforce CPQ によって [表示済み] 項目が選択されます。

使用されたガイダンス
: 営業担当が見積品目の価格設定ガイダンスの目標割引値に一致する追加の割引を適用すると、Salesforce CPQ によって [使用されたガイダンス] 項目が選択されます。

レポートで価格設定ガイダンス使用状況を確認する簡単な方法として、[行をグループ化] に [使用されたガイダンス] 項目を追加することをお勧めします。



価格設定ガイダンスを使用できなかった見積品目 (1)、価格設定ガイダンスが使用されなかった見積品目 (2)、価格設定ガイダンスが使用された見積品目 (3) が表示されています。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Reports For Pricing Guidance Usage (価格設定ガイダンス使用状況のレポート) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

見積によるサブスクリプション商品の按分がより正確に

営業担当は、按分されたサブスクリプション商品の見積をより高い価格設定の精度で行うことができるようになりました。日ベースの按分に関して、サブスクリプション期間にうるう年が含まれるかどうかを評価する、サブスクリプションの按分精度値を追加しました。月ベースまたは月+日ベースの按分に関して、サブスクリプション期間内の各月の長さを評価する、サブスクリプションの按分精度値を追加しました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、Salesforce CPQ は、日のサブスクリプションの按分精度値を使用して按分の乗数を計算するときに、標準年では 365 日、うるう年では 366 日を使用していました。うるう年では、見積品目のサブスクリプション期間に 2 月 29 日が含まれない場合、この計算によって按分の乗数が不正確になりました。値が日で、カレンダー月が加重されている場合、見積品目のサブスクリプション期間に 2 月 29 日が含まれるときにのみ、Salesforce CPQ は按分の乗数の計算で 366 日を使用するようになりました。

Salesforce CPQ は、月または月 + 日のサブスクリプションの按分精度値を使用して按分の乗数を計算するときに、1 か月の長さとして (365/12) を使用していました。この計算では、見積品目のサブスクリプション期間内の各月の特定の長さが使用されなかったため、按分の乗数が不正確になりました。値がカレンダー月+日の場

合、Salesforce CPQ は按分の乗数の計算時に見積品目のサブスクリプション期間内の各月の長さを評価するようになりました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サブスクリプションの按分精度(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ のその他の変更

価格設定ガイダンスのライセンスと設定オプションが新規追加され、見積品目数の多い契約のサポートが改善されました。

このセクションの内容:

新しいライセンスオプションによる価格設定ガイダンスの有効化

CPQ+ ライセンスがあればデフォルトで使用可能になる Einstein Analytics for CPQ ライセンスにより、Salesforce CPQ+ ユーザは価格設定ガイダンスを有効化できるようになりました。このライセンスには 5 つのユーザライセンスと、価格設定ガイダンスの設定に必要なすべての Einstein Analytics 機能が含まれます。Einstein Analytics Plus ライセンスにもすべての Einstein Analytics 機能が含まれていますが、価格設定ガイダンスの使用には不要になります。

価格設定ガイダンスの有効化方法の変更

Salesforce CPQ で価格設定ガイダンスを有効化する手順が変更されました。Analytics Studio で Analytics テンプレートを有効化して価格設定ガイダンスアプリケーションを作成することが必要になりました。Analytics URL をホワイトリスト登録する必要はなくなりました。

契約での見積品目数の増加

契約プロセスでサポートされる見積品目数が増えたため、営業担当が品目数の多い契約を処理するときに、エラーやタイムアウトが発生する可能性が低くなりました。

新しいライセンスオプションによる価格設定ガイダンスの有効化

CPQ+ ライセンスがあればデフォルトで使用可能になる Einstein Analytics for CPQ ライセンスにより、Salesforce CPQ+ ユーザは価格設定ガイダンスを有効化できるようになりました。このライセンスには 5 つのユーザライセンスと、価格設定ガイダンスの設定に必要なすべての Einstein Analytics 機能が含まれます。Einstein Analytics Plus ライセンスにもすべての Einstein Analytics 機能が含まれていますが、価格設定ガイダンスの使用には不要になります。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 価格設定ガイダンスは Salesforce CPQ+ ユーザが使用できます。Einstein Analytics Plus または CPQ Einstein Analytics ライセンスを持つ Salesforce CPQ+ ユーザは、[価格設定ガイダンスを作成] ページを使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce CPQ での価格設定ガイダンスの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

価格設定ガイダンスの有効化方法の変更

Salesforce CPQ で価格設定ガイダンスを有効化する手順が変更されました。Analytics Studio で Analytics テンプレートを有効化して価格設定ガイダンスアプリケーションを作成することが必要になりました。Analytics URL をホワイトリスト登録する必要はなくなりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 価格設定ガイダンスは Salesforce CPQ+ ユーザが使用できます。Einstein Analytics Plus または Einstein Analytics For CPQ ライセンスを持つ Salesforce CPQ+ ユーザは、[価格設定ガイダンスを作成] ページを使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce CPQ での価格設定ガイダンスの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

契約での見積品目数の増加

契約プロセスでサポートされる見積品目数が増えたため、営業担当が品目数の多い契約を処理するときに、エラーやタイムアウトが発生する可能性が低くなりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け、セキュリティの向上

Lightning やコミュニティページでクレジットカード情報を保存するための安全かつ便利な方法を顧客に提供します。新しい権限設定を使用して機密データを詳細に制御します。

このセクションの内容:

Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け

顧客の支払情報を管理し、PCI 遵守を維持するのはストレスのたまる作業です。新しいホストカード支払コンポーネントを使用すると、顧客はクレジットカード情報をコミュニティや Lightning ページから安全に送信して保存できます。

非システム管理者ユーザの新しい権限の要件

いくつかの Salesforce Billing アクションでシステム管理者以外のユーザに対して「編集」権限の要件を追加することで、セキュリティを向上します。以前は、システム管理者以外のユーザは「編集」権限を持っていなくてもいくつかのオブジェクトの項目値を変更できました。

Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け

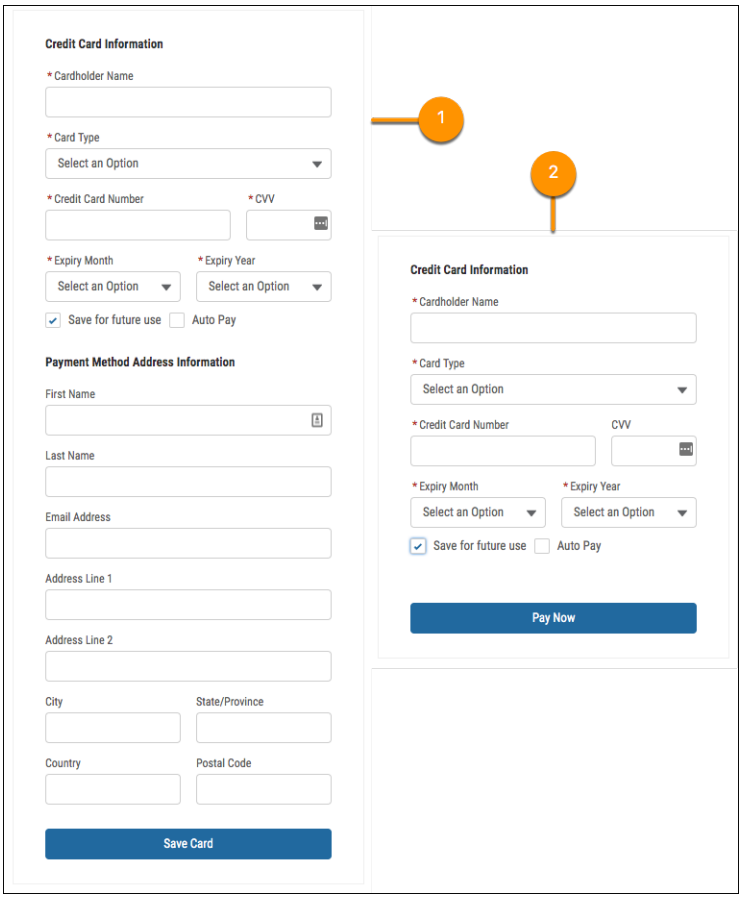
顧客の支払情報を管理し、PCI 遵守を維持するのはストレスのたまる作業です。新しいホストカード支払コンポーネントを使用すると、顧客はクレジットカード情報をコミュニティや Lightning ページから安全に送信して保存できます。

対象: この変更は Salesforce Billing の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このコンポーネントを使用するには、Salesforce CPQ & Salesforce Billing サポートにケースを登録し、Billing HPP (ホストカード支払) コンポーネント機能の有効化を選択してください。

理由: ホストカード支払コンポーネントは顧客の支払情報を Salesforce Billing に送信して、そこから支払ゲートウェイに渡せるようにします。ゲートウェイから応答が Salesforce Billing とコンポーネントに返送されるため、顧客の機密データを処理する必要がなくなります。開発者はコンポーネントの必須項目、非表示項目、表示ラベルをカスタマイズできます。また、システム管理者がコンポーネントの項目と表示ラベルをカスタマイズできるようにすることもできます。



たとえば、開発者は将来使用するためにクレジットカードおよび請求先住所情報を保存するようにコンポーネントを設定できます (1)。または、クレジットカード情報を使用して支払を受け付けるように設定できます (2)。

方法: ホストカード支払コンポーネント (API 参照名: `force:cardPayment`) をコミュニティおよび Lightning ページに追加するには、事前に開発者がコンポーネントを設定する必要があります。その後で、コンポーネントをコミュニティまたは Lightning ページに追加します。開発者がシステム管理者にコンポーネントの編集を許可している場合、プロパティペインを使用して項目と表示ラベルを設定できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Billing Card Hosted Payments in Community and Lightning Pages (コミュニティおよび Lightning ページでの Salesforce Billing のカードホスト支払) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コンポーネントライブラリ: Card Payment Aura Component (カード支払 Aura コンポーネント) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

非システム管理者ユーザの新しい権限の要件

いくつかの Salesforce Billing アクションでシステム管理者以外のユーザに対して「編集」権限の要件を追加することで、セキュリティを向上します。以前は、システム管理者以外のユーザは「編集」権限を持っていなくてもいくつかのオブジェクトの項目値を変更できました。

対象: この変更は Salesforce Billing の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: システム管理者以外のユーザの場合、以下のアクションで「編集」アクセス権を有効にします。

アクション	以下の項目の「編集」アクセス権が必要
請求書を転記する	請求書および請求書品目
貸方票を転記する	貸方票、貸方票品目、貸方票の状況項目、貸方票品目の状況項目
借方票を転記する	借方票、借方票品目、借方票の状況項目、借方票品目の状況項目
貸方票に税を適用する (標準税または税統合)	請求書、請求書品目、貸方票、貸方票品目
借方票に税を適用する (標準税または税統合)	請求書、請求書品目、借方票、借方票品目

Pardot: B2B Marketing Analytics の新しいデータセット、メールで再利用可能なコンテンツなど

B2B Marketing Analytics に、プロスペクトデモグラフィックとエンゲージメントアクティビティデータがまとめられたデータセットが追加されました。新しいスニペット機能では、メールとメールテンプレートで再利用可能なコンテンツが提供されます。このリリースではまた、Pardot Einstein の機能である行動スコアリングとキャンペーンインサイトも更新され、オブジェクトマネージャのアセット処理が改善されました。

このセクションの内容:

B2B Marketing Analytics での結合されたプロスペクトとアクティビティデータの探索

プロスペクトエンゲージメントの理解を深めるために、プロスペクトとアクティビティデータセットをレンズおよびダッシュボードに追加するようにユーザを促します。データセットには、Pardot プロスペクトデータセットのデフォルトおよびカスタムプロスペクト項目に関連付けられている 3 年間のエンゲージメント情報が含まれます。このスーパーデータセットにより、レポートを大幅にカスタマイズすることなく価値のあるつながりを発見できます。

B2B Marketing Analytics 2.0 に移行されたデータセット

パフォーマンスとアクセスしやすさを高めるために、B2B Marketing Analytics を Salesforce で直接使用できるようになりました。管理パッケージは必要ありません! 2019 年 2 月 11 日より後に作成されたデータセット、レンズ、ダッシュボードは、Summer '20 までは引き続き更新されます。

スニペットを使用したキャンペーンメール間でのコンテンツの再利用

スニペットを使用すると、ユーザはコンテンツを再利用できます。会社で一連の Web セミナーまたは他の定期的なイベントを宣伝する場合、マーケティング担当者は同じようなプロモーションメールを数多く作成することが必要になる可能性があります。スニペットにより、テキスト、画像、リンクの堅牢なブロックを作成し、メールまたはメールテンプレートに取り込むことができます。次回変更を行うときは、スニペットを更新するだけで済みます。その変更はメールやメールテンプレートに継承されます。

オブジェクトマネージャでのマーケティングコンテンツのカスタマイズ

カスタマイズオプションを備えたオブジェクトマネージャで、Pardot ランディングページ、マーケティングフォーム、マーケティングリンクを使用できるようになりました。項目やリレーションを表示したり、ページレイアウト、レコードページ、コンパクトレイアウト、検索レイアウトを編集したりできます。オブジェクトマネージャでは、ビジネスニーズに合わせて Salesforce のオブジェクトを簡単にカスタマイズできます。

エンゲージメント履歴ダッシュボードを使用した取引先レコードの詳細な調査

研究では、自分のデータを操作するときにより適切なインサイトが作成されることが示唆されています。エンゲージメント履歴ダッシュボードを取引先レコードのタブに追加して、営業担当やマーケティングユーザがデータを探索できるようにします。取引先ダッシュボードをキャンペーンレコードのダッシュボードと共に使用して、プロスペクトエンゲージメントの全体像を把握します。

エンゲージメント履歴のデータ型の増加

エンゲージメント履歴に最新かつ最適なデータを取り込むために、Web ページ訪問数と自動メールが組み込みダッシュボードに追加されました。自動メールには、Engagement Studio、自動ルール、または完了アクションから送信されたメールが含まれます。新しいデータは、デフォルトでエンゲージメント履歴ダッシュボードに表示されます。

プロスペクトの心に最も響くアセットの確認

Einstein 行動スコアリングで、新しい商談の成立に関与することが多い特定のマーケティングアセットがわかるようになりました。これらの新しいインサイトにより、プロスペクトがどのようにアセットにエンゲージしたのかがわかります(メールによる秋のプロモーションや新規クラスのサインアップ用のランディングページなど)。Einstein は、これらのデータポイントをまとめて、商談が作成される可能性が最も高いアセットのエンゲージメントアクティビティを判断します。

行動スコアによるプロスペクトレポートのグループ化

Einstein 行動スコアが標準レポートの列として使用できるようになりました。スコアはすでに個人レコードで利用されていますが、行動スコアでグループ化すると、最良のリード、取引先責任者、または取引先を同時に識別して分析できます。スコアが最高または最低のプロスペクトのリストを作成し、使用するマーケティング戦略に基づいてそれぞれを反復処理します。レポートを定期的に実行して、各グループでどの方法が共感を得ているかを確認します。

必要な Einstein リードまたは行動スコアのみの取得

Einstein スコアリングは強力なツールですが、一部のユーザ種別では特定のスコアが他のスコアよりも重要である場合があります。新しい表示設定では、ユーザのレコードホームページを整理できます。行動スコア、リードスコア、またはその両方を表示するプロファイルを決定し、リードレコードホームページでそれらの表示設定を定義します。

カスタムレポートでのキャンペーンインサイトの確認

Einstein キャンペーンインサイトで明らかになったパフォーマンス促進要素をすべて確認できたら素晴らしいと思いませんか?こうした価値あるインサイトからカスタムレポートを作成して、データの独自のトレンドやテーマを見つけることができます。たとえば、高パフォーマンスのキャンペーンとそのメンバーの業種や場所との関連性を把握したり、人々が最もエンゲージするマーケティングアセットを見つけたりします。

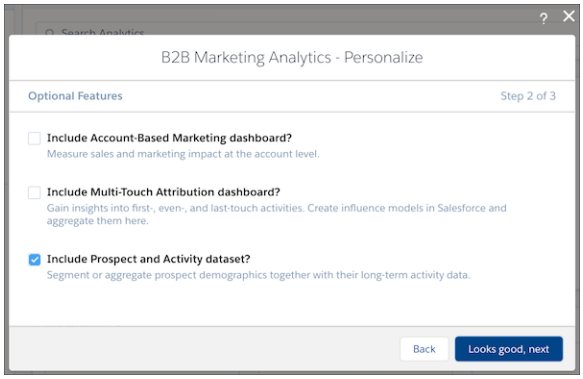
B2B Marketing Analytics での結合されたプロスペクトとアクティビティデータの探索

プロスペクトエンゲージメントの理解を深めるために、プロスペクトとアクティビティデータセットをレンズおよびダッシュボードに追加するようにユーザを促します。データセットには、Pardot プロスペクトデータセットのデフォルトおよびカスタムプロスペクト項目に関連付けられている 3 年間のエンゲージメント情報が含まれます。このスーパーデータセットにより、レポートを大幅にカスタマイズすることなく価値のあるつながりを発見できます。

対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition と Pardot Advanced Edition に含まれています。変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備える Pardot Pro Edition および Ultimate Edition にも影響します。

対象ユーザ: B2B Marketing Analytics アプリケーションを作成するには、ユーザに「B2B Marketing Analytics アプリケーションを作成」権限が必要です。B2B Marketing Analytics アプリケーションを再設定するには、ユーザに「Analytics テンプレートアプリケーションの使用」、「Analytics テンプレートアプリケーションの管理」、「B2B Marketing Analytics」のいずれかの権限が必要です。

方法: 新しい B2B Marketing Analytics アプリケーションの設定中に、[省略可能な機能] リストでプロスペクトとアクティビティデータセットを選択します。以前にアプリケーションを設定していて、データセットを追加する場合、アプリケーションの再設定とデータセットの選択を促されたら、指示に従います。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: B2B Marketing Analytics の再設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

B2B Marketing Analytics 2.0 に移行されたデータセット

パフォーマンスとアクセスしやすさを高めるために、B2B Marketing Analytics を Salesforce で直接使用できるようになりました。管理パッケージは必要ありません! 2019 年 2 月 11 日より後に作成されたデータセット、レンズ、ダッシュボードは、Summer '20 までは引き続き更新されます。

対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition と Pardot Advanced Edition に含まれています。変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備える Pardot Pro Edition および Ultimate Edition にも影響します。

対象ユーザ: アプリケーション、ダッシュボード、データフローを作成するには、ユーザに「B2B Marketing Analytics アプリケーションを作成」または「Analytics の管理」ユーザ権限が必要です。

理由: お客様から、管理パッケージの実装は予想以上に難しかったという声が寄せられました。お客様に B2B Marketing Analytics を最大限に活用していただくためには、よりすばやく稼働を開始できなければなりません。設定から管理パッケージをなくし、プロセスを Salesforce に移動してワークフローを合理化しました。

方法: [設定] から [B2B Marketing Analytics] ページを開き、**[B2B Marketing Analytics]** をクリックします。コネクタユーザとユーザ権限を設定し、使用を開始します。既存のアプリケーションを移行する場合は、Salesforce ヘルプを参照してください。

関連トピック:

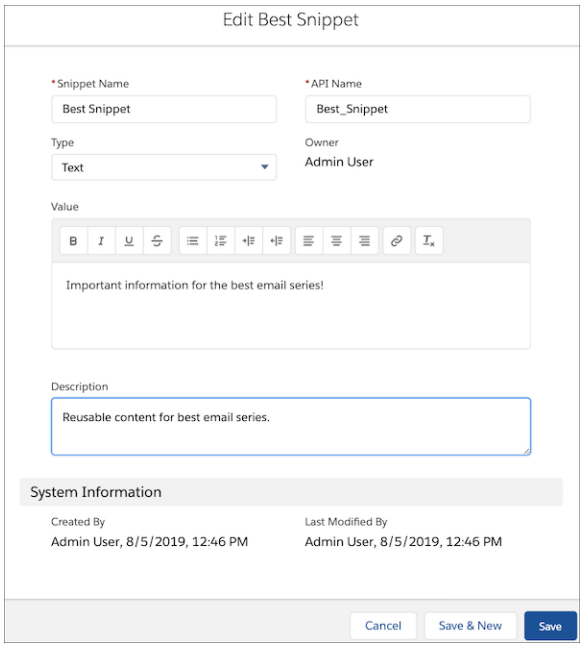
Salesforce ヘルプ: B2B Marketing Analytics テンプレートのアップグレード (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

スニペットを使用したキャンペーンメール間でのコンテンツの再利用

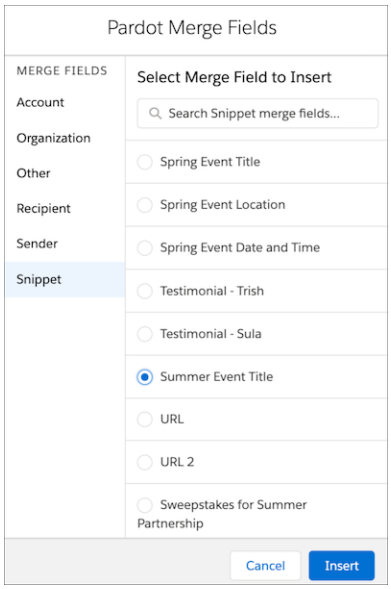
スニペットを使用すると、ユーザはコンテンツを再利用できます。会社で一連の Web セミナーまたは他の定期的なイベントを宣伝する場合、マーケティング担当者は同じようなプロモーションメールを数多く作成することが必要になる可能性があります。スニペットにより、テキスト、画像、リンクの堅牢なブロックを作成し、メールまたはメールテンプレートに取り込むことができます。次回変更を行うときは、スニペットを更新するだけで済みます。その変更はメールやメールテンプレートに継承されます。

対象: この変更は Pardot Lightning アプリケーションを使用するすべての Pardot エディションに適用されます。

理由: スニペットを作成したら、繰り返し使用できます。スニペットを作成するには、接続済みキャンペーンを開きます。[スニペットの割り当て]関連リストから、スニペットの割り当てと新規スニペットレコードを作成します。そこから、エディタを使用して新しいスニペットコンテンツを入力します。



スニペットを保存したら、[スニペット]タブで使用できるようになります。このタブでは、スニペットを編集または削除できます。次に、Handlebars Merge Language (HML) を使用して、スニペットをメールまたはメールテンプレートに取り込みます。スニペットは、HML 差し込み項目ピッカーで使用できます。



方法: ユーザがスニペットを作成および管理できるようにするには、[スニペット] タブと関連リストをレコードページに追加します。[割り当て] 関連リストをスニペットレコードに、[スニペットの割り当て] 関連リストをキャンペーンに追加します。

関連トピック:

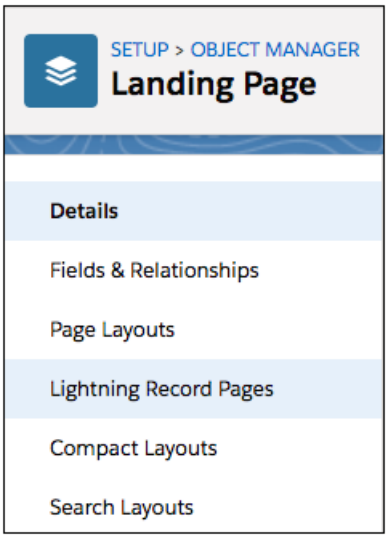
Salesforce ヘルプ: Reuse Content in Emails (メールでのコンテンツの再利用) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

オブジェクトマネージャでのマーケティングコンテンツのカスタマイズ

カスタマイズオプションを備えたオブジェクトマネージャで、Pardot ランディングページ、マーケティングフォーム、マーケティングリンクを使用できるようになりました。項目やリレーションを表示したり、ページレイアウト、レコードページ、コンパクトレイアウト、検索レイアウトを編集したりできます。オブジェクトマネージャでは、ビジネスニーズに合わせて Salesforce のオブジェクトを簡単にカスタマイズできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: ビジネスに最も役立つようにレコードホームをカスタマイズする方法が決まっている場合もあるでしょう。オブジェクトマネージャで Pardot コンテンツが使用可能になったため、Salesforce で Pardot マーケティングコンテンツのレコードホームをどう構造化するかをより詳細に制御できます。



関連トピック:

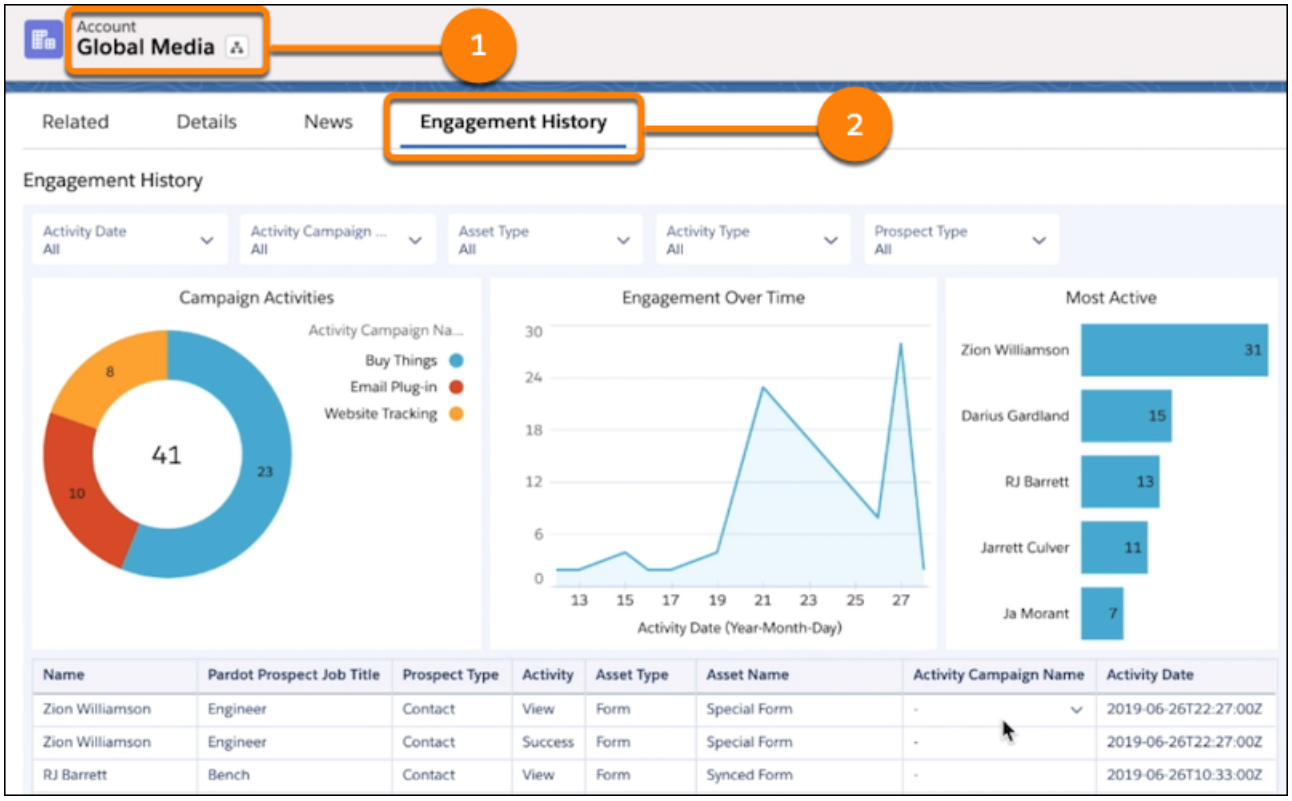
Salesforce ヘルプ: Manage Pardot Content in Salesforce (Salesforce での Pardot コンテンツの管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンゲージメント履歴ダッシュボードを使用した取引先レコードの詳細な調査

研究では、自分のデータを操作するときにより適切なインサイトが作成されることが示唆されています。エンゲージメント履歴ダッシュボードを取引先レコードのタブに追加して、営業担当やマーケティングユーザがデータを探索できるようにします。取引先ダッシュボードをキャンペーンレコードのダッシュボードと共に使用して、プロスペクトエンゲージメントの全体像を把握します。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: キャンペーンレコードのダッシュボードがある場合、組み込みダッシュボードを取引先レコードのタブに追加するだけで済みます。初めてエンゲージメント履歴ダッシュボードを設定する場合は、Salesforce ヘルプを参照してください。



Lightning アプリケーションビルダーで、取引先レコードを編集し (1)、[エンゲージメント履歴] ダッシュボードコンポーネントをタブにドラッグします (2)。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: エンゲージメント履歴 Lightning コンポーネントの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンゲージメント履歴のデータ型の増加

エンゲージメント履歴に最新かつ最適なデータを取り込むために、Webページ訪問数と自動メールが組み込みダッシュボードに追加されました。自動メールには、Engagement Studio、自動ルール、または完了アクションから送信されたメールが含まれます。新しいデータは、デフォルトでエンゲージメント履歴ダッシュボードに表示されます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

プロスペクトの心に最も響くアセットの確認

Einstein行動スコアリングで、新しい商談の成立に関与することが多い特定のマーケティングアセットがわかるようになりました。これらの新しいインサイトにより、プロスペクトがどのようにアセットにエンゲージしたのかがわかります(メールによる秋のプロモーションや新規クラスのサインアップ用のランディングページなど)。Einsteinは、これらのデータポイントをまとめて、商談が作成される可能性が最も高いアセットのエンゲージメントアクティビティを判断します。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Advanced の Lightning Experience に適用されます。

方法: 行動スコアリングコンポーネントをすでにリードまたは取引先責任者レコードに配置している場合、作業は完了です。新しいインサイトは、検出後に表示されます。行動スコアリングを設定する場合は、Salesforce ヘルプを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 行動スコアリング(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

行動スコアによるプロスペクトレポートのグループ化

Einstein行動スコアが標準レポートの列として使用できるようになりました。スコアはすでに個人レコードで利用されていますが、行動スコアでグループ化すると、最良のリード、取引先責任者、または取引先を同時に識別して分析できます。スコアが最高または最低のプロスペクトのリストを作成し、使用するマーケティング戦略に基づいてそれぞれを反復処理します。レポートを定期的に実行して、各グループでどの方法が共感を得ているかを確認します。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Advanced の Lightning Experience に適用されます。

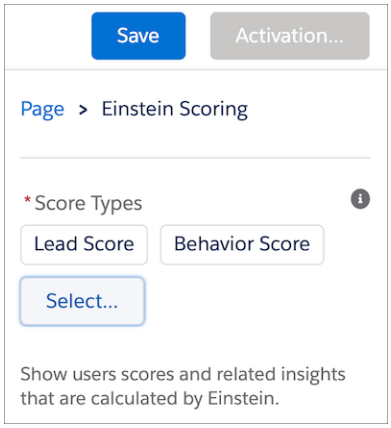
方法: 標準の取引先責任者およびリードレポートで、[行動スコア] 項目を列として表示するか、検索条件ペインで選択します。

必要な Einstein リードまたは行動スコアのみの取得

Einsteinスコアリングは強力なツールですが、一部のユーザ種別では特定のスコアが他のスコアよりも重要である場合があります。新しい表示設定では、ユーザのレコードホームページを整理できます。行動スコア、リードスコア、またはその両方を表示するプロファイルを決定し、リードレコードホームページでそれらの表示設定を定義します。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Advanced の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザに表示する Einstein スコアリングコンポーネントを選択するには、Lightning アプリケーションビルダーでリードレコードホームページを編集します。コンポーネントを選択し、[スコア種別]ヘッダーで行動スコアリングまたはリードスコアリングを選択します。



任意の数のリードレコードホームページを作成または編集し、正しいユーザプロファイルに割り当てます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のレコードページの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムレポートでのキャンペーンインサイトの確認

Einstein キャンペーンインサイトで明らかになったパフォーマンス促進要素をすべて確認できたら素晴らしいと思いませんか? こうした価値あるインサイトからカスタムレポートを作成して、データの独自のトレンドやテーマを見つけることができます。たとえば、高パフォーマンスのキャンペーンとそのメンバーの業種や場所との関連性を把握したり、人々が最もエンゲージするマーケティングアセットを見つけたりします。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Advanced の Lightning Experience に適用されます。

方法: 適切なカスタムレポートを作成するのに役立つ、複数の新規項目を使用できます。インサイトレベルでアセット ID などの項目と、特定の論理的根拠値 (役職、業種、都道府県など) を組み合わせることができます。次の項目を使用できます。

キャンペーンインサイト
- キャンペーン ID
- インサイト種別
- トレンド種別
- アセット項目 1 (メールの件名)
- マーケティングアセット ID (または名前)

インサイトの論理的根拠
- キャンペーンインサイト ID
- 親 ID
- インサイト種別
- メールタイトルの語句

国

都道府県

役職

業種

アセット項目 1 はメールの件名を示します。マーケティングアセット ID には、使用可能であればアセット名が表示されます。名前を使用できない場合は、一意の識別子が表示されます。

Sales Cloud のその他の変更

Data.com Prospector と Data.com Clean は、2020 年 7 月 31 日に廃止される要諦です。Sales Cloud 機能の配信設定を、通知ビルダーで管理できるようになりました。また、メッセージングチャネルをオムニチャネルで転送できます。

このセクションの内容:

Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止
Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。これらの商品は 2020 年 7 月 31 日に廃止される予定です。既存の契約は有効です。

Sales Cloud 機能の配信設定の管理
通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。より詳細に制御できるようになりました。

オムニチャネルによるメッセージングチャネルの転送
Sales Cloud ライセンスとデジタルエンゲージメントアドオンライセンスを持っているユーザは、メッセージチャネルのルーティングにオムニチャネルルーティングと Omni-Channel Supervisor を使用できます。

Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止

Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。これらの商品は 2020 年 7 月 31 日に廃止される予定です。既存の契約は有効です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Data.com Clean および Prospector の廃止

Sales Cloud 機能の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。より詳細に制御できるようになりました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と Salesforce Classic のユーザ、Database.com を除くすべてのエディショ

ンの現在の Salesforce モバイルアプリケーション、および Essentials と Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザに送信できます。Mobile Publisher アプリケーションのユーザへの通知の送信は、有料オプションです。

関連トピック:

通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理

オムニチャネルによるメッセージングチャネルの転送

Sales Cloud ライセンスとデジタルエンゲージメントアドオンライセンスを持っているユーザは、メッセージチャネルのルーティングにオムニチャネルルーティングと Omni-Channel Supervisor を使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

サービス: Einstein 記事のおすすめ、Field Service のタイムシート、ナレッジチャネルの追加、事前チャット情報のすばやい確認、その他の多くの改善

サービスに加えられた多くの更新によりエージェントの時間を節約し、顧客の満足度を高めます。推奨記事を使用して、エージェントがケースをより迅速に解決できるようサポートします。フィールドサービスの派遣作業員が作業時間を外出先で記録できるようにします。より多くのチャネルを使用してナレッジ記事を送信します。チャットを受け入れる前に、エージェントが事前チャット情報および訪問されたページを確認できるようにします。セカンダリルーティング優先度を使用して、エージェントが最初に適切なケースに取り組むことができるようにします。ケースフィードで拡張メール環境を使用して、エージェントの生産性を向上します。ケースのクローズ時にアンケートを自動的に送信して、顧客が考えていることを確認します。サードパーティの自然言語処理エンジンを Einstein ボットに統合します。

このセクションの内容:

Einstein for Service: Einstein ボットのサードパーティ NLP、自動ケース分類

サードパーティ自然言語プロセッサ (NLP) と Einstein ボットとの双方向のインテグレーションを作成します。Einstein ケース分類によって、予測項目値を自動的にケースに保存します。

Field Service: タイムシート、状態チェック、拡張一致作業ルール

派遣作業員がモバイルデバイスで作業時間を記録できるようにします。状態チェックを使用して、Field Service 設定が Salesforce のベストプラクティスと一致するようにします。拡張一致作業ルールを使用して、作業に適したサービスリソースを見つけます。

チャネル:取引先責任者の詳細ページでの会話の使用、チャットウィンドウでの添付ファイルの表示、アクセスしやすくなったモバイルアプリケーション用埋め込みサービス

メール、チャット、メッセージングが拡張され、エージェントの環境が改善され、生産性が向上します。WeChat と WhatsApp チャネルをパイロットプログラムとして使用できます。エージェントは取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。ファイルをチャットウィンドウで使用できるため、エージェントはファイルを表示する前にファイルをダウンロードする必要はありません。モバイルアプリケーション用埋め込みサービスへのアクセスを容易にしました。

ナレッジ: 拡張されたチャネル、柔軟性の高いスタイル、改善された記事の管理

記事を共有するチャネルが増えました。コミュニティおよびサイトの記事のコンテンツやリンクをソーシャル投稿に挿入できます。また、記事コンテンツをチャットやメッセージング会話に挿入することもできます。検索およびユーザアクセスが強化され、ドラフト記事、アーカイブ済み記事、公開記事をより詳細に制御できるようになりました。

ルーティング: スキルベースルーティングの属性設定 (正式リリース)、セカンダリルーティングの優先度、営業のオムニチャネル、その他

スキルベースルーティングの属性設定を使用することで、コードを書かずに数クリックの操作だけでスキルベースのルーティングを設定できます。項目値を使用することで、セカンダリルーティングの優先度も設定できます。また、営業担当のユーザは、オムニチャネルルーティングを使用できるようになりました。さらに、公開グループをサーチしたり、オムニチャネルウィジェットで色分けされたエージェントの状況を確認したり、おおよその待ち時間を顧客に伝えたりすることもできます。

ケース管理: サービスの Lightning フローのリリースに対する重要な更新、Lightning でのフィード項目表示の使用開始、ケースフィードの使いやすさの向上

サービスの Lightning フローに対する重要な更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。エージェントの自動起動フローを追加します。エージェントは、Lightning Experience でフィード項目表示を公開または非公開に設定できるようになりました。Lightning Experience での使いやすさが向上したため、エージェントは新しいフィード項目がある場合やケースコメントが非公開である場合に簡単にわかるようになりました。

Einstein for Service: Einstein ボットのサードパーティ NLP、自動ケース分類

サードパーティ自然言語プロセッサ (NLP) と Einstein ボットとの双方向のインテグレーションを作成します。Einstein ケース分類によって、予測項目値を自動的にケースに保存します。

このセクションの内容:

Einstein ボット: ボットチャットの自動終了、ナレッジ記事の配信、サードパーティ NLP への接続、その他

ボットが夏を過ぎてスマートになりました!エージェントの対応可能状況を確認し、チャットを適切に終了するためのルールアクションが Einstein ボットに含まれるようになりました。また、サードパーティ自然言語プロセッサを Einstein ボットに接続する方法と、関連するナレッジ記事を顧客に直接配信するクイックアクションが作成されました。

Einstein ケース分類: 自動値、パフォーマンスダッシュボード、オンデマンド分類

予測項目値を自動的にケースに保存し、自動変更用の Einstein ユーザを指定し、ルールを設定します。Einstein ケース分類がどの程度うまく機能しているかを確認し、オンデマンドで分類されたケースを提供します。

Einstein ボット: ボットチャットの自動終了、ナレッジ記事の配信、サードパーティ NLP への接続、その他

ボットが夏を過ぎてスマートになりました! エージェントの対応可能状況を確認し、チャットを適切に終了するためのルールアクションが Einstein ボットに含まれるようになりました。また、サードパーティ自然言語プロセッサを Einstein ボットに接続する方法と、関連するナレッジ記事を顧客に直接配信するクイックアクションが作成されました。

このセクションの内容:

ボットチャットの自動終了
自動でクリーンアップを行うボットを作成します。ボットが会話の自然な終了を感知して訪問者に代わってセッションを自動的に閉じるのに役立つ条件を、[チャットを終了する] ルールアクションを使用して追加します。

顧客へのナレッジ記事の容易な配信
顧客の検索語に基づいてボットがナレッジ記事のライブラリを共有できるようにします。このアクションをダイアログに配置し、コードではなくクリックを使用して上位の Lightning Knowledge 記事を顧客に配信します。

エージェントの対応可能状況の確認によるボットの引き継ぎの改善
ボットとエージェントの連携が改善されます。転送前にエージェントの対応可能状況を確認することで転送をさらにスマートにしました。転送の状況について顧客に知らせるためのカスタムメッセージを定義します。

ボットの設定に関するヘルプのカルーセルを使用したスキルの向上
[設定] 画面でカルーセルを使用して、最も役立つ Einstein ボットコンテンツをすぐに取得します。ボットレシピ、トラブルシューティングのヒント、ベストプラクティスにアクセスします。

ボットチャットの自動終了

自動でクリーンアップを行うボットを作成します。ボットが会話の自然な終了を感知して訪問者に代わってセッションを自動的に閉じるのに役立つ条件を、[チャットを終了する] ルールアクションを使用して追加します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。[チャットを終了する] ルールアクションは、チャットとオムニチャネルを使用するボットの機能です。有効なサブスクリプションを持つチャットユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

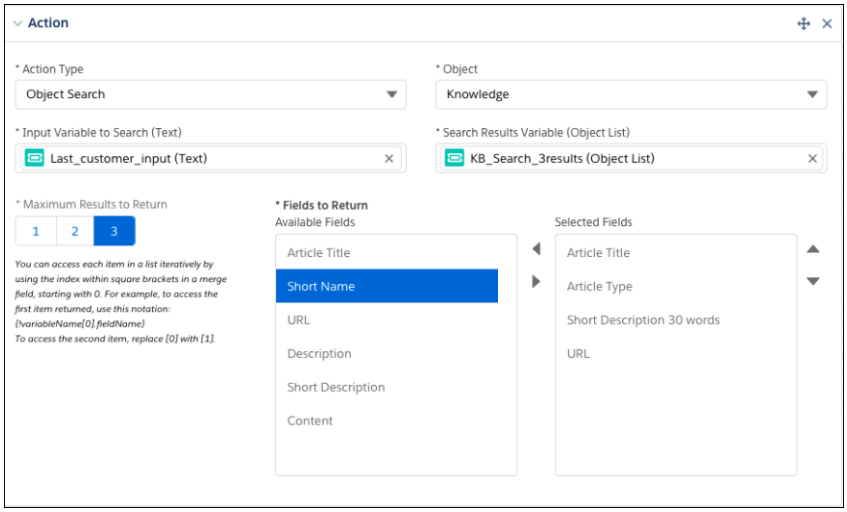
顧客へのナレッジ記事の容易な配信

顧客の検索語に基づいてボットがナレッジ記事のライブラリを共有できるようにします。このアクションをダイアログに配置し、コードではなくクリックを使用して上位の Lightning Knowledge 記事を顧客に配信します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

理由: 顧客が検索語を入力すると、ボットは、要求を最適に解決する 1 つ、2 つ、または 3 つの記事を配信します。カスタマイズした環境を提供するために顧客に表示する項目を選択できます。



エージェントの対応可能状況の確認によるボットの引き継ぎの改善

ボットとエージェントの連携が改善されます。転送前にエージェントの対応可能状況を確認することで転送をさらにスマートにしました。転送の状況について顧客に知らせるためのカスタムメッセージを定義します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。この機能は、チャットとオムニチャネルを使用するボットで使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: [対応可能なエージェントがいません] ダイアログはすべての新しいボットに含まれます。このダイアログをアクティブにするには、[対応可能なエージェントがいません] を選択します。

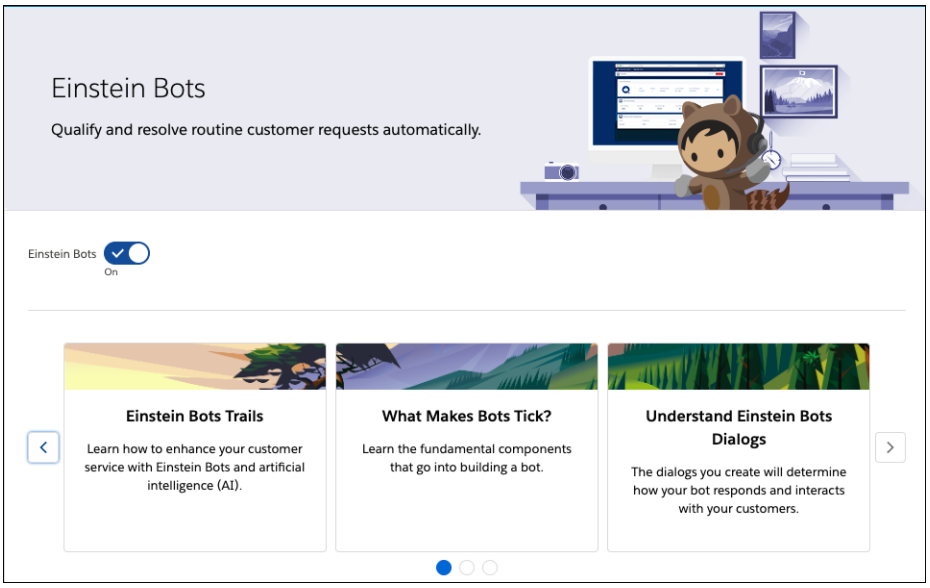
ボットの設定に関するヘルプのカルーセルを使用したスキルの向上

[設定] 画面でカルーセルを使用して、最も役立つ Einstein ボットコンテンツをすぐに取得します。ボットレシピ、トラブルシューティングのヒント、ベストプラクティスにアクセスします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Einstein ボット*」と入力し、**[Einstein ボット]** を選択します。



Einstein ケース分類: 自動値、パフォーマンスダッシュボード、オンデマンド分類

予測項目値を自動的にケースに保存し、自動変更用の Einstein ユーザを指定し、ルールを設定します。Einstein ケース分類がどの程度うまく機能しているかを確認し、オンデマンドで分類されたケースを提供します。

このセクションの内容:

Einstein ケースルーティングによるケースへの Einstein 予測値の自動適用

予測項目値によって、エージェントの時間を節約し正確性を高めます。予測項目値をケースに適用、保存することによって、さらに時間を節約します。ケースを適切なエージェントに割り当てて転送することで、より迅速に解決できます。

Einstein が行った変更の識別

Einstein ケース分類が行った予測を自動的にケースに保存することを選択した場合、変更を Einstein が行った場合を識別するために Einstein ユーザを作成すると便利です。または、デフォルトの自動化プロセスユーザを使用することもできます。

Einstein が変更を行った後のルールの実行

Einstein ケース分類によって自動的に予測値がケースに保存された後に、ケース割り当てルールとスキルベースのルーティングの属性設定ルールを実行して、適切なエージェントにケースを転送できます。

エージェントに対する Einstein ケース分類の有効性の理解

パフォーマンスダッシュボードには、Einstein 予測がどの程度うまく機能しているかが表示されます。Einstein 予測のパフォーマンスが、ケースに最終的に保存された項目値と比較して表示されます。この情報を使用して、受信ケースの値を自動化する状況を判断します。

遅延のない Einstein レコメンデーションの表示

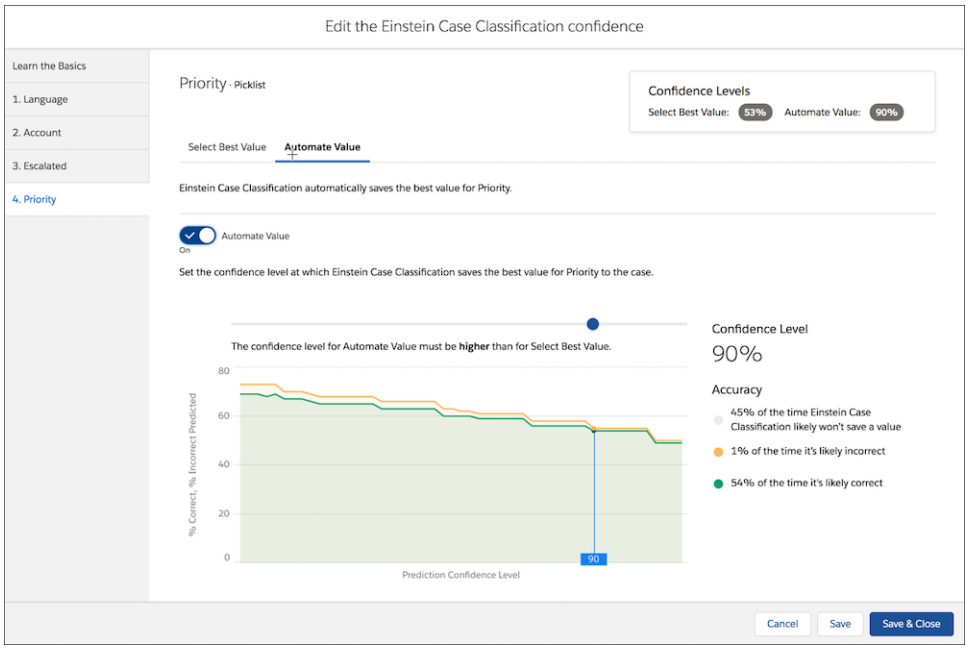
Einstein は、ケースが作成されるとすぐにそのケースを分類するため、エージェントは数秒以内で推奨項目値を使用できます。

Einstein ケースルーティングによるケースへの Einstein 予測値の自動適用

予測項目値によって、エージェントの時間を節約し正確性を高めます。予測項目値をケースに適用、保存することによって、さらに時間を節約します。ケースを適切なエージェントに割り当てて転送することで、より迅速に解決できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: エージェントのために予測する項目を追加します。次に、予測モデルを作成します。Einstein ケース分類は、クローズケースデータの項目を分析して、新規ケースでのこれらの項目の予測を決定します。各項目について、[値を自動化] を有効にすると、ケースに予測が適用されて保存されます。



関連トピック:

- Einstein が変更を行った後のルールの実行
- Einstein が行った変更の識別
- エージェントに対する Einstein ケース分類の有効性の理解
- Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

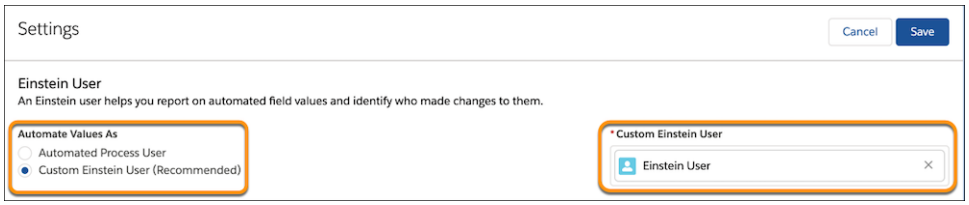
Einstein が行った変更の識別

Einstein ケース分類が行った予測を自動的にケースに保存することを選択した場合、変更を Einstein が行った場合を識別するために Einstein ユーザを作成すると便利です。または、デフォルトの自動化プロセスユーザを使用することもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: [設定] から、[ケース分類] 設定の [Einstein ユーザ] セクションで [カスタム **Einstein** ユーザ (推奨)] を選択します。次に、ユーザを選択します。この目的専用のユーザを作成し、他のユーザとは区別することをお勧めします。

Einstein ユーザは、ケースと予測対象項目に対する編集権限を持つ必要があります。



関連トピック:

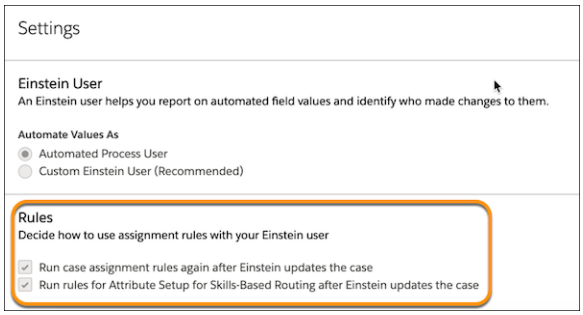
- Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Einstein が変更を行った後のルールの実行

Einstein ケース分類によって自動的に予測値がケースに保存された後に、ケース割り当てルールとスキルベースのルーティングの属性設定ルールを実行して、適切なエージェントにケースを転送できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: [設定] から、[ケース分類] 設定でルールを有効にします。



関連トピック:

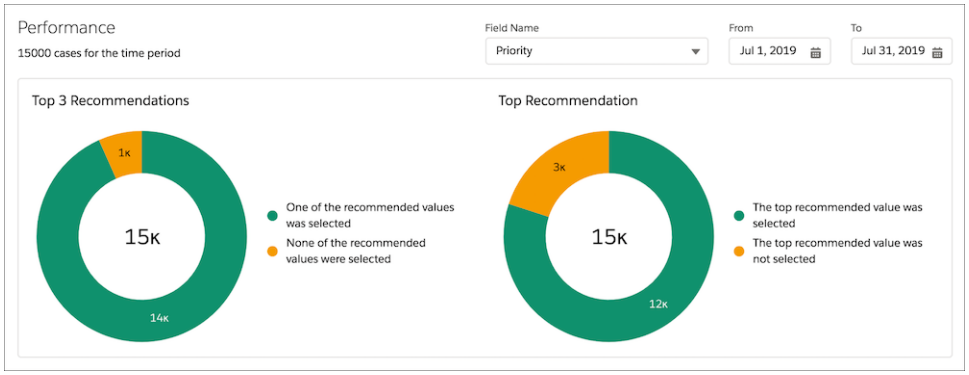
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

エージェントに対する Einstein ケース分類の有効性の理解

パフォーマンスダッシュボードには、Einstein 予測がどの程度うまく機能しているかが表示されます。Einstein 予測のパフォーマンスが、ケースに最終的に保存された項目値と比較して表示されます。この情報を使用して、受信ケースの値を自動化する状況を判断します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

方法: 1 つのグラフには、最上位のおすすめの有効性が示されます。もう 1 つのグラフには、上位 3 件のおすすめのいずれかが最終的な値として採用される頻度が示されます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

遅延のない Einstein レコメンデーションの表示

Einstein は、ケースが作成されるとすぐにそのケースを分類するため、エージェントは数秒以内で推奨項目値を使用できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ケース分類は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Field Service: タイムシート、状態チェック、拡張一致作業ルール

派遣作業員がモバイルデバイスで作業時間を記録できるようにします。状態チェックを使用して、Field Service 設定が Salesforce のベストプラクティスと一致するようにします。拡張一致作業ルールを使用して、作業に適したサービスリソースを見つけます。

このセクションの内容:

モバイルタイムシートによる外出先での作業時間の記録 (ベータ)

派遣作業員がモバイルデバイスで作業時間を記録できるようにします。派遣作業員は自分のタイムシート履歴を表示したり、レビュー中のタイムシートの状況を確認したりすることもできます。その後、フィールドサービスマネージャが Salesforce でタイムシートを承認できます。

状態チェックによる健全性の維持 (ベータ)

くつろいで座っているだけで、状態チェックによって Field Service の設定および設定データ (サービス予定やリソース設定など) に関する一連の自動テストが実行されます。問題点が特定されると、設定をベストプラクティスと一致させるための推奨事項が即座に表示されます。

拡張一致作業ルールを使用した効率的なサービス予定のスケジュール

拡張一致作業ルールを設定して、すべてのジョブに最適なサービスリソースを見つけます。たとえば、派遣作業員が特定の郵便番号領域をサポートしている場合があります。その場合、拡張一致作業ルールを使用して、その領域内の予定を割り当てることができます。

アイコンと色を使用したレポートの地図表示

アイコンと色をカスタマイズして、レポートをガントマップ上でわかりやすく表示します。地理位置情報項目を含む任意の表形式レポートを地図に表示できます。

クルー管理スケジュールポリシーの瞬時の切り替え

スケジュールポリシーを切り替えるには、[Crew Management (クルー管理)] の [Policy (ポリシー)] ドロップダウンメニューを使用します。以前は、組織のデフォルトのスケジュールポリシーを使用してサービス予定の候補者を検索する必要がありました。

コミュニティでのサービス契約と契約品目による顧客との信頼の構築

ユーザやパートナーがコミュニティ内でサービス契約と契約品目に直接アクセスできるようにすることで、透明性を確立します。

サービス契約と契約品目でのクイックアクションの活用

サービス契約と契約品目に関する一般的なアクションのショートカットを追加することで、エージェントのワークフローを簡略化します。たとえば、新しいサービス契約や契約品目を作成できるクイックアクションや、一般的な作業を実行するクイックアクションを追加します。

条件に基づく共有ルールを使用したサービス契約へのアクセス権の拡大

条件に基づくカスタム共有ルールを作成し、ユーザがサービス契約にアクセスできるようにします。以前は、サービス契約に関する特定の条件を設定した共有ルールを作成することはできませんでした。

取引先の [納入商品] 関連リストの情報の絞り込み

ユーザは、[納入商品] 関連リストの値を絞り込むことによって、取引先に関連する納入商品の情報を見つけることができます。以前は、ユーザはこれらの値を絞り込むことはできませんでした。

Field Service のパフォーマンスの向上

Field Service Lightning で次の変更を利用できます。

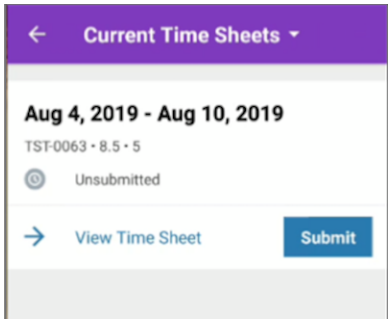
モバイルタイムシートによる外出先での作業時間の記録 (ベータ)

派遣作業員がモバイルデバイスで作業時間を記録できるようにします。派遣作業員は自分のタイムシート履歴を表示したり、レビュー中のタイムシートの状況を確認したりすることもできます。その後、フィールドサービスマネージャが Salesforce でタイムシートを承認できます。

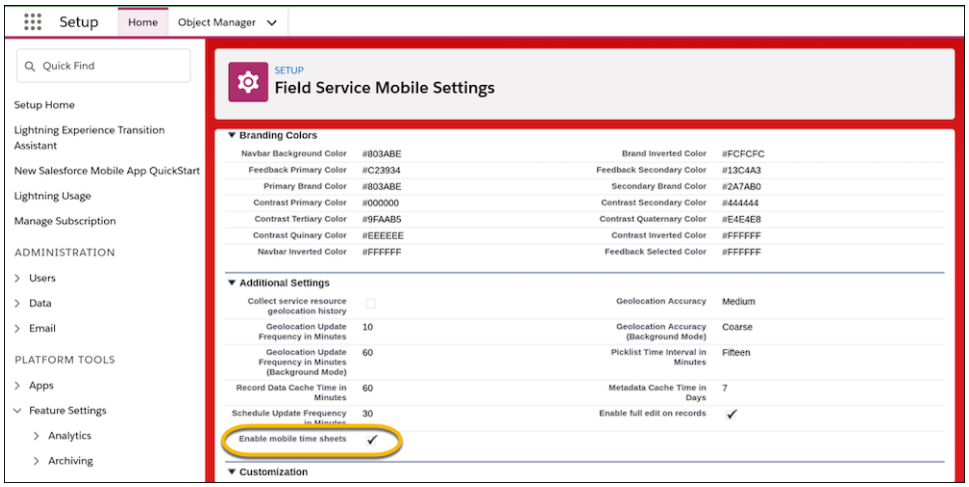
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: タイムシートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。タイムシートに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Field Service Lightning」グループに投稿してください。

方法: [プロファイル] に移動して [タイムシート] アイコンをタップします。[現在のタイムシート] ページで、タイムシートを表示するには、[タイムシートを表示] をタップします。エントリを作成するには、[+] 記号をタップします。



メモ: タイムシートを表示するには、タイムシートのモバイル設定を有効にする必要があります。



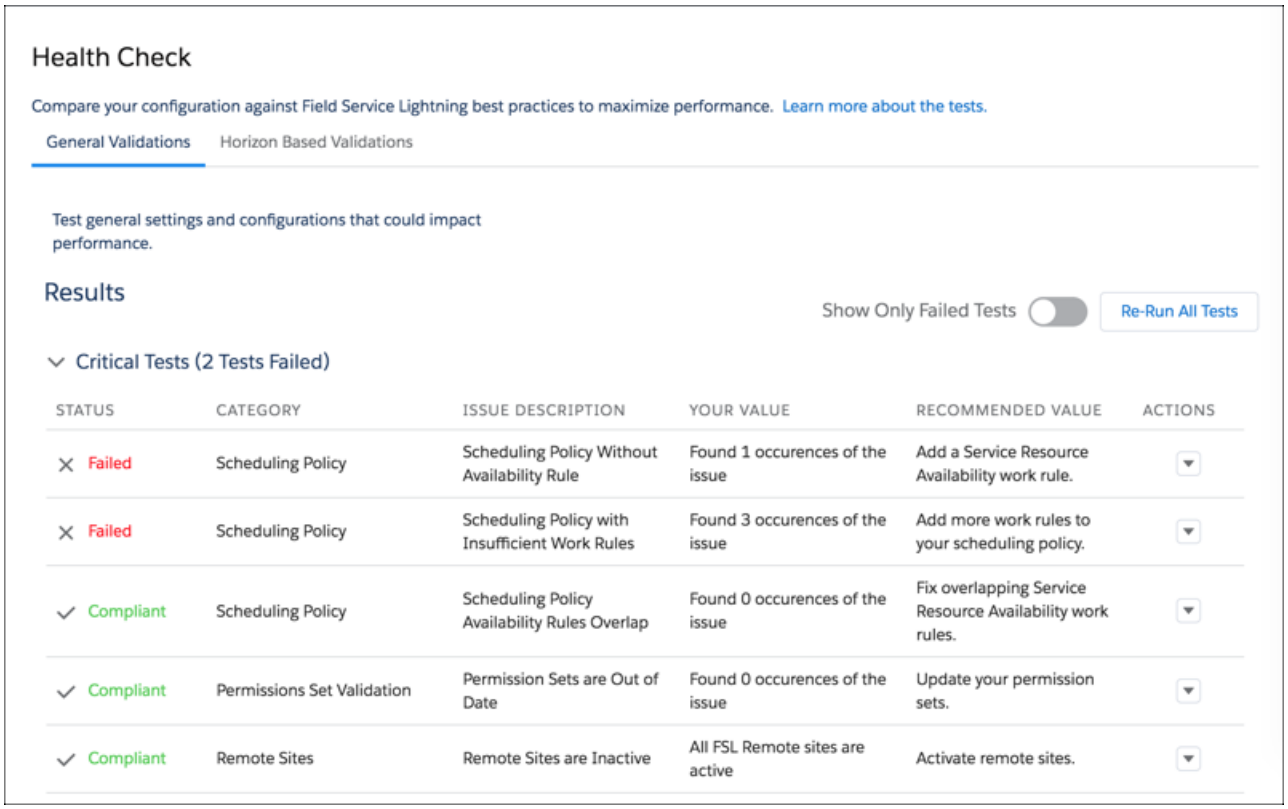
状態チェックによる健全性の維持 (ベータ)

くつろいで座っているだけで、状態チェックによって Field Service の設定および設定データ (サービス予定やリソース設定など)に関する一連の自動テストが実行されます。問題点が特定されると、設定をベストプラクティスと一致させるための推奨事項が即座に表示されます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 状態チェックはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。状態チェックに関するフィードバックや提案は、IdeaExchange または Trailblazer Community に投稿してください。

方法: 管理パッケージの [Field Service 設定] から、[状態チェック] を選択します。テストを実行し、対象期間ベースの検証を実行し、詳細な推奨事項を表示します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 状態チェックを使用した Field Service 設定のテスト (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

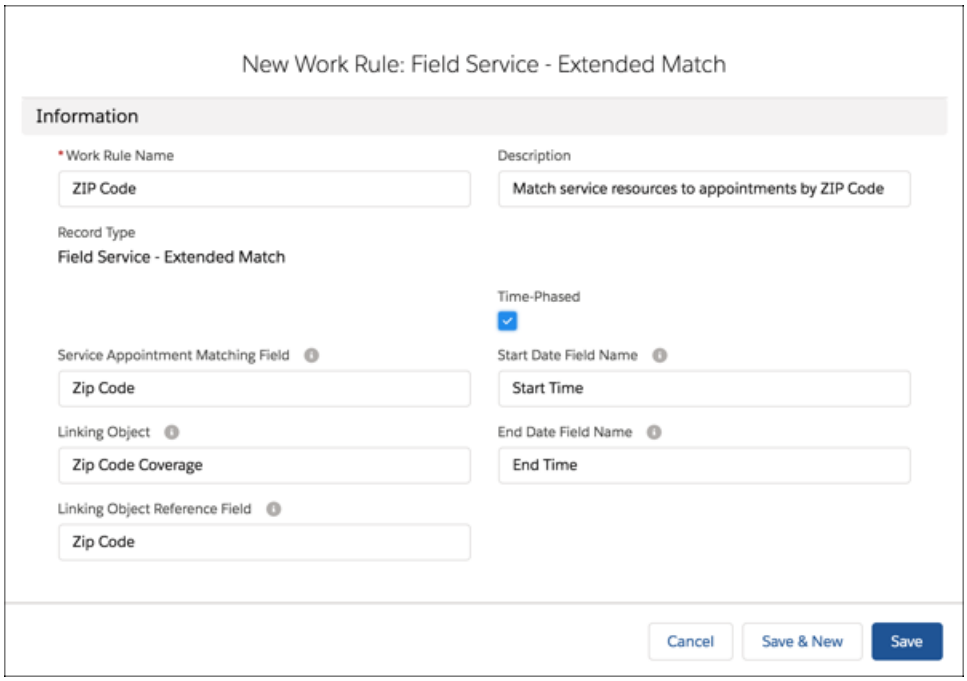
拡張一致作業ルールを使用した効率的なサービス予定のスケジュール

拡張一致作業ルールを設定して、すべてのジョブに最適なサービスリソースを見つけます。たとえば、派遣作業員が特定の郵便番号領域をサポートしている場合があります。その場合、拡張一致作業ルールを使用して、その領域内の予定を割り当てることができます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Lightning Experience のレコードページにカスタム Lightning コンポーネントを追加するには、[私のドメイン] を設定する必要があります。

方法: たとえば、サービス予定オブジェクトに [ZIP Code (郵便番号)] 参照項目を作成します。次に、[ZIP Code Coverage (郵便番号範囲)] リンクオブジェクトを作成し、[ZIP Code (郵便番号)] 項目を追加し、それをサービスリソースオブジェクトに関連リストとして添付します。[拡張一致ルール] Lightning コンポーネントを使用して、作業ルールを作成します。



関連トピック:

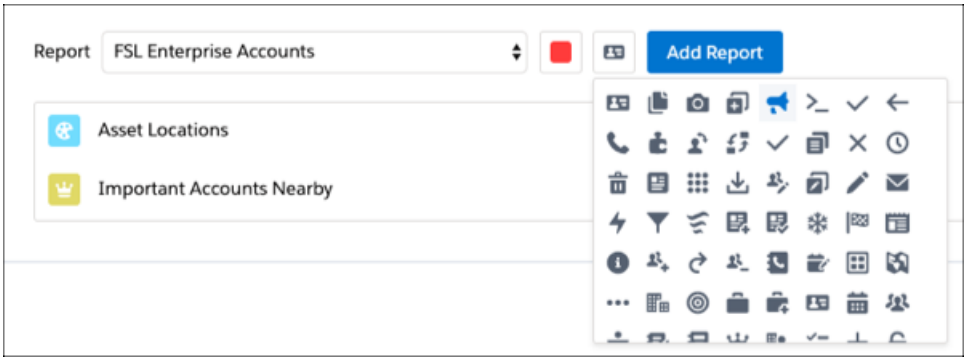
Salesforce ヘルプ: 作業ルールタイプ: 拡張一致 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アイコンと色を使用したレポートの地図表示

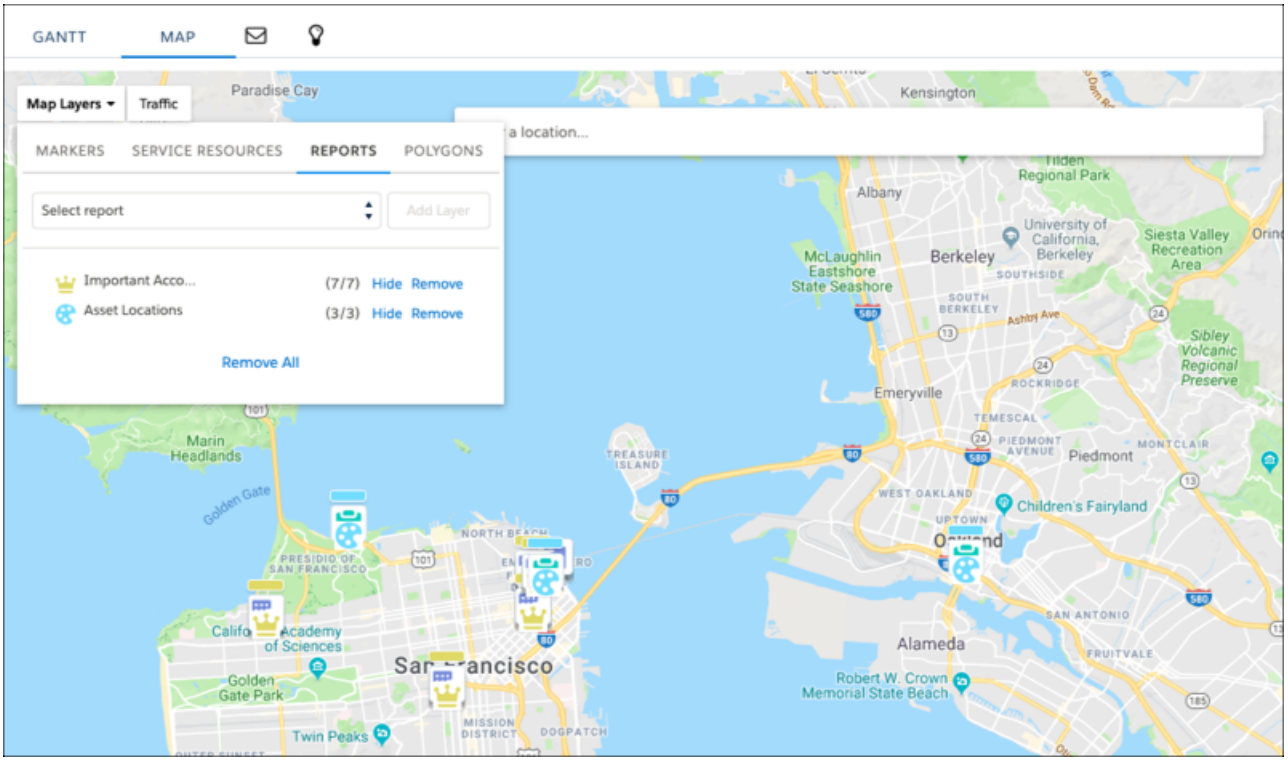
アイコンと色をカスタマイズして、レポートをガントマップ上でわかりやすく表示します。地理位置情報項目を含む任意の表形式レポートを地図に表示できます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [Field Service 設定] の [ディスパッチャコンソール UI] セクションから、[地図] をクリックします。レポート、色、アイコンを選択します。



それをガントマップにレイヤとして追加します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: レポートのアイコンと色のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

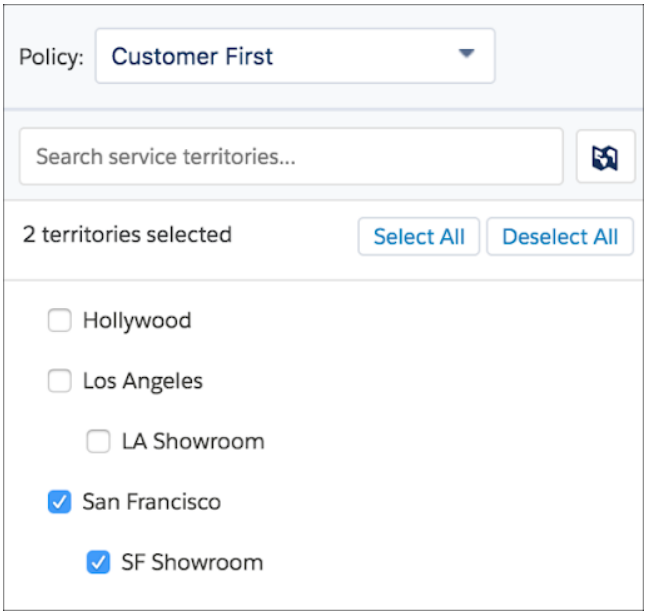
クルー管理スケジュールポリシーの瞬時の切り替え

スケジュールポリシーを切り替えるには、[Crew Management (クルー管理)] の [Policy (ポリシー)] ドロップダウンメニューを使用します。以前は、組織のデフォルトのスケジュールポリシーを使用してサービス予定の候補者を検索する必要がありました。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: ユーザがクルー管理にアクセスするには、「FSL管理権限」または「FSL派遣担当者権限」権限セットが必要です。クルー管理の Visualforce ページと Apex クラスへのアクセス権も必要です。詳細は、「クルー管理の設定」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)を参照してください。

方法: [Crew Management (クルー管理)] タブの左列で、ドロップダウンメニューからスケジュールポリシーを選択します。



コミュニティでのサービス契約と契約品目による顧客との信頼の構築

ユーザやパートナーがコミュニティ内でサービス契約と契約品目に直接アクセスできるようにすることで、透明性を確立します。

対象: この変更は、エンタイトルメントとコミュニティが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ユーザおよびコミュニティメンバーは、コミュニティライセンスに基づいてこれらのオブジェクトを使用できます。

- コミュニティのメンバーである社内の Salesforce ユーザは、サービス契約と契約品目にアクセスできます。
- Partner Community プロファイルまたは Partner Community Login プロファイルが割り当てられているコミュニティメンバーは、サービス契約と契約品目にアクセスできます。
- Customer Community Login プロファイルまたは Customer Community Plus Login プロファイルが割り当てられているコミュニティメンバーは、サービス契約にアクセスできますが、契約品目にはアクセスできません。

方法: コミュニティページにサービス契約と契約品目を追加します。そして、ユーザとコミュニティメンバーを、必要なアクセス権が付与されるライセンスに割り当てます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティテンプレートの標準のコンポーネントおよびページでサポートされるオブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コミュニティユーザライセンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービス契約と契約品目でのクイックアクションの活用

サービス契約と契約品目に関する一般的なアクションのショートカットを追加することで、エージェントのワークフローを簡略化します。たとえば、新しいサービス契約や契約品目を作成できるクイックアクションや、一般的な作業を実行するクイックアクションを追加します。

対象: この変更は、エンタイトルメントが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: オブジェクト固有のクイックアクションまたはグローバルクイックアクションを作成して、エージェントがサービス契約や契約品目に関する作業を行う時間を節約します。次に例を示します。

- サービス契約レコードから契約品目を直接作成するなどのクイックアクションをサービス契約に追加する。
- 契約品目の詳細を更新するなどのクイックアクションを契約品目に追加する。
- Salesforce アプリケーション内でサービス契約や契約品目をすばやく作成するグローバルクイックアクションを作成する。

この変更の一環として、Salesforce UI に次の項目が追加されました。

- サービス契約オブジェクトの [価格表] 項目
- サービス契約品目オブジェクトの [価格表エントリ] 項目

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバルクイックアクションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: オブジェクト固有のクイックアクションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: グローバルクイックアクションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: オブジェクト固有のクイックアクションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

条件に基づく共有ルールを使用したサービス契約へのアクセス権の拡大

条件に基づくカスタム共有ルールを作成し、ユーザがサービス契約にアクセスできるようにします。以前は、サービス契約に関する特定の条件を設定した共有ルールを作成することはできませんでした。

対象: この変更は、エンタイトルメントが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。サービス契約オブジェクトの [共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックし、共有ルールとその条件を定義します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 共有ルールの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

取引先の [納入商品] 関連リストの情報の絞り込み

ユーザは、[納入商品]関連リストの値を絞り込むことによって、取引先に関連する納入商品の情報を見つけることができます。以前は、ユーザはこれらの値を絞り込むことはできませんでした。

対象: この変更は、エンタイトルメントが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 取引先で、[関連] をクリックし、[納入商品] 関連リストに移動します。検索条件アイコンをクリックして、リストの値を絞り込みます。

Field Service のパフォーマンスの向上

Field Service Lightning で次の変更を利用できます。

対象: これらの変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

組織に追加できる地図の多角形の増加

組織内の地図の多角形に関するパフォーマンス制限が 200 から 30,000 に増えました。地図作成に取りかかりましょう!

勤務時間内の全日最適化ジョブのスケジュール

勤務時間内に設定した頻度で全日最適化を実行するようにスケジュールできます。たとえば、Los Angeles のサービステリトリーについて午前 10 時から午後 7 時までの間に 2 時間ごとに全日最適化を実行するようにスケジュールできます。

ガントチャートでの最大 500 行の表示

パフォーマンスを高めるために、ガントチャートのサービスリソース行に 500 行の表示制限が追加されました。

ガントチャートでの最大 2,000 件のサービステリトリーの表示

ガントチャートで表示できるサービステリトリーの数が 2,000 件に増えました。

頻繁に使用しないサービステリトリーの検索

テリトリーが多すぎてスクロールするのが大変な場合は、検索バーを使用して、まだ選択していないサービステリトリーを検索できます。ガントチャートのテリトリー検索条件、グローバルアクション、最適化ジョブ、スケジュールレシピ、および業務時間でテリトリーを検索できます。

高度な最適化による [リソース優先度] サービス内容の使用 (ベータ)

高度な最適化で、スケジュールを最適化するときにサービスリソースの [優先度] 項目が考慮されるようになりました。

チャネル:取引先責任者の詳細ページでの会話の使用、チャットウィンドウでの添付ファイルの表示、アクセスしやすくなったモバイルアプリケーション用埋め込みサービス

メール、チャット、メッセージングが拡張され、エージェントの環境が改善され、生産性が向上します。WeChat と WhatsApp チャネルをパイロットプログラムとして使用できます。エージェントは取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。ファイルをチャットウィンドウで使用できるため、エージェントはファイルを表示する前にファイルをダウンロードする必要はありません。モバイルアプリケーション用埋め込みサービスへのアクセスを容易にしました。

このセクションの内容:

メール:取引先責任者ルックアップ、ドッキングへのポップアウトモード、折りたたみ可能なメール、レスポンシブメールテンプレート

Lightning Experience のケースフィードでメールを使用する場合、生産性が向上します。ドッキングへのポップアウトモードを使用してメールの作成とケースフィードのスクロールを同時に行うか、集中しやすいようにメールコンポーザを最大化します。取引先責任者ルックアップや折りたたまれたメールスレッドなど、お気に入りの Salesforce Classic 機能を Lightning Experience で使用します。

メッセージング: WeChat と WhatsApp のパイロット、取引先責任者の詳細ページでメッセージングが使用可能、会話に関するレポートのサポート

メッセージングチャネルは、パイロットプログラムとして WeChat と WhatsApp を含むように拡張されました。エージェントは取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。システム管理者は、組織内でメッセージングがいつどのように使用されているかを分析できます。

チャット:チャットの本文内のファイル、エージェントへのチャットの直接転送、事前チャット詳細のクイック表示

チャットでのエージェントの環境が改善します。ファイルをチャットウィンドウで使用できるため、エージェントはファイルを表示する前にファイルをダウンロードする必要はありません。エージェントへの直接転送をオムニチャネルと Lightning Experience で使用できます。エージェントはチャットに入る前に、要求の上にマウスを置いて、事前チャット詳細を参照できます。

ソーシャルカスタマーサービス:より少ないクリックでソーシャル活動を維持

リードのソーシャルクイックアクションを使用して顧客に応答します。Instagram コメントにソーシャルパブリッシャーから直接返信します。Facebook の古い app-scoped ID (ASID) を使用するソーシャル人格アカウントの移行と削除を行います。

チャネルオブジェクトリンク:適切な人にインタラクションをすばやくリンクするルールの作成 (ベータ)

メッセージングインタラクションを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。自動リンクのルールを設定できます。また、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求することもできます。たとえば、エージェントが Facebook Messenger で顧客と会話している間に、ルールで、同じ名前の取引先責任者に会話を自動的にリンクすることができます。

モバイルアプリケーション用組み込みサービス:顧客環境のアクセシビリティの向上

スクリーンリーダーを使用する顧客がChatを使用しやすくなりました。いくつかのバグも修正されました。

チャネル: 取引先責任者の詳細ページでの会話の使用、チャットウィンドウでの添付ファイルの表示、アクセスしやすくなったモバイルアプリケーション用埋め込みサービス

Web 用埋め込みサービス: カスタムイベント、右から左への記述のサポート、予定のホーム

Lightning Experience のカスタムイベントによって、エージェントが制御できるようになります。チャットで、右から左へ記述される言語向けに簡単なレイアウト変換が使用できるようになりました。予定のホームで、リリース前にデフォルトとカスタムの表示ラベルをプレビューできます。

メール: 取引先責任者ルックアップ、ドッキングへのポップアウトモード、折りたたみ可能なメール、レスポンシブメールテンプレート

Lightning Experience のケースフィードでメールを使用する場合、生産性が向上します。ドッキングへのポップアウトモードを使用してメールの作成とケースフィードのスクロールを同時に行うか、集中しやすいようにメールコンポーザを最大化します。取引先責任者ルックアップや折りたたまれたメールスレッドなど、お気に入りの Salesforce Classic 機能を Lightning Experience で使用します。

このセクションの内容:

Lightning Experience の取引先責任者ルックアップによるメールの適切な宛先の検索

Lightning Experience のメールコンポーザから取引先責任者を検索することで、メールの宛先となる適切な取引先責任者を特定します。エージェントは、取引先の取引先責任者やその同僚を絞り込んで表示し、取引先責任者を名前で検索できます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

Lightning Experience のケースフィードでのメールの折りたたみによる画面スペースの増加

エージェントは、Lightning Experience でスクロールに費やす時間を減らし、顧客の支援に費やす時間を増やすことができます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

ドッキングされたメールコンポーザでのメールの作成

エージェントは、ドッキングモードでメールコンポーザを開いて、ケースフィードを表示したままでメールを作成できます。また、メールの作成に集中しやすいように、ドッキングされたメールコンポーザからメールコンポーザを最大化することもできます。

レスポンシブメールテンプレートによる顧客満足度の向上

エージェントがレスポンシブメールテンプレートを使用することで、顧客へのメールは、顧客のデスクトップ、電話、その他のモバイルデバイスのいずれでも適切に表示されます。HTML `<head>`、`<meta>`、`<title>`、`<style>` タグを使用するメールテンプレートを作成し、エージェントが使用できるようにします。

大きすぎる画像を埋め込もうとした場合の通知

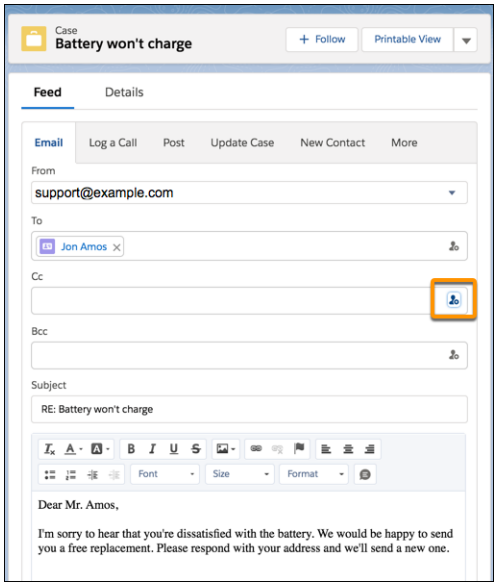
エージェントが 5 MB を超える画像をケースフィードのメールに挿入しようとすると、即座に警告が表示されます。以前は、サイズ超過の画像に関する警告はエージェントが送信ボタンをクリックするまで表示されませんでした。

Lightning Experience の取引先責任者ルックアップによるメールの適切な宛先の検索

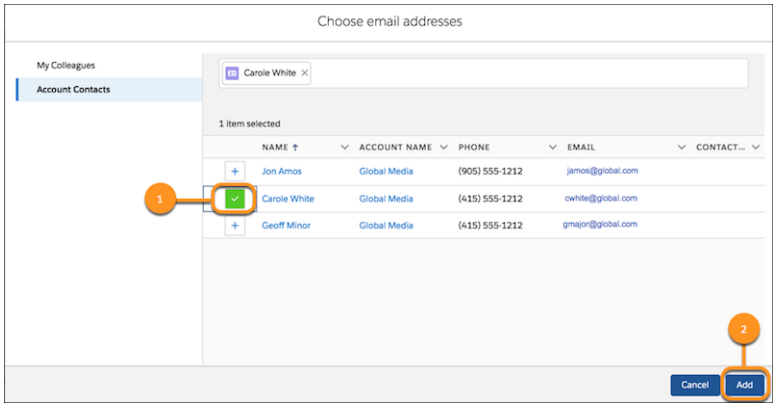
Lightning Experience のメールコンポーザから取引先責任者を検索することで、メールの宛先となる適切な取引先責任者を特定します。エージェントは、取引先の取引先責任者やその同僚を絞り込んで表示し、取引先責任者を名前で検索できます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:ケースフィードのメールコンポーザの[宛先]、[CC]、または[BCC]項目で取引先責任者のルックアップアイコンをクリックします。



ルックアップモーダルが開き、取引先責任者の検索と絞り込みを実行できます。



メールの送信先の取引先責任者を選択します(1)。複数の取引先責任者を選択できます。[追加]をクリックします(2)。

関連トピック:

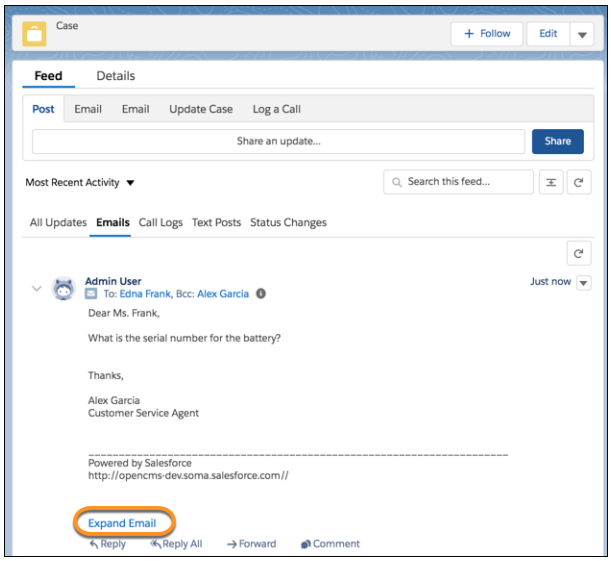
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience のケースフィードでのメールの折りたたみによる画面スペースの増加

エージェントは、Lightning Experience でスクロールに費やす時間を減らし、顧客の支援に費やす時間を増やすことができます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [メールを展開] をクリックして、完全なスレッドを表示します。メールフィード項目を折りたたむには、ブラウザを更新します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

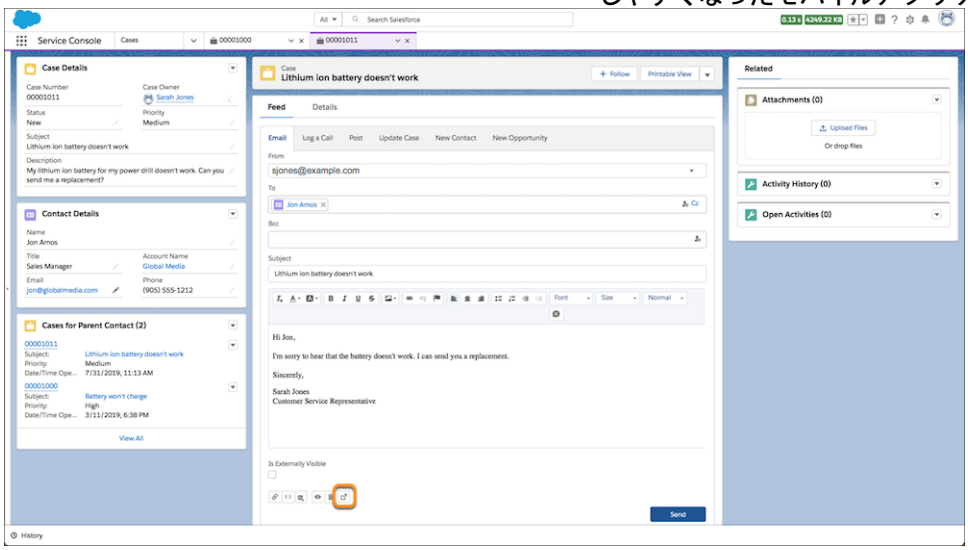
ドッキングされたメールコンポーザでのメールの作成

エージェントは、ドッキングモードでメールコンポーザを開いて、ケースフィードを表示したままでメールを作成できます。また、メールの作成に集中しやすいように、ドッキングされたメールコンポーザからメールコンポーザを最大化することもできます。

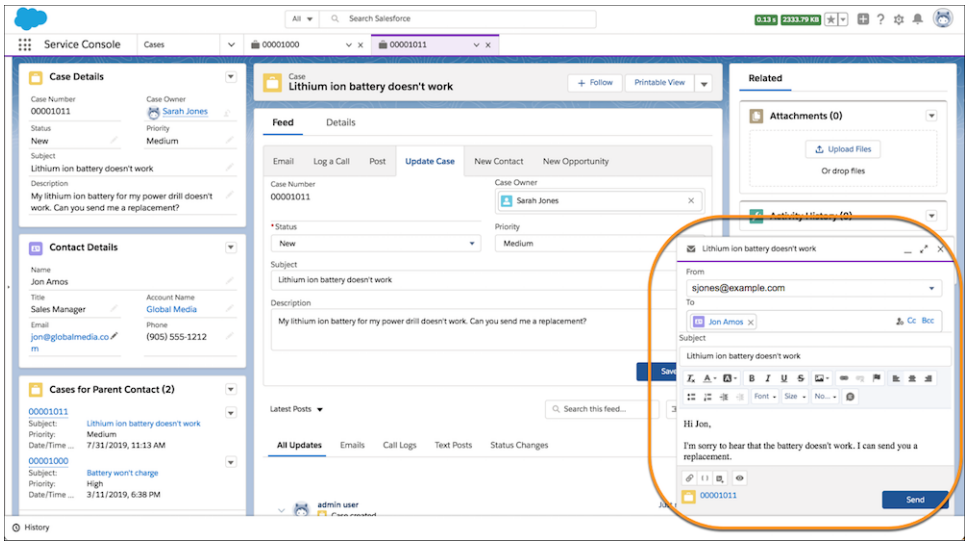
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ケースフィードのメールアクションで、[ドッキングビューにポップアウト] アイコンをクリックします。

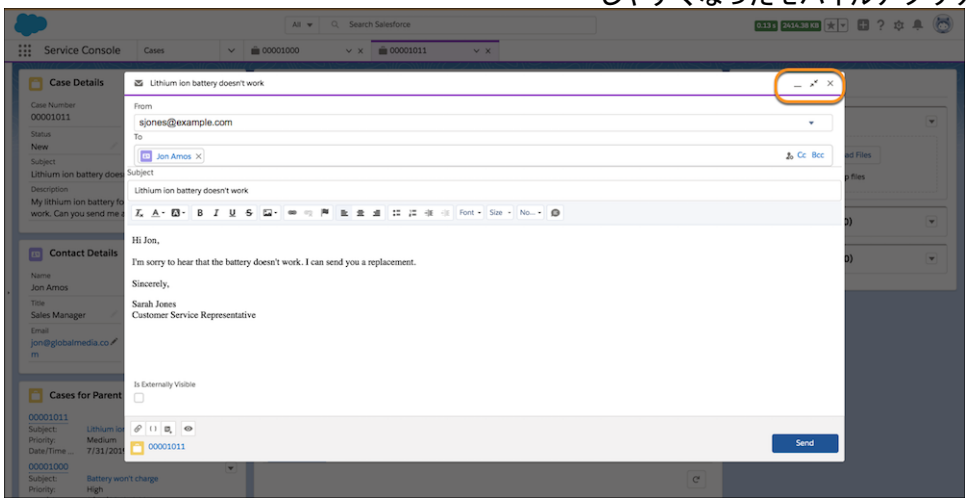
メモ: メールドラフトが有効になっている場合、ツールバーの [ドッキングビューにポップアウト] メールコンポーザアクションは無効になります。



ドッキングされたメールコンポーザが開きます。



ドッキングされたコンポーザからメールコンポーザを最大化したり、ウィンドウを最小化して閉じたりできます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レスポンシブメールテンプレートによる顧客満足度の向上

エージェントがレスポンシブメールテンプレートを使用することで、顧客へのメールは、顧客のデスクトップ、電話、その他のモバイルデバイスのいずれでも適切に表示されます。HTML `<head>`、`<meta>`、`<title>`、`<style>` タグを使用するメールテンプレートを作成し、エージェントが使用できるようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのメール差し込み項目、テンプレート、および添付ファイルへのアクセスと共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

大きすぎる画像を埋め込もうとした場合の通知

エージェントが 5 MB を超える画像をケースフィードのメールに挿入しようとすると、即座に警告が表示されます。以前は、サイズ超過の画像に関する警告はエージェントが送信ボタンをクリックするまで表示されませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での顧客へのメール送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メッセージング: WeChat と WhatsApp のパイロット、取引先責任者の詳細ページでメッセージングが使用可能、会話に関するレポートのサポート

メッセージングチャネルは、パイロットプログラムとして WeChat と WhatsApp を含むように拡張されました。エージェントは取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。システム管理者は、組織内でメッセージングがいつどのように使用されているかを分析できます。

このセクションの内容:

WhatsApp での顧客とのつながり (パイロット)

顧客が WhatsApp を使用してサポートエージェントとコミュニケーションできるようにします。顧客は WhatsApp を使用して海外にメッセージを送信し、エージェントとはサービスコンソールから返信します。

WeChat での顧客とのつながり (パイロット)

顧客が WeChat を使用してサポートエージェントとコミュニケーションできるようにします。WeChat 公式サービスアカウントを使用すると、中国をはじめ、全世界でサービスを提供できます。エージェントはサービスコンソールから返信します。

取引先責任者の詳細ページからの会話開始

エージェントがケースを作成せずに顧客に連絡したい場合は、取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。この機能は、メッセージングユーザの詳細ページから会話を開始するのと同じです。

ワンクリックで放置セッションをクリア

エージェントが画面上に複数のセッションを開いていても操作を行っていない場合、[メッセージングセッション]リストビューからそれらを閉じることができます。放置された、または停滞したセッションを削除するには、[メッセージングセッション] リストビューで [セッションを終了] をクリックします。

会話の標準レポートの実行

組織内でメッセージングがいつどのように使用されているかを分析します。Salesforce 標準レポートに ConversationEntry オブジェクトが含まれるようになりました。

取引先責任者の詳細ページの [メッセージングセッション] 関連リストの作成

取引先責任者ページレイアウトに関連リストとして [メッセージングセッション] を追加します。エージェントは、関連するメッセージングセッションを表示するために [メッセージングユーザ] 関連リストをクリックする必要がありません。

適切な人へのインタラクションのすばやいリンク (ベータ)

メッセージングインタラクションを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。自動リンクのルールを設定できます。また、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求することもできます。たとえば、エージェントが Facebook Messenger で顧客と会話している間に、ルールで、同じ名前の取引先責任者に会話を自動的にリンクすることができます。

WhatsApp での顧客とのつながり (パイロット)

顧客が WhatsApp を使用してサポートエージェントとコミュニケーションできるようにします。顧客は WhatsApp を使用して海外にメッセージを送信し、エージェントとはサービスコンソールから返信します。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

メモ: Messaging WhatsApp は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、サクセスマネージャに問い合わせていただくか、https://help.salesforce.com/home でケースを登録してください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式にリリースされている機能のみに基づいて購入をご決定ください。

WeChat での顧客とのつながり (パイロット)

顧客が WeChat を使用してサポートエージェントとコミュニケーションできるようにします。WeChat 公式サービスアカウントを使用すると、中国をはじめ、全世界でサービスを提供できます。エージェントはサービスコンソールから返信します。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

メモ: Messaging WeChat は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、サクセスマネージャに問い合わせていただくか、https://help.salesforce.com/home でケースを登録してください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式にリリースされている機能のみに基づいて購入をご決定ください。

方法: WeChat チャネルを設定するには、ガイド付き設定フローを使用します。WeChat アプリケーション ID、アプリケーションの秘密、暗号化鍵、確認トークンが必要です。

取引先責任者の詳細ページからの会話開始

エージェントがケースを作成せずに顧客に連絡したい場合は、取引先責任者の詳細ページから会話を開始できます。この機能は、メッセージングユーザの詳細ページから会話を開始するのと同じです。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

方法: 会話発信を有効にするには、メッセージング権限セットに [エージェントが開始するアウトバウントメッセージング] ユーザ設定を追加します。

メモ: メッセージングでメッセージを送受信するにはメッセージングエージェントが有効になっている必要があります。

顧客にプロアクティブに情報を伝達するには、エージェントは顧客の取引先責任者またはメッセージングユーザの詳細ページに移動し、[会話を開始] をクリックします。新しいタブが開き、直近のセッションと新しい

セッションで開始されたメッセージが表示されます。エージェントは会話を中断した場所から再開します。複数のメッセージを送信できます。

顧客が不在で応答がない場合は、エージェントは会話タブを閉じて顧客からの応答があったときに通知を受け取ることができます。顧客が応答したときにエージェントが対応できない場合は、会話は代替キューまたはスキルに入れられ、元のエージェントは会話に貢献できなくなります。

アウトバウンドメッセージの状況は[新規]で、エージェントの業務量を取りません。エージェントがメッセージを送信しても、セッションは[新規]のままです。顧客が応答すると状況は[待機中]になり、最終的にエージェントが受け入れると[有効]になります。

ワンクリックで放置セッションをクリア

エージェントが画面上に複数のセッションを開いていても操作を行っていない場合、[メッセージングセッション]リストビューからそれらを閉じることができます。放置された、または停滞したセッションを削除するには、[メッセージングセッション]リストビューで[セッションを終了]をクリックします。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

メモ: 有効なセッションを終了しないように注意してください。

対象ユーザ: セッションの所有者 ([メッセージングセッション所有者] 項目のユーザ) と「メッセージングの設定」権限を持つユーザがセッションを終了できます。

方法: セッションを終了すると、その状況が[終了済み]に変わり、トランスクリプトが生成されます。積極的にチャットに参加していたエージェントであれば、セッションが終了してテキストボックスが無効になっているのがわかります。送信セッションは、ユーザが参加する前や参加した後でいつでも終了できます。

会話の標準レポートの実行

組織内でメッセージングがいつどのように使用されているかを分析します。Salesforce 標準レポートに ConversationEntry オブジェクトが含まれるようになりました。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

方法: 標準レポートを実行するには、「サポート活動のレポート」を参照してください。

取引先責任者の詳細ページの [メッセージングセッション] 関連リストの作成

取引先責任者ページレイアウトに関連リストとして[メッセージングセッション]を追加します。エージェントは、関連するメッセージングセッションを表示するために[メッセージングユーザ]関連リストをクリックする必要がありません。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

適切な人へのインタラクションのすばやいリンク (ベータ)

メッセージングインタラクションを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。自動リンクのルールを設定できます。また、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求することもできます。たとえば、エージェントがFacebook Messengerで顧客と会話している間に、ルールで、同じ名前の取引先責任者に会話を自動的にリンクすることができます。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してMessagingにアクセスできる組織に適用されます。Lightning ExperienceのMessagingは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud付属) で使用できます。

メモ: ベータ機能であるチャネルオブジェクトリンクはプレビューであり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対してSalesforceは一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能の有効化についての詳細は、Salesforceにお問い合わせください。

方法: 詳細は、「チャネルオブジェクトリンク:適切な人にインタラクションをすばやくリンクするルールの作成 (ベータ)」 (ページ 262)を参照してください。

チャット: チャットの本文内のファイル、エージェントへのチャットの直接転送、事前チャット詳細のクイック表示

チャットでのエージェントの環境が改善します。ファイルをチャットウィンドウで使用できるため、エージェントはファイルを表示する前にファイルをダウンロードする必要はありません。エージェントへの直接転送をオムニチャネルとLightning Experienceで使用できます。エージェントはチャットに入る前に、要求の上にマウスを置いて、事前チャット詳細を参照できます。

このセクションの内容:

チャットの前の顧客情報の迅速なプレビュー
チャットを受け入れる前に、エージェントはオムニチャネルでチャット要求にマウスを置くと、事前チャット詳細と訪問先のページを参照できます。

オムニチャネルを使用した特定のエージェントへの顧客の送信
より迅速な解決のため、オムニチャネルを使用して顧客を適切なエージェントに直接送信します。エージェントへの直接転送では、エージェントの業務量が考慮され、業務量の空きがないエージェントにチャット要求は送信されません。

チャットウィンドウでのファイルのプレビュー
エージェントは添付ファイル(画像、動画、PDFなど)をクリックして、チャットウィンドウ内で添付ファイルを表示することができます。時間をかけてファイルをダウンロードしたり、デスクトップの脆弱性を暴露する必要はありません。

会話への Chatter の取り込み

内部コラボレーションをすばやく行うため、チャットトランスクリプトの詳細ページで Chatter、Chatter フィード、Chatter パブリッシャーをページレイアウトに追加できます。

ケースフィードでの会話の追跡

チャットがケースに関連付けられるたびにフィード項目が記録されます。チャットが閉じられると、会話本文全体がフィード項目に表示されます。長い会話での顧客とのやりとりとチャットを、ケースを使用して追跡した場合、複雑なケースに関連付けられたすべてのチャットを表示できます。

チャットの前の顧客情報の迅速なプレビュー

チャットを受け入れる前に、エージェントはオムニチャネルでチャット要求にマウスを置くと、事前チャット詳細と訪問先のページを参照できます。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。チャットは、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance Edition および Developer Edition 組織と、Service Cloud が付属する Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織で使用できます。

オムニチャネルを使用した特定のエージェントへの顧客の送信

より迅速な解決のため、オムニチャネルを使用して顧客を適切なエージェントに直接送信します。エージェントへの直接転送では、エージェントの業務量が考慮され、業務量の空きがないエージェントにチャット要求は送信されません。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。チャットは、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance Edition および Developer Edition 組織と、Service Cloud が付属する Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織で使用できます。

方法: 事前チャットフォームまたはリリース API を使用して、エージェントへのチャットの直接転送を要求します。

- 事前チャットフォームを使用する場合、エージェントのユーザ ID を liveagent.prechat.buttons の値として渡し、デフォルトボタンを上書きします。エージェントは、ユーザがチャットを開始するための URL を提供します。
- リリース API を使用する場合、エージェントのユーザ ID を `startChat()` への 2 番目の引数として渡します。詳細は、『Service Cloud Chat Developer Guide (Service Cloud Chat 開発者ガイド)』の「startChat」を参照してください。

エージェントが対応できない場合、チャットは代替キューまたはスキルに入れられ、元のエージェントは会話に参加できなくなります。

チャットウィンドウでのファイルのプレビュー

エージェントは添付ファイル (画像、動画、PDF など) をクリックして、チャットウィンドウ内で添付ファイルを表示することができます。時間をかけてファイルをダウンロードしたり、デスクトップの脆弱性を暴露する必要はありません。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。チャットは、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance Edition および Developer Edition 組織と、Service Cloud が付属する Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織で使用できます。

会話への Chatter の取り込み

内部コラボレーションをすばやく行うため、チャットトランスクリプトの詳細ページで Chatter、Chatter フィード、Chatter パブリッシャーをページレイアウトに追加できます。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。チャットは、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance Edition および Developer Edition 組織と、Service Cloud が付属する Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織で使用できます。

方法: Chatter コンポーネントをチャットトランスクリプトの詳細ページに追加するには、チャットトランスクリプトオブジェクトまたはメッセージングセッションオブジェクトでフィード追跡を有効にします。次に、Lightning アプリケーションビルダーでコンポーネントをページレイアウトに追加します。チャットまたはメッセージングセッションが終了すると、ケースフィード項目が記録されます。

ケースフィードでの会話の追跡

チャットがケースに関連付けられるたびにフィード項目が記録されます。チャットが閉じられると、会話本文全体がフィード項目に表示されます。長い会話での顧客とのやりとりとチャットを、ケースを使用して追跡した場合、複雑なケースに関連付けられたすべてのチャットを表示できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。チャットは、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance Edition および Developer Edition 組織と、Service Cloud が付属する Unlimited Edition および Enterprise Edition 組織で使用できます。

ソーシャルカスタマーサービス: より少ないクリックでソーシャル活動を維持

リードのソーシャルクイックアクションを使用して顧客に応答します。Instagram コメントにソーシャルパブリッシャーから直接返信します。Facebook の古い app-scoped ID (ASID) を使用するソーシャル人格アカウントの移行と削除を行います。

このセクションの内容:

リードのソーシャルクイックアクションを使用して顧客に迅速に応答

Lightning Experience でリードを表示しているときにタブを移動するだけでソーシャル活動ができるようになりました。

Lightning Experience での Instagram コメントへの返信

Instagram コメントにソーシャルパブリッシャーから直接返信できるようになりました (返信への返信も可能です!)。返信は元のコメントの下で正しくスレッド化されます。

Facebook ソーシャル投稿の app-scoped ID を page-scoped ID に移行

新しい移行ユーティリティを使用して、ソーシャル投稿を、廃止されたアプリケーション範囲 (app-scoped) のソーシャル人格から、新しいページ範囲 (page-scoped) のソーシャル人格に転送します。次に、このユーティリティは、使用されなくなったアプリケーション範囲 (app-scoped) の人格を削除し、曖昧さを回避します。

リードのソーシャルクイックアクションを使用して顧客に迅速に応答

Lightning Experience でリードを表示しているときにタブを移動するだけでソーシャル活動ができるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ソーシャルカスタマーサービスをすでに有効化している場合、その機能をオフにして再度オンにすると、この新しいクイックアクションが作成されます。次に、[設定] で [フィード追跡] を選択します。フィード追跡ページで、[リード] を選択します。[フィード追跡の有効化] と [すべての関連オブジェクト] を選択します。関連オブジェクトでフィード追跡を有効にしたら、[リードページレイアウト] 設定ページに移動してソーシャルクイックアクションをレイアウトにドラッグできます。

Lightning Experience での Instagram コメントへの返信

Instagram コメントにソーシャルパブリッシャーから直接返信できるようになりました (返信への返信も可能です!)。返信は元のコメントの下で正しくスレッド化されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Facebook ソーシャル投稿の app-scoped ID を page-scoped ID に移行

新しい移行ユーティリティを使用して、ソーシャル投稿を、廃止されたアプリケーション範囲 (app-scoped) のソーシャル人格から、新しいページ範囲 (page-scoped) のソーシャル人格に転送します。次に、このユーティリティは、使用されなくなったアプリケーション範囲 (app-scoped) の人格を削除し、曖昧さを回避します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 2018 年、Facebook は Facebook ページで app-scoped ID (ASID) から page-scoped ID (PSID) を使用するように切り替えました。この変更により、同じ Facebook ページに対して 2 つのソーシャル人格レコードが存在する可能性があります。

方法: 詳細は、この移行に関するナレッジ記事を参照してください。このユーティリティについての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

チャネルオブジェクトリンク: 適切な人にインタラクションをすばやくリンクするルールの作成 (ベータ)

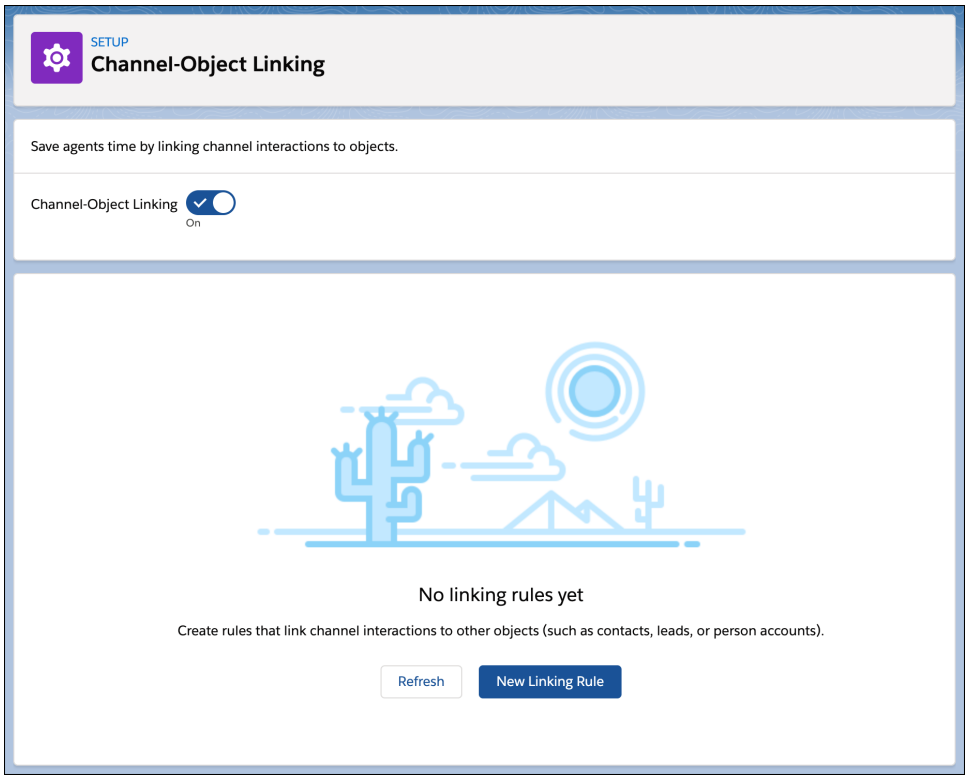
メッセージングインタラクションを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。自動リンクのルールを設定できます。また、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求することもできます。たとえば、エージェントが Facebook Messenger で顧客と会話している間に、ルールで、同じ名前の取引先責任者に会話を自動的にリンクすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。エージェント通知は Lightning コンソールでのみサポートされます。

メモ: ベータ機能であるチャネルオブジェクトリンクはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

対象ユーザ: この機能は、メッセージングユーザ用のベータです。今後、これは他の種別のチャネルで利用できるようになります。

方法: [サービスの設定] からルールを作成します。[クイック検索] ボックスに「チャネルオブジェクト」と入力し、[チャネルオブジェクトリンク] を選択します。[新規リンクルール] をクリックして、ガイド付きフローを開始します。



ルールを作成したら、ルールを実行したときにセッション中に通知がエージェントに送信されます。

モバイルアプリケーション用組み込みサービス: 顧客環境のアクセシビリティの向上

スクリーンリーダーを使用する顧客が Chat を使用しやすくなりました。いくつかのバグも修正されました。

チャネル: 取引先責任者の詳細ページでの会話の使用、チャットウィンドウでの添付ファイルの表示、アクセスしやすくなったモバイルアプリケーション用埋め込みサービス

対象: この変更は、Mobile Apps for iOS (バージョン 220.1.0) および Android (バージョン 220.1.0) 用 Service SDK に適用されます。

方法: 新機能についての詳細は、iOS および Android に関するリリースノートを参照してください。その他のリソースについては、「Embedded Service SDK (組み込みサービス SDK)」開発者センターにアクセスしてください。

Web 用埋め込みサービス: カスタムイベント、右から左への記述のサポート、予定のホーム

Lightning Experience のカスタムイベントによって、エージェントが制御できるようになります。チャットで、右から左へ記述される言語向けに簡単なレイアウト変換が使用できるようになりました。予定のホームで、リリース前にデフォルトとカスタムの表示ラベルをプレビューできます。

このセクションの内容:

チャットのカスタムイベントを使用したエージェントへのより詳細な制御の提供
エージェントがチャット訪問者へのスクリプト化メッセージを Lightning コンソールから埋め込みチャットに送信できるようにします。エージェントは、チャットを待機している状態やチャットページを再読み込みしている状態での Web ページの参照など、訪問者のアクションに基づいて、カスタムイベントメッセージを読み込むタイミングを表示できます。また、エージェントはカスタムイベントが読み込まれたことを確認することもできます。

右から左へ記述される言語のユーザへの対応 (ベータ)
右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが埋め込みチャットで快適に作業できるようにします。アラビア語とヘブライ語をサポートするレイアウトの機能強化には、右揃えテキスト、反転ボタンの配置、左側のスクロールバーがあります。

予定のホームの表示ラベルのプレビュー
Lightning アプリケーションビルダーを使用して予定のホームで顧客との完全なやりとりを作成します。デフォルトの表示ラベルとカスタマイズした表示ラベルをリアルタイムでリリース前にプレビューします。

チャットのカスタムイベントを使用したエージェントへのより詳細な制御の提供

エージェントがチャット訪問者へのスクリプト化メッセージを Lightning コンソールから埋め込みチャットに送信できるようにします。エージェントは、チャットを待機している状態やチャットページを再読み込みしている状態での Web ページの参照など、訪問者のアクションに基づいて、カスタムイベントメッセージを読み込むタイミングを表示できます。また、エージェントはカスタムイベントが読み込まれたことを確認することもできます。

対象: この変更は、埋め込みコードスニペット 5.0 以降を使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: イベント `onChatStateLoaded` および `onCustomScriptsLoaded` をリスンします。コードスニペットをホストする Web ページの JavaScript ハンドラを記述します。ハンドラ関数で、エージェントに送信するカスタムイベントを起動します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: カスタムイベントの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

右から左へ記述される言語のユーザへの対応 (ベータ)

右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが埋め込みチャットで快適に作業できるようにします。アラビア語とヘブライ語をサポートするレイアウトの機能強化には、右揃えテキスト、反転ボタンの配置、左側のスクロールバーがあります。

対象: この変更は、埋め込みコードスニペット 5.0 以降を使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能はコミュニティでは使用できません。また、モバイルユーザやタブレットユーザも使用できません。

メモ: 右から左へのレイアウトのサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: [設定] [ユーザインターフェース] で [トランスレーションワークベンチ] の下の [翻訳設定] で RTL を有効にします。コードスニペットに設定する言語値を追加します。ヘブライ語は `embedded_svc.settings.language = 'he'.` です。アラビア語は `embedded_svc.setting.language = 'ar'` です。

予定のホームの表示ラベルのプレビュー

Lightning アプリケーションビルダーを使用して予定のホームで顧客との完全なやりとりを作成します。デフォルトの表示ラベルとカスタマイズした表示ラベルをリアルタイムでリリース前にプレビューします。

対象: この変更は、埋め込みコードスニペット 5.0 以降を使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 予定のホームの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ:拡張されたチャネル、柔軟性の高いスタイル、改善された記事の管理

記事を共有するチャネルが増えました。コミュニティおよびサイトの記事のコンテンツやリンクをソーシャル投稿に挿入できます。また、記事コンテンツをチャットやメッセージング会話に挿入することもできます。検索およびユーザアクセスが強化され、ドラフト記事、アーカイブ済み記事、公開記事をより詳細に制御できるようになりました。

このセクションの内容:

さらに多くのチャネルでナレッジを広める
リストビューで他の記事を検索
ドラフト記事とアーカイブ済み記事へのアクセス権の微調整
Lightning Knowledge に移行するときに添付ファイルへのアクセス権を維持
リッチテキストエディタでスタイルを使用した作成
Lightning スマートリンクの対象の設定

さらに多くのチャネルでナレッジを広める

ソーシャルカスタマーサービス、チャット、およびメッセージングの会話で記事を共有します。エージェントはケースのやりとりに記事の URL リンクを追加できます。少しの設定で、エージェントがソーシャル投稿および会話に記事コンテンツを挿入できるようにすることもできます。

リストビューで他の記事を検索

Lightning Knowledge でリストビューを絞り込むときに、[言語] および [公開状況] 項目で複数の項目を選択します。フランス語とポルトガル語のドラフト記事や公開記事など、目的の記事をすべて 1 か所に表示するリストビューを作成します。

ドラフト記事とアーカイブ済み記事へのアクセス権の微調整

ナレッジユーザとナレッジ閲覧者がドラフト記事またはアーカイブ済み記事を表示できるかどうかを選択します。たとえば、エージェントに内部で使用されるドラフト記事を表示するアクセス権が必要な場合があります。または、ケースに添付された記事の特定のバージョンに戻れるようにアーカイブ済み記事へのアクセス権を顧客に付与することができます。「ドラフト記事の表示」と「アーカイブ済み記事の表示」という新しい 2 つのユーザ権限は、公開されていない記事を表示できるプロファイルを制御します。権限の設定を確認し、どのプロファイルにアクセス権が必要であるかを決定します。

Lightning Knowledge に移行するときに添付ファイルへのアクセス権を維持

Lightning Knowledge 移行ツールを使用するときに、移行されるファイルのデフォルトの表示設定を選択します。デフォルトですべてのユーザがファイルにアクセスできるのか、または内部ユーザのみがアクセスできるのかを選択します。記事レコードへのアクセス権は、Lightning Knowledge の [ファイル] 関連リストに添付ファイルを表示できるユーザを引き続き制御します。これまで、移行されたファイルにアクセスできるのは内部ユーザのみでした。つまり、コミュニティのパートナーユーザとカスタマーユーザはアクセス権を失う場合がありました。

リッチテキストエディタでスタイルを使用した作成

ナレッジのコンテンツを微調整する必要がある場合、オプションがあると便利です。リッチテキストエディタで使用できる HTML スタイルのリストを拡張しました。

Lightning スマートリンクの対象の設定

Lightning Knowledge でのスマートリンクの対象を使用して、適切なコンテキストを維持し、ユーザが求めている体験を提供します。従来の対象に加えて Lightning 対象を選択します。オプションには、現在のアプリケーションのデフォルトの動作と新規ブラウザタブ、サブタブ、またはワークスペースタブがあります。また、対象が設定されていない場合の Lightning Experience でのスマートリンクのデフォルトの動作も更新されました。

より多くの場所から記事の削除

ページレイアウトに[記事を削除]アクションを追加して、著者とナレッジ管理者がレコードページからアーカイブ済み記事を削除できるようにします。これまで、このアクションはナレッジホームのリストビューでしか使用できませんでした。

さらに多くのチャネルでナレッジを広める

ソーシャルカスタマーサービス、チャット、およびメッセージングの会話で記事を共有します。エージェントはケースのやりとりに記事のURLリンクを追加できます。少しの設定で、エージェントがソーシャル投稿および会話に記事コンテンツを挿入できるようにすることもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition 以外のすべてのエディションの Lightning Experience のナレッジに適用されます。

対象ユーザ: ナレッジ記事を参照する権限とケースを編集する権限を持つエージェントは、Lightning Knowledge コンポーネントと関連リストでこれらのアクションを使用できます。「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、コミュニケーションチャネルを管理できます。

方法: ケースフィードでソーシャルカスタマーサービス、チャット、またはメッセージングを使用できる場合、ナレッジコンポーネントと[ナレッジ]関連リスト内の記事の横にアクションが表示されます。記事は、カスタマー、パートナー、または公開知識ベースチャネルで共有する必要があります。

[記事をソーシャル投稿に挿入]アクションと[記事を会話に挿入]アクションを使用するには、オブジェクトマネージャでコミュニケーションチャネルレイアウトを設定します。メッセージに含まれる項目はレイアウトによって決まります。挿入されるのはプレーンテキストのみなので、書式設定された記事コンテンツはスキップし、これらのチャネル用のテキスト項目を選択します。

ソーシャル投稿で記事のURLを共有するには、有効化されたソーシャルチャネルとコミュニティまたはサイトの記事が必要です。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:ナレッジコンポーネントアクションの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:チャネルでの記事の URL の共有をエージェントに許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リストビューで他の記事を検索

Lightning Knowledge でリストビューを絞り込むときに、[言語] および [公開状況] 項目で複数の項目を選択します。フランス語とポルトガル語のドラフト記事や公開記事など、目的の記事をすべて1か所に表示するリストビューを作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。Essentials Edition 組織は、1 つの言語に制限されています。

方法: 既存のリストビューの検索条件を確認して調整します。これまで、リストはデフォルトで組織のデフォルト言語の公開記事に絞り込まれていました。リストに検索条件がない場合は、記事のドラフトバージョン、

アーカイブ済みバージョン、公開バージョンすべてとすべての翻訳が返されます。例外はSalesforce Classicの[記事の管理]タブで、リストビューに検索条件がない場合はユーザの言語での記事が返されます。

関連トピック:

ドラフト記事とアーカイブ済み記事へのアクセス権の微調整

ドラフト記事とアーカイブ済み記事へのアクセス権の微調整

ナレッジユーザとナレッジ閲覧者がドラフト記事またはアーカイブ済み記事を表示できるかどうかを選択します。たとえば、エージェントに内部で使用されるドラフト記事を表示するアクセス権が必要な場合があります。または、ケースに添付された記事の特定のバージョンに戻れるようにアーカイブ済み記事へのアクセス権を顧客に付与することができます。「ドラフト記事の表示」と「アーカイブ済み記事の表示」という新しい2つのユーザ権限は、公開されていない記事を表示できるプロファイルを制御します。権限の設定を確認し、どのプロファイルにアクセス権が必要であるかを決定します。

対象: この変更は、Lightning Experienceのナレッジのすべてのエディションに適用されます。

対象ユーザ: ナレッジ権限を管理するには、「設定・定義を参照する」および「プロファイルと権限セットの管理」が必要です。

方法: ナレッジ閲覧者とナレッジユーザは常に公開記事を表示できます。アーカイブ済み記事とドラフト記事へのアクセス権を付与するには、[設定] > [ユーザ]に移動し、プロファイルと権限セットを編集します。

著者および「記事の管理」権限を持つユーザは、すでに「ドラフト記事の表示」権限と「アーカイブ済み記事の表示」権限を持っています。そして、これらの権限は記事を管理するために必要なので、いずれかを削除すると「記事の管理」が無効化されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:Lightning Knowledgeユーザのアクセス権(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リストビューで他の記事を検索

Lightning Knowledge に移行するときに添付ファイルへのアクセス権を維持

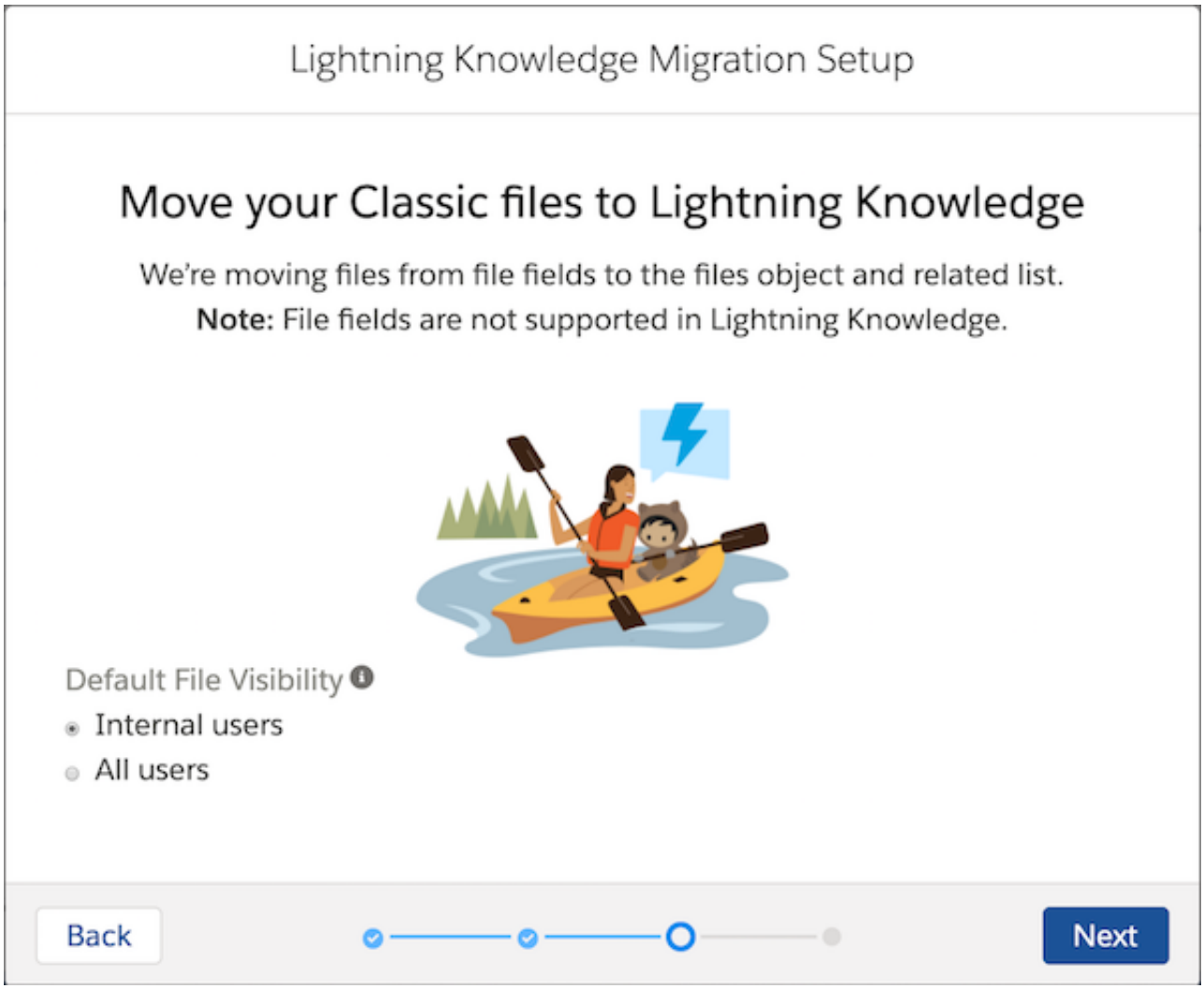
Lightning Knowledge移行ツールを使用するときに、移行されるファイルのデフォルトの表示設定を選択します。デフォルトですべてのユーザがファイルにアクセスできるのか、または内部ユーザのみがアクセスできるのかを選択します。記事レコードへのアクセス権は、Lightning Knowledgeの[ファイル]関連リストに添付ファイルを表示できるユーザを引き続き制御します。これまで、移行されたファイルにアクセスできるのは内部ユーザのみでした。つまり、コミュニティのパートナーユーザとカスタマーユーザはアクセス権を失う場合がありました。

対象: この変更は、Salesforce ClassicからLightning Experienceに移行するナレッジのすべてのエディションに適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」および「ナレッジユーザ」権限を持つシステム管理者は、Lightning Knowledge移行ツールを実行できます。

方法: ファイル移行ステップで、デフォルトでファイルにアクセスできるユーザを選択します。すべてのユーザには、内部ユーザおよびコミュニティやサイトで記事を参照しているすべてのカスタマーユーザ、パート

ナーユーザ、認証されていないユーザが含まれます。ほとんどのファイルに適用する設定を選択し、移行後に特定のファイルへのアクセス権を調整します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge 移行の計画 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レコードのファイルを顧客に表示

Salesforce ヘルプ: レコードのファイルを顧客に表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リッチテキストエディタでスタイルを使用した作成

ナレッジのコンテンツを微調整する必要がある場合、オプションがあると便利です。リッチテキストエディタで使用できる HTML スタイルのリストを拡張しました。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

理由: 以前は、保存時にリッチテキスト項目のソースHTMLから一部のスタイルが削除されていました。現在では、`background-image`、`position`、`z-index` スタイル属性のみが削除されます。ユーザは、他のコピー元から貼り付けるときに、より多くの書式設定を保持できます。

関連トピック:

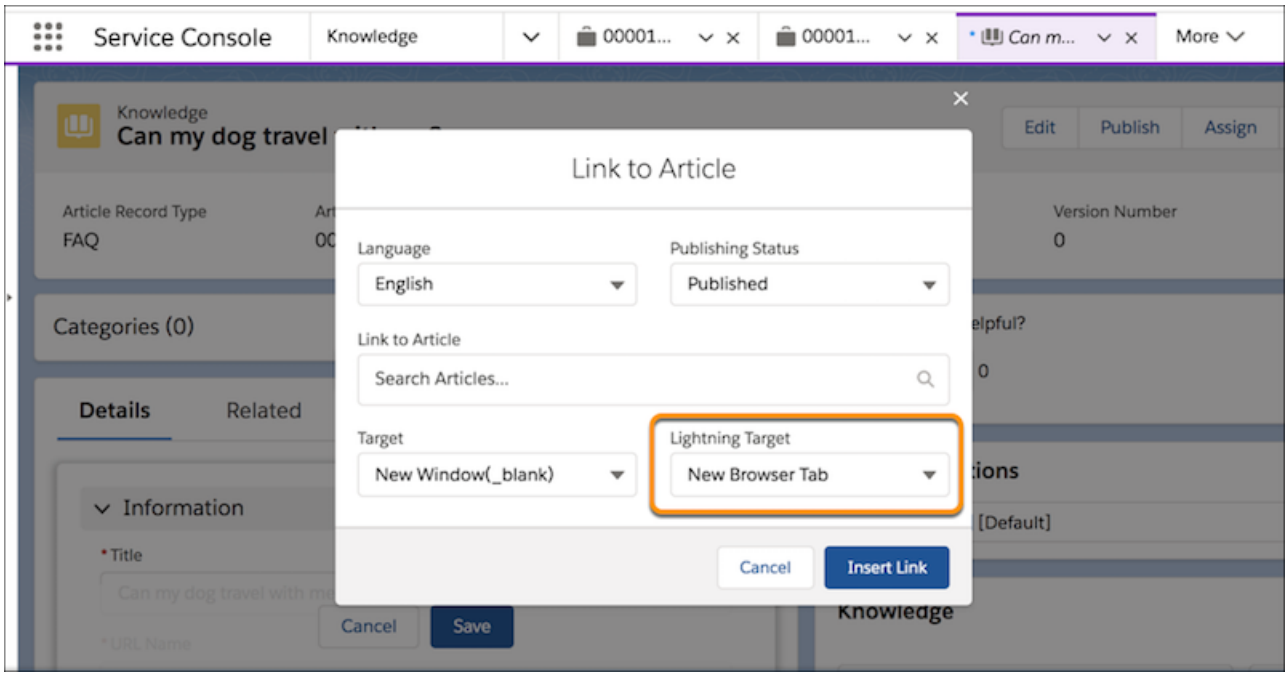
- *Salesforce* ヘルプ:リッチテキストエディタ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:リッチテキストエリア項目の編集(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning スマートリンクの対象の設定

Lightning Knowledge でのスマートリンクの対象を使用して、適切なコンテキストを維持し、ユーザが求めている体験を提供します。従来の対象に加えてLightning対象を選択します。オプションには、現在のアプリケーションのデフォルトの動作と新規ブラウザタブ、サブタブ、またはワークスペースタブがあります。また、対象が設定されていない場合の Lightning Experience でのスマートリンクのデフォルトの動作も更新されました。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

方法: スマートリンクアイコン をクリックして、リンク内でLightning対象を使用します。既存のリンクを編集して対象を設定または変更できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: スマートリンクの対象動作 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 記事へのスマートリンクの挿入 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より多くの場所から記事の削除

ページレイアウトに [記事を削除] アクションを追加して、著者とナレッジ管理者がレコードページからアーカイブ済み記事を削除できるようにします。これまで、このアクションはナレッジホームのリストビューでしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

対象ユーザ: ナレッジに対する「すべての編集」権限のあるユーザは、アーカイブ済み記事を削除できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge ユーザのアクセス権 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ルーティング: スキルベースルーティングの属性設定 (正式リリース)、セカンダリルーティングの優先度、営業のオムニチャネル、その他

スキルベースルーティングの属性設定を使用することで、コードを書かずに数クリックの操作だけでスキルベースのルーティングを設定できます。項目値を使用することで、セカンダリルーティングの優先度も設定できます。また、営業担当のユーザは、オムニチャネルルーティングを使用できるようになりました。さらに、公開グループをサーチしたり、オムニチャネルウィジェットで色分けされたエージェントの状況を確認したり、おおよその待ち時間を顧客に伝えたりすることもできます。

このセクションの内容:

スキルベースルーティングの属性設定 (正式リリース) におけるコーディングの省略
設定フローを使用して、作業項目が適切なエージェントに転送されるように、オブジェクトの項目値に必要なスキルを関連付けます。スキルベースルーティングの属性設定は、複雑なルールには対応していませんが、API コードを書くよりも簡単です。たとえば、ケース種別の項目値である [Product Return (商品の返品)] を [Returns Processing (返品処理)] に対応付けることで、返品処理の項目を返品スキルが割り当てられているエージェントに転送することができます。また、この機能が新しいルーティング方法ではなく、スキルベースルーティングを設定するための簡単な方法であることを明確にするために、機能の名前を変更しました。

エージェントが適切なケースに最初に取り組むようにする設定

キューでは、作業項目の待ち時間によって優先度が決まります (先入れ先出し)。しかし、作業項目がキューで待機しているときに、より緊急な作業が飛び込んで来ることもあります。たとえば、転送されて来た作業、誰かの応答を待っている作業、またはサービス契約の締め切りが迫っている作業などです。作業項目を別のキューに移すこともできますが、そのキューでは、すでに待機している項目の後に配置されてしまいます。また、複数のキューが同じ優先度を持つ場合もあります。セカンダリルーティング優先度は、作業項目をキュー内で他の項目より前に移動したり、キュー間で同じルーティング設定優先度を持つ項目の競合を解決したりすることで、この問題に対応します。

Sales Cloud でのオムニチャネルルーティングの使用

Sales Cloud ライセンスとデジタルエンゲージメントアドオンライセンスを持っているユーザは、メッセージチャネルのルーティングにオムニチャネルルーティングと Omni-Channel Supervisor を使用できます。

公開グループのサーチ

多くの公開グループがある場合は、必要なグループをリストから見つけるのは困難です。新しいサーチ項目を使用すると、必要なグループに的を絞ることができます。

色分けされたウィジェットによるエージェント状況の表示

エージェントは忙しく、依頼は次から次へと舞い込んできます。Salesforce コンソールのオムニチャネルウィジェットでは、エージェントの可用性状況を色分けして示すようになりました。

チャットユーザへの予想待ち時間の提供 (ベータ)

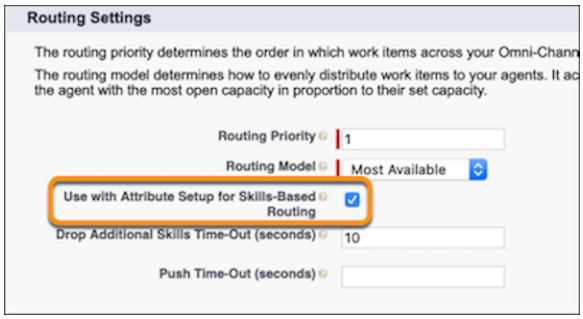
チャットユーザには順番は表示されますが、どのくらいの待ち時間で繋がるかは分かりません。予想待ち時間が表示されれば、ユーザも安心して待つことができます。

スキルベースルーティングの属性設定 (正式リリース) におけるコーディングの省略

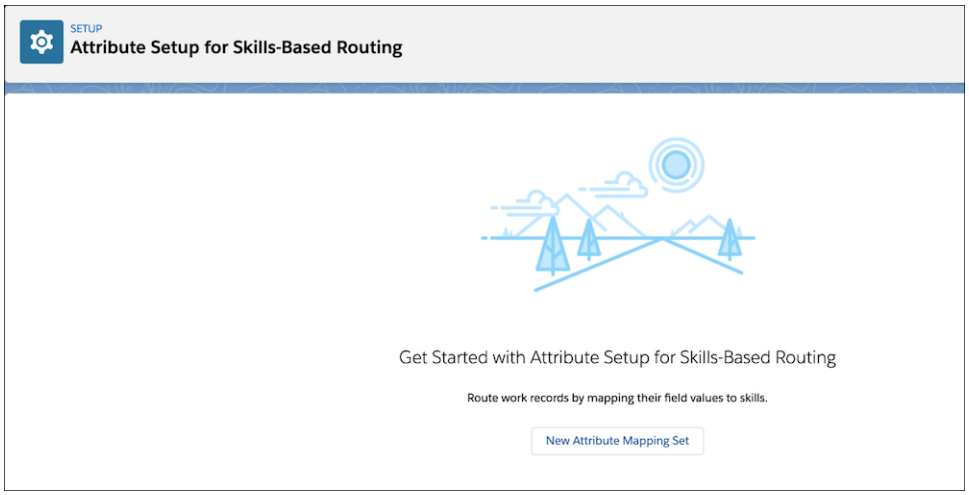
設定フローを使用して、作業項目が適切なエージェントに転送されるように、オブジェクトの項目値に必要なスキルを関連付けます。スキルベースルーティングの属性設定は、複雑なルールには対応していませんが、API コードを書くよりも簡単です。たとえば、ケース種別の項目値である [Product Return (商品の返品)] を [Returns Processing (返品処理)] に対応付けることで、返品処理の項目を返品スキルが割り当てられているエージェントに転送することができます。また、この機能が新しいルーティング方法ではなく、スキルベースルーティングを設定するための簡単な方法であることを明確にするために、機能の名前を変更しました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。スキルベースルーティングの属性設定は、Lightning Experience でのみ使用できます。

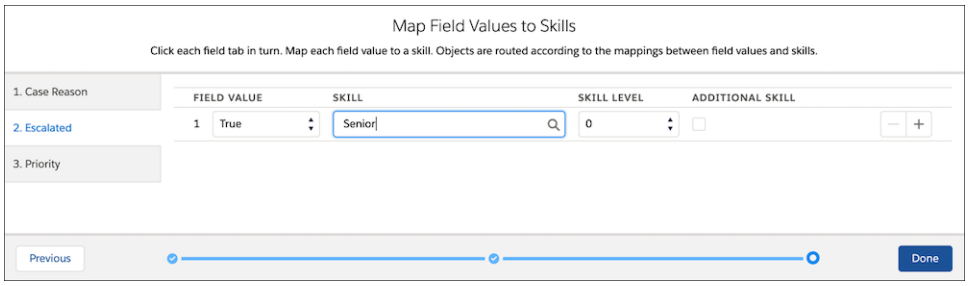
方法: サービスチャネルでルーティングを設定するときに [スキルベースのルーティングの属性設定で使用] を選択します。



スキルベースルーティングの属性設定フローを実行します。



スキルに項目値を対応付けます。



関連トピック:

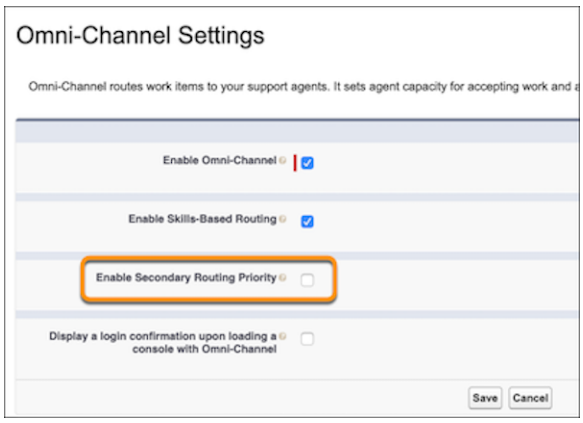
Salesforce ヘルプ: スキルベースのルーティングの属性設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エージェントが適切なケースに最初に取り組むようにする設定

キューでは、作業項目の待ち時間によって優先度が決まります (先入れ先出し)。しかし、作業項目がキューで待機しているときに、より緊急な作業が飛び込んで来ることもあります。たとえば、転送されて来た作業、誰かの応答を待っている作業、またはサービス契約の締め切りが迫っている作業などです。作業項目を別のキューに移すこともできますが、そのキューでは、すでに待機している項目の後に配置されてしまいます。また、複数のキューが同じ優先度を持つ場合もあります。セカンダリルーティング優先度は、作業項目をキュー内で他の項目より前に移動したり、キュー間で同じルーティング設定優先度を持つ項目の競合を解決したりすることで、この問題に対応します。

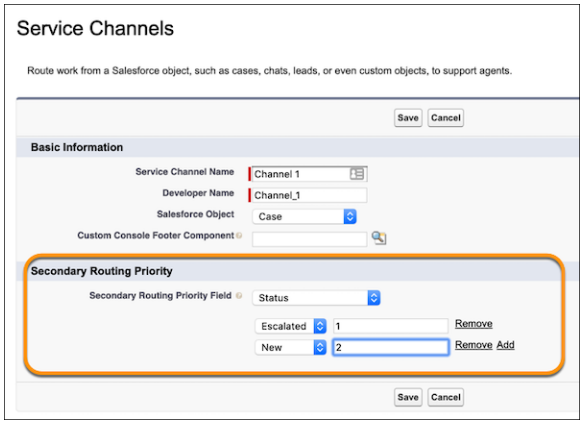
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: オムニチャネル設定でセカンダリルーティング優先度を有効化します。これで、各チャネルのセカンダリルーティング優先度の対応付けを設定できるようになります。



サービスチャネルを作成または編集して、優先項目を選択します。そして、項目値を優先度に対応付けます。

たとえば、エスカレーションされたケースを第一優先、新しいケースを次に優先するには [状況] を優先項目として選択します。次に [エスカレーション済み] 項目値を優先度 1、[新規] 項目値を優先度 2 に設定します。最も高い優先度は 0 です。



メモ: セカンダリルーティング優先度は、スキルベースでルーティングされたチャットチャネルやメッセージチャネルでは自動的には更新されません。PendingServiceRouting オブジェクトの SecondaryRoutingPriority 項目を更新するには、API を使用してください。

Sales Cloud でのオムニチャネルルーティングの使用

Sales Cloud ライセンスとデジタルエンゲージメントアドオンライセンスを持っているユーザは、メッセージチャネルのルーティングにオムニチャネルルーティングと Omni-Channel Supervisor を使用できます。

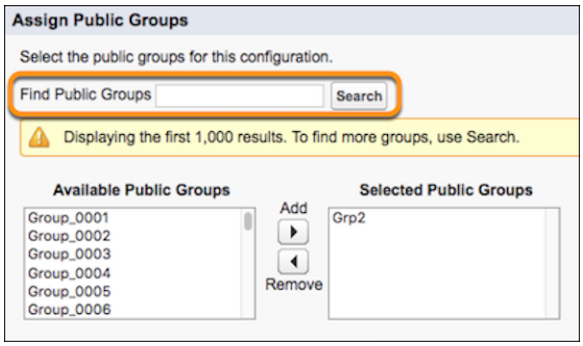
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

公開グループのサーチ

多くの公開グループがある場合は、必要なグループをリストから見つけるのは困難です。新しいサーチ項目を使用すると、必要なグループに的を絞ることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [スーパーバイザ設定]、[プレゼンス設定]、[Chat Agent 設定]、および [スキル] ページで [公開グループを検索] を探します。



色分けされたウィジェットによるエージェント状況の表示

エージェントは忙しく、依頼は次から次へと舞い込んできます。Salesforce コンソールのオムニチャネルウィジェットでは、エージェントの可用性状況を色分けして示すようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ウィジェットの色分けされたインジケータにより、エージェントの状況が一目で分かります。

エージェントが対応可能である。 Omni-Channel

エージェントが退席中である。 Omni-Channel

エージェントがオフラインである。 Omni-Channel

オムニチャネルウィジェットは、作業が割り当てられた状態で最小化されます。 Omni-Channel

チャットユーザへの予想待ち時間の提供 (ベータ)

チャットユーザには順番は表示されますが、どのくらいの待ち時間で繋がるかは分かりません。予想待ち時間が表示されれば、ユーザも安心して待つことができます。

対象: この変更は、Chat REST API 経由か、またはモバイルアプリケーション用組み込みサービス SDK を使用することで利用できます。

メモ: ベータ機能である予想待ち時間はプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: Chat API や サービス SDK で予想待ち時間を実装します。表示できるのは順番または予想待ち時間のどちらか片方だけです。両方は表示できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:チェットセッションのキュー内の順番ではなく予想待ち時間の使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース管理: サービスの Lightning フローのリリースに対する重要な更新、Lightning でのフィード項目表示の使用開始、ケースフィードの使いやすさの向上

サービスの Lightning フローに対する重要な更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。エージェントの自動起動フローを追加します。エージェントは、Lightning Experience でフィード項目表示を公開または非公開に設定できるようになりました。Lightning Experience での使いやすさが向上したため、エージェントは新しいフィード項目がある場合やケースコメントが非公開である場合に簡単にわかるようになりました。

このセクションの内容:

ケース: Lightning Experience でのケースフィードによるエージェントの生産性の向上
取引先責任者ルックアップやフィード項目表示の設定など、お気に入りの Salesforce Classic 機能が Lightning Experience でも使用できるようになりました。太字フォントによりエージェントは未読のフィード項目を容易に識別でき、ケースコメントが非公開の場合は鍵アイコンで示されます。エージェントは、ケースフィードを時系列で並び替えたり、1回のクリックですべての投稿を展開したりすることもできます。ケースがクローズされたときやケース自動レスポンスルールが満たされたときに、自動的に顧客にアンケートを送信します。

サービスの Lightning フロー: 正しいステップ、フローサポートの強化、そしてリスト表示の改善のための必要なリリース
アクション & おすすめリリースを要求し、エージェントがコンポーネントから起動できるアクションを制御します。自動起動フローをアクションとして含めることで、エージェントに非対話型のステップを実行させることができます。また、一時停止中のフローの表示場所を調整し、ToDo リストが常に前面の中央に表示されるようにしました。

ケース: Lightning Experience でのケースフィードによるエージェントの生産性の向上

取引先責任者ルックアップやフィード項目表示の設定など、お気に入りの Salesforce Classic 機能が Lightning Experience でも使用できるようになりました。太字フォントによりエージェントは未読のフィード項目を容易に識別でき、ケースコメントが非公開の場合は鍵アイコンで示されます。エージェントは、ケースフィードを時系列で並び替えたり、1 回のクリックですべての投稿を展開したりすることもできます。ケースがクローズされたときやケース自動レスポンスルールが満たされたときに、自動的に顧客にアンケートを送信します。

このセクションの内容:

Lightning Experience のケースフィードでのフィード項目の公開および非公開表示の設定
エージェントは、Lightning Experience と Lightning サービスコンソールで、フィード項目が公開か非公開かを制御できます。フィード項目を公開とマークすると、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。フィード項目を非公開とマークすると、内部ユーザにのみ表示されます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

ケースフィードで未読フィード項目がある場合の表示
エージェントは、ケースフィードに新しいフィード (メールやその他の投稿など) がある場合にわかりやすくなりました。未読フィード項目の概要が太字で表示されます。以前は、既読と未読の両方のフィード項目の概要が通常のフォントで表示されていました。

ケースコメントが非公開である場合の表示
非公開コメントには錠アイコンが表示され、ケースコメントが非公開か公開かがすぐにわかるようになりました。

フィード項目の古い順での並び替え
エージェントは、ケースフィードのフィード項目を時系列の古い順に並び替えることができ、探している項目を見つけやすくなります。以前は、フィード項目を最新の投稿と最近の活動でのみ並び替えることができました。

ワンクリックでのすべての投稿の展開

ケースフィードのすべての投稿をワンクリックですべて完全に展開します。以前は、一部の投稿は部分的に表示されていたため、エージェントは各投稿で [投稿を展開] ボタンを使用する必要がありました。

ケースに関するアンケートの送信

顧客がカスタマーサポートでの体験をどのように思ったかを把握します。ケースがクローズされたときやケース自動レスポンスルールが満たされたときに、自動的にケースの取引先責任者にメールでアンケートを送信します。

電話のケースレコードページでサポートされるアコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネント

アコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネントを電話のケースレコードページで使用できるようになりました。

ダイアログでの作業中に電話に応答

エージェントが Lightning コンソールアプリケーションで Open CTI ソフトフォンを使用して顧客の電話に応答すると、画面ポップが新しいタブで開きます。エージェントがダイアログで作業していた場合、エージェントは引き続き元のタブでそのダイアログにデータを入力できます。以前は、エージェントが画面ポップモードを使用して電話に応答した場合、ダイアログが閉じたため、作業を失う可能性がありました。

クイックテキストのチャネルとしてのチャットの選択

Summer '19 では、Live Agent の名称をチャットに変更しました。クイックテキストを作成すると、チャネルリストに変更が反映され、チャットが表示されます。

Lightning Experience のケースフィードでのフィード項目の公開および非公開表示の設定

エージェントは、Lightning Experience と Lightning サービスコンソールで、フィード項目が公開か非公開かを制御できます。フィード項目を公開とマークすると、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。フィード項目を非公開とマークすると、内部ユーザにのみ表示されます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: エージェントがフィード項目の表示を変更できるようにするには、組織でケースフィードの表示方法を変更し、コンパクトケースフィードとコミュニティケースフィードを有効化する必要があります。ユーザは、「自分の投稿を編集」権限と「自分の所有レコードへの投稿を編集」権限が必要です。

フィード項目を公開するには、ケースを開いて、フィード項目の矢印をクリックし、[公開] をクリックします。フィード項目を非公開にするには、フィード項目の矢印をクリックし、[非公開] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティケースフィードでの公開済み投稿またはメールの公開または非表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

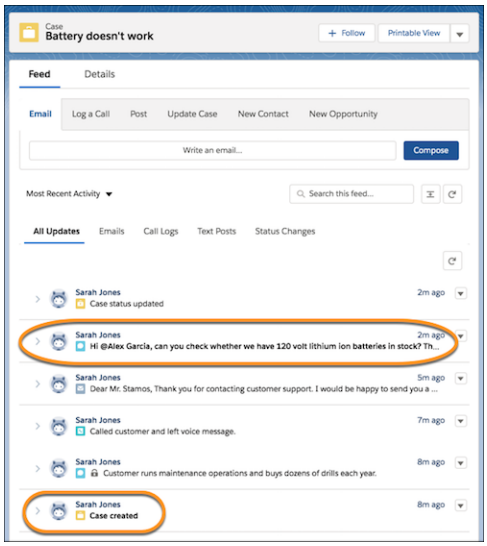
Salesforce ヘルプ: フィード投稿およびコメントの編集の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケースフィードで未読フィード項目がある場合の表示

エージェントは、ケースフィードに新しいフィード(メールやその他の投稿など)がある場合にわかりやすくなりました。未読フィード項目の概要が太字で表示されます。以前は、既読と未読の両方のフィード項目の概要が通常のフォントで表示されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: エージェントがフィード項目を開くと、概要は通常のフォントに変更されます。いいね!、ブックマーク、編集、コメントされているフィード項目は既読とマークされます。



方法: の機能を有効にするには、Salesforce にお問い合わせください。そして、[サポート設定] ページで [コンパクトケースフィードの未読/既読を有効化] を選択します。

この機能を最初に有効にすると、既存のケースのフィード項目は未読とみなされ、太字で表示されます。回避策として、[すべて展開] をクリックすると、すべてのフィード項目が既読とマークされます。

関連トピック:

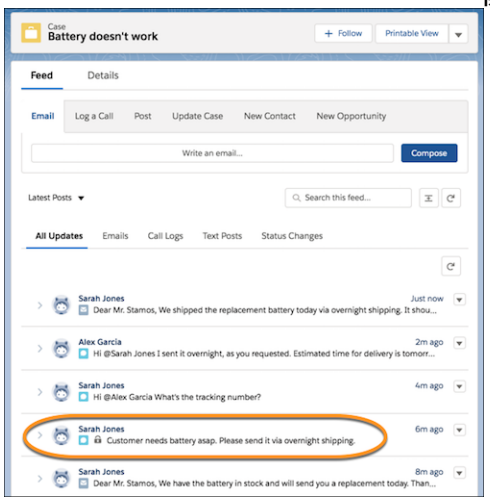
Salesforce ヘルプ:サポート設定のカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケースコメントが非公開である場合の表示

非公開コメントには錠アイコンが表示され、ケースコメントが非公開か公開かがすぐにわかるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: エージェントが内部コメントや非公開ケースコメントを作成した場合、フィード項目に鍵アイコンが表示されます。



関連トピック:

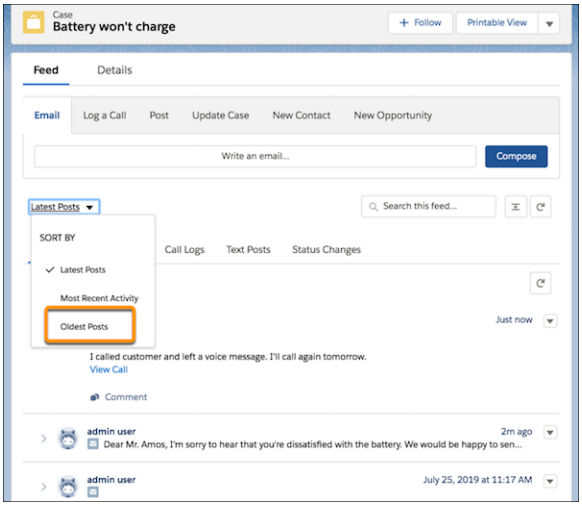
- *Salesforce* ヘルプ: ケース詳細ページのケースコメントの作成と編集 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ケース編集ページのケースコメントの作成と編集 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フィード項目の古い順での並び替え

エージェントは、ケースフィードのフィード項目を時系列の古い順に並び替えることができ、探している項目を見つけやすくなります。以前は、フィード項目を最新の投稿と最近の活動でのみ並び替えることができました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: フィード項目を時系列で並び替えるには、並び替え矢印をクリックし、[最も古い投稿] をクリックします。

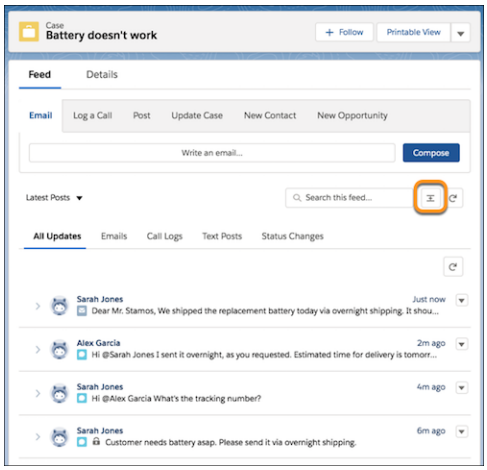


ワンクリックでのすべての投稿の展開

ケースフィードのすべての投稿をワンクリックですべて完全に展開します。以前は、一部の投稿は部分的に表示されていたため、エージェントは各投稿で [投稿を展開] ボタンを使用する必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [すべて展開] アイコンをクリックしてすべての投稿を展開します。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: サポート設定のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケースに関するアンケートの送信

顧客がカスタマーサポートでの体験をどのように思ったかを把握します。ケースがクローズされたときやケース自動レスポンスルールが満たされたときに、自動的にケースの取引先責任者にメールでアンケートを送信します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アンケートを有効にしてから、顧客に送信するアンケートを作成します。ケースがクローズされたときにアンケートを送信するには、[サポート設定] ページでアンケートを選択します。ケース自動レスポンスルー

ルが満たされたときにアンケートを送信するには、[ケース自動レスポンスルール]ページでアンケートを選択します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:サポート設定のカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:顧客フィードバックアンケートの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:自動レスポンスルールの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

電話のケースレコードページでサポートされるアコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネント

アコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネントを電話のケースレコードページで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーでケースオブジェクトのレコードページを作成または選択し、[電話]フォーム要素を選択します。アコーディオンコンポーネントと関連レコードコンポーネントが標準リストに表示されます。コンポーネントをレコードページにドラッグできます。アコーディオンコンポーネントはコンテナコンポーネントのため、他のコンポーネントをアコーディオンコンポーネントに追加できます。

関連トピック:

- *Lightning Web* コンポーネント アコーディオン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ダイアログでの作業中に電話に応答

エージェントが Lightning コンソールアプリケーションで Open CTI ソフトフォンを使用して顧客の電話に応答すると、画面ポップが新しいタブで開きます。エージェントがダイアログで作業していた場合、エージェントは引き続き元のタブでそのダイアログにデータを入力できます。以前は、エージェントが画面ポップモードを使用して電話に応答した場合、ダイアログが閉じたため、作業を失う可能性がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: Lightning コンソールアプリケーションでは、ダイアログは、そのダイアログをトリガしたタブに制限されるようになりました。ソフトフォンがユーティリティバーから別のウィンドウにポップアウトした場合、画面ポップは他のワークスペースタブのダイアログに影響しません。

関連トピック:

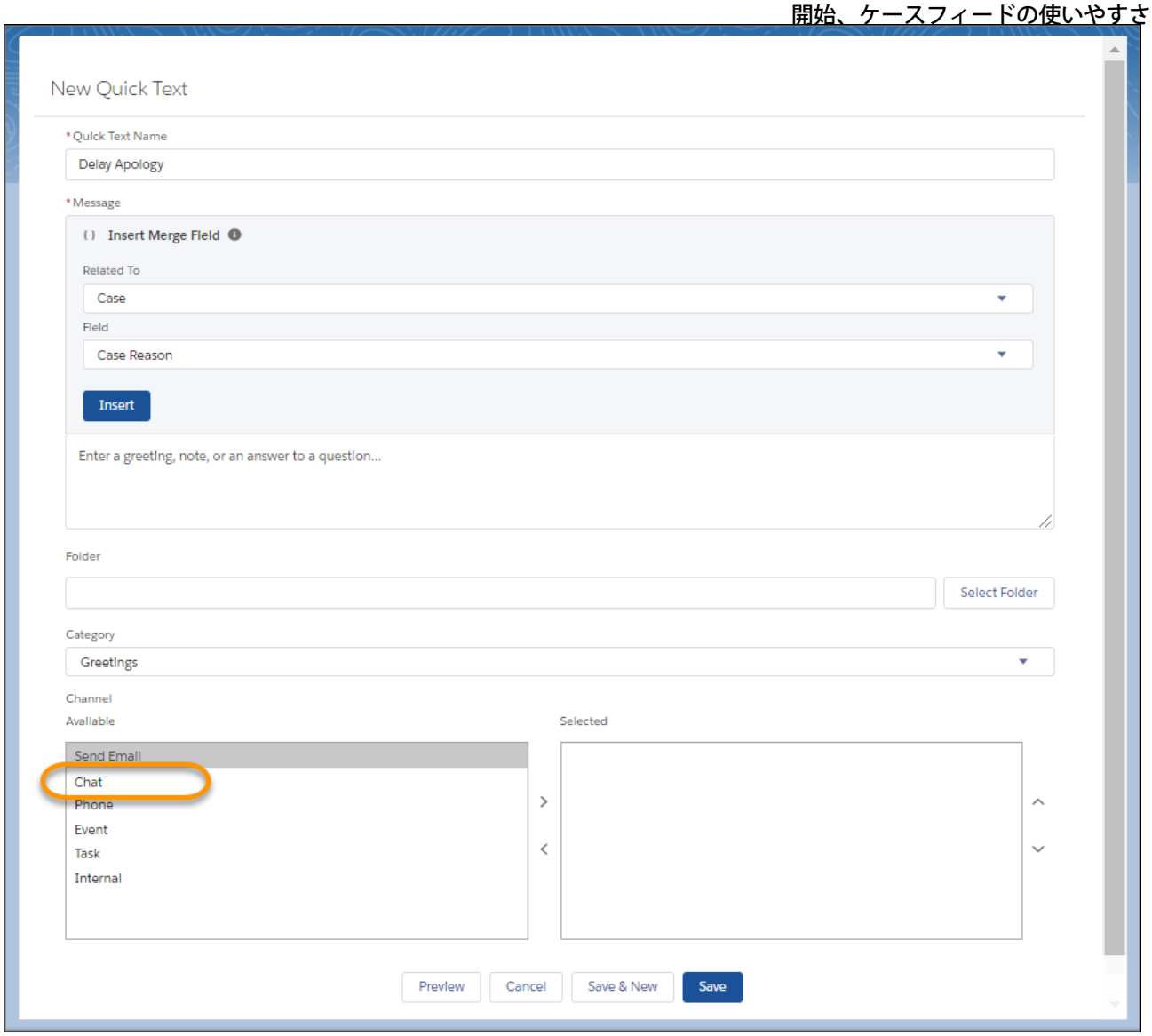
- タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)
- *Salesforce* ヘルプ:用ポップアウトユーティリティの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

クイックテキストのチャネルとしてのチャットの選択

Summer '19 では、Live Agent の名称をチャットに変更しました。クイックテキストを作成すると、チャネルリストに変更が反映され、チャットが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 組織でチャットを使用できる場合は、クイックテキストのチャネルとして選択できます。



サービスの Lightning フロー: 正しいステップ、フローサポートの強化、そしてリスト表示の改善のための必要なリリース

アクション&おすすめリリースを要求し、エージェントがコンポーネントから起動できるアクションを制御します。自動起動フローをアクションとして含めることで、エージェントに非対話型のステップを実行させることができます。また、一時停止中のフローの表示場所を調整し、ToDo リストが常に前面の中央に表示されるようにしました。

このセクションの内容:

リリースの必須化と適切なアクションの表示 (重要な更新)
この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスの Lightning フローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントの ToDo リストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。

エージェントの ToDo リストへの自動起動フローの追加
エージェントにユーザ入力なしでバックグラウンドでアクションを実行させることができます。自動起動フローは、アクション & おすすめコンポーネントで指定できます。このフロー種別は、エージェントがコンポーネントから、または Next Best Action のおすすめとして開始できるステップとしてサポートされています。

リストを邪魔しない一時停止中のフローの表示
一時停止中のフローの表示場所を調整し、アクション & おすすめコンポーネントのステップの表示を邪魔しないようにしました。以前は、一時停止中のフローのリストによってアクションリストが見づらくなっていました。

リリースの必須化と適切なアクションの表示 (重要な更新)

この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスの Lightning フローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントの ToDo リストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: エージェントがコンポーネントから起動できるアクションと、Next Best Action 戦略からのおすすめを表示するかどうかを、リリースで指定します。以前は、コンポーネントのプロパティでのリリースの選択は省略可能でした。リリースを選択しないと、チャネルのデフォルトが未定義となり、ユーザが [追加] をクリックすると、利用可能なアクションがすべて表示されました。リリースを必須にすることで、システム管理者は、別の手順が必要になった場合にエージェントにどのアクションを表示するか制御できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。更新についての詳細を確認するには、[確認] をクリックします。[有効化] をクリックすると、リリースの使用が必須になります。

メモ: この更新を有効化するか、またはこの更新が適用された時点で、リリースを選択していないと、ユーザが [追加] をクリックしても何もアクションは表示されません。また、レコードに対して他の RecordAction が存在しない場合は、コンポーネントは空のリストを表示します。

有効化した後の動作を確認するため、レコードページにコンポーネントを追加します。プロパティではアクション & おすすめリリースを選択します。コンポーネントが表示されるレコードページを表示します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: アクション & おすすめリリースの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 重要な更新とセキュリティの更新

エージェントの ToDo リストへの自動起動フローの追加

エージェントにユーザ入力なしでバックグラウンドでアクションを実行させることができます。自動起動フローは、アクション&おすすめコンポーネントで指定できます。このフロー種別は、エージェントがコンポーネントから、または Next Best Action のおすすめとして開始できるステップとしてサポートされています。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

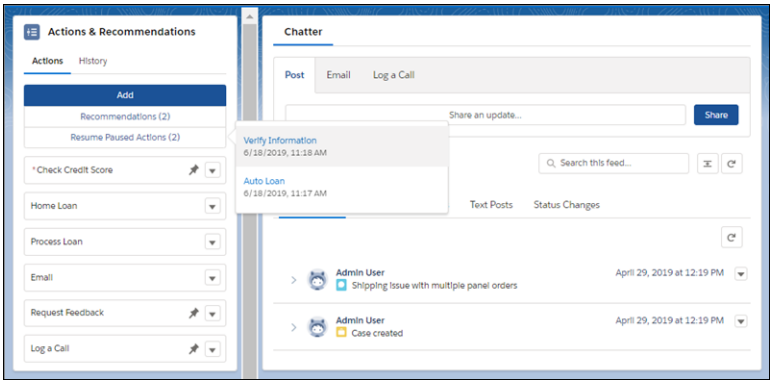
- *Salesforce* ヘルプ: フロー種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: サービスの Lightning フローおよびアクションと推奨コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Lightning Flow for Service Developer Guide* (*サービスの Lightning フロー開発者ガイド*) (英語のみ)

リストを邪魔しない一時停止中のフローの表示

一時停止中のフローの表示場所を調整し、アクション&おすすめコンポーネントのステップの表示を邪魔しないようにしました。以前は、一時停止中のフローのリストによってアクションリストが見づらくなっていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザがフローを一時停止できるようにするには、プロセス自動化設定で [フローの一時停止をユーザに許可] をクリックします。一時停止中のフローを確認するには、コンポーネントの [一時停止中のアクションを再開] をクリックします。一時停止中のフローを再開するには、リストからフローを選択します。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: フローインタビューの一時停止をユーザに許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics: 行レベルの数式、コード不要のモデルリリース、新しいホーム、Salesforce モバイルアプリケーションのインテグレーション

Analytics には、レポートとダッシュボード、Einstein Analytics、および Einstein Discovery が含まれます。このリリースの Analytics 機能の数と範囲は、Winter '20 の期間中適用されます。Lightning レポートビルダーで直接、行レベルの数式を記述する機能が正式リリースされます。コードを記述することなく、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery 予測スコアを自動的に書き込みます。新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドです。Salesforce モバイルアプリケーションを離れることなく、全画面ダッシュボードの表示からお気に入りの追加まで、多数の重要な Einstein Analytics タスクを実行します。他にも多くのアクションがあります。

このセクションの内容:

レポートとダッシュボード: 行レベルの数式 (正式リリース)、項目間の絞り込み (ベータ)、値のユニーク数 (ベータ)
レポート機能の新しいツールと更新されたツールにより、返されるデータをさらに絞り込むことができます。正式にリリースされた行レベルの数式は、レポートデータを評価するための新しい手段を提供します。項目間の絞り込みを使用して、レポートの列の値に基づいてデータを絞り込むことができます。新しいユニーク数集計は、レポート内と各グループ内に存在する一意のレコード数を示します。

Einstein Analytics: コード不要のモデルリリース、ディメンション数式、新しい Analytics ホーム
コードを記述することなく、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery スコアを自動的に書き込みます。Analytics Studio エクスプローラで、文字列の結果を含む数式を作成し、ラベルの作成、単純なバケットの提供、または画像 URL の追加を行います。新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドとなります。

レポートとダッシュボード: 行レベルの数式 (正式リリース)、項目間の絞り込み (ベータ)、値のユニーク数 (ベータ)

レポート機能の新しいツールと更新されたツールにより、返されるデータをさらに絞り込むことができます。正式にリリースされた行レベルの数式は、レポートデータを評価するための新しい手段を提供します。項目間の絞り込みを使用して、レポートの列の値に基づいてデータを絞り込むことができます。新しいユニーク数集計は、レポート内と各グループ内に存在する一意のレコード数を示します。

このセクションの内容:

行レベルの数式によるレポート内の各レコードの評価 (正式リリース)
ビジネス上の疑問に答えるために、レポートの各行で計算を行う必要がある場合があります。行レベルの数式を使用すれば、レポートデータをスプレッドシートにエクスポートしたり、システム管理者に 1 回限りのカスタム数式項目の作成を依頼したりする必要がありません。その代わりに、Lightning レポートビルダーで直接、行レベルの数式を記述します。

項目間の絞り込みによる項目の比較を使用したレポートの絞り込み (ベータ)

2つの異なるレポート項目の値を比較することで、レポートを絞り込みます。たとえば、完了日より後に変更されたケースを表示するには、最終更新日が完了日より後のケースを絞り込みます。

レポートとダッシュボードでの右から左へ記述される言語のサポート (ベータ)

レポートとダッシュボードでは、ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される(RTL)言語とロケールがサポートされるようになりました。エンドユーザ言語としてヘブライ語とアラビア語、プラットフォーム言語としてウルドゥー語がサポートされます。RTL言語のサポートを改善するために、レポートとダッシュボードのインターフェースが右から左に流れるように再配置されました。

レポート結果での値のユニーク数 (ベータ)

ユニーク数を使用して、レポートが返す個別の値の数を確認します。たとえば、商談レポートでは同じ取引先の複数の商談をリストすることがよくあります。ユニーク数を [取引先名] 列に追加して、レポートに表示される個別の取引先値の数を確認します。ユニーク数は、レポート下部に総計として、また各グループの小計として表示されます。

レポート結果で長いテキスト項目を折り返すことによる読みやすさの改善

デフォルトでは、レポート結果に含まれる長いテキスト項目は、切り詰められるのではなく折り返されます。テキストの折返しにより、列を展開しなくても長いテキスト項目をすべて読むことができます。

活動レポートでのテリトリー詳細の表示

エンタープライズテリトリー管理を使用しているのであれば、活動レポートに有効なテリトリーモデルに関する情報が表示されるようになります。これにより、たとえば、ToDoと、関連付けられている取引先および割り当てられているテリトリーのリストを作成できます。

レポートとダッシュボードへの取引先チームサポートの追加

取引先チームのレポート作成をサポートするために、取引先チームメンバーの `UserId` 項目をレポートとダッシュボードで使用できるようになりました。

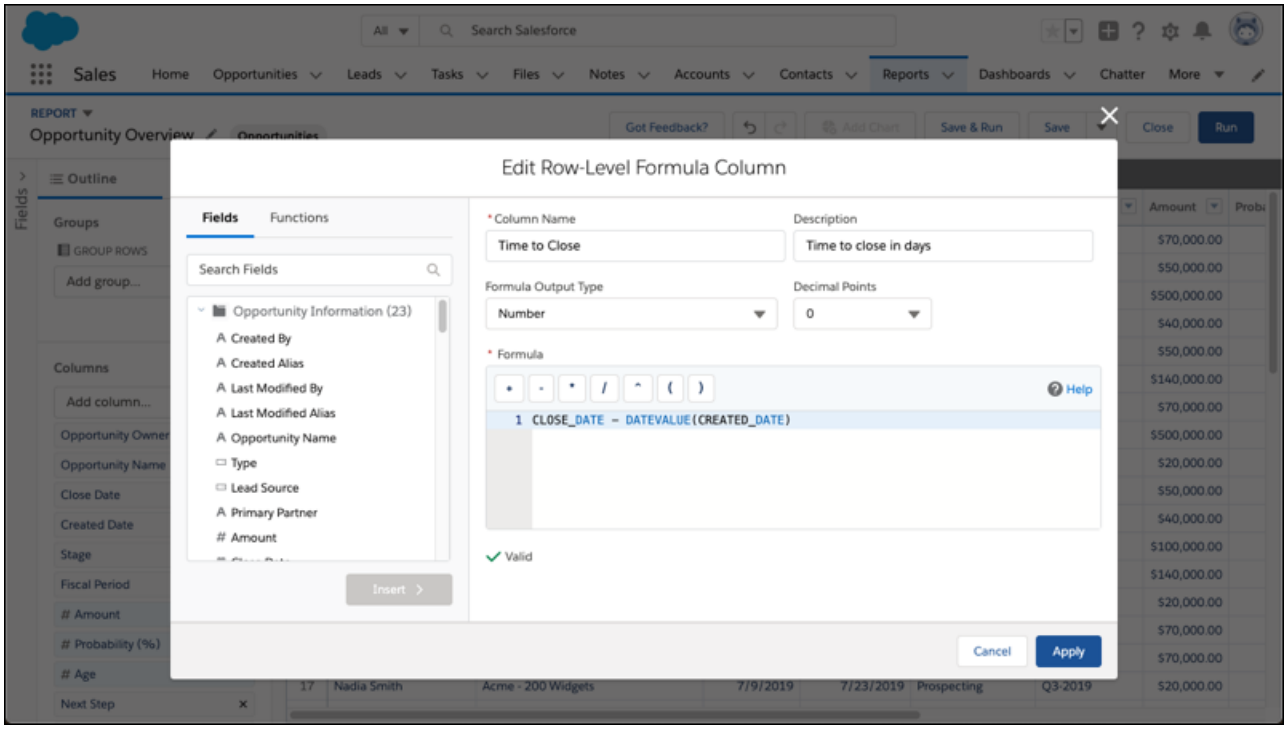
行レベルの数式によるレポート内の各レコードの評価 (正式リリース)

ビジネス上の疑問に答えるために、レポートの各行で計算を行う必要がある場合があります。行レベルの数式を使用すれば、レポートデータをスプレッドシートにエクスポートしたり、システム管理者に1回限りのカスタム数式項目の作成を依頼したりする必要がありません。その代わりに、Lightningレポートビルダーで直接、行レベルの数式を記述します。

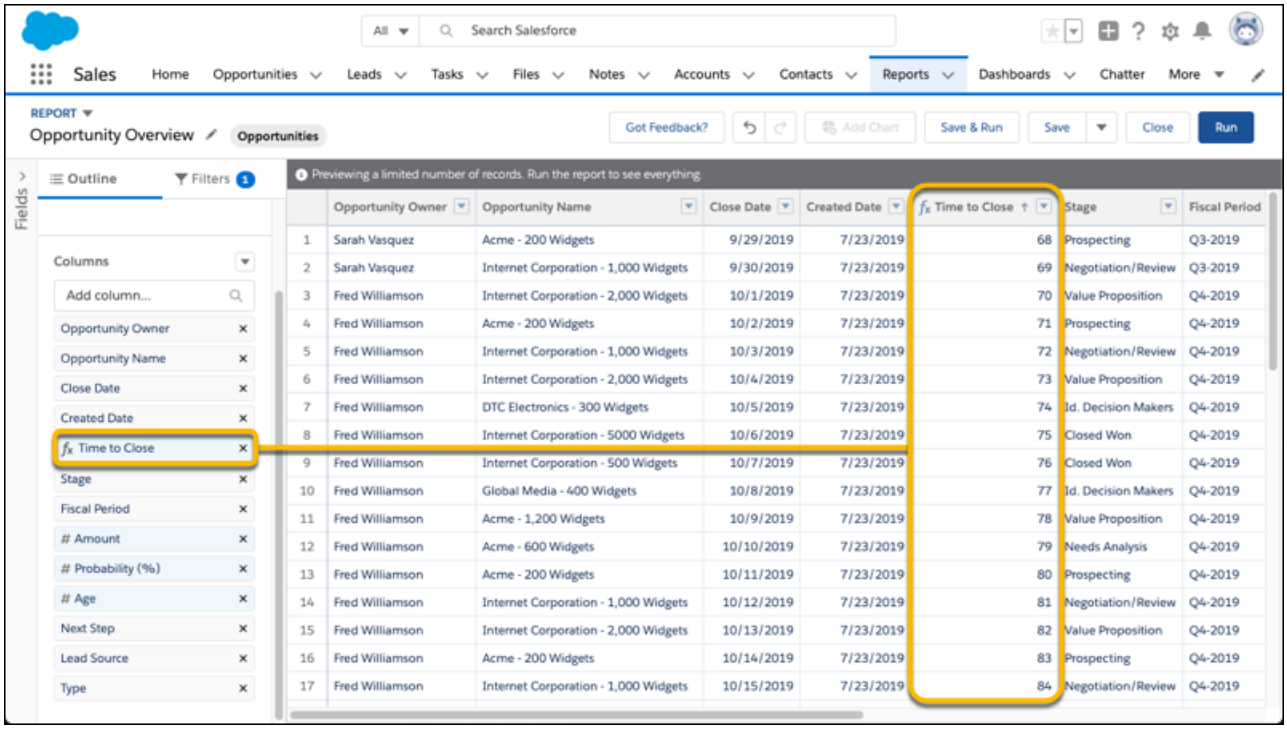
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: たとえば、成立商談レポートで行レベルの数式を記述して、各商談が成立するまでにかかった期間を計算します。[行レベルの数式を追加] をクリックして、完了日から作成日を減算する数式を記述します。

```
CLOSE_DATE - DATEVALUE(CREATED_DATE)
```



行レベルの数式は、レポートの列として表示されます。



	Opportunity Owner	Opportunity Name	Close Date	Created Date	Time to Close	Stage	Fiscal Period
1	Sarah Vasquez	Acme - 200 Widgets	9/29/2019	7/23/2019	68	Prospecting	Q3-2019
2	Sarah Vasquez	Internet Corporation - 1,000 Widgets	9/30/2019	7/23/2019	69	Negotiation/Review	Q3-2019
3	Fred Williamson	Internet Corporation - 2,000 Widgets	10/1/2019	7/23/2019	70	Value Proposition	Q4-2019
4	Fred Williamson	Acme - 200 Widgets	10/2/2019	7/23/2019	71	Prospecting	Q4-2019
5	Fred Williamson	Internet Corporation - 1,000 Widgets	10/3/2019	7/23/2019	72	Negotiation/Review	Q4-2019
6	Fred Williamson	Internet Corporation - 2,000 Widgets	10/4/2019	7/23/2019	73	Value Proposition	Q4-2019
7	Fred Williamson	DTC Electronics - 300 Widgets	10/5/2019	7/23/2019	74	Id. Decision Makers	Q4-2019
8	Fred Williamson	Internet Corporation - 5000 Widgets	10/6/2019	7/23/2019	75	Closed Won	Q4-2019
9	Fred Williamson	Internet Corporation - 500 Widgets	10/7/2019	7/23/2019	76	Closed Won	Q4-2019
10	Fred Williamson	Global Media - 400 Widgets	10/8/2019	7/23/2019	77	Id. Decision Makers	Q4-2019
11	Fred Williamson	Acme - 1,200 Widgets	10/9/2019	7/23/2019	78	Value Proposition	Q4-2019
12	Fred Williamson	Acme - 600 Widgets	10/10/2019	7/23/2019	79	Needs Analysis	Q4-2019
13	Fred Williamson	Acme - 200 Widgets	10/11/2019	7/23/2019	80	Prospecting	Q4-2019
14	Fred Williamson	Internet Corporation - 1,000 Widgets	10/12/2019	7/23/2019	81	Negotiation/Review	Q4-2019
15	Fred Williamson	Internet Corporation - 2,000 Widgets	10/13/2019	7/23/2019	82	Value Proposition	Q4-2019
16	Fred Williamson	Acme - 200 Widgets	10/14/2019	7/23/2019	83	Prospecting	Q4-2019
17	Fred Williamson	Internet Corporation - 1,000 Widgets	10/15/2019	7/23/2019	84	Negotiation/Review	Q4-2019

行レベルの数式が正式リリースされ、次のアクションがサポートされるようになりました。

- 行レベルの数式によってレポートデータの絞り込みやグループ化を行う。
- 行レベルの数式によってグループを並び替える。

- 集計数式で行レベルの数式を参照する。
- グラフ、総計値、ゲージ、じょうご、テーブルなどのダッシュボードコンポーネントでも、行レベルの数式がサポートされるようになりました。
- 行レベルの数式は以下をサポートします。
  - 合計や平均などの集計
  - 選択リスト項目
  - 条件付き書式
  - レポートグラフ
  - 書式設定されたレポートのエクスポート
  - レポートへの登録

メモ: 行レベルの数式は正式にリリースされましたので、システム管理者は [設定] でこの機能を有効化する必要はありません。[行レベルの数式を有効化 (Lightning Experience のみ)] は、[設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] から削除されました。

項目間の絞り込みによる項目の比較を使用したレポートの絞り込み (ベータ)

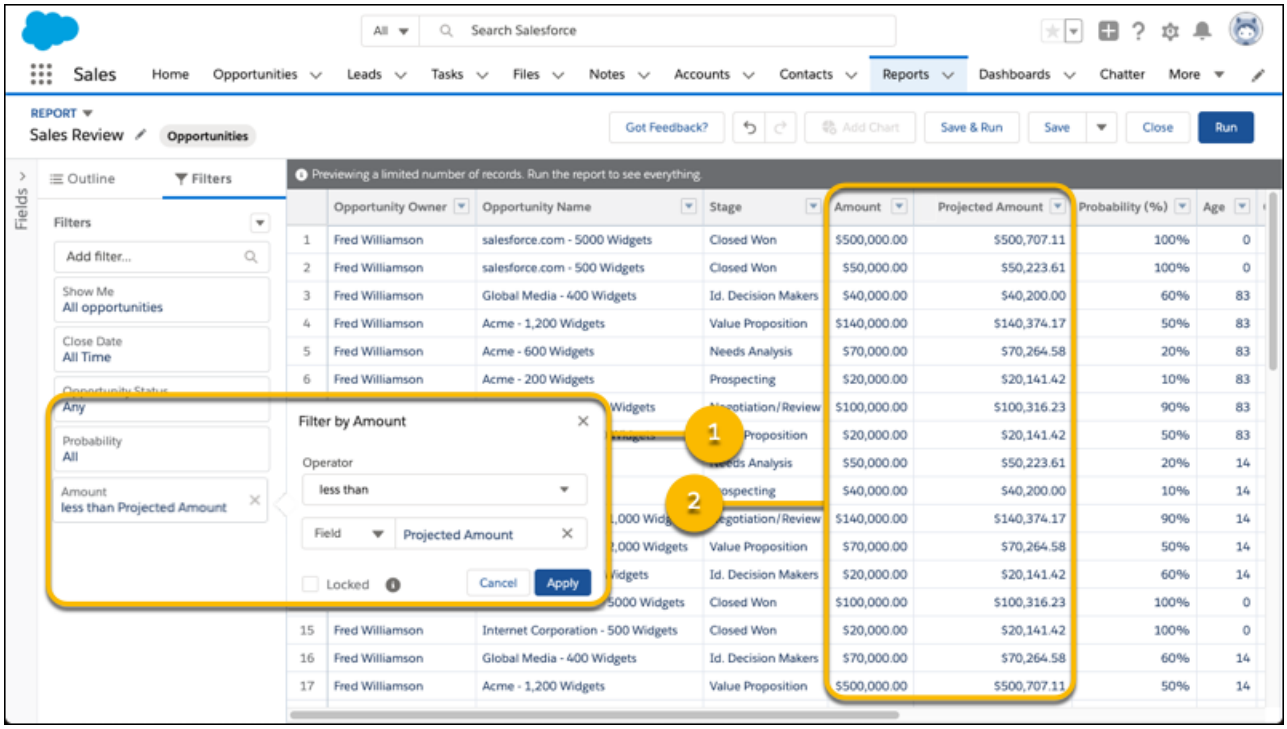
2 つの異なるレポート項目の値を比較することで、レポートを絞り込みます。たとえば、完了日より後に変更されたケースを表示するには、最終更新日が完了日より後のケースを絞り込みます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: 項目間の絞り込みはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Lightning Experience の項目間の絞り込みに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: [設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] で、[レポートでの項目間検索条件を有効化 (Lightning Experience のみ)] を選択し、[保存] をクリックします。

項目の絞り込みを追加し、項目ダイアログで [値] を [項目] に変更します。次の例では、項目間の絞り込み (1) は予想よりも金額が少なかった商談を返します (2)。



関連トピック:

IdeaExchange: レポートの検索条件で項目どうしを比較できるはずです

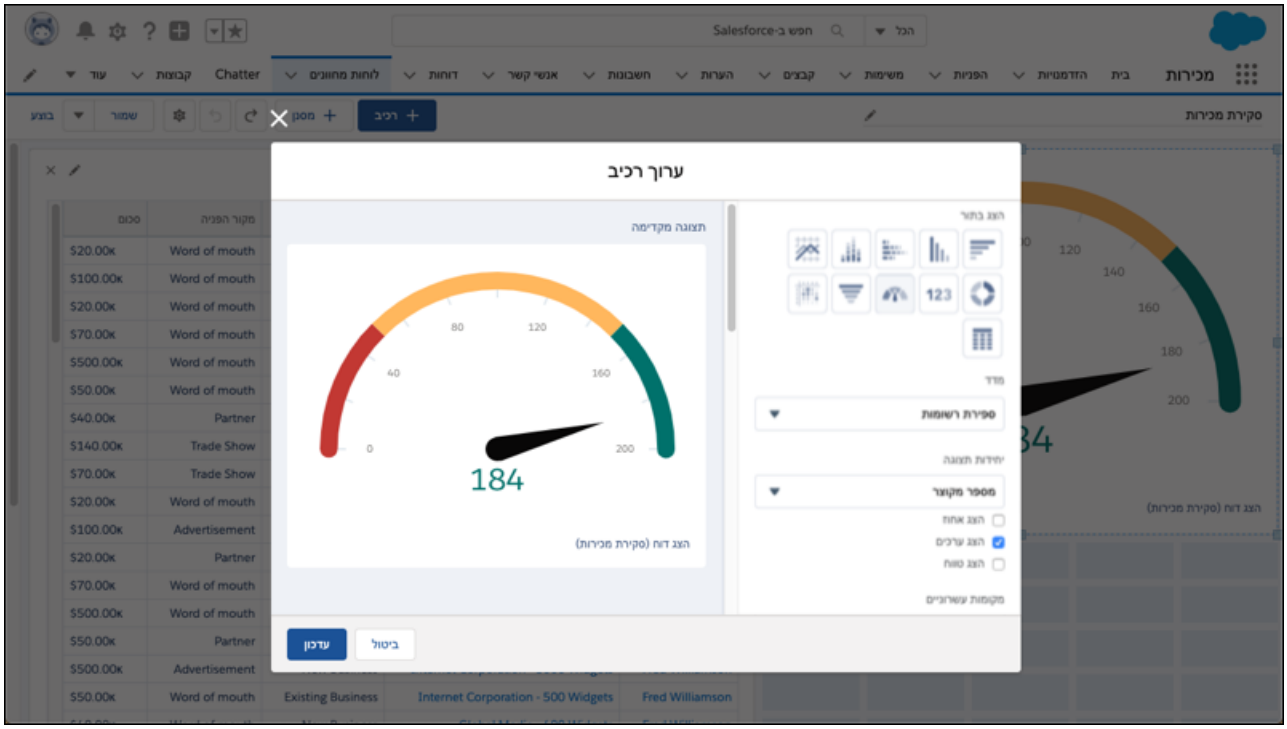
レポートとダッシュボードでの右から左へ記述される言語のサポート (ベータ)

レポートとダッシュボードでは、ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥー語など、右から左へ記述される (RTL) 言語とロケールがサポートされるようになりました。エンドユーザ言語としてヘブライ語とアラビア語、プラットフォーム言語としてウルドゥー語がサポートされます。RTL 言語のサポートを改善するために、レポートとダッシュボードのインターフェースが右から左に流れるように再配置されました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

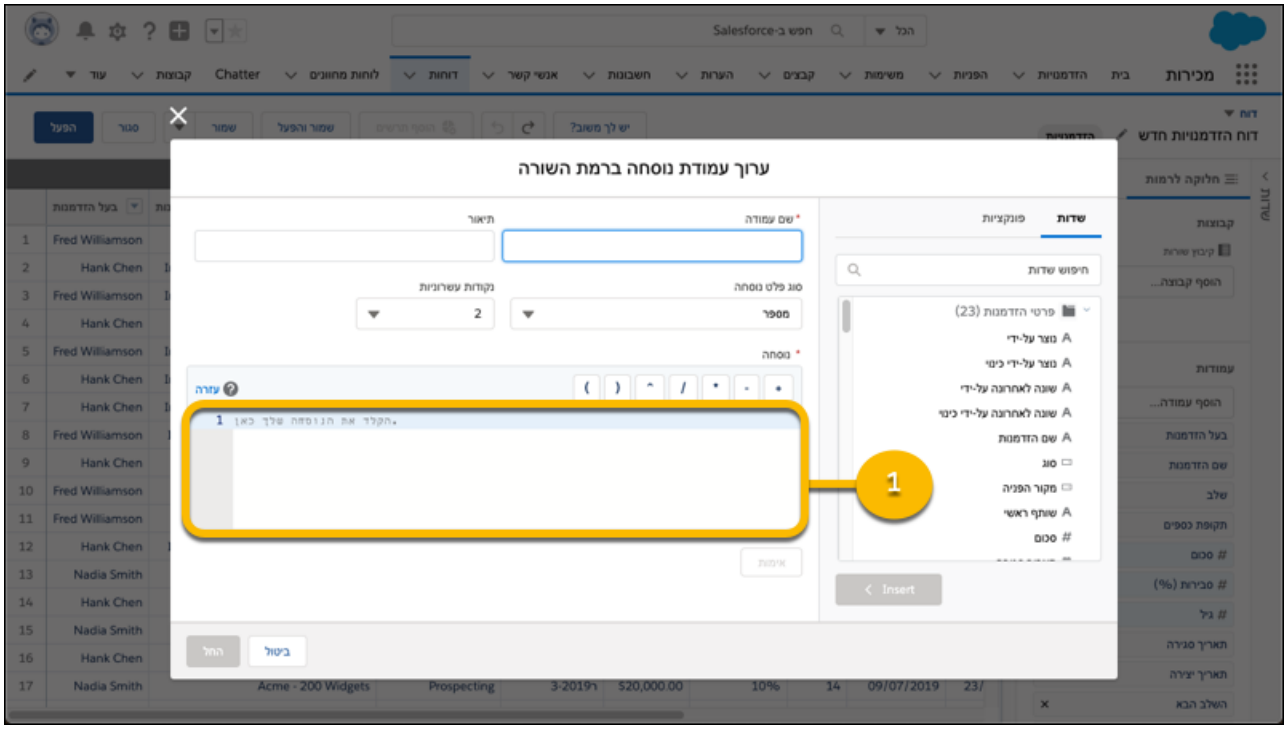
メモ: 右から左への記述のサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

理由: ヘブライ語のダッシュボードコンポーネントを追加すると次のようになります。



RTL 言語の使用時、レポートビルダーのこれらの部分は翻訳されますが、引き続き左から右にレイアウトされます。

- レポートに列を追加すると、[概要] ペインの上端の列は、レポートテーブルの左端の列になります。
- サマリーおよび行レベルの数式の両方の数式編集項目は左から右に記述されますが、数式編集メニューは右から左へと流れます (1)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience の右から左へ記述される (RTL) 言語のレイアウトの改善 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レポート結果での値のユニーク数 (ベータ)

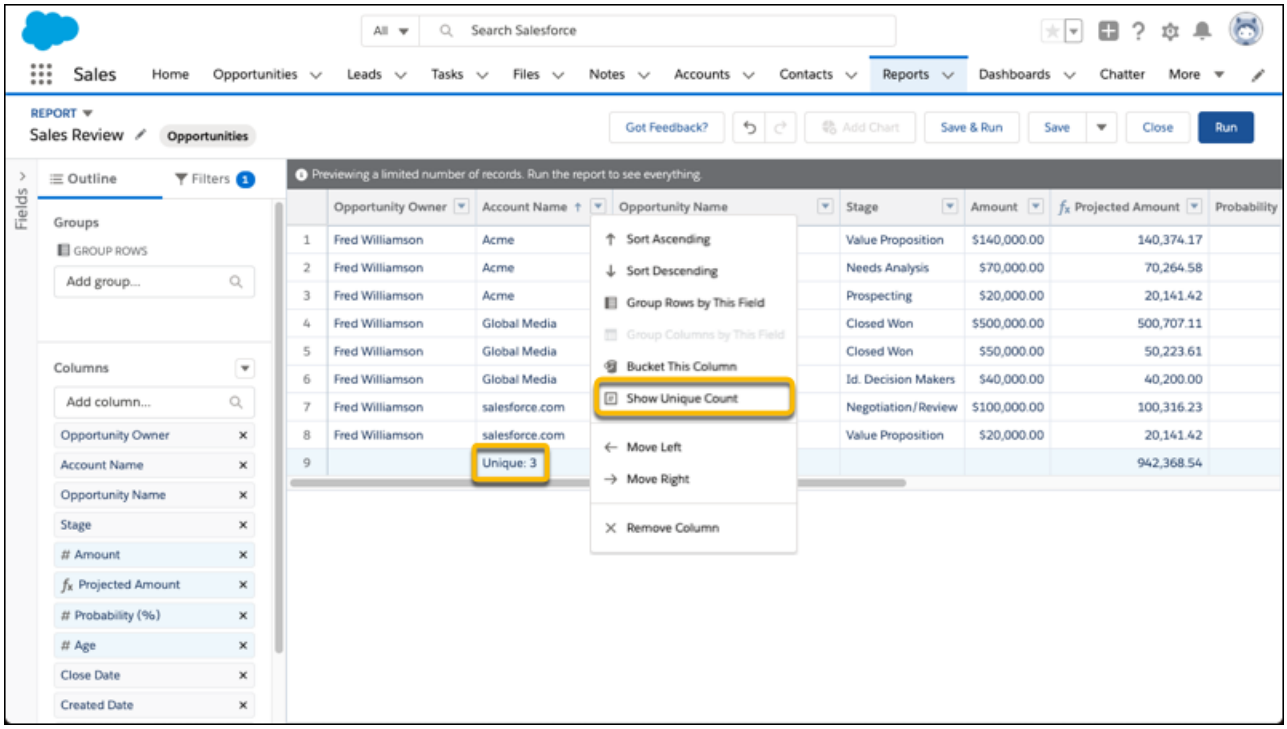
ユニーク数を使用して、レポートが返す個別の値の数を確認します。たとえば、商談レポートでは同じ取引先の複数の商談をリストすることがよくあります。ユニーク数を[取引先名]列に追加して、レポートに表示される個別の取引先値の数を確認します。ユニーク数は、レポート下部に総計として、また各グループの小計として表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: ユニーク数はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Lightning Experience のユニーク数に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法:[設定]の[レポートおよびダッシュボードの設定]で、[レポートでのユニーク行数集計を有効化(Lightning Experience のみ)]を選択し、[保存]をクリックします。

項目の値のユニーク数を追加するには、列で ▼ >[ユニークカウントを表示]をクリックします。



関連トピック:

IdeaExchange: 異なる/一意のレコード用のレポートオプション

レポート結果で長いテキスト項目を折り返すことによる読みやすさの改善

デフォルトでは、レポート結果に含まれる長いテキスト項目は、切り詰められるのではなく折り返されます。テキストの折返しにより、列を展開しなくても長いテキスト項目をすべて読むことができます。

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

活動レポートでのテリトリー詳細の表示

エンタープライズテリトリー管理を使用しているのであれば、活動レポートに有効なテリトリーモデルに関する情報が表示されるようになります。これにより、たとえば、ToDo と、関連付けられている取引先および割り当てられているテリトリーのリストを作成できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

テリトリー詳細による活動レポートの強化

レポートとダッシュボードへの取引先チームサポートの追加

取引先チームのレポート作成をサポートするために、取引先チームメンバーの `UserId` 項目をレポートとダッシュボードで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

Einstein Analytics: コード不要のモデルリリース、ディメンション数式、新しい Analytics ホーム

コードを記述することなく、選択した Salesforce 項目に Einstein Discovery スコアを自動的に書き込みます。Analytics Studio エクスプローラで、文字列の結果を含む数式を作成し、ラベルの作成、単純なバケットの提供、または画像 URL の追加を行います。新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドとなります。

このセクションの内容:

Analytics データインテグレーション: アプリケーション内設定アシスタンス、データ同期スケジュールのアラート、レシピ変換の増加

Analytics を設定するときにアプリケーション内ヘルプを使用します。スケジュールされていないデータ同期から古いデータがデータジョブに含まれている可能性がある場合にアラートが表示されます。新しいレシピ変換を使用してデータセットのデータ型と日付形式を変換します。

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

予測分析を Sales Analytics アプリケーションに追加し、Insurance Analytics テンプレートおよび Health Care Analytics テンプレートからアプリケーションを作成し、Accuracy Analytics を使用して Einstein Discovery ストーリーの信頼性を向上します。

Analytics アプリケーション構築: 合計と小計、ディメンション数式、アセットバージョン履歴

合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。数式では、SAQL を記述することなく、文字列値を使用したラベルの作成、単純なバケットの設定、または画像 URL の追加がサポートされるようになりました。Einstein Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのスナップショットを保存します。

Einstein Discovery: コード不要モデルのリリース、勾配ブースティング、ライブ予測モニタリング

コードを使用せずに、選択した Salesforce 項目にスコアを自動的に書き込みます。勾配ブースティングアルゴリズムのメリットをモデルで活用します。ライブ予測モニタリングを使用してモデルを調整し、予測精度を高めます。

誰もが使用できる Analytics: 新しい Analytics ホーム、学習センター、メールサブスクリプション (ベータ)

新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドです。ガイド付き学習ジャーニーおよび Trailhead 追跡により、学習センターはアプリケーション内にある有益なリソースの宝庫と言えます。ダッシュボードウィジェットに登録し、自分にとって最も重要なグラフや KPI のスナップショットを毎日または毎週メールで受信します。

Analytics データインテグレーション: アプリケーション内設定アシスタンス、データ同期スケジュールのアラート、レシピ変換の増加

Analytics を設定するときにアプリケーション内ヘルプを使用します。スケジュールされていないデータ同期から古いデータがデータジョブに含まれている可能性がある場合にアラートが表示されます。新しいレシピ変換を使用してデータセットのデータ型と日付形式を変換します。

このセクションの内容:

アプリケーション内ガイド付き学習で設定に慣れる

[設定] の [Analytics] の [始めましょう] ページを再設計し、拡張されたアプリケーション内ヘルプと [新機能] セクションを追加しました。

新しい Analytics 組織でデフォルトで有効になるデータ同期

Winter '20 以降では、組織で Analytics を有効化すると、データ同期がデフォルトで有効になります。データ同期は、データフローが実行される前に Salesforce データと外部データを Analytics に読み込み、データフローを迅速化します。また、組織外に保存されているデータで Analytics を強化する Analytics コネクタも有効になります。Winter '20 より前に組織で Analytics を有効化した場合は、データ同期を手動で有効にできます。

データ同期スケジュールのアラームでデータを最新に保つ

SFDC_Local 接続済みオブジェクトがジョブで使用されているが、接続のデータ同期がスケジュールされていない場合、[監視] ページにメッセージが表示されるようになりました。明日見る映画を決めるために先週の上映時間を確認することはありません。Analytics でのデータについても同じことが言えます。レンズとダッシュボードの価値が最も高いのは、データセットのデータが最新である場合です。このメッセージは、ジョブで使用されている SFDC_Local 接続からのローカル組織データが古い可能性があることを通知します。

Snowflake Computing および Amazon S3 接続で同期できるデータの増加

より充実した分析、よりスマートなインサイト、より正確な売上予測のために、Analytics にリモートデータを取り込みます。接続済みの Snowflake Computing および Amazon S3 オブジェクトごとに同期できるデータの量が増えました。最大 1 億行または 50 GB のいずれかの制限に達するまで同期できます。増加されたデータ同期制限は、Spring '20 リリース時にローリング方式で Snowflake Computing および Amazon S3 接続に適用されます。

最新データの高速キャプチャ

より短い間隔で実行されるようにデータ同期、データフロー、およびレシピジョブをスケジュールします。これらのジョブを 15 分、20 分、30 分、または 60 分ごとに実行するようにスケジュールできるようなりました。

共有継承で対象とされないユーザの識別

特定のデータセットのデータを参照できないという不満を抱いているユーザはいませんか?継承された共有ルールに基づいてデータセットにアクセスできないユーザを識別するには、共有継承の対象範囲レポートを実行します。このレポートを使用して、データセットへのアクセス権をさらに多くのユーザに付与するためにセキュリティ述語を追加する必要があるかどうかを判断します。たとえば、ユーザが商談オブジェクトの共有ルールの対象外である場合、商談データセットへのアクセス権をそのユーザに付与する述語を追加します。

「レシピエディタ」から「データの準備」へ名称変更

主要なデータ準備ツールなので、そのまま「データの準備」と呼ぶことにしましょう。データの準備を使用して、データセットに読み込まれるデータをクリーンアップ、結合、変換、絞り込むレシピを作成します。

欠損値の予測によるデータの補完

欠損値によってクエリ結果が正しくなくなる場合があります。この影響を最小限に抑えるには、レシピで [欠損値を予測] 変換を使用して、ディメンション列に欠損値を補います。Analytics は、データ中の強く相関している他の列の値に基づいて値を予測します。

ディメンションと日付への列の変換

データセット列のデータ型によって、その項目のデータを照会できる方法が決まります。たとえば、ディメンションまたは日付で絞り込みやグループ化を行ったり、基準に計算を実行したりできます。データセットを作成するときに、Analyticsによって間違ったデータ型が列にタグ付けされることがあります。必要に応じて、[ディメンションへ]レシピ変換を使用して基準列をディメンションに変換し、[日付へ]変換を使用してディメンション列を日付に変換します。

データセットの日付形式の標準化

データセットのディメンション列に形式が異なる日付が含まれている場合、[日付を書式設定] レシピ変換を使用して、列内のすべての値の形式を標準化します。一貫した形式により、日や月など、特定の日付部分による絞り込みを含め、レコードを日付で正しく絞り込みおよびグループ化できます。また、ディメンションから日付へデータ型を確実に変換することができます。

より柔軟なレシピの検索条件で適切なデータの取得

ディメンションだけではなく、基準列と日付列も絞り込むことができるようになりました。ディメンションの検索条件に新しい演算子 (< や > など) が追加されました。また、既存の値から選択する代わりに、独自の検索条件値を手動で入力できるようになりました。たとえば、データに表示されることが期待される文字列値で絞り込むことができます

レシピおよびデータフロー管理の簡易化

レシピの名前検索、最終更新者の確認、次の実行スケジュールの表示を、すべて [レシピ] タブでできるようになりました。また、[データフロー] タブでデータフローを名前で検索することもできます。

Analytics が Einstein Discovery にエクスポートされたデータセットにセキュリティを適用

エクスポートデータフロー変換を使用して Einstein Discovery にデータセットをエクスポートするときに、Analytics によってセキュリティ述語が適用されるようになりました。Analytics は、変換パラメータで指定されたユーザに基づいてセキュリティ述語を適用し、ユーザがアクセスできないレコードは除外されます。以前は、セキュリティ述語に関係なく、変換ではすべてのレコードがエクスポートされました。

より長いセキュリティ述語でデータセットのセキュリティを強化

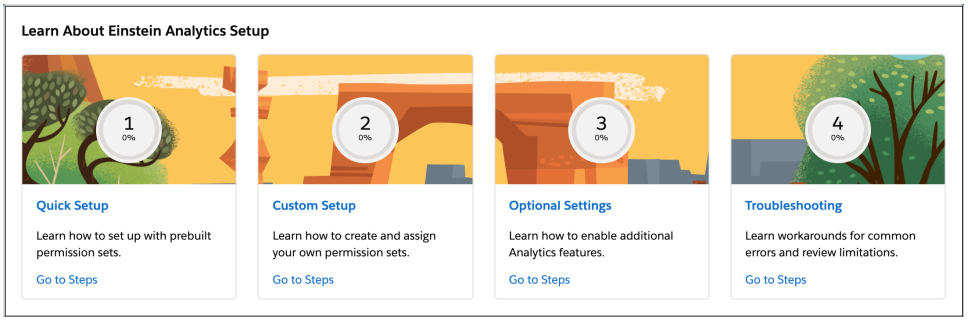
複数のテリトリーレベルがあるテリトリー管理のように、一部のセキュリティ述語にはより多くのセキュリティ条件が必要となります。データセットにより細かい行レベルセキュリティを作成できるように、セキュリティ述語では 1,000 文字ではなく、5,000 文字までサポートされるようになりました。

アプリケーション内ガイド付き学習で設定に慣れる

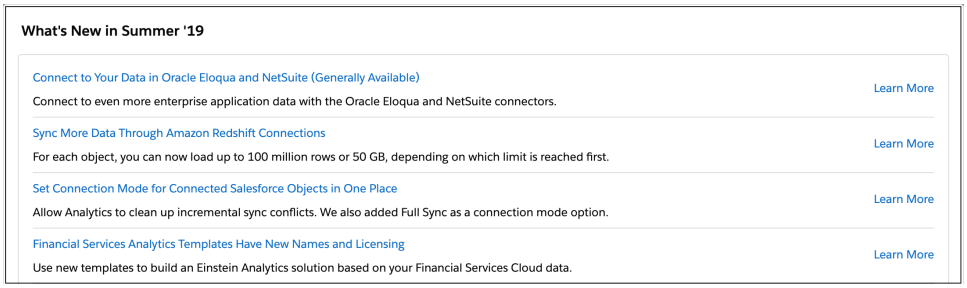
[設定] の [Analytics] の [始めましょう] ページを再設計し、拡張されたアプリケーション内ヘルプと [新機能] セクションを追加しました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: ページの新しい中心は、クイックスタート、カスタム設定、設定、トラブルシューティングのガイド付き学習パスを提供する [Einstein Analytics の設定について] です。学習パスは、主要なタスクを分類し、設定オプションを表示し、トラブルシューティングのガイダンスを提供します。学習パスを完了して設定で可能なことをすべてを理解してから、必要な設定を組織に適用します。必要に応じて中断した場所から容易に継続できるように学習の進行状況が追跡されます。



このページにある他の学習の機会は、[設定] から移動せずに最新リリースに関する情報を把握できる [新機能] セクションです。



新しい Analytics 組織でデフォルトで有効になるデータ同期

Winter '20 以降では、組織で Analytics を有効化すると、データ同期がデフォルトで有効になります。データ同期は、データフローが実行される前に Salesforce データと外部データを Analytics に読み込み、データフローを迅速化します。また、組織外に保存されているデータで Analytics を強化する Analytics コネクタも有効になります。Winter '20 より前に組織で Analytics を有効化した場合は、データ同期を手動で有効にできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データ同期は、新しい Analytics 組織でデフォルトで有効になっていますが、同期がいつ行われるかは接続ごとにスケジュールします。最新のデータを使用するには、データフローの前に同期を実行するように設定します。

関連トピック:

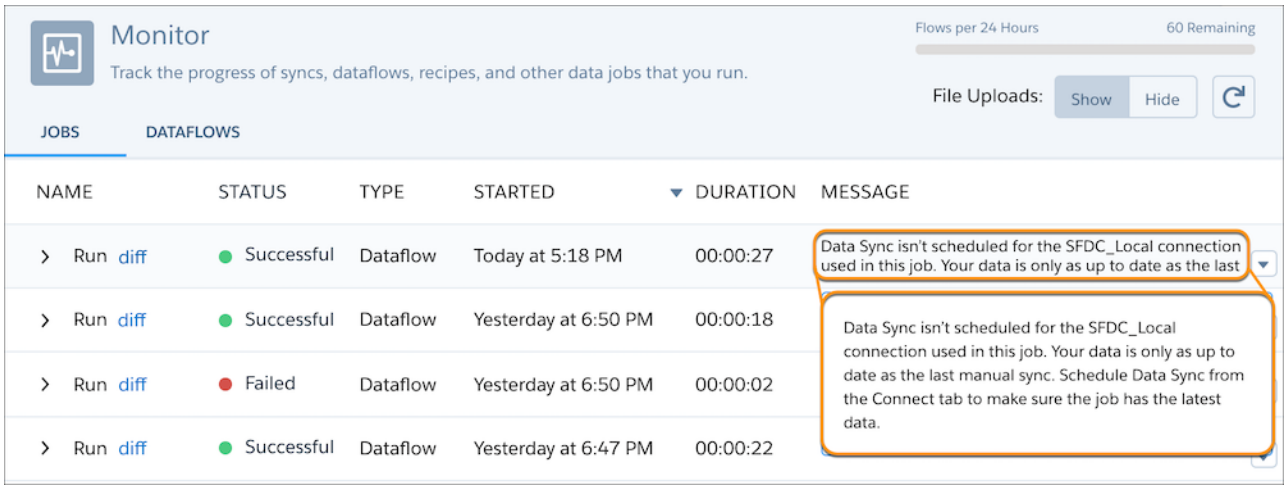
Salesforce ヘルプ: 同期のスケジュール

データ同期スケジュールのアラームでデータを最新に保つ

SFDC_Local 接続済みオブジェクトがジョブで使用されているが、接続のデータ同期がスケジュールされていない場合、[監視] ページにメッセージが表示されるようになりました。明日見る映画を決めるために先週の上映時間を確認することはありません。Analytics でのデータについても同じことが言えます。レンズとダッシュボードの価値が最も高いのは、データセットのデータが最新である場合です。このメッセージは、ジョブで使用されている SFDC_Local 接続からのローカル組織データが古い可能性があることを通知します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: [接続] タブで SFDC_Local 接続のデータ同期をスケジュールします。データ同期をスケジュールすると、次回のジョブ実行後にメッセージは表示されません。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 同期のスケジュール

Snowflake Computing および Amazon S3 接続で同期できるデータの増加

より充実した分析、よりスマートなインサイト、より正確な売上予測のために、Analytics にリモートデータを取り込みます。接続済みの Snowflake Computing および Amazon S3 オブジェクトごとに同期できるデータの量が増えました。最大 1 億行または 50 GB のいずれかの制限に達するまで同期できます。増加されたデータ同期制限は、Spring '20 リリース時にローリング方式で Snowflake Computing および Amazon S3 接続に適用されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

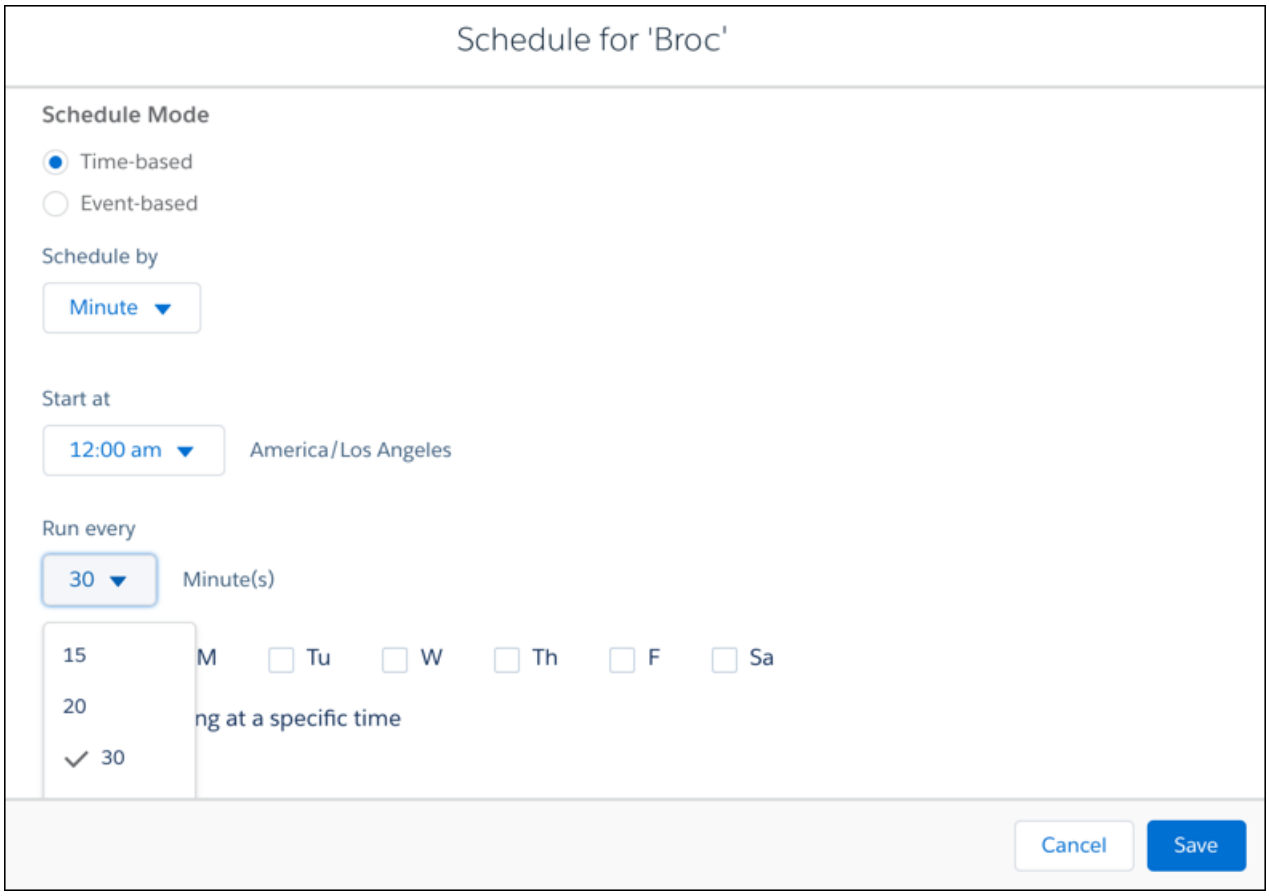
最新データの高速キャプチャ

より短い間隔で実行されるようにデータ同期、データフロー、およびレシピジョブをスケジュールします。これらのジョブを 15 分、20 分、30 分、または 60 分ごとに実行するようにスケジュールできるようなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 本番組織で 1 時間未満のスケジュールを有効にするには、Salesforce サポートにご連絡ください。この機能は Sandbox では完全にサポートされていません。この機能が有効化されると、24 時間周期で最大 (60 件ではなく) 120 件のデータフローを実行できます。より頻繁なデータフローの実行をサポートするために、この制限が増加されます。

より頻繁なジョブをスケジュールするには、[スケジュール基準] 項目で 1 時間未満のスケジュールを選択し、[次の間隔で実行] 項目で間隔を選択します。次に、ジョブを実行する曜日を選択し、[保存] をクリックします。



すでに実行中またはキューに入っているデータ同期、データフロー、またはレシピをスケジューラが実行しようとすると、現在実行中のジョブは続行されますが、新しいジョブは失敗します。失敗を防ぐには、スケジュール間隔をジョブの完了にかかる時間よりも長くします。実行履歴を確認し、ジョブの完了にかかる時間を判断します。

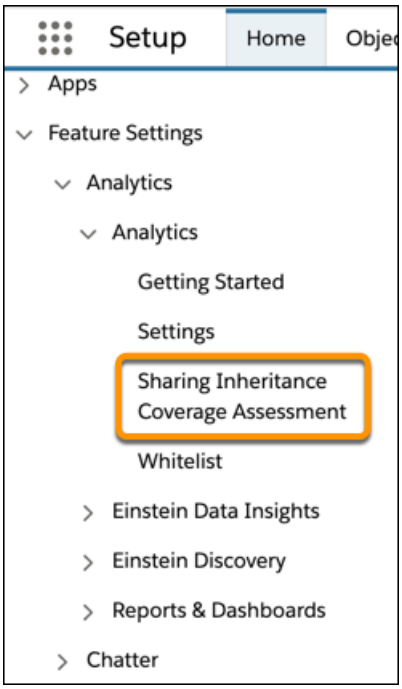
共有継承で対象とされないユーザの識別

特定のデータセットのデータを参照できないという不満を抱いているユーザはいませんか?継承された共有ルールに基づいてデータセットにアクセスできないユーザを識別するには、共有継承の対象範囲レポートを実行します。このレポートを使用して、データセットへのアクセス権をさらに多くのユーザに付与するためにセキュリティ述語を追加する必要があるかどうかを判断します。たとえば、ユーザが商談オブジェクトの共有ルールの対象外である場合、商談データセットへのアクセス権をそのユーザに付与する述語を追加します。

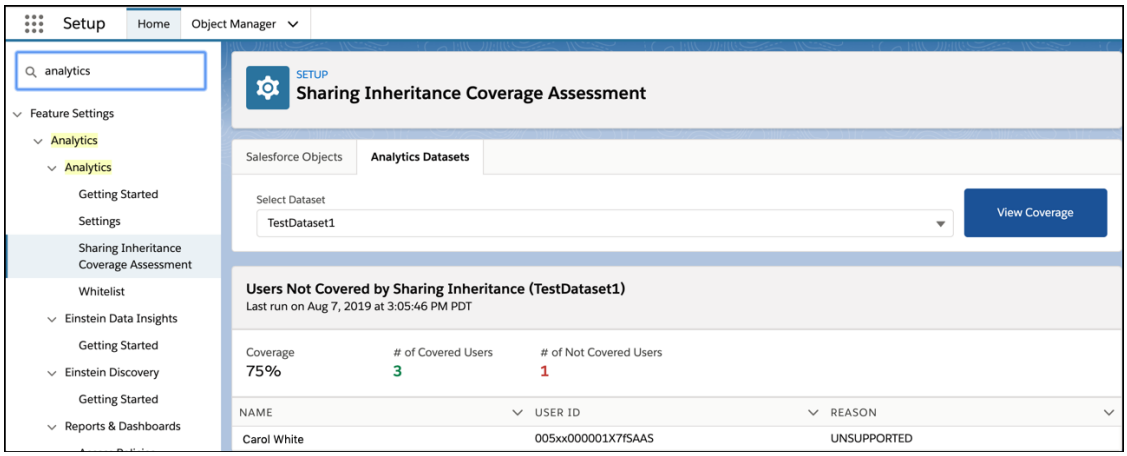
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 共有継承の対象範囲の評価レポートにアクセスするには、「Analytics データフローの編集」ユーザ権限が必要です。

方法: Salesforce の [設定] メニューの [Analytics] で、[共有継承の対象範囲の評価] を選択します。



[Analytics データセット] タブでデータセットを選択し、[対象範囲を表示] をクリックします。レポートには、継承された共有ルールに基づいてデータセットにアクセスできないすべてのユーザが表示されます。

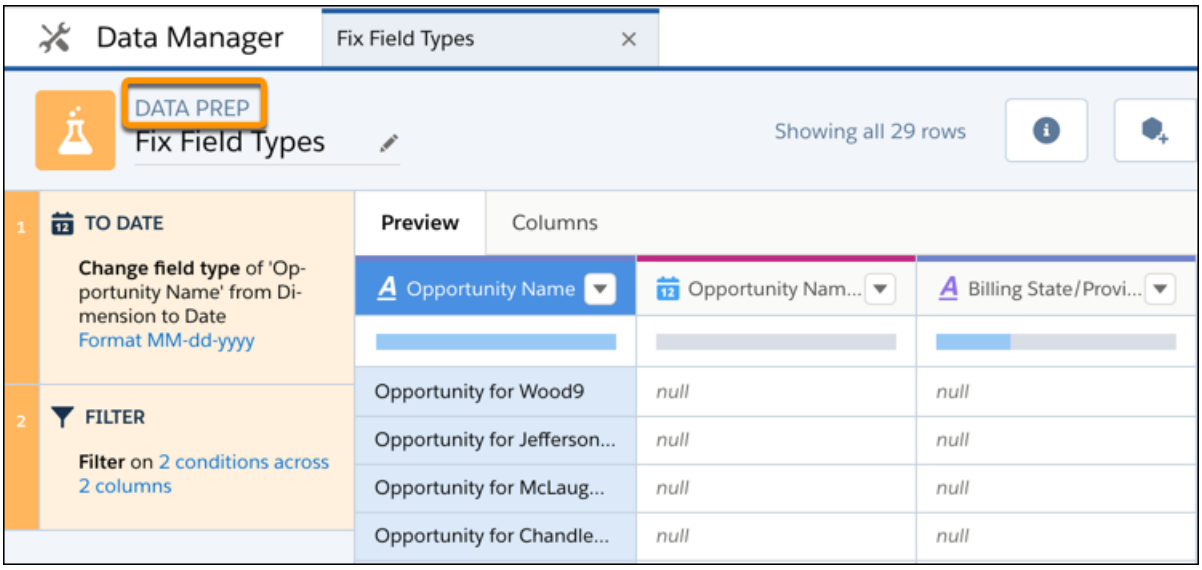


「レシピエディタ」から「データの準備」へ名称変更

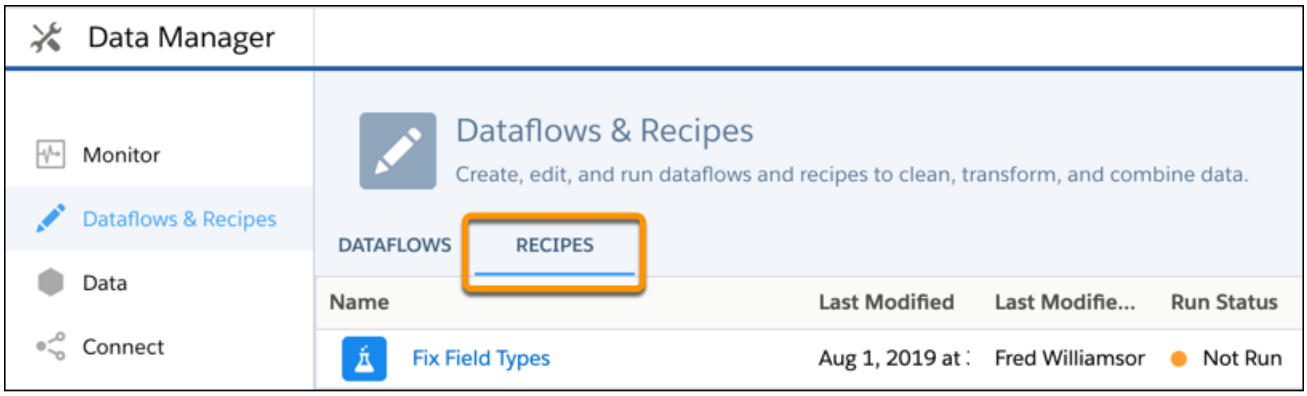
主要なデータ準備ツールなので、そのまま「データの準備」と呼ぶことにしましょう。データの準備を使用して、データセットに読み込まれるデータをクリーンアップ、結合、変換、絞り込むレシピを作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: レシピを作成または編集するときに、新しい表示ラベルが表示されます。



短く簡潔にするために、[データフロー & レシピ] タブの名前も「レシピ」に短縮されました。

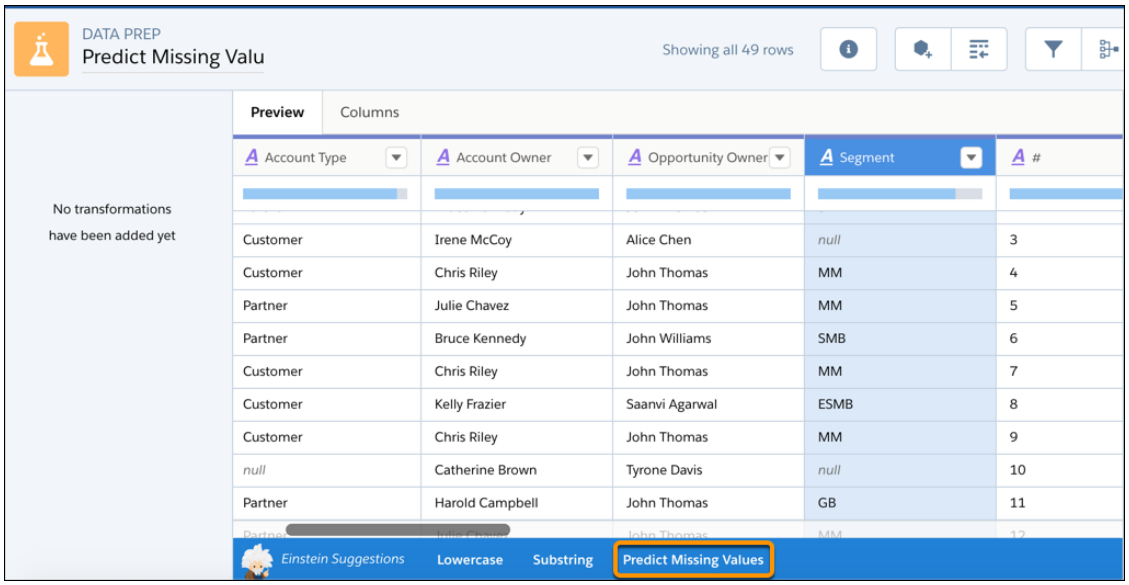


欠損値の予測によるデータの補完

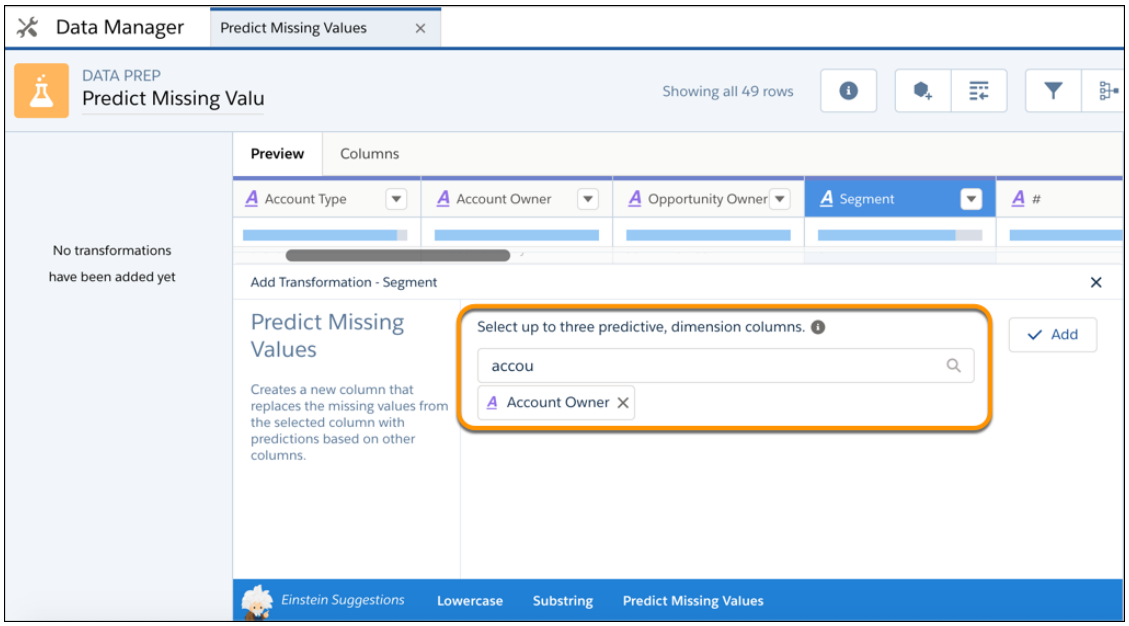
欠損値によってクエリ結果が正しくなくなる場合があります。この影響を最小限に抑えるには、レシピで [欠損値を予測] 変換を使用して、ディメンション列に欠損値を補います。Analytics は、データ中の強く相関している他の列の値に基づいて値を予測します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

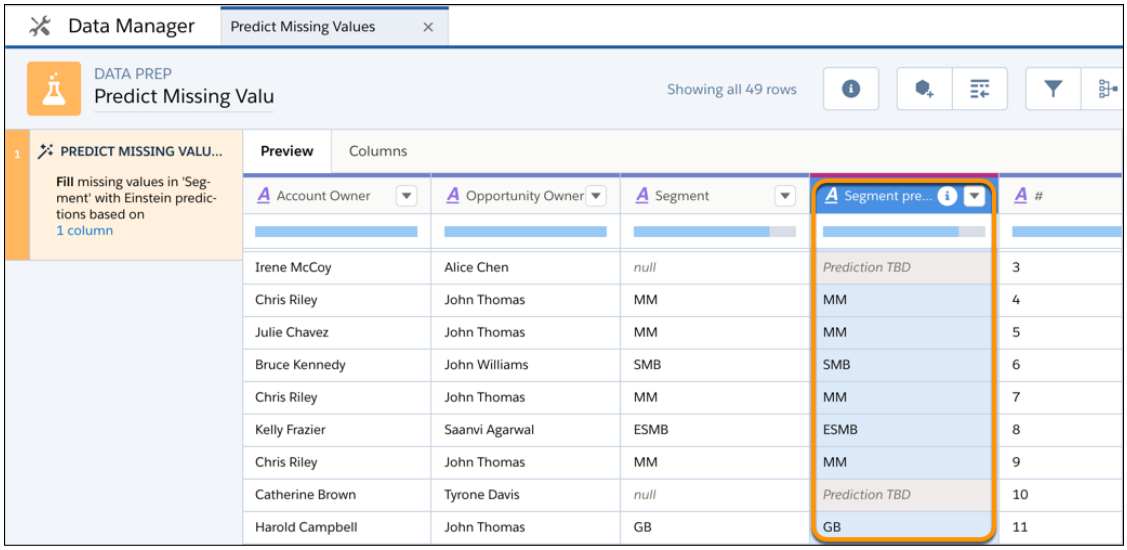
方法: レシピでディメンション列を選択して、[Einstein の提案] バーで [欠損値を予測] を選択します。



選択した列の欠損値を予測するのに使用するディメンション列を 3 つまで選択します。



レシピに変換を追加するには、[追加]をクリックします。プレビューに、値が欠損している元の列と、最終的な「予測」が入った新しい列が表示されます。新しい列の予測値には「予測未定」と表示されます。予測値は、レシピを実行するまでは表示されません。



ディメンションと日付への列の変換

データセット列のデータ型によって、その項目のデータを照会できる方法が決まります。たとえば、ディメンションまたは日付で絞り込みやグループ化を行ったり、基準に計算を実行したりできます。データセットを作成するときに、Analyticsによって間違ったデータ型が列にタグ付けされることがあります。必要に応じて、[ディメンションへ]レシピ変換を使用して基準列をディメンションに変換し、[日付へ]変換を使用してディメンション列を日付に変換します。

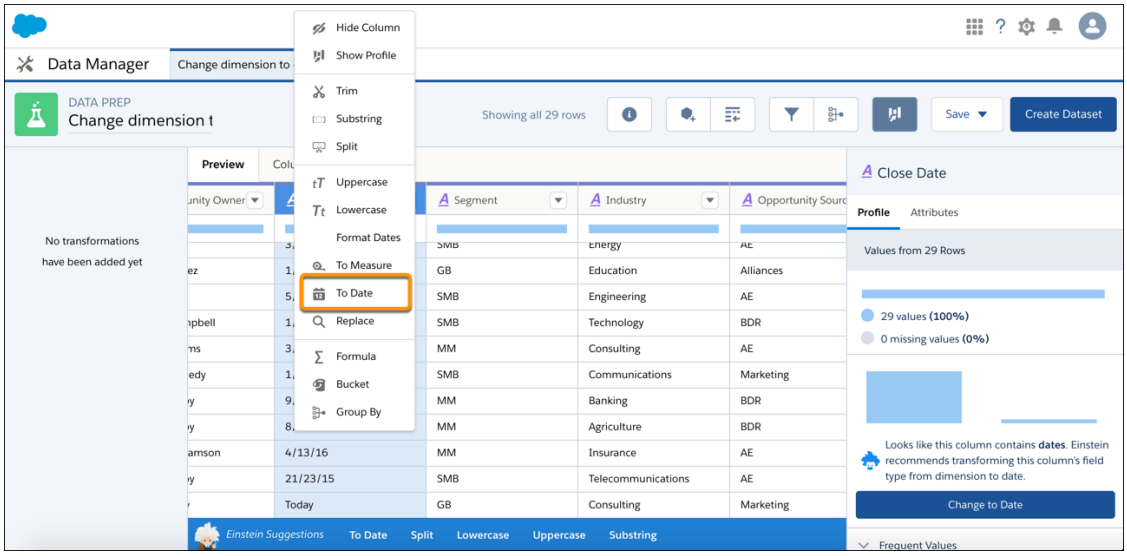
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: この機能は、Winter '20 リリース時にローリング方式で追加されます。

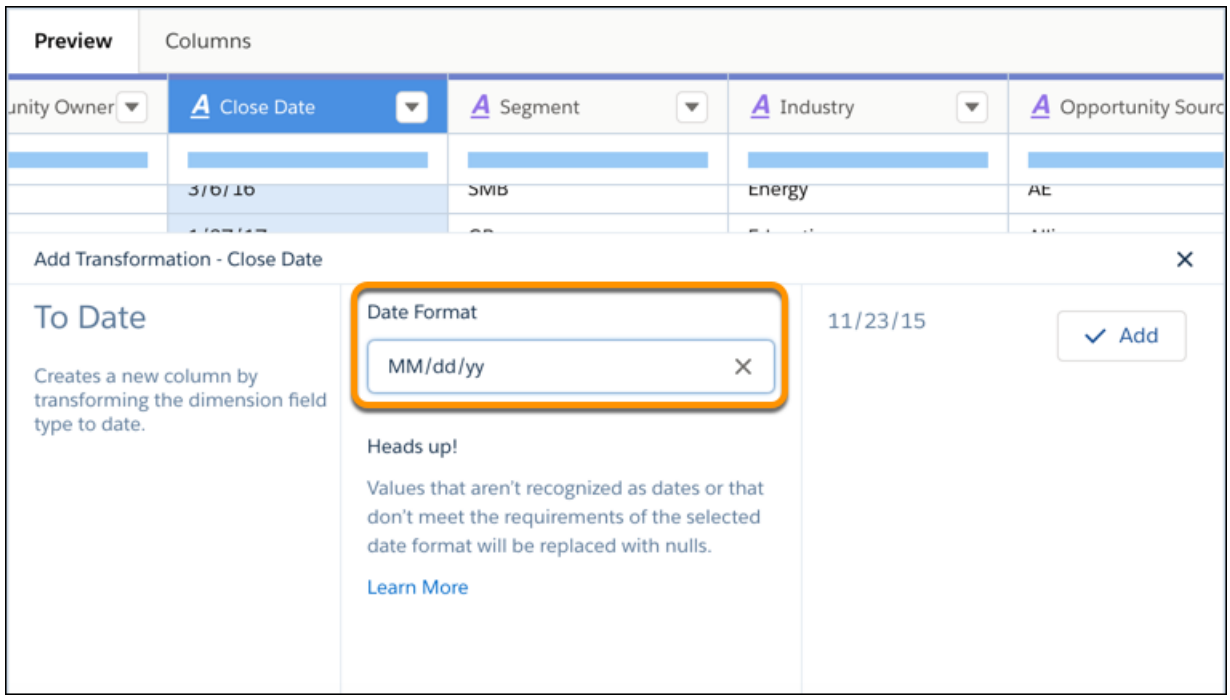
理由: Analyticsは、形式が異なる日付または予期しない文字列値が含まれている場合、日付列をディメンションとしてタグ付けすることがありました。月別にグループ化するなど、日付機能を使用するには、日付への変換を使用して、ディメンションデータ型を日付に変更します。基準をディメンションに変換するには、[ディメンションへ] 変換を使用します。

方法: [データの準備] で、列メニューから変換を選択します。

ディメンションを日付項目に変換するには、[日付へ] を選択します。



[日付形式] 項目で、日付形式を選択し、[追加] をクリックします。



レシピを実行して、日付データ型を持つ列を作成し、日付値を指定された形式に変換します。変換で日付値を解析できない場合、値は null に置換されます。

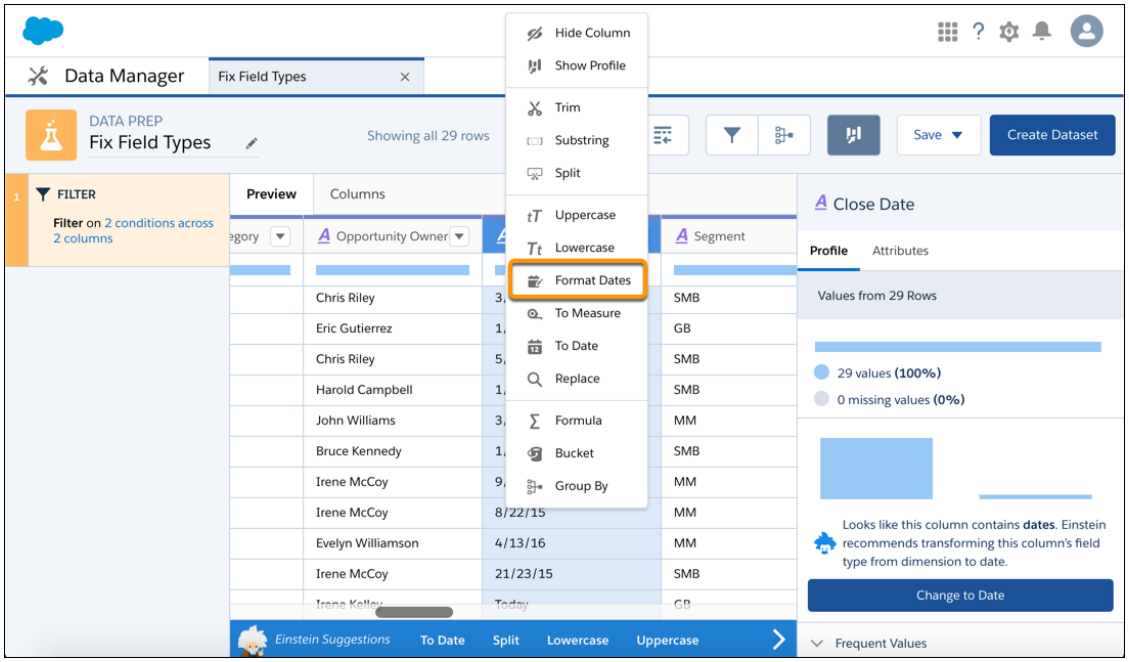
データセットの日付形式の標準化

データセットのディメンション列に形式が異なる日付が含まれている場合、[日付を書式設定] レシピ変換を使用して、列内のすべての値の形式を標準化します。一貫した形式により、日や月など、特定の日付部分による絞り込みを含め、レコードを日付で正しく絞り込みおよびグループ化できます。また、ディメンションから日付へデータ型を確実に変換することができます。

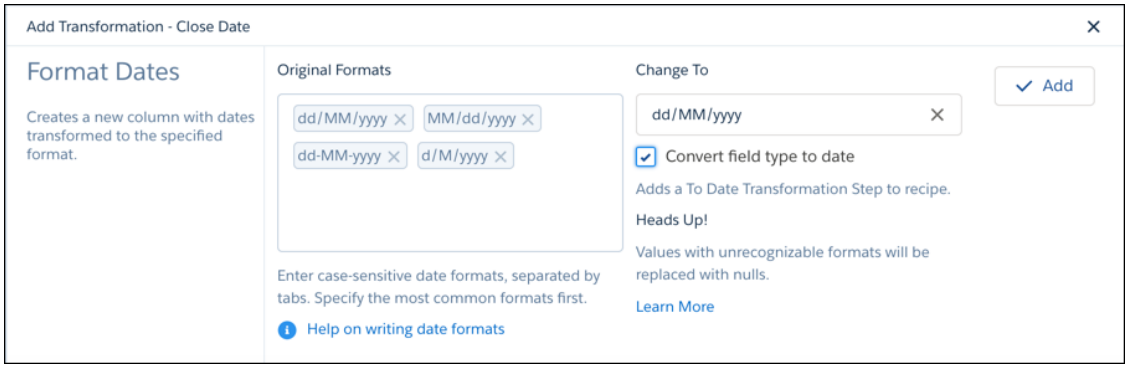
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: この機能は、Winter '20 リリース時にローリング方式で追加されます。

方法: [データの準備] で、日付値が入力されているディメンション列のメニューから [日付を書式設定] を選択します。



Analytics によって列の日付の形式が検出されます。日付形式が検出されない場合は、[元の形式] ボックスに入力します。日付が入力されているディメンション項目のデータ型を日付に変換するには、[データ型を日付に変換] を選択します。[変更後] 項目で目的の日付形式を選択し、[追加] をクリックします。



レシピを実行すると、変換によって選択した形式の日付を表示する列が作成されます。Analytics が元の形式を判断できない、または日付に特定の日付部分の値がない場合、変換によって日付が null に置換されます。たとえば、`MM/dd/yyyy: hh:mm:sssz` 形式に標準化し、日付値に秒の日付部分がない場合、置換値は null になります。

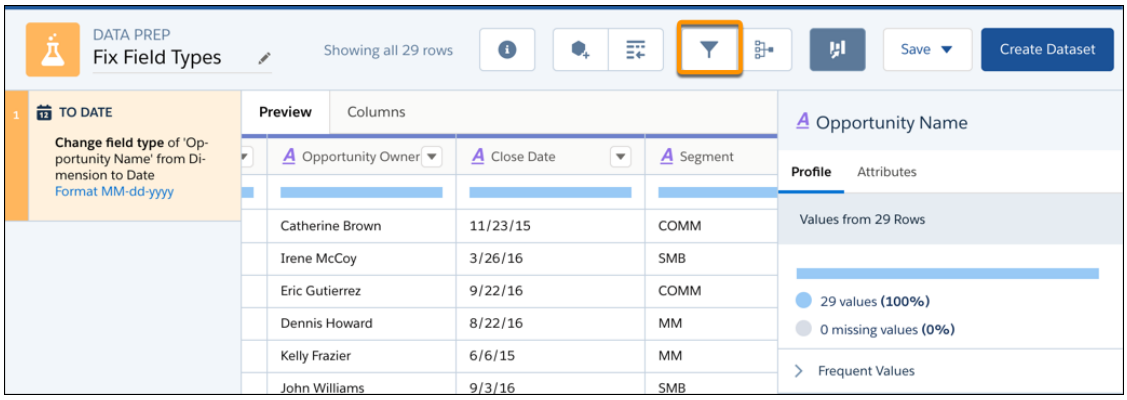
より柔軟なレシピの検索条件で適切なデータの取得

ディメンションだけではなく、基準列と日付列も絞り込むことができるようになりました。ディメンションの検索条件に新しい演算子 (< や > など) が追加されました。また、既存の値から選択する代わりに、独自の検索条件値を手動で入力できるようになりました。たとえば、データに表示されることが期待される文字列値で絞り込むことができます

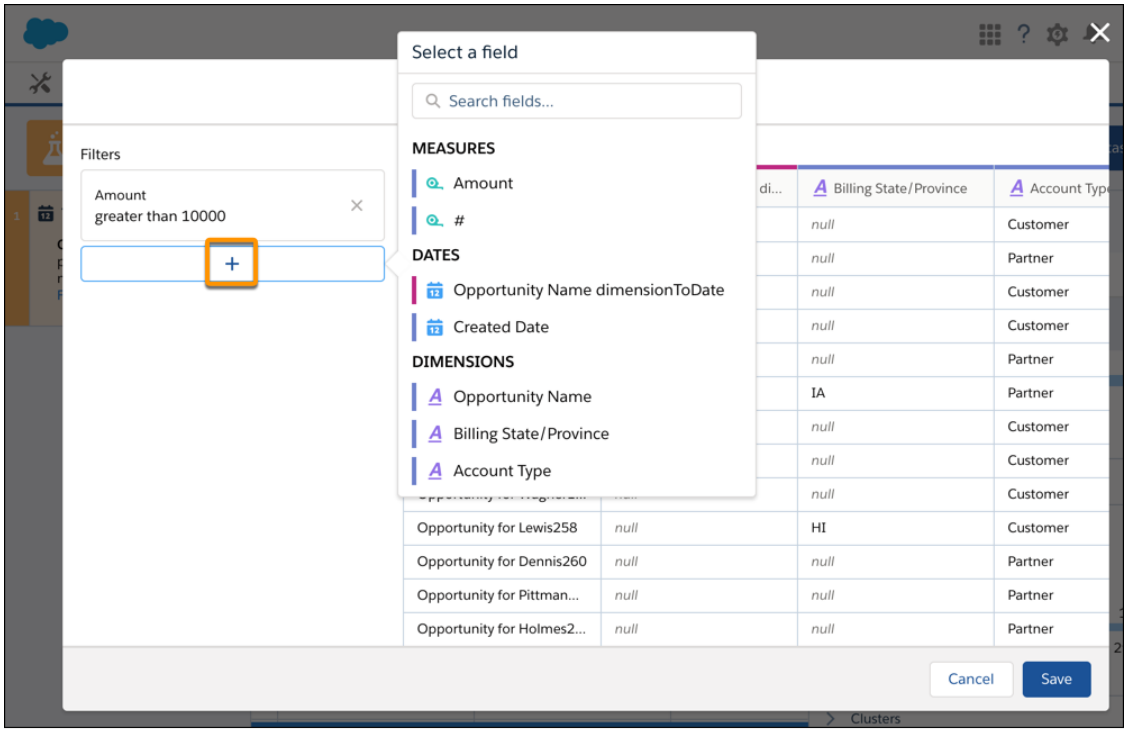
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: この機能は、Winter '20 リリース時にローリング方式で追加されます。

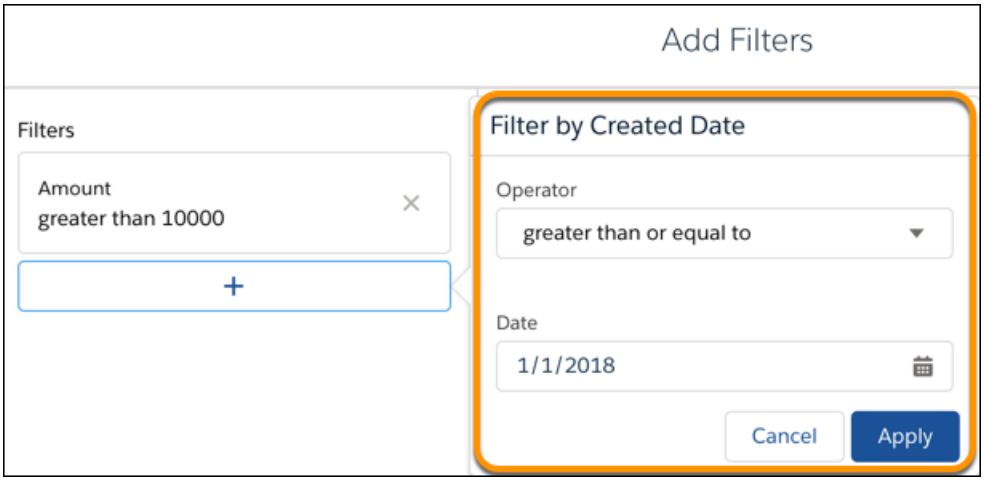
方法: 検索条件オプションを列メニューから [データの準備] の上部に移動しました。[条件] ボタン ( ) をクリックします。



[+] をクリックして、絞り込む列を選択します。



検索条件を入力し、[適用]をクリックします。ディメンション列を絞り込む場合、新しい演算子の<、>、null、null でない、次の文字列を含む、次の文字列を含まない、次の文字列で始まる、次の文字列で終わる、を使用できます。ディメンション列の場合は、既存の列値を選択する代わりに、独自の値を入力できます。



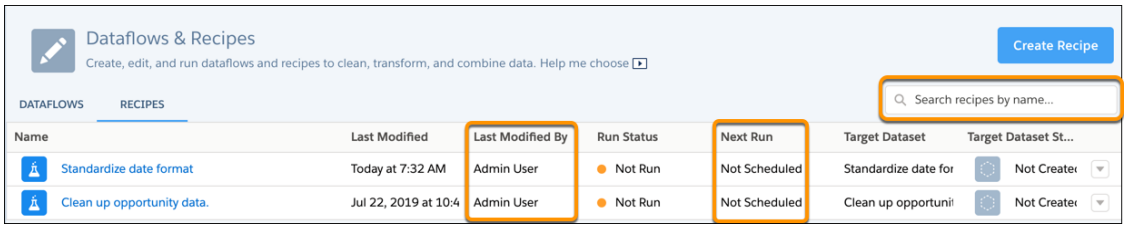
検索条件は必要なだけ追加できます。レシピを実行すると、すべての検索条件を満たす結果が返されます。

レシピおよびデータフロー管理の簡易化

レシピの名前検索、最終更新者の確認、次の実行スケジュールの表示を、すべて[レシピ]タブでできるようになりました。また、[データフロー] タブでデータフローを名前で検索することもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: データフローやレシピの操作は、データマネージャで行うほうが簡単です。



[レシピ] タブに列を追加するスペースを作るために、以下の列名が短縮されました。

古い列名	新しい列名
レシピの状況	実行状況
レシピ最終保存	最終更新日
レシピ名	名前

Analytics が Einstein Discovery にエクスポートされたデータセットにセキュリティを適用

エクスポートデータフロー変換を使用して Einstein Discovery にデータセットをエクスポートするときに、Analytics によってセキュリティ述語が適用されるようになりました。Analytics は、変換パラメータで指定されたユーザに基づいてセキュリティ述語を適用し、ユーザがアクセスできないレコードは除外されます。以前は、セキュリティ述語に関係なく、変換ではすべてのレコードがエクスポートされました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

より長いセキュリティ述語でデータセットのセキュリティを強化

複数のテリトリーレベルがあるテリトリー管理のように、一部のセキュリティ述語にはより多くのセキュリティ条件が必要となります。データセットにより細かい行レベルセキュリティを作成できるように、セキュリティ述語では 1,000 文字ではなく、5,000 文字までサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

予測分析を Sales Analytics アプリケーションに追加し、Insurance Analytics テンプレートおよび Health Care Analytics テンプレートからアプリケーションを作成し、Accuracy Analytics を使用して Einstein Discovery ストーリーの信頼性を向上します。

このセクションの内容:

Einstein Discovery for Sales Analytics を使用したセールスデータの強化
予測分析の機能を Sales Cloud データに適用します。Einstein Discovery for Sales テンプレートを使用して、セールスの向上に役立つ最も有望な商談を明らかにするアプリケーションを作成します。

Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の精度向上
Einstein Discovery からのインサイトをすばやく調整する方法をお探しですか? Einstein Accuracy Analytics テンプレートを使用して、Einstein Discovery ストーリーからの予測の精度を分析し、向上してください。

管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法
標準の Analytics アプリケーション作成プロセスに続いて、Adoption Analytics テンプレートからアプリケーションを作成します。管理パッケージをダウンロードして設定しなくても、Analytics アセットのメタデータを抽出できます。チームによる Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットの使用状況を測定するアプリケーションを数クリックで作成できます。

関連トピック:

Analytics for Retail Banking の新規リリースを使用した顧客インサイトの調整
Analytics for Wealth Management を使用した重要な Financial Services データへの注力
Einstein Analytics for Insurance を使用した完全な顧客インテリジェンスソリューションのエージェントとマネージャへの提供
Einstein Analytics for Manufacturing を使用したビジネスの成長と営業業務の簡略化
Einstein Analytics を使用した健康改善と患者エンゲージメントの向上

Einstein Discovery for Sales Analytics を使用したセールスデータの強化

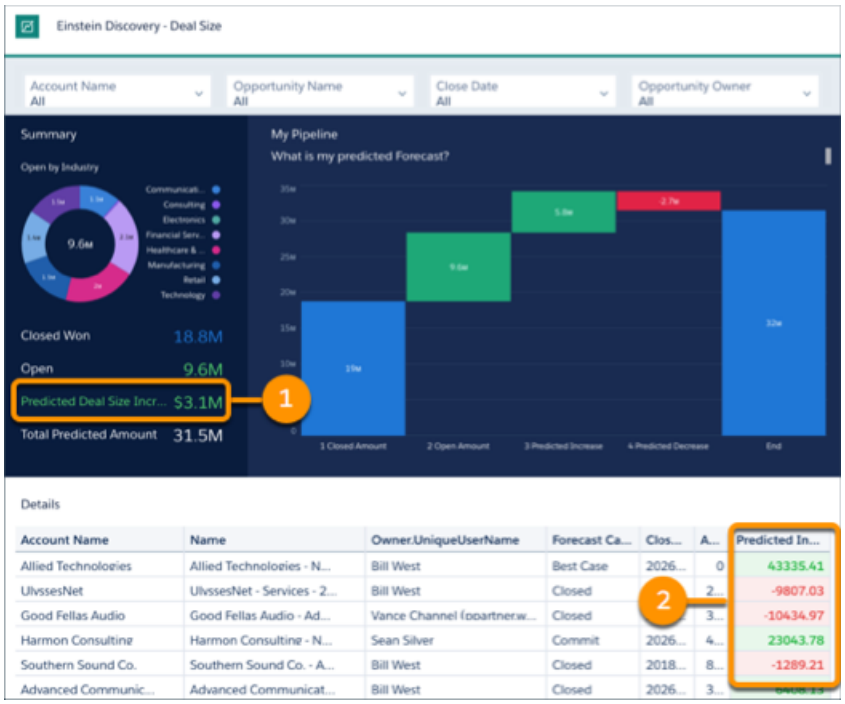
予測分析の機能を Sales Cloud データに適用します。Einstein Discovery for Sales テンプレートを使用して、セールスの向上に役立つ最も有望な商談を明らかにするアプリケーションを作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Einstein Discovery for Sales Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンスがあり、Sales Analytics アプリケーションが作成されている必要があります。

理由: このアプリケーションの Einstein Discovery ストーリーとダッシュボードでは、価値が最も高いと考えられる商談またはすぐに成立する可能性が最も高い商談が特定されます。たとえば、Deal Size (商談規模) ダッシュ

ボードでは、商談の総収益 (1) が、営業担当が設定した金額よりもどの程度増加するかが予測されます。テーブル (2) では、可能性のある収益の増加が商談ごとに示されます。予測を使用して、最も大きく収益が増加する可能性がある商談にチームの活動の焦点を当てます。



方法: Analytics Studio で **[作成]** をクリックし、**[アプリケーション]** を選択して **[テンプレートから開始]** をクリックします。[Einstein Discovery for Sales Analytics] テンプレートを選択します。ウィザードに従って残りの手順を進めます。

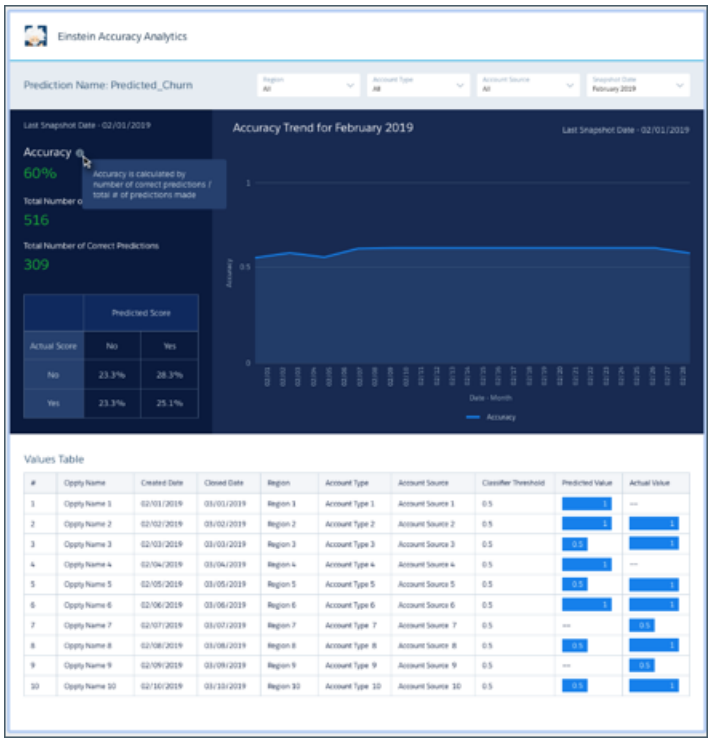
Accuracy Analytics テンプレートを使用した Einstein Discovery 予測の精度向上

Einstein Discovery からのインサイトをすばやく調整する方法をお探しですか? Einstein Accuracy Analytics テンプレートを使用して、Einstein Discovery ストーリーからの予測の精度を分析し、向上してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Einstein Accuracy Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Growth ライセンスが必要です。

方法: Analytics Studio で **[モデルマネージャ]** に移動し、分析するモデルを選択して **[精度を分析]** ボタンをクリックします。画面の説明に従って、モデルの以前の予測の精度を評価するダッシュボードを開きます。



管理パッケージをインストールせずに Einstein Adoption Analytics アプリケーションの最新バージョンを作成する方法

標準の Analytics アプリケーション作成プロセスに続いて、Adoption Analytics テンプレートからアプリケーションを作成します。管理パッケージをダウンロードして設定しなくても、Analytics アセットのメタデータを抽出できます。チームによる Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットの使用状況を測定するアプリケーションを数クリックで作成できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Analytics Adoption テンプレートからアプリケーションを作成するには、Einstein Analytics Growth または Einstein Analytics Plus ライセンスが必要です。

理由: Adoption Analytics アプリケーションは、チームが Analytics アセットをどのように使用しているかに関する既成のインサイトを提供します。このアプリケーションは、各メンバーが Analytics アセット (アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズ) をどのように使用しているかを示します。さらに、アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズを、データを取得したデータセットに対応付けることで、アプリケーションのアセットがどのようにデータセットを使用しているかを示します。

方法: Analytics Studio で [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。アプリケーションを初めて作成する場合は、Adoption Analytics テンプレートを選択します。ウィザードに従って残りの手順を進めます。

すでにアプリケーションを作成してある場合は、アプリケーションのホームページにある [新しいバージョンをご利用いただけます] のリンクをクリックして、ウィザードの指示に従います。ウィザードの3ページ目で、

現在のアプリケーションをアップグレードするか、新しいアプリケーションを作成するかを選択できます。アップグレードを選択すると、Analytics は Analytics Adoption の使用状況を追跡するための WaveChangeEA データセットに履歴ログデータを記録します。新規作成を選択すると、現在のアプリケーションはそのまま残り、新しいアプリケーションが作成されます。新しいアプリケーションは、作成時からのログデータを収集して、これからのアセットの使用状況に基づいてログを更新します。

Analytics アプリケーション構築: 合計と小計、ディメンション数式、アセットバージョン履歴

合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。数式では、SAQL を記述することなく、文字列値を使用したラベルの作成、単純なバケットの設定、または画像URLの追加がサポートされるようになりました。Einstein Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのスナップショットを保存します。

このセクションの内容:

テーブルへの総計および小計の表示 (ベータ)

合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。以前は列をテーブルに追加して、この計算を自分で実行する必要がありました。数回クリックするだけで総計と小計を追加または削除できるようになりました。

中点グラフを使用した総計値と定性的ベンチマークの比較

中点グラフは現在の収益と目標収益など、目標に対して値を測定します。たとえば、各リードソースの収益を商談のセットの目標収益と比較して表示できます。

比較テーブル列エディタの数式に文字列値を使用

SAQL エディタを使用せずに、文字列値を含む数式を作成します。エクスプローラの比較テーブル数式エディタで直接、単純なステートメントを記述できるようになりました。文字列値を使用して、表示ラベルを作成したり、ディメンション値を連結したり、単純なバケットを指定したり、画像 URL を追加したりします。

計算ディメンションへの条件付き書式の適用

テーブルやグラフで条件付き書式を適用するときに、計算ディメンションを選択します。エクスプローラの [フォーマッティング] パネルで、条件付き書式の値として任意の文字列を追加します。データセットで使用可能な値に制限されなくなりました。

すべてのグラフとテーブルで数値を書式設定

エクスプローラでオンデマンドの数値書式設定を使用できるようになりました。グラフとテーブルの各基準項目に数値形式を割り当てることができます。また、数値形式を削除したり、データセットで使用されている形式に戻したりすることもできます。

データセットなしでの Salesforce データの直接調査

Einstein Analytics Salesforce Direct を使用すると、ダッシュボードデザイナから直接 Salesforce オブジェクトを調査できます。Salesforce データをデータセットに読み込むために、事前に複製を用意したり、データの準備を完了させたりする必要はなくなりました。Salesforce Direct では、UI を使用してデータを宣言的に調査したり、Salesforce オブジェクトクエリ言語 (SOQL) を使用してカスタムクエリを作成したりすることで、ほぼリアルタイムのインサイトを取得できます。

Einstein Analytics の Classic デザイナの廃止

Classic デザイナは、2019 年 11 月にすべての Salesforce 組織で廃止される予定です。Winter '20 以降、Classic デザイナでダッシュボードを作成、編集、開くことはできなくなります。今すぐ Classic デザイナダッシュボードを新しいダッシュボードデザイナに変換してください。

ダッシュボード内のステップをクエリに名前変更

クエリ (旧称「ステップ」) は、データセット、Salesforce オブジェクト、ユーザ定義データ、外部データなど、1 つ以上のデータソースからデータを取得します。クエリの結果は、さまざまな形式 (テーブルやグラフなど) で表示したり、他のクエリへの入力として使用したりできます。お客様のフィードバックに基づいて名前を変更しましたが、プロセスとワークフローは変更されていません。

ユーザ定義値を使用したカスタムクエリの作成

カスタムクエリ (旧名称は静的ステップ) の作成と編集がダッシュボードで簡単にできるようになりました。カスタムクエリは、ダッシュボードのウィジェット間のインタラクションを作成する強力なツールです。クエリに使用するデータセットと項目を手動で入力する代わりにリストから選択できるようになりました。入力ミスがなくなり、API 参照名を覚える必要もありません。クエリの編集、クエリ名の変更、列の追加および削除、行値の追加、列の並べ替え、データセットからの値の選択といった作業を、すべて JSON に切り替えずに行うことができます。

ダッシュボードデザイナでカスタムオンボーディング動画のプレビュー

アプリケーションを構築することと、ユーザにアプリケーションの使用方法をトレーニングすることは別物です。ウィジェットレベルのオンボーディングにより、トレーニング用の学習教材をすぐに目に付く場所に配置してユーザをエンゲージさせ、結果的に採用を促進します。ダッシュボードウィジェットに [詳細] アクションを追加すると、ダッシュボードユーザに提供する予定の動画をプレビューできるようになりました。

SAQL での rollup 修飾子と grouping() 関数を使用した総計と小計の計算

`group by` ステートメントで `rollup` 修飾子を使用して、SAQL クエリでグループ化したデータの小計を計算した後、`grouping()` を使用して小計データを操作します。たとえば、種別とリードソース別に商談の小計金額を表示するには、種別グループとリードソースグループを積み上げ集計します。次に grouping 関数を使用して、小計に表示ラベルを付けます。

アセットバージョン履歴を使用した Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのバックアップ作成と復元

アセットバージョン履歴は、Einstein Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのスナップショットを自動的に保存します。アセットを保存するときに、条件付き書式を含むアセットのスナップショットが保持されます。[保存] ダイアログボックスで、ダッシュボードまたはレンズのスナップショットの説明を入力することもできます。また、テンプレートからアプリケーションを作成するときや、アプリケーションを新しいバージョンにアップグレードするときも、Einstein Analytics によりスナップショットが保存されます。REST API コールを使用して、説明を追加または変更し、アセットの以前のバージョンの JSON をプレビューし、アセットを以前のバージョンに戻します。

Analytics Web SDK を使用した保存済みビューの表示と取得、および複数のクエリの実行

Analytics Web SDK を使用して、ダッシュボードの保存済みビューを表示および取得し、Lightning コンポーネントで複数のクエリを実行できるようになりました。

Analytics Web SDK を使用したダッシュボードの状態の取得と設定

保存済みビューの値と同じように、wave:waveDashboard コンポーネントで getState および setState をコールして、ダッシュボードの状態を取得および設定できるようになりました。また、isLoaded をコールしてダッシュボードの読み込みが完了したかどうかを判断することもできます。

Analytics テンプレート SDK の機能を Lightning コンポーネントに追加

Lightning コンポーネントから Analytics テンプレート SDK をコールして、このテンプレートとフォルダの REST API コールで実行できる多くの同じタスクを実行します。使用可能なテンプレートのリストの表示、テンプレートに関する情報の取得、テンプレートからのフォルダの作成ができます。また、使用可能なフォルダのリストの表示、フォルダのメタデータの更新、フォルダのアップグレード、リセット、削除もできます。

CDN の有効化による Einstein Analytics の読み込みの高速化

Lightning コンポーネントフレームワークの静的コンテンツを提供する Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を有効にして、Einstein Analytics やその他の Lightning Experience アプリケーションの読み込みを高速化します。一般に、CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、静的コンテンツのページの読み込み時間が短縮されます。ユーザが Winter '20 よりも前に組織で CDN を有効化している場合、Einstein Analytics アセットでは CDN が自動的に使用されます。この設定は既存の組織ではデフォルトで無効化され、新しい組織ではデフォルトで有効化されます。

テーブルへの総計および小計の表示 (ベータ)

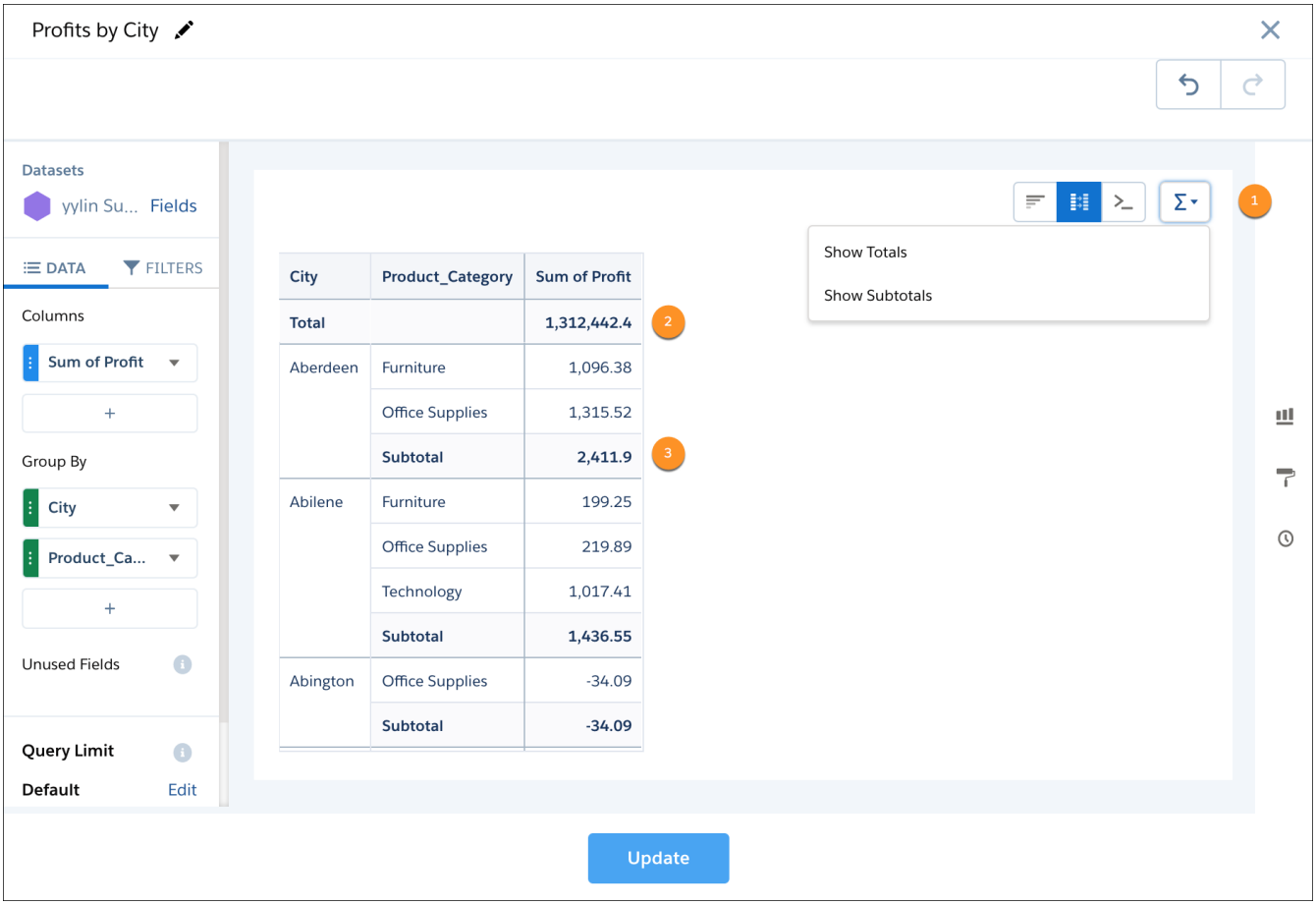
合計と小計を値に直接追加し、ダッシュボードとレンズのテーブルを比較できます。以前は列をテーブルに追加して、この計算を自分で実行する必要がありました。数回クリックするだけで総計と小計を追加または削除できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: 合計および小計はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

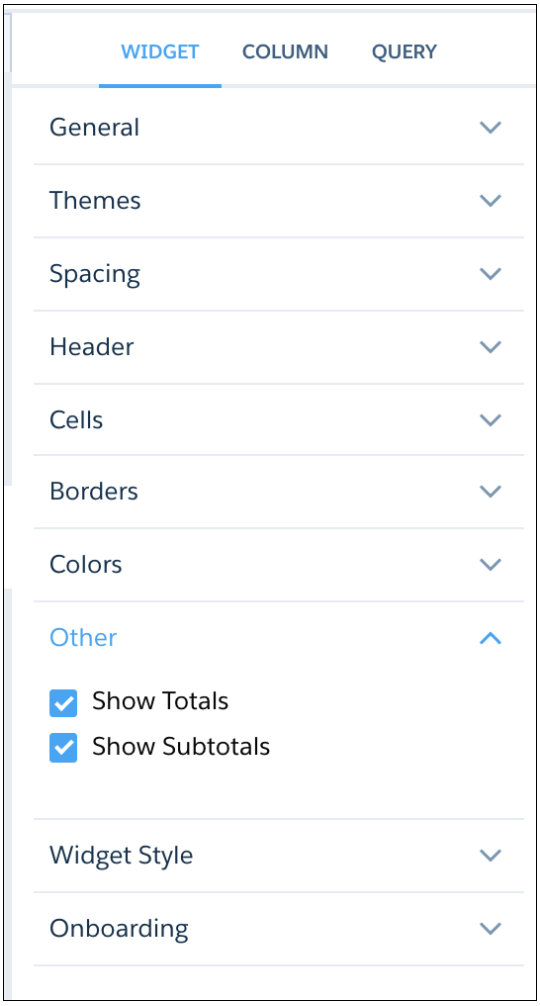
方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*分析*」と入力し、[設定] を選択します。**[Einstein Analytics テーブルの小計を有効化]** を選択してこの機能を使用します。

をクリックすると、テーブルエディタの合計と小計が追加されるか非表示になります (1)。合計はテーブルの最上部 (2) に行として追加され、小計は各グループのすぐ下 (3) に行として追加されます。小計を表示するには、データセットに 2 つ以上のグループが必要です。



City	Product_Category	Sum of Profit
Total		**1,312,442.4**
Aberdeen	Furniture	1,096.38
	Office Supplies	1,315.52
	Subtotal	**2,411.9**
Abilene	Furniture	199.25
	Office Supplies	219.89
	Technology	1,017.41
	Subtotal	**1,436.55**
Abington	Office Supplies	-34.09
	Subtotal	**-34.09**

ウィジェットプロパティパネルでも合計と小計を表示または非表示にすることができます。

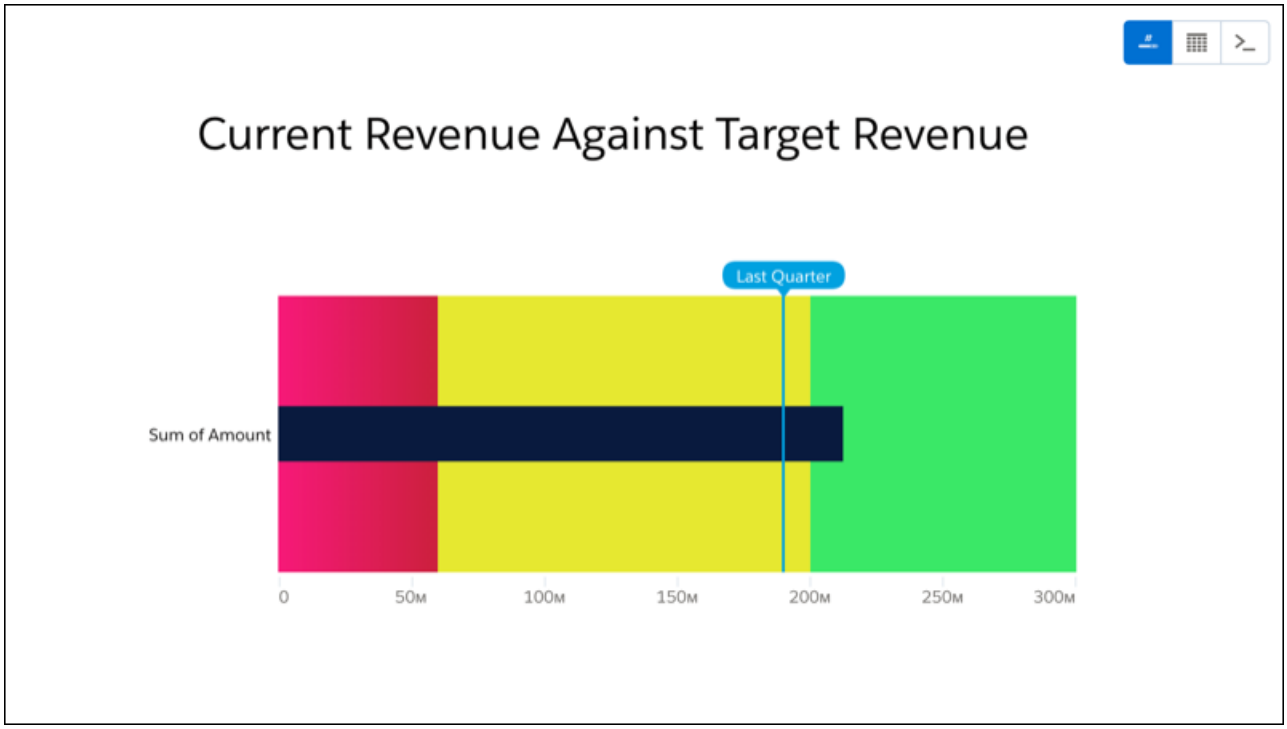


中点グラフを使用した総計値と定性的ベンチマークの比較

中点グラフは現在の収益と目標収益など、目標に対して値を測定します。たとえば、各リードソースの収益を商談のセットの目標収益と比較して表示できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 背景のバーは目標収益を表し、四半期のパフォーマンスを表す 3 つのセクションに分かれています。赤は「悪い」、黄色は「まずまず」、緑は「良い」です。黒いバー (中点とも呼ばれる) は現在の収益を表します。青の基準線は前四半期の収益をマークします。

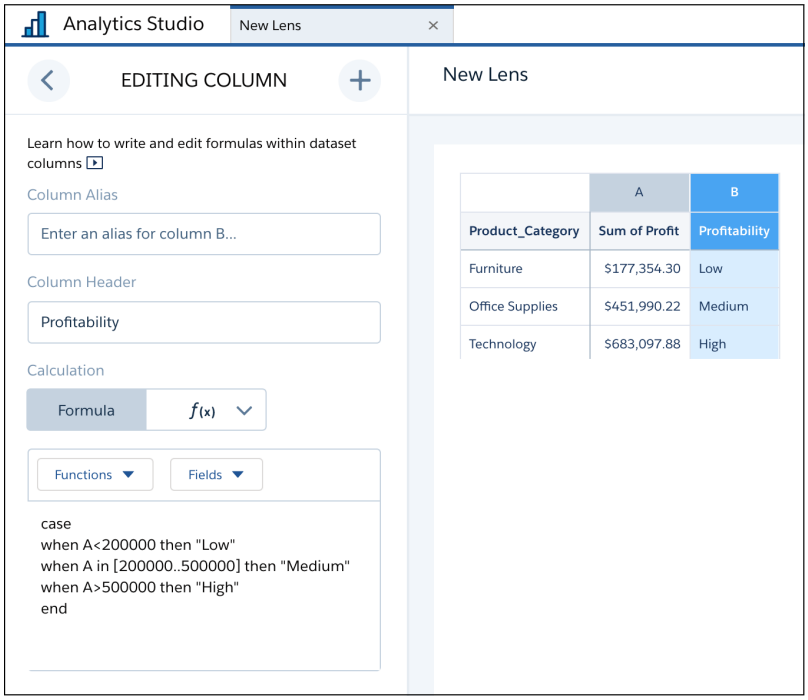


比較テーブル列エディタの数式に文字列値を使用

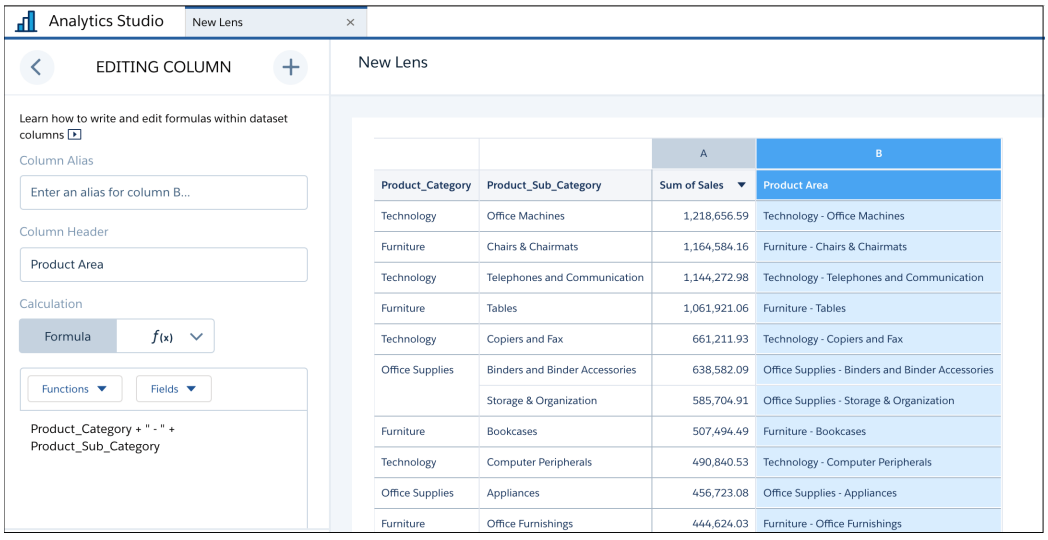
SAQL エディタを使用せずに、文字列値を含む数式を作成します。エクスプローラの比較テーブル数式エディタで直接、単純なステートメントを記述できるようになりました。文字列値を使用して、表示ラベルを作成したり、ディメンション値を連結したり、単純なバケットを指定したり、画像 URL を追加したりします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

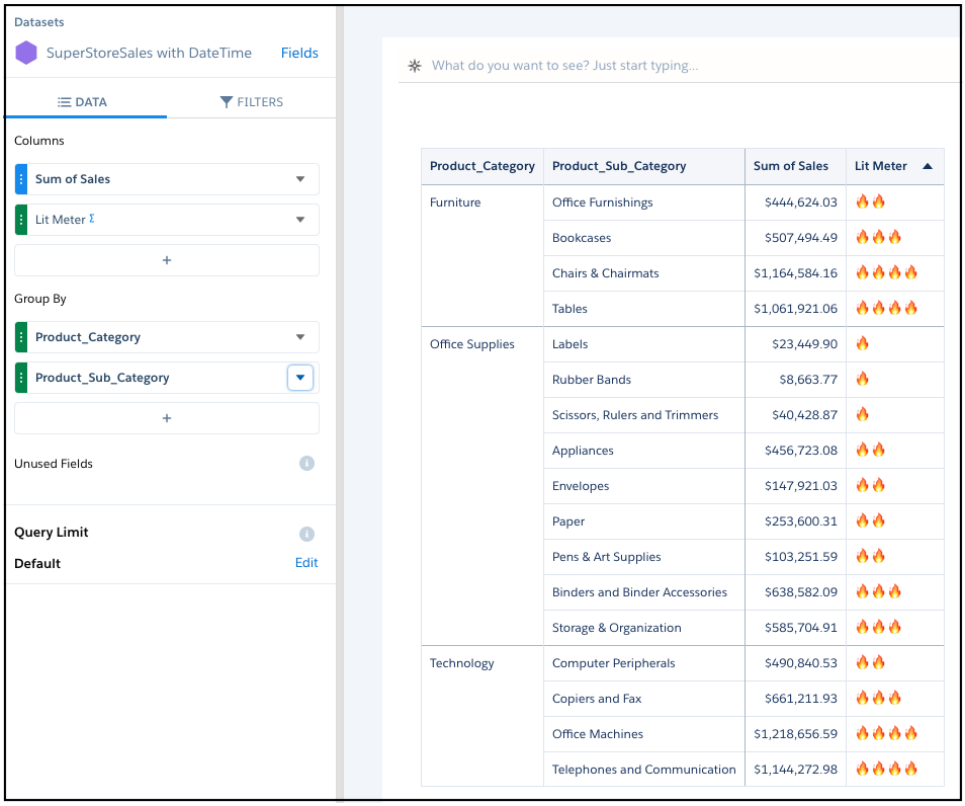
方法: 列を編集し、文字列数式を入力します。この例では、数式で単純なバケットを作成します。



この数式は、2 つのディメンション項目を連結します。



このテーブルの [Lit Meter] 列には、アイコン数を返す文字列数式があります。



ヒント: 文字列数式に基づく列は、グラフでグルーピングのディメンションとして使用できませんが、条件付き書式を適用するために使用することができます。

関連トピック:

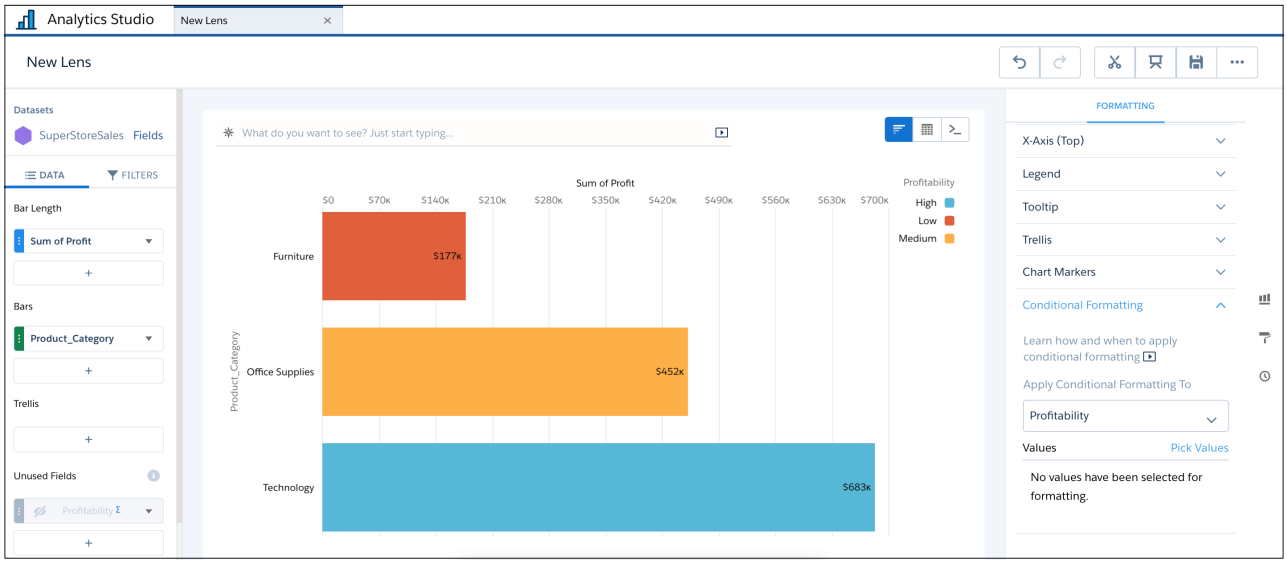
計算ディメンションへの条件付き書式の適用

計算ディメンションへの条件付き書式の適用

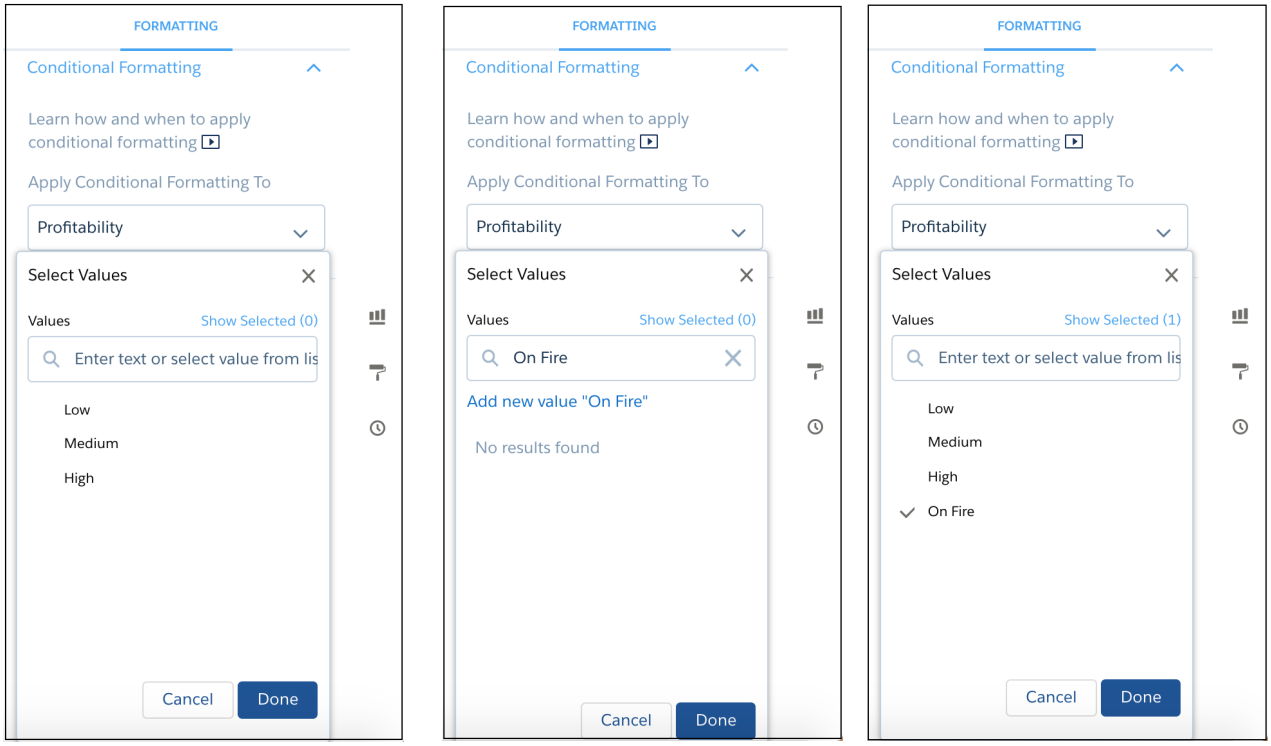
テーブルやグラフで条件付き書式を適用するときに、計算ディメンションを選択します。エクスプローラの [フォーマッティング] パネルで、条件付き書式の値として任意の文字列を追加します。データセットで使用可能な値に制限されなくなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [フォーマッティング] パネルの [条件付き書式] セクションで、計算ディメンションを選択し、[値を選択] をクリックします。



カスタム文字列値を入力し、クリックして [値を選択] リストに追加します。



関連トピック:

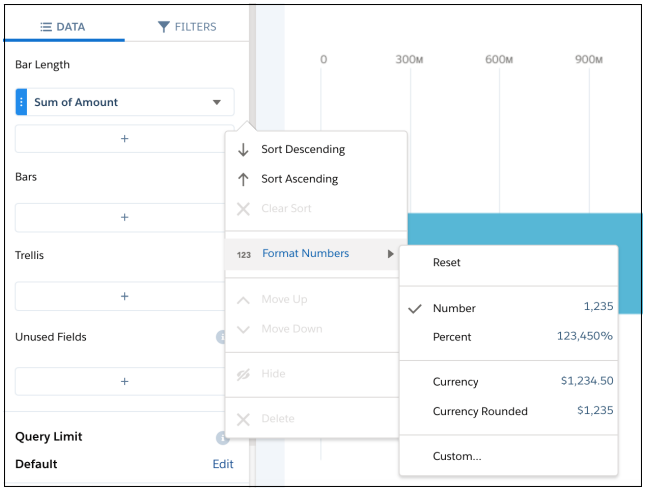
比較テーブル列エディタの数式に文字列値を使用

すべてのグラフとテーブルで数値を書式設定

エクスプローラでオンデマンドの数値書式設定を使用できるようになりました。グラフとテーブルの各基準項目に数値形式を割り当てることができます。また、数値形式を削除したり、データセットで使用されている形式に戻したりすることもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 項目メニューで新しい [数値を書式設定] オプションを選択し、形式を選択します。現在の形式がデータセットの項目の形式と異なる場合は、サブメニューに [リセット] オプションが表示されます。これらのオプションは、比較テーブル列エディタでも使用できます。



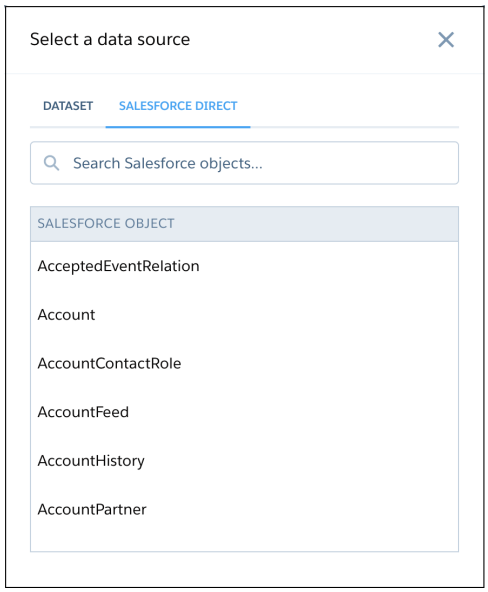
カスタム形式を割り当てるには、[カスタム] を選択します。

データセットなしでの Salesforce データの直接調査

Einstein Analytics Salesforce Direct を使用すると、ダッシュボードデザイナから直接 Salesforce オブジェクトを調査できます。Salesforce データをデータセットに読み込むために、事前に複製を用意したり、データの準備を完了させたりする必要はなくなりました。Salesforce Direct では、UI を使用してデータを宣言的に調査したり、Salesforce オブジェクトクエリ言語(SOQL)を使用してカスタムクエリを作成したりすることで、ほぼリアルタイムのインサイトを取得できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードデザイナで [クエリを作成] をクリックし、[Salesforce Direct] タブを選択します。オブジェクトを選択すると、ダッシュボードデザイナのエクスプローラが開き、オブジェクトのデータが表示され、調査が可能になります。



重要: Salesforce Direct ウィジェットは自動的には更新されませんが、ダッシュボードを更新すると更新されます。

次の点を考慮してください。

- 最高のパフォーマンスを得るには、データが頻繁に変化して、スケジュール済みデータフローでは変化の頻度に追いつけないような場合にのみ、Salesforce Direct を使用してください。多くのレコードが入った Salesforce オブジェクトに対してクエリを実行すると、長い時間がかかることがあります。検索条件を使用して、クエリ対象となるデータを制限してください。たとえば、すべてのオープンケースではなく、特定の期間にオープンになったケースに対してのみクエリを実行します。
- Salesforce Direct はダッシュボードデザイナでのみアクセスできます。Salesforce Direct ウィジェットをダッシュボードに追加したら、ウィジェットのドロップダウンから [調査] を選択すると、Salesforce Direct の調査デー

タが新しいタブに表示されます。ただし、Salesforce Direct レンズにカスタムクエリを保存することはできません。

- エクスプローラでは、テーブルの比較、テーブルの合計と小計、対話形式のクエリ、推奨グラフ、レコードアクション、毎時、毎分、毎秒データへのドリルイン、集計基準や Boolean 論理に基づいた検索条件の適用は使用できません。
- ダッシュボードデザイナでは、グラフ、数字、およびテーブルウィジェットのみがサポートされます。クエリパネルの sObject からのクエリの作成 ([+] ボタン)、SOQL クエリ間でのブロードキャストやファセット、データソースのリンク、レコードアクション、グローバル検索条件は使用できません。
- Salesforce Direct ウィジェットでは、CSV や Excel としてのダウンロードや、Quip へのエクスポートは使用できません。
- Salesforce Direct ウィジェットでは、アノテーションの追加、通知の設定、登録のアクションは使用できません。
- Analytics API コールの上限が Salesforce Direct にも適用されます。
- Salesforce Direct クエリは、ユーザコンテキストで実行され、現在のユーザの権限、項目レベルセキュリティ、および共有ルールが適用されます。

Einstein Analytics の Classic デザイナの廃止

Classic デザイナは、2019 年 11 月にすべての Salesforce 組織で廃止される予定です。Winter '20 以降、Classic デザイナでダッシュボードを作成、編集、開くことはできなくなります。今すぐ Classic デザイナダッシュボードを新しいダッシュボードデザイナに変換してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

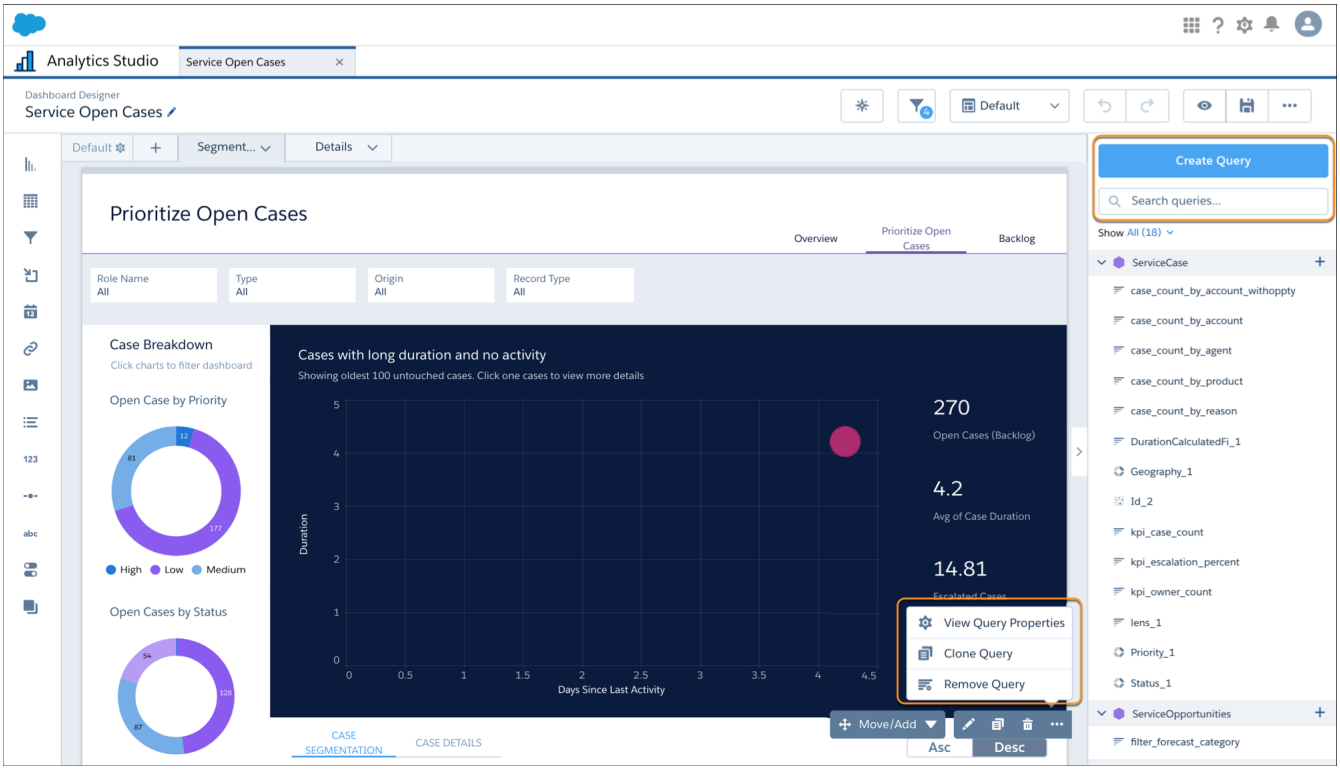
Salesforce ヘルプ: Classic Designer ダッシュボードのダッシュボードデザイナへの変換 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ダッシュボード内のステップをクエリに名前変更

クエリ (旧称「ステップ」) は、データセット、Salesforce オブジェクト、ユーザ定義データ、外部データなど、1 つ以上のデータソースからデータを取得します。クエリの結果は、さまざまな形式 (テーブルやグラフなど) で表示したり、他のクエリへの入力として使用したりできます。お客様のフィードバックに基づいて名前を変更しましたが、プロセスとワークフローは変更されていません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:名前変更を反映するように、ドキュメントと、ダッシュボードデザイナおよびエクスプローラを含む Einstein Analytics 製品全体を更新しました。



製品全体の主な名前変更を次に示します。

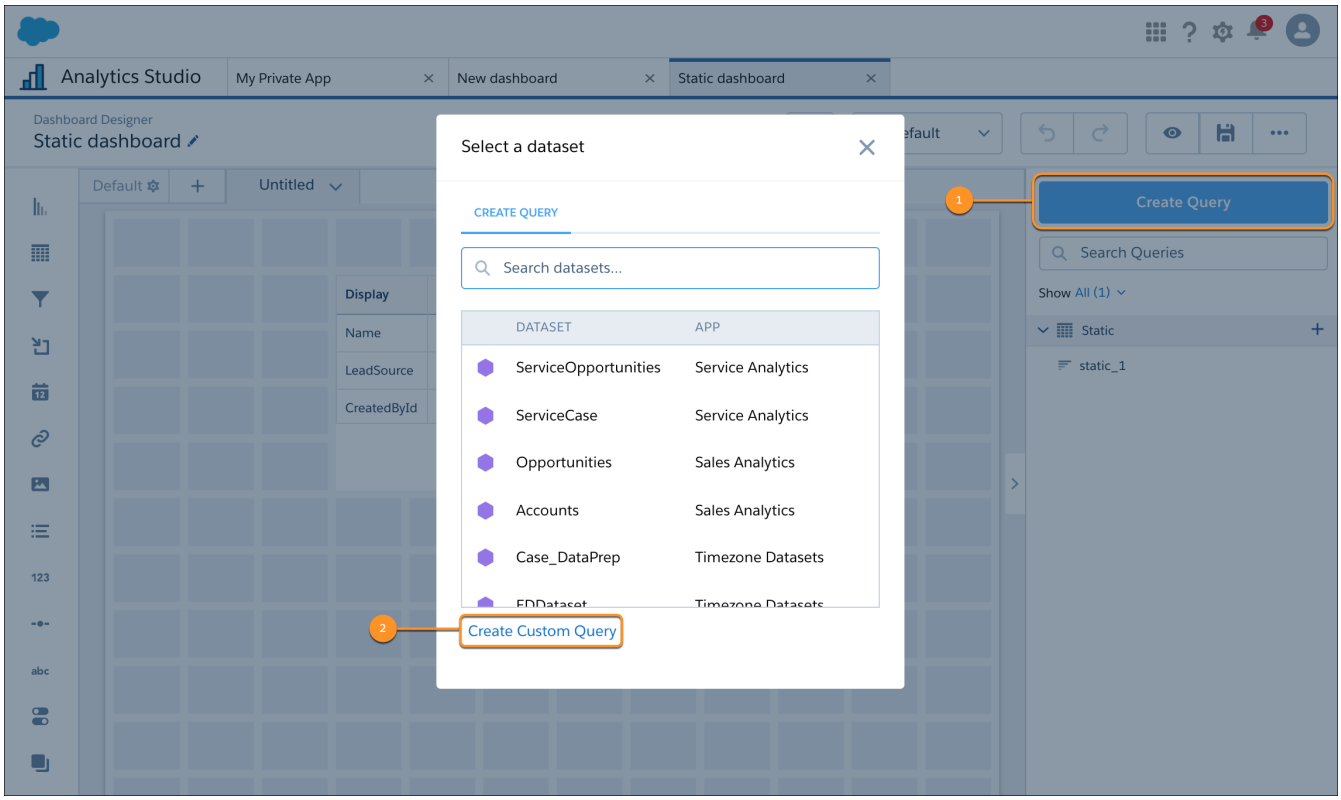
以前の名称	新しい名称
ステップ	クエリ
静的ステップ	カスタムクエリ
クエリステップ	クエリ

ユーザ定義値を使用したカスタムクエリの作成

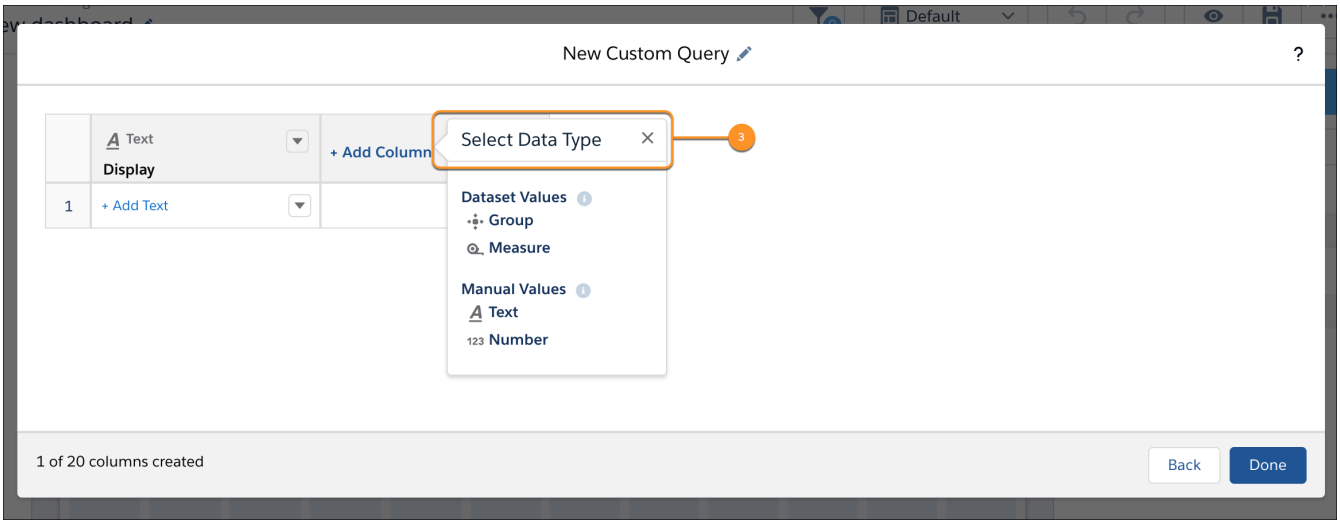
カスタムクエリ(旧名称は静的ステップ)の作成と編集がダッシュボードで簡単にできるようになりました。カスタムクエリは、ダッシュボードのウィジェット間のインタラクションを作成する強力なツールです。クエリに使用するデータセットと項目を手動で入力する代わりにリストから選択できるようになりました。入力ミスがなくなり、API 参照名を覚える必要もありません。クエリの編集、クエリ名の変更、列の追加および削除、行値の追加、列の並べ替え、データセットからの値の選択といった作業を、すべて JSON に切り替えずに行うことができます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:カスタムクエリを作成するには、[クエリを作成]をクリックします(1)。[カスタムクエリを作成]をクリックします (2)。



カスタムクエリにディメンション、測定、テキスト、数値を追加します (3)。



メモ: カスタムクエリをリンクに使用するには、ダイアログで列を最初の列に設定します。

関連トピック:

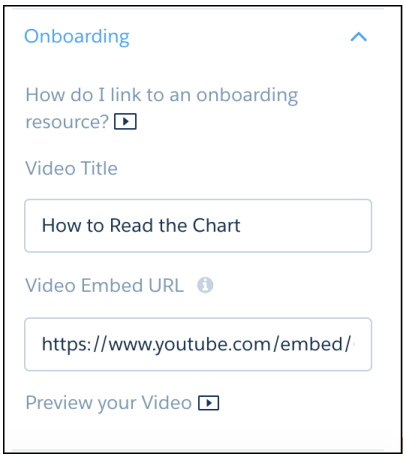
Salesforce ヘルプ:ユーザ定義値を使用するカスタムクエリの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ダッシュボードデザイナでカスタムオンボーディング動画のプレビュー

アプリケーションを構築することと、ユーザにアプリケーションの使用方法をトレーニングすることは別物です。ウィジェットレベルのオンボーディングにより、トレーニング用の学習教材をすぐに目に付く場所に配置してユーザをエンゲージさせ、結果的に採用を促進します。ダッシュボードウィジェットに[詳細]アクションを追加すると、ダッシュボードユーザに提供する予定の動画をプレビューできるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: プレビューオプションは、ダッシュボードデザイナで [オンボーディング] プロパティの埋め込み URL を入力すると表示されます。プレーヤーアイコンをクリックして、URL を確認して動画を表示します。



SAQL での `rollup` 修飾子と `grouping()` 関数を使用した総計と小計の計算

`group by` ステートメントで `rollup` 修飾子を使用して、SAQL クエリでグループ化したデータの小計を計算した後、`grouping()` を使用して小計データを操作します。たとえば、種別とリードソース別に商談の小計金額を表示するには、種別グループとリードソースグループを積み上げ集計します。次に grouping 関数を使用して、小計に表示ラベルを付けます。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: SAQL を使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

理由: `rollup` を呼び出すと、null 値のディメンションと、基準の小計結果を含む行がクエリ結果に追加されます。`grouping()` は、上位レベルの集計のために ディメンション値が null の場合 (通常、該当の行が小計であることを示す) は 1 を返し、それ以外の場合は 0 を返します。

`rollup` で `grouping()` を使用すると、小計データを操作できます。一般に、データの小計を計算したら、次に case ステートメントを使用して小計データを論理的に評価するか、filter ステートメントを使用して小計データを絞り込みます。

方法: `rollup` を使用して、商談の小計を種別別に計算した後、リードソース別に計算します。次に `grouping()` を使用して、小計行に表示ラベルを付けます。

小計を計算するには、ダッシュボードで SAQL エディタを開きます。項目別にデータをグループ化する代わりに、`rollup()` 修飾子をグループとして指定し、項目を小計にパラメータとして渡します (`Type` と `LeadSource`)。`q = group q by rollup('Type', 'LeadSource');` と設定します。次に、完全なクエリを示します。

```
q = load "opportunityData";
q = group q by rollup('Type', 'LeadSource');
q = order q by ('Type', 'LeadSource');
q = foreach q generate
    'Type' as 'Type',
    'LeadSource' as 'LeadSource',
    sum('Amount') as 'sum_Amount';
```

クエリ結果には、商談種別別の総額が表示され、続いてリードソース別の総額が表示されます。小計行と総計行の基準には null 値が含まれます。

Type	LeadSource	Sum of Amount
Existing Business	Advertisement	6,870,000
	Internet	6,660,000
	Partner	9,500,000
	Trade Show	39,860,000
	Word of mouth	23,400,000
	-	86,290,000
New Business	Advertisement	87,760,000
	Partner	6,750,000
	Trade Show	7,200,000
	Word of mouth	24,310,000
	-	126,020,000
-	-	212,310,000

表示ラベル付き合計の代わりに null 値が使用されていると、クエリ結果が混乱する可能性があります。この混乱を回避するため、`grouping()` 関数で case ステートメントを使用して、合計に「`All Types (全種別)`」または「`All Lead Sources (全リードソース)`」の表示ラベルを付けます。

```
q = load "opportunityData";
q = group q by rollup('Type', 'LeadSource');
q = order q by ('Type', 'LeadSource');
q = foreach q generate
    (case
        when grouping('Type') == 1 then "All Types"
        else 'Type'
    end) as 'Type',
    (case
        when grouping('LeadSource') == 1 then "All Lead Sources"
        else 'LeadSource'
    end) as 'LeadSource',
    sum('Amount') as 'sum_Amount';
```

これでクエリ結果に表示ラベル付き合計が含まれます。

Type	LeadSource	Sum of Amount
Existing Business	Advertisement	6,870,000
	Internet	6,660,000
	Partner	9,500,000
	Trade Show	39,860,000
	Word of mouth	23,400,000
	All Lead Sour...	86,290,000
New Business	Advertisement	87,760,000
	Partner	6,750,000
	Trade Show	7,200,000
	Word of mouth	24,310,000
	All Lead Sour...	126,020,000
All Types	All Lead Sour...	212,310,000

アセットバージョン履歴を使用した Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのバックアップ作成と復元

アセットバージョン履歴は、Einstein Analytics ダッシュボード、レンズ、およびデータフローのスナップショットを自動的に保存します。アセットを保存するときに、条件付き書式を含むアセットのスナップショットが保持されます。[保存] ダイアログボックスで、ダッシュボードまたはレンズのスナップショットの説明を入力することもできます。また、テンプレートからアプリケーションを作成するときや、アプリケーションを新しいバージョンにアップグレードするときも、Einstein Analytics によりスナップショットが保存されます。REST API コールを使用して、説明を追加または変更し、アセットの以前のバージョンの JSON をプレビューし、アセットを以前のバージョンに戻します。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 保存したバージョンのダッシュボードを表示したり、ダッシュボードを元に戻したりするには、ダッシュボードを編集し、[さらに表示] ボタンをクリックして [バージョン履歴] をクリックします。レンズとデータフローの場合、次の REST API コールを使用します。

ダッシュボード、レンズ、またはデータフローの履歴レコードを取得するには、次の GET コマンドを使用します。

- `GET /services/data/v47.0/wave/dashboards/<dashboardId>/histories`
- `GET /services/data/v46.0/wave/dashboards/<lensId>/histories`
- `GET /services/data/v46.0/wave/dataflows/<dataflowId>/histories`

ダッシュボード、レンズ、またはデータフローを保存するときに、Einstein Analytics により連続する名前がバージョンに割り当てられます。PATCH コマンドを使用して、履歴レコードに説明を追加するか、既存の説明を変更します。

- `PATCH /services/data/v47.0/wave/dashboards/<dashboardId>/histories/<historyId>`
- リクエストボディ: `{"label" : "new description"}`

アセットを元に戻すには、履歴レコードで revertUrl を見つけます。revertUrl の値に対して PUT コマンドを実行します。

- `PUT /services/data/v46.0/wave/dashboards/<dashboardId>/bundle`
- リクエストボディ: `{"historyId": "<historyId>", "historyLabel": "optional description of change"}`

アセットを以前のバージョンに戻すと、実際には以前のバージョンと一致する別のバージョンが作成されます。元に戻したアセットが期待どおりに動作しなくなった場合は、以前のバージョンに戻すことができます。

Analytics Web SDK を使用した保存済みビューの表示と取得、および複数のクエリの実行

Analytics Web SDK を使用して、ダッシュボードの保存済みビューを表示および取得し、Lightning コンポーネントで複数のクエリを実行できるようになりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードの保存済みビューを保存および取得するには、wave:sdk **コンポーネントの** invokeMethod **メソッドを使用して、**listDashboardSavedViews**、**getDashboardInitialSavedView**、および** getDashboardSavedView **をコールします。**

複数のクエリを実行するには、Lightning **コンポーネントで** executeQuery **メソッドを使用することをお勧めします。次のようなコードを使用して** executeQuery **を実行できます。**

```
({
init : function(cmp, event, helper) {
    var sdk = cmp.find('wave-sdk');
    var context = {apiVersion: '47'};

    var methodName = 'executeQuery';
    var methodParameters = {
        'query': 'q = load \"0Fbxx0000004JVUCA2/0Fcxx0000004KZcCAM\"; q = group q by
\'Industry\';'
           + ' q = foreach q generate \'Industry\' as \'Industry\', sum(\'AnnualRevenue\')
 as \'sum_AnnualRevenue\';'
            + ' q = order q by \'Industry\' asc; q = limit q 2000;'
    };

    sdk.invokeMethod(context, methodName, methodParameters, $A.getCallback(function (err,
 data){
        if (err !== null) {
            console.error('executeQuery error', err);
        } else {
            var result = data;

            var obj = JSON.parse(result);

            var results = obj.results;
            var records = results.records;

            cmp.set('v.recordsList', records);
            cmp.set('v.queryResult', JSON.stringify(records));
        }
    }))
}
})
```

methodParameters **のクエリは、**/wave/query **への** REST API **コールの** SAQL **クエリと同じ構文を使用します。**

Analytics Web SDK を使用したダッシュボードの状態の取得と設定

保存済みビューの値と同じように、wave:waveDashboard **コンポーネントで** getState **および** setState **をコールして、ダッシュボードの状態を取得および設定できるようになりました。また、**isLoaded **をコールしてダッシュボードの読み込みが完了したかどうかを判断することもできます。**

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Einstein Analytics **に適用されます。**Einstein Analytics **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法: getState **へのコールは、**pageId **属性で現在のページの** ID**、**state **属性で現在のダッシュボードの状態を返します。ペイロードを** JSON **文字列にクリーンに変換するには、**`JSON.stringify(res.payload, null, 4)` **または類似の関数を使用します。**

```
getState : function(component, event, helper) {
    let dashboard = component.find('myDashboard');
    let config = {};

    dashboard.getState(config, function(res, err) {
        if (err) {
            component.set('v.gserrMessage', err);
        }
        if (res) {
            component.set('v.dashboardState', JSON.stringify(res.payload, null, 4));
        }
    });
}
```

config **では** state **属性は必須ですが、**pageId **属性は必須ではありません。現在、**setState **はコールバックに何も返しません。**

```
setState: function(component, event, helper) {
    let dashboard = component.find('myDashboard');
    let config = {
        "pageId":"Public_Page",
        "state": {
          "datasets": {},
          "steps": {
            "LeadSource_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["LeadSource"]}},
            "CloseDate_Year_Close_1": {"values": [],"metadata": {
                "groups": ["CloseDate_Year~~~CloseDate_Month~~~CloseDate_Day"]}},
            "StageName_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["StageName"]}},
            "Amount_1": {"values": [],"metadata": {"groups": []}},
            "Type_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["Type"]}},
            "Category_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["Category"]}},
            "all_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["StageName"]}},
            "all_2": {"values": [],"metadata": {"groups": []}},
            "Id_1": {"values": [],"metadata": {"groups": ["Id"]}}
          }
        }
    };

    dashboard.setState(config, function(res, err) {
    });
}
```

isLoaded **属性は、ダッシュボードが読み込まれている間は** false **で、読み込みが完了すると** true **になります。**

Analytics テンプレート SDK の機能を Lightning コンポーネントに追加

Lightning **コンポーネントから** Analytics **テンプレート** SDK **をコールして、このテンプレートとフォルダの** REST API **コールで実行できる多くの同じタスクを実行します。使用可能なテンプレートのリストの表示、テンプレートに関する情報の取得、テンプレートからのフォルダの作成ができます。また、使用可能なフォルダのリストの表示、フォルダのメタデータの更新、フォルダのアップグレード、リセット、削除もできます。**

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: この SDK をコールするには、sdk.invokeMethod を使用してメソッドとパラメータを指定します。

```
sdk.invokeMethod(context, methodName, methodParameters, callback)
```

CDN の有効化による Einstein Analytics の読み込みの高速化

Lightning コンポーネントフレームワークの静的コンテンツを提供する Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を有効にして、Einstein Analytics やその他の Lightning Experience アプリケーションの読み込みを高速化します。一般に、CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、静的コンテンツのページの読み込み時間が短縮されます。ユーザが Winter '20 よりも前に組織で CDN を有効化している場合、Einstein Analytics アセットでは CDN が自動的に使用されます。この設定は既存の組織ではデフォルトで無効化され、新しい組織ではデフォルトで有効化されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: CDN を有効化するには、[設定] から［クイック検索］ボックスに「セッション」と入力し、[セッションの設定] を選択します。**[Lightning コンポーネントフレームワークのコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を有効化]** をオンにして、[保存] をクリックします。この設定により、Lightning コンポーネントフレームワークの静的コンテンツの CDN 配信が有効になります。CDN では、組織のデータまたはメタデータは配信されません。

問題が発生した場合は、会社のファイアウォールで Akamai CDN コンテンツがブロックされていないかどうかを IT 部門に問い合わせてください。会社で Salesforce から提供されるコンテンツの IP 範囲を制限している場合、この設定を有効にする前に徹底的にテストします。

Einstein Discovery: コード不要モデルのリリース、勾配ブースティング、ライブ予測モニタリング

コードを使用せずに、選択した Salesforce 項目にスコアを自動的に書き込みます。勾配ブースティングアルゴリズムのメリットをモデルで活用します。ライブ予測モニタリングを使用してモデルを調整し、予測精度を高めます。

このセクションの内容:

コードを記述せずに予測を Salesforce レコードにリリース (正式リリース)
コードを使用せずに、選択した Salesforce 項目に予測スコアを自動的に書き込むことができます。プロセスビルダーや管理パッケージをトリガに関連付けることなく予測を容易に統合します。

2 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)
以前は、結果を予測するのに、Einstein Discovery は回帰モデルに依存していましたが、*勾配ブースティング* Einstein Discovery に学習アルゴリズムと呼ばれる予測最適化アプローチに基づく 2 番目のモデル種別が追加されるようになりました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery は両種別のモデルを使用して予測を生成し、パフォーマンスがより優れたモデルの結果を表示します。両方のアプローチから最も優れた結果を取得します。

リリース済みモデルの精度のリアルタイムでの監視 (正式リリース)

予測結果と実際の結果を視覚的に比較して、ロジスティックモデルの精度を判断します。次に、このフィードバックを使用して、モデルを調整し、予測を改善します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として注文の発送日があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによって Einstein Discovery はパフォーマンス分析に含める結果を識別できます。

総計値を比較してモデルを改善

モデル総計値では、複数のモデルの総計値を横に並べて表示できるようになりました。モデル総計値を互いに比較します。区分を比較して、各区分で最も重要な変数を明らかにします。この情報を使用してモデルを改善し、予測精度を高めます。

対象しきい値を使用したモデルの精度の改善

カテゴリ項目のモデルを作成するときに、予測する 2 つのバケットのカットオフを表す最適なしきい値を設定できます。たとえば、偽陽性と偽陰性のコスト比率を指定できます。次に、ストーリーに関連付けられたビジネスケース用に最適化されたしきい値を Einstein Discovery に特定させます。しきい値は、真陽性率と偽陽性率のトレードオフを表します。

自動設定でストーリー作成の迅速化

ストーリーの目標について分析するために最適なデータを Einstein Discovery に選択させます。Einstein Discovery はデータベースを検索し、結果に相関する列を選択し、相関しない列を除外します。ストーリーが作成された後に、列の選択を手動で変更できます。

経時的な精度の分析による予測の改善

モデルが実際の結果をどれほど正確に予測しているかを監視し、このフィードバックを使用してモデルを調整して予測を改善できるようになりました。予測の精度は、ロジスティック回帰と線形回帰の両方で監視できます。

残差プロットグラフによるモデルパフォーマンスの視覚化

結果変数がテキスト項目であるロジスティック回帰モデルでは、新しい残差プロットグラフでモデルの堅牢性を示します。*残差*は、モデルの予測値と実際の結果値の差を表します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として、顧客が受け取った出荷物内の品数があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによって Einstein Discovery はプロットグラフに含める結果を識別できます。

モデルからバイアスがかかった変数の除去

バイアスがかかっているデータで構築されたモデルからは、バイアスがかかった予測が生成される可能性があります。異種影響はその一例であり、初任給での男女間格差など特定のデモグラフィックに対する差別的慣行がデータに反映されます。Einstein Discovery は、モデル内で不平等な扱いを受けている変数について警告します。より倫理的で説明可能なモデルを生成するために、予測から異種影響のバイアスを取り除くことができます。

説明のみのインサイトのストーリー作成の迅速化

データから得たい情報が [何が起きたか] インサイトのみの場合、データセットの予測分析をスキップできます。Einstein Discovery が予測と改善を生成しないので、ストーリー作成は短時間で行われます。ストーリーが作成された後に気が変わった場合は、予測分析を手動で追加できます。

データセットの更新でストーリーを更新

ソースデータセットのデータが変更されると、ストーリーが作成されたときに取得したスナップショットの代わりに更新されたデータの分析を選択できるようなりました。ストーリーを開くと、列または行に変更があった場合は Einstein Discovery がそれを通知します。以前は、ストーリーはデータの元のスナップショットに常に固定されていました。

Einstein データインサイトで処理可能なレポートデータの増加

Einstein データインサイトの制限が緩和されました。最大 500,000 行、50 列のデータを含むレポートからインサイトを作成できるようになりました。さらに、1 組織につき 1 日最大 1,000 個の Einstein データインサイト分析を作成できます。

述語が設定されたデータセットを使用したストーリーの作成

Einstein Discovery では、行レベルのセキュリティ述語と Salesforce 共有継承に関連付けられた共有ルールを使用して Einstein Analytics データセットを分析できるようになりました。ストーリーの結果は、ストーリーにアクセスできるすべてのユーザに表示されます。ストーリー作成者と同じ行レベルのアクセス権を持っている必要はありません。以前は、「データセットからストーリーを作成する場合に述語を無視」権限が必要でした。これは、Winter '20 リリースで非推奨になりました。

Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示

任意の Lightning コミュニティページで Einstein Discovery 予測を標準コンポーネントとして追加します。コミュニティビルダーで、新しい Einstein 予測コンポーネントをコミュニティページにドラッグします。次に、予測定義の選択、予測単位の設定、表示設定の選択を行います。コミュニティページでは、予測はリアルタイムに更新され、Salesforce に書き戻す必要はありません。

Lightning Experience レコードページでの Einstein Discovery 予測の表示方法のカスタマイズ

Lightning Experience レコードページで、Einstein Discovery 予測の表示方法をカスタマイズします。ロジスティック回帰モデル (バイナリ分類問題) の場合は、予測がモデルのしきい値より高い、または低い場合の表示ラベルを指定します。例:成立または不成立、維持または離脱、等。プロジェクトの改善方法に関する検索条件の推奨事項。推奨事項の最大数を設定するか、結果への影響が最小パーセントである推奨事項を表示します。

Apex コードでの Einstein 予測の取得

Einstein Discovery でモデルをリリースしたら、Apex コードで `ConnectApi.SmartDataDiscovery.predict` メソッドを使用して、Salesforce オブジェクトの予測を取得します。

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止される予定です。現在の Einstein Discovery Classic ユーザは、Analytics Studio でデータセットとストーリーを再作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンス (Analytics の Einstein Discovery で必須) が必要です。Winter '20 リリースでは、Einstein Discovery Classic はすべての Developer 組織で新しい環境に置き換えられます。

コードを記述せずに予測を Salesforce レコードにリリース (正式リリース)

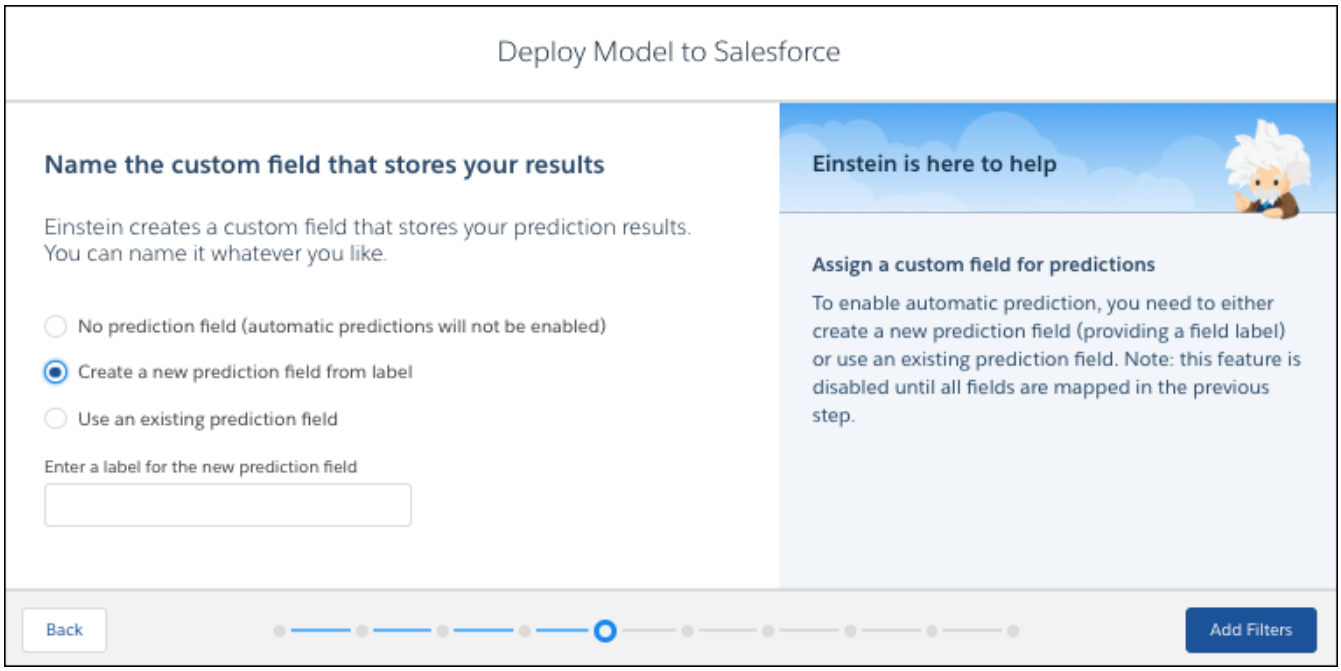
コードを使用せずに、選択した Salesforce 項目に予測スコアを自動的に書き込むことができます。プロセスビルダーや管理パッケージをトリガに関連付けることなく予測を容易に統合します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

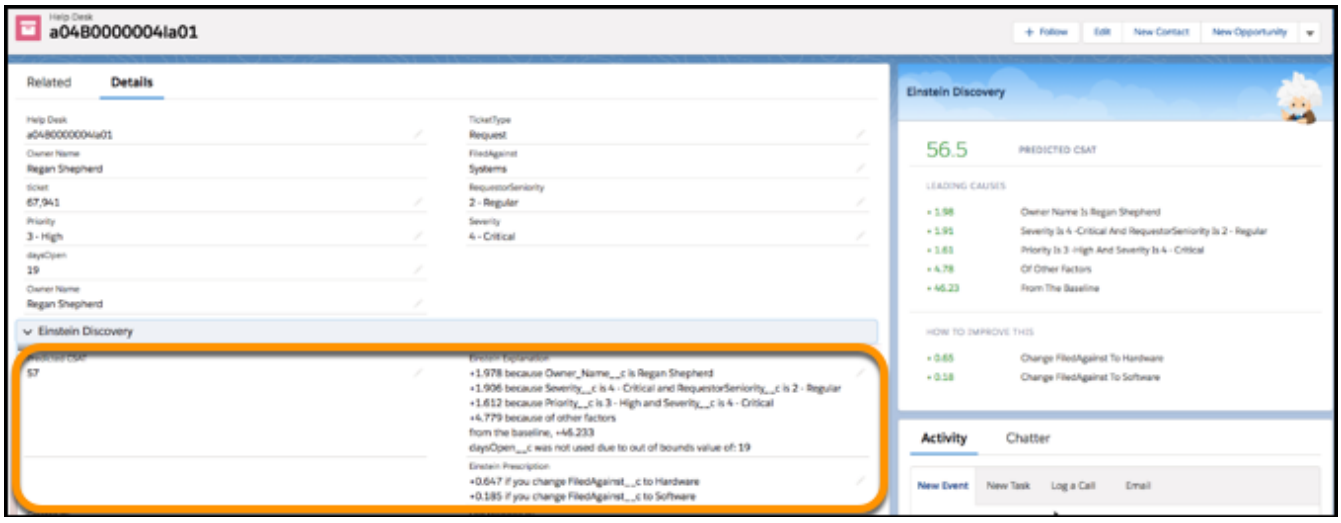
対象ユーザ: モデルをリリースするには、「Einstein Discovery モデルの接続」権限が必要です。

方法: 予測に使用するモデルをリリースします。リリース時に、すべてのモデル項目を Salesforce 項目に対応付ける必要があります。次のいずれかを指定するように促されたら、指定します。

- 新しい AI 予測項目を作成し、表示ラベルを指定する
- 既存の AI 予測項目を使用し、表示ラベルを指定する



モデルをリリースしたら、[AI 予測] 項目をページレイアウトに追加します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

2 つの異なるモデルから最適な予測の取得 (パイロット)

以前は、結果を予測するのに、Einstein Discovery は回帰モデルに依存していましたが、*勾配ブースティング* Einstein Discovery に学習アルゴリズムと呼ばれる予測最適化アプローチに基づく 2 番目のモデル種別が追加されるようになりました。ストーリーを作成するときに、Einstein Discovery は両種別のモデルを使用して予測を生成し、パフォーマンスがより優れたモデルの結果を表示します。両方のアプローチから最も優れた結果を取得します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Gradient Boosting 機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。コード不要の予測は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。コード不要の予測に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

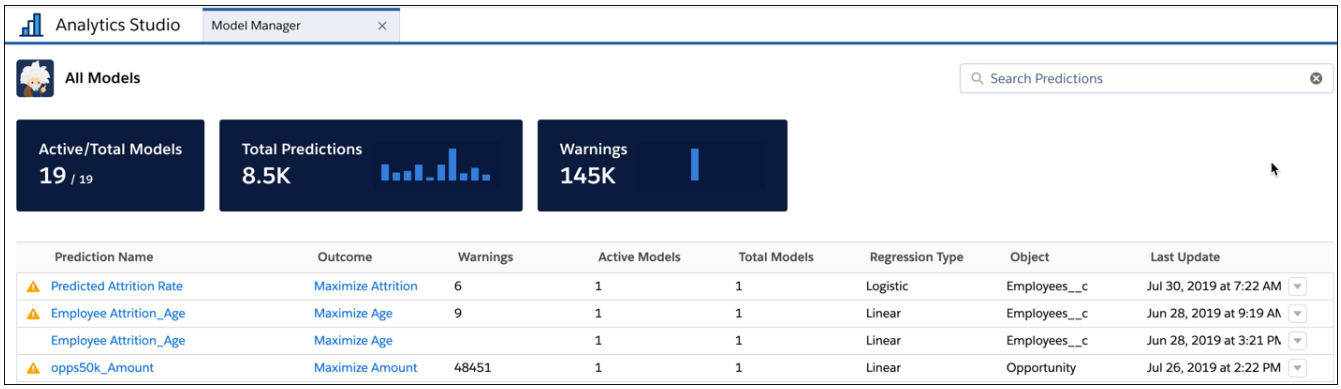
リリース済みモデルの精度のリアルタイムでの監視 (正式リリース)

予測結果と実際の結果を視覚的に比較して、ロジスティックモデルの精度を判断します。次に、このフィードバックを使用して、モデルを調整し、予測を改善します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として注文の発送日があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによって Einstein Discovery はパフォーマンス分析に含める結果を識別できます。

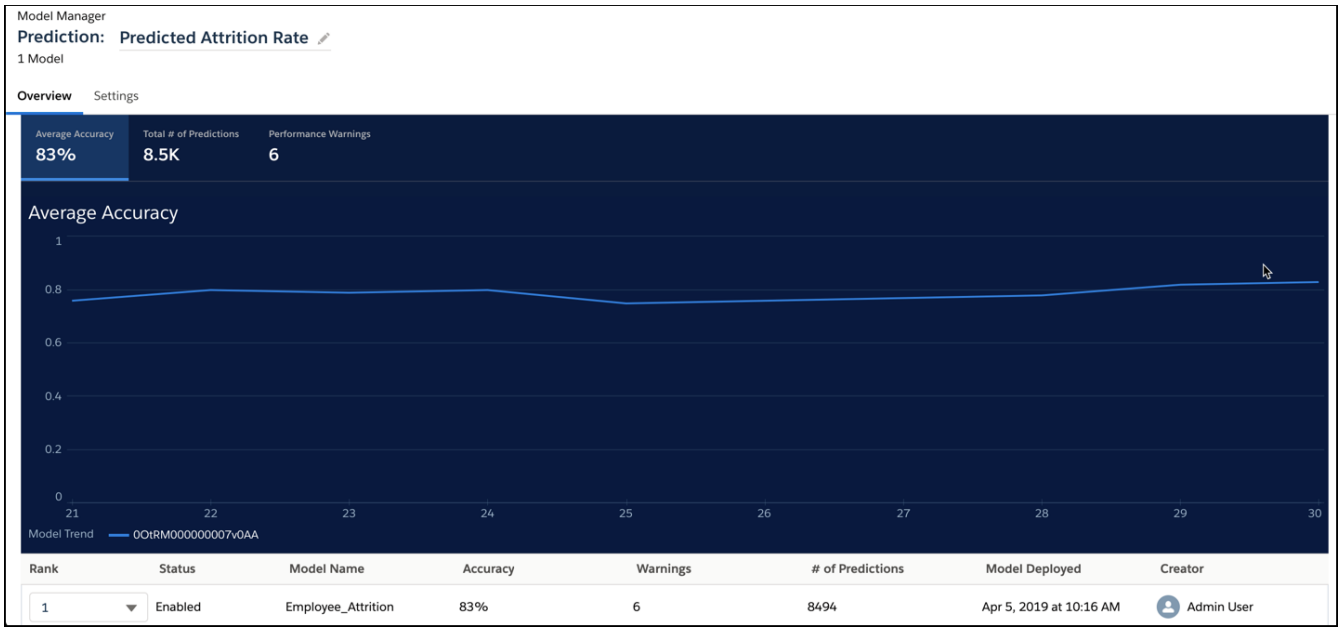
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: モデルの精度を表示するには、「Einstein Discovery モデルの接続」権限が必要です。

方法: モデルマネージャを開き、有効なモデルの概要を表示します。



有効なモデルを表示します。次のロジスティックモデルの例では、経過時間に対する平均精度 (正しい予測の割合) をライブグラフに表示しています。



関連トピック:

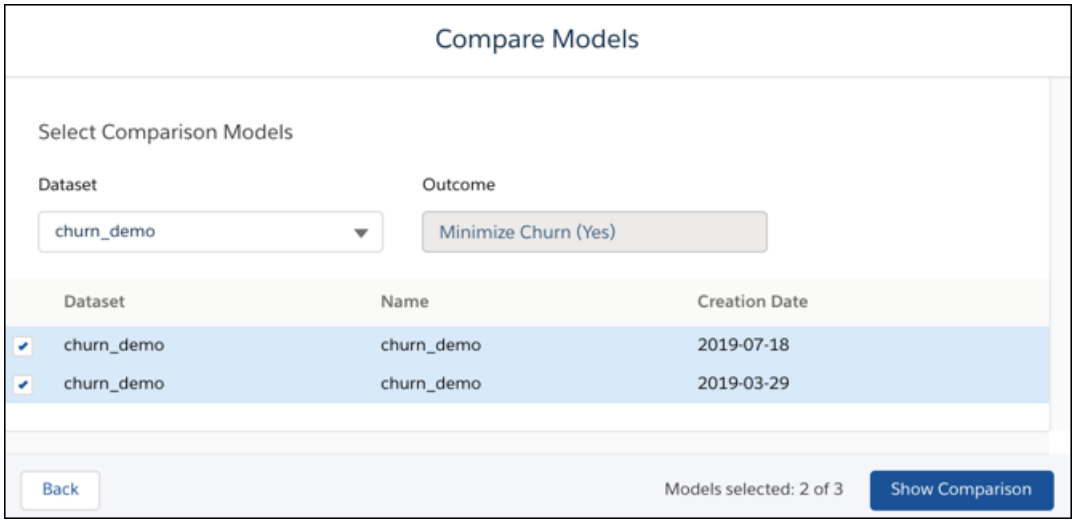
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

総計値を比較してモデルを改善

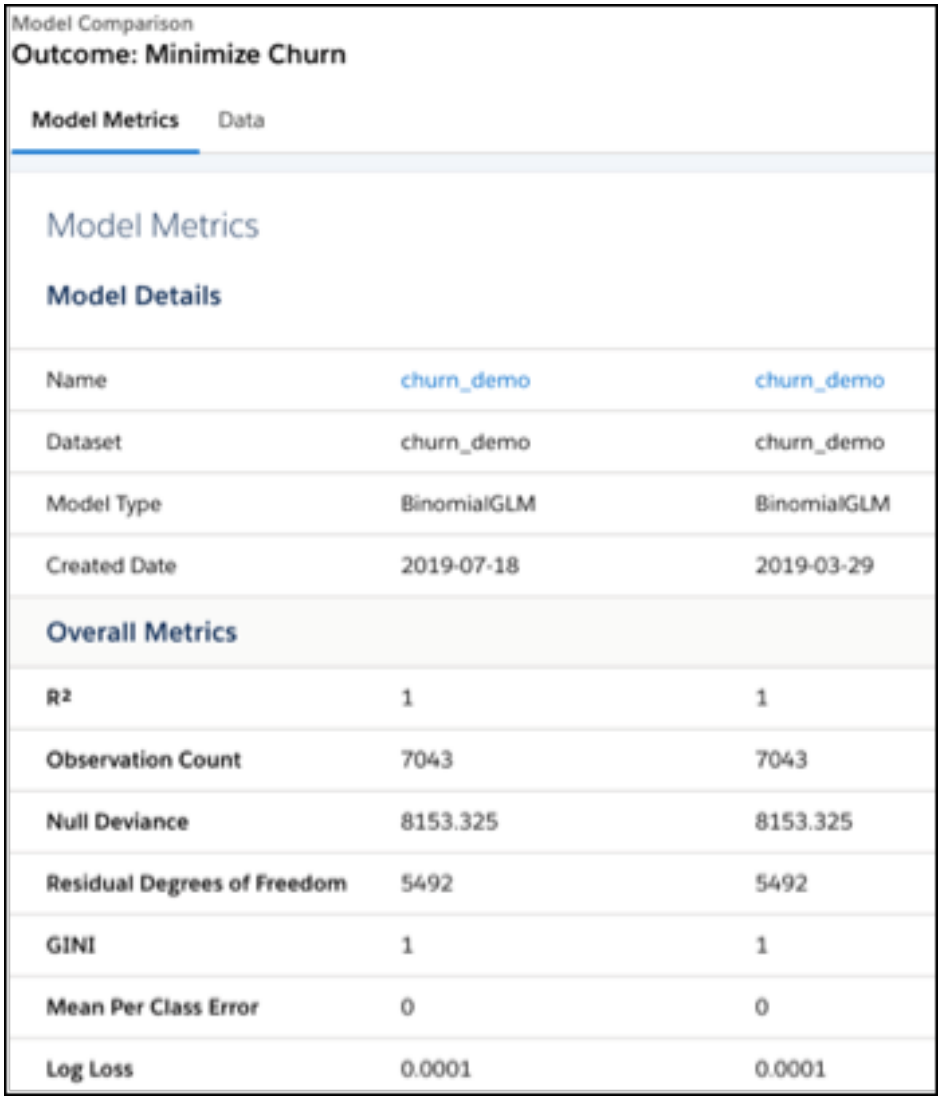
モデル総計値では、複数のモデルの総計値を横に並べて表示できるようになりました。モデル総計値を互いに比較します。区分を比較して、各区分で最も重要な変数を明らかにします。この情報を使用してモデルを改善し、予測精度を高めます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [モデル総計値] 画面で、[モデルを比較] をクリックします。[モデルを比較] 画面で、比較するモデルを選択します。



モデル総計値を横に並べて表示するには、[比較を表示] をクリックします。Einstein Discovery に総計値の行と選択したモデルの列が表示されます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

対象しきい値を使用したモデルの精度の改善

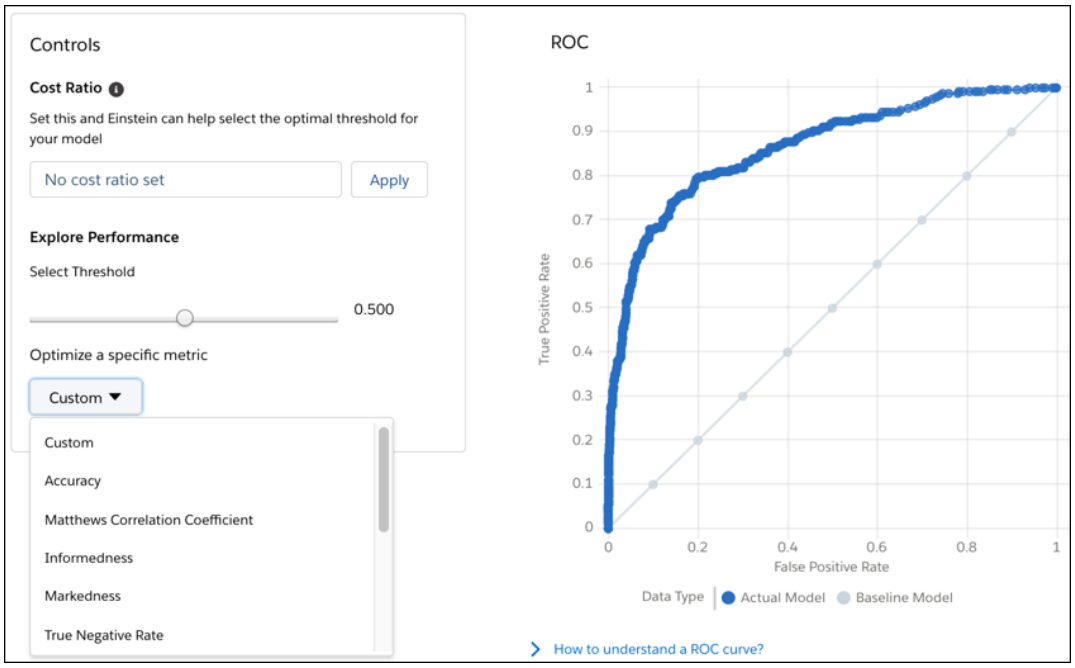
カテゴリ項目のモデルを作成するときに、予測する2つのバケットのカットオフを表す最適なしきい値を設定できます。たとえば、偽陽性と偽陰性のコスト比率を指定できます。次に、ストーリーに関連付けられたビジネスケース用に最適化されたしきい値をEinstein Discoveryに特定させます。しきい値は、真陽性率と偽陽性率のトレードオフを表します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 結果変数がカテゴリ項目であるストーリーを開きます。モデル総計値の [モデル評価] タブで、モデルのしきい値を次のように設定します。

- コスト比率を指定して [適用] をクリックする
- スライダを動かす
- リストから標準総計値を選択する

選択した総計値に従って ROC グラフが更新されます。



このしきい値でモデルをリリースするには、[モデルをリリース] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

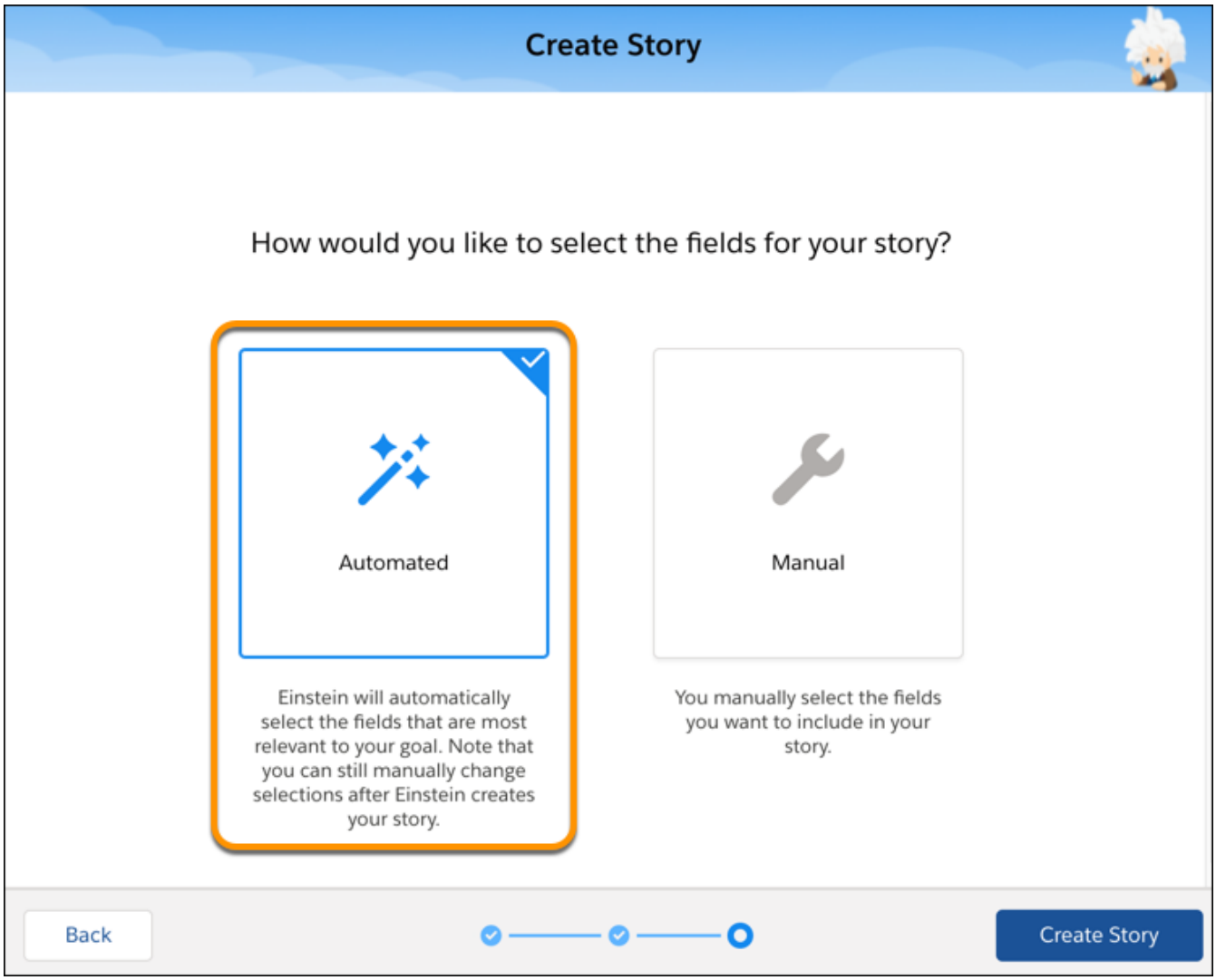
自動設定でストーリー作成の迅速化

ストーリーの目標について分析するために最適なデータを Einstein Discovery に選択させます。Einstein Discovery はデータベースを検索し、結果に相関する列を選択し、相関しない列を除外します。ストーリーが作成された後に、列の選択を手動で変更できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 自動設定を使用してストーリーを作成するには、「Einstein Discovery ストーリーの作成および更新」権限が必要です。

方法: ストーリーを作成するときに、[自動]を選択し、[ストーリーを作成] をクリックします。



関連トピック:

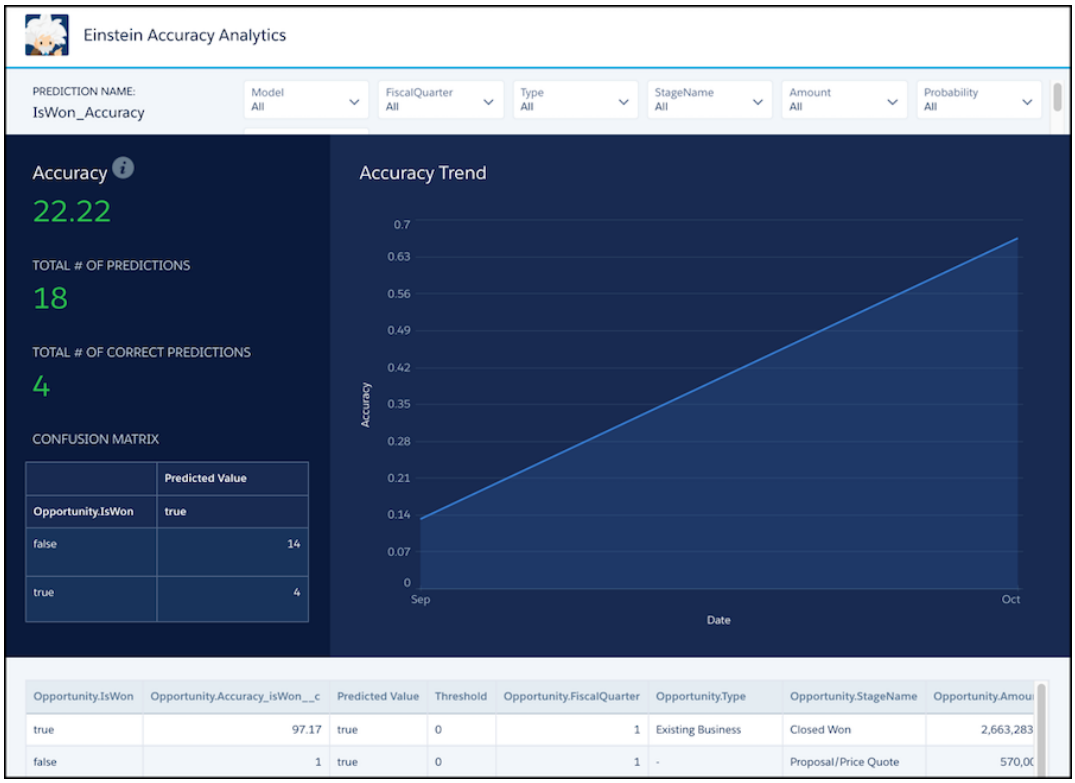
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

経時的な精度の分析による予測の改善

モデルが実際の結果をどれほど正確に予測しているかを監視し、このフィードバックを使用してモデルを調整して予測を改善できるようになりました。予測の精度は、ロジスティック回帰と線形回帰の両方で監視できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 自動化予測項目を使用して最終状態を設定するモデルをリリースします。モデルマネージャで[精度を分析]をクリックし、アプリケーションをセットアップして作成した後、アプリケーションを実行して、ダッシュボードで精度の総計値とトレンドグラフを確認します。



関連トピック:

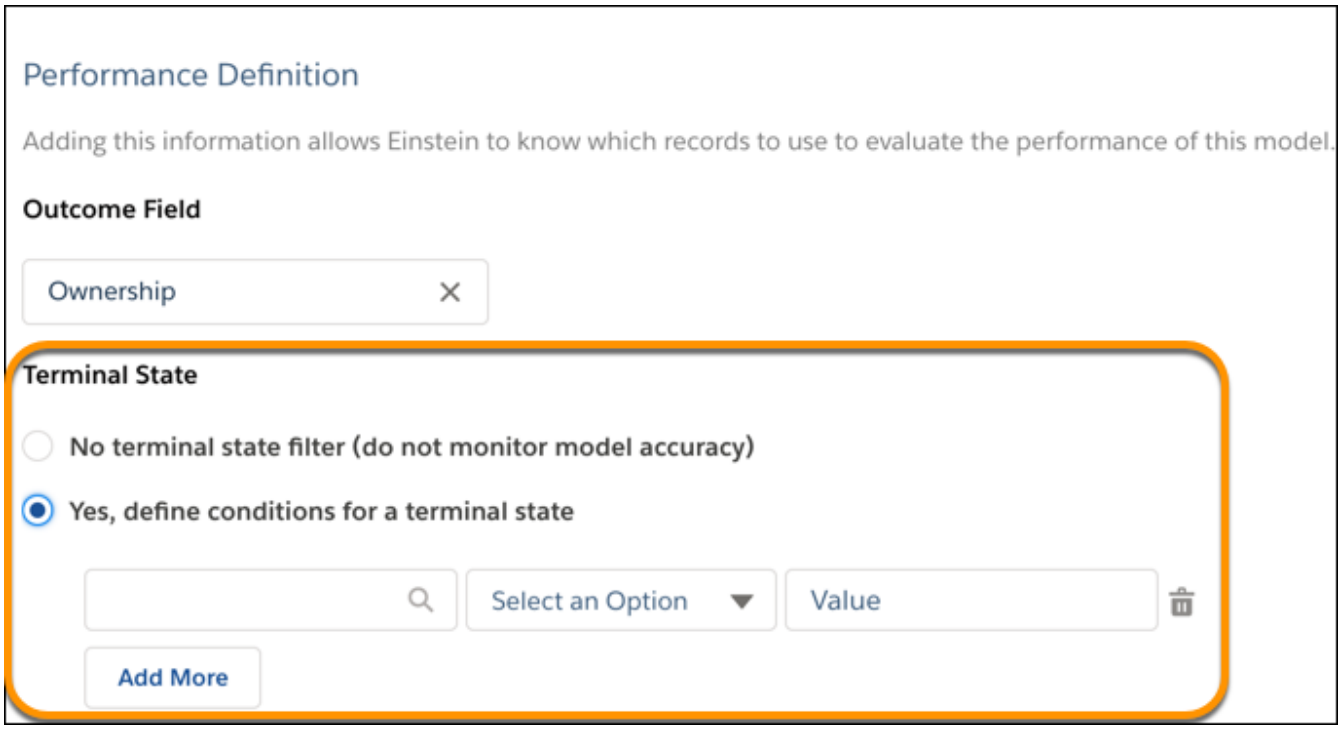
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

残差プロットグラフによるモデルパフォーマンスの視覚化

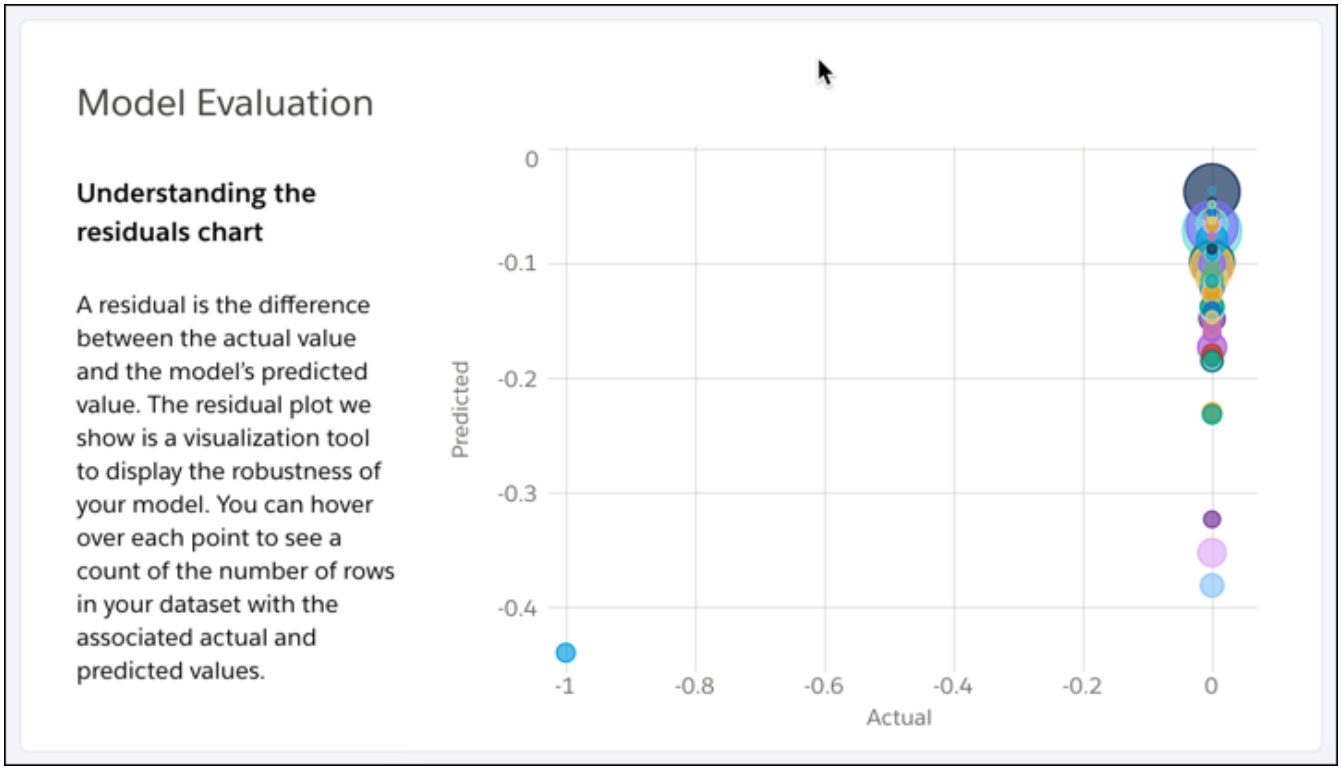
結果変数がテキスト項目であるロジスティック回帰モデルでは、新しい残差プロットグラフでモデルの堅牢性を示します。*残差*は、モデルの予測値と実際の結果値の差を表します。実際の結果とは、*最終状態*に達したために変更が期待されないデータを指します。最終的なデータの例として、顧客が受け取った出荷物内の品数があります。ストーリーの結果変数が最終状態を達成した条件を定義します。それによって Einstein Discovery はプロットグラフに含める結果を識別できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 分類ストーリーをリリースします。リリース時に、ストーリーの結果変数が最終状態に達したことを示す条件を定義します。



モデル総計値を開き、[モデル評価] タブをクリックします。



点にマウスポインタを置くと、データセット内の行数、および関連する実際の値と予測値が表示されます。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

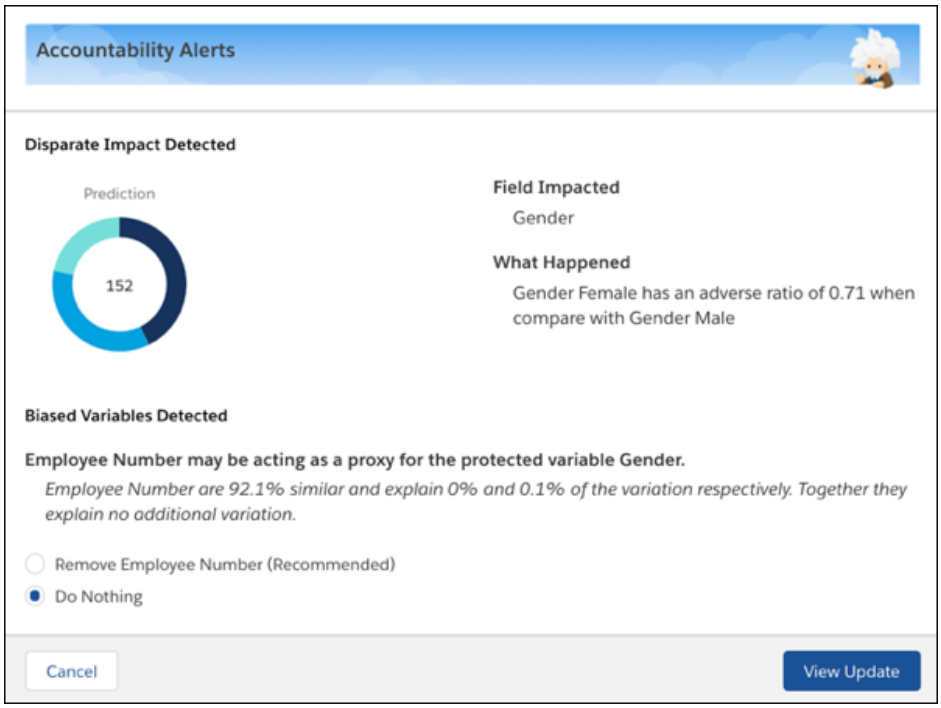
モデルからバイアスがかかった変数の除去

バイアスがかかっているデータで構築されたモデルからは、バイアスがかかった予測が生成される可能性があります。異種影響はその一例であり、初任給での男女間格差など特定のデモグラフィックに対する差別的慣行がデータに反映されます。Einstein Discovery は、モデル内で不平等な扱いを受けている変数について警告します。より倫理的で説明可能なモデルを生成するために、予測から異種影響のバイアスを取り除くことができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: ストーリーから異種影響のバイアスを取り除くには、「Einstein Discovery ストーリーの作成および更新」権限が必要です。

方法: Einstein Discovery はデータに異種影響のバイアスがある可能性について通知し、解決法を提案します。モデルに実装する提案を選択します。



解析からバイアスを除去する方法については、Trailhead の「人工知能の責任ある作成」を受講してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

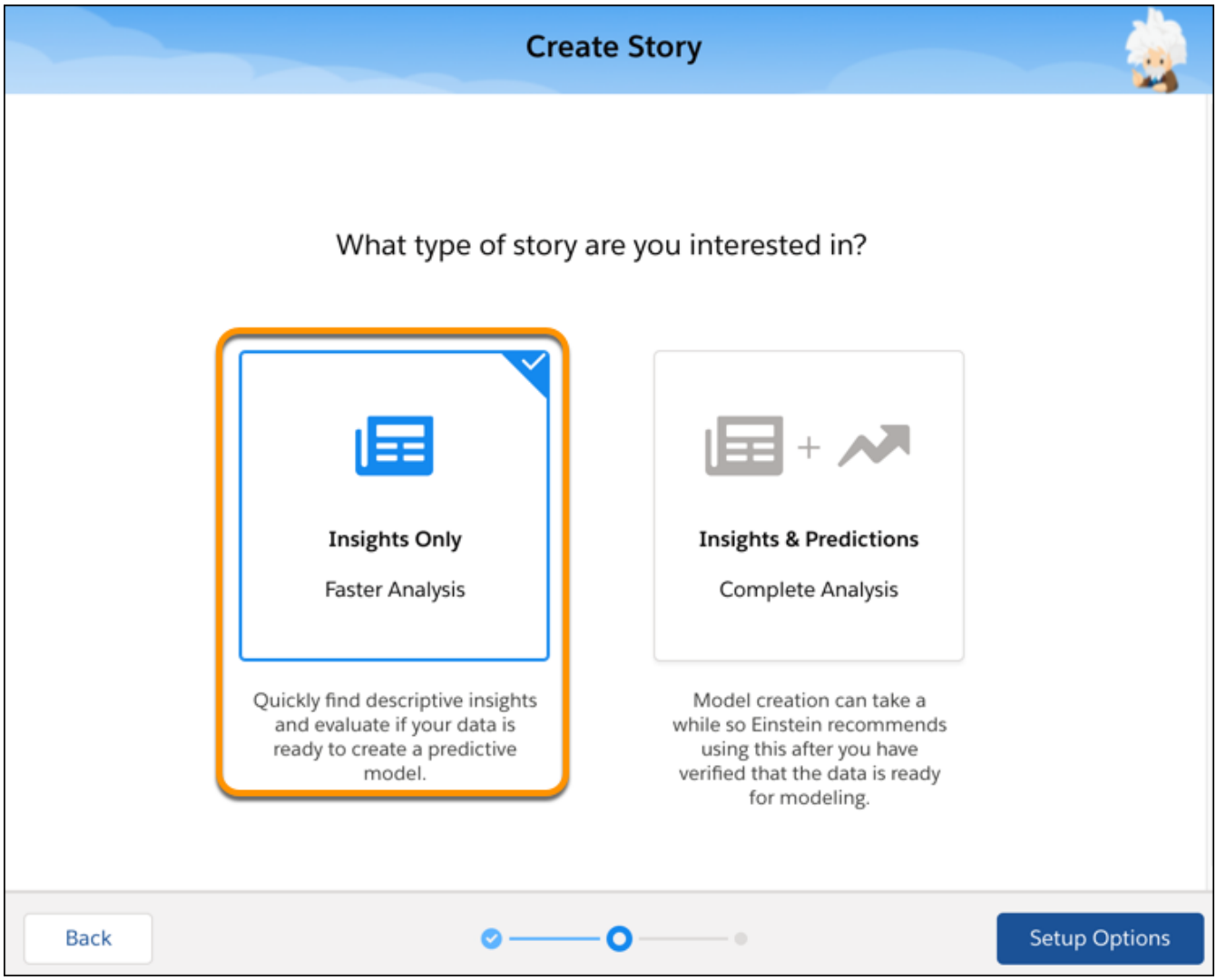
説明のみのインサイトのストーリー作成の迅速化

データから得たい情報が [何が起きたか] インサイトのみの場合、データセットの予測分析をスキップできます。Einstein Discovery が予測と改善を生成しないので、ストーリー作成は短時間で行われます。ストーリーが作成された後に気が変わった場合は、予測分析を手動で追加できます。

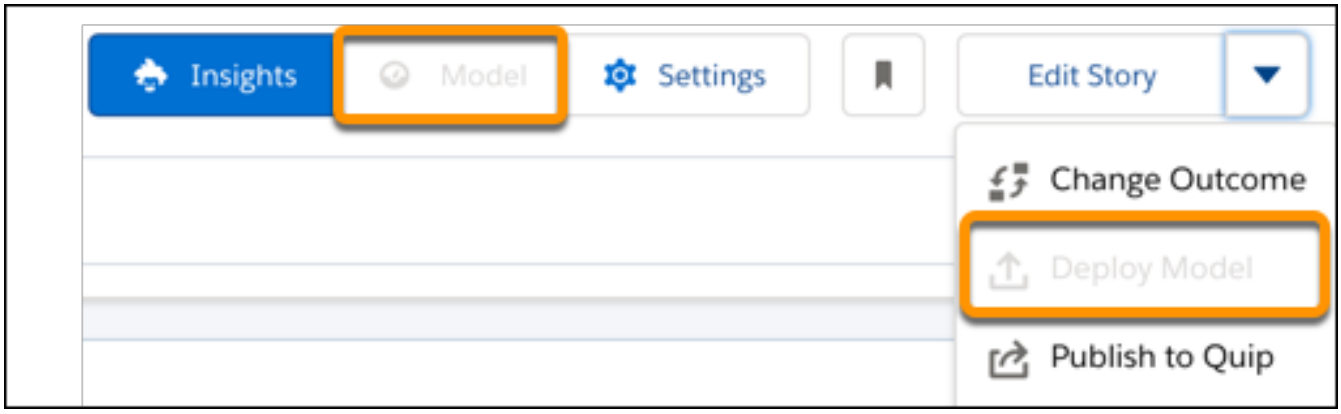
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 説明のみのストーリーを作成するには、「Einstein Discovery ストーリーの作成および更新」権限が必要です。

方法: ストーリーを作成するときに、[インサイトのみ] を選択します。



ストーリーを作成した後に使用可能なのは、[何が起きたか]インサイトのみです。説明のみのストーリーではモデルは使用されません。したがって、ツールバーの [総計値] オプションやドロップダウンメニューの [モデルをリリース] コマンドなどのモデル関連機能は使用できません。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

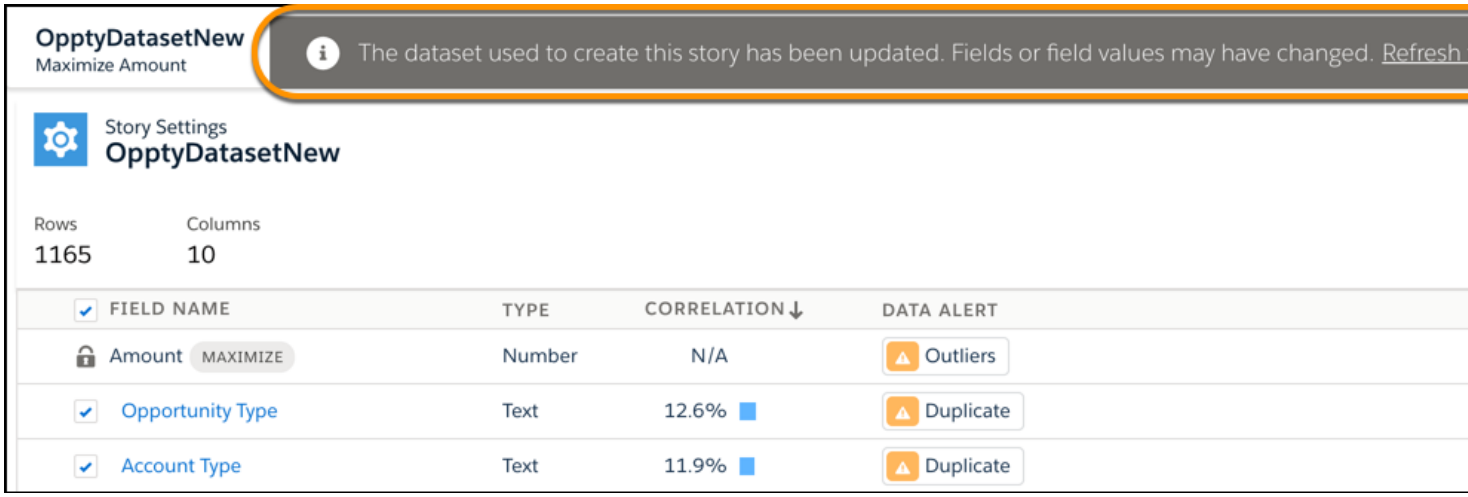
データセットの更新でストーリーを更新

ソースデータセットのデータが変更されると、ストーリーが作成されたときに取得したスナップショットの代わりに更新されたデータの分析を選択できるようになりました。ストーリーを開くと、列または行に変更があった場合はEinstein Discoveryがそれを通知します。以前は、ストーリーはデータの元のスナップショットに常に固定されていました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: データセットの更新でストーリーを更新するには、「Einstein Discovery ストーリーの作成および更新」権限が必要です。

方法: ストーリーを開きます。データセットが変更されたら、Einstein Discovery は「このストーリーを作成するために使用されるデータセットが更新されました。項目または項目値が変更されている可能性があります。」というメッセージで通知します。



[最新バージョンから項目オプションを更新] をクリックし、[ストーリーを作成] をクリックします。Einstein Discovery は最新のデータを分析します。それによって新しい改善案 (異なるバケットなど) が表示される場合があります。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Einstein データインサイトで処理可能なレポートデータの増加

Einstein データインサイトの制限が緩和されました。最大 500,000 行、50 列のデータを含むレポートからインサイトを作成できるようになりました。さらに、1 組織につき 1 日最大 1,000 個の Einstein データインサイト分析を作成できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Einstein データインサイトでレポートデータを処理するには、「Einstein データインサイトの実行」権限が必要です。

方法: レポートに[インサイト]ボタンが表示されていない場合は、有効になっていることを確認してください。手順は「Einstein データインサイトの設定」を参照してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

述語が設定されたデータセットを使用したストーリーの作成

Einstein Discovery では、行レベルのセキュリティ述語と Salesforce 共有継承に関連付けられた共有ルールを使用して Einstein Analytics データセットを分析できるようになりました。ストーリーの結果は、ストーリーにアクセスできるすべてのユーザに表示されます。ストーリー作成者と同じ行レベルのアクセス権を持っている必要はありません。以前は、「データセットからストーリーを作成する場合に述語を無視」権限が必要でした。これは、Winter '20 リリースで非推奨になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 述語が設定されたデータセットを使用してストーリーを作成するには、「Einstein Discovery ストーリーの作成および更新」権限が必要です。

方法: ストーリーを作成するときに、述語が設定されたデータセットを選択します。ストーリー作成者として、ストーリーを作成するのに十分な行数のデータにアクセスできる必要があります。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

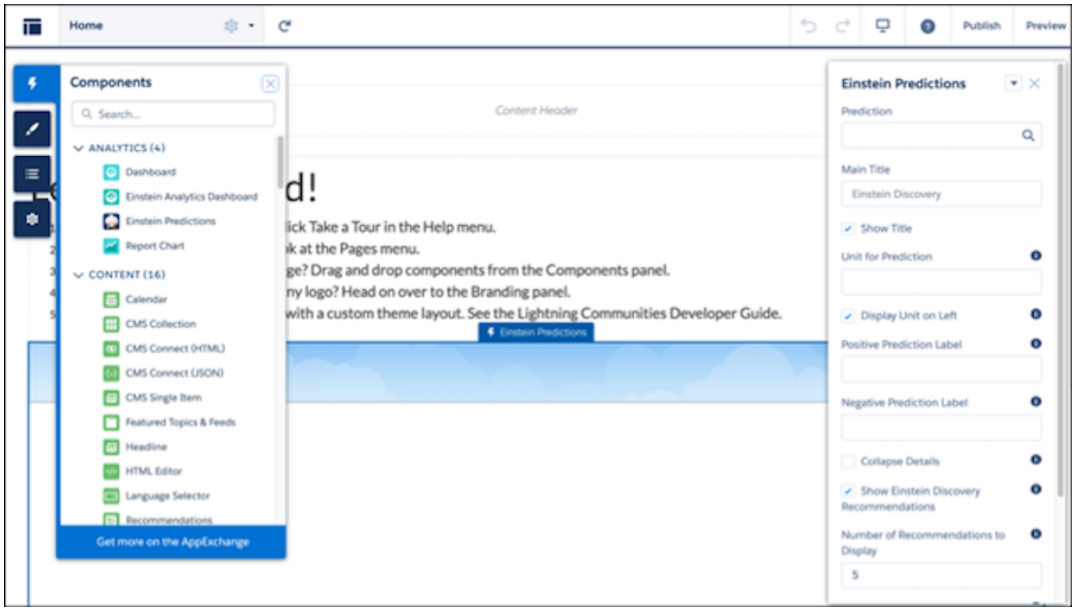
Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示

任意の Lightning コミュニティページで Einstein Discovery 予測を標準コンポーネントとして追加します。コミュニティビルダーで、新しい Einstein 予測コンポーネントをコミュニティページにドラッグします。次に、予測定義の選択、予測単位の設定、表示設定の選択を行います。コミュニティページでは、予測はリアルタイムに更新され、Salesforce に書き戻す必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: コンポーネントを Lightning コミュニティページに追加するには、「アプリケーションのカスタマイズ」システム権限が必要です。予測を表示するには、「Einstein Discovery のおすすめを表示」権限が必要です。

方法: Einstein 予測コンポーネントをページレイアウトにドラッグします。表示する予測を選択し、必要に応じて設定を定義します。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Lightning Experience レコードページでの Einstein Discovery 予測の表示方法のカスタマイズ

Lightning Experience レコードページで、Einstein Discovery 予測の表示方法をカスタマイズします。ロジスティック回帰モデル(バイナリ分類問題)の場合は、予測がモデルのしきい値より高い、または低い場合の表示ラベルを指定します。例: 成立または不成立、維持または離脱、等。プロジェクトの改善方法に関する検索条件の推奨事項。推奨事項の最大数を設定するか、結果への影響が最小パーセントである推奨事項を表示します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: コンポーネントをページに設定するには、「アプリケーションのカスタマイズ」システム権限が必要です。予測を表示するには、「Einstein Discovery のおすすめを表示」権限が必要です。

方法: Einstein 予測標準 Lightning コンポーネントをページレイアウトにドラッグします。表示する予測を選択し、表示設定を定義します。手順については、「Lightning ページへの Einstein 予測の追加」を参照してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Apex コードでの Einstein 予測の取得

Einstein Discovery でモデルをリリースしたら、Apex コードで `ConnectApi.SmartDataDiscovery.predict` メソッドを使用して、Salesforce オブジェクトの予測を取得します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: `ConnectApi.SmartDataDiscovery.predict` メソッドは v46.0 でも使用可能でしたが、ドキュメントには記載されていませんでした。

対象ユーザ: API にアクセスして実行するには、「Einstein Discovery のおすすめを表示」権限が必要です。

方法: 手順については、「Apex での予測の取得」を参照してください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Einstein Discovery Classic の廃止

Einstein Discovery Classic は Spring '20 で廃止される予定です。現在の Einstein Discovery Classic ユーザは、Analytics Studio でデータセットとストーリーを再作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンス (Analytics の Einstein Discovery で必須) が必要です。Winter '20 リリースでは、Einstein Discovery Classic はすべての Developer 組織で新しい環境に置き換えられます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 現在、Einstein Discovery Classic を使用しており、Einstein Analytics Plus ライセンスがすでにある場合、Salesforce サポートへのケースを登録し、新しい環境への切り替えを依頼してください。EA Growth ライセンスまたは Discovery Analysts ライセンスがある場合、アカウントエグゼクティブに連絡し、ライセンスを Einstein Analytics Plus に切り替えるように依頼してください。無料の Developer 組織にはすべての適切なライセンスがあり、新しい環境に自動的に切り替えられます。

Einstein Discovery データセットのデータを保持する場合、切り替えの*前*に「Einstein Analytics へのエクスポート」機能を使用します。組織で Analytic の Einstein Discovery を有効にしたら、Analytics Studio を使用して Einstein Analytics データセットを構築し、ストーリーを手動で作成します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

誰もが使用できる Analytics: 新しい Analytics ホーム、学習センター、メールサブスクリプション (ベータ)

新しい Analytics ホームは、最も重要なアセットとインサイトの検索、お気に入りへの登録、選定、および操作を行うためのパーソナライズされたローンチパッドです。ガイド付き学習ジャーニーおよび Trailhead 追跡により、学習センターはアプリケーション内にある有益なリソースの宝庫と言えます。ダッシュボードウィジェットに登録し、自分にとって最も重要なグラフや KPI のスナップショットを毎日または毎週メールで受信します。

このセクションの内容:

Analytics ホームで重要なインサイトに迅速にアクセス
新しい Analytics ホームはパーソナライズされた起動パッドを提供し、ユーザはここから各自に最も重要なアセットやインサイトを簡単に見つけ、選定、発見、操作することができます。

学習センターでのガイド付き学習ジャーニーと進行状況の追跡
Analytics Studio では、[詳細] タブが「学習センター」に名称変更され、より豊富なアプリケーション内ヘルプが提供されるようになりました。Trailhead バッジ追跡機能が追加され、ガイド付き学習は、すべての Analytics を学習する広範な入門ジャーニーに拡張されました。これらのジャーニーは、新規ユーザがすばやく使用を開始し、Analytics の構築とリリースの可能性について学習できるように設計されています。

主要な総計値に関するメール更新の登録 (ベータ)
定期的に調べるデータクエリをさまざまなダッシュボードから探し出す必要がなくなりました。ダッシュボードウィジェットに登録すると、自分にとって最も重要なグラフや KPI のスナップショットが Einstein Analytics から毎日または毎週メールで送信されてくるようになりました。メールサブスクリプションでは、ウィジェットを 20 個まで監視できます。Analytics Studio、[分析] タブ、および埋め込み Analytics ダッシュボードで登録を設定します。

学習体験アプリケーションを使用して Studio で詳しく学習
Einstein Analytics 学習体験アプリケーションでは、視覚化の設計や強力な動的アプリケーションの構築に関するベストプラクティスと例を紹介します。アプリケーションは、Analytics Studio のテンプレートとして提供され、新しいグラフ、SAQL ユースケース、テーブルの詳細で更新されます。

Quip スライドへのダッシュボードとレンズの公開
レンズ、ウィジェット、およびダッシュボード全体のエクスポート画像を使用して、Quip でコラボレーションします。各スナップショットの画像は、新しい Quip スライドデッキに公開されます。

印刷または PDF として保存する前にダッシュボードをプレビュー
印刷プロセスがより直感的になりました。ダッシュボードアクションはプレビューであることが明確になり、プレビュー後にブラウザから印刷できます。

Lightning ページタブに Einstein Analytics ダッシュボードからレコードを開く
埋め込みの Einstein Analytics ダッシュボードまたは [分析] タブから開いたレコードは、新しいブラウザタブではなく、Lightning ページタブで開かれます。Lightning ページタブと同様の環境で、より少ないクリック数でダッシュボードからインサイトに基づいてアクションを実行できます。

Analytics モバイルアプリケーション: Einstein Analytics と Salesforce モバイルアプリケーション

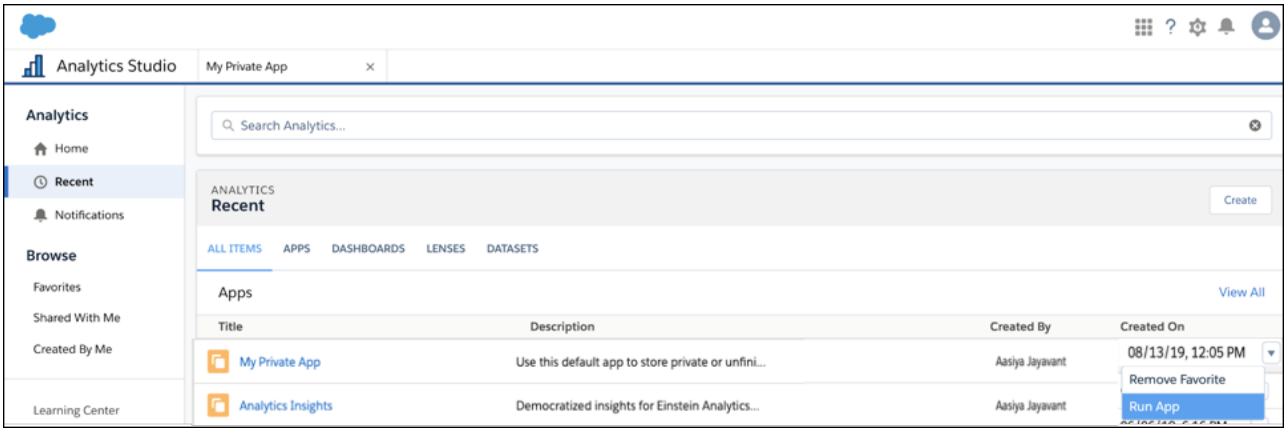
Einstein Analytics for iOS/Android バージョン 8.0 には、iOS のお気に入りと、Android での新しいグラフのサポート、そしてさらに多くのパフォーマンス改善が追加されています。最新バージョンの Salesforce モバイルアプリケーションでは、Einstein Analytics ユーザは、アプリケーションを切り替えなくても、より多くの作業を行えるようになります。Salesforce for iOS のお気に入り、グローバル検索、リンク、レコードページ、Lightning ページから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスします。

Analytics ホームで重要なインサイトに迅速にアクセス

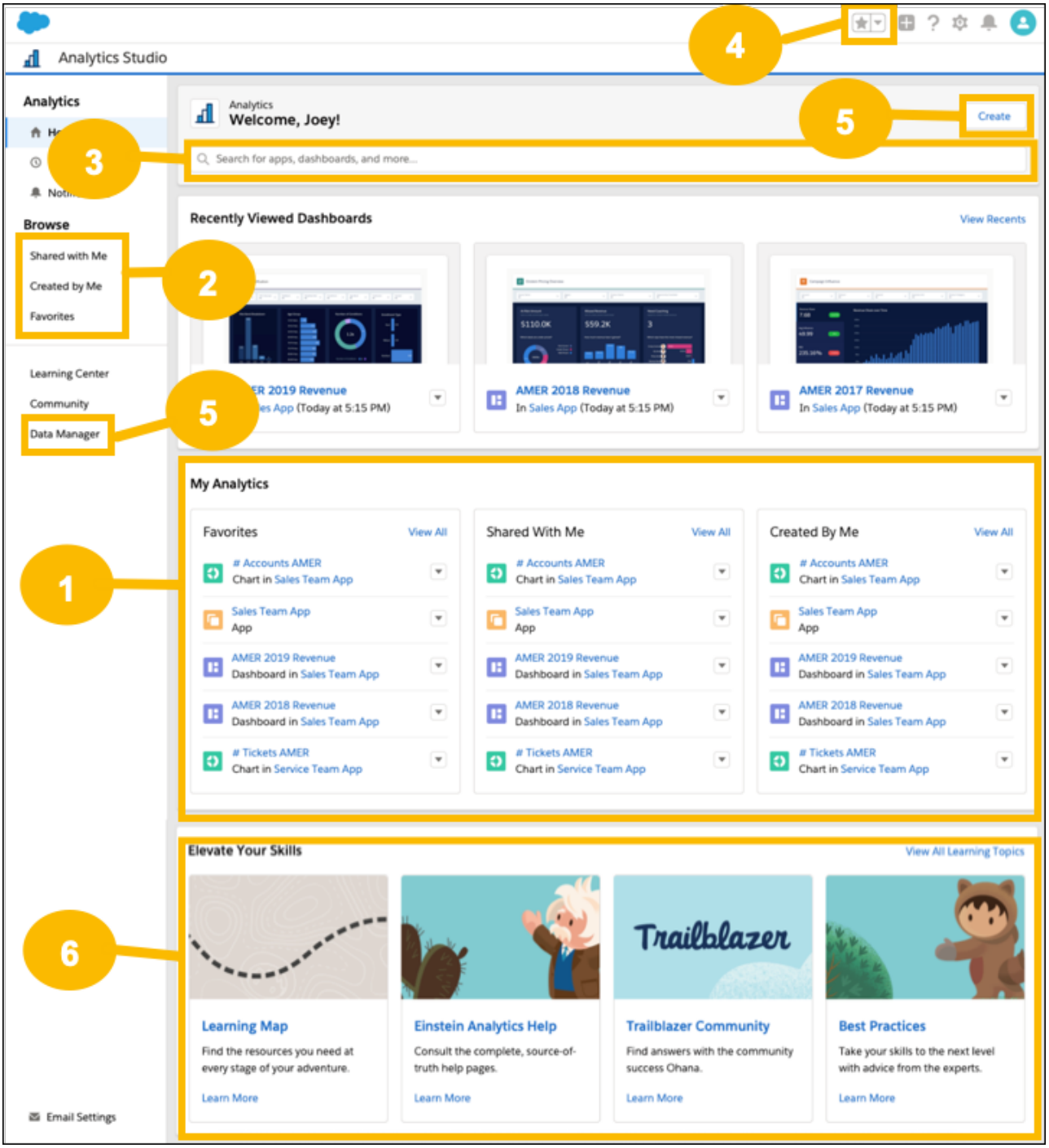
新しい Analytics ホームはパーソナライズされた起動パッドを提供し、ユーザはここから各自に最も重要なアセットやインサイトを簡単に見つけ、選定、発見、操作することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Analytics ホームにアクセスするには、[分析] タブまたは Analytics Studio で [ホーム] をクリックします。

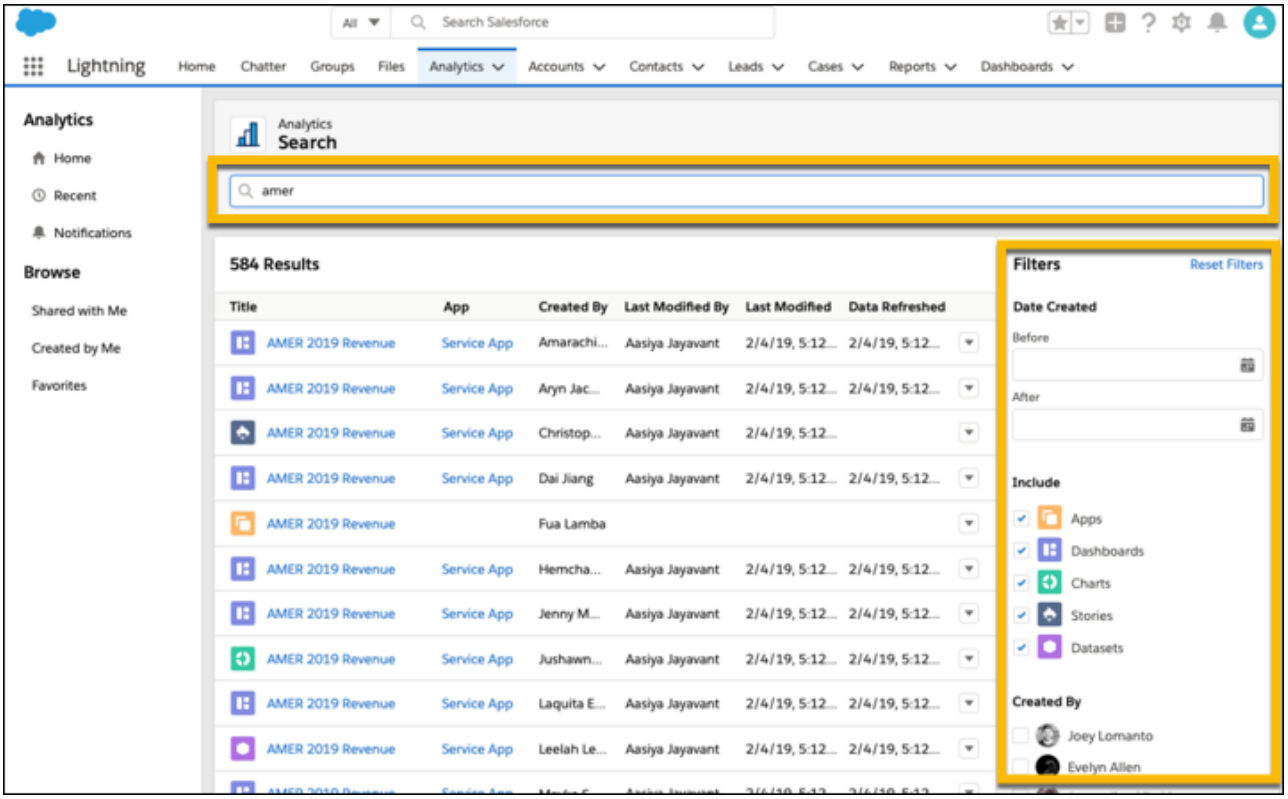


ページ設計は刷新されてモジュール形式なり、新しいボタンやアセットへのワンクリックアクセスが追加されています。また、[アプリケーションを実行] はドロップダウンオプションとして表示されるようになりました。

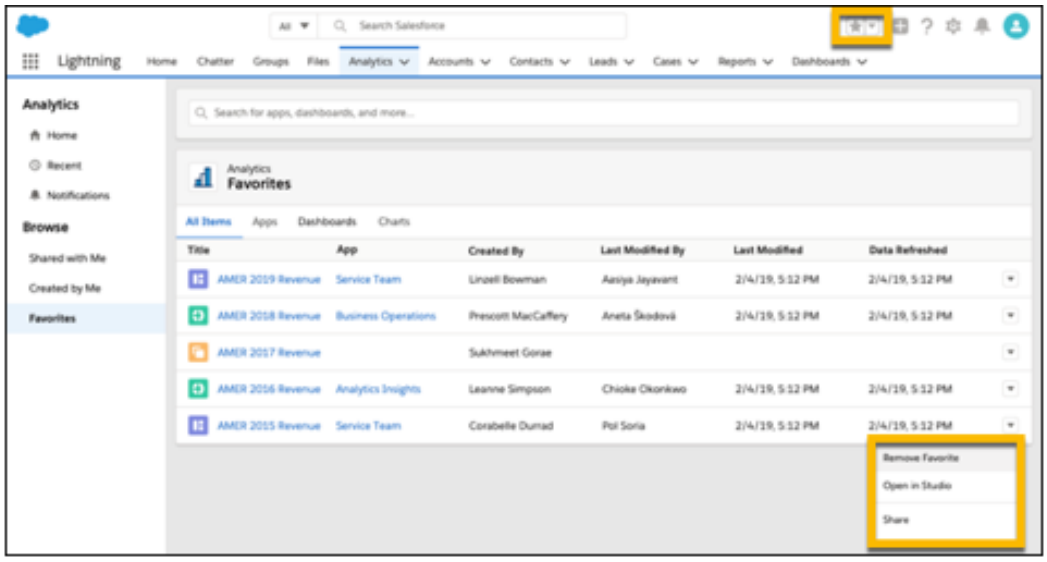


最近作成したものや共有されたものなど、自分に最も関連するアセットが表示されます (1)。新しい Analytics ホームには、関連するコンテンツへの一般的なナビゲーションリンク (2)、その他のコンテンツの検索バー (3) 後でまた簡単にアクセスできるようにアセットをお気に入りに設定するオプション (4) があります。

適切な権限を持つ Analytics ユーザは、アプリケーション、データセット、ダッシュボードの作成もできます (5)。また、ヘルプが必要なときのために、Analytics ホームでは Trailblazer Community などの学習リソースが提案されています (6)。



Analytics ホームには、インサイトとアセットを探し出すために、より目立つように表示されたグローバル検索バーと高度な絞り込みがあります。



Analytics アセットは、すばやくアクセスするためにお気に入りに設定できます。グローバルヘッダーの星をクリックするか、行レベルアクションのドロップダウンメニューを使用して、Analytics アセットをお気に入りに設定します。お気に入りには、固定されたアプリケーションがすべて含まれるようになりました。Analytics ホームで [お気に入り] を初めてクリックすると、固定されたアプリケーションがインポートされます。

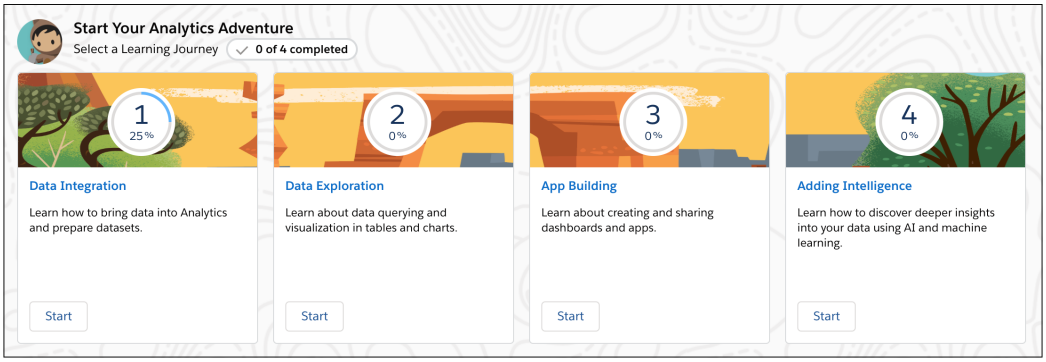
学習センターでのガイド付き学習ジャーニーと進行状況の追跡

Analytics Studio では、[詳細] タブが「学習センター」に名称変更され、より豊富なアプリケーション内ヘルプが提供されるようになりました。Trailhead バッジ追跡機能が追加され、ガイド付き学習は、すべての Analytics を学習する広範な入門ジャーニーに拡張されました。これらのジャーニーは、新規ユーザがすばやく使用を開始し、Analytics の構築とリリースの可能性について学習できるように設計されています。

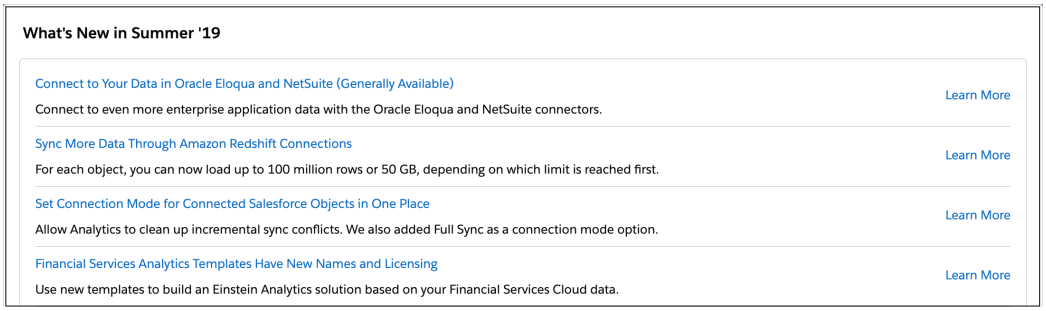
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 何を習得済みか把握し、まだ学んでいないことを引き続き探索します。Trailhead の進行状況をすばやく表示し、未獲得のバッジを確認できるように [Analytics バッジ] セクションが追加されました。このセクションは、Trailhead アカウントを持っているユーザに表示されます。Trailhead と統合されているので、[すべてのバッジを表示] をクリックするとユーザの Trailhead ページに直接移動します。

[Analytics 体験の開始] セクションのタイルをクリックし、速いペースで主要な製品について説明していくジャーニーを開きます。ジャーニーを最後まで一気に実行することも、中断して後でその場所から再開することもできます。各ステップを追跡しているので、中断した場所がわからなくなることはありません。使用可能なジャーニーは、権限によって異なります。



また、各リリースの主要機能と全般的な更新に関する情報をスクロールしやすくするために [新機能] セクションの配置が変更されました。



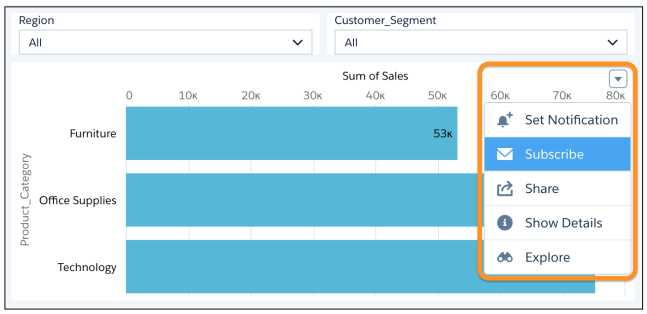
主要な総計値に関するメール更新の登録 (ベータ)

定期的に調べるデータクエリをさまざまなダッシュボードから探し出す必要がなくなりました。ダッシュボードウィジェットに登録すると、自分にとって最も重要なグラフや KPI のスナップショットが Einstein Analytics から毎日または毎週メールで送信されてくるようになりました。メールサブスクリプションでは、ウィジェットを 20 個まで監視できます。Analytics Studio、[分析] タブ、および埋め込み Analytics ダッシュボードで登録を設定します。

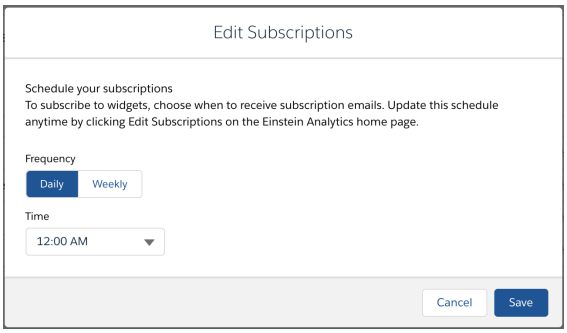
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Einstein Analytics サブスクリプションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

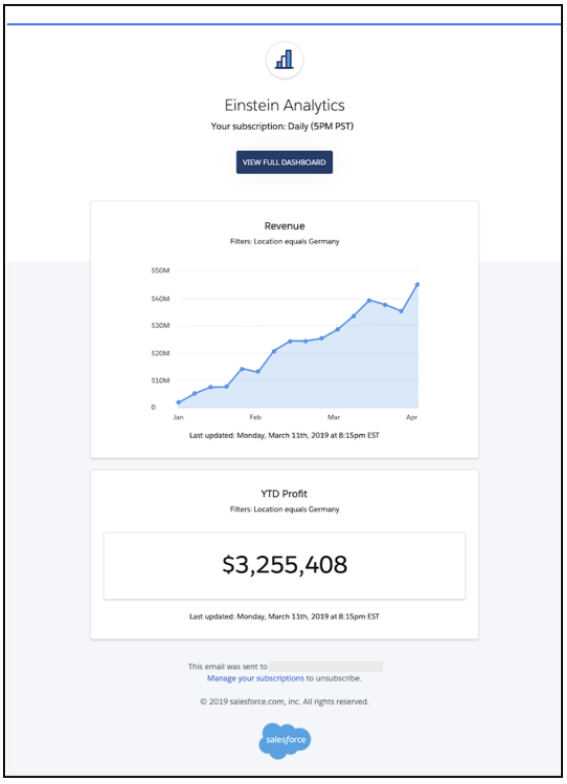
方法: [設定] の [Analytics] の [設定] ページで、**[Einstein Analytics ダッシュボードウィジェットへのメールサブスクリプションを有効化 (ベータ)]** を選択します。そうすると、すべてのウィジェットメニューに [登録] オプションが表示されます (テーブル、マップ、カスタムグラフを除く)。



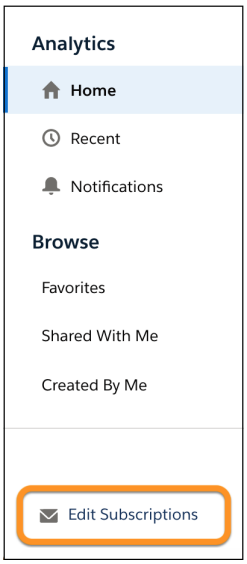
登録するときに、登録メールのスケジュールを設定します。



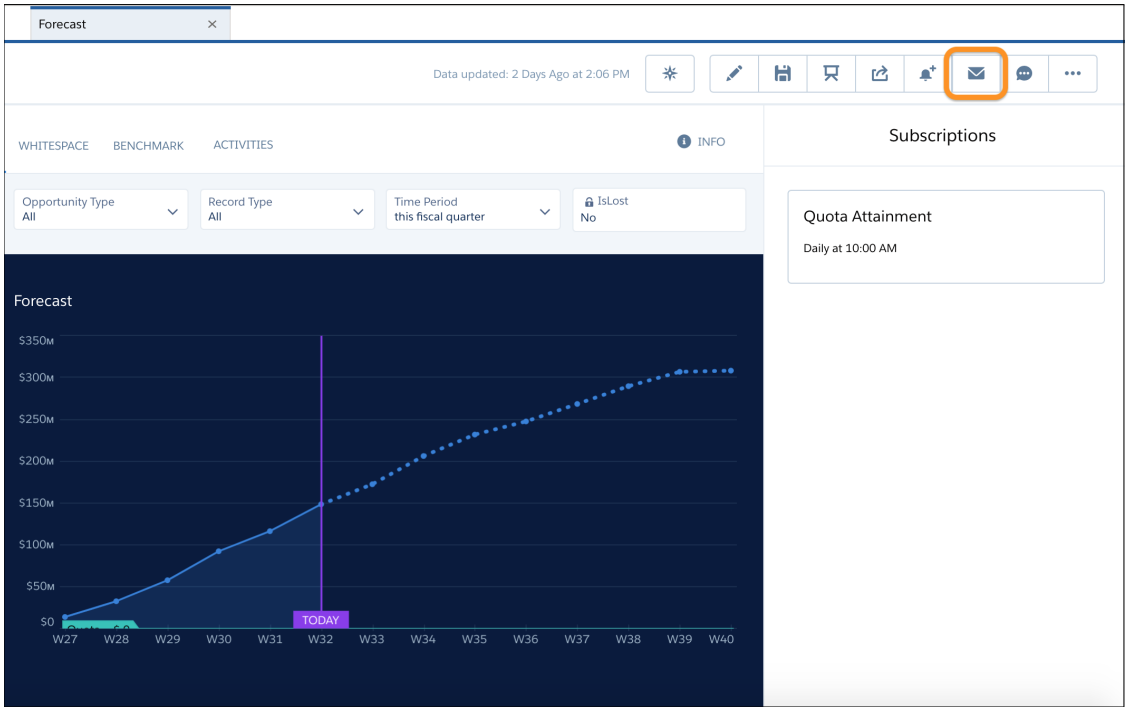
ウィジェットサブスクリプションはすべて 1 つのメールにまとめられます。



新しい [サブスクリプションを編集] オプションを使用して、Analytics ホームページからサブスクリプションを管理します。



ダッシュボードを表示しているときに、アイコンバーの封筒 ( ) をクリックして、[登録] パネルを開くことができます。



メモ: クエリと連動関係のあるウィジェットには登録しないことをお勧めします。または、クエリを修正して連動関係を削除することを検討してください。ウィジェットのクエリに別のクエリの結果が含まれ

る場合、外部のクエリはサブスクリプションの作成時のみ実行されます。連動関係のあるクエリによって、登録メールは次第に不正確になっていく可能性があります。

関連トピック:

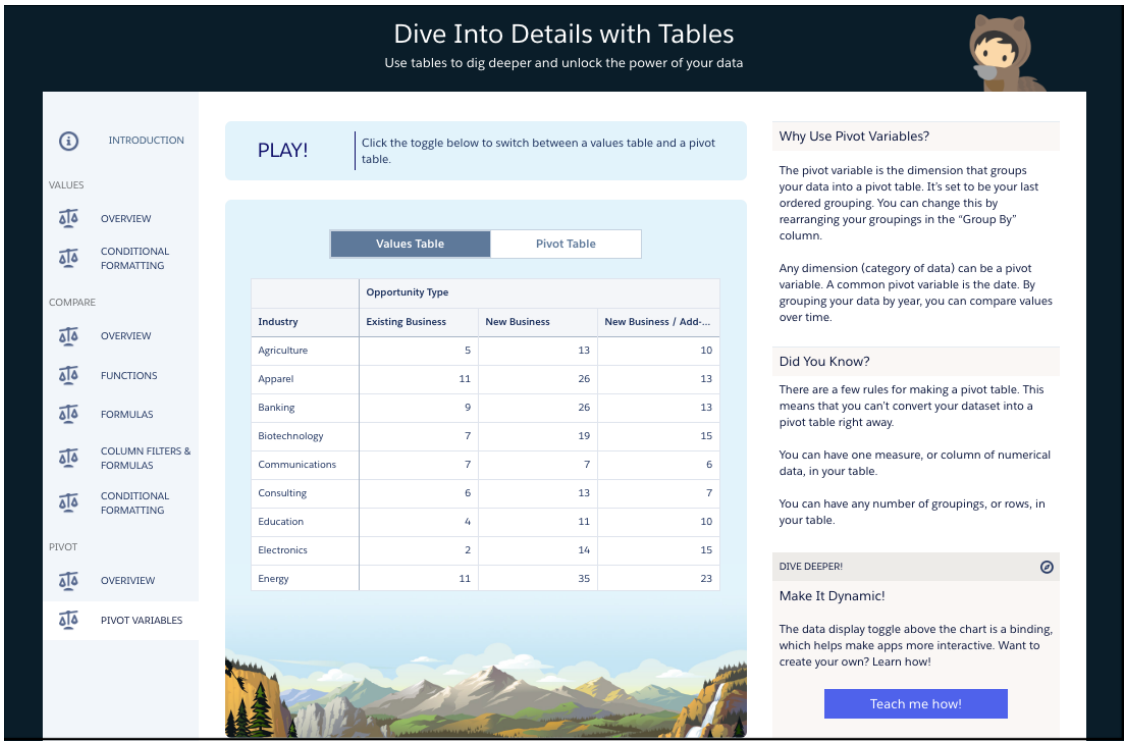
IdeaExchange: Einstein Analytics ダッシュボードの登録の可能性

学習体験アプリケーションを使用して Studio で詳しく学習

Einstein Analytics 学習体験アプリケーションでは、視覚化の設計や強力な動的アプリケーションの構築に関するベストプラクティスと例を紹介します。アプリケーションは、Analytics Studio のテンプレートとして提供され、新しいグラフ、SAQL ユースケース、テーブルの詳細で更新されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: テーブルに関する新しいコンテンツでは、テーブルの種別とプロパティが明確化され、作成者はデータに適切な形式を選択することができます。



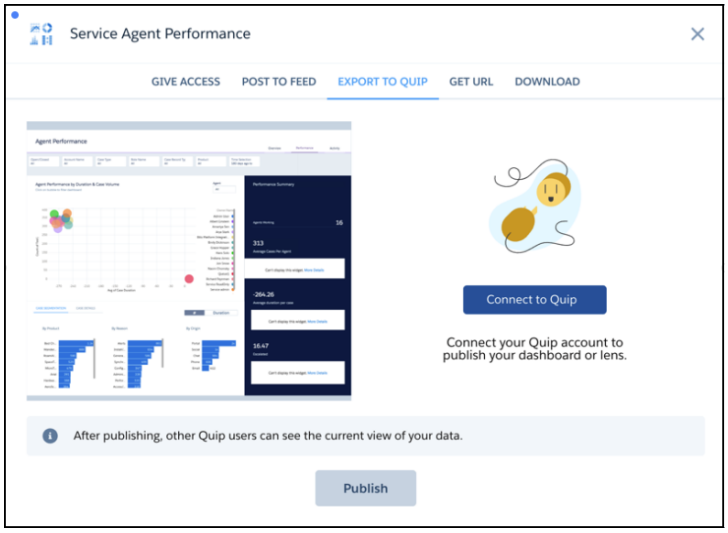
Quip スライドへのダッシュボードとレンズの公開

レンズ、ウィジェット、およびダッシュボード全体のエクスポート画像を使用して、Quip でコラボレーションします。各スナップショットの画像は、新しい Quip スライドデッキに公開されます。

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Einstein Analytics **に適用されます。** Einstein Analytics **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: この変更は、Quip for Salesforce **を使用する組織で使用できます。**

方法: ドロップダウンメニューまたはアイコンバーから [共有] **アクションを選択し、[Quip にエクスポート] タブをクリックします。接続されていない場合は、[Quip に接続] をクリックします。**



重要: Analytics **スナップショットを公開すると、組織内の他の** Quip **ユーザは、機密データを含め、データを画像で参照できます。**

関連トピック:

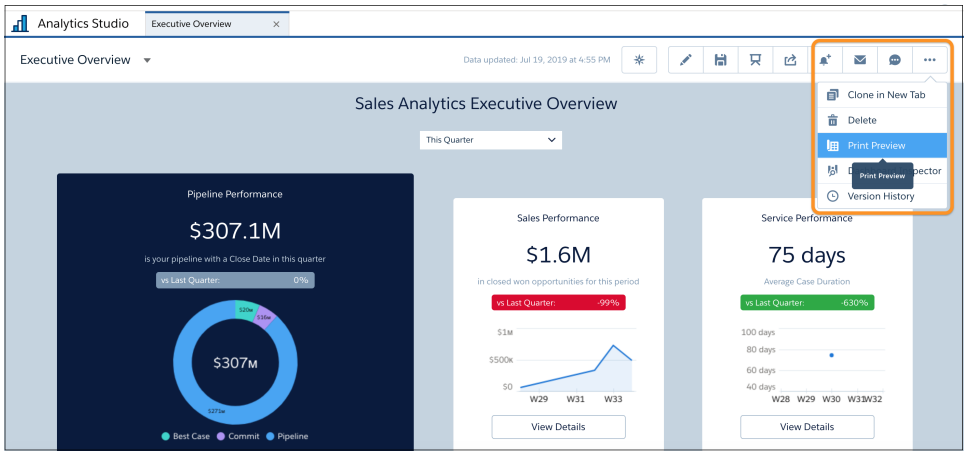
Salesforce **ヘルプ:** Salesforce **システム管理者のための** Quip **インテグレーション設定**

印刷または PDF として保存する前にダッシュボードをプレビュー

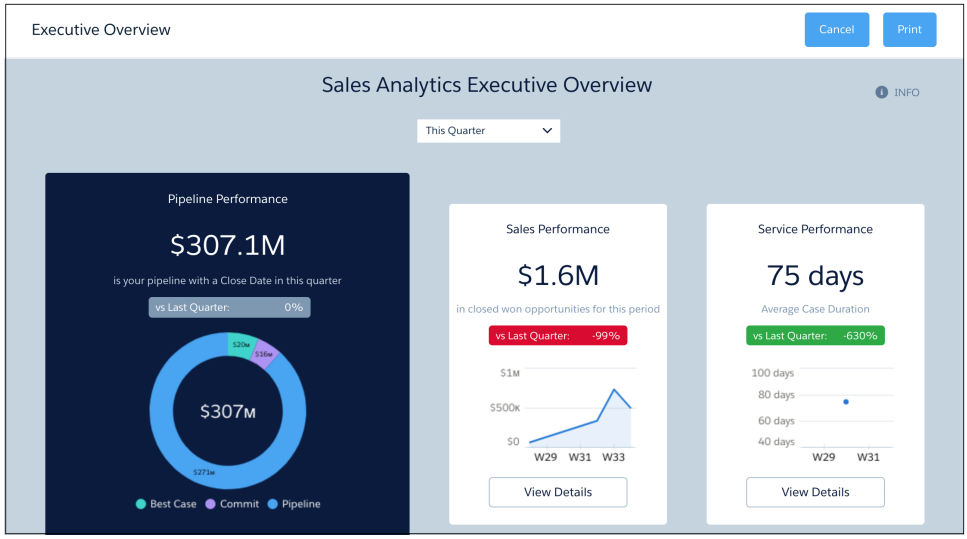
印刷プロセスがより直感的になりました。ダッシュボードアクションはプレビューであることが明確になり、プレビュー後にブラウザから印刷できます。

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Einstein Analytics **に適用されます。** Einstein Analytics **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法: ダッシュボードアクションメニューの印刷オプションは [印刷プレビュー] **と呼ばれるようになり、ダッシュボードの印刷用ビューが開かれます。**



印刷プレビューで、[印刷]をクリックしてブラウザの印刷ダイアログを開きます。画像をプリンタに出力するか、PDF ファイルとして保存できます。[キャンセル] ボタンでプレビューを閉じ、実行中のダッシュボードに戻ります。



Lightning ページタブに Einstein Analytics ダッシュボードからレコードを開く

埋め込みの Einstein Analytics ダッシュボードまたは [分析] タブから開いたレコードは、新しいブラウザタブではなく、Lightning ページタブで開かれます。Lightning ページタブと同様の環境で、より少ないクリック数でダッシュボードからインサイトに基づいてアクションを実行できます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーの Einstein Analytics ダッシュボードコンポーネントで、[リンクを新規ウィンドウで開く] を選択します。この設定は、デフォルトで有効になっています。

Analytics モバイルアプリケーション: Einstein Analytics と Salesforce モバイルアプリケーション

Einstein Analytics for iOS/Android バージョン 8.0 には、iOS のお気に入りと、Android での新しいグラフのサポート、そしてさらに多くのパフォーマンス改善が追加されています。最新バージョンの Salesforce モバイルアプリケーションでは、Einstein Analytics ユーザは、アプリケーションを切り替えなくても、より多くの作業を行えるようになります。Salesforce for iOS のお気に入り、グローバル検索、リンク、レコードページ、Lightning ページから Einstein Analytics ダッシュボードにアクセスします。

このセクションの内容:

Einstein Analytics for iOS/Android の Winter '20 バージョンへのアップグレード
Einstein Analytics バージョン 8.0 は、2019 年 10 月 14 日の週に正式リリースされます。

Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用
Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の最新の更新により、ユーザはデバイスのモバイルアプリケーションを切り替えずにさらに多くの操作を実行できます。全画面ダッシュボードの表示からお気に入りの追加まで、ユーザは Salesforce for iOS から離れずに、Einstein Analytics での重要な ToDo の多くを実行できます。Salesforce for iOS と Salesforce for Android では、Einstein Analytics 環境に既知の相違点があります。

Einstein Analytics for iOS/Android の Winter '20 バージョンへのアップグレード

Einstein Analytics バージョン 8.0 は、2019 年 10 月 14 日の週に正式リリースされます。

このセクションの内容:

Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化
Einstein Analytics for iOS 8.0 には、新しい日付ウィジェット、読み込みが高速化されたダッシュボード、お気に入りへのアクセスなど、多くの機能が追加されています。

Einstein Analytics for Android のその他の機能強化
Einstein Analytics for Anroid 8.0 には、すべてのグラフ種別のサポート、お気に入りへのアクセス、ディープリンクのサポートなど、いろいろな機能が追加されています。

Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化

Einstein Analytics for iOS 8.0 には、新しい日付ウィジェット、読み込みが高速化されたダッシュボード、お気に入りへのアクセスなど、多くの機能が追加されています。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for iOS に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- – パフォーマンスの向上: ダッシュボードの読み込み時間がさらに短縮されました。
- – お気に入り: モバイルやデスクトップで、アセットをお気に入りに登録して、すばやくアクセスできます。

- 新しい日付ウィジェット: 新しい日付ウィジェットでは、日付と範囲演算子が事前に設定されており、相対日付をより自由に設定できます。
- 中点グラフ: 新しい中点グラフでは、総計値を定性的ベンチマークに対して比較できます。
- 新しいサンプルデータ: 新しい Playground アプリケーションで、Einstein Analytics のパワーを探索できます。
- バグの修正や操作性の向上。

方法: Analytics は iOS 10 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から Einstein Analytics バージョン 8.0 をダウンロードします。

Einstein Analytics for Android のその他の機能強化

Einstein Analytics for Anroid 8.0 には、すべてのグラフ種別のサポート、お気に入りへのアクセス、ディープリンクのサポートなど、いろいろな機能が追加されています。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for Android に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- 新しいグラフ: Sankey、評価、中点など、デスクトップのすべてのグラフがサポートされるようになりました。
- グラフの画像: フェイス、フラグ、アイコン、画像を棒や数字の隣に配置することで、より魅力的なグラフを作成できます。
- グラフの向上: 改善されたテキスト表示を備えた豊富な視覚効果をグラフで使用します。
- お気に入り: お気に入りのアセットにすばやくアクセスできます。
- ディープリンク: Einstein Analytics アプリケーションでアセットを直接起動できます。
- 改善されたユーザインターフェース: ユーザエクスペリエンスの向上のために UI が更新されています。
- バグの修正とパフォーマンスの向上。

方法: Analytics は Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。機能強化された最新のものを取得するには、Google Play™ から Einstein Analytics バージョン 8.0 をダウンロードします。

Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の使用

Salesforce モバイルアプリケーションでの Einstein Analytics の最新の更新により、ユーザはデバイスのモバイルアプリケーションを切り替えずにさらに多くの操作を実行できます。全画面ダッシュボードの表示からお気に入りの追加まで、ユーザは Salesforce for iOS から離れずに、Einstein Analytics での重要な ToDo の多くを実行できます。Salesforce for iOS と Salesforce for Android では、Einstein Analytics 環境に既知の相違点があります。

対象: この変更は、新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

時期: 新しい Salesforce **モバイルアプリケーションは、**2019 **年** 10 **月** 14 **日の週に利用可能になります。**

関連トピック:

Salesforce **アプリケーションの** Einstein Analytics: **より強力なインタラクション**

コミュニティ: Salesforce CMS、アクセス制御、ゲストユーザのセキュリティ強化

Salesforce CMS **を使用した** Salesforce **でのコンテンツの作成、整理、公開が正式にリリースされました。ワークスペースのアクセス制御を使用して、コミュニティの公開および編集が可能なユーザをより厳密に制御できます。また、認証されていないコミュニティユーザにアクセス権を付与すると同時に、**Salesforce **によるデータの保護を確実にできます。**

ヒント: **今日の** Salesforce **には多数の** Lightning (Lightning Experience、Lightning **フレームワーク、**Lightning Web **コンポーネント) が存在しており、各々のコミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。概要は次のとおりです。**

Lightning **コミュニティは、**Lightning Experience **と同様、**Lightning **プラットフォームと** Lightning **コンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために** Lightning Experience **を有効にする必要はありません。**

また、コミュニティユーザに影響する変更については、リリースノートの「Lightning **コンポーネント」セクションを参照してください。**

このセクションの内容:

Salesforce CMS: **正式リリース、カスタムコンテンツ種別、翻訳、新しいレイアウトオプション**

Salesforce CMS **が正式リリースになり、デザインが更新されて新しいオプションがいくつか追加されました。こうした追加要素には、コンテンツをローカライズして、コンテンツを** B2B Commerce **管理パッケージおよび** Salesforce **タブ +** Visualforce **を使用して作成されたコミュニティで使用できるようにする機能が含まれます。**

Lightning **コミュニティ: 柔軟なレイアウト、アクセス制御、ナビゲーションメニューのバリエーション**

もう Salesforce **のページレイアウトに限定されません。柔軟なレイアウトを使用して、高度にカスタマイズされたページを作成できるようになりました。ロールベースのアクセス権を使用して、チームがコミュニティを構築およびカスタマイズするときに誰が何をできるかを制御します。複数のナビゲーションメニューを作成し、タイルメニューを含めて、任意のナビゲーションメニューコンポーネントで再利用できます。**

コミュニティビルダーでの Lightning **コンポーネント: タイルメニューの正式リリースとレコードリストのヘッダーのカスタマイズ**

タイルメニューが正式にリリースされ、本番で使用する準備が整いました。レコードリストコンポーネントのヘッダーをカスタマイズして、リストアクション、リスト検索、検索条件などを含めることができます。ユーザプロファイルの写真を表示する必要がないユーザには非表示にできます。

ゲストユーザ: アクセス制限、ゲストユーザの非公開の組織のデフォルト、新しい共有ルール

Salesforce の最小限アクセスの法則に合わせてゲストユーザのセキュリティを大幅に見直しました。簡素化された明確な共有モデルにより、ゲストユーザの組織全体のデフォルト、レコードの所有権、促進ゲストユーザのレコードアクセスを変更しました。新しい共有ルールタイプを使用してデータをゲストユーザと共有することもできます。

セキュリティと共有: デフォルトでのユーザ表示の無効化、TLS 1.2、メール確認

新規作成された Winter '20 組織では、コミュニティとポータルの表示がデフォルトで無効になりました。Salesforce では、古い Transport Layer Security (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にして、TLS 1.2 が必須になりました。コミュニティユーザがメールアドレスを変更した場合に備えて、メール確認を設定できます。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

Salesforce CMS: 正式リリース、カスタムコンテンツ種別、翻訳、新しいレイアウトオプション

Salesforce CMS が正式リリースになり、デザインが更新されて新しいオプションがいくつか追加されました。こうした追加要素には、コンテンツをローカライズして、コンテンツを B2B Commerce 管理パッケージおよび Salesforce タブ + Visualforce を使用して作成されたコミュニティで使用できるようにする機能が含まれます。

このセクションの内容:

Salesforce CMS の機能の利用 (正式リリース)

Salesforce CMS のデザインが刷新され、新しいオプションと共に正式リリースされました。コンテンツをローカライズし、カスタムコンテンツ種別を作成して、コンテンツを B2B Commerce 管理パッケージや、Salesforce タブ + Visualforce を使用して作成されたコミュニティで使用できるようにしましょう。アプリケーションランチャーで Salesforce CMS を確認してください。

Salesforce CMS カスタムコンテンツの表示方法の制御

Salesforce CMS のカスタムコンテンツタイプをサポートするため、コミュニティビルダーに [コンテンツページ] というページ種別が追加されました。

Salesforce CMS ワークスペースへの言語の追加

ビジネスがグローバルであれば CMS もグローバルになります。新規または既存の CMS ワークスペースに言語を追加して、公開チャネルでサポートする必要のあるすべての言語でコンテンツを提供できるようになりました。

Salesforce CMS での翻訳済みコンテンツの使用

CMS を複数の言語で設定してある場合は、翻訳したコンテンツを提供して、すべてのバージョンをコンテンツワークスペースから管理できます。翻訳するコンテンツを特定して、ローカライズパートナーにエクスポートして翻訳してもらったら、翻訳済みのコンテンツをインポートして、宛先にパブリッシュします。

Salesforce CMS の機能の利用 (正式リリース)

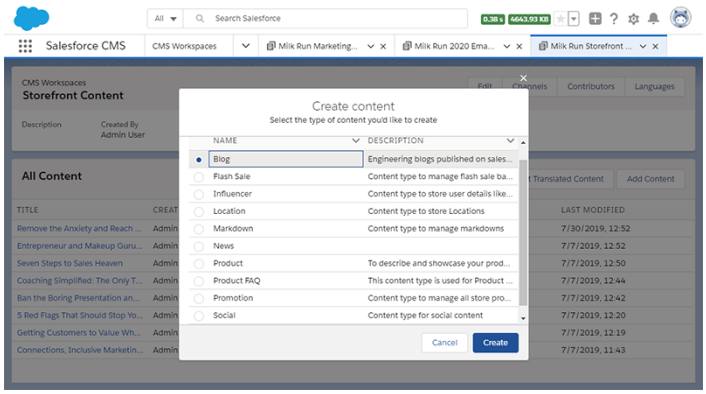
Salesforce CMS のデザインが刷新され、新しいオプションと共に正式リリースされました。コンテンツをローカライズし、カスタムコンテンツ種別を作成して、コンテンツを B2B Commerce 管理パッケージや、Salesforce タブ + Visualforce を使用して作成されたコミュニティで使用できるようにしましょう。アプリケーションランチャーで Salesforce CMS を確認してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce CMS は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを介して使用できます。

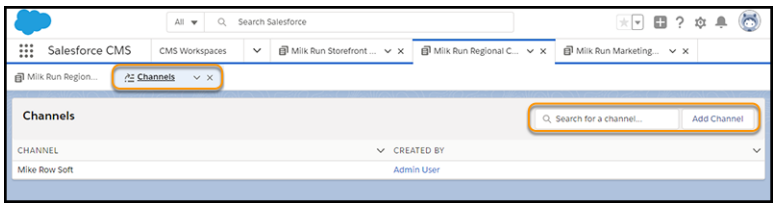
対象ユーザ: Salesforce CMS にアクセスしてコンテンツを作成するには、Salesforce システム管理者であるか、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。CMS ワークスペースへのチャネルとしてコミュニティを追加するには、そのコミュニティで管理者権限を持っている必要があります。コミュニティでコンテンツを整理して公開するには、そのコミュニティで適切な権限を持っている必要があります。

理由: Salesforce CMS を本番で使用する準備が整ったら、最後の仕上げは完了です。

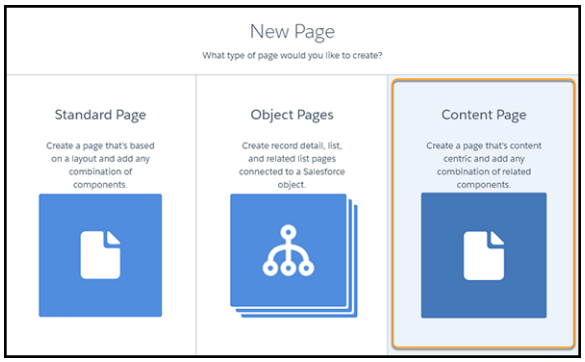
- コンテンツはもう Lightning コミュニティだけのものではなくなりました。Chatter REST API または Apex を使用して Salesforce CMS でコンテンツを作成して管理し、Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに追加します。
- メタデータ API で ManagedContentType を使用することで、バナー、商品の発表、FAQ など、ニーズに合ったカスタムコンテンツ種別を作成します。カスタムコンテンツ種別は、Salesforce CMS アプリケーションではフォームとして表示され、公開するコレクションの作成手段として使用できます。



- Salesforce CMS アプリケーションで、[共有先] が [チャネル] になりました。コンテンツを共有するコミュニティを追加する場所であることは変わりませんが、CMS ワークスペースで探す場合は新しい名前で探します。



- コミュニティワークスペースで、コレクションの機能が強化されました。コンテンツ配信の対象を特定しやすくするため、手動および動的な CMS コンテンツコレクションが特定のコンテンツタイプに基づくようになりました。
- コミュニティワークスペースで、プレゼンテーションコントロールを強化するため、各コンテンツタイプに独自のコンテンツ詳細ページが作成されます。



- コミュニティビルダーでは新しいレイアウトオプションが多数追加され、創造力を発揮して強化された CMS コンポーネントを作成でき、ニーズや想像力に対応する機能が強化されました。

  メモ: 更新されたコンポーネントの以前のバージョンで作成されたコンテンツのレイアウトも引き続き表示できますが、編集はできません。たとえば、以前のリリースでバナーを作成した場合、そのレイアウトのプロパティを変更することはできません。ただし、新しいレイアウトに切り替えてカスタマイズすることはできます。以前に設定されたカスタマイズは持ち越されないため、新しいコンポーネントに更新する前に実行した内容はメモを取っておいてください。

方法: アプリケーションランチャーで Salesforce CMS を表示するには、組織でコミュニティを有効にする必要があります。ユーザは [カスタムアプリケーション設定] で **Salesforce CMS** を有効にしておく必要があり、CMS ワークスペースは [設定] のプロファイルの [タブ設定] で [デフォルトで表示] に設定する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Content Management System (CMS) (コンテンツ管理システム (CMS)) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コミュニティユーザライセンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Communities Developer Guide (*Lightning コミュニティ開発者ガイド*): コンテンツ種別のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API: Salesforce CMS 用のカスタムコンテンツ種別

Chatter REST API 開発者ガイド: 管理コンテンツ配信

APEX 開発者ガイド: ManagedContent クラス

Salesforce CMS カスタムコンテンツの表示方法の制御

Salesforce CMS のカスタムコンテンツタイプをサポートするため、コミュニティビルダーに [コンテンツページ] というページ種別が追加されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce CMS は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを介して使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: コンテンツ種別のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 詳細ページの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Salesforce CMS の機能の利用 (正式リリース)

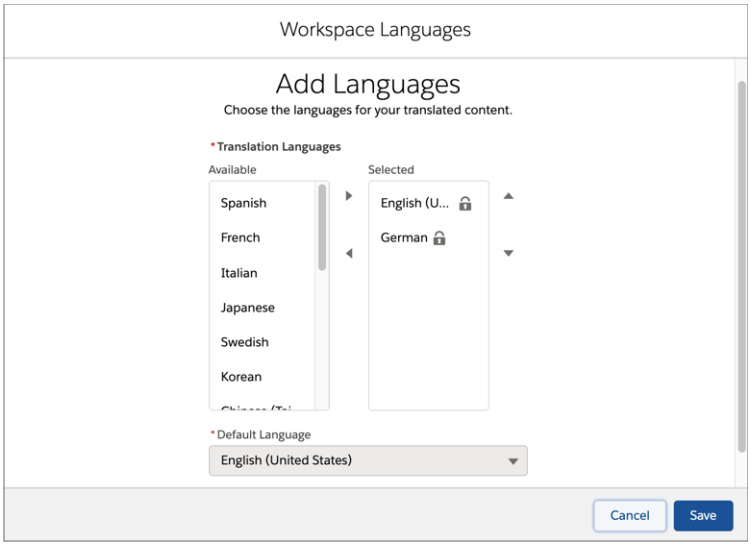
Salesforce CMS ワークスペースへの言語の追加

ビジネスがグローバルであれば CMS もグローバルになります。新規または既存の CMS ワークスペースに言語を追加して、公開チャネルでサポートする必要のあるすべての言語でコンテンツを提供できるようになりました。

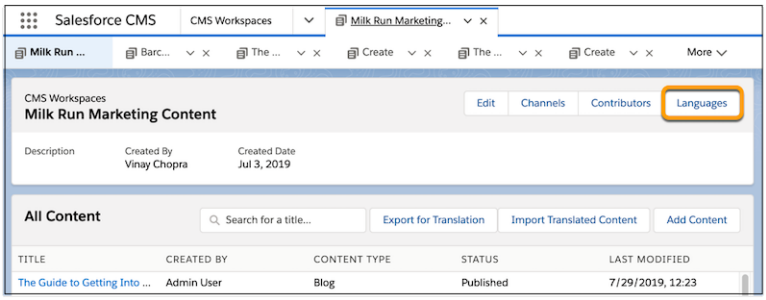
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce CMS は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを介して使用できます。

対象ユーザ: 言語設定を更新するには、Salesforce システム管理者またはそのワークスペースのコンテンツ管理者である必要があります。

方法: コンテンツスペースを作成する時に翻訳言語を設定します。



既存のワークスペースに言語を追加するには、[言語]ボタンをクリックします。コンテンツ管理者ではない場合は、ワークスペースで利用できる言語の参照のみのリストが表示されます。



Salesforce CMS での翻訳済みコンテンツの使用

CMSを複数の言語で設定してある場合は、翻訳したコンテンツを提供して、すべてのバージョンをコンテンツワークスペースから管理できます。翻訳するコンテンツを特定して、ローカライズパートナーにエクスポートして翻訳してもらったら、翻訳済みのコンテンツをインポートして、宛先にパブリッシュします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce CMS は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティを介して使用できます。

対象ユーザ: コンテンツ項目の状況を更新するには、CMS ワークスペースでコンテンツ管理者またはコンテンツマネージャーロールを持っている必要があります。翻訳済みコンテンツをインポートまたはエクスポートするには、CMS ワークスペースのコンテンツ管理者である必要があります。

Lightning コミュニティ: 柔軟なレイアウト、アクセス制御、ナビゲーションメニューのバリエーション

もう Salesforce のページレイアウトに限定されません。柔軟なレイアウトを使用して、高度にカスタマイズされたページを作成できるようになりました。ロールベースのアクセス権を使用して、チームがコミュニティを構築およびカスタマイズするときに誰が何をできるかを制御します。複数のナビゲーションメニューを作成し、タイルメニューを含めて、任意のナビゲーションメニューコンポーネントで再利用できます。

このセクションの内容:

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

柔軟なレイアウトによる革新的なデザイン

柔軟なレイアウトで自由なデザインを実現し、十分にカスタマイズされたページを作成できます。調整可能な列と簡単に追加できるセクションで夢のようなデザインを実現できます。背景の画像と色を使用してあらゆるデザインを可能にします。

ビルダーでの寄稿者とそのロールの管理

ロールベースのアクセスにより、コミュニティビルダーでチームがサイトを構築およびカスタマイズするときに誰が何をできるかを制御するのが簡単になります。コミュニティワークスペースで [管理] タイルから寄稿者を追加してロールを割り当てます。

ナビゲーションメニューのバリエーションの設定

1 つのナビゲーションメニューを 1 か所だけで使用できた時代は終わりました。複数のナビゲーションメニューを作成し、任意のナビゲーションメニューコンポーネントとタイルメニューコンポーネントで再利用できるようになりました。ただし、これで終わりではありません。異なるテーマレイアウトに基づいて異なるナビゲーションメニューを作成することも、既存のメニューに基づいてカスタムナビゲーションコンポーネントを作成することもできます。

質問の文字制限の明確化

コミュニティフィードの [質問] 項目には 255 文字の制限がありましたが、それが明記されていませんでした。質問がその制限を超えた場合、[質問する] をクリックした後にのみ、そのことが表示されていました。今回のリリースでは、制限が [質問] 項目に明記され、制限を適用するために 255 文字に達すると操作が中断されます。

トピックと詳細の間のナビゲーションの改善

以前は、トピックの質問ページを送って特定の質問を選択してからブラウザの [戻る] をクリックすると、最初のページに戻っていました。これからは、[戻る] をクリックすると、クリックした質問のページに戻るようになりました。リストと詳細の間を移動するたびに毎回最初のページからやり直す必要がなくなりました。

レコードのファイルを顧客に表示

レコードはコミュニティの顧客と共有するものであり、そのレコードでどのファイルを顧客に表示するかを決定できるようになりました。デフォルトでは、レコードのファイルはコミュニティの顧客に表示されません。ファイルの共有詳細ページに新たに追加された [顧客アクセス] オプションを使用して、顧客がいつファイルを表示できるかを決定できます。

API を使用した多くのオーディエンスの作成と割り当て (パイロット)

Chatter REST API およびメタデータ API を使用して利用者を作成し、プログラムでページ、コンポーネント、ブランドセットなどの対象に割り当てます。多くのオーディエンスを一度に割り当てる機能は、位置情報ベースのオーディエンスを組織内の複数のコンポーネントに割り当てる場合などに便利です。

権限セットの代理管理

外部ユーザの代理管理者がアカウントで他の外部ユーザの権限セットを管理できるようになりました。もうプロファイルが重複することはありません!

代理システム管理者による新規ユーザ作成の容易化

パートナーコミュニティにメンバーを追加する場合、外部の代理システム管理者は、言語とロケール設定を手動で入力する必要がなくなりました。代わりに、項目が登録されたドロップダウンメニューから、言語、ロケール、そして Chatter 設定を選択できます。

より詳細な幅の制御による視野の拡大

コンテンツがページで占める領域を決定できます。Lightning テーマテンプレートのすべてのデフォルトのテーマレイアウトに、最大ページ幅を設定するオプションが追加されました。ページをブラウザウィンドウの限界まで拡大することも、ピクセルサイズで特定の境界線を設定し、ページでのコンテンツの幅を制御することもできます。

新しい Google Analytics™ スタンダードを使用した追跡の改善

新しいグローバルサイトタグ (gtag.js) をスタンダードに統合したことで、Google の最新の追跡機能およびインテグレーションを利用できるようになりました。

コミュニティテンプレートの切り替え前の警告

コミュニティのテンプレートを変更すると、既存のコミュニティで意図しないサポート対象外の問題が発生する場合があります。テンプレートを切り替えると、コミュニティのカスタマイズ内容とページがすべて永久に削除されます。テンプレートを切り替える前に、確認のためのメッセージが表示されるようになりました。

取引先チームのカスタマイズによるチームセリングの強化

カスタマイズ可能な取引先チームを使用することで、複雑な取引先リレーションを Salesforce でより効率的に管理できます。取引先チームレイアウトにカスタム項目、ボタン、リンクを追加することで、より多くの情報を収集できます。検証ルール、Apex トリガ、プロセスビルダー、ワークフロールールで取引先チームを使用すれば、データをクリーンに保ち、手動でのデータ入力を最小限に抑えることができます。また、取引先チームのレポートを作成することもできるようになりました。

商談および見積での商品順序の設定

営業担当は、商談の [商品] 関連リストまたは見積の [見積品目名] 関連リストの商品を簡単に並べ替えることができます。商品の並び方は、追加順には制限されなくなりました。商談と見積がリンクされていて、どちらかのレコードで商品の並び順序を変更すると、同期時に並び順序が更新されます。

商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加

商談を扱う営業担当の使い勝手を向上させるため、スケジュール関連リストの項目に [編集] と [削除] のアクションを追加しました。

チームが所有する商談の 1 クリックでの絞り込み

営業マネージャは、ロール階層に基づいた新しい商談リストビューを使用することで、リストビューを作成することなく、直属および非直属の部下が所有する商談を表示できるようになりました。

取引先と商談チームメンバーアクセス権に関するインサイトの入手

チームがコラボレーションする場合は、取引先や商談、そして関連するレコードを誰が表示または編集できるかを知っておいた方が効果的な作業が行えます。Lightning コミュニティで作業を行うチームは、[チームメンバーのアクセス権]アクションを使用して、他のチームメンバーによるレコードへのアクセス権について知ることができます。

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: Summer'19 でコミュニティを作成した場合、何もする必要はありません。コミュニティを更新するときがくると、コミュニティビルダーに更新フラグ が表示されます。応答画面に従ってコミュニティを更新します。

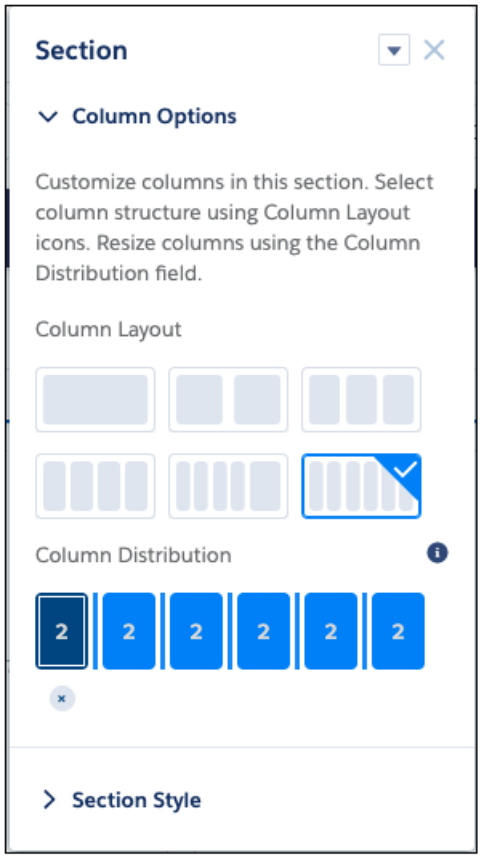
重要: コミュニティを更新する前に、更新によるコミュニティへの影響を理解するために「コミュニティのテンプレートの更新」を参照してください。この手動更新に含まれる唯一の機能は新しい Google Analytics™ 標準を使用した追跡の改善です。

柔軟なレイアウトによる革新的なデザイン

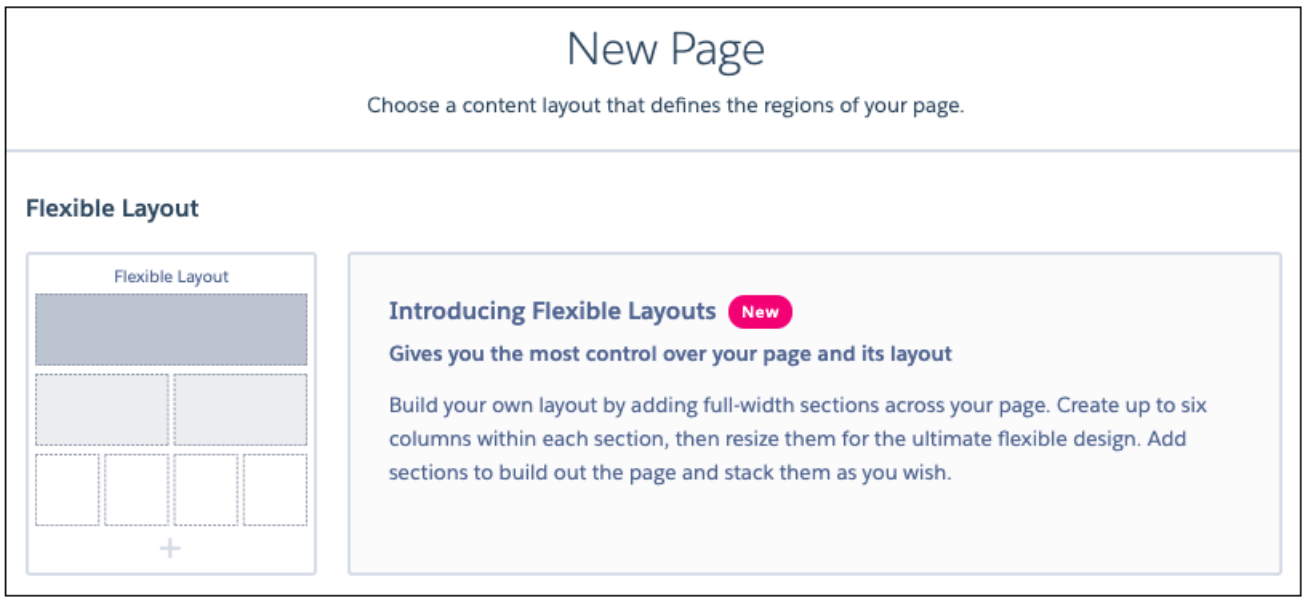
柔軟なレイアウトで自由なデザインを実現し、十分にカスタマイズされたページを作成できます。調整可能な列と簡単に追加できるセクションで夢のようなデザインを実現できます。背景の画像と色を使用してあらゆるデザインを可能にします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: ユニークなコンテンツにはユニークな手法が必要です。レイアウトアイコン配置をクリックするだけで、ページに配置するセクションと列の数をすばやく決定できます。列のサイズを変更するには、列間のハンドルを掴んでドラッグします。[セクションのスタイル] オプションを使用して、画像、色、セクションの高さ、コンテンツの幅をカスタマイズします。[+] アイコンを使用してセクションを追加していき、ページを構成します。



方法: コミュニティビルダーの上部のツールバーで [ページ] メニューを開きます。[新しいページ] > [標準ページ] を選択します。次に [柔軟なレイアウト] を選択して、ページの作成を開始します。既存のページで柔軟なレイアウトを使用するには、ページバリエーションを作成してください。



ビルダーでの寄稿者とそのロールの管理

ロールベースのアクセスにより、コミュニティビルダーでチームがサイトを構築およびカスタマイズするときに誰が何をできるかを制御するのが簡単になります。コミュニティワークスペースで[管理]タイルから寄稿者を追加してロールを割り当てます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 以前のコミュニティ管理は、コミュニティ管理権限を持つシステム管理者がすべてのコミュニティとその機能に完全にアクセスできる必要があったため、困難でした。ほとんどのコミュニティ更新を実行するには、管理者アクセス権が必要でした。特定のコミュニティのコミュニティワークスペースに寄稿者としてユーザを追加し、次のいずれかのロールを割り当てることができるようになりました。

エクスペリエンス管理者
: これらの寄稿者は、割り当てられたコミュニティですべての操作を行うことができます。また、コミュニティワークスペースへのアクセス権があり、寄稿者の管理やサイトの公開を行うことができます。

公開者
: これらの寄稿者は、ビルドとパブリッシュを支援します。また、コミュニティワークスペースへのアクセス権があり、割り当てられたコミュニティでサイトをパブリッシュできます。寄稿者を管理することはできません。コミュニティワークスペースの[管理] > [寄稿者] タブへの参照アクセス権を持ちます。

ビルダー
: これらの寄稿者は、割り当てられたコミュニティのビルドを支援します。コミュニティビルダーにアクセスできます。サイトをパブリッシュしたり、寄稿者を管理したりすることはできません。コミュニティワークスペースの[管理] > [寄稿者] タブへの参照アクセス権を持ちます。

閲覧者
: これらの寄稿者は、割り当てられたコミュニティでコミュニティビルダーへの参照アクセス権を持ちます。サイトをパブリッシュしたり、寄稿者を管理したりすることはできません。コミュニティワークスペースの[管理] > [寄稿者] タブへの参照アクセス権を持ちます。

方法: 寄稿者を追加するには、Salesforce システム管理者またはそのコミュニティのエクスペリエンス管理者である必要があります。コミュニティで、コミュニティワークスペースに移動して、[管理] タイルを選択します。次に、[寄稿者] > [寄稿者を追加] を選択し、必要に応じてロールを割り当てます。

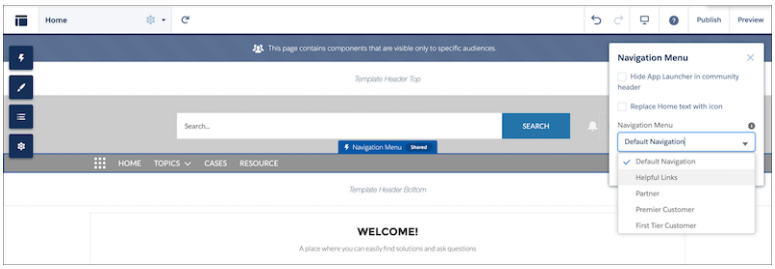
メモ: 各寄稿者は、次の要件を満たす必要があります。

- 「コミュニティの作成および設定」権限が無効になっていること。
- ユーザのプロファイルまたは権限セットが [管理] > [メンバーシップ] からコミュニティに追加されていること。

ナビゲーションメニューのバリエーションの設定

1つのナビゲーションメニューを1か所だけで使用できた時代は終わりました。複数のナビゲーションメニューを作成し、任意のナビゲーションメニューコンポーネントとタイルメニューコンポーネントで再利用できるようになりました。ただし、これで終わりではありません。異なるテーマレイアウトに基づいて異なるナビゲーションメニューを作成することも、既存のメニューに基づいてカスタムナビゲーションコンポーネントを作成することもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。



質問の文字制限の明確化

コミュニティフィードの [質問] 項目には 255 文字の制限がありましたが、それが明記されていませんでした。質問がその制限を超えた場合、[質問する]をクリックした後にのみ、そのことが表示されていました。今回のリリースでは、制限が [質問] 項目に明記され、制限を適用するために 255 文字に達すると操作が中断されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

質問の文字制限の明確化

トピックと詳細の間のナビゲーションの改善

以前は、トピックの質問ページを送って特定の質問を選択してからブラウザの[戻る]をクリックすると、最初のページに戻っていました。これからは、[戻る]をクリックすると、クリックした質問のページに戻るようになりました。リストと詳細の間を移動するたびに毎回最初のページからやり直す必要がなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: この変更は、コンパクトフィード種別に適用され、トピックの詳細ページで使用した場合に適用されます。トピックの詳細ページの [検索結果] コンポーネントにも表示されます。

メモ: 「ページを送る」とは、[さらに表示] ボタンをクリックして追加のコンテンツを表示することを意味します。

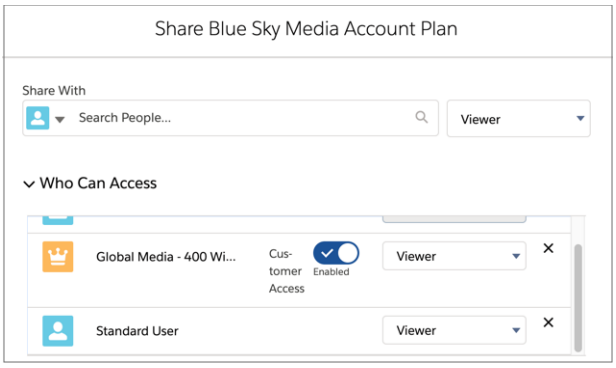
レコードのファイルを顧客に表示

レコードはコミュニティの顧客と共有するものであり、そのレコードでどのファイルを顧客に表示するかを決定できるようになりました。デフォルトでは、レコードのファイルはコミュニティの顧客に表示されません。ファイルの共有詳細ページに新たに追加された[顧客アクセス]オプションを使用して、顧客がいつファイルを表示できるかを決定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: ファイルへの「寄稿者」または「所有者」アクセス権を持つユーザは、[顧客アクセス] オプションを変更できます。ファイルへの「参照のみ」アクセス権しかないユーザは、[顧客アクセス]オプションの参照のみを行えます。外部ユーザには、このオプションは表示されません。

方法: Salesforce の [ファイル] ホームで、行レベルのアクションリストまたはファイルプレビューから [共有] をクリックします。ファイルが共有されている場所を表示するには、共有の詳細ウィンドウで [アクセス権のあるユーザ] セクションを展開します。[顧客アクセス] オプションは、レコードで共有されているすべてのファイルの共有の詳細に表示されます。



共有レベルを設定するには、切り替えボタンの隣にある選択リストで[ビューア]を選択して、ファイルへの参照アクセス権を顧客に付与します。[レコードごとに設定]を選択すると、顧客のファイルアクセス権はレコードアクセス権によって決まります。レコードに対して参照アクセス権を持っている場合はファイルに対しても参照アクセス権を持ち、レコードに対して編集アクセス権を持っている場合はファイルに対して寄稿者アクセス権を持ちます。

[顧客アクセス]オプションは、ユーザ、グループ、ワークスペース、コミュニティ、または組織と共有されているファイルでは表示されません。

メモ: ファイルは、[ファイル] 関連リストを使用するか、レコードのフィードで投稿されたレコードからのみレコードに共有できます。

API を使用した多くのオーディエンスの作成と割り当て (パイロット)

Chatter REST API およびメタデータ API を使用して利用者を作成し、プログラムでページ、コンポーネント、ブランドセットなどの対象に割り当てます。多くのオーディエンスを一度に割り当てる機能は、位置情報ベースのオーディエンスを組織内の複数のコンポーネントに割り当てる場合などに便利です。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

メモ: パーソナライズは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。パーソナライズは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

Developer Edition がある場合、パイロットに参加せずにパーソナライズ機能を使用するには、Salesforce にお問い合わせください。エディションにかかわらず、パーソナライズは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。すべてのコマンド、パラメータ、およびその他の機能は、通知の有無に関わらずいつでも変更または廃止される可能性があります。

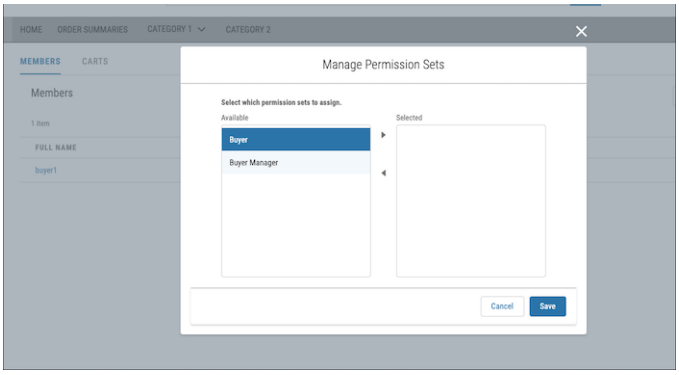
詳細は、Chatter REST API およびメタデータ API のリリースノートを参照してください。

権限セットの代理管理

外部ユーザの代理管理者がアカウントで他の外部ユーザの権限セットを管理できるようになりました。もうプロファイルが重複することはありません!

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法:

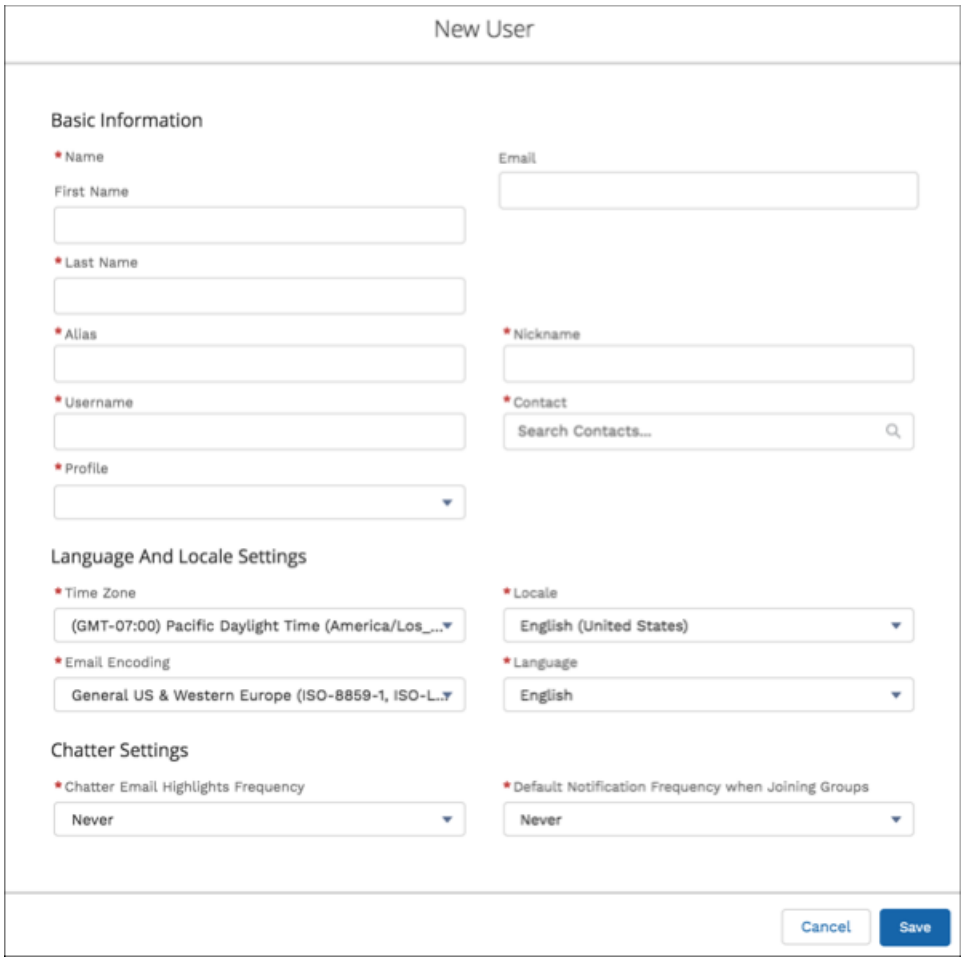


代理システム管理者による新規ユーザ作成の容易化

パートナーコミュニティにメンバーを追加する場合、外部の代理システム管理者は、言語とロケール設定を手動で入力する必要がなくなりました。代わりに、項目が登録されたドロップダウンメニューから、言語、ロケール、そして Chatter 設定を選択できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法:システム管理者は、代理システム管理者が自分のアカウントでユーザを作成する際に使用する Light ユーザ作成フォームを設定できるようになりました。[言語]、[ロケール設定]、[Chatter設定]などの必須項目はフォームから除外できます。項目の情報は自動的に入力され、代理システム管理者の設定がデフォルトとして使用されます。代理システム管理者が別のロケール、言語、および Chatter 設定でユーザを作成する場合は、項目をフォームに残しておいて、項目のドロップダウンリストから更新できます。

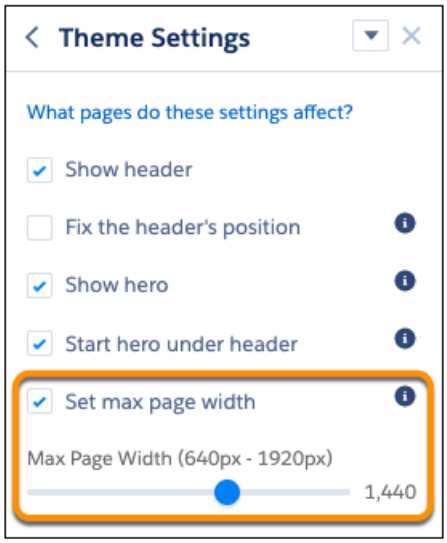


より詳細な幅の制御による視野の拡大

コンテンツがページで占める領域を決定できます。Lightning テーマテンプレートのすべてのデフォルトのテーマレイアウトに、最大ページ幅を設定するオプションが追加されました。ページをブラウザウィンドウの限界まで拡大することも、ピクセルサイズで特定の境界線を設定し、ページでのコンテンツの幅を制御することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティビルダーで[テーマパネル]>[テーマの設定]を選択します。[最大ページ幅を設定]を選択し、スライダを使用して幅を設定します。[最大ページ幅を設定]を選択解除すると、ページの幅はページいっぱいになります。この設定は、ヘッダ、ヒーローまたはフッター、カスタム上書き、既存のテーマレイアウトには影響しません。



関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド): Create Custom Theme Layout Components for Communities (コミュニティ用のカスタムテーマレイアウトコンポーネントの作成) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい Google Analytics™ スタンダードを使用した追跡の改善

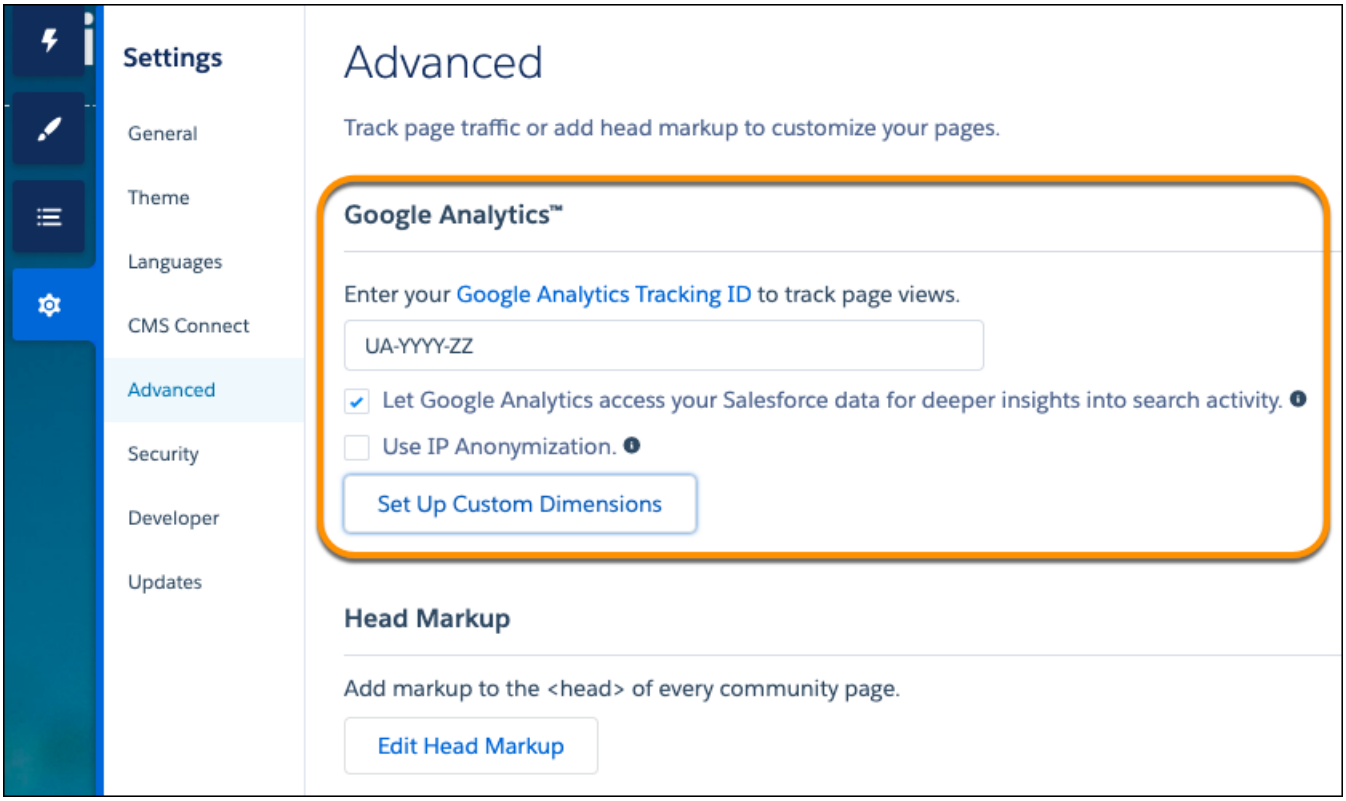
新しいグローバルサイトタグ (gtag.js) をスタンダードに統合したことで、Google の最新の追跡機能およびインテグレーションを利用できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、すべてのコミュニティ管理者およびエクスペリエンス管理者が使用できます。

方法: 新しいコミュニティでは自動的に gtag スタンダードが使用されます。Winter '20 より前に作成されたコミュニティでこの機能を利用するためには、最新のコミュニティテンプレートに手動で更新する必要があります。

メモ: Analytics と AdWords 両方の機能が正常に動作するように、組織の CSP 信頼済みサイトには `https://www.googletagmanager.com/gtag/js` が自動的に追加されます。



コミュニティ用のカスタム Lightning コンポーネントの開発者用に、`forceCommunity:analyticsInteractionGtag` を使用してカスタムコンポーネントによってトリガされたイベントを追跡します。たとえば、カスタムボタンを作成し、ボタンのコントローラに `forceCommunity:analyticsInteractionGtag` イベントを含めることもできます。ユーザがボタンをクリックするたびに、イベントデータが Google Analytics に送信されます。

メモ: コミュニティを新しいテンプレートに更新するための時間を考慮して、新しいコミュニティでも更新済みのコミュニティでも、引き続き従来の `forceCommunity:analyticsInteraction` Aura イベントを使用できるようになっています。ただし、改善された追跡とインテグレーションを活用できるように、新しいスタンダードに更新することをお勧めします。

関連トピック:

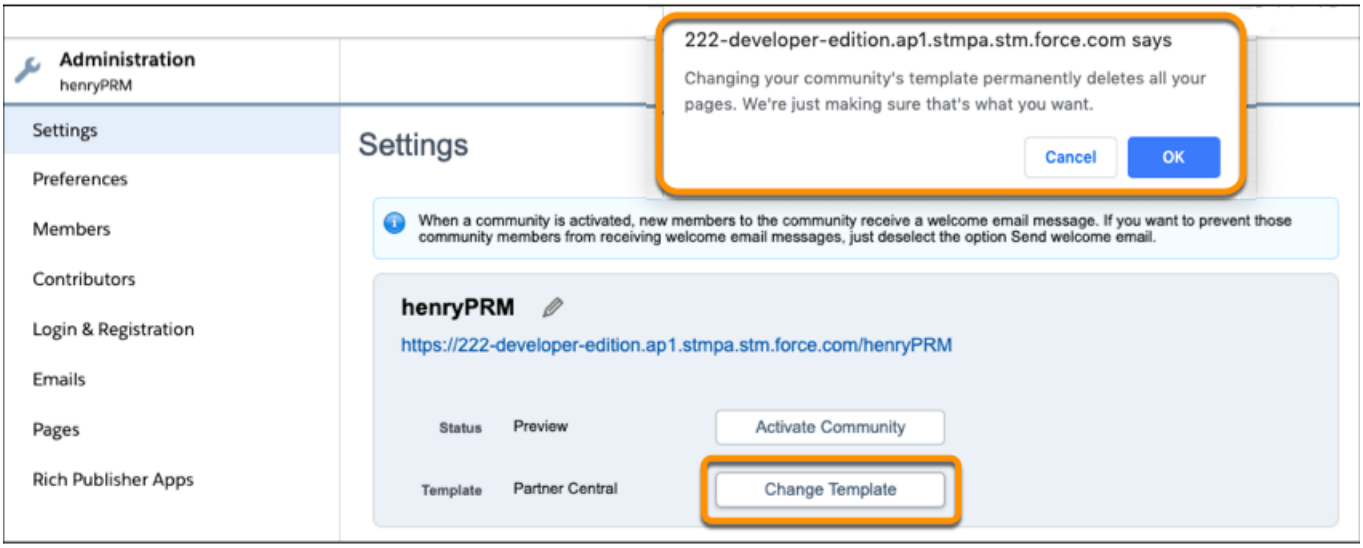
Lightning Web Components: コンポーネントリファレンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティテンプレートの切り替え前の警告

コミュニティのテンプレートを変更すると、既存のコミュニティで意図しないサポート対象外の問題が発生する場合があります。テンプレートを切り替えると、コミュニティのカスタマイズ内容とページがすべて永久に削除されます。テンプレートを切り替える前に、確認のためのメッセージが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティのテンプレートを変更すると既存のカスタマイズおよびページがすべて永久に削除されることを警告するメッセージが表示されます。



取引先チームのカスタマイズによるチームセリングの強化

カスタマイズ可能な取引先チームを使用することで、複雑な取引先リレーションを Salesforce でより効率的に管理できます。取引先チームレイアウトにカスタム項目、ボタン、リンクを追加することで、より多くの情報を収集できます。検証ルール、Apex トリガ、プロセスビルダー、ワークフロールールで取引先チームを使用すれば、データをクリーンに保ち、手動でのデータ入力を最小限に抑えることができます。また、取引先チームのレポートを作成することもできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

商談および見積での商品順序の設定

営業担当は、商談の [商品] 関連リストまたは見積の [見積品目名] 関連リストの商品を簡単に並べ替えることができます。商品の並び方は、追加順には制限されなくなりました。商談と見積がリンクされていて、どちらかのレコードで商品の並び順序を変更すると、同期時に並び順序が更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

Lightning Experience における商談での商品の自由な並べ替え

見積: Lightning Experience での任意の順序への見積品目名の並び替え

商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加

商談を扱う営業担当の使い勝手を向上させるため、スケジュール関連リストの項目に [編集] と [削除] のアクションを追加しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- 商談商品のスケジュール関連リストへの行レベルアクションの追加

チームが所有する商談の 1 クリックでの絞り込み

営業マネージャは、ロール階層に基づいた新しい商談リストビューを使用することで、リストビューを作成することなく、直属および非直属の部下が所有する商談を表示できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- Lightning Experience でチームが所有する商談を 1 クリックで表示

取引先と商談チームメンバーアクセス権に関するインサイトの入手

チームがコラボレーションする場合は、取引先や商談、そして関連するレコードを誰が表示または編集できるかを知っておいた方が効果的な作業が行えます。Lightning コミュニティで作業を行うチームは、[チームメンバーのアクセス権] アクションを使用して、他のチームメンバーによるレコードへのアクセス権について知ることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- Lightning Experience で取引先および商談チームの誰が何を見られるかを知る方法

コミュニティビルダーでの Lightning コンポーネント: タイルメニューの正式リリースとレコードリストのヘッダーのカスタマイズ

タイルメニューが正式にリリースされ、本番で使用する準備が整いました。レコードリストコンポーネントのヘッダーをカスタマイズして、リストアクション、リスト検索、検索条件などを含めることができます。ユーザプロファイルの写真を表示する必要がないユーザには非表示にできます。

このセクションの内容:

タイルメニューを使用したコミュニティの活性化 (正式リリース)
ナビゲーションタイルメニューコンポーネントが変更セットで簡単にデプロイできるようになり、コミュニティで正式にリリースされました。

コードリストコンポーネントのヘッダーのカスタマイズ
レコードリストコンポーネントの [プロパティ] ペインに、そのヘッダーを設定するためのセクションが新たに追加されました。コンポーネントのヘッダーにリストアクション、リスト検索、更新、グラフ、検索条件ボタン、オブジェクト名、画像アイコンを含めることができるようになりました。

ユーザプロファイルの写真の非表示
コミュニティビルダーの [ユーザプロファイルの詳細] コンポーネントの新しい設定により、ユーザがプロファイル写真を表示できるかどうかを選択できるようになりました。

Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示
任意の Lightning コミュニティページで Einstein Discovery 予測を標準コンポーネントとして追加します。コミュニティビルダーで、新しい Einstein 予測コンポーネントをコミュニティページにドラッグします。次に、予測定義の選択、予測単位の設定、表示設定の選択を行います。コミュニティページでは、予測はリアルタイムに更新され、Salesforce に書き戻す必要はありません。

ケース詳細ページのバリエーションとコンポーネントが Winter '20 で廃止
ケースの作成に長年使用されてきたコンポーネントとページの提供が終了します。これらのページのバリエーションとコンポーネントを使用しているコミュニティは、引き続きこれらを使用できます。ただし、これらのページまたはコンポーネントを削除した場合は二度と使用できなくなります。

より多くのケースを回避できる新しい [ケースデフレクション] コンポーネント
[ケースデフレクション] コンポーネントの提案がより直感的になりました。ユーザがケースを作成するときに [件名] または [説明] の項目に 3 文字以上を入力した時点で、提案記事が表示されます。ユーザが別の項目に切り替えても、その項目で 3 文字以上を入力するまでは、現在の提案記事は表示されたままになります。ユーザが入力を止めても、提案記事は表示されたままです。

タイルメニューを使用したコミュニティの活性化 (正式リリース)

ナビゲーションタイルメニューコンポーネントが変更セットで簡単にデプロイできるようになり、コミュニティで正式にリリースされました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: タイルメニュー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コードリストコンポーネントのヘッダーのカスタマイズ

レコードリストコンポーネントの [プロパティ] ペインに、そのヘッダーを設定するためのセクションが新たに追加されました。コンポーネントのヘッダーにリストアクション、リスト検索、更新、グラフ、検索条件ボタン、オブジェクト名、画像アイコンを含めることができるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の Lightning Experience または Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: ビルダーで、コンポーネントの [プロパティ] パネルの各設定のオプションを選択します。

ユーザプロファイルの写真の非表示

コミュニティビルダーの [ユーザプロファイルの詳細] コンポーネントの新しい設定により、ユーザがプロファイル写真を表示できるかどうかを選択できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

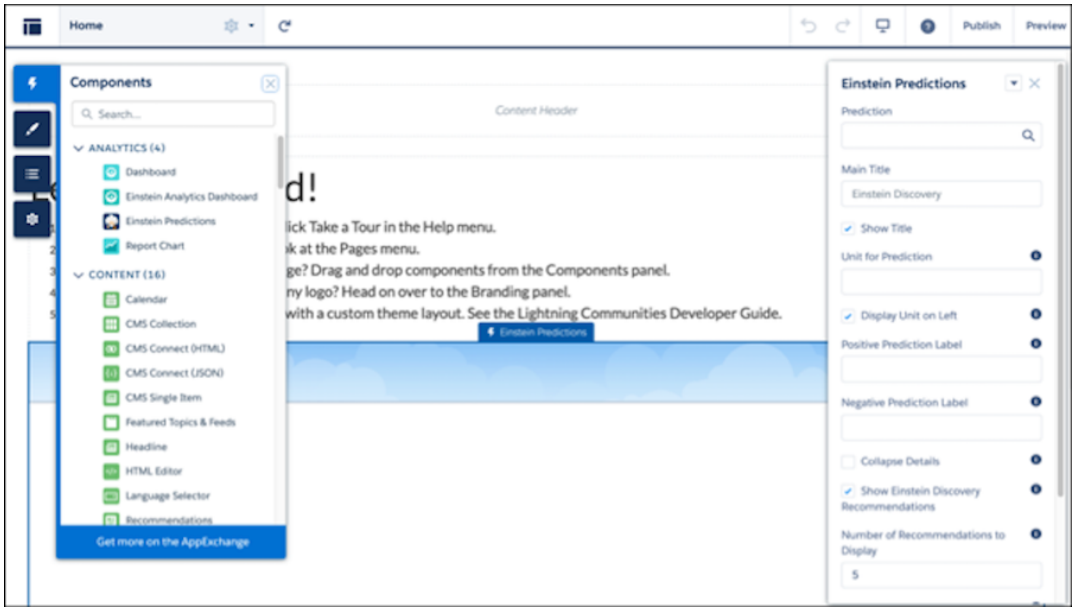
Lightning Experience コミュニティページでの Einstein Discovery 予測の表示

任意の Lightning コミュニティページで Einstein Discovery 予測を標準コンポーネントとして追加します。コミュニティビルダーで、新しい Einstein 予測コンポーネントをコミュニティページにドラッグします。次に、予測定義の選択、予測単位の設定、表示設定の選択を行います。コミュニティページでは、予測はリアルタイムに更新され、Salesforce に書き戻す必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: コンポーネントを Lightning コミュニティページに追加するには、「コミュニティの作成および設定」システム権限が必要です。予測を表示するには、「Einstein Discovery のおすすめを表示」権限が必要です。

方法: Einstein 予測コンポーネントをページレイアウトにドラッグします。表示する予測を選択し、必要に応じて設定を定義します。



ケース詳細ページのバリエーションとコンポーネントが Winter '20 で廃止

ケースの作成に長年使用されてきたコンポーネントとページの提供が終了します。これらのページのバリエーションとコンポーネントを使用しているコミュニティは、引き続きこれらを使用できます。ただし、これらのページまたはコンポーネントを削除した場合は二度と使用できなくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: これらのケース固有のページのバリエーションとコンポーネントを使用する代わりに、汎用のレコードページとコンポーネントを使用してケースオブジェクトに関連付けてください。

コンポーネント:

- ケース添付ファイル
- Case Banner
- ケースコメント
- ケースの詳細
- ケースフィード
- Case Feed Publisher
- Case List

ケース詳細ページのバリエーション

- 基本ケースの詳細
- Chatter ケースの詳細

より多くのケースを回避できる新しい[ケースデフレクション]コンポーネント

[ケースデフレクション]コンポーネントの提案がより直感的になりました。ユーザがケースを作成するときに[件名]または[説明]の項目に 3 文字以上を入力した時点で、提案記事が表示されます。ユーザが別の項目に切り替えても、その項目で3文字以上を入力するまでは、現在の提案記事は表示されたままになります。ユーザが入力を止めても、提案記事は表示されたままです。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

ゲストユーザ: アクセス制限、ゲストユーザの非公開の組織のデフォルト、新しい共有ルール

Salesforceの最小限アクセスの法則に合わせてゲストユーザのセキュリティを大幅に見直しました。簡素化された明確な共有モデルにより、ゲストユーザの組織全体のデフォルト、レコードの所有権、促進ゲストユーザのレコードアクセスを変更しました。新しい共有ルールタイプを使用してデータをゲストユーザと共有することもできます。

このセクションの内容:

ゲストユーザのレコードアクセス権を保護する新しい設定

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定により、認証されていないゲストユーザによる組織のデータへのアクセス権を保護します。この設定を有効にすると、ゲストユーザの組織全体のデフォルトがすべてのオブジェクトについて[非公開]に設定され、このアクセスレベルは変更できなくなります。ゲストユーザをグループやキューに追加したり、手動でレコードをゲストユーザと共有したりすることもできません。レコードアクセス権は、新しいゲストユーザ共有ルールを使用してのみ付与できます。

ゲストユーザの組織全体のデフォルトを非公開に設定

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にすると、ゲストユーザの組織全体のデフォルトを、すべてのオブジェクトについて [非公開] に設定できます。組織のデータを保護するため、このアクセスレベルは変更できません。この設定を有効にしないと、外部の組織全体のデフォルトが引き続きゲストユーザに適用されます。こうした組織では、外部の組織全体のデフォルトをすべてのオブジェクトについて [非公開] に設定することをお勧めします。

コミュニティとゲストユーザの可視性の管理

認証済みユーザと認証されていないユーザの間で表示をよりきめ細かく制御できるようにする設定を追加しました。Winter '20 より後に作成された組織では、ゲストユーザの可視性とコミュニティユーザの加成性がデフォルトでオフになっており、個別に有効化できます。[コミュニティユーザ表示] が有効で [このコミュニティの他のメンバーを表示]がオンになっている場合、コミュニティユーザは同じコミュニティの認証済みメンバーのみを表示できます。ゲストユーザの可視性をオンにすることで、認証されていないゲストユーザが、認証済みのコミュニティユーザとインタラクションできるようになります。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティの更新)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (セキュリティの更新)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデル (セキュリティの更新)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、非公開の組織全体のデフォルトをゲストユーザに適用します。また、ゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与するための共有メカニズムも制限します。組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織全体のデフォルト、公開グループ、キュー、手動共有を確認することをお勧めします。そして、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティの更新を適用してください。

共有ルールを使用したゲストユーザへのレコードアクセス権の付与
ログイン情報を持たないゲストユーザにアクセスを許可するレコードを制御できます。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定が有効になっている場合には、認証されていないユーザとレコードを共有できる唯一の方法となります。

関連トピック:

ゲストユーザプロファイルの保護

ゲストユーザのレコードアクセス権を保護する新しい設定

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定により、認証されていないゲストユーザによる組織のデータへのアクセス権を保護します。この設定を有効にすると、ゲストユーザの組織全体のデフォルトがすべてのオブジェクトについて [非公開] に設定され、このアクセスレベルは変更できなくなります。ゲストユーザをグループやキューに追加したり、手動でレコードをゲストユーザと共有したりすることもできません。レコードアクセス権は、新しいゲストユーザ共有ルールを使用してのみ付与できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

時期: この機能は、9 月の上旬に使用できるようになります。

理由: ゲストユーザによる組織データへのデフォルトアクセスを制限することは、Salesforce のセキュリティベストプラクティスです。この設定を有効化することを強くお勧めしますが、共有設定を変更すると、ゲストユーザによるレコードアクセスに影響することがあります。本番環境で変更を実装する前に Sandbox 環境ですべての変更をテストして、データ共有と表示に対する影響を確認してください。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] を選択します。

関連トピック:

ゲストユーザの組織全体のデフォルトを非公開に設定
ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て(セキュリティの更新)
共有ルールを使用したゲストユーザへのレコードアクセス権の付与
Salesforce ヘルプ:コミュニティまたはポータルの保護(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ゲストユーザの組織全体のデフォルトを非公開に設定

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定を有効にすると、ゲストユーザの組織全体のデフォルトを、すべてのオブジェクトについて[非公開]に設定できます。組織のデータを保護するため、このアクセスレベルは変更できません。この設定を有効にしないと、外部の組織全体のデフォルトが引き続きゲストユーザに適用されます。こうした組織では、外部の組織全体のデフォルトをすべてのオブジェクトについて[非公開]に設定することをお勧めします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

時期: この機能は、9 月の上旬に使用できるようになります。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] を選択します。

関連トピック:

ゲストユーザのレコードアクセス権を保護する新しい設定

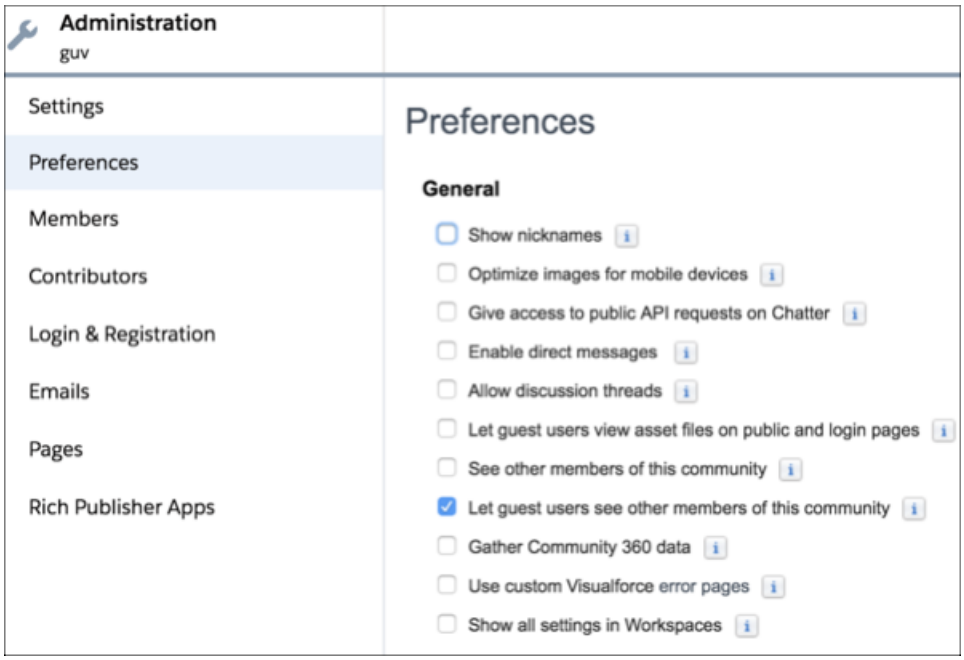
コミュニティとゲストユーザの可視性の管理

認証済みユーザと認証されていないユーザの間で表示をよりきめ細かく制御できるようにする設定を追加しました。Winter '20 より後に作成された組織では、ゲストユーザの可視性とコミュニティユーザの加成性がデフォルトでオフになっており、個別に有効化できます。[コミュニティユーザ表示] が有効で [このコミュニティの他のメンバーを表示] がオンになっている場合、コミュニティユーザは同じコミュニティの認証済みメンバーのみを表示できます。ゲストユーザの可視性をオンにすることで、認証されていないゲストユーザが、認証済みのコミュニティユーザとインタラクションできるようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

方法: 認証されていないユーザに自分のコミュニティの他のメンバーの表示を許可するには、[設定] > [共有設定] に移動して[コミュニティユーザ表示] を選択します。[コミュニティユーザ表示] を有効にしたら、[ワークスペース] > [管理] > [個人設定] に移動して、[このコミュニティの他のメンバーを表示] を選択します。

認証されていないゲストユーザにコミュニティへのアクセスを許可するには、[ワークスペース] > [管理] > [個人設定] に移動して、[ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] を選択します。



メモ: プラットフォーム共有ツールを使用して、Salesforce タブ + Visualforce や Site.com でのゲストユーザの表示を許可します。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティの更新)

ゲストユーザは通常、Salesforce組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

方法: コミュニティ、従来のポータル、Force.com サイト、Site.com サイトで、組織内のすべてのゲストユーザプロファイルをチェックします。[すべてのユーザの参照] の選択を必要に応じて解除します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティまたはポータルの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (セキュリティの更新)

Salesforceデータのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

理由: 内部組織ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者にするのが、Salesforce のセキュリティのベストプラクティスです。デフォルトの所有者を割り当てることを強くお勧めしますが、レコードの所有権を変更すると、ゲストユーザによるレコードアクセスに影響することがあります。本番環境で変更を実装する前に Sandbox 環境ですべての変更をテストして、データ共有と表示に対する影響を確認してください。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] を選択します。[保存] をクリックします。

新しく作成されたコミュニティでは、ゲストユーザが作成したすべてのレコードのデフォルトの所有者として、コミュニティを作成したユーザが自動的に割り当てられます。コミュニティの [管理] ワークスペースの [設定] で、デフォルトの所有者を変更できます。

安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデル (セキュリティの更新)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、非公開の組織全体のデフォルトをゲストユーザに適用します。また、ゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与するための共有メカニズムも制限します。組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織全体のデフォルト、公開グループ、キュー、手動共有を確認することをお勧めします。そして、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティの更新を適用してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

時期: このセキュリティの更新は 2020 年 3 月 1 日に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セキュリティの更新*」と入力して、[セキュリティの更新] を選択します。[ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護] で、[使用開始] をクリックします。ステップバイステップガイドの手順に従って、ゲストユーザの共有設定の確認やゲストユーザの共有ルールの作成を行います。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティまたはポータルの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティの更新

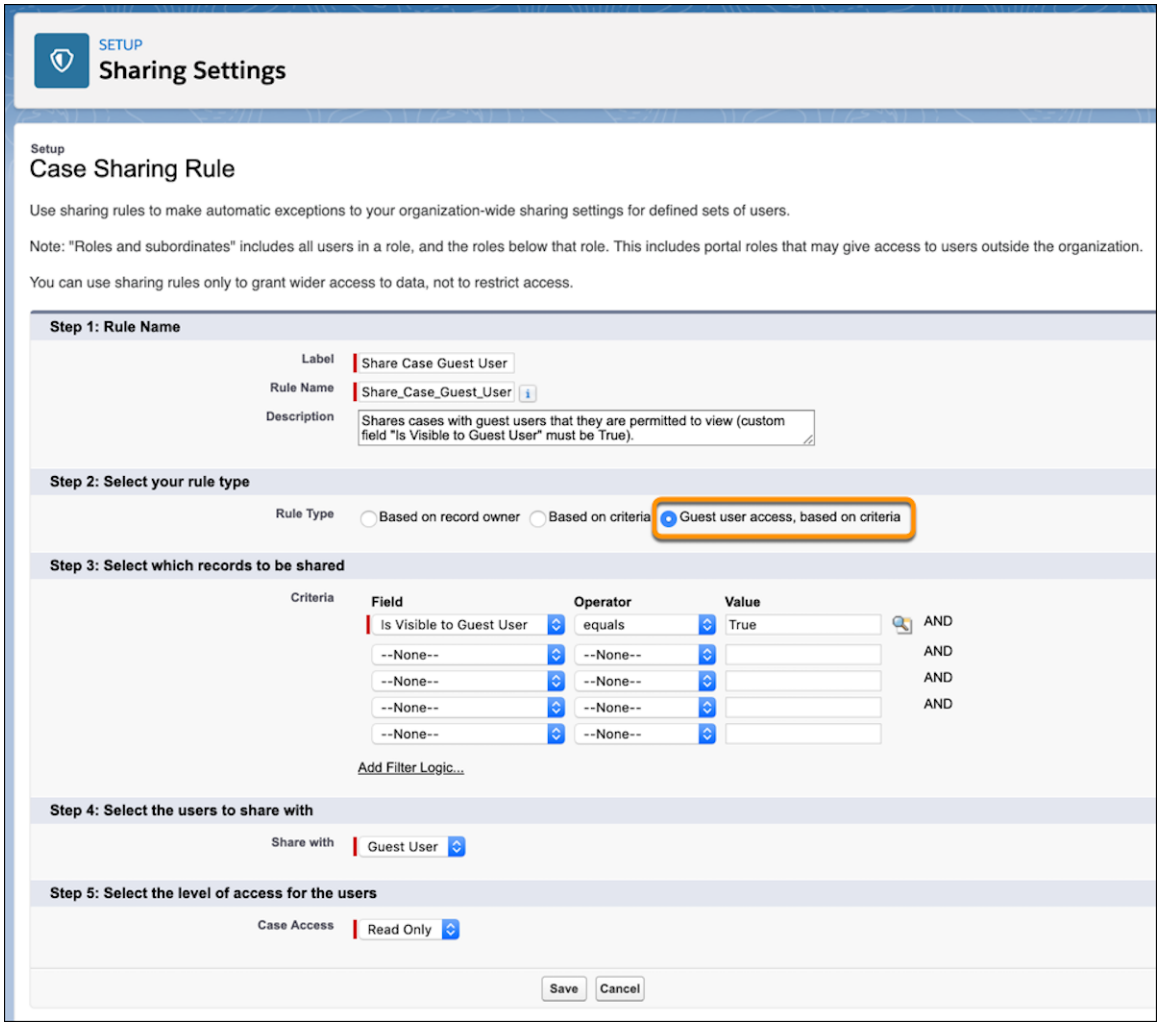
共有ルールを使用したゲストユーザへのレコードアクセス権の付与

ログイン情報を持たないゲストユーザにアクセスを許可するレコードを制御できます。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が有効になっている場合には、認証されていないユーザとレコードを共有できる唯一の方法となります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、9 月の上旬に使用できるようになります。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] を有効化します。その後、オブジェクトの [共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックして [条件に基づくゲストユーザアクセス] ルールタイプを選択します。



関連トピック:

- ゲストユーザのレコードアクセス権を保護する新しい設定
- *Salesforce* ヘルプ:共有ルールの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セキュリティと共有: デフォルトでのユーザ表示の無効化、TLS 1.2、メール確認

新規作成された Winter '20 組織では、コミュニティとポータルの表示がデフォルトで無効になりました。Salesforce では、古い Transport Layer Security (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にして、TLS 1.2 が必須になりました。コミュニティユーザがメールアドレスを変更した場合に備えて、メール確認を設定できます。

このセクションの内容:

新しい組織でのコミュニティとポータルユーザの表示のデフォルトでの無効化

Winter '20 で作成され、コミュニティまたはポータルが有効になっている組織では、[コミュニティユーザ表示] と [ポータルユーザ表示] の設定がデフォルトで無効になりました。ポータルおよびコミュニティの外部ユーザは自分自身を表示でき、ロール階層で自分より上のユーザに表示されます。[コミュニティユーザ表示] を有効にすると、コミュニティユーザは自分がメンバーとなっているコミュニティの他のすべてのユーザに表示されます。[ポータルユーザ表示] を有効にすると、ポータルユーザは同じ取引先内の他のすべてのポータルユーザに表示されます。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック(セキュリティおよび重要な更新、適用)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。

コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce のコミュニティ、サイト、およびポータルとの間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用の制限(セキュリティの更新と重要な更新、適用済み)

この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

Lightning コミュニティのメールアドレス確認の設定

Lightning コミュニティの外部ユーザがメールアドレスを変更すると、メールアドレスは即座に更新されます。セキュリティを高めるため、更新が有効になる前にユーザが新しいメールアドレスを所有することを確認できるようになりました。Salesforce では、[ID 検証] 設定ページからメールアドレスの確認を有効にすることをお勧めします。新しい組織では、メールアドレスの確認は自動で行われます。

外部ユーザによる ID 検証方法の登録方法のカスタマイズ

外部ユーザが ID 検証用にメールアドレスまたは電話番号を登録するときの環境をカスタマイズできます。Salesforce がユーザの確認コードを取得するために表示するデフォルトの検証ページを変更することができます。

コミュニティユーザ権限の効率化

コミュニティの安全性を高めるために、一部のユーザ権限がコミュニティライセンスから削除され、他のユーザ権限はデフォルトで無効になっています。

外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)

より多くの標準オブジェクトに外部アクセスレベルを設定できます。使用可能なオブジェクトは、組織のライセンスおよびその他の設定に応じて異なります。

新しい組織でのコミュニティとポータルユーザの表示のデフォルトでの無効化

Winter '20 で作成され、コミュニティまたはポータルが有効になっている組織では、[コミュニティユーザ表示] と [ポータルユーザ表示] の設定がデフォルトで無効になりました。ポータルおよびコミュニティの外部ユーザは自分自身を表示でき、ロール階層で自分より上のユーザに表示されます。[コミュニティユーザ表示] を有効にすると、コミュニティユーザは自分がメンバーとなっているコミュニティの他のすべてのユーザに表示されます。[ポータルユーザ表示] を有効にすると、ポータルユーザは同じ取引先内の他のすべてのポータルユーザに表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

方法: これらの設定を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。コミュニティユーザの場合、[組織の共有設定] セクションで [編集] をクリックし、[コミュニティユーザ表示] を選択します。ポータルユーザの場合、[ポータルユーザ表示] を選択します。

関連トピック:

- コミュニティとゲストユーザの可視性の管理

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティおよび重要な更新、適用)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。

対象: この変更はコミュニティまたはポータルを使用するすべての組織に適用されます。

方法: Salesforce では、外部ユーザプロファイルにユーザレコードを表示するページや、外部ユーザとして実行される SOSL および SOQL クエリにおいて他のユーザの個人情報を非表示にできる組織設定を導入しようとしています。

次の項目が影響を受けます。

- Alias
- EmployeeNumber
- FederationIdentifier
- SenderEmail
- Signature
- Username
- Division
- Title
- Department
- Extension

システム管理者は、[ユーザ管理設定] で組織に対して [個人情報を非表示] を有効にできます。この設定を有効にすると、ユーザレコードをサーチしても、他のユーザの影響を受ける項目は外部ユーザには表示されなくなります。変更内容を本番環境に導入する前に、Sandbox 環境でテストしてください。

ヒント: この更新は重要な更新であり、セキュリティの更新でもあるため、[設定] の [重要な更新] コンソールと [セキュリティの更新] ページの両方に表示されます。円滑に移行するには、[セキュリティの更新] ページの推奨手順に従ってください。

コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce のコミュニティ、サイト、およびポータルとの間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティとサイトに適用されます。

時期: この重要な更新は、2019 年 10 月 25 日に本番組織で適用されます。この日付以降に有効化されたコミュニティでは、デフォルト TLS 1.2 が要求されます。他の実装日については、ナレッジ記事「Salesforce による TLS 1.1 の無効化」を参照してください。

方法: この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、エンドツーエンドの互換性を確認してから本番組織で有効にすることをお勧めします。また、コミュニティユーザにこの変更の予定について通知し、TLS 1.2 をサポートするブラウザへのアップグレードを促すことをお勧めします。

2019 年 10 月 25 日より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[コミュニティおよびサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要] で、[有効化] をクリックします。

関連トピック:

ナレッジ記事: Salesforce による TLS 1.1 の無効化
Summer '19 リリースノート: コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新)
HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)
重要な更新とセキュリティの更新

セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用の制限 (セキュリティの更新と重要な更新、適用済み)

この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、次の標準外部プロファイルを使用しているすべての組織に適用されます。

- BronzePartner ExternalAppsPlusLogin
- CSPLitePortal
- CustomerCommunity
- CustomerCommunityLogin
- CustomerCommunityPlus
- CustomerCommunityPlusLogin
- CustomerPortalManager
- CustomerPortalManagerCustom
- CustomerPortalManagerStandard
- ExternalAppsLogin
- ExternalAppsMember
- ExternalAppsPlusMember GoldPartner
- HighVolumeCustomerPortal
- HighVolumePortal
- IdeasOnlyPortal
- LimitedCustomerPortalMgrCustom
- LimitedCustomerPortalMgrStandard
- OverageAuthenticatedWebsite
- OverageCustomerPortalMgrCustom
- OverageCustomerPortalMgrStandard
- OverageHighVolumeCustomerPortal
- Partner

- PartnerCommunity
- PartnerCommunityLogin
- PlatformPortal
- SilverPartner AuthenticatedWebsite

理由: この更新では、セルフ登録とユーザ作成で、標準外部プロファイルの使用が禁止されます。セルフ登録では、標準コミュニティプロファイルではなく、コピーしたコミュニティプロファイルにユーザを割り当てることをお勧めします。また、新規ユーザにもコピーしたコミュニティプロファイルを使用することをお勧めします。

方法: 標準外部プロファイルを使用してセルフ登録とユーザ作成を行えるようにするには、[設定] > [コミュニティ設定]に移動して、新しい[セルフ登録およびユーザへの割り当てで標準外部プロファイルプロファイルを許可] 設定を有効にします。

メモ: 標準外部プロファイルを使用したセルフ登録とコミュニティユーザ作成の許可は、Salesforce のベストプラクティスではありません。この設定を有効にする前に、すべての標準外部プロファイルでオブジェクト権限と項目レベルのセキュリティを確認してください。

ヒント: この更新は重要な更新であり、セキュリティの更新でもあるため、[設定]の[重要な更新]コンソールと [セキュリティの更新] ページの両方に表示されます。円滑に移行するには、[セキュリティの更新] ページの推奨手順に従ってください。

Lightning コミュニティのメールアドレス確認の設定

Lightning コミュニティの外部ユーザがメールアドレスを変更すると、メールアドレスは即座に更新されます。セキュリティを高めるため、更新が有効になる前にユーザが新しいメールアドレスを所有することを確認できるようになりました。Salesforce では、[ID 検証] 設定ページからメールアドレスの確認を有効にすることをお勧めします。新しい組織では、メールアドレスの確認は自動で行われます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

コミュニティユーザのメールアドレス変更時に確認が必要

外部ユーザによる ID 検証方法の登録方法のカスタマイズ

外部ユーザが ID 検証用にメールアドレスまたは電話番号を登録するときの環境をカスタマイズできます。Salesforce がユーザの確認コードを取得するために表示するデフォルトの検証ページを変更することができます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

ユーザの検証方法を登録する独自のページの作成

コミュニティユーザ権限の効率化

コミュニティの安全性を高めるために、一部のユーザ権限がコミュニティライセンスから削除され、他のユーザ権限はデフォルトで無効になっています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

時期: この変更は、Winter '20 以降に作成された新しい組織にのみ影響します。

対象ユーザ: これらの変更は、Partner Community、Customer Community、Customer Community Plus、External Apps、および External Apps Plus ライセンスユーザに適用されます。

方法:次のユーザ権限はデフォルトで無効になっています。必要に応じて、個別に有効に戻すことができます。

- 活動にアクセス

  メモ: 外部ユーザがケースでメールを送信できるようにするには、この権限を有効にしてください。

- ダイレクトメッセージに人を追加
- D&B 企業のレコードを参照 (Partner Community および External Apps Plus コミュニティでのみ利用可能)
- Knowledge One
- Apex REST サービス (Customer Community Plus ライセンスでのみ利用可能)
- トピックを割り当て
- 新規 Chatter グループの作成および所有
- Content ワークスペースへのアクセス (Partner Community、Customer Community Plus、および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- トピックを作成
- 商談商品販売価格を編集 (Partner Community および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- ToDo を編集 (Partner Community、Customer Community Plus、および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- トピックを編集 (Partner Community、Customer Community Plus、および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- メールテンプレートの管理
- コミュニティでアプリケーションランチャーを表示
- Field Service Standard
- 保険オブジェクトにアクセス
- Health Cloud 利用管理の管理 (Partner Community、Customer Community、Customer Community Plus、および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- Health Cloud を管理 (Partner Community、Customer Community、および Customer Community Plus ライセンスでのみ利用可能)
- Health Cloud ファイナンシャルデータを管理
- ダイレクトメッセージから人を削除
- フローを実行 (Partner Community、Customer Community、Customer Community Plus、および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)
- レポート実行 (Partner Community および External Apps Plus ライセンスでのみ利用可能)

- コミュニティロールとして会社名を表示
- カスタマイズされたアクションへのアクセスの許可
- Work.com の有効化

次のユーザ権限はデフォルトで無効になっており、有効に戻すことはできません。

- メール管理

次のユーザ権限はデフォルトですでに無効になっており、有効に戻すことはできなくなりました。

- データ分類を変更
- 内部のナレッジ記事を外部と共有
- UI 階層アーキテクチャを有効化

外部アクセスレベルを設定できる標準オブジェクトの増加 (正式リリース)

より多くの標準オブジェクトに外部アクセスレベルを設定できます。使用可能なオブジェクトは、組織のライセンスおよびその他の設定に応じて異なります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

関連トピック:

より多くの標準オブジェクトでの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)

Salesforce ヘルプ:外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

ビルダーでのワークスペースと私のコミュニティの名前変更

一部のラベル名を変更しましたが、機能は同じです。

自信を持った Lightning Web コンポーネントでの属性の使用

Lightning Web コンポーネントでは、boolean および整数の属性のデフォルト値が正しく設定され、元の種別が保持されるようになりました。

非公開メッセージでのニックネームを使用したコミュニティユーザのプライバシーの改善

ニックネーム機能が Salesforce タブ + Visualforce コミュニティの非公開メッセージで使用できるようになりました。以前は、メッセージを無効にするか非公式名を使用して氏名が表示されないようにできました。氏名が表示されないようにすることで、コミュニティメンバーのプライバシーを保護できます。ニックネーム機能を有効にすると、自動的に非公開メッセージで使用されます。コミュニティでニックネームを使用することで、命名を簡略化してユーザのプライバシーを保護できます。

Chatter の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル(サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む)を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。グループマネージャからのお知らせ、投稿に対するグループメンション、投稿に対する個々のメンション、投稿に対する新しいコメント、グループに対する投稿、プロファイルに対する投稿、ストリームに対する投稿など、コミュニティ通知に対する制御がさらに強化されました。

ケースフィード内のフィード項目の表示設定

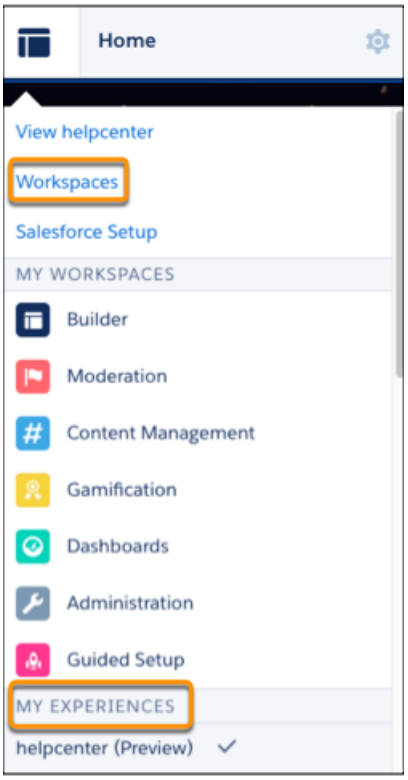
Lightning コミュニティと Lightning サービスコンソールでは、エージェントはフィード項目が非公開か公開かを制御できます。公開フィード項目は、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。非公開フィード項目は、内部ユーザのみに表示されます。

ビルダーでのワークスペースと私のコミュニティの名前変更

一部のラベル名を変更しましたが、機能は同じです。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

理由: ミュニティワークスペースは単にワークスペースになりました。私のコミュニティは私のエクスペリエンスになりました。



自信を持った Lightning Web コンポーネントでの属性の使用

Lightning Web コンポーネントでは、boolean および整数の属性のデフォルト値が正しく設定され、元の種別が保持されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

理由: Winter '20 リリースの前には、Lightning Web コンポーネントのデザインプロパティで定義された boolean および整数のデフォルト値が指定されたプロパティ種別に正しく設定されませんでした。代わりに、デフォルト値が文字列として扱われていました。

たとえば、Lightning Web コンポーネントの .js ファイル内でプロパティを定義した場合は、次のようになります。

```
@api myBooleanAttribute;
@api myIntegerAttribute;
```

そのコンポーネントの .js-meta.xml ファイルで、その属性の種別を整数または boolean であると宣言し、デフォルト値がある対応するデザインプロパティを定義します。

```
<property name="myBooleanAttribute" type="Boolean" default="true" />
<property name="myIntegerAttribute" type="Integer" default="314" />
```

このリリースより前は、コンポーネントプロパティがデフォルト値を boolean および整数値ではなく文字列 `true` および `314` として受信していました。属性は、正しい種別に設定されるようになりました。

この問題の回避策として Lightning Web コンポーネントに boolean または整数値のカスタム解析ロジックを含めていた場合、このロジックを削除する必要があります。

非公開メッセージでのニックネームを使用したコミュニティユーザのプライバシーの改善

ニックネーム機能が Salesforce タブ + Visualforce コミュニティの非公開メッセージで使用できるようになりました。以前は、メッセージを無効にするか非公式名を使用して氏名が表示されないようにできました。氏名が表示されないようにすることで、コミュニティメンバーのプライバシーを保護できます。ニックネーム機能を有効にすると、自動的に非公開メッセージで使用されます。コミュニティでニックネームを使用することで、命名を簡略化してユーザのプライバシーを保護できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

メモ: この機能は Salesforce の [設定] では Chatter メッセージと呼ばれますが、コミュニティの [管理] ワークスペースでは非公開メッセージと呼ばれます。この変更は、テンプレートベースの Lightning コミュニティには適用されず、Lightning コミュニティでは代わりにダイレクトメッセージを使用します。

Chatter の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。グループマネージャからのお知らせ、投稿に対するグループメンション、投稿に対する個々のメンション、投稿に対する新しいコメント、グループに対する投稿、プロファイルに対する投稿、ストリームに対する投稿など、コミュニティ通知に対する制御がさらに強化されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 詳細は、「通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理」を参照してください。

ケースフィード内のフィード項目の表示設定

Lightning コミュニティと Lightning サービスコンソールでは、エージェントはフィード項目が非公開か公開かを制御できます。公開フィード項目は、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。非公開フィード項目は、内部ユーザのみに表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- Lightning Experience のケースフィードでのフィード項目の公開および非公開表示の設定

Chatter: 質問の文字数制限、ケースフィード項目の表示、モバイルレコードナビゲーション

質問の文字数制限が明確になりました。ケースフィード項目の設定を公開または非公開に設定します。新しい Salesforce モバイルアプリケーションで、より多くのレコードフィード情報を表示するかスキップするかを選択します。

このセクションの内容:

質問の文字制限の明確化

Chatter の [質問] 項目には 255 文字の制限がありましたが、それが明記されていませんでした。質問がその制限を超えた場合、[質問する] をクリックした後にのみ、そのことが表示されていました。今回のリリースでは、制限が [質問] 項目に明記され、制限を適用するために 255 文字に達すると操作が中断されます。

ケースフィード内のフィード項目の表示設定

Lightning Experience と Lightning サービスコンソールでは、エージェントはフィード項目が非公開か公開かを制御できます。公開フィード項目は、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。非公開フィード項目は、内部ユーザのみに表示されます。

必要な場合にレコードの詳細をさらに表示 (不要な場合は表示しない)

レコード上の Chatter 投稿、レコード詳細項目、関連リスト項目の最初のセットの後に新しい [さらに表示] ボタンが表示されます。これらの項目をさらに表示するには、[さらに表示] ボタンが便利です。そのすべての情報が必要ない場合は、このボタンがあることで、これらの項目を飛ばしてその後にある有用なレコード情報までスクロールすることができます。

Chatter の配信設定の管理

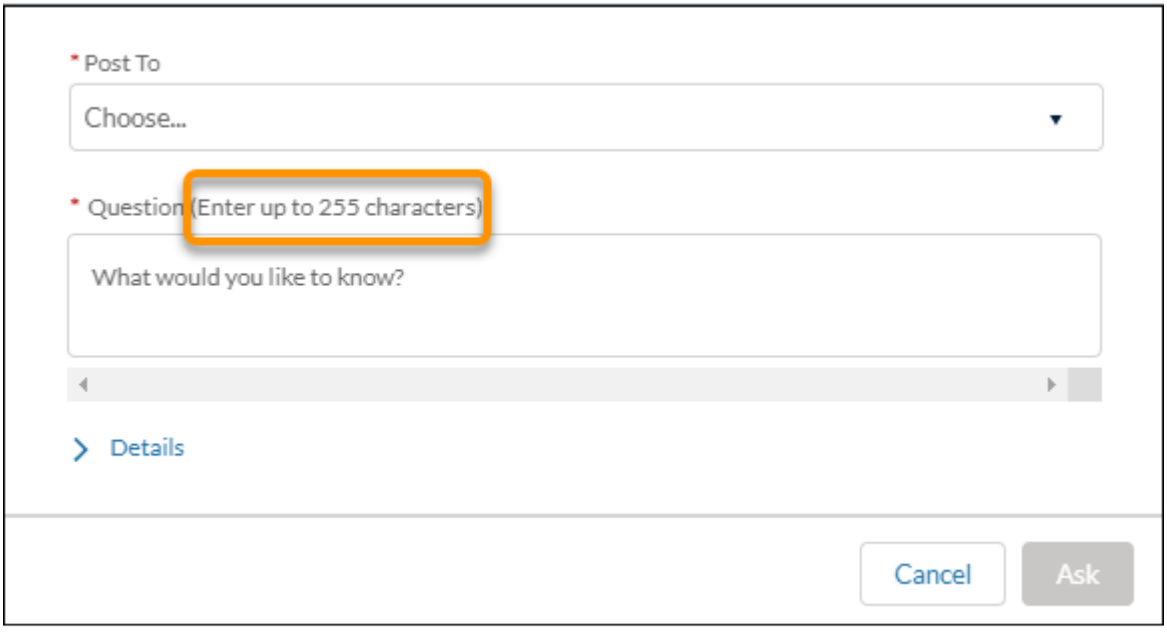
通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。Chatter 通知をさらに詳細に制御できるようになり、グループマネージャ通知、投稿でのグループメンション、投稿での個別メンション、投稿での新規コメント、新規メッセージ、グループへの投稿、プロファイルへの投稿、ストリームへの投稿などが含まれるようになりました。

質問の文字制限の明確化

Chatter の [質問] 項目には 255 文字の制限がありましたが、それが明記されていませんでした。質問がその制限を超えた場合、[質問する] をクリックした後にのみ、そのことが表示されていました。今回のリリースでは、制限が [質問] 項目に明記され、制限を適用するために 255 文字に達すると操作が中断されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience と Lightning コミュニティに適用されます。

理由: コミュニティでは、制限のメッセージは次のように表示されます。



ケースフィード内のフィード項目の表示設定

Lightning Experience と Lightning サービスコンソールでは、エージェントはフィード項目が非公開か公開かを制御できます。公開フィード項目は、内部ユーザと外部ユーザの両方に表示されます。非公開フィード項目は、内部ユーザのみに表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Lightning Experience のケースフィードでのフィード項目の公開および非公開表示の設定

必要な場合にレコードの詳細をさらに表示 (不要な場合は表示しない)

レコード上の Chatter 投稿、レコード詳細項目、関連リスト項目の最初のセットの後に新しい [さらに表示] ボタンが表示されます。これらの項目をさらに表示するには、[さらに表示] ボタンが便利です。そのすべての情報が必要ない場合は、このボタンがあることで、これらの項目を飛ばしてその後にある有用なレコード情報までスクロールすることができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

必要なときにより多くのレコード詳細を表示する (必要のないときは表示しない)

Chatter の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。Chatter 通知をさらに詳細に制御できるようになり、グループマネージャ通知、投稿でのグループメンション、投稿での個別メンション、投稿での新規コメント、新規メッセージ、グループへの投稿、プロファイルへの投稿、ストリームへの投稿などが含まれるようになりました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と Salesforce Classic のユーザ、Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーション、および Essentials と Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザに送信できます。Mobile Publisher アプリケーションのユーザへの通知の送信は、有料オプションです。

方法: 詳細は、「通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理」を参照してください。

ファイル: ファイル共有の改善、削除なしでのファイルの削除

レコードのファイルの処理方法を強化しました。ファイルは、ファイルに関連付けられているレコードの共有設定を継承できます。Salesforce からファイルを削除せずに、レコードからファイルを削除できます。コミュニティを使用する組織では、顧客にレコードのファイルを表示できます。

このセクションの内容:

レコード設定を継承するようにファイル共有を設定
レコードにファイルを添付する場合、ファイルがそのレコードの共有設定を継承するように設定できます。たとえば、ユーザがレコードを編集できる場合、そのレコードのファイルも編集できるようにしてあげたいと考えます。レコードに添付されているファイルのデフォルトの共有権限を設定できるようになりました。この設定を使用すると、ファイルはレコードの共有設定に従うことができます。

どの場所のファイルも削除することなくレコードからファイルを削除
レコードからはファイルを削除し、Salesforce 組織からは削除しませんか? それが可能になりました。以前は、ファイル所有者が行レベルのアクションを使用して、[ファイル] ホームまたはレコードからファイルを削除できました。ただし、この方法では、ファイルが添付されているすべてのレコードおよび投稿からもファイルが削除されました。他のレコード、投稿、または [ファイル] ホームからはファイルを削除せずに、レコードからファイルを容易に削除できるようになりました。

レコードのファイルをコミュニティの顧客に表示
コミュニティの顧客と共有するレコードで顧客にどのファイルを表示するかを決定できるようになりました。デフォルトでは、レコードのファイルはコミュニティの顧客に表示されません。ファイルの共有詳細ページの新しい [顧客アクセス] スイッチを使用すると、顧客がいつファイルを表示できるかを決定できます。

レコード設定を継承するようにファイル共有を設定

レコードにファイルを添付する場合、ファイルがそのレコードの共有設定を継承するように設定できます。たとえば、ユーザがレコードを編集できる場合、そのレコードのファイルも編集できるようにしてあげたいと考えます。レコードに添付されているファイルのデフォルトの共有権限を設定できるようになりました。この設定を使用すると、ファイルはレコードの共有設定に従うことができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 以前は、ファイルをレコードに追加すると、共有設定はデフォルトで [閲覧者] に設定されました。ファイル共有を [レコードごとに設定] に更新するには、各ファイルで設定を変更する必要がありました。レコードに添付されているファイルへのユーザのアクセス権がユーザのレコードアクセス権のレベルに自動的に従うように、デフォルト設定を更新できるようになりました。

この設定を有効にすると、レコードに対する参照・更新アクセス権があるユーザは、添付されたファイルへのコラボレータアクセス権を取得します。「参照のみ」レコードアクセス権があるユーザは、ファイルへの閲覧者アクセス権を取得します。

メモ: この設定を無効にすると、レコードに添付されているすべてのファイルがデフォルトで閲覧者アクセス権に設定されます。

この設定は、[ファイル] 関連リストを介してレコードに添付されたファイルと、レコードの Chatter フィード内で添付されたファイルに適用されます。

方法: 新しい組織では、この設定は自動的に有効化され、レコードのファイルはデフォルトで [レコードごとに設定] に設定されます。既存の組織では、[設定] に移動して、[クイック検索] ボックスに「ファイル」と入力します。[Salesforce Files] で [一般設定] を選択します。[レコードに添付されたファイルのファイルアクセス権を [レコードごとに設定] に設定] を有効にします。

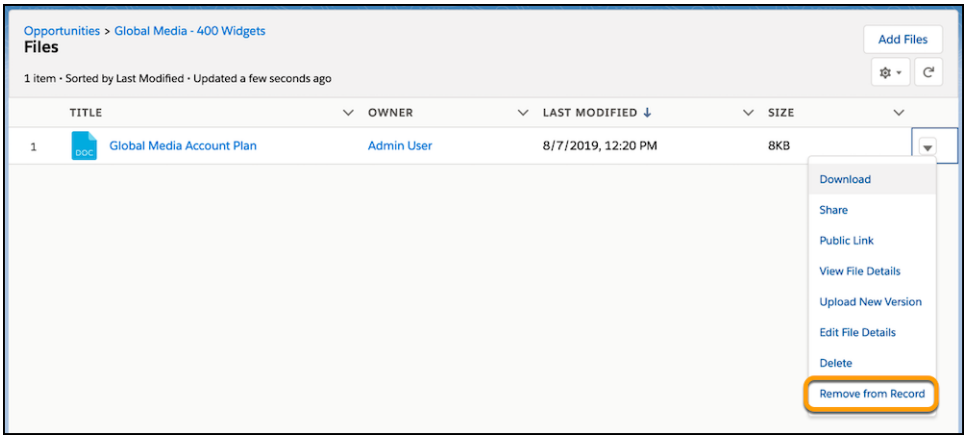
どの場所のファイルも削除することなくレコードからファイルを削除

レコードからはファイルを削除し、Salesforce 組織からは削除しませんか? それが可能になりました。以前は、ファイル所有者が行レベルのアクションを使用して、[ファイル] ホームまたはレコードからファイルを削除できました。ただし、この方法では、ファイルが添付されているすべてのレコードおよび投稿からもファイルが削除されました。他のレコード、投稿、または [ファイル] ホームからはファイルを削除せずに、レコードからファイルを容易に削除できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ファイルをレコードから削除するには、少なくともファイルへのコラボレータアクセス権が必要です。

方法: レコードの [ファイル] 関連リストで、行レベルのアクションメニューから [レコードから削除] を選択します。すべての組織でデフォルトで有効化されています。

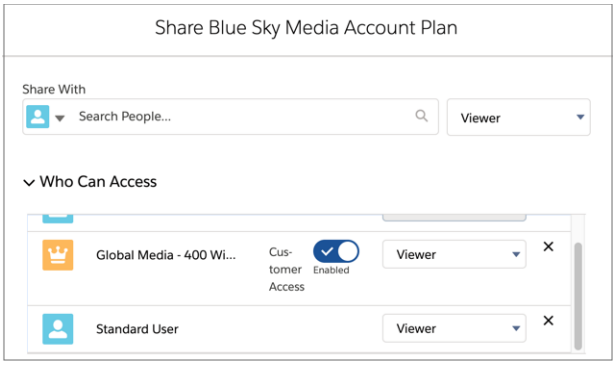


レコードのファイルをコミュニティの顧客に表示

コミュニティの顧客と共有するレコードで顧客にどのファイルを表示するかを決定できるようになりました。デフォルトでは、レコードのファイルはコミュニティの顧客に表示されません。ファイルの共有詳細ページの新しい [顧客アクセス] スイッチを使用すると、顧客がいつファイルを表示できるかを決定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: Salesforce の [ファイル] ホームで、行レベルのアクションリストまたはファイルプレビューから [共有] をクリックします。ファイルが共有されている場所を表示するには、共有の詳細ウィンドウで [アクセス権のあるユーザ] セクションを展開します。[顧客アクセス] オプションは、レコードで共有されているすべてのファイルの共有の詳細に表示されます。



メモ: [顧客アクセス] オプションは、組織でコミュニティが有効化されている場合のみ関連します。

関連トピック:

- レコードのファイルを顧客に表示

業種: Manufacturing Cloud と Consumer Goods Cloud の導入

Salesforce の業種別ソリューション群に、生産性とセールスプロセスを追跡できる Manufacturing Cloud と、店舗の在庫管理に正面から取り組むことができる Consumer Goods Cloud が加わりました。また、Financial Services Cloud には住宅ローン顧客に対応するための新しい方法が導入され、Health Cloud ではケア提供者や患者とのつながりが向上しました。

このセクションの内容:

Manufacturing Cloud: 販売契約と取引先売上予測を使用したビジネスの簡潔化 (正式リリース)

ビジネスエクスペリエンスを販売契約、注文、取引先責任者、商談と統合します。取引先責任者ベースの売上予測機能を使用すれば、数量および収益の予測に関するインサイトが得られます。標準の総計値およびカスタム総計値を使用した複数のスケジュールで製品の予定数量および収益と実際の数量および収益を追跡できます。製造コミュニティポータルを通じて、リード、商談、販売契約でパートナーとコラボレーションできます。

Consumer Goods Cloud: 消費財バリューチェーン全体でのより緊密な接続の作成 (正式リリース)

フィールド担当は、適切な価格で適切なプロモーションを実施して在庫を揃えることで、あらゆる店舗を品切れのない完璧な店舗に変えることができます。フィールド担当は業務活動よりも関係構築に時間を割いて売上を伸ばし、満足度を高めることができます。小売実行モバイルアプリケーションは、新しい消費財データモデルによってフィールド営業担当者が在庫の追跡、発注、訪問詳細のキャプチャなどを行えるようにします。Salesforce アンケートを使用すれば、チャネルパートナーからのビジネスインサイトを取得して、Einstein Object Detection で商品や棚の配置を自動的に識別できます。

Financial Services Cloud: 住宅ローン承認の迅速化、独立系保険エージェント向けポータル、マルチリソーススケジュールなど

融資担当者および債務者向けテンプレートフローを使用して住宅ローン申し込みプロセスを合理化します。債務者はドキュメントを直接 Financial Services Cloud にアップロードできるため、承認プロセスが簡略化されます。独立系保険エージェントは、Salesforce コミュニティポータルから主要な保険機能と Lightning コンポーネントにアクセスできます。Lightning Scheduler では、マルチリソーススケジュールで顧客を専門家のグループにつなぎ、同じ時間枠内で複数の顧客の予定を予約できます。

Health Cloud: 患者および提供者をエンゲージする方法の追加

Health Cloud を使用すると、ユーザ、患者、プランメンバーと容易に連携することができます。栄養クラスなどのケアプログラムや雇用主が提供するウェルネスプログラムに参加者を登録できます。新しい提供者カードにより、関連付けられたケア提供者に関する包括的な情報をすぐに利用できます。患者とプランメンバーが適切なケア提供者を検索したり、自分たちで予約を入れたりすることを支援できます。また、医療機器を販売している場合は、新しい Manufacturing Cloud の機能を使用して営業業務を簡略化できます。

Manufacturing Cloud: 販売契約と取引先売上予測を使用したビジネスの簡潔化 (正式リリース)

ビジネスエクスペリエンスを販売契約、注文、取引先責任者、商談と統合します。取引先責任者ベースの売上予測機能を使用すれば、数量および収益の予測に関するインサイトが得られます。標準の総計値およびカスタム総計値を使用した複数のスケジュールで製品の予定数量および収益と実際の数量および収益を追跡できます。製造コミュニティポータルを通じて、リード、商談、販売契約でパートナーとコラボレーションできます。

このセクションの内容:

販売契約: ビジネス交渉のワンストップショップ

販売契約を使用して、ビジネストランザクション、利益、および収益をより予測可能なものにします。販売契約を使用して、商品の長期的な購入および販売について交渉します。販売契約を使用して、予定収益および数量と実際の収益および数量に基づいて顧客のコンプライアンスを追跡することで、交渉を有利に運びます。販売契約を注文および契約と統合し、実際の商品数量を自動的に取得します。コミュニティポータルを介してパートナーとやり取りし、リード、商談、契約条件、注文などに基づいてコラボレーションを実行できます。

取引先売上予測: 正確で全体的な売上予測による事前対応

取引先売上予測を使用して、より適切に販売と運用を計画します。注文、商談、販売契約、契約などに基づいて、新規ビジネスおよびランレートビジネスの売上予測を生成できます。各取引先の成長を把握する売上予測を作成します。売上予測を修正および再計算できる調整期間を定義し、その期間を超える売上予測はロックします。独自の数式を作成して、売上予測の計算ロジックを定義します。自動生成される売上予測を使用すれば、手動で売上予測に商品を追加する必要がなくなります。

Einstein Analytics for Manufacturing を使用したビジネスの成長と営業業務の簡略化

Analytics for Manufacturing アプリケーションを使用すると、取引先マネージャがビジネスのあらゆる側面を視覚化することができます。Manufacturing Cloud からのデータに基づくインサイトによって、販売契約、注文、契約を把握できます。視覚化によって、新しい商談や拡大商談のために電話する顧客を識別することによって、ビジネスを成長させることができます。また、最も売れている商品と最も売れていない商品をすばやく見つけて、数量が価格設定と収益に及ぼす影響を分析できます。

Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト

Manufacturing Cloud に販売契約および取引先売上予測の新しいオブジェクトが追加されました。

関連トピック:

販売契約および取引先売上予測を使用した医療機器販売の簡略化 (正式リリース)

販売契約: ビジネス交渉のワンストップショップ

販売契約を使用して、ビジネストランザクション、利益、および収益をより予測可能なものにします。販売契約を使用して、商品の長期的な購入および販売について交渉します。販売契約を使用して、予定収益および数量と実際の収益および数量に基づいて顧客のコンプライアンスを追跡することで、交渉を有利に運びます。販売契約を注文および契約と統合し、実際の商品数量を自動的に取得します。コミュニティポータルを介してパートナーとやり取りし、リード、商談、契約条件、注文などに基づいてコラボレーションを実行できます。

このセクションの内容:

販売環境と販売契約の統合

販売契約のすべての商品の統合ビューを過去、現在、将来のスケジュールの数量総計値および収益総計値と共に取得します。契約条件は、注文と契約から派生した変更と手動での編集に基づいて、自動的に更新されます。

独自の総計値を使用したさまざまな要件の追跡

各組織に一意の要件の独自のセットがあります。価格、割引、数量、および収益の指標に加えて、在庫、テリトリーベースの収益などの業績評価指標の追跡に関心がある場合があります。販売契約の商品およびスケジュールのカスタム総計値を作成し、それらを互いに対応付けます。商品総計値のサマリーは、すべてのスケジュールの積み上げ値を示します。数量と収益の両方の指標に対してカスタム総計値を作成できます。

契約条件の総計値の選択

取引先マネージャ用の契約条件にどの数量総計値と収益総計値を表示するかどうかを決定します。選択可能な標準の総計値は、[Forecasted Quantity (売上予測数量)]、[Forecasted Amount (売上予測金額)]、[Planned Amount (予定金額)]、[Planned Quantity (予定数量)]、[Actual Quantity (実際の数量)]、[Actual Amount (実際の金額)]、[Sales Price (販売価格)] および [Discount Percentage (割引率)] です。使用可能な場合は、カスタム総計値を選択することもできます。

注文と契約を介した実際の数量の自動更新

販売契約が有効な場合、実際の商品数量には、該当期間に実行された注文数に基づく定期更新が必要になります。関連付けられた注文が実行されたときに販売契約を手動で更新する必要がなくなりました。すべての有効な販売契約で、関連付けられた注文および契約から商品の実際の数量を自動的に派生することができます。実際の数量が自動的に再計算され、すべての販売契約が毎日更新されます。

1 回のクリックによる販売契約の実績の再計算

取引先マネージャはワンクリックで有効な販売契約の実績をいつでも再計算し、リアルタイムの最新情報を取得することができます。販売契約には複数の注文を関連付けることができ、それぞれの注文を異なるスケジュールおよび異なる数量で実行することができます。取引先マネージャは、数量に最新の変更を反映するように任意の時点で実績を再計算しなければならない場合があります。大量の注文の実行が予想され、最新の値を更新する日次の自動再計算プロセスを待つことができない場合、これが特に役立ちます。

複数の改定を通じて 1 つの有効な販売契約バージョンを管理

現在および提案された変更の比較ビューを取得します。変更が承認されると、Salesforce にその編集内容が自動的に組み込まれるため、どの時点においても信頼できる 1 つのバージョンが維持されます。複数の状況間を移動することなく、有効な販売契約を変更できます。販売契約が改訂中の場合、あなたと承認者は包括的なビューと絞り込まれたビューを 1 回のクリックで切り替えることができます。

事前の計画および販売契約の更新

販売契約を更新して、長期的なビジネス関係を築きます。販売契約のすべての属性と、すべての商品の初期予定数量が、更新される販売契約にコピーされます。新しい契約はドラフト状況で作成され、編集が可能です。販売契約の更新履歴を表示することもできます。

マニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートを使用したパートナーとのコラボレーションの改善

パートナーがナレッジ記事にアクセスし、販売契約上でコラボレーションを実行し、リードを管理して売上を向上できる反応型ポータルを作成できます。マニュファクチャリングパートナー Lightning コミュニティテンプレートを使用すれば、パートナーとのコラボレーションを行って、価格について交渉し、数量の変更を追跡して、注文を管理できます。パートナーがリードをフォローアップして売上の向上に貢献するようサポートします。

推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示

自動プロセスまたは手動プロセスの完了時に詳細およびその後の推奨アクションと共に通知を受け取ります。複数の販売契約に影響する日次自動処理に失敗した場合、日次処理の状況と次に実行する手順を含めたメールが送信されます。取引先マネージャがトリガした手動プロセスの場合、取引先マネージャのアクションと販売契約に固有の詳細と共に通知が取引先マネージャに個別に送信されます。

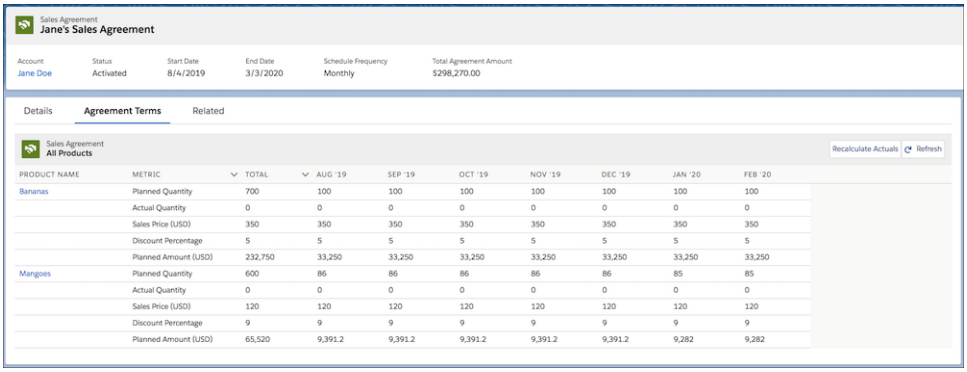
販売環境と販売契約の統合

販売契約のすべての商品の統合ビューを過去、現在、将来のスケジュールの数量総計値および収益総計値と共に取得します。契約条件は、注文と契約から派生した変更と手動での編集に基づいて、自動的に更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: 予定、実際、および売り上げ予測の数量と金額を追跡できます。すべてのスケジュールのすべての商品の販売価格と割引の比較ビューを取得できます。新規および継続的なビジネスについて、販売目標の達成度を確認できます。販売契約レコードの [Agreement Terms (契約条件)] タブでは、すべてのスケジュールのすべての商品を完全に把握できます。



独自の総計値を使用したさまざまな要件の追跡

各組織に一意の要件の独自のセットがあります。価格、割引、数量、および収益の指標に加えて、在庫、テリトリーベースの収益などの業績評価指標の追跡に関心がある場合があります。販売契約の商品およびスケジュールのカスタム総計値を作成し、それらを互いに対応付けます。商品総計値のサマリーは、すべてのスケジュールの積み上げ値を示します。数量と収益の両方の指標に対してカスタム総計値を作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: オブジェクトマネージャで販売契約のスケジュールおよび商品のカスタム総計値を作成します。[設定] の [クイック検索] ボックスで *「販売契約」* を検索します。[販売契約] ページの [Metrics Mapping (総計値の対応付け)] セクションで、販売契約の商品スケジュール総計値 (在庫数量など) を販売契約の商品総計値 (総在庫数量など) に対応付けます。

契約条件の総計値の選択

取引先マネージャ用の契約条件にどの数量総計値と収益総計値を表示するかどうかを決定します。選択可能な標準の総計値は、[Forecasted Quantity (売上予測数量)]、[Forecasted Amount (売上予測金額)]、[Planned Amount (予定金額)]、[Planned Quantity (予定数量)]、[Actual Quantity (実際の数量)]、[Actual Amount (実際の金額)]、[Sales Price (販売価格)] および [Discount Percentage (割引率)] です。使用可能な場合は、カスタム総計値を選択することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスで *「販売契約」* を検索します。[販売契約] ページで **[Agreement Terms Metrics (契約条件総計値)]** のデュアル選択リストを使用して、[Available Metrics (使用可能な総計値)] リストから [Selected Metrics (選択済みの総計値)] リストに総計値を追加します。販売契約の **[Agreement Terms (契約条件)]** タブに表示する総計値の順序を変更することもできます。

注文と契約を介した実際の数量の自動更新

販売契約が有効な場合、実際の商品数量には、該当期間に実行された注文数に基づく定期更新が必要になります。関連付けられた注文が実行されたときに販売契約を手動で更新する必要がなくなりました。すべての有効な販売契約で、関連付けられた注文および契約から商品の実際の数量を自動的に派生することができます。実際の数量が自動的に再計算され、すべての販売契約が毎日更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。ユーザには「注文の有効化」権限と「契約の有効化」権限が必要です。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスで *「販売契約」* を検索します。[販売契約] ページの **[Actuals Calculation Mode (実績の計算モード)]** で次のいずれかを選択します。

- **Automatically from direct orders (直接注文から自動的に計算)**: 契約を介して注文を追跡しない場合。
- **Automatically from orders through contracts (契約を介して注文から自動的に計算)**: 契約を作成し、その契約を介して注文を追跡する場合。

1 回のクリックによる販売契約の実績の再計算

取引先マネージャはワンクリックで有効な販売契約の実績をいつでも再計算し、リアルタイムの最新情報を取得することができます。販売契約には複数の注文を関連付けることができ、それぞれの注文を異なるスケジュールおよび異なる数量で実行することができます。取引先マネージャは、数量に最新の変更を反映するように任意の時点で実績を再計算しなければならない場合があります。大量の注文の実行が予想され、最新の値を更新する日次の自動再計算プロセスを待つことができない場合、これが特に役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: 販売契約の [Agreement Terms (契約条件)] タブで **[Recalculate Actuals (実績を再計算)]** をクリックします。現在のスケジュールのみの実績を再計算するか、過去と現在のすべてのスケジュールの実績を再計算できます。プロセスが完了すると、アプリケーション内通知が取引先マネージャに送信されます。

複数の改定を通じて 1 つの有効な販売契約バージョンを管理

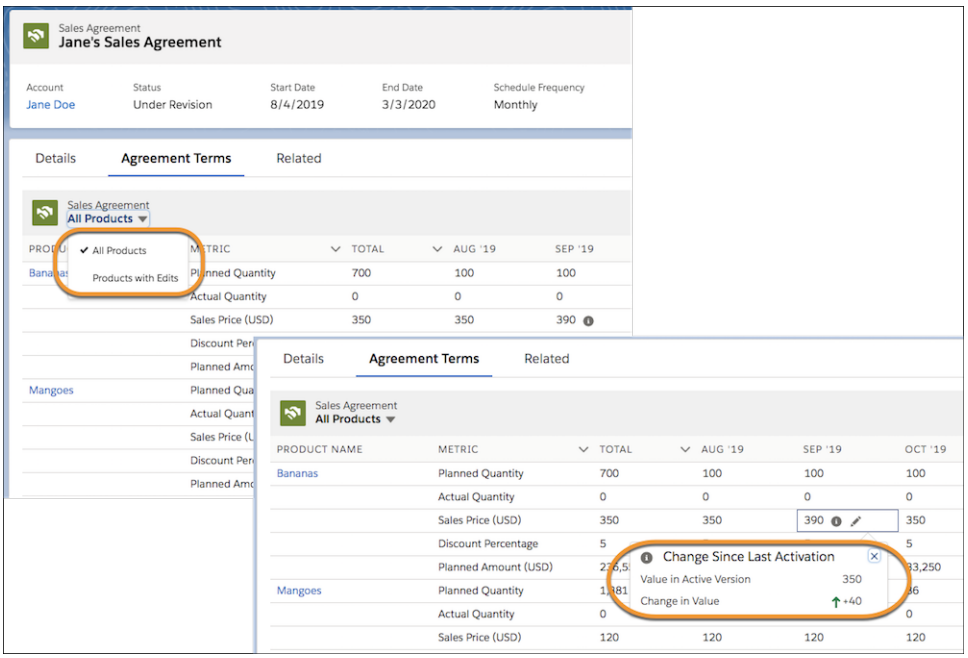
現在および提案された変更の比較ビューを取得します。変更が承認されると、Salesforce にその編集内容が自動的に組み込まれるため、どの時点においても信頼できる 1 つのバージョンが維持されます。複数の状況間を移動することなく、有効な販売契約を変更できます。販売契約が改訂中の場合、あなたと承認者は包括的なビューと絞り込まれたビューを 1 回のクリックで切り替えることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: ビジネスには、商品の問題、経済成長、変更された顧客交渉など、外部および内部のさまざまな要因により発生する予定外の変更に対応する柔軟性が必要です。

方法: 販売契約が有効な場合、商品の予定数量と収益、販売価格、または割引を変更します。変更を適用すると、販売契約の状況が自動的に [有効] から [Under Revision (改訂中)] に変更されます。編集内容が受け入れられて承認されると、変更が組み込まれて、販売契約が再度有効化されます。



事前の計画および販売契約の更新

販売契約を更新して、長期的なビジネス関係を築きます。販売契約のすべての属性と、すべての商品の初期予定数量が、更新される販売契約にコピーされます。新しい契約はドラフト状況で作成され、編集が可能です。販売契約の更新履歴を表示することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。

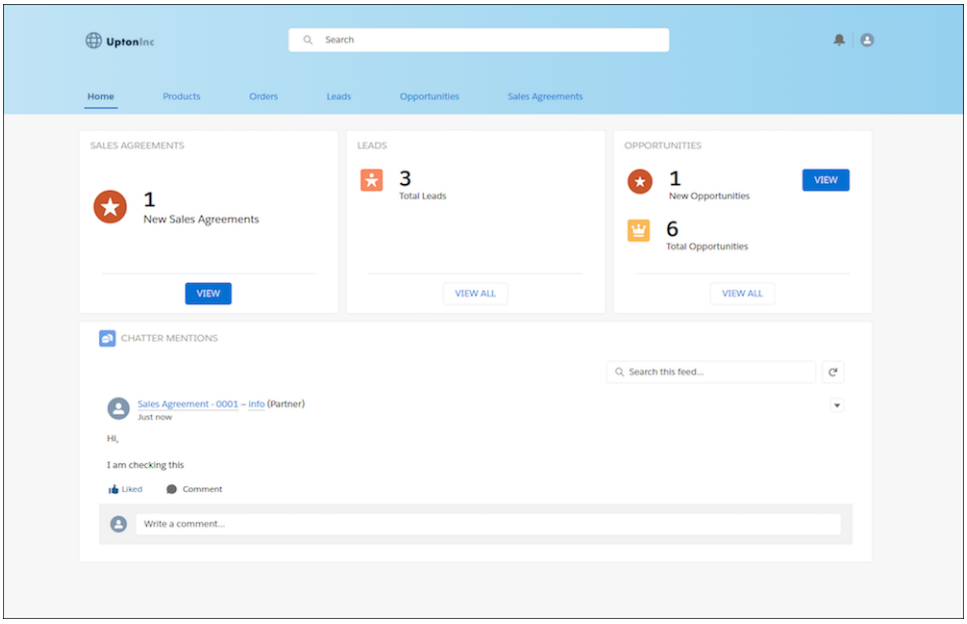
方法: 有効期限の 60 日前から、有効な販売契約または改訂中の販売契約を更新できます。有効期限が切れた後に契約を更新することもできます。契約の開始日は、現在の販売契約の有効期限後の任意の日付とすることができます。

マニュファクチャリングパートナーコミュニティテンプレートを使用したパートナーとのコラボレーションの改善

パートナーがナレッジ記事にアクセスし、販売契約上でコラボレーションを実行し、リードを管理して売上を向上できる反応型ポータルを作成できます。マニュファクチャリングパートナー Lightning コミュニティテンプレートを使用すれば、パートナーとのコラボレーションを行って、価格について交渉し、数量の変更を追跡して、注文を管理できます。パートナーがリードをフォローアップして売上の向上に貢献するようサポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud **ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。**



推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示

自動プロセスまたは手動プロセスの完了時に詳細およびその後の推奨アクションと共に通知を受け取ります。複数の販売契約に影響する日次自動処理に失敗した場合、日次処理の状況と次に実行する手順を含めたメールが送信されます。取引先マネージャがトリガした手動プロセスの場合、取引先マネージャのアクションと販売契約に固有の詳細と共に通知が取引先マネージャに個別に送信されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud **ライセンスと製造販売契約権限セットライセンスを持つユーザが使用できます。**

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスで *「販売契約」* **を検索します。[販売契約] ページの [メール通知] セクションを使用して、自動処理の失敗について通知する主取引先責任者と副取引先責任者を選択します。手動プロセスの場合、再計算プロセスをトリガした個々のユーザにメールが送信されます。通知は、契約の自動有効化、契約の自動終了、および実績の日次再計算について送信されます。**

取引先売上予測: 正確で全体的な売上予測による事前対応

取引先売上予測を使用して、より適切に販売と運用を計画します。注文、商談、販売契約、契約などに基づいて、新規ビジネスおよびランレートビジネスの売上予測を生成できます。各取引先の成長を把握する売上予測を作成します。売上予測を修正および再計算できる調整期間を定義し、その期間を超える売上予測はロックします。独自の数式を作成して、売上予測の計算ロジックを定義します。自動生成される売上予測を使用すれば、手動で売上予測に商品を追加する必要がなくなります。

このセクションの内容:

周期売上予測の自動的な生成および表示

従来の売上予測機能に加えて、周期売上予測により継続的な計画が可能になりました。売上予測期間が 12 か月間の場合、各月の終わりに別の月が自動的に追加されて表示されるため、常にこの先の 12 か月間を予測することになります。売上予測は、各取引先について各周期期間の開始時に再計算されます。

社内の計画期間に合わせた売上予測に対する手動調整の計画

取引先マネージャが現在の売上予測と将来の実績との差を予想するときに、売上予測値を変更できるようにします。定期的な調整期間の開始時点で、既存の商品の売上予測、および前回の調整期間以降に追加された商品の売上予測が再計算されます。これにより、売上予測調整を社内の会計計画期間に合わせることができます。

数式ビルダーを使用した売上予測用の複数の数式の作成

通常、売上予測の計算は複雑で高度です。新しい数式ビルダーにより、販売数と営業収益を予測できます。数量と収益の計算に個別の数式のセットを作成できます。売上予測の表示期間全体の中で異なる期間に異なる数式を使用することもできます。たとえば、24 か月の売上予測では、1 ～ 24 個までの数式を作成して異なる期間に適用できます。

取引先売上予測の総計値の選択

取引先マネージャに、必要な数量および収益の総計値のみを表示します。[過去の注文数量]、[現在の注文数量]、[商談数量]、[販売契約の予定数量]、[過去の注文の収益]、[現在の注文の収益]、[商談収益]、[販売契約の予定収益] から選択できます。

売上予測をパーソナライズするための各取引先の成長総計値の指定

取引先ごとに成長のペースは異なり、売上予測にそれを反映させる必要があります。取引先マネージャは取引先ごとに取引先の成長と市場の成長の値を指定できるようになりました。これらの総計値は、最初の売上予測を生成し、各調整期間中に売上予測を再計算するために使用されます。

複数のユーザ別の売上予測値に対する手動調整の追跡

さまざまなロールおよび階層のユーザが取引先売上予測レコードに対して手動調整を行うことができます。売上予測グリッドの変更された各セル値について、過去3回の編集の変更履歴が保持されます。複数のユーザが数量ベースの売上予測または収益の値を変更した場合、その変更はセルにマウスポインタを置くと表示できます。

1 回のクリックでの調整期間中の売上予測の再計算

取引先マネージャは、現在の調整期間中いつでも取引先売上予測を再計算できます。社内の計画および調整期間中に、複数のユーザが同じ取引先売上予測に対する変更を行うことができます。ワンクリックで、取引先マネージャはいつでも再計算プロセスをトリガし、リアルタイムの最新情報を取得できます。

推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示

自動または手動のプロセスが完了したら、詳細と次に行う推奨アクションと共に通知が表示されます。影響する自動化プロセスに失敗した場合、日次プロセスの状況と次に実行する手順を含めたメールが送信されます。取引先マネージャがトリガした手動のプロセスの場合、独自のアクションおよび取引先売上予測に固有の詳細と共に通知されます。

周期売上予測の自動的な生成および表示

従来の売上予測機能に加えて、周期売上予測により継続的な計画が可能になりました。売上予測期間が 12 か月間の場合、各月の終わりに別の月が自動的に追加されて表示されるため、常にこの先の 12 か月間を予測することになります。売上予測は、各取引先について各周期期間の開始時に再計算されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: 期間が固定された静的な売上予測とは異なり、周期売上予測は時間の経過と共に変更が反映されるように定期的に更新されます。最新の数値および期間に基づいて将来のパフォーマンスを予測できるため、流動的で変化し続けるビジネス環境で営業している場合は利点となります。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスに *「取引先売上予測」* と入力して検索します。[取引先売上予測] ページで、[売上予測の表示] を設定します。

社内の計画期間に合わせた売上予測に対する手動調整の計画

取引先マネージャが現在の売上予測と将来の実績との差を予想するときに、売上予測値を変更できるようにします。定期的な調整期間の開始時点で、既存の商品の売上予測、および前回の調整期間以降に追加された商品の売上予測が再計算されます。これにより、売上予測調整を社内の会計計画期間に合わせることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスに *「取引先売上予測」* と入力して検索します。[設定] の [取引先売上予測] ページで、[売上予測調整の設定] を設定します。定期的な調整期間の頻度、および売上予測に対して手動調整を実行できる日数を選択します。たとえば、調整期間を各四半期の最初の 15 日間と定義した場合、それに従ってその四半期の売上と収益を計画し、手動調整を行うことができます。

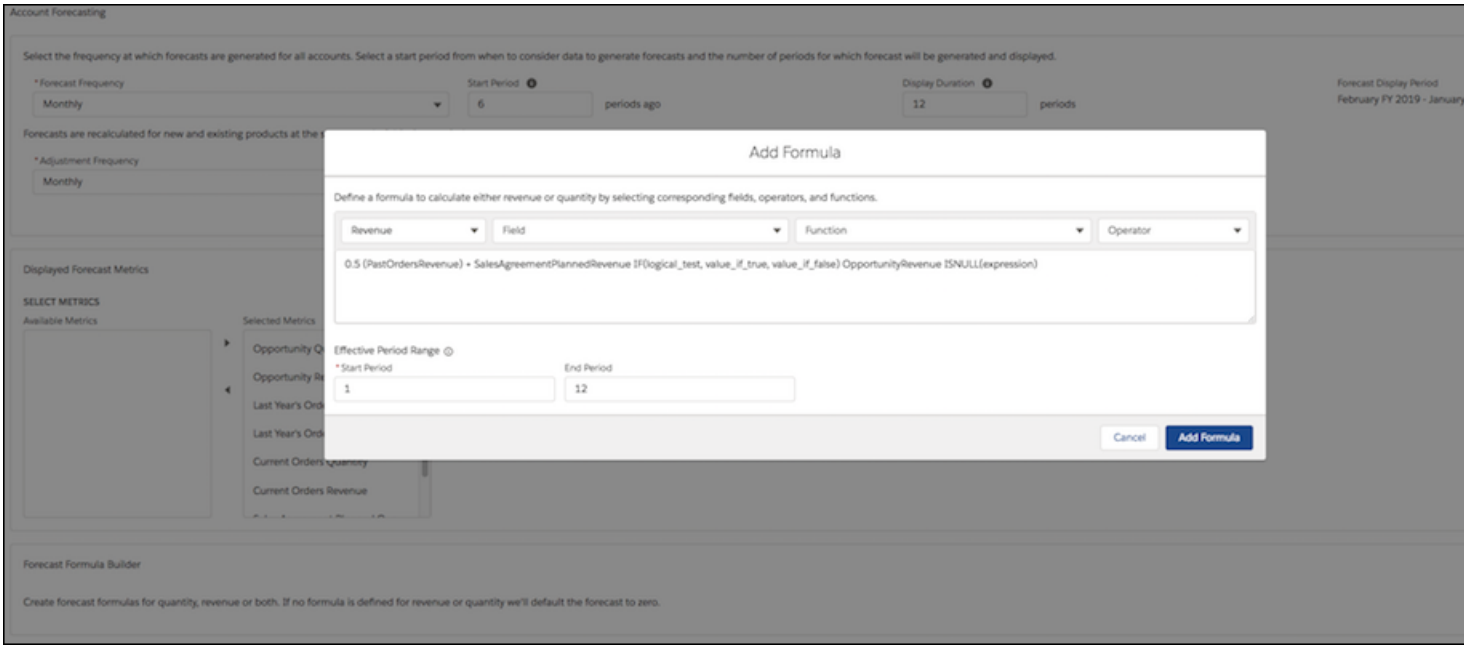
数式ビルダーを使用した売上予測用の複数の数式の作成

通常、売上予測の計算は複雑で高度です。新しい数式ビルダーにより、販売数と営業収益を予測できます。数量と収益の計算に個別の数式のセットを作成できます。売上予測の表示期間全体の中で異なる期間に異なる数式を使用することもできます。たとえば、24か月の売上予測では、1～24個までの数式を作成して異なる期間に適用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスに *「取引先売上予測」* と入力して検索します。売上予測数式ビルダーの [取引先売上予測] ページで、項目、関数、および演算子を選択して、数量と収益の高度な数式を作成します。商談、注文、販売契約、取引先、市場の成長の総計値を活用して、各期間に固有の数式を作成します。



取引先売上予測の総計値の選択

取引先マネージャに、必要な数量および収益の総計値のみを表示します。[過去の注文数量]、[現在の注文数量]、[商談数量]、[販売契約の予定数量]、[過去の注文の収益]、[現在の注文の収益]、[商談収益]、[販売契約の予定収益] から選択できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスに *「取引先売上予測」* と入力して検索します。[取引先売上予測] ページで、[表示される売上予測総計値]のデュアル選択リストを使用して[使用可能な総計値]リストから総計値を[選択済み総計値] リストに追加します。取引先の [売上予測] タブで総計値が表示される順番を変更することもできます。予測数量と予測収益はデフォルトで集計項目として取引先マネージャに表示されます。取引先マネージャは 1 回のクリックですべての総計値と売上予測総計値の間で表示を切り替えることもできます。

売上予測をパーソナライズするための各取引先の成長総計値の指定

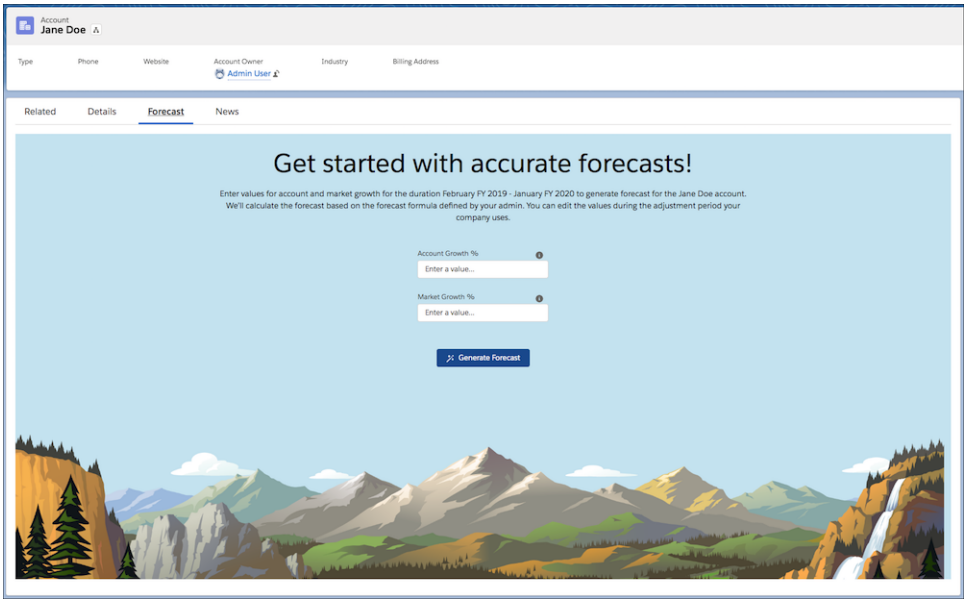
取引先ごとに成長のペースは異なり、売上予測にそれを反映させる必要があります。取引先マネージャは取引先ごとに取引先の成長と市場の成長の値を指定できるようになりました。これらの総計値は、最初の売上予測を生成し、各調整期間中に売上予測を再計算するために使用されます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: 各期間で変動するパフォーマンス総計値に基づいて将来の収益を予測することが重要です。各調整期間の開始時点で、各取引先所有者は今後の月または四半期の取引先および市場の成長の値を指定して、パーソナライズされた売上予測を生成できます。値が適用され、現在および将来の期間の売上予測が再計算されます。

方法:[設定]で、[取引先売上予測]を選択します。売上予測数式ビルダーを使用して、取引先の成長と市場の成長が項目として含まれる数式を作成します。



複数のユーザ別の売上予測値に対する手動調整の追跡

さまざまなロールおよび階層のユーザが取引先売上予測レコードに対して手動調整を行うことができます。売上予測グリッドの変更された各セル値について、過去3回の編集の変更履歴が保持されます。複数のユーザが数量ベースの売上予測または収益の値を変更した場合、その変更はセルにマウスポインタを置くと表示できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

1 回のクリックでの調整期間中の売上予測の再計算

取引先マネージャは、現在の調整期間中いつでも取引先売上予測を再計算できます。社内の計画および調整期間中に、複数のユーザが同じ取引先売上予測に対する変更を行うことができます。ワンクリックで、取引先マネージャはいつでも再計算プロセスをトリガし、リアルタイムの最新情報を取得できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: 取引先マネージャは、最新の変更が反映されるようにすべての数量を更新するために、売上予測の再計算が必要な場合があります。これは、売上予測値に対する修正が多い場合に特に便利です。

方法: 販売契約の [取引先売上予測] タブで、[再計算] をクリックします。調整期間中に取引先と市場の成長総計値が編集されると、売上予測も自動的に再計算されます。プロセスが完了すると、アプリケーション内通知が取引先マネージャに送信されます。

推奨アクションを使用した迅速でパーソナライズされた通知の表示

自動または手動のプロセスが完了したら、詳細と次に行う推奨アクションと共に通知が表示されます。影響する自動化プロセスに失敗した場合、日次プロセスの状況と次に実行する手順を含めたメールが送信されます。取引先マネージャがトリガした手動のプロセスの場合、独自のアクションおよび取引先売上予測に固有の詳細と共に通知されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Manufacturing Cloud ライセンスと「製造取引先売上予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: 自動のプロセスの失敗についてメールで通知を受けるには、[設定] の [取引先売上予測] ページで主および副取引先責任者を選択します。手動のプロセスの場合、売上予測の再計算プロセスをトリガした各取引先所有者にメールが送信されます。メールおよびアプリケーション内通知が送信される自動のプロセスは、売上予測の再生成、売上予測の数式の変更、売上予測の再計算、売上予測期間の繰り越しです。

Einstein Analytics for Manufacturing を使用したビジネスの成長と営業業務の簡略化

Analytics for Manufacturing アプリケーションを使用すると、取引先マネージャがビジネスのあらゆる側面を視覚化することができます。Manufacturing Cloud からのデータに基づくインサイトによって、販売契約、注文、契約を把握できます。視覚化によって、新しい商談や拡大商談のために電話する顧客を識別することによって、ビジネスを成長させることができます。また、最も売れている商品と最も売れていない商品をすばやく見つけて、数量が価格設定と収益に及ぼす影響を分析できます。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Manufacturing テンプレートからアプリケーションを作成するには、Manufacturing Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Manufacturing は Salesforce Manufacturing Cloud ユーザのみを対象とします。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。[**Analytics for Manufacturing**] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

関連トピック:

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト

Manufacturing Cloud に販売契約および取引先売上予測の新しいオブジェクトが追加されました。

対象: この機能は、Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の製造アプリケーションに適用されます。

取引先の数量および収益を予測するための周期売上予測の生成と表示
新しい `Account Forecast` オブジェクトを使用します。

すべての売上予測表示期間での数量および収益を計算するための複数の数式の記録
新しい `Account Forecast Formula` オブジェクトを使用します。

異なる期間での取引先に固有の取引先の成長および市場の成長総計値のキャプチャ
新しい `Account Forecast Period Metrics` オブジェクトを使用します。

周期売上予測の期間をまたぐ販売契約、商談、注文から派生した特定の製品の累積値の記録
新しい `Account Product Forecast` オブジェクトを使用します。

周期売上予測の 1 つの期間での販売契約、商談、注文から派生した特定の製品の累積値の記録
新しい `Account Product Period Forecast` オブジェクトを使用します。

複数の総計値を使用したスケジュールをまたぐ製品の予定数量および収益と実際の数量および収益の追跡
新しい `Sales Agreement` オブジェクトを使用します。

販売契約のすべての期間をまたぐ特定の製品の価格および数量の情報の追跡
新しい `Sales Agreement Product` オブジェクトを使用します。

販売契約の 1 つの期間での特定の製品の価格および数量の情報の追跡
新しい `Sales Agreement Product Schedule` オブジェクトを使用します。

Consumer Goods Cloud: 消費財バリューチェーン全体でのより緊密な接続の作成 (正式リリース)

フィールド担当は、適切な価格で適切なプロモーションを実施して在庫を揃えることで、あらゆる店舗を品切れのない完璧な店舗に変えることができます。フィールド担当は業務活動よりも関係構築に時間を割いて売上を伸ばし、満足度を高めることができます。小売実行モバイルアプリケーションは、新しい消費財データモデルによってフィールド営業担当者が在庫の追跡、発注、訪問詳細のキャプチャなどを行えるようにします。Salesforce アンケートを使用すれば、チャネルパートナーからのビジネスインサイトを取得して、Einstein Object Detection で商品や棚の配置を自動的に識別できます。

このセクションの内容:

類似する店舗、店舗内の場所、および商品のグループ化によるビジネスプロセスの合理化
店舗、店舗内の場所、そしてこれらの店舗で販売された商品の追跡方法を簡素化できます。多くの店舗、店舗内の場所、商品の管理は、時間がかかり、わかりにくいことがあります。どの店舗でどの商品が売れるか、また各店舗内のどこに商品が置かれているかを追跡するのは、簡単なことではありません。グループ化により、少数の店舗グループ、店舗内の場所のカテゴリ、アソートを作成すると、管理しやすくなります。

効果的な店舗訪問の計画
フィールド営業担当者に、店舗名、優先度、場所、時間、予想訪問時間、これまでの訪問履歴など、訪問の詳細を提供します。フィールド営業担当者は店舗を訪問し、ToDo を実行し、訪問の詳細をモバイルデバイスで記録できます。共通の ToDo をすべてテンプレートに追加し、そのテンプレートを使用して各店舗への訪問を作成することで、時間を節約します。必須の活動には必須とマークしてください。

在庫監査による売上アップ

在庫監査ToDoを作成して訪問に関連付けることで、商品の在庫レベルと全店舗での配置を管理します。店頭陳列または予想店舗在庫の在庫レベルの目標を定義します。フィールド営業担当者は、訪問時に在庫監査を実施することで、売れ筋商品の在庫が十分で適切に配置されていることを確認できます。

モバイル注文キャプチャで実店舗の売り上げを最大化

Salesforceのモバイルソリューションで、店舗内の注文キャプチャと、商品、数量、価格などの重要データの収集が容易になります。補充が必要な商品をお気に入りとしてマークし、デフォルトの注文数量を定義することで、フィールド営業担当者の時間と労力を節約します。注文を作成するToDoを作成してテンプレートに関連付けます。フィールド営業担当者は、店舗で販売されている単一の商品、アソート全体、または商品すべてを最小限のクリック操作で発注できます。

プロモーションキャンペーンの効果の評価

進行中のプロモーションに関する重要な情報を収集することで、そのプロモーションが仕様どおりに実行されていて、売上増加に役立っているかどうかを確認します。プロモーションを確認し、その方法、目的、対象を定義するToDoを作成します。フィールド営業担当者は、プロモーションに関するリアルタイムの情報をモバイルデバイスで記録できます。この情報を使用して、次のプロモーションをすばやく作成したり、将来のより効果的なプロモーションを考案したりすることもできます。

カスタムToDoによる一意のビジネスデータのキャプチャ

カスタムToDoを使用してビジネスに固有の活動と機能を追跡および監視できます。実行とビジネスプロセスに関するインサイトを向上させることで、店舗との関係がよくなり、商品の売上が増加します。

アンケートによるビジネスインサイトの収集

Salesforceアンケートを使用してアンケートを作成し、フィールド営業担当者に配布して店舗のスタッフや顧客からのフィードバックを記録できるようにします。アンケートを実施して、商品、プロモーション、全体的なカスタマーエクスペリエンスに関する情報を収集します。

Einstein Object Detectionの監査の精度と生産性の向上

Einstein Object Detectionは、在庫管理、プラノグラム、その他の小売活動をスピードアップし、手動でのチェックにありがちな人的ミスを排除します。フィールド営業担当者は、監査活動に費やす時間を減らして、店舗のマネージャや顧客との関係構築により多くの時間を掛けられるようになります。

SFMapによる営業テリトリーの管理とルートの最適化

SFMapを使用して企業の活動と場所を対応付けます。地理的情報、取引先の優先度、フィールド営業担当者の対応可能状況、最適化されたルートプランに基づいて訪問を割り当てることで、生産性を高めます。SFMapのジオフェンシング機能を使用して、フィールド営業担当者の説明責任を促進します。

小売実行の新しいオブジェクト

小売実行に新しいオブジェクトが追加されました。

REST APIを使用した画像内のオブジェクトの検出

Einsteinオブジェクト検出REST APIを使用すると、画像内のオブジェクトを検出するモデルを作成して使用できます。モデルを更新することで、精度を高めたり、オブジェクトを追加したりできます。

類似する店舗、店舗内の場所、および商品のグループ化によるビジネスプロセスの合理化

店舗、店舗内の場所、そしてこれらの店舗で販売された商品の追跡方法を簡素化できます。多くの店舗、店舗内の場所、商品の管理は、時間がかかり、わかりにくいことがあります。どの店舗でどの商品が売れるか、また各店舗内のどこに商品が置かれているかを追跡するのは、簡単なことではありません。グループ化により、少数の店舗グループ、店舗内の場所のカテゴリ、アソートを作成すると、管理しやすくなります。

対象: この変更は、Unlimited Edition および Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 小売実行ライセンスが割り当てられているユーザのみが、Consumer Goods Cloud が有効化されている類似の店舗、店舗内の場所、商品をグループ化できます。

方法: 販売している商品の種別や店舗の地理的な位置など、条件に基づいて店舗をグループ化します。店舗内および店舗グループ内における商品の販売対象に基づいて、商品を分類します。類似する店舗内の場所(通路、棚、レジなど)をカテゴリ化します。

効果的な店舗訪問の計画

フィールド営業担当者に、店舗名、優先度、場所、時間、予想訪問時間、これまでの訪問履歴など、訪問の詳細を提供します。フィールド営業担当者は店舗を訪問し、ToDo を実行し、訪問の詳細をモバイルデバイスで記録できます。共通の ToDo をすべてテンプレートに追加し、そのテンプレートを使用して各店舗への訪問を作成することで、時間を節約します。必須の活動には必須とマークしてください。

対象: この機能は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Professional Edition の小売実行アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 小売実行ライセンスを割り当てられているユーザのみが訪問を作成できます。

在庫監査による売上アップ

在庫監査 ToDo を作成して訪問に関連付けることで、商品の在庫レベルと全店舗での配置を管理します。店頭陳列または予想店舗在庫の在庫レベルの目標を定義します。フィールド営業担当者は、訪問時に在庫監査を実施することで、売れ筋商品の在庫が十分で適切に配置されていることを確認できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 小売実行ライセンスが割り当てられているユーザのみが、在庫監査 ToDo を実行できます。

モバイル注文キャプチャで実店舗の売り上げを最大化

Salesforce のモバイルソリューションで、店舗内の注文キャプチャと、商品、数量、価格などの重要データの収集が容易になります。補充が必要な商品をお気に入りとしてマークし、デフォルトの注文数量を定義することで、フィールド営業担当者の時間と労力を節約します。注文を作成する ToDo を作成してテンプレートに関連付けます。フィールド営業担当者は、店舗で販売されている単一の商品、アソート全体、または商品すべてを最小限のクリック操作で発注できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 小売実行ライセンスが割り当てられているユーザのみが、発注用の ToDo **を作成できます。**

プロモーションキャンペーンの効果の評価

進行中のプロモーションに関する重要な情報を収集することで、そのプロモーションが仕様どおりに実行されていて、売上増加に役立っているかどうかを確認します。プロモーションを確認し、その方法、目的、対象を定義する ToDo **を作成します。フィールド営業担当者は、プロモーションに関するリアルタイムの情報をモバイルデバイスで記録できます。この情報を使用して、次のプロモーションをすばやく作成したり、将来のより効果的なプロモーションを考案したりすることもできます。**

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud **が有効になっている** Unlimited Edition **と** Enterprise Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: 小売実行ライセンスが割り当てられているユーザのみが、プロモーション活動を確認するための ToDo **を作成できます。**

カスタム ToDo による一意のビジネスデータのキャプチャ

カスタム ToDo **を使用してビジネスに固有の活動と機能を追跡および監視できます。実行とビジネスプロセスに関するインサイトを向上させることで、店舗との関係がよくなり、商品の売上が増加します。**

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud **が有効になっている** Unlimited Edition **と** Enterprise Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: 小売実行ライセンスが割り当てられているユーザのみが、カスタム ToDo **を使用してビジネス固有のデータをキャプチャできます。**

アンケートによるビジネスインサイトの収集

Salesforce**アンケートを使用してアンケートを作成し、フィールド営業担当者に配布して店舗のスタッフや顧客からのフィードバックを記録できるようにします。アンケートを実施して、商品、プロモーション、全体的なカスタマーエクスペリエンスに関する情報を収集します。**

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud **が有効になっている** Unlimited Edition **と** Enterprise Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

Einstein Object Detection の監査の精度と生産性の向上

Einstein Object Detection **は、在庫管理、プラノグラム、その他の小売活動をスピードアップし、手動でのチェックにありがちな人的ミスを排除します。フィールド営業担当者は、監査活動に費やす時間を減らして、店舗のマネージャや顧客との関係構築により多くの時間を掛けられるようになります。**

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud **が有効になっている** Unlimited Edition **と** Enterprise Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「Einstein Object Detection」* **と入力し、[Einstein Object Detection] を選択します。店舗の棚の商品とその配置を調べる** ToDo **を作成します。** ToDo **をテンプレートに関連付けます。店舗のプラのグラムを定義するときは、理想的な陳列イメージの参考画像をアップロードします。フィールド営業担当者が棚の画像をクリックしてアップロードすると、**Einstein **から結果が返されます。**

SFMap による営業テリトリーの管理とルートの最適化

SFMap を使用して企業の活動と場所を対応付けます。地理的情報、取引先の優先度、フィールド営業担当者の対応可能状況、最適化されたルートプランに基づいて訪問を割り当てることで、生産性を高めます。SFMap のジオフェンシング機能を使用して、フィールド営業担当者の説明責任を促進します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: SFMap が組織にインストールされている必要があります。

小売実行の新しいオブジェクト

小売実行に新しいオブジェクトが追加されました。

店舗で販売できる商品のリストへの追加
新しい `Assortment` オブジェクトを使用します。

目標値と実際の値を比較するために小売 ToDo のコンプライアンスマーカーとして機能するパラメータを定義
新しい `AssessmentIndicatorDefinition` オブジェクトを使用します。

小売店舗で実行するプロモーション活動を、キャンペーンの一環として、あるいは対象を絞った独立プロモーションとして作成
新しい `Promotion` オブジェクトを使用します。

コンテンツドキュメントを訪問、ToDo、プロモーション、またはプラノグラムに関連付け
新しい `AssessmentTaskContentDocument` オブジェクトを使用します。

規模、場所、小売チェーンなど共有する特徴に基づいて小売店舗をグループ化
新しい `RetailLocationGroup` オブジェクトを使用します。

法人取引先に関連付けられている物理的な小売店舗のレコードを作成
新しい `RetailStore` オブジェクトを使用します。

小売店舗のレイアウト内での場所 (通路、棚、バックルームなど) を作成
新しい `InStoreLocation` オブジェクトを使用します。

店舗グループを評価指標定義、商品、店舗内の場所カテゴリに対応付け、目標を定義
新しい `RetailStoreKpi` オブジェクトを使用します。

店舗で活動を行って情報をキャプチャ
新しい `AssessmentTask` オブジェクトを使用します。

商品アソートを店舗、店舗グループ、または取引先に関連付け
新しい `StoreAssortment` オブジェクトを使用します。

商品を店舗内の特定の場所と小売店舗に関連付け
新しい `StoreProduct` オブジェクトを使用します。

営業担当者が小売活動を実行した小売店舗への訪問に関連する情報を追跡
新しい `Visit` オブジェクトを使用します。

Einstein Object Detection の新しいオブジェクト

機械学習モデルを作成して、画像内のオブジェクトを検出する
新しい `AiDataset` オブジェクトを使用します。

画像内で検出されたオブジェクトの詳細を確認する
新しい `AiImageDetectedObject` オブジェクトを使用します。

モデルを更新するためのオブジェクトを追加する
新しい `AiImageTrainingObject` オブジェクトを使用します。

画像内のオブジェクトを検出するモデルの詳細を確認する
新しい `AiVisionModel` オブジェクトを使用します。

モデルの品質を確認する
新しい `AiVisionModelMetric` オブジェクトを使用します。

モデルがオブジェクトをどれほど正確に検出するかを確認する
新しい `AiVisionModelObjectMetric` オブジェクトを使用します。

画像の詳細を確認する
新しい `Image` オブジェクトを使用します。

REST API を使用した画像内のオブジェクトの検出

Einstein オブジェクト検出 REST API を使用すると、画像内のオブジェクトを検出するモデルを作成して使用できます。モデルを更新することで、精度を高めたり、オブジェクトを追加したりできます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

モデルを作成して、画像内のオブジェクトを検出する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/datasets/`***`datasetId`***`/train` に対して `POST` 要求を実行します。

画像内のオブジェクトを検出する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images` に対して `POST` 要求を実行します。

画像内で検出されたオブジェクトを表示する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images/`***`imageId`*** に対して `GET` 要求を実行します。

店舗内の場所での商品と向きを検出する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images/stats` に対して `POST` 要求を実行します。

画像内で検出された商品と向きを表示する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images/`***`imageId`***`/stats` に対して `GET` 要求を実行します。

モデルの更新に使用されるサンプル画像を追加する
`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images/`***`imageId`***`/feedback` に対して `POST` 要求を実行します。

サンプル画像を表示する

`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/images/imageId/feedback` に対して `GET` 要求を実行します。

モデルを更新する

`/services/data/vXX.X/connect/object-detection/models/modelId/retrain` に対して `POST` 要求を実行します。モデルは、モデルに関連付けられているサンプルオブジェクトを使用して更新されます。

Financial Services Cloud: 住宅ローン承認の迅速化、独立系保険エージェント向けポータル、マルチリソーススケジュールなど

融資担当者および債務者向けテンプレートフローを使用して住宅ローン申し込みプロセスを合理化します。債務者はドキュメントを直接Financial Services Cloudにアップロードできるため、承認プロセスが簡略化されます。独立系保険エージェントは、Salesforce コミュニティポータルから主要な保険機能と Lightning コンポーネントにアクセスできます。Lightning Scheduler では、マルチリソーススケジュールで顧客を専門家のグループにつなぎ、同じ時間枠内で複数の顧客の予定を予約できます。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud の住宅ローン: データモデルの機能強化、標準フロー、画面コンポーネント (正式リリース)

Financial Services Cloud の住宅ローンが正式リリースされました。住宅ローン用データモデルの機能強化により重要な債務者情報を収集し、データを事業部間で容易に共有できます。新しい住宅ローン標準フローテンプレートと画面コンポーネントを使用して、債務者および融資担当者向けにガイド付き住宅ローン申請フローを提供します。

ドキュメント追跡と承認 (正式リリース)

住宅ローン申請などの使用事例のドキュメントと承認を追跡することによって、顧客エンゲージメントを促進します。顧客が Financial Services Cloud に直接ファイルをアップロードし、各ドキュメントの状況を監視できるようにします。

Financial Services Cloud の保険: 事業保険契約管理、独立系エージェント向けポータル、コンポーネントの機能強化など

拡張されたデータモデル、改善された Lightning コンポーネント、Shield Platform Encryption のサポートにより、事業保険契約を管理したり、保険契約者の機密情報を保護したり、ライフイベントとビジネスマイルストンをより適切に管理したりできます。調整されたコミュニティポータルにより、独立系保険エージェントは保険機能やコンポーネントにアクセスし、クライアントリストを管理および増大できます。新しい保険エージェントアクション項目コンポーネントを保険エージェントコンソールのホームページに追加して、最も緊急の活動がエージェントの目に付きやすいようにします。

Lightning Scheduler: 顧客の予定のスケジュールの最適化

Lightning Scheduler のマルチリソーススケジュールを使用して、顧客の予定をファイナンシャルアドバイザー、公認会計士、弁護士など専門家のグループに対してすばやくスケジュールします。同時スケジュールによって、同じ時間枠内に複数の顧客の予定を予約し、カレンダーの空き時間を最大限に活用できます。

拡張された取引先リレーション構造による顧客リレーションの深化

拡張された取引先間リレーションエンティティを使用して法人および個人取引先リレーション階層を作成します。信託などの企業および法人を世帯やグループに直接関連付けます。拡張されたリレーションマップでは、親会社とその関連子会社に加え、家族リレーションを簡単に表示できます。

Analytics for Wealth Management を使用した重要な Financial Services データへの注力

Analytics for Wealth Management アプリケーション (旧称 Einstein Analytics for Financial Services) に含まれるカスタマイズ機能を使用して、アプリケーションダッシュボードに追加するデータを選択します。設定ウィザードに従ってプロセスの手順を進めます。データセキュリティ設定を選択し、外部料金、手数料、目標データをダッシュボードに追加できます。また、トレンド分析機能を含めることでトレンドを把握しやすくしたり、レコードタイプを選択して口座の種別に従ってウェルスマネジメントデータを並び替えたりできます。

Analytics for Retail Banking の新規リリースを使用した顧客インサイトの調整

テンプレートの設定ウィザードを使用して分析環境をカスタマイズしたり、口座ページから直接ダッシュボードの視覚化に簡単にアクセスできます。リテールバンカーは、モバイルデバイスから主要業績指標に関するインサイトをすばやく取得できます。

Financial Services Cloud の新しいオブジェクト

新しい Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新規項目と更新された項目の選択リスト値が Financial Services Cloud オブジェクトで使用できます。

Financial Services Cloud の住宅ローン: データモデルの機能強化、標準フロー、画面コンポーネント (正式リリース)

Financial Services Cloud の住宅ローンが正式リリースされました。住宅ローン用データモデルの機能強化により重要な債務者情報を収集し、データを事業部間で容易に共有できます。新しい住宅ローン標準フローテンプレートと画面コンポーネントを使用して、債務者および融資担当者向けにガイド付き住宅ローン申請フローを提供します。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud データモデルの機能強化による債務者情報の収集

住宅ローン申請では、債務者と、債務者が購入、ローンを借り換え、または建築する不動産物件について多くのデータが収集されます。データモデルの機能強化を使用して、この情報を収集し、事業部間で共有します。

住宅ローンフローテンプレートを使用したガイド付き住宅ローン申請フローの作成

Financial Services Cloud の住宅ローンには、2019 年 2 月にリリースされた U.S. Uniform Residential Loan Application (米国統一住宅ローン申請) に基づく標準のフローが付属しています。これらの標準フローをテンプレートとしてコピーし、カスタマイズして独自の債務者および融資担当者向けガイド付き UI フローを作成することもできます。

フロー画面コンポーネントを使用したフローの拡張

5つの新しいフロー画面コンポーネントにより、ユーザの画面フロー操作の機能性と柔軟性が向上します。

MuleSoft: Blend コネクタと Roostify コネクタ

Blend コネクタと Roostify コネクタを使用して、Financial Services Cloud とこれらのサービス間の複雑なインテグレーションを視覚的に定義し、包括的な住宅ローン融資環境を構築できます。

関連トピック:

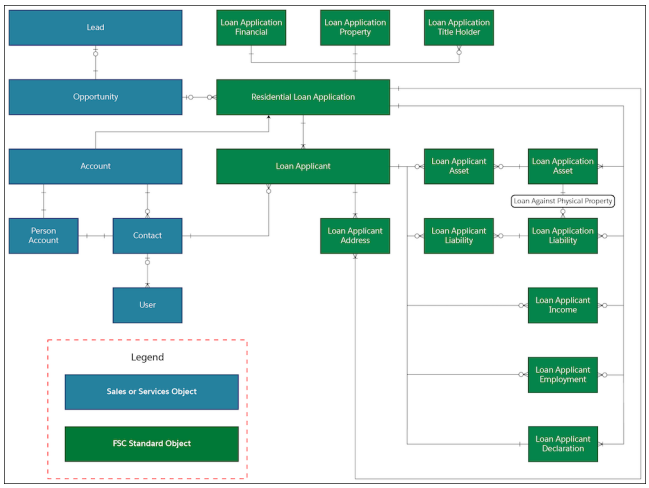
Financial Services Cloud アップグレードガイド: Enable Mortgage for Financial Services Cloud (Financial Services Cloud の住宅ローンの有効化) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud データモデルの機能強化による債務者情報の収集

住宅ローン申請では、債務者と、債務者が購入、ローンを借り換え、または建築する不動産物件について多くのデータが収集されます。データモデルの機能強化を使用して、この情報を収集し、事業部間で共有します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 2019 年 2 月にリリースされた U.S. Uniform Residential Loan Application (米国統一住宅ローン申請) に基づき、Financial Services Cloud 住宅ローンデータモデルでは 13 個の新規オブジェクトを提供します。

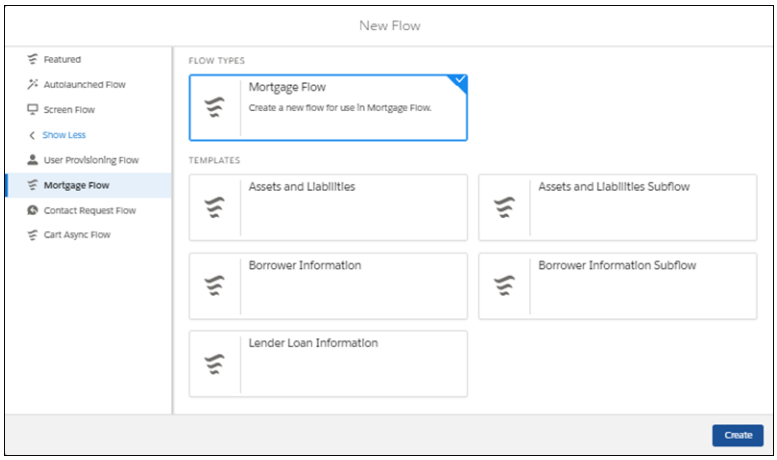


住宅ローンフローテンプレートを使用したガイド付き住宅ローン申請フローの作成

Financial Services Cloud の住宅ローンには、2019 年 2 月にリリースされた U.S. Uniform Residential Loan Application (米国統一住宅ローン申請) に基づく標準のフローが付属しています。これらの標準フローをテンプレートとしてコピーし、カスタマイズして独自の債務者および融資担当者向けガイド付き UI フローを作成することもできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: カスタム住宅ローンフローを作成するには、既存の標準フローをコピーします。[住宅ローン] フロー種別を選択してから、標準のフローをテンプレートとして選択することもできます。



カスタム住宅ローンフローを作成、テスト、有効化したら、住宅ローン申請ページのクイックアクションにして、融資担当者に配布します。カスタムの債務者フローまたは資産と負債フローを顧客が使用できるようにするには、コミュニティビルダーで設定します。

関連トピック:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

フロー画面コンポーネントを使用したフローの拡張

5 つの新しいフロー画面コンポーネントにより、ユーザの画面フロー操作の機能性と柔軟性が向上します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 融資担当者ユーザと住宅ローンの顧客に連絡するために最も効果的な方法でデータを表示するフロー画面を作成します。

- コレクションからボタン選択リストでは、コレクション変数から表示ラベルが、ラジオボタン、チェックボックス、ドロップダウンリストではなく、一連のボタンに表示されます。
- 項目からボタン選択リストでは、オブジェクト項目の選択リスト値が一連のボタンに表示されます。
- コレクションからチェックボックスグループでは、コレクション変数から表示ラベルがチェックボックスに表示され、複数選択が許可されます。デフォルトで複数のチェックボックスを選択できます。
- カスタマイズ可能なボタンを含むフッターでは、カスタムボタンがフッターに表示されます。また、[次へ] ボタンのテキストをカスタマイズできます。
- 画面ボタンでは、フッターではなく画面の本文内のボタンが表示されます。

方法: 画面要素をカスタムフローに追加します。[新規画面] モーダルでフロー画面コンポーネントを選択し、その画面プロパティに値を入力します。

MuleSoft: Blend コネクタと Roostify コネクタ

Blend コネクタと Roostify コネクタを使用して、Financial Services Cloud とこれらのサービス間の複雑なインテグレーションを視覚的に定義し、包括的な住宅ローン融資環境を構築できます。

対象: Anypoint Exchange を介して MuleSoft コネクタを使用できます。

方法: MuleSoft の Anypoint Studio の最新バージョンをインストールして、Blend コネクタと Roostify コネクタを利用します。

このセクションの内容:

Blend API を使用した接続
Mulesoft Blend コネクタを使用して Blend の API にアクセスし、ローンアプリケーションのワークフローをサポートします。
Roostify API を使用した接続
Mulesoft Roostify コネクタを使用して Roostify の API にアクセスし、ローンアプリケーションのワークフローをサポートします。

関連トピック:

外部リンク: Assets provided by MuleSoft (MuleSoft で提供されるアセット)

Blend API を使用した接続

Mulesoft Blend コネクタを使用して Blend の API にアクセスし、ローンアプリケーションのワークフローをサポートします。

対象: MuleSoft Blend コネクタは、Anypoint Exchange を介して使用できます。

方法: Blend コネクタを使用するには、最新バージョンの Anypoint Studio を MuleSoft でインストールします。

関連トピック:

外部リンク: Blend Connector Release Notes (Blend コネクタリリースノート) - Mule 4

外部リンク: Blend Connector (Blend コネクタ) - Mule 4

Roostify API を使用した接続

Mulesoft Roostify コネクタを使用して Roostify の API にアクセスし、ローンアプリケーションのワークフローをサポートします。

対象: MuleSoft Roostify コネクタは、Anypoint Exchange を介して使用できます。

方法: 最新バージョンの Anypoint Studio を MuleSoft でインストールします。Mulesoft Roostify コネクタを使用して Roostify の Web フックまたは 46 RESTful Web API にアクセスします。Web フックとは、Roostify の活動に対応できるコールバックです。ローンアプリケーション、ToDo、ドキュメント、または取引先の RESTful API を使用して、Roostify に保存されたデータを操作できます。

関連トピック:

外部リンク: Roostify Connector Release Notes (Roostify コネクタリリースノート) - Mule 4

外部リンク: Roostify Connector (Roostify コネクタ) - Mule 4

ドキュメント追跡と承認 (正式リリース)

住宅ローン申請などの使用事例のドキュメントと承認を追跡することによって、顧客エンゲージメントを促進します。顧客がFinancial Services Cloudに直接ファイルをアップロードし、各ドキュメントの状況を監視できるようにします。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 住宅ローンなどのビジネスでは、顧客が記入する申請書で、給与明細書、納税申告書、パスポート、運転免許証などのサポートドキュメントが必要になる場合があります。これらのサポートドキュメントの有効なコピーを収集して転送する作業は、時間がかかる複雑な作業です。融資担当者はローン申請にドキュメントチェックリスト項目を関連付けることができるようになりました。これで、顧客は提供する書類を把握できます。顧客は各ドキュメントチェックリスト項目に関連するファイルをコミュニティを介してアップロードします。融資担当者は、アップロードされたファイルを確認し、読めないドキュメントや間違った情報が含まれたドキュメントを却下します。顧客は、却下されたファイルの新しいバージョンをアップロードします。引受会社はアップロードされたファイルを確認し、引受要件を満たすドキュメントを承認します。また、個別の申請ニーズに基づいて、新しいドキュメントチェックリスト項目も追加します。ローンプロセス全体を通じて、顧客はドキュメントチェックリスト項目の状況を確認できます。

関連トピック:

Financial Services Cloud アップグレードガイド: ドキュメントの追跡と承認の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud の保険: 事業保険契約管理、独立系エージェント向けポータル、コンポーネントの機能強化など

拡張されたデータモデル、改善された Lightning コンポーネント、Shield Platform Encryption のサポートにより、事業保険契約を管理したり、保険契約者の機密情報を保護したり、ライフイベントとビジネスマイルストンをより適切に管理したりできます。調整されたコミュニティポータルにより、独立系保険エージェントは保険機能やコンポーネントにアクセスし、クライアントリストを管理および増大できます。新しい保険エージェントアクション項目コンポーネントを保険エージェントコンソールのホームページに追加して、最も緊急の活動がエージェントの目に付きやすいようにします。

このセクションの内容:

保険契約者の機密情報の保護

個々の保険契約者や企業の保険の補償を決める場合、非常に個人的な情報や機密情報のいくつかを共有することになります。Shield Platform Encryption でセキュリティレイヤをもう 1 つ追加してデータを保護します。確率的または確定的暗号化スキームを使用して、さまざまなライフイベント、ビジネスマイルストン、保険契約、請求、および関連詳細に関する情報を暗号化できます。

アクションプランを使用した保険エージェントの繰り返し ToDo の自動化

アクションプラン ToDo テンプレートを使用して、保険エージェントのクライアントエンゲージメントの一貫性とコンプライアンスを促進します。繰り返し可能な ToDo を取得し、自動的に ToDo 所有者と期日を割り当てます。アクションプラン ToDo テンプレートで、個人ライフイベント、ビジネスマイルストン、保険契約、保険契約補償、および請求オブジェクトがサポートされるようになりました。

ルックアップによる積み上げ集計を使用した保険契約者の世帯保険契約の可視化

保険エージェントに、保険契約者の主世帯が保有する全保険契約の統合ビューを提供します。世帯ページのさまざまなルックアップによる積み上げ集計には、世帯保険契約総数、保険契約の保険料、保険契約に対する請求、支払われた請求額が表示されます。エージェントはドリルダウンして誰がどの保険契約を保有しているかを確認できます。

エージェントへの保険契約および請求に関するアラート通知

コア保険契約管理システムからクライアントの保険契約と請求についてエージェントにタイムリーにアラート通知します。アラートは、エージェントが取引先ページでクライアントの保険契約や請求を参照すると表示されます。エージェントはアラートを消去または再通知できます。

機能豊富なポータルによる独立系エージェントの生産性向上

保険エージェントポータル Lightning テンプレートを使用して、独立系保険エージェント向けに機能豊富なポータルを作成します。クライアントの保険契約、請求、ライフイベント、ビジネスマイルストン、その他の関連詳細を含む包括的なビューで、エージェントは常に整然とし、クライアントとの関係を深め、クライアントのニーズにより効率的に対処できます。エージェントは組み込みの Community Cloud およびナレッジ管理機能を使用してナレッジ記事を他のエージェントや保険会社と共有できます。

保険エージェントアクション項目を使用した計画と優先度付けの向上

最も緊急の活動が目に付きやすいようにして、保険エージェントがスケジュールを把握できるようにします。

Einstein Analytics for Insurance を使用した完全な顧客インテリジェンスソリューションのエージェントとマネージャへの提供

Analytics for Insurance アプリケーションを使用すると、エージェントは営業パフォーマンスに関する実践的なインサイトを取得し、営業実行を効率化できます。

個人ライフイベントコンポーネント: ビジネスマイルストン、コンテキストアクション、検索条件など

個人ライフイベント Lightning コンポーネントがライフイベントまたはビジネスマイルストンに名称変更されて、多目的なコンポーネントになり、ライフイベントに加えてビジネスマイルストンも管理できるようになりました。機密性の高いライフイベントを非表示にしたり、不用なイベントを終了したりできます。エージェントは、特定の期間に基づいてイベントを絞りむことができます。エージェントは、コンテキストアクションを使用してすばやくレコードを作成し、ライフイベントまたはビジネスマイルストンに関連付けることができます。

保険契約のタイプ別整理

保険契約がタイプ別にグループ化され、保険契約コンポーネントが参照しやすくなりました。個々の保険契約タイプやすべての保険契約タイプを展開または折りたたむことができます。また、クライアントが保有する保険契約のみを表示し、クライアントが単なる加入者である保険契約を除外できます。保険契約タイプを表すデフォルトのアイコンを変更できます。

保険契約者の機密情報の保護

個々の保険契約者や企業の保険の補償を決める場合、非常に個人的な情報や機密情報のいくつかを共有することになります。Shield Platform Encryption でセキュリティレイヤをもう 1 つ追加してデータを保護します。確率的または確定的暗号化スキームを使用して、さまざまなライフイベント、ビジネスマイルストン、保険契約、請求、および関連詳細に関する情報を暗号化できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud と Shield Platform Encryption が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

顧客の保険情報の暗号化

アクションプランを使用した保険エージェントの繰り返し ToDo の自動化

アクションプラン ToDo テンプレートを使用して、保険エージェントのクライアントエンゲージメントの一貫性とコンプライアンスを促進します。繰り返し可能な ToDo を取得し、自動的に ToDo 所有者と期日を割り当てます。アクションプラン ToDo テンプレートで、個人ライフイベント、ビジネスマイルストン、保険契約、保険契約補償、および請求オブジェクトがサポートされるようになりました。

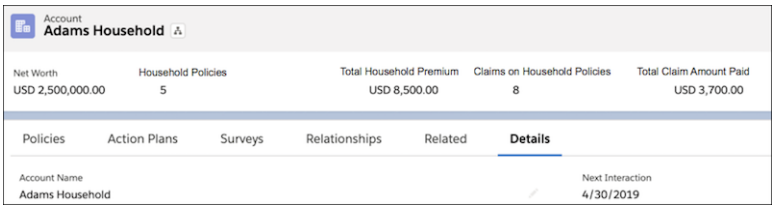
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

ルックアップによる積み上げ集計を使用した保険契約者の世帯保険契約の可視化

保険エージェントに、保険契約者の主世帯が保有する全保険契約の統合ビューを提供します。世帯ページのさまざまなルックアップによる積み上げ集計には、世帯保険契約総数、保険契約の保険料、保険契約に対する請求、支払われた請求額が表示されます。エージェントはドリルダウンして誰がどの保険契約を保有しているかを確認できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これらの詳細に関する可視性が強化されるため、エージェントはエンゲージメント戦略を作成して、クロスセルおよびアップセル計画を立案できます。



方法: 提供されているルックアップによる積み上げ総計値を世帯ページレイアウトに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Financial Services Cloud における積み上げ集計 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エージェントへの保険契約および請求に関するアラート通知

コア保険契約管理システムからクライアントの保険契約と請求についてエージェントにタイムリーにアラート通知します。アラートは、エージェントが取引先ページでクライアントの保険契約や請求を参照すると表示されます。エージェントはアラートを消去または再通知できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

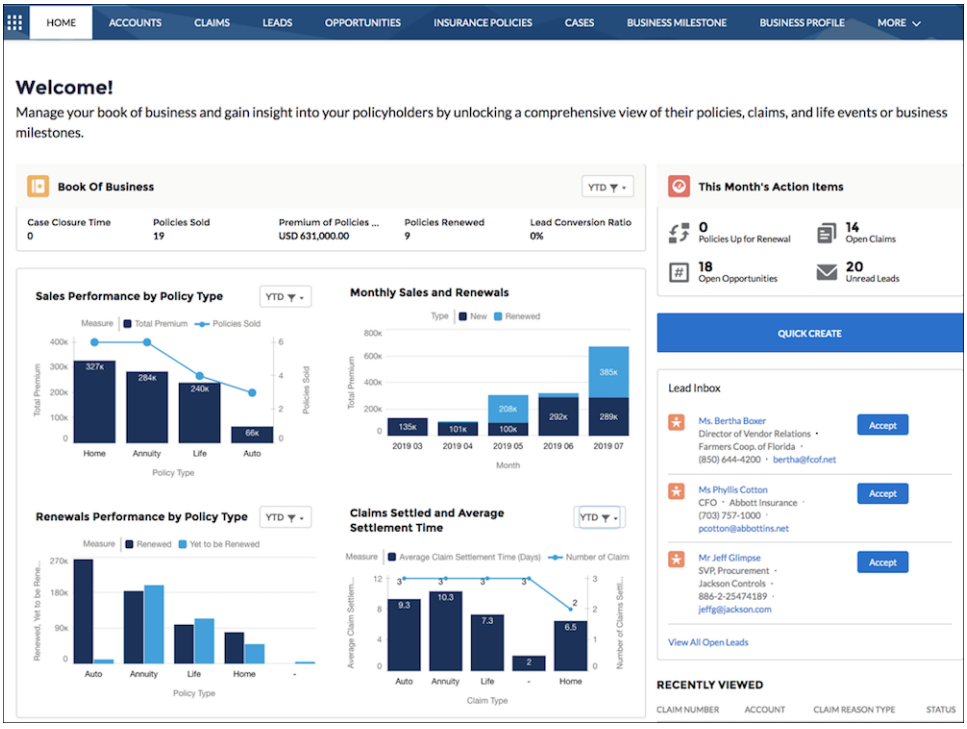
Salesforce ヘルプ: Financial Services Cloud アラート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

機能豊富なポータルによる独立系エージェントの生産性向上

保険エージェントポータル Lightning テンプレートを使用して、独立系保険エージェント向けに機能豊富なポータルを作成します。クライアントの保険契約、請求、ライフイベント、ビジネスマイルストン、その他の関連詳細を含む包括的なビューで、エージェントは常に整然とし、クライアントとの関係を深め、クライアントのニーズにより効率的に対処できます。エージェントは組み込みの Community Cloud およびナレッジ管理機能を使用してナレッジ記事を他のエージェントや保険会社と共有できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: パフォーマンス総計値、レポートグラフ、アクション項目を含むダッシュボードは、エージェントが目標と成果を監視し、期日を守り、売上とサービスを向上させるのに役立ちます。



方法: ポータルでは、主要な保険機能とすべての保険 Lightning コンポーネントが使用可能で完全に機能します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「すべてのコミュニティ」と入力し、[すべてのコミュニティ] を選択します。[新規コミュニティ] をクリックし、[保険エージェントポータル] テンプレートを選択します。ユーザに

保険オブジェクトおよびコンポーネントへのアクセス権を付与するには、「保険コミュニティユーザ」権限セットを割り当てます。

関連トピック:

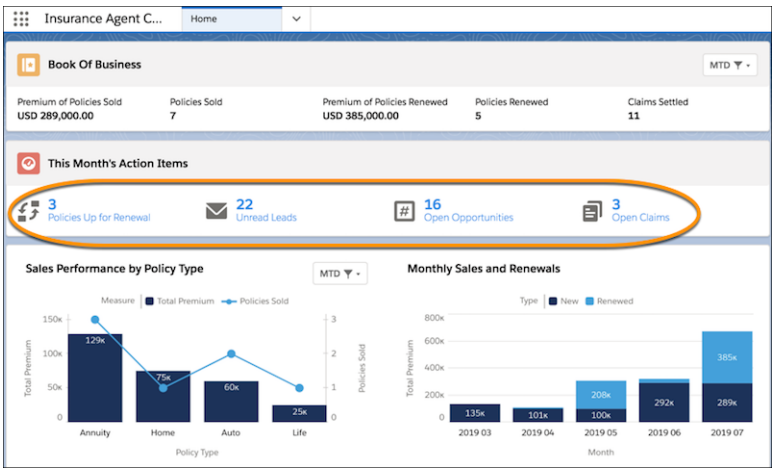
Salesforce ヘルプ:独立系保険エージェントのポータルの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保険エージェントアクション項目を使用した計画と優先度付けの向上

最も緊急の活動が目に付きやすいようにして、保険エージェントがスケジュールを把握できるようにします。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 支払期限の保険契約、更新が必要な保険契約、進行中の請求とケース、未読のリード、進行中の商談を一目で確認できるビューにより、エージェントはアクション項目をより適切に計画および優先度付けできます。



方法: 保険エージェントコンソールのホームページを編集し、保険エージェントアクション項目コンポーネントをページに追加します。あらかじめパッケージされた総計値から選択して、エージェントの注意が必要な保険契約、請求、ケース、リード、商談を表示します。保険契約関連の総計値を日付、週、月、または四半期で絞り込むことができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:コンソールのホームページへの保険エージェントアクション項目の追加(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein Analytics for Insurance を使用した完全な顧客インテリジェンスソリューションのエージェントとマネージャへの提供

Analytics for Insurance アプリケーションを使用すると、エージェントは営業パフォーマンスに関する実践的なインサイトを取得し、営業実行を効率化できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Insurance は、Financial Services Cloud for Insurance ユーザのみを対象としています。

理由:エージェントは、顧客ベースをセグメント化して、アップセル/クロスセル商談に関するインサイトを取得して、書面の保険料を増やすことができます。マネージャは、チームのパフォーマンスと、トップパフォーマーになるための要因に関するインサイトを取得して、チームメンバーにコーチングできます。

対象ユーザ: Analytics for Insurance テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Analytics for Insurance]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

関連トピック:

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

個人ライフイベントコンポーネント: ビジネスマイルストン、コンテキストアクション、検索条件など

個人ライフイベント Lightning コンポーネントがライフイベントまたはビジネスマイルストンに名称変更されて、多目的なコンポーネントになり、ライフイベントに加えてビジネスマイルストンも管理できるようになりました。機密性の高いライフイベントを非表示にしたり、不用なイベントを終了したりできます。エージェントは、特定の期間に基づいてイベントを絞りむことができます。エージェントは、コンテキストアクションを使用してすばやくレコードを作成し、ライフイベントまたはビジネスマイルストンに関連付けることができます。

このセクションの内容:

1 つの多目的なコンポーネントでのライフイベントとビジネスマイルストンの管理

ライフイベントまたはビジネスマイルストン Lightning コンポーネントは、コンテキストに応じて動作します。個人取引先レコードページではライフイベントを表示し、法人取引先レコードページではビジネスマイルストンを表示します。

機密性の高いライフイベント種別とビジネスマイルストンタイプの非表示

ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にすると、その種別のイベントまたはそのタイプのマイルストンを追加するまで、コンポーネントには表示されません。

コンテキストアクションを使用したライフイベントの活用

エージェントは、表示中のページを離れることなく、レコードをすばやく作成してライフイベントまたはビジネスマイルストンに関連付けることができます。たとえば、自動車購入イベントを表示中に、エージェントはすばやく自動車保険契約の販売に関する商談を作成できます。商談レコードは自動的にそのライフイベントに関連付けられます。

ライフイベントまたはビジネスマイルストンの絞り込み

古いイベントやマイルストンを除外して、最も関連性の高いライフイベントまたはビジネスマイルストンに集中します。

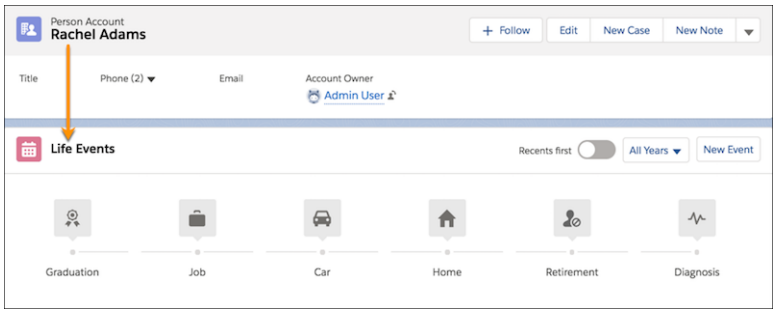
不用なライフイベントまたはビジネスマイルストンの終了
無効になったライフイベントまたはビジネスマイルストンを終了します。たとえば、クライアントが自動車を売却したら、自動車購入イベントを終了します。

1つの多目的なコンポーネントでのライフイベントとビジネスマイルストンの管理

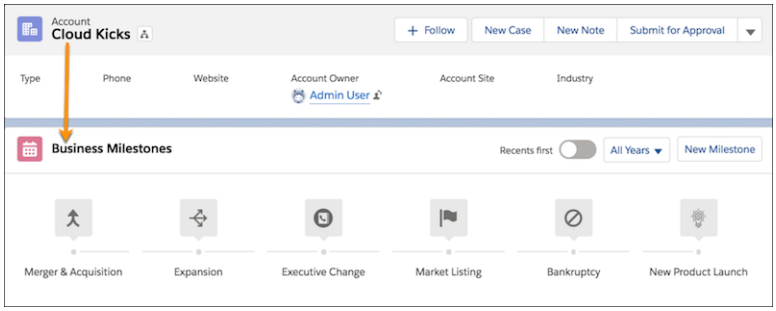
ライフイベントまたはビジネスマイルストンLightningコンポーネントは、コンテキストに応じて動作します。個人取引先レコードページではライフイベントを表示し、法人取引先レコードページではビジネスマイルストンを表示します。

対象: この変更は、Financial Services Cloudが有効になっているEnterprise Edition、Professional Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: コンポーネントを[個人取引先]レコードページに追加して、ライフイベントを表示します。



コンポーネントを[取引先]レコードページに追加して、ビジネスマイルストンを表示します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ライフイベントとビジネスマイルストン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

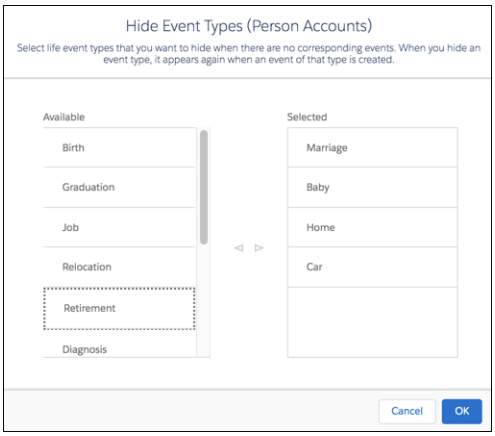
機密性の高いライフイベント種別とビジネスマイルストンタイプの非表示

ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にすると、その種別のイベントまたはそのタイプのマイルストンを追加するまで、コンポーネントには表示されません。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ライブイベント種別やビジネスマイルストンタイプによっては、顧客がまだその種別のイベントやそのタイプのマイルストンを達成していないか、達成する可能性がまったくない場合に顧客を不快な気分にさせることがあります。

方法: 取引先レコードページを編集し、ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを選択します。プロパティペインで、[選択]をクリックし、非表示にするライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを選択します。



関連トピック:

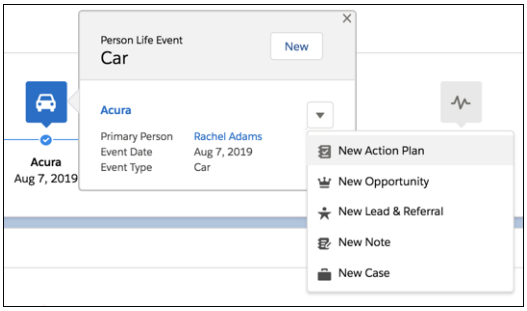
Salesforce ヘルプ: 機密性の高いライフイベント種別とビジネスマイルストンタイプの非表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コンテキストアクションを使用したライフイベントの活用

エージェントは、表示中のページを離れることなく、レコードをすばやく作成してライフイベントまたはビジネスマイルストンに関連付けることができます。たとえば、自動車購入イベントを表示中に、エージェントはすばやく自動車保険契約の販売に関する商談を作成できます。商談レコードは自動的にそのライフイベントに関連付けられます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: エージェントは、複数の画面に移動しなくても、レコードを作成してライフイベントまたはビジネスマイルストンに関連付けることができます。



方法: アクションを作成して適切なページレイアウトの [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] セクションに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ライフイベントとビジネスマイルストンのコンテキストアクションの作成および設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ライフイベントまたはビジネスマイルストンの絞り込み

古いイベントやマイルストンを除外して、最も関連性の高いライフイベントまたはビジネスマイルストンに集中します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

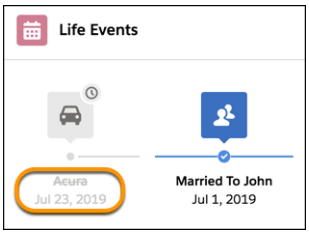
方法: ドロップダウンリストから期間を選択して、その期間のイベントまたはマイルストンのみを表示します。

不用なライフイベントまたはビジネスマイルストンの終了

無効になったライフイベントまたはビジネスマイルストンを終了します。たとえば、クライアントが自動車を売却したら、自動車購入イベントを終了します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ライフイベントまたはビジネスマイルストンレコードを編集し、[期限切れ] を選択します。終了したイベントまたはマイルストンは無効として表示されます。



関連トピック:

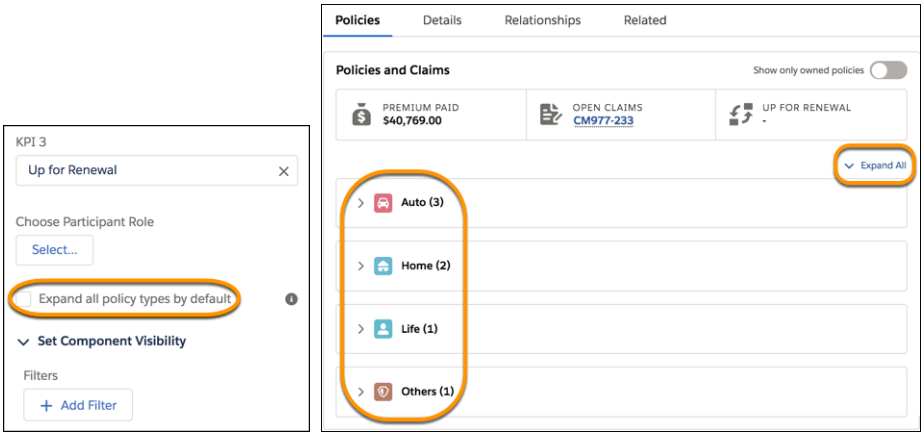
Salesforce ヘルプ: 不用なライフイベントまたはビジネスマイルストンの終了 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保険契約のタイプ別整理

保険契約がタイプ別にグループ化され、保険契約コンポーネントが参照しやすくなりました。個々の保険契約タイプやすべての保険契約タイプを展開または折りたたむことができます。また、クライアントが保有する保険契約のみを表示し、クライアントが単なる加入者である保険契約を除外できます。保険契約タイプを表すデフォルトのアイコンを変更できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: プロパティペインで、デフォルトで保険契約タイプを展開するのか、折りたたむのかを選択します。取引先レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。プロパティペインで、[デフォルトですべての保険契約タイプを展開する] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: デフォルトでの保険契約タイプの展開または折りたたみ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Scheduler: 顧客の予定のスケジュールの最適化

Lightning Scheduler のマルチリソーススケジュールを使用して、顧客の予定をファイナンシャルアドバイザー、公認会計士、弁護士など専門家のグループに対してすばやくスケジュールします。同時スケジュールによって、同じ時間枠内に複数の顧客の予定を予約し、カレンダーの空き時間を最大限に活用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Scheduler に適用されます。

関連トピック:

Lightning Scheduler: マルチリソーススケジュールと同時スケジュール

拡張された取引先リレーション構造による顧客リレーションの深化

拡張された取引先間リレーションエンティティを使用して法人および個人取引先リレーション階層を作成します。信託などの企業および法人を世帯やグループに直接関連付けます。拡張されたリレーションマップでは、親会社とその関連子会社に加え、家族リレーションを簡単に表示できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [カスタムメタデータ型] の機能フラグ設定に移動し、[リレーショングループ階層の有効化] カスタムメタデータ設定を有効にします。

関連トピック:

Financial Services Cloud アップグレードガイド: Create Expanded Account Relatioinships in Group Builder (グループビルダーでの拡張された取引先リレーションの作成) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics for Wealth Management を使用した重要な Financial Services データへの注力

Analytics for Wealth Management アプリケーション (旧称 Einstein Analytics for Financial Services) に含まれるカスタマイズ機能を使用して、アプリケーションダッシュボードに追加するデータを選択します。設定ウィザードに従ってプロセスの手順を進めます。データセキュリティ設定を選択し、外部料金、手数料、目標データをダッシュボードに追加できます。また、トレンド分析機能を含めることでトレンドを把握しやすくしたり、レコードタイプを選択して口座の種別に従ってウェルスマネジメントデータを並び替えたりできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Wealth Management は、Salesforce Financial Services Cloud ユーザ専用です。Analytics for Wealth Management テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Analytics for Wealth Management]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

関連トピック:

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

Analytics for Retail Banking の新規リリースを使用した顧客インサイトの調整

テンプレートの設定ウィザードを使用して分析環境をカスタマイズしたり、口座ページから直接ダッシュボードの視覚化に簡単にアクセスできます。リテールバンカーは、モバイルデバイスから主要業績指標に関するインサイトをすばやく取得できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Retail Banking は、Salesforce Financial Services Cloud ユーザのみを対象としています。Analytics for Retail Banking テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

理由: リテールバンカーは、データを選択してアプリケーションダッシュボードに追加することで、ビジネスの構築に必要なデータに集中できます。必要に応じて、特定のレコードタイプを含めて、さまざまな口座種別の残高金額を計算したり、請求額や手数料などの外部データを追加したりできます。また、データセットのスナップショットを取得して、トレンドを特定することもできます。任意のページに組み込むことができるホームのダッシュボードを使用して、Salesforceの普段作業しているどの場所からでも分析インサイトを取得できます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Analytics for Retail Banking]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

関連トピック:

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

Financial Services Cloud の新しいオブジェクト

新しい Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

ドキュメント追跡と承認

ファイルドキュメントのアップロード用にチェックリスト項目を保存 (ドキュメントの追跡と承認アドオンが必要)

新しい DocumentChecklistItem オブジェクトを使用します。

DocumentChecklistItem にアップロードまたは添付しているファイルの種類を保存 (ドキュメントの追跡と承認アドオンが必要)

新しい DocumentType オブジェクトを使用します。

保険

ビジネスのマイルストンを保存する

新しい BusinessMilestone オブジェクトを使用します。

保険対象企業の保険関連属性を保存する

新しい BusinessProfile オブジェクトを使用します。

請求に含まれる項目を保存する

新しい ClaimItem オブジェクトを使用します。

同じ保険契約を担当する保険募集者を保存する

新しい ProducerPolicyAssignment オブジェクトを使用します。

保険契約に関連付けられた証券を保存する

新しい SecuritiesHolding オブジェクトを使用します。

労働者が属する補償等級を保存する

新しい WorkerCompCoverageClass オブジェクトを使用します。

保険契約の保険料の支払方法を保存する

新しい PolicyPaymentMethod__c オブジェクトを使用します。

住宅ローン

ローン申請の債務者に関する詳細を保存する

新しい LoanApplicant オブジェクトを使用します。

債務者の住所を保存する

新しい LoanApplicantAddress オブジェクトを使用します。

債務者をローン申請資産に関連付ける

新しい LoanApplicantAsset オブジェクトを使用します。

債務者の申請宣言書を保存する

新しい LoanApplicantDeclaration オブジェクトを使用します。

債務者の雇用詳細を保存する

新しい LoanApplicantEmployment オブジェクトを使用します。

債務者の給与以外の収入の詳細を保存する

新しい LoanApplicantIncome オブジェクトを使用します。

債務者をローン申請の負債に関連付ける

新しい LoanApplicantLiability オブジェクトを使用します。

ローン申請の資産詳細を保存する

新しい LoanApplicationAsset オブジェクトを使用します。

ローン申請の取引詳細を保存する

新しい LoanApplicationFinancial オブジェクトを使用します。

ローン申請の負債と費用の詳細を保存する

新しい LoanApplicationLiability オブジェクトを使用します。

ローン申請の申請不動産の詳細を保存する

新しい LoanApplicationProperty オブジェクトを使用します。

ローン申請の不動産の将来および現在の名義人の名前を保存する

新しい LoanApplicationTitleHolder オブジェクトを使用します。

ローン申請の詳細を保存する

新しい ResidentialLoanApplication オブジェクトを使用します。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新規項目と更新された項目の選択リスト値が Financial Services Cloud **オブジェクトで使用できます。**

Account の新規項目

保険契約者の主世帯が保有する有効な保険契約の請求の総数を表示する
新しい ClaimsOnHouseholdPolicies__c **項目を使用します。**

保険契約者の主世帯が保有する有効な保険契約の総数を表示する
新しい HouseholdPolicies__c **項目を使用します。**

個人または法人が保険の顧客になったタイミングを表示する
新しい InsuranceCustomerSince__c **項目を使用します。**

保険契約者の主世帯の有効な保険契約のすべての請求に対して支払われた総額を表示する
新しい TotalClaimAmountPaid__c **項目を使用します。**

保険契約者の主世帯のすべての有効な保険契約の保険料合計を表示する
新しい TotalHouseholdPremiums__c **項目を使用します。**

Claim の新規項目

損失が報告された方法を表示する
新規 FnolChannel **項目を使用します。**

被保険者兼契約者の主世帯を表示する
新規 Household__c **を使用します。**

請求に関連付けられている保険契約が更新された方法を表示する
新規 RenewalChannel **項目を使用します。**

CustomerProperty の新規項目

車両の重量を保存する
新しい GrossVehicleWeight **項目を使用します。**

車両の載荷能力を保存する
新しい LoadCapacity **項目を使用します。**

InsurancePolicy の新規項目

保険契約の解約返戻金を表示する
新しい CashSurrenderValue **項目を使用します。**

損失が報告された方法を表示する
新規 FnolChannel **項目を使用します。**

保険契約に任意車両補償が含まれているかどうかを確認する (レンタカーおよびその他の非所有車両補償の拡張)
新しい HasAnyAutoCoverage **項目を使用します。**

被保険者兼契約者の主世帯を表示する
新規 Household__c **を使用します。**

保険契約に対してローンを要求できるかどうかを確認する
新しい IsLoanEligibile **項目を使用します。**

保険契約が更新された方法を表示する
新規 RenewalChannel 項目を使用します。

保険契約の保険料で徴収された税金および追加徴収金を表示する
新しい TaxesSurcharges 項目を使用します。

InsuranceProfile の新規項目

被保険者の運転免許証が停止されたことがあるかどうかを確認する
新しい IsLicenseSuspended 項目を使用します。

被保険者が関わった事故の件数を表示する
新しい NumberOfAccidents 項目を使用します。

PersonLifeEvent の新規項目

ライフイベントの有効期間が終了した日付を表示する
新しい ExpirationDate 項目を使用します。

ライフイベントの有効期間が終了した理由を確認する
新しい ExpirationDescription 項目を使用します。

ライフイベントの有効期間が終了しているかどうかを確認する
新しい IsExpired 項目を使用します。

BillingStatement__c の新規項目

請求書に関連付けられている保険契約を表示する
新しい Insurance 項目を使用します。

FinancialAccountTransaction__c の新規項目

金融口座取引に関連付けられている請求を表示する
新しい Claim 項目を使用します。

金融口座取引に関連付けられている保険契約を表示する
新しい InsurancePolicy 項目を使用します。

次の項目に、選択リスト値が追加されました。

Claim
ClaimType 項目と LossType 項目に選択リスト値が追加されました。

CoverageType
CategoryGroup 項目と CategoryGroupType 項目に選択リスト値が追加されました。

InsurancePolicy
PolicyType 項目に選択リスト値が追加されました。

InsuracePolicyCoverage
CategoryGroup 項目と CategoryGroupType 項目に選択リスト値が追加されました。

Health Cloud: 患者および提供者をエンゲージする方法の追加

Health Cloud を使用すると、ユーザ、患者、プランメンバーと容易に連携することができます。栄養クラスなどのケアプログラムや雇用主が提供するウェルネスプログラムに参加者を登録できます。新しい提供者カードにより、関連付けられたケア提供者に関する包括的な情報をすぐに利用できます。患者とプランメンバーが適切なケア提供者を検索したり、自分たちで予約を入れたりすることを支援できます。また、医療機器を販売している場合は、新しい Manufacturing Cloud の機能を使用して営業業務を簡略化できます。

このセクションの内容:

プログラムへの患者の登録および同意の取得

Salesforce フローを使用して、食事と栄養のクラスや雇用主が提供するウェルネスプログラムなどのケアプログラムに参加者を登録します。Flow Designer を使用して、プログラム登録フローテンプレートを設定し、豊富なプログラム管理データモデルを利用します。プログラムの定義、リレーションや活動の管理、ユーザ用のガイド付きプログラム登録プロセスの作成を行います。

提供者リレーションの追跡

患者または保険プランメンバーにサービスを提供するヘルスケア提供者に関する情報はいくらあっても多すぎるということはありません。独自の検証済み提供者ディレクトリで各提供者とのリレーションを追跡できるようになりました。

患者と適切なヘルスケア提供者の迅速な接続

新しい提供者検索 Lightning コンポーネントを使用して、患者と保険プランメンバーが適切なケア提供者を検索する作業を簡素化します。患者とメンバーは、場所、空き状況、専門分野、新規患者の受け入れ状況など、最も重要なパラメータすべてを使用して提供者を検索できます。

Lightning Scheduler を使用したケア提供者の診察予約

Health Cloud ユーザは Lightning Scheduler を使用して、医師やヘルスケア施設の予約を設定できます。

販売契約および取引先売上予測を使用した医療機器販売の簡略化 (正式リリース)

Health Cloud に、医療機器の製造をサポートするために使用できる機能が含まれるようになりました。営業チームは、直接 Health Cloud コンソールで販売契約、注文、取引先責任者、商談を管理できるようになりました。

ライフイベント: 患者リレーションの強化と改善

患者のライフイベントを一目で確認できるビューをケアチームメンバーに提供し、患者の状態とライフイベントに合わせたケアプランを特定できるようにします。

Einstein Analytics を使用した健康改善と患者エンゲージメントの向上

Einstein Analytics for Healthcare を使用して、ケアコーディネータ、利用マネージャ、紹介マネージャは患者集団に関する重要なインサイトを取得し、主要な総計値を視覚化できます。支払者と提供者は、アプリケーションのダッシュボードからアクション可能なインサイトを使用して、インテリジェントなエンゲージメントを促進し、ケアの有効性と効率を向上させます。

利用管理のセキュリティアップグレード

セキュリティ上の理由により、コミュニティユーザが利用管理を使用できるようにするためにコミュニティユーザプロファイルに割り当てる必要がある 2 つの権限が追加されました。

Health Cloud オブジェクトの項目レベルセキュリティの編集

項目レベルセキュリティを制御できるようになりました。これまで、すべての Health Cloud 項目の表示がデフォルトで [True] に設定され、無効化できませんでした。これは引き続き [True] に設定されますが、必要に応じて無効化できるようになりました。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

プログラムへの患者の登録および同意の取得

Salesforce フローを使用して、食事と栄養のクラスや雇用主が提供するウェルネスプログラムなどのケアプログラムに参加者を登録します。Flow Designer を使用して、プログラム登録フローテンプレートを設定し、豊富なプログラム管理データモデルを利用します。プログラムの定義、リレーションや活動の管理、ユーザ用のガイド付きプログラム登録プロセスの作成を行います。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

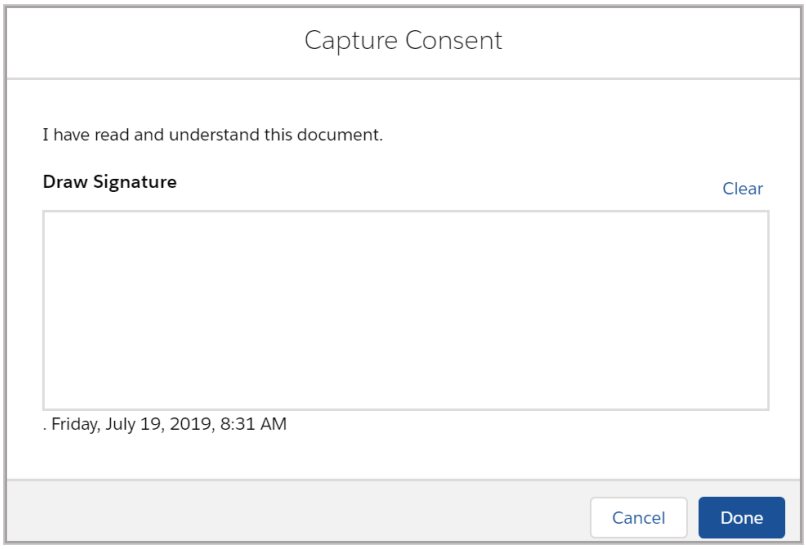
対象ユーザ: テンプレートにアクセスするには、Health Cloud ライセンスが組織に提供されている必要があります。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。ケアプログラムの参加者がフォームの確認と同意のためにコミュニティを使用するには、Customer Community Plus ライセンスを持っている必要があります。

時期: ケアプログラム登録フローテンプレートは、新しい Health Cloud の基盤権限セットライセンスを介して使用できます。この権限セットライセンスは、Winter'20 本番リリースアップグレード後に、契約に基づいてすべての Health Cloud ユーザに提供されます。本番組織でこの機能が使用可能になったら、新しい Sandbox 組織を複製して、機能にアクセスできます。

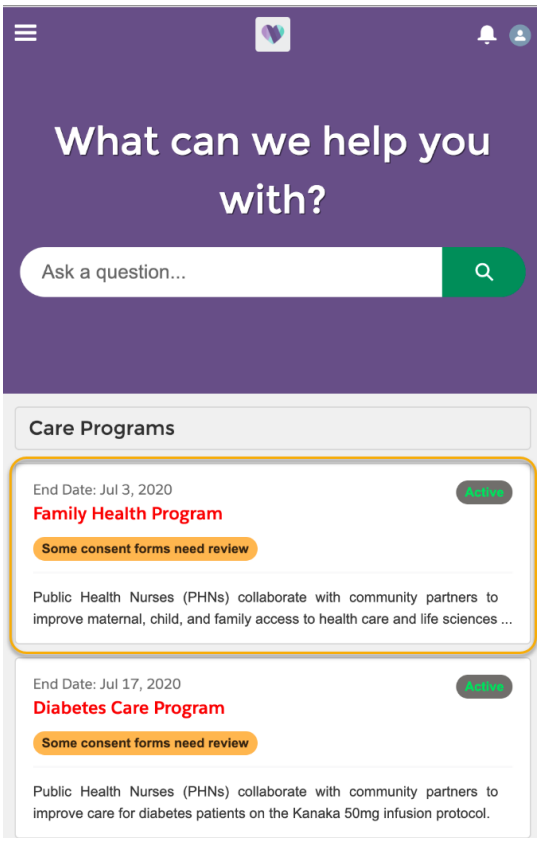
理由: コールセンターエージェントに合理化されたガイド付き登録プロセスを提供します。患者からの通話が入ると、患者サポートエージェントはその患者をサポートプログラムに登録できます。

ほとんどのユースケースに適合するプログラム登録フローを作成して貴重な時間を節約し、そのフローをコピーしてさまざまな種類の登録プログラム用にカスタマイズします。ケアプグラムの認証フォームと同意書をアップロードし、ケアプログラムに関連付けます。次に、患者の詳細レコードページまたは関連リストに [プログラムに登録] クイックアクションを追加すると完了です。

電子署名の取得と各ケアプログラム登録への同意を追跡して、コンプライアンスを維持します。同意は、タブレットまたはモバイルデバイスを使用して、参加者本人と直接行うことができます。



その場にいない患者とメンバーは、コミュニティにログインして、プログラムに関連付けられたフォームを表示して同意することができます。



提供者リレーションの追跡

患者または保険プランメンバーにサービスを提供するヘルスケア提供者に関する情報はいくらあっても多すぎるということはありません。独自の検証済み提供者ディレクトリで各提供者とのリレーションを追跡できるようになりました。

対象ユーザ: 提供者データモデルを使用するには、Health Cloud ライセンスが組織に提供されている必要があります。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 提供者リレーション管理はヘルスケア業界全体において重要です。

- 保険組織では、転帰の改善とケアの費用の削減には医師の関与が必要です。
- 提供者組織では、患者が必要なすべてのケアを受けていることを確認し、自社のサービスへの紹介を促進するために、パートナー提供者と接続する必要があります。
- ライフサイエンス組織では、医師が必要とする機器、薬剤、サービスを特定して提供するために医師と緊密に連携する必要があります。

方法: 包括的な提供者データモデルを使用して提供者データをインポートし、各提供者の情報カードを作成して提供者とのやり取りを一元化します。

患者と適切なヘルスケア提供者の迅速な接続

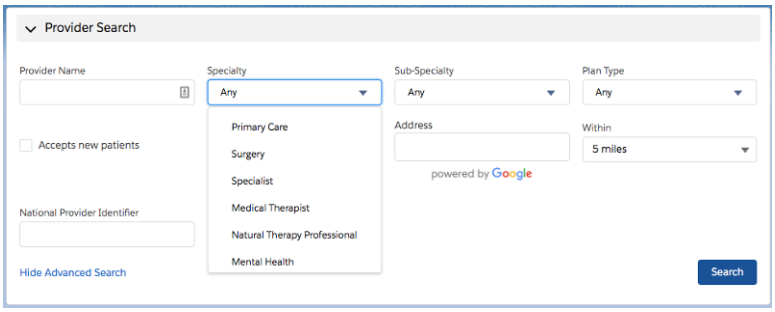
新しい提供者検索 Lightning コンポーネントを使用して、患者と保険プランメンバーが適切なケア提供者を検索する作業を簡素化します。患者とメンバーは、場所、空き状況、専門分野、新規患者の受け入れ状況など、最も重要なパラメータすべてを使用して提供者を検索できます。

対象ユーザ: 提供者データモデルを使用するには、Health Cloud ライセンスが組織に提供されている必要があります。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: ケア組織の場合、最小限の操作で利用可能な最善のケアの場所と人物に患者を紹介する必要があります。支払者の場合は、費用、有効性、保険プランの適合に基づいて適切な提供者に患者を導く必要があります。

方法: コンタクトセンターでは、Health Cloud Console に新しい提供者検索コンポーネントを追加して、通話をしてきた患者とメンバーに適切な提供者を簡単に見つけることができます。コンポーネントを患者コミュニティに追加すると、患者は自分でケア提供者をすばやく簡単に見つけることができます。



Lightning Scheduler を使用したケア提供者の診察予約

Health Cloud ユーザは Lightning Scheduler を使用して、医師やヘルスケア施設の予約を設定できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: この機能ではヘルスケア提供者データモデルと Lightning Scheduler データモデルが使用されます。

- 医師は、取引先責任者、CRM またはコミュニティユーザ、サービスリソースとして表されます。
- 施設は、取引先、場所、サービステリトリーとして表されます。

各提供者には作業種別があり、ユーザは対応可能状況に基づいて検索できます。

関連トピック:

Lightning Scheduler: 顧客の予定のスケジュールの最適化

販売契約および取引先売上予測を使用した医療機器販売の簡略化 (正式リリース)

Health Cloud に、医療機器の製造をサポートするために使用できる機能が含まれるようになりました。営業チームは、直接 Health Cloud コンソールで販売契約、注文、取引先責任者、商談を管理できるようになりました。

理由: 取引先責任者ベースの売上予測機能を使用すれば、数量および収益の予測に関するインサイトが得られます。標準の総計値およびカスタム総計値を使用した複数のスケジュールで製品の予定数量および収益と実際の数量および収益を追跡できます。製造コミュニティポータルを通じて、リード、商談、販売契約でパートナーとコラボレーションできます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Manufacturing Cloud: 販売契約と取引先売上予測を使用したビジネスの簡潔化 (正式リリース)

ライフイベント: 患者リレーションの強化と改善

患者のライフイベントを一目で確認できるビューをケアチームメンバーに提供し、患者の状態とライフイベントに合わせたケアプランを特定できるようにします。

このセクションの内容:

患者のライフイベントのインサイトの取得

死別、失業、薬物乱用、離婚など、患者の重大なライフイベントに関するインサイトを得ることで、ケアメンバーが集中ケアプランを推奨し、健康回復に向けた患者の取り組みを支援できるようにします。

配慮が必要なライフイベント種別の非表示

ライフイベントのなかには、患者がその種別のライフイベントをまだ経験していない、またはしそうにないために、それについて言及するのが不適切なものがあります。ライフイベント種別を非表示にすると、その種別のライフイベントを患者に追加するまでコンポーネントに表示されません。

ライフイベントの絞り込み

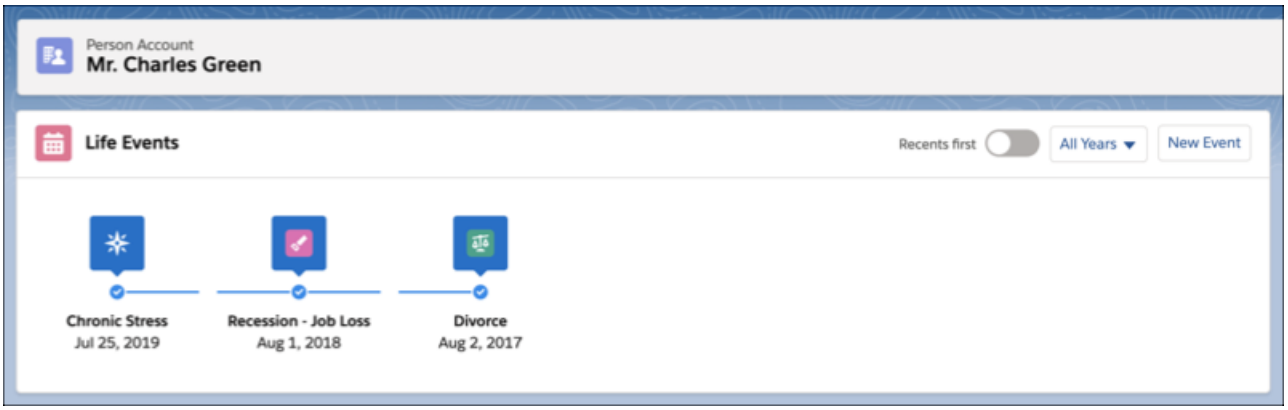
特定の期間に基づいてイベントを除外して、最も関連性の高いライフイベントに集中します。

患者のライフイベントのインサイトの取得

死別、失業、薬物乱用、離婚など、患者の重大なライフイベントに関するインサイトを得ることで、ケアメンバーが集中ケアプランを推奨し、健康回復に向けた患者の取り組みを支援できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 個人ライフイベントオブジェクトで [イベント種別] 項目の選択リスト値を追加し、アカウントレコードページをコピーまたは作成し、個人ライフイベントコンポーネントをページに追加します。

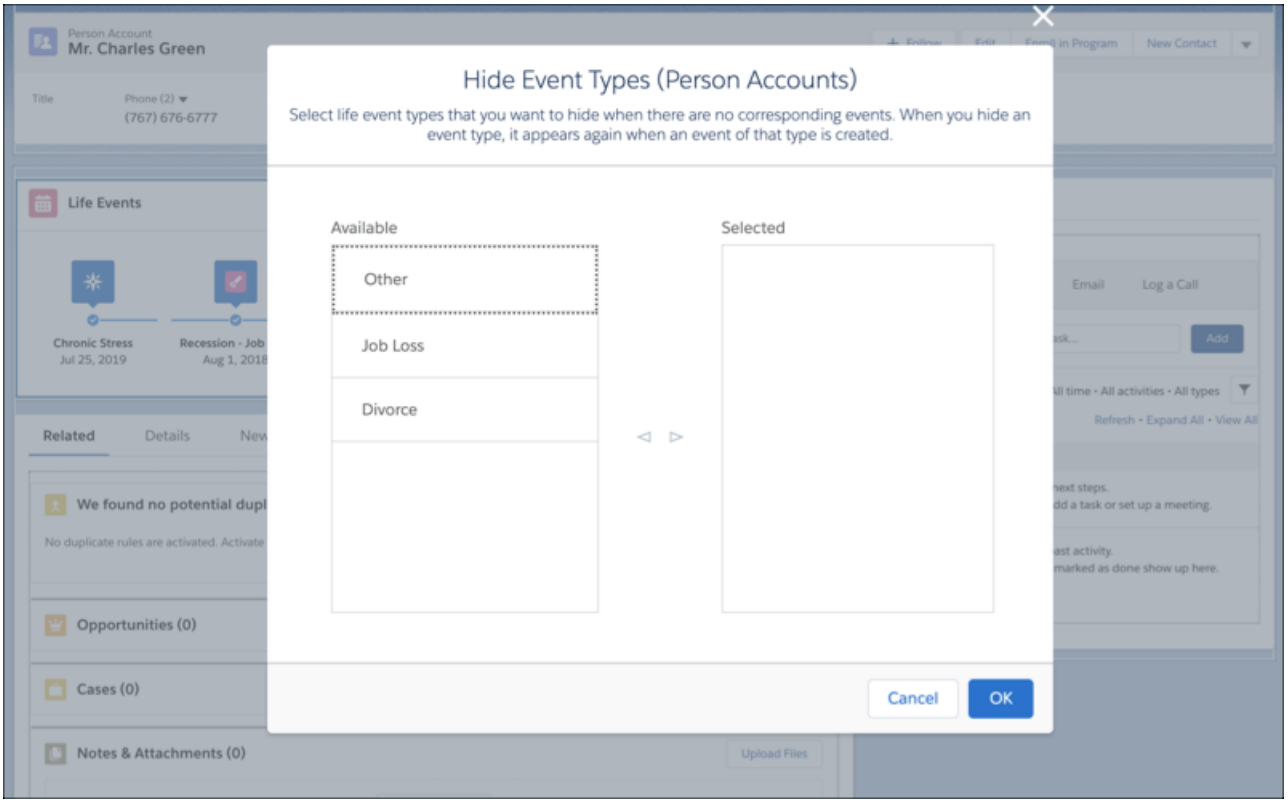


配慮が必要なライフイベント種別の非表示

ライフイベントのなかには、患者がその種別のライフイベントをまだ経験していない、またはしそうにないために、それについて言及するのが不適切なものがあります。ライフイベント種別を非表示にすると、その種別のライフイベントを患者に追加するまでコンポーネントに表示されません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アカウントレコードページを編集し、ライフイベントコンポーネントを選択します。[プロパティ] ペインで、[選択] をクリックし、非表示にするライフイベント種別を選択します。

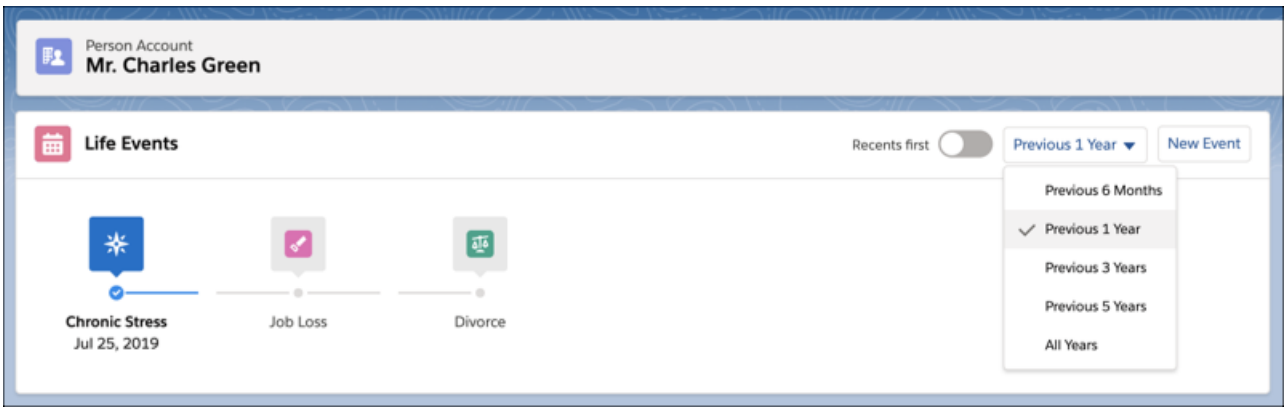


ライフイベントの絞り込み

特定の期間に基づいてイベントを除外して、最も関連性の高いライフイベントに集中します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ドロップダウンリストから期間を選択し、その期間中に発生したライフイベントを表示します。



Einstein Analytics を使用した健康改善と患者エンゲージメントの向上

Einstein Analytics for Healthcare を使用して、ケアコーディネータ、利用マネージャ、紹介マネージャは患者集団に関する重要なインサイトを取得し、主要な総計値を視覚化できます。支払者と提供者は、アプリケーションのダッシュボードからアクション可能なインサイトを使用して、インテリジェントなエンゲージメントを促進し、ケアの有効性と効率を向上させます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Healthcare は Salesforce Health Cloud ユーザのみを対象とします。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Healthcare テンプレートからアプリケーションを作成するには、Healthcare Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

理由: Einstein Analytics for Healthcare により、ケアコーディネータはケアプランに従っていない患者またはメンバーをすばやく特定し、回避可能な入院を防ぐための手段を講じることができます。ケア要請プロセスに関するインサイトは、支払者の利用マネージャがサイクル時間を短縮し、承認と NPS を向上させるのに役立ちます。患者紹介管理インサイトは、紹介コーディネータが紹介元を把握し、パフォーマンスの低い紹介元を特定したり、患者変換率を向上させたりするのに役立ちます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Analytics for Health]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

関連トピック:

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Sales Analytics アプリケーションでの Einstein Discovery 予測、Analytics for Insurance と Analytics for Health Care、Einstein Accuracy Analytics

利用管理のセキュリティアップグレード

セキュリティ上の理由により、コミュニティユーザが利用管理を使用できるようにするためにコミュニティユーザプロファイルに割り当てる必要がある 2 つの権限が追加されました。

コミュニティユーザプロファイルには、次のオブジェクトに対する「参照」権限と「作成」権限が必要です。

- ケース
- ケア要請
- ケア要請項目
- ケア薬品要請
- ケア診断
- 未管理パッケージで提供される UM レコードタイプ

Health Cloud オブジェクトの項目レベルセキュリティの編集

項目レベルセキュリティを制御できるようになりました。これまで、すべての Health Cloud 項目の表示がデフォルトで [True] に設定され、無効化できませんでした。これは引き続き [True] に設定されますが、必要に応じて無効化できるようになりました。

Sandbox 組織やプレリリース組織で Health Cloud 項目を表示しておくには、[設定] > [権限セット] に移動して、Health Cloud オブジェクトの各項目のアクセシビリティを指定することが必要になる場合もあります。本番組織では何も行う必要はありません。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/articleView?id=users_profiles_fls.htm

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

ライフサイエンスプログラム管理

ケアプログラム商品をケアプログラム提供者に関連付ける

CareProgramProduct オブジェクトの CareProgramProductId 項目を使用します。

ケアプログラム資格ルールを必須として指定する

CareProgramEligibilityRule オブジェクトの IsRequired 項目を使用します。

提供者リレーション管理

提供者に関する否定的な情報を追跡する

提供者データモデルで、新しい CareProviderAdverseAction オブジェクトを使用します。

カスタマイズ: Einstein 予測ビルダー、Lightning アプリケーションビルダーの改善、および Lightning フローの改善

Einstein 予測ビルダーで、予測と比較の検索条件を使用できます。Lightning アプリケーションビルダーで、新しい Salesforce モバイルアプリケーションに合わせてページを設定できます。より多くのビルディングブロックで、より良いプロセスを構築できます。

このセクションの内容:

Einstein 予測ビルダー: 比較による絞り込み

セグメントとサンプルデータセットの相関性と、最新の比較の検索条件を維持できます。

Lightning アプリケーションビルダー: 電話フォーム要素に対応したレコードページ、ページテンプレート、コンポーネント表示ルール、およびホームページの新しいコンポーネント

新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした場合は、レコードページ、ページテンプレート、そしてコンポーネント表示ルールを電話での使用に合わせて設定できます。デスクトップで、タブとアコーディオンコンポーネントを使用してホームページを強化してください。

承認: 承認申請通知の制限緩和と詳細な制御

組織ごとおよびオブジェクトごとの承認プロセスの増加に対応します。通知ビルダーを使用して、承認申請のデスクトップおよびモバイル配信チャネルを選択してください。

Einstein Next Best Action: 自動起動フロー、戦略テンプレートと知的財産、元に戻す/やり直す、合理化された式

自動起動フローを呼び出して、おすすめからレコードを更新したりメールを送信したりできます。登録者がカスタマイズできる戦略テンプレートを作成したり、戦略を知的財産 (IP) として保護したりできます。戦略の作成中はミスを簡単に元に戻すことができます。ブランチセレクタ要素を使用するときに、式をよりすばやく正確に作成できます。

Lightning フロー: 画面コンポーネントの機能強化、フロースケジューラ、追加アクション

より多くのビルディングブロックで、より充実したプロセスやフローを構築できます。特定のフローを実行できるユーザを制御できます。フローユーザに、適切なタイミングで、適切な項目を表示できます。絞り込まれたレコードセットに対して、スケジュールした時刻にフローを開始できます。変数を作成せずに、画面コンポーネントと [レコードを取得] 要素を設定できます。

データ保護とプライバシー: Consent オブジェクトのデータ分類の改善と変更イベントのサポート

項目のデータに関連するコンプライアンス法、定義、または規制を記録できます。関連付けられているデータ分類メタデータが格納された項目を表示するレポートを作成できます。また、AuthorizationFormConsent オブジェクト、ContentPointTypeConsent オブジェクト、および個人オブジェクトの変更イベント通知を受け取ることができます。

権限セットグループ: ユーザロールに基づく権限セットのグループ化による割り当ての簡略化 (ベータ)

ユーザに複数の権限セットを割り当てるのではなく、単一の権限セットグループを割り当てることができます。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザのロールに必要なすべての権限を提供します。ミュート権限セット機能によってグループから個別の権限を削除することで、権限がユーザロールを超えてしまわないように保証できます。権限セットグループは、Salesforce Spring '19 リリースでパイロット機能として登場しました。今回のベータリリースには、権限セットグループを作成して管理するための新しいユーザインターフェースが含まれています。

オブジェクトおよび項目: インストール済みオブジェクトの増加、および項目の参照

インストールできるカスタムオブジェクトの制限を増加し、レポートや Apex クラスなど、組織内のどこで項目が使用されるかを表示できるようにしました。

共有: ゲストユーザアクセスの変更および外部組織の共有設定でサポートされるオブジェクトの増加

コミュニティのセキュリティを強化するために、組織のデータに対するゲストユーザのデフォルトのアクセス権を制限する新しい設定が追加されました。より多くの標準オブジェクトで、外部組織の共有設定を指定することもできます。

グローバリゼーション: 新しいロケール形式と長い翻訳

重要な更新で、改善された国際的な日時の新しい形式を有効化してください。レポートとダッシュボードで右から左に読み取ったり、トランスレーションワークベンチで各コンポーネントに長い翻訳を書き込んだりできます。

AppExchange: AppExchange パッケージの使用状況データ、ISV ハンマーテストのオプトアウト、AppExchange Checkout の改善

インストールされた AppExchange パッケージを会社でどのように使用しているかを表示します。AppExchange パートナーが組織のメタデータをのコピーを使用して新しいパッケージバージョンをテストすることを回避します。AppExchange Checkout は、強力なカスタマー認証によって欧州経済圏での支払のセキュリティを向上させています。

一般設定: Lightning アプリケーションでのより多くのフォーム要素のサポート、拡張外部サービスを使用した接続の改善、カスタムオブジェクト数と設定数の監視

デスクトップ、電話、またはその両方をサポートする Lightning アプリケーションを作成します。拡張外部サービスを使用して外部サービスへのより適切な接続を作成します。作成したカスタムオブジェクトと設定の数を、組織の合計と比較します。

Einstein 予測ビルダー: 比較による絞り込み

セグメントとサンプルデータセットの相関性と、最新の比較の検索条件を維持できます。

このセクションの内容:

Einstein 予測ビルダーの比較による絞り込み

絶対項目値のみの絞り込みに加えて、他の項目や特定の時点の値と比較した項目値でも絞り込めるようになりました。検索条件ロジックをよりわかりやすくして、予測の問題との関連性を高めることができます。

Einstein 予測ビルダーの比較による絞り込み

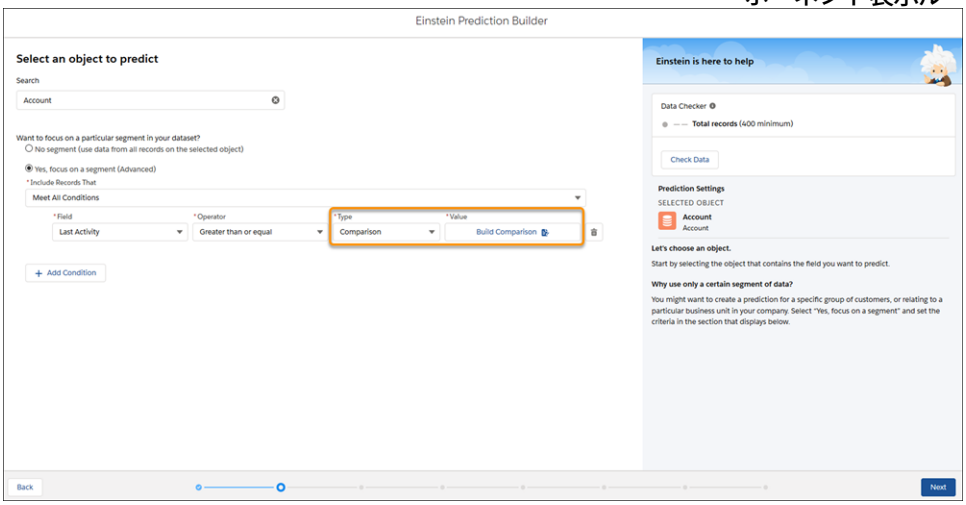
絶対項目値のみの絞り込みに加えて、他の項目や特定の時点の値と比較した項目値でも絞り込めるようになりました。検索条件ロジックをよりわかりやすくして、予測の問題との関連性を高めることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

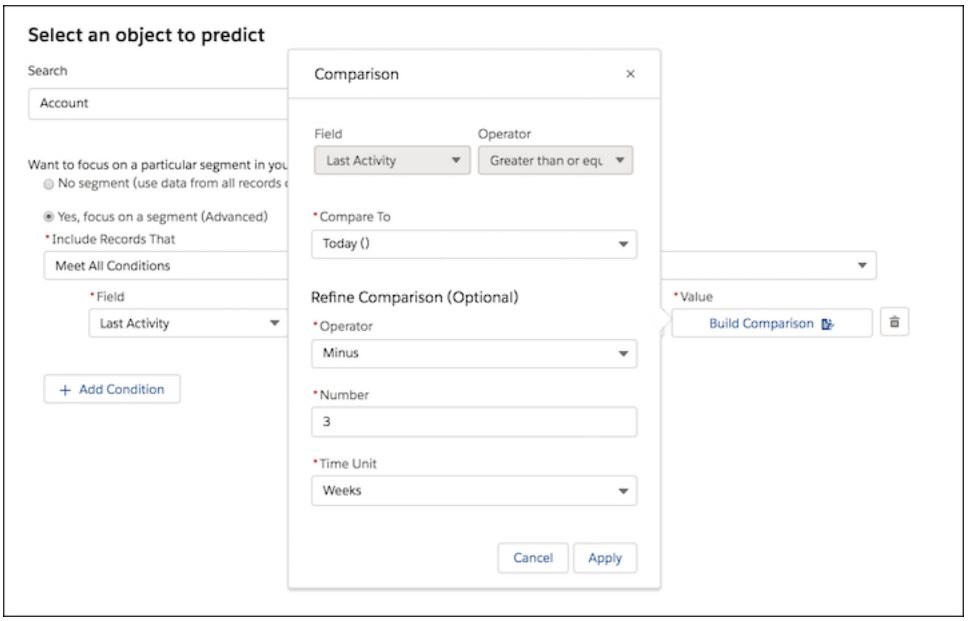
対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein Predictions ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

理由: 比較の検索条件は、比較に使用できる項目を持つレコードの日付項目、通貨項目、および数値項目に適用されます。たとえば、過去3週間の活動がある取引先のみを参照したいとします。以前は、絶対日付を使用して、「過去3週間」を定義するか、または Einstein 予測ビルダーの外部で数式項目を作成する必要がありました。これからは、最後の活動日付が本日から3週間前以降である取引先に絞り込むように、比較検索条件を設定できます。また、検索条件は常に最新に保たれ、古くなりません。

方法: 比較検索条件は、[種別] ドロップダウンメニューのオプションとして [比較] が含まれていれば使用できます。[比較] を選択すると、[値] 項目に [比較を構築] ボタンが表示されます。



比較を構築するには、検索条件で使用する項目 (日付項目に対して比較を行う場合は特定の時点) を選択します。過去 3 週間で活動を行った取引先を取得するには、「3 週間前」のような特定の条件で比較を微調整します。



Lightning アプリケーションビルダー: 電話フォーム要素に対応したレコードページ、ページテンプレート、コンポーネント表示ルール、およびホームページの新しいコンポーネント

新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした場合は、レコードページ、ページテンプレート、そしてコンポーネント表示ルールを電話での使用に合わせて設定できます。デスクトップで、タブとアコーディオンコンポーネントを使用してホームページを強化してください。

このセクションの内容:

電話フォーム要素に合わせた Lightning レコードページのカスタマイズ

Lightning レコードページが、デスクトップの Lightning Experience に限定されなくなりました。組織が新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしていれば、デスクトップとモバイルアプリケーションの両方で同じレコードページを表示できます。あるいは、もう一歩進んで、1つのカスタムレコードページをデスクトップユーザに割り当て、別のページをモバイルアプリケーションユーザに割り当てることで、異なるユーザのニーズに対応できます。どのページがどのフォーム要素に割り当てられているかが分からない場合も安心です。その情報も、オブジェクトマネージャの [Lightning レコードページ] 画面で確認できるようになりました。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント

モバイルナビゲーションおよび新しい Salesforce モバイルアプリケーションをサポートするため、[リストビュー] コンポーネント、[関連リスト – 1 つ] コンポーネント、[関連リスト] コンポーネント、[関連リストのクイックリンク] コンポーネントが更新されました。[リストビュー] コンポーネントをレコードページに配置したときに、[さらに表示] ボタンで一括で読み込まれるレコード数が増えたため、簡単により多くのレコードを取得したり、必要な情報までスクロールしたりできます。[関連リスト] コンポーネントによって、すべての関連リストが 1 つのセクションにグループ化されますが、ニュースと Twitter は含まれなくなりました。[関連リスト] コンポーネントでは、効率的なナビゲーションを実現するために [さらに表示] ボタンも使用します。

フォーム要素に応じた Lightning ページテンプレートの選択

Lightning ページ作成ウィザードでのページテンプレートの表示方法が更新されました。標準テンプレートとカスタムテンプレートには、そのテンプレートがデスクトップ、電話、またはその両方のどれをサポートするかを示すアイコンとテキストが追加されました。標準レコードページテンプレートの画像と全体的な説明も変更しました。

コンポーネントパレットでのサポートされているフォーム要素の表示

Lightning アプリケーションビルダーのコンポーネントパレットでは、サポートするフォーム要素を表すアイコンが各コンポーネントに付けられるようになりました。これで、Lightning ページにコンポーネントを追加する前に、ページが表示されたときにそのコンポーネントが特定のフォーム要素で表示されるかどうかをすぐに確認できます。また、新しい設定メニューを使用してコンポーネントリストを更新したり、フォーム要素のアイコンの表示と非表示を切り替えたりできます。

[ページ] メニューからのアプリケーションのデフォルトフォーム要素の割り当ての表示

Lightning アプリケーションビルダーで Lightning アプリケーションを編集するときに、どのレコードページが各フォーム要素のアプリケーションのデフォルトとして割り当てられているかを [ページ] メニューで確認できるようになりました。

デバイスに応じたレコードページコンポーネント表示ルールの設定

レコードページでは、ページを表示するデバイスに応じて、標準コンポーネントやカスタムコンポーネントの表示と非表示を切り替えられるようになりました。

ホームページへのタブコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加

Lightning Experience のホームページでタブコンポーネントとアコーディオンコンポーネントを使用できるようになりました。タブを作成、更新、削除したり、順序を変更したりできます。また、アコーディオンコンポーネントを使用すると、コンポーネントを折りたたみ可能なセクションに整理できます。タブとアコーディオンのどちらにも、ユーザに表示するタブやセクションを作成し、任意の名前を付けて、コンポーネントを追加できます。

カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントを使用したアンケート結果の迅速な表示 (パイロット)

カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントを使用して、取引先、ケース、取引先責任者、ユーザ、およびカスタムオブジェクトのアンケート質問スコアを表示できます。

アンケートへのトピックの追加

トピックを使用することで、アンケート、質問、回答の選択肢、および回答をテーマごとに簡単に整理できます。[アンケート]、[アンケートの質問]、[アンケートの質問の選択肢]、および [アンケートの質問への回答] の各レコードページに [トピック] Lightning コンポーネントを追加します。

更新された表示ラベルによるフォーム要素ごとのコンポーネント表示ルールの容易な設定

Lightning アプリケーションビルダーで、フォーム要素やデバイスごとにコンポーネントの表示ルールを設定するのは、以前は面倒な場合がありました。フォーム要素ごとの割り当てはクライアントコンテキストの下でネストされるため、ほとんどのユーザの目には留まりません。これを明確にするため、表示ラベルを更新して、[デバイス] を選択することで作業を開始できるようにしました。

改善されたプレースホルダコンポーネントのデザインとメッセージ

Lightning アプリケーションビルダーキャンバスでのコンポーネントの問題を容易にトラブルシューティングできるようにするため、プレースホルダコンポーネントのデザインを更新しました。必要な権限がない、データを利用できない、フォーム要素がサポートされていないなどの理由でコンポーネントをキャンバスで表示できない場合は、プレースホルダコンポーネントが代わりに表示されます。

固定領域ページテンプレートの表示ラベルの変更

Lightningアプリケーションビルダーのテンプレート選択画面の固定領域ページテンプレートから「コンソール:」プレフィックスが削除されました。固定領域テンプレートはコンソールページ用に設計されていますが、標準 Lightning ページとして使用することもできます。

Lightning アプリケーションビルダーでの容易なレコードページツアー

Lightningアプリケーションビルダーで余計なステップや語句の入力は不要になりました。ステップが減り、テキストがより簡潔明瞭になったため、レコードページ間をスムーズに移動できるようになりました。

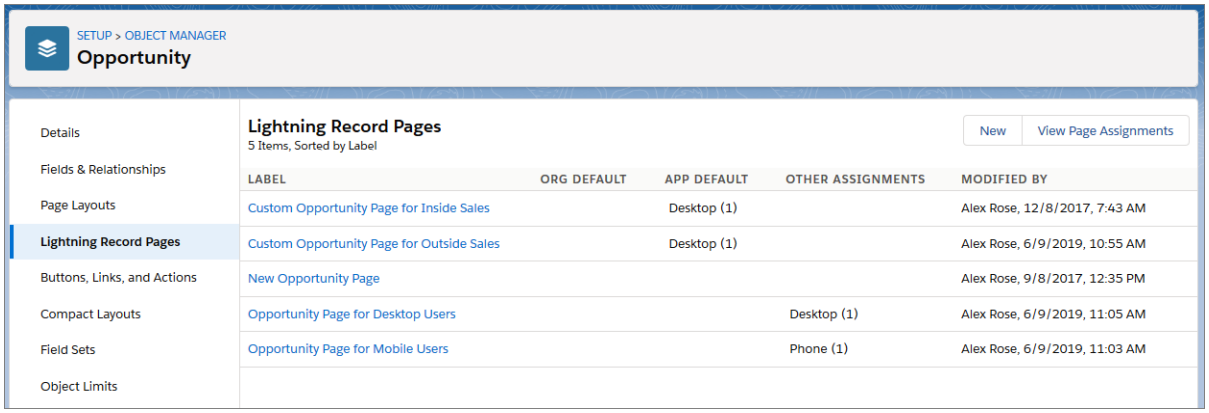
電話フォーム要素に合わせた Lightning レコードページのカスタマイズ

Lightning レコードページが、デスクトップの Lightning Experience に限定されなくなりました。組織が新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインしていれば、デスクトップとモバイルアプリケーションの両方で同じレコードページを表示できます。あるいは、もう一歩進んで、1 つのカスタムレコードページをデスクトップユーザに割り当て、別のページをモバイルアプリケーションユーザに割り当てることで、異なるユーザのニーズに対応できます。どのページがどのフォーム要素に割り当てられているかが分からない場合も安心です。その情報も、オブジェクトマネージャの [Lightning レコードページ] 画面で確認できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織で利用できます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーでレコードページを作成する時に、ページを作成するフォーム要素と一致するページテンプレートを選択できます。フォーム要素スイッチャを使えば、そのページが異なるデバイスでどのように表示されるかをプレビューできます。ページを有効化するときに、テンプレートがサポートするフォーム要素に従って、レコードページを表示するフォーム要素(電話、デスクトップ、またはその両方)を選択できます。

メインの [Lightning レコードページ] 画面で、それぞれの割り当て種別でどのページがどのフォーム要素に割り当てられているのかを確認できます。



[ページ割り当てを表示]をクリックして、それぞれの割り当て種別でどのページがどのフォーム要素に割り当てられているのかを確認します。

すでに組織で作成されているページは、デフォルトで両方のフォーム要素がサポートされます。いくつかの例外を除き、これらのページでは、カスタムコンポーネントと標準コンポーネントはデスクトップとモバイルのどちらでもシームレスに機能します。

関連トピック:

Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

新しい Salesforce モバイルアプリケーションに最適化されたリストおよび関連リストコンポーネント

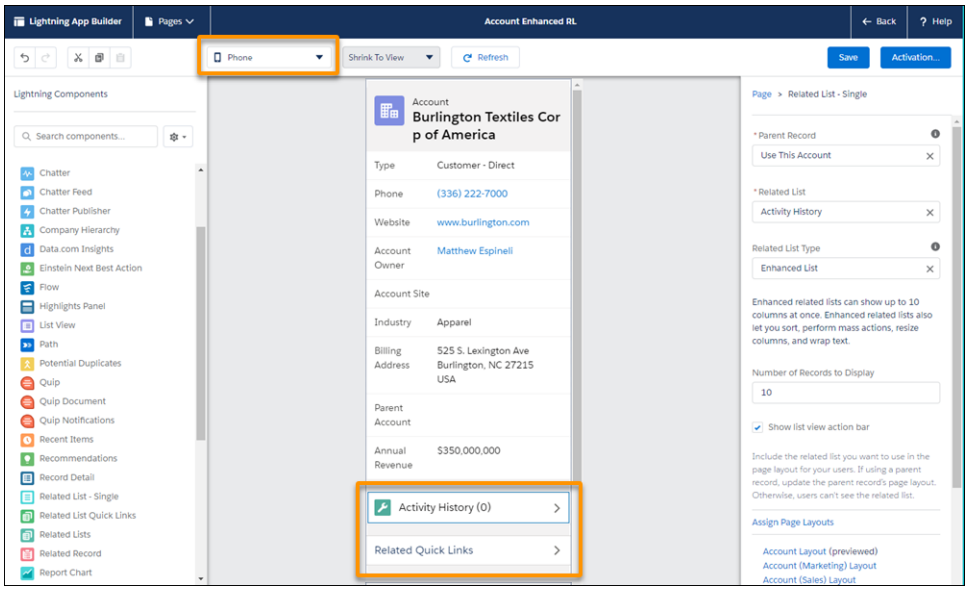
モバイルナビゲーションおよび新しい Salesforce モバイルアプリケーションをサポートするため、[リストビュー] コンポーネント、[関連リスト – 1 つ] コンポーネント、[関連リスト] コンポーネント、[関連リストのクイックリンク] コンポーネントが更新されました。[リストビュー] コンポーネントをレコードページに配置したときに、[さらに表示] ボタンで一括で読み込まれるレコード数が増えたため、簡単により多くのレコードを取得したり、必要な情報までスクロールしたりできます。[関連リスト] コンポーネントによって、すべての関連リストが 1 つのセクションにグループ化されますが、ニュースと Twitter は含まれなくなりました。[関連リスト] コンポーネントでは、効率的なナビゲーションを実現するために [さらに表示] ボタンも使用します。

対象: この変更は、Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この機能は、Lightning アプリケーションビルダーですぐに試すことができますが、2019 年 10 月 14 日の週に新しい Salesforce モバイル アプリケーションがリリースされるまでは、ユーザには表示されません。

対象ユーザ: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザ権限を持つユーザが使用できます。

方法: [関連リスト - 1 つ] コンポーネントと [関連リストのクイックリンク] コンポーネントを新しい Salesforce モバイルアプリケーションに追加するには、モバイルビューを表示したまま Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページにコンポーネントを追加します。



ニュースと Twitter をページに戻すには、個別のコンポーネントを使用します。

関連トピック:

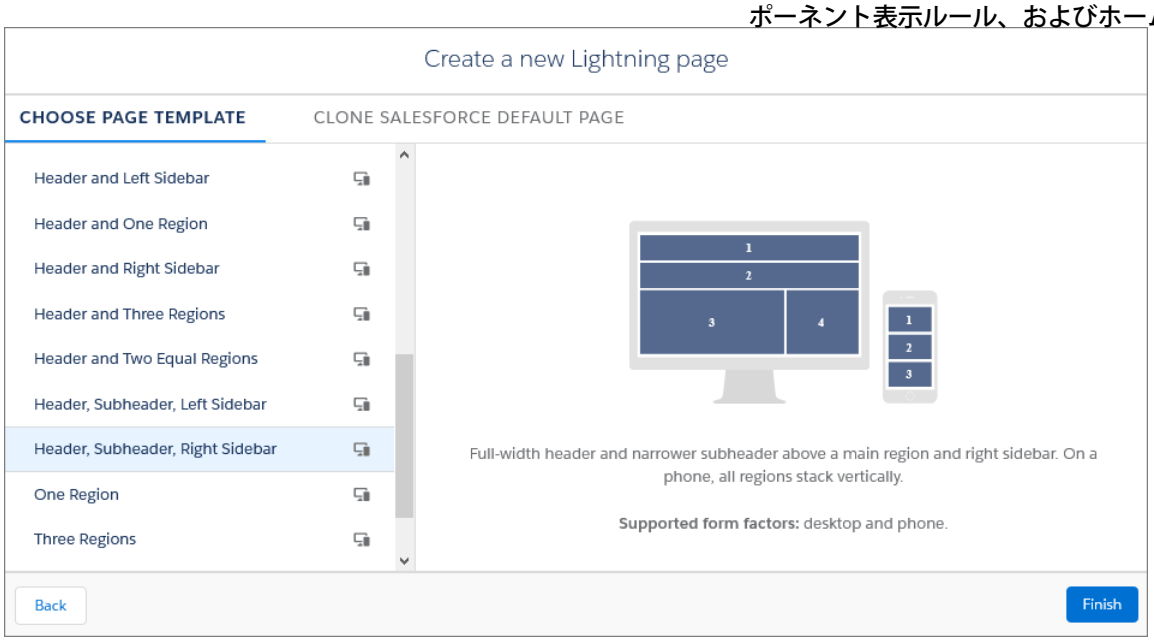
- Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

フォーム要素に応じた Lightning ページテンプレートの選択

Lightningページ作成ウィザードでのページテンプレートの表示方法が更新されました。標準テンプレートとカスタムテンプレートには、そのテンプレートがデスクトップ、電話、またはその両方のどれをサポートするかを示すアイコンとテキストが追加されました。標準レコードページテンプレートの画像と全体的な説明も変更しました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。テンプレートフォーム要素アイコンは、新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織で使用できます。

理由: Lightning ページを作成する時に、ページを設計するフォーム要素をサポートするテンプレートを選択できます。



ヒント: ページのテンプレートで複数のフォーム要素をサポートする場合は、Lightning アプリケーションビルダーツールバーのフォーム要素スイッチャで形式を切り替えてプレビューできます。

関連トピック:

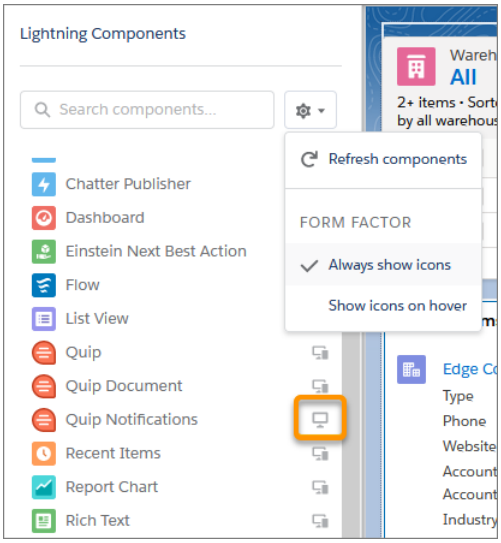
Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

コンポーネントパレットでのサポートされているフォーム要素の表示

Lightning アプリケーションビルダーのコンポーネントパレットでは、サポートするフォーム要素を表すアイコンが各コンポーネントに付けられるようになりました。これで、Lightning ページにコンポーネントを追加する前に、ページが表示されたときにそのコンポーネントが特定のフォーム要素で表示されるかどうかをすぐに確認できます。また、新しい設定メニューを使用してコンポーネントリストを更新したり、フォーム要素のアイコンの表示と非表示を切り替えたりできます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

理由: デスクトップと電話の両方をサポートする Lightning ページに [Quip 通知] コンポーネントを追加するとします。[Quip 通知] コンポーネントはデスクトップでしかサポートされず、そのことがアイコンによって示されます。これにより、コンポーネントを追加する前に、デスクトップでページを表示するユーザしかこのコンポーネントを見ることができないということが分かります。



関連トピック:

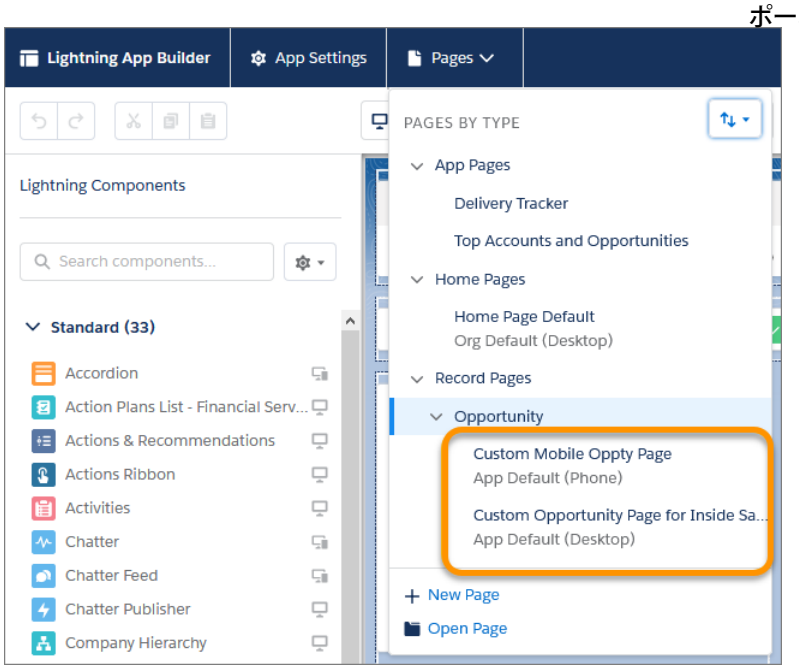
- Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

[ページ] メニューからのアプリケーションのデフォルトフォーム要素の割り当ての表示

Lightning アプリケーションビルダーで Lightning アプリケーションを編集するときに、どのレコードページが各フォーム要素のアプリケーションのデフォルトとして割り当てられているかを [ページ] メニューで確認できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

方法: [設定] で [アプリケーションマネージャ] から、いずれかの Lightning アプリケーションの [編集] をクリックし、[ページ] をクリックします。

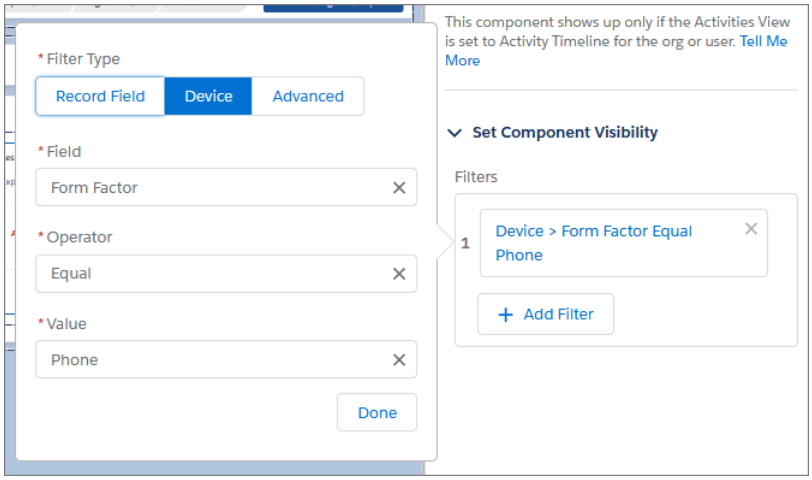


デバイスに応じたレコードページコンポーネント表示ルールの設定

レコードページでは、ページを表示するデバイスに応じて、標準コンポーネントやカスタムコンポーネントの表示と非表示を切り替えられるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。新しい** Salesforce **モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。**

方法: コンポーネントの [プロパティ] ペインで [検索条件を追加] をクリックしてから [デバイス] をクリックします。



関連トピック:

Lightning アプリケーションビルダーでモバイル設定オプションのロック解除

ホームページへのタブコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加

Lightning Experience のホームページでタブコンポーネントとアコーディオンコンポーネントを使用できるようになりました。タブを作成、更新、削除したり、順序を変更したりできます。また、アコーディオンコンポーネントを使用すると、コンポーネントを折りたたみ可能なセクションに整理できます。タブとアコーディオンのどちらにも、ユーザに表示するタブやセクションを作成し、任意の名前を付けて、コンポーネントを追加できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Add and Customize Tabs on Lightning Pages Using the Lightning App Builder (Lightning アプリケーションビルダーを使用した Lightning ページのタブの追加とカスタマイズ)

カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントを使用したアンケート結果の迅速な表示 (パイロット)

カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントを使用して、取引先、ケース、取引先責任者、ユーザ、およびカスタムオブジェクトのアンケート質問スコアを表示できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition のデスクトップの Lightning Experience に適用されます。

メモ: カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。カスタマーエクスペリエンススコアコンポーネントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

関連トピック:

特定のレコードに対して顧客が提供したスコアの表示 (パイロット)

アンケートへのトピックの追加

トピックを使用することで、アンケート、質問、回答の選択肢、および回答をテーマごとに簡単に整理できます。[アンケート]、[アンケートの質問]、[アンケートの質問の選択肢]、および [アンケートの質問への回答] の各レコードページに [トピック] Lightning コンポーネントを追加します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

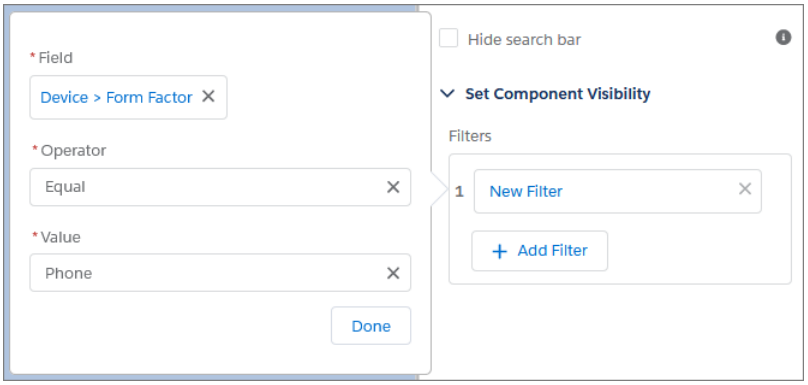
アンケートへのトピックの割り当て

更新された表示ラベルによるフォーム要素ごとのコンポーネント表示ルールの容易な設定

Lightning アプリケーションビルダーで、フォーム要素やデバイスごとにコンポーネントの表示ルールを設定するのは、以前は面倒な場合がありました。フォーム要素ごとの割り当てはクライアントコンテキストの下でネストされるため、ほとんどのユーザの目には留まりません。これを明確にするため、表示ラベルを更新して、[デバイス] を選択することで作業を開始できるようにしました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 変更を確認するには、コンポーネントの [プロパティ] ペインで [検索条件を追加] をクリックします。



改善されたプレースホルダコンポーネントのデザインとメッセージ

Lightning アプリケーションビルダーキャンバスでのコンポーネントの問題を容易にトラブルシューティングできるようにするため、プレースホルダコンポーネントのデザインを更新しました。必要な権限がない、データを利用できない、フォーム要素がサポートされていないなどの理由でコンポーネントをキャンバスで表示できない場合は、プレースホルダコンポーネントが代わりに表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

固定領域ページテンプレートの表示ラベルの変更

Lightning アプリケーションビルダーのテンプレート選択画面の固定領域ページテンプレートから「コンソール:」プレフィックスが削除されました。固定領域テンプレートはコンソールページ用に設計されていますが、標準 Lightning ページとして使用することもできます。

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

Lightning アプリケーションビルダーでの容易なレコードページツアー

Lightning **アプリケーションビルダーで余計なステップや語句の入力は不要になりました。ステップが減り、テキストがより簡潔明瞭になったため、レコードページ間をスムーズに移動できるようになりました。**

対象:この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

承認: 承認申請通知の制限緩和と詳細な制御

組織ごとおよびオブジェクトごとの承認プロセスの増加に対応します。通知ビルダーを使用して、承認申請のデスクトップおよびモバイル配信チャネルを選択してください。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

このセクションの内容:

承認プロセスの制限緩和

ユーザがオブジェクトごとに要求する承認プロセスの数は増え続けています。そこで、承認プロセスの制限を緩和し、増加できる余地を設けました。組織当たりの承認プロセス数は、*有効件数*が 1,000 **件、*総数*が** 2,000 **件まで可能になりました。各オブジェクトの承認プロセス数は、*有効件数*が** 300 **件、*総数*が** 500 **件まで可能です。**

承認申請の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル(サポート対象の Salesforce **アプリケーションを含む)を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは** Salesforce **によって定義されていました。承認申請通知をより詳細に制御できるようになりました。**

承認プロセスの制限緩和

ユーザがオブジェクトごとに要求する承認プロセスの数は増え続けています。そこで、承認プロセスの制限を緩和し、増加できる余地を設けました。組織当たりの承認プロセス数は、*有効件数*が 1,000 **件、*総数*が** 2,000 **件まで可能になりました。各オブジェクトの承認プロセス数は、*有効件数*が**300**件、*総数*が**500**件まで可能です。**

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

関連トピック:

Salesforce **ヘルプ:承認の制限(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

承認申請の配信設定の管理

通知ビルダーを使用して、標準通知種別のデスクトップとモバイルの配信チャネル (サポート対象の Salesforce アプリケーションを含む) を選択します。以前は、標準通知の配信チャネルは Salesforce によって定義されていました。承認申請通知をより詳細に制御できるようになりました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と Salesforce Classic のユーザ、Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーション、および Essentials と Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのユーザに送信できます。Mobile Publisher アプリケーションのユーザへの通知の送信は、有料オプションです。

方法: 詳細は、「通知ビルダーを使用した標準通知の配信設定の管理」を参照してください。

Einstein Next Best Action: 自動起動フロー、戦略テンプレートと知的財産、元に戻す/やり直す、合理化された式

自動起動フローを呼び出して、おすすめからレコードを更新したりメールを送信したりできます。登録者がカスタマイズできる戦略テンプレートを作成したり、戦略を知的財産 (IP) として保護したりできます。戦略の作成中はミスを簡単に元に戻すことができます。ブランチセレクタ要素を使用するときに、式をよりすばやく正確に作成できます。

このセクションの内容:

Next Best Action のおすすめからの自動フロー起動の呼び出し

サービスエージェントはすばやく行動を起こすことができます。おすすめからバックグラウンドでレコードを更新したりメールを送信したりする自動起動フローをコールできます。

戦略テンプレートの作成および知的財産としての戦略の保護

登録者がカスタマイズして戦略を構築するための戦略テンプレートを作成できます。戦略テンプレートは、AppExchange で公開する管理パッケージで共有されます。管理パッケージには、戦略テンプレートと、知的財産 (IP) として保護される戦略も含めることができます。登録者は、Strategy Builder でテンプレートを開いてコピーし、各自の用途に合わせてカスタマイズできます。テンプレートとしてマークされていない戦略は IP 保護で、編集またはコピーできません。戦略テンプレートと IP 保護戦略は、パッケージアップグレードの一部としてアップグレードできます。戦略テンプレートにアップグレードを転送する場合、登録者のコピーは影響を受けません。

戦略作成時の元に戻す/やり直す

戦略の作成中にミスをしてしまうことがあります。このリリースでは、間違って親要素を削除したり要素を分岐間で移動したりといったミスをしてしまった場合でも、変更を簡単に元に戻したり、やり直したりできるようになりました。

Next Best Action Strategy Builder での分岐式の容易な作成

ブランチセレクタ要素を使用しておすすめを分岐させる際に、式をよりすばやく正確に作成できます。選択リスト値を手動で入力する必要はありません。値を選択するだけで、Next Best Action が自動的に式を入力してくれます。

容易に識別できるおすすめのタイトル

属性のリストにタイトルを追加しました。これらのタイトルは、Lightning アプリケーションビルダーやコミュニティで Next Best Action Lightning コンポーネントのおすすめに表示できます。エージェントやユーザがおすすめの内容を容易に識別できるようにタイトルを付けることができます。

アプリケーションのホームページでのおすすめの表示

Lightning コンポーネントの Next Best Action をアプリケーションのホームページに追加することで、おすすめをまとめて表示できます。たとえば、フォローアップが必要な重要な取引先のリストを、前回の連絡から特定の日数が経過した時点でエージェントに表示することができます。

Next Best Action のおすすめからの自動フロー起動の呼び出し

サービスエージェントはすばやく行動を起こすことができます。おすすめからバックグラウンドでレコードを更新したりメールを送信したりする自動起動フローをコールできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 自動起動フローでは、外部システムの更新や Quip 文書へのメモの追加など、いろいろなアクションを実行できます。たとえば、あるケースにおいて顧客へのプレミアムサービスをアップセルするためのおすすめをサービスエージェントに表示できます。エージェントがおすすめを受け入れると、自動起動フローがケースの更新と顧客の注文履歴を処理し、メールでレシートを送信します。

または、テンプレート化されているマーケティングキャンペーンメールを顧客に送信する自動起動フローを作成できます。顧客がこのキャンペーンの対称であるかどうかは、サービスエージェントが判断します。これには、数クリックの操作と複雑な計算が関与します。ここで、Next Best Action を使用することで顧客の資格状況を即座に判断し、おすすめを受け入れてフローを起動するようにエージェントに促すことができます。

方法: 自動起動フローを作成します。Next Best Action は無効なフローをおすすめから呼び出すことはできませんので、必ず有効化してください。

アプリケーションランチャーで[おすすめ]をクリックし、自動起動フローを追加するおすすめを選択して編集します。[アクション]ドロップダウンから自動起動フローを選択します。ユーザがおすすめを受け入れると、自動起動フローが実行されます。

戦略テンプレートの作成および知的財産としての戦略の保護

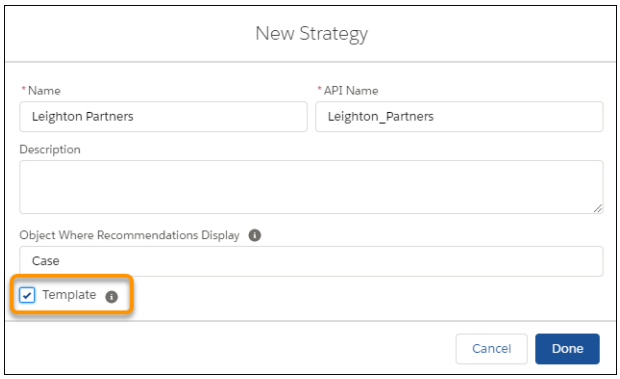
登録者がカスタマイズして戦略を構築するための戦略テンプレートを作成できます。戦略テンプレートは、AppExchange で公開する管理パッケージで共有されます。管理パッケージには、戦略テンプレートと、知的財産 (IP) として保護される戦略も含めることができます。登録者は、Strategy Builder でテンプレートを開いてコピーし、各自の用途に合わせてカスタマイズできます。テンプレートとしてマークされていない戦略は IP 保護で、編集またはコピーできません。戦略テンプレートと IP 保護戦略は、パッケージアップグレードの一部としてアップグレードできます。戦略テンプレートにアップグレードを転送する場合、登録者のコピーは影響を受けません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 保険会社の戦略を作成してパッケージ化するとします。保険の法律や規制は場所によって異なるため、登録者は必要に応じて戦略を変更したいと考えています。このような場合には、戦略テンプレートを作っておけば、登録者は戦略を変更できます。

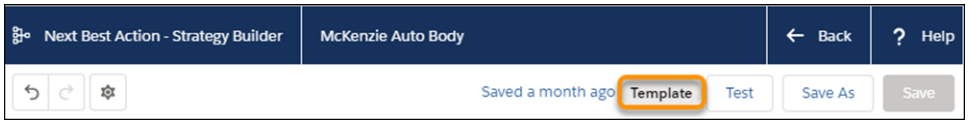
あるいは、競合相手や顧客には見せたくない業務上の企業機密を含む戦略を作成するとします。IP 保護により、作成した戦略は安全に保護されます。この戦略を AppExchange で公開した場合、登録者は戦略を使用できますが、編集したりコピーしたりすることはできません。Winter '19 より前に AppExchange からインストールされた戦略は、登録者の組織では自動的に IP として保護されます。

方法: 戦略をテンプレートにするには、Strategy Builder でプロパティを開いて [テンプレート] を選択します。

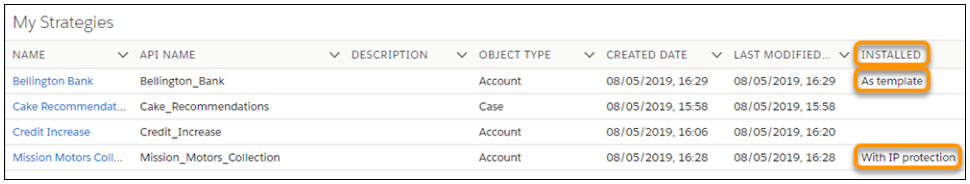


管理パッケージで配布した戦略がテンプレートでなければ、IP として保護されます。管理パッケージは、Developer Edition 組織でのみ作成できます。おすすめ戦略コンポーネントが含まれる管理パッケージをアップロードする場合 ([設定] から、クイック検索ボックスに「パッケージ」と入力し、[パッケージ] を選択する)、[パッケージのアップロード] ページの [パッケージ要件] セクションの **[Einstein Next Best Action]** を手動で選択します。これにより、おすすめ戦略の実行に必要なユーザ権限が登録者組織にない (ユーザ詳細ページの [フローを実行] または [フローユーザ] 項目が有効になっている) 場合にパッケージのインストールが失敗します。

Strategy Builder のキャンバスには、テンプレートである戦略と、IP 賭して保護される戦略を識別するラベルが追加されています。登録者の組織では、インストールされた戦略に対してこれらのラベルが表示されます。開発者の組織では、リリースされた戦略に対してこれらのラベルが表示されます。



戦略リストページには、[インストール済み] という新しい列が追加され、戦略テンプレートと、IP として保護されている戦略を識別します。



関連トピック:

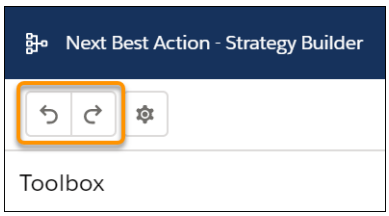
- API
- Tooling API

戦略作成時の元に戻す/やり直す

戦略の作成中にミスをしてしまうことがあります。このリリースでは、間違って親要素を削除したり要素を分岐間で移動したりといったミスをしてしまった場合でも、変更を簡単に元に戻したり、やり直したりできるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Strategy Builder の左上にある [元に戻す] ボタンと [やり直す] ボタンを見つけます。



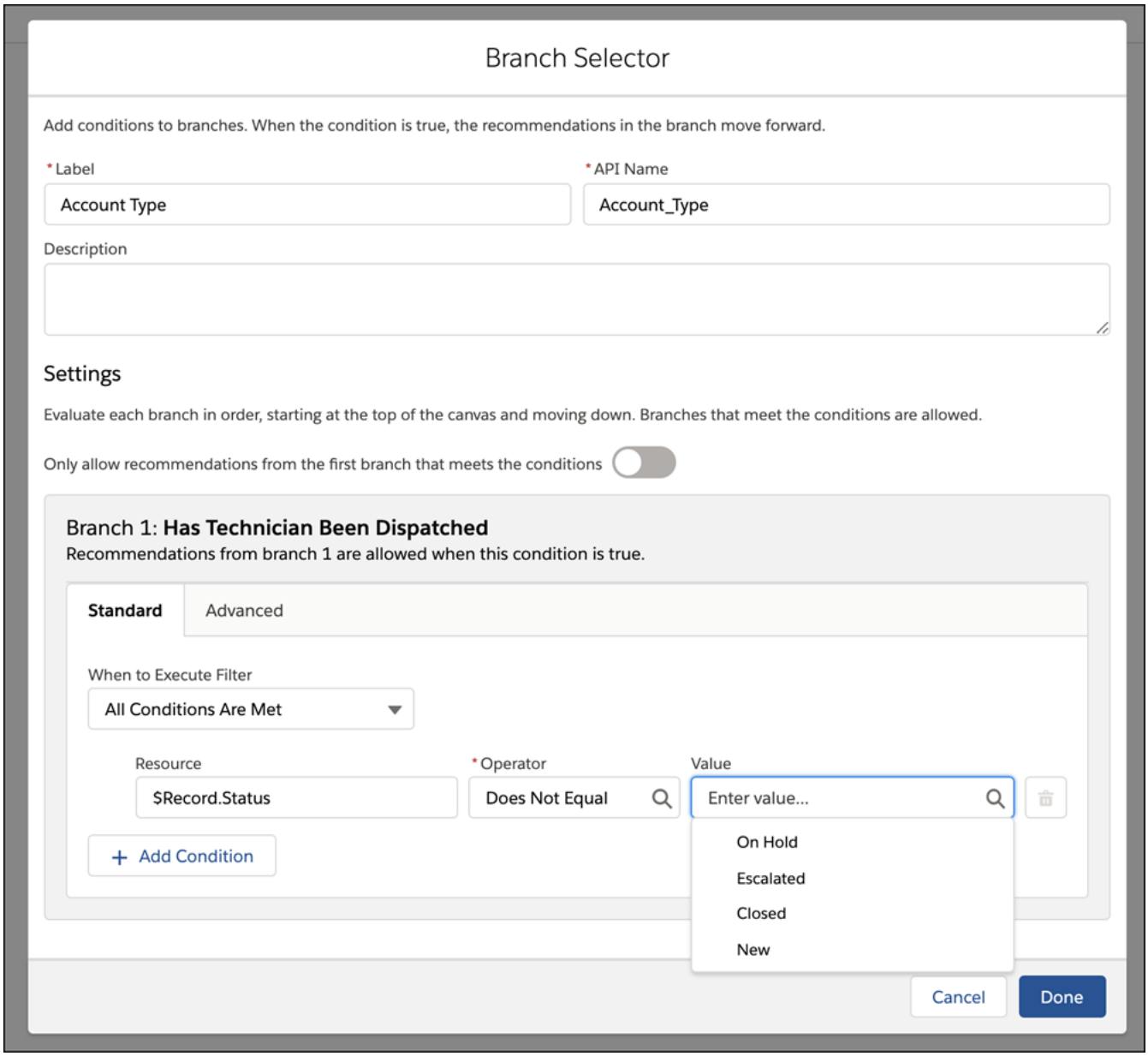
Next Best Action Strategy Builder での分岐式の容易な作成

ブランチセレクタ要素を使用しておすすめを分岐させる際に、式をよりすばやく正確に作成できます。選択リスト値を手動で入力する必要はありません。値を選択するだけで、Next Best Action が自動的に式を入力してくれます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 式には、リソース、演算子、そして値が含まれ、複雑さに応じて 2 つの異なるモードで式を構築できます。標準モードでは、選択または検索のみで数式を作成できます。より複雑な式を構築するには、詳細モードを使用して、画面に表示されるフォーマットや構文のガイドラインに従ってください。

複数選択リスト項目では、`Includes ($Record.CarType__c, 'Audi,''BMW')` などの値を入力します。

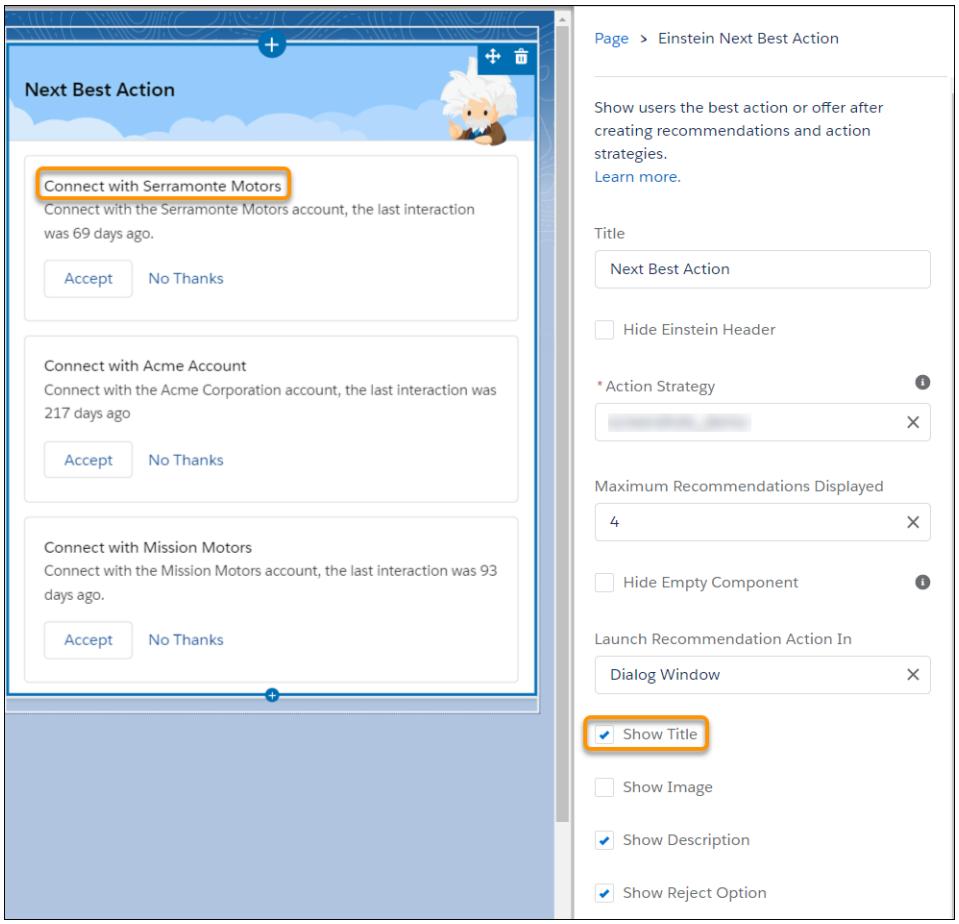


容易に識別できるおすすめのタイトル

属性のリストにタイトルを追加しました。これらのタイトルは、Lightningアプリケーションビルダーやコミュニティで Next Best Action Lightning コンポーネントのおすすめに表示できます。エージェントやユーザがおすすめの内容を容易に識別できるようにタイトルを付けることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: name 属性を使用して、おすすめのタイトルを設定します。ケースなどのレコードに移動します。 をクリックして、[編集ページ] を選択します。Lightning アプリケーションビルダーで Next Best Action Lightning コンポーネントを選択して [タイトルを表示] をクリックします。



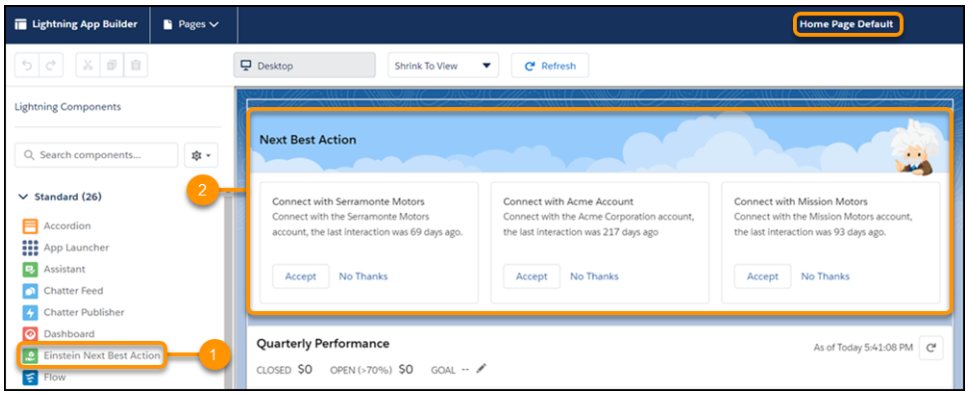
アプリケーションのホームページでのおすすめの表示

Lightning コンポーネントの Next Best Action をアプリケーションのホームページに追加することで、おすすめをまとめて表示できます。たとえば、フォローアップが必要な重要な取引先のリストを、前回の連絡から特定の日数が経過した時点でエージェントに表示することができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Next Best Action コンポーネントの戦略を作成します。たとえば、Apex 呼び出し可能なアクションで作成要素を使用しておすすめを動的に生成できる戦略があるとします。ホームページはレコードページではなく、[ケース]、[アカウント]、[商品]などのオブジェクトには関連付けられていないため、戦略を作成するときにはグローバル変数 (例: `$User.Id`) を使用する必要があります。

戦略の作成が完了したら、組織のホームページに移動します。 をクリックして、[編集ページ] を選択します。左側にある Lightning コンポーネントのリスト (1) から Einstein Next Best Action コンポーネントをホームページ (2) にドラッグします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバル変数

Unofficial SF: Integration Guide for Next Best Action (Next Best Action のインテグレーションガイド)

Lightning フロー: 画面コンポーネントの機能強化、フロースケジューラ、追加アクション

より多くのビルディングブロックで、より充実したプロセスやフローを構築できます。特定のフローを実行できるユーザを制御できます。フローユーザに、適切なタイミングで、適切な項目を表示できます。絞り込まれたレコードセットに対して、スケジュールした時刻にフローを開始できます。変数を作成せずに、画面コンポーネントと [レコードを取得] 要素を設定できます。

このセクションの内容:

Flow Builder: 強力な画面の機能強化、スケジュール済みフロー、および簡素化された [レコードを取得] 要素と [画面] 要素の設定

サポートされるコンポーネントの種類が増え、より充実したフローを構築できるようになりました。適切な画面コンポーネントを適切なタイミングで適切なユーザに表示できます。一連のレコードについて、スケジュールした時刻に開始するようにフローを設定できます。画面コンポーネントと [レコードを取得] 要素をフローに追加するときに、自動的に変数を作成して割り当てることができます。

Lightning フローの管理: 強化された [フロー] リストビュー、フローエラープラットフォームイベント、およびフローアクセス制御

強化された [フロー] リストビューには、Salesforce が構築する標準フローと、ユーザや他のパートナーが構築するカスタムフローが表示されるようになりました。権限を使用することで、どのユーザがどのフローを実行できるかを制御できます。プロセスやフローでエラーが発生したら、エラーをプラットフォームイベントとしてキャプチャすることで、エラーに対応するように適切なユーザに警告できます。プロセスとフローを有効としてリリースする場合は、最小テストカバー率をデフォルトの 75 % から変更できます。

プロセスビルダー:取引先チームメンバー、アンケートアクション、プラットフォームイベントからの差し込み項目

取引先チームの作成とアンケートへの招待を自動化できます。プラットフォームイベントから差し込み項目を追加できます。

Flow Builder: 強力な画面の機能強化、スケジュール済みフロー、および簡素化された [レコードを取得] 要素と [画面] 要素の設定

サポートされるコンポーネントの種類が増え、より充実したフローを構築できるようになりました。適切な画面コンポーネントを適切なタイミングで適切なユーザに表示できます。一連のレコードについて、スケジュールした時刻に開始するようにフローを設定できます。画面コンポーネントと [レコードを取得] 要素をフローに追加するときに、自動的に変数を作成して割り当てることができます。

このセクションの内容:

強力でパフォーマンスを高める Lightning Web コンポーネントのフロー画面への追加
スケジュールによるフローの開始
変数を作成しない [画面] 要素と [レコードを取得] 要素の設定
フローでのレコード検索時のユーザ支援
条件付き表示を使用した動的なフロー画面の作成
割り当て要素と決定要素での演算子による Apex で定義されたデータ型のコレクション変数の使用

強力でパフォーマンスを高める Lightning Web コンポーネントのフロー画面への追加

フロー画面でも、Lightning Web コンポーネントのパワフルな機能とパフォーマンスの恩恵を利用できるようになりました。開発者が構築したコンポーネントを統合したり、コンポーネントを AppExchange で見つけてフロー画面で使用できます。

スケジュールによるフローの開始

たとえば、週 1 回しか実行する必要がないのに、レコードを保存するたびにプロセスビルダーから開始されるフローがありませんか? ミーティングをスケジュールするのと同じくらい簡単に、フローの実行をスケジュールできたらいいなとは思いませんか? このリリースでは、自動起動フローを特定の日時に開始するようにスケジュールし、実行する頻度も 1 回だけ、毎日、または毎週のいずれかに設定できるようになりました。スケジュール済みフローを一連のレコードに対してのみ実行する場合は、オブジェクトと検索条件を指定します。

変数を作成しない [画面] 要素と [レコードを取得] 要素の設定

画面コンポーネントや [レコードを取得] 要素をフローに追加すると、出力値を保存するための変数が自動的に作成されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。Winter '20 より前に作成された [レコードを取得] 要素と画面コンポーネントには、この変更による影響はありません。

フローでのレコード検索時のユーザ支援

[ルックアップ] 画面コンポーネントを追加したことで、Salesforce の他の場所と同じようにレコードを検索できるようになりました。

条件付き表示を使用した動的なフロー画面の作成

必要な項目のみを必要なときに表示することで、ユーザの時間を節約できます。フローの画面コンポーネントのプロパティに検索条件とロジックを追加することで、選択リストやチェックボックスなどのフローリソースに対するユーザの入力や選択に応じて、そのコンポーネントの表示/非表示を切り替えることができます。

割り当て要素と決定要素での演算子による Apex で定義されたデータ型のコレクション変数の使用

Apex で定義されたデータ型により、フローで複雑なデータオブジェクトを操作できるようになります。これは、一般的に Web サービスで必要になります。割り当て要素と決定要素で、一連の演算子を使用して Apex で定義されたコレクション変数を操作できるようになりました。以前は、Apex で定義された非コレクション変数ではすべての演算子がサポートされていましたが、Apex で定義されたコレクション変数では [次の文字列と一致する] 演算子のみがサポートされていました。

Flow Builder を使用したカスタム通知の送信

重要なイベントが発生したときに、カスタマイズした通知を送信します。以前は、カスタム通知はプロセスビルダーでしか完全にサポートされていませんでした。このリリースでは、通知ビルダーで作成した通知種別 ID を直接 Flow Builder UI で使用できるようになりました。

Flow Builder でのリソース作成の容易化

[新規リソース] を選択して要素の項目を設定すると、新規リソースを定義するウィンドウが開きます。リソースの作成が終了したら、期待どおりのリソースが要素項目で指定されるようになりました。以前は、要素項目が空白のままになっていたため、新規リソースを手動で入力する必要がありました。

テキストテンプレートでのリッチテキストの使用

リッチテキストを Flow Builder のテキストテンプレートで使用できるようになりました。[メールを送信] アクションでテキストテンプレートを使用しているときや、プレーンテキストが必要なカスタムアクションを実行するときには、いつでもプレーンテキストに切り替えることができます。

Flow Builder の長くなった要素ラベル、パン機能の改善、ドラッグによる選択

Flow Builder キャンバス上の要素ラベルのスペースを 2 倍に増やしたため、構築している要素をより簡単に識別できるようになりました。パン操作時にボタンをクリックしたりスペースバーを押したままにしたりする必要がなくなります。対象をクリックしてドラッグするだけでキャンバス上をパンできます。[ドラッグ選択] ボタンを使用すると、複数の要素を選択するときの時間を節約できます。一連の要素を囲むボックスをクリックしてドラッグし、一度にすべての要素を移動または削除します。

Flow Builder からのフローの有効化

構築してテストした直後に、Flow Builder で直接フローを有効化できます。これまでどおり、[フローの詳細] ページからもフローのバージョンを有効化および無効化できます。

[高度な設定] でのフロー種別の検索

各種別のフローは異なるセットのビルディングブロックと機能をサポートするため、フロー種別の変更には注意が必要です。フローを新規フローとして保存する際に種別を間違って変更しないように、[種別] 項目を [高度な設定] に移動しました。

デスクトップ Flow Designer の廃止

デスクトップ Flow Designer よるフロー設計が廃止されました。デスクトップ Flow Designer (Swing Flow UI とも呼ばれる) で構築されたフローは実行できなくなり、開こうとするとエラーが返されます。

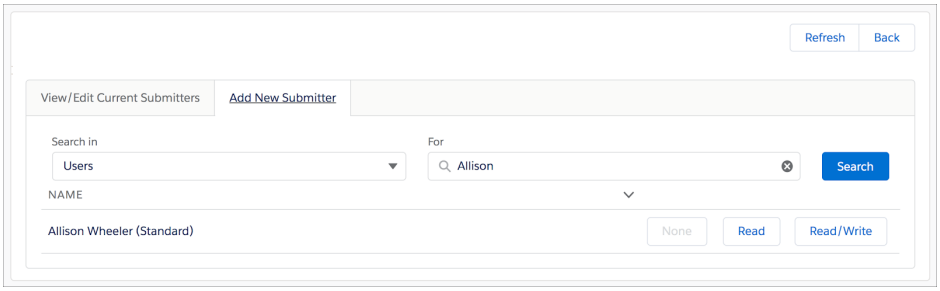
強力でパフォーマンスを高める Lightning Web コンポーネントのフロー画面への追加

フロー画面でも、Lightning Web コンポーネントのパワフルな機能とパフォーマンスの恩恵を利用できるようになりました。開発者が構築したコンポーネントを統合したり、コンポーネントを AppExchange で見つけてフロー画面で使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。フロー画面でのコンポーネントの使用は、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

方法: このコンポーネントにより、レコードの共有設定を手動で追加して管理できます。Lightning Web コンポーネントを画面コンポーネントとしてフロー画面で使用できるようにするには、コンポーネントの `targets` タグで `lightning__FlowScreen` を対象として指定し、`isExposed` タグを true に設定する必要があります。このコンポーネントでは、新しい `lightning/flowSupport` モジュールでイベントを使用できます。

メモ: Lightning Web コンポーネントを使用するには、組織で [私のドメイン] を有効にします。



関連トピック:

Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド): Set Up Your Development Environment (開発環境の設定)

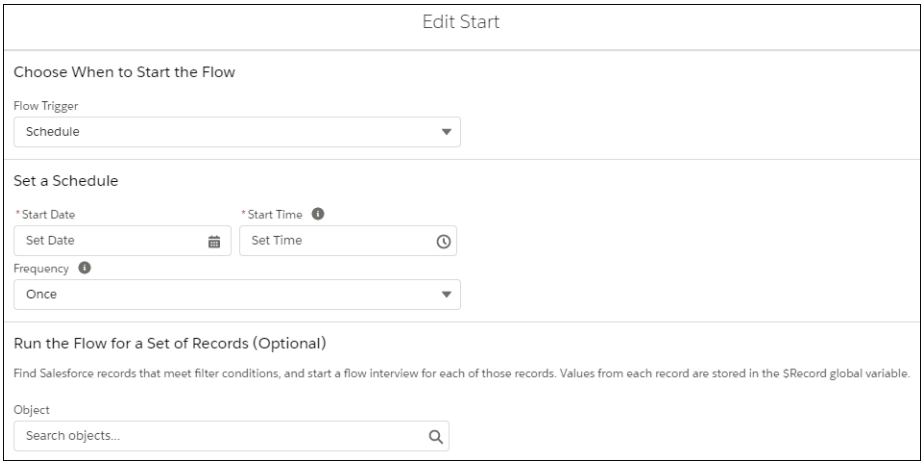
Unofficial SF: Adding Web Components to Flow Screens (フロー画面への Web コンポーネントの追加)

スケジュールによるフローの開始

たとえば、週1回しか実行する必要がないのに、レコードを保存するたびにプロセスビルダーから開始されるフローがありませんか? ミーティングをスケジュールするのと同じくらい簡単に、フローの実行をスケジュールできたらいいなとは思いませんか? このリリースでは、自動起動フローを特定の日時に開始するようにスケジュールし、実行する頻度も 1 回だけ、毎日、または毎週のいずれかに設定できるようになりました。スケジュール済みフローを一連のレコードに対してのみ実行する場合は、オブジェクトと検索条件を指定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 一連のレコードのフローを開始するには、[開始] 要素で検索条件を選択します。フローが開始されると、検索条件と一致する各レコードに対してフローインタビューが実行されます (ループは不要です)。一致するレコードは `$Record` グローバル変数に保存され、フロー全体でこの変数またはその項目を参照できます。

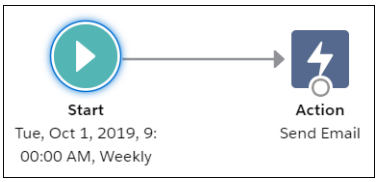


重要: スケジュール済み開始時刻のスケジュール済みフローの実行数には組織ごとに 24 時間あたりの制限があります。組織のレコード数の上限は、250,000件、またはユーザライセンスあたりの合計200件のど

ちらか多い方です。フローの開始をスケジュールする場合は、組織の制限を超えてしまうようなスケジュールと条件を設定しないように注意してください。

スケジュール済みフローが組織の制限を超えているかどうかを確認するには、デバッグログをチェックしてフローが実行されるレコードの数を確認します。フローはレコードごとに実行されるため、レコード数はスケジュール済みフローの実行数と同じになります。新しいデバッグログ行の FLOW_START_SCHEDULED_RECORDS でレコード数を追跡します。フローが組織の制限を超えると、関連付けられたフローを最後に変更したシステム管理者または Apex 例外メールの受信者に Salesforce からエラーメールが送信されます。

Flow Builder のキャンバスで、フローがスケジュール済み開始時刻を表示しています。



開始するようにスケジュールされているフローを監視するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*スケジュール済み*」と入力し、[スケジュール済みジョブ] を選択します。

関連トピック:

- *メタデータ API*: フロー
- *Tooling API*: フロー
- *Salesforce* ヘルプ: フロー要素: 開始(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: フローやプロセスを宣言的にスケジュールする機能

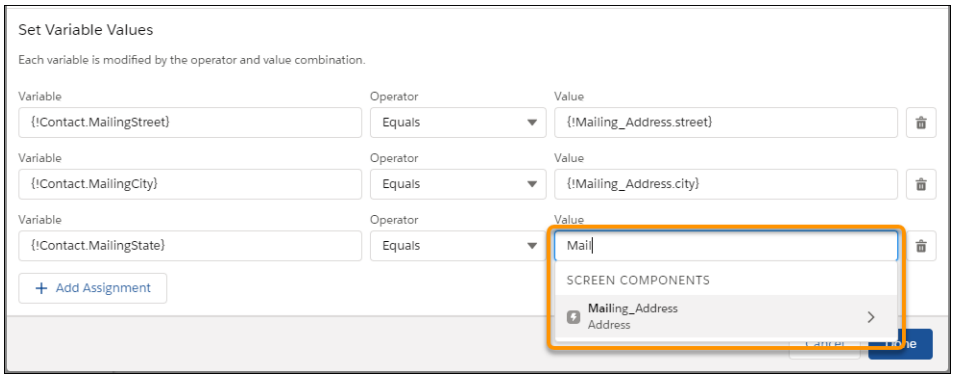
変数を作成しない [画面] 要素と [レコードを取得] 要素の設定

画面コンポーネントや [レコードを取得] 要素をフローに追加すると、出力値を保存するための変数が自動的に作成されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。Winter '20 より前に作成された [レコードを取得] 要素と画面コンポーネントには、この変更による影響はありません。

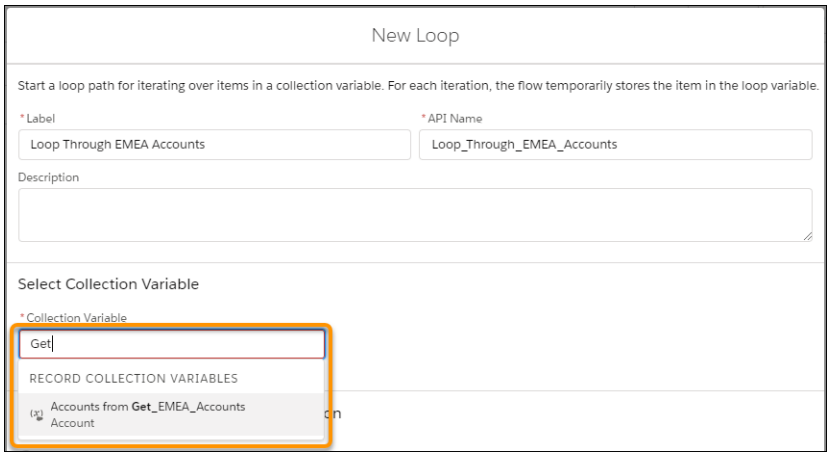
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 変数をサポートする項目を設定すると、自動的に作成された変数がフローの他の変数と同様に使用可能なオプションとして表示されます。

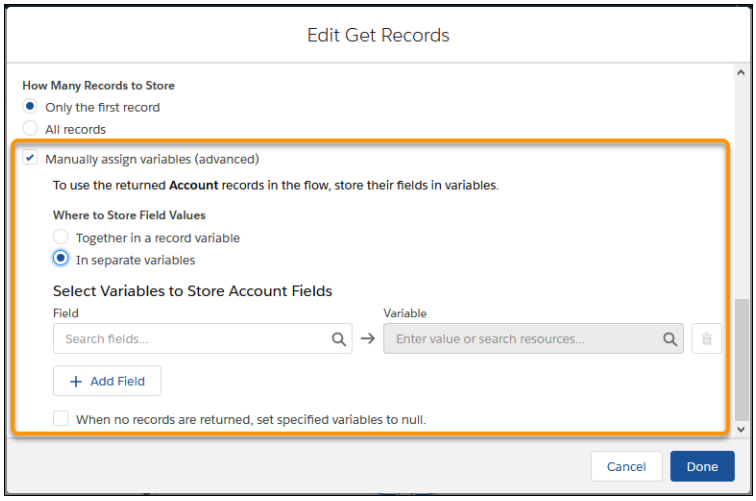
画面コンポーネントからの値を後でフローで使用するには、画面コンポーネントの API 参照名を入力します。



[レコードを取得] 要素からの値を後でフローで使用するには、要素の API 参照名を入力します。



自動的に作成された変数を使用しない場合は、[手動割り当て変数 (詳細)] を選択してください。



関連トピック:

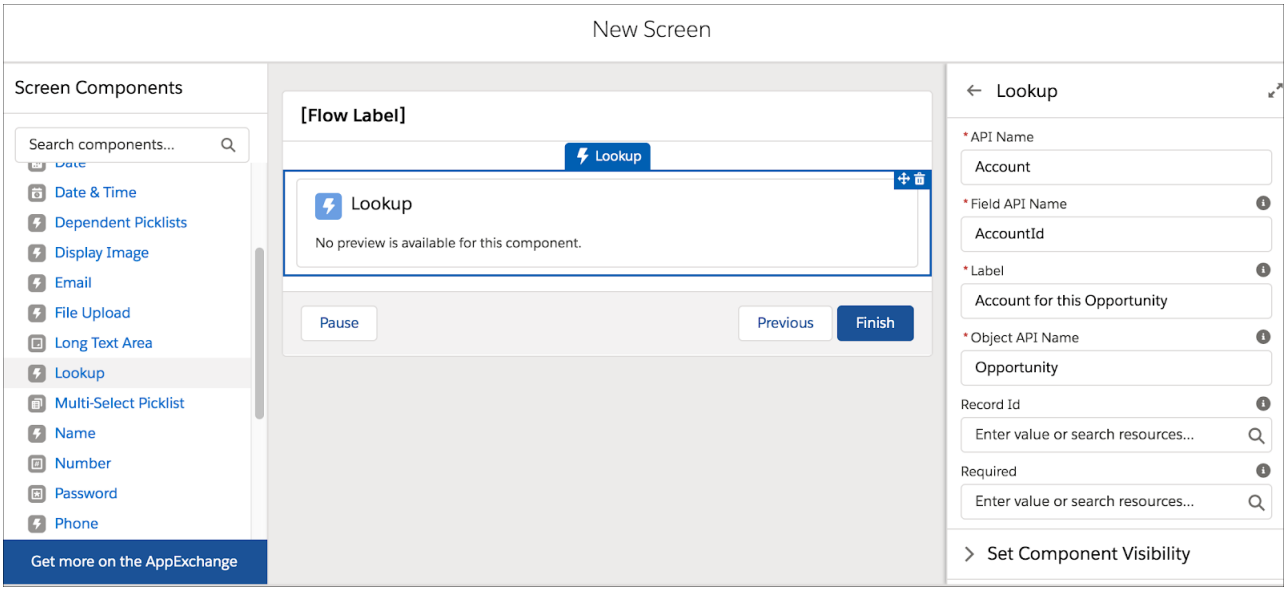
- *Salesforce* ヘルプ: フロー要素: レコードを取得(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: フロー要素: 画面(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フローでのレコード検索時のユーザ支援

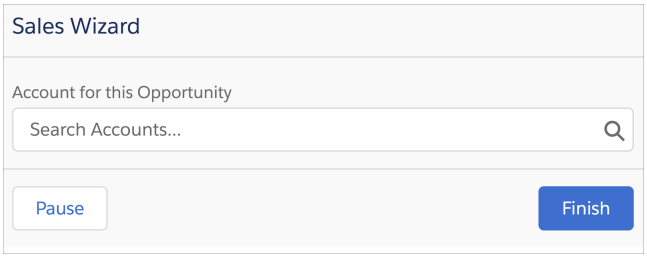
[ルックアップ] 画面コンポーネントを追加したことで、Salesforce の他の場所と同じようにレコードを検索できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。[ルックアップ] 画面コンポーネントは、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

方法: Flow Builder で、[ルックアップ] コンポーネントをフロー画面までドラッグします。オブジェクトと項目の API 名を指定するときに、完全に一致する文字列を入力します。



フローの実行時にルックアップ項目が表示されます。



関連トピック:

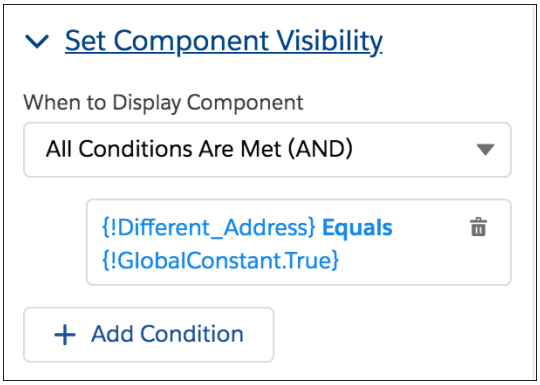
IdeaExchange: Visual Workflow のルックアップ項目

条件付き表示を使用した動的なフロー画面の作成

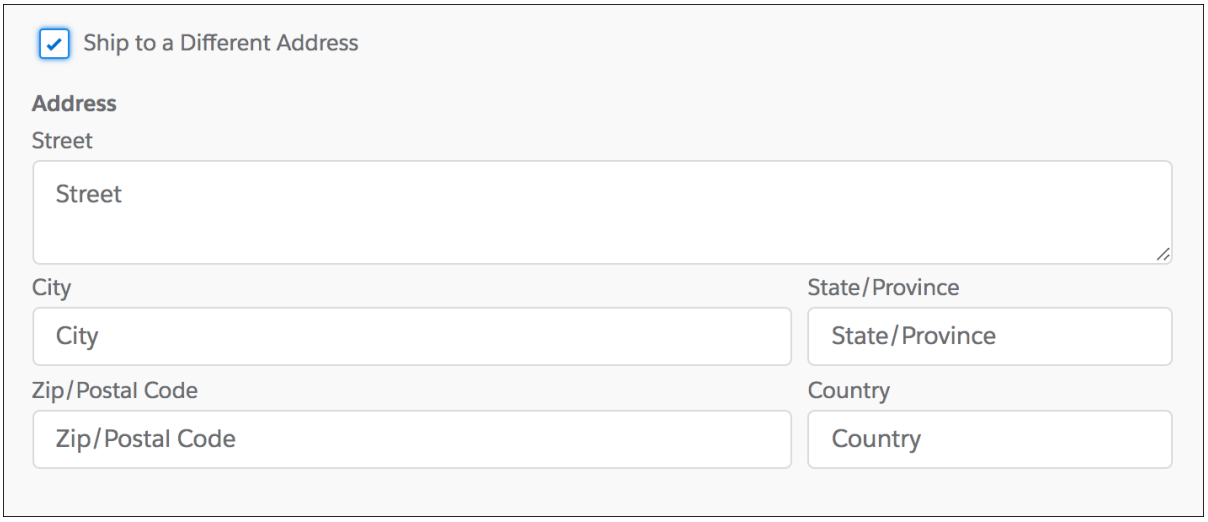
必要な項目のみを必要なときに表示することで、ユーザの時間を節約できます。フローの画面コンポーネントのプロパティに検索条件とロジックを追加することで、選択リストやチェックボックスなどのフローリソースに対するユーザの入力や選択に応じて、そのコンポーネントの表示/非表示を切り替えることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。条件付き表示は、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

方法: 条件付き表示検索条件は、標準画面コンポーネント、カスタム画面コンポーネント、および AppExchange からの画面コンポーネントで使用できます。画面コンポーネントに対して検索条件を定義しないと、通常どおりにフロー画面に表示されます。1 つまたは複数の条件を定義して、画面コンポーネントの検索条件ロジックを設定した場合は、条件とロジックが成立するまでコンポーネントは非表示になります。



たとえば、ユーザが [別の住所に請求] チェックボックス画面コンポーネントを選択した場合にのみ [住所] 画面コンポーネントを表示するように設定できます。



関連トピック:

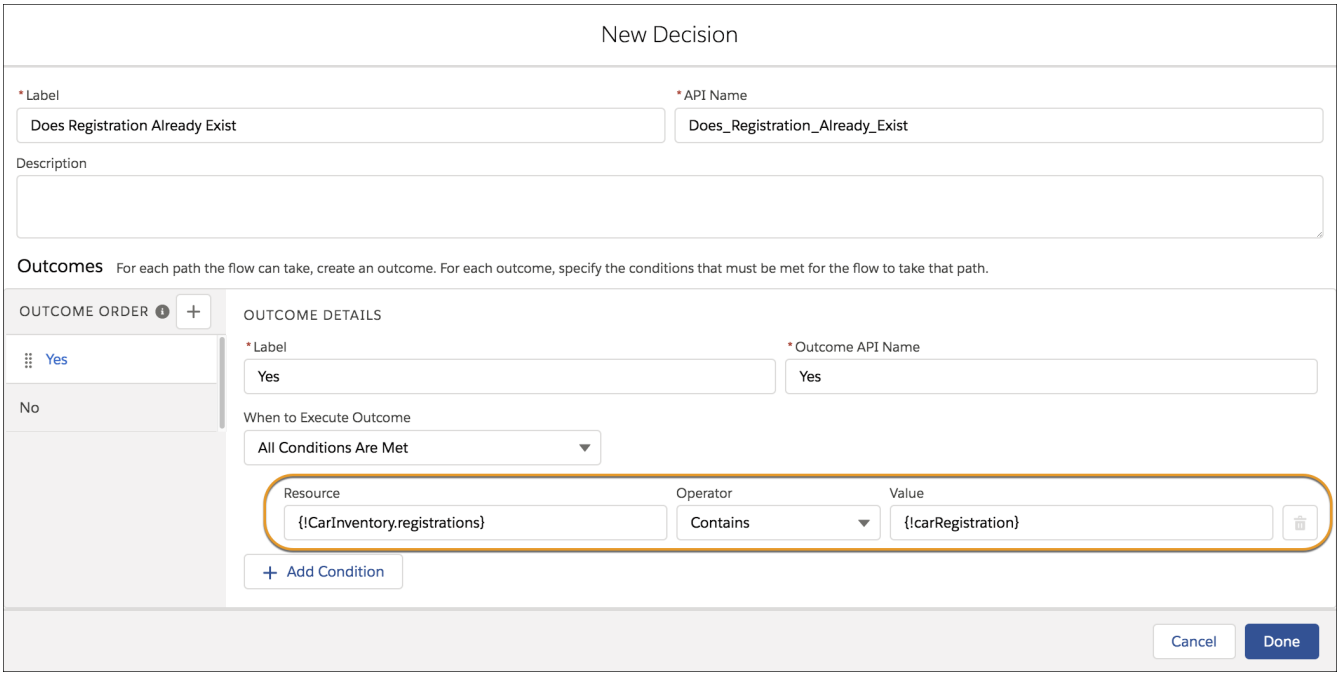
IdeaExchange: 同じフロー画面の動的値/変数/選択肢

割り当て要素と決定要素での演算子による Apex で定義されたデータ型のコレクション変数の使用

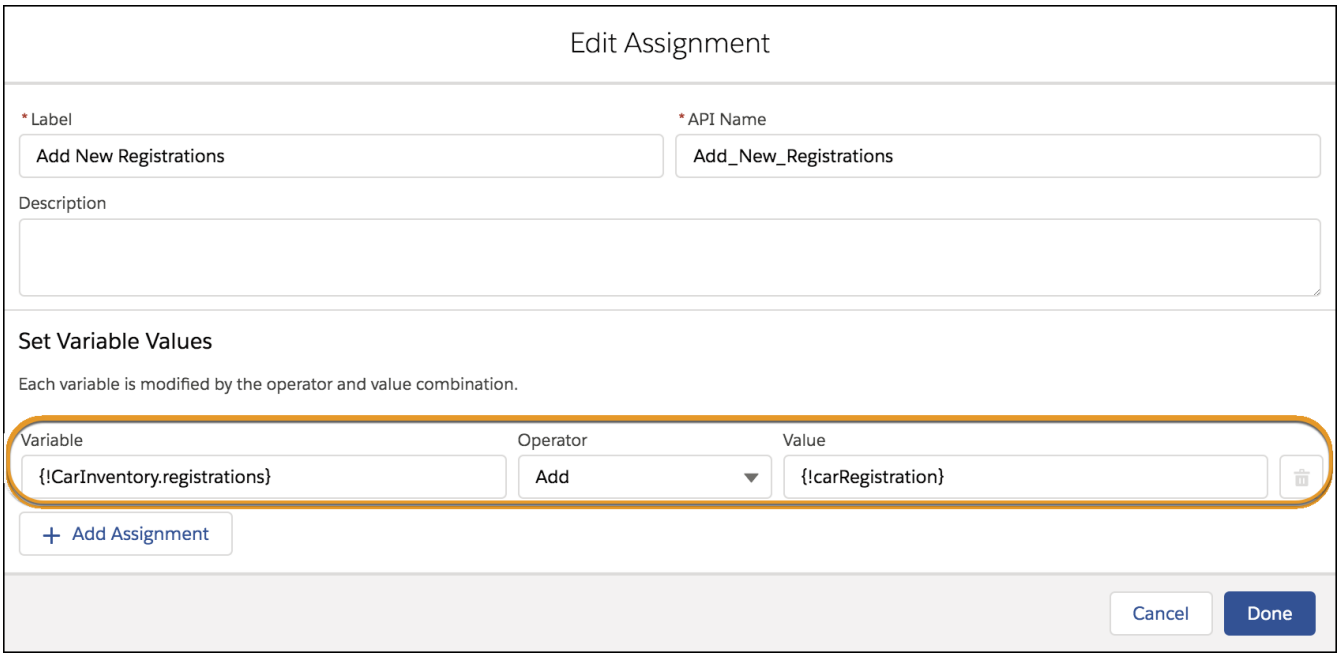
Apex で定義されたデータ型により、フローで複雑なデータオブジェクトを操作できるようになります。これは、一般的に Web サービスで必要になります。割り当て要素と決定要素で、一連の演算子を使用して Apex で定義されたコレクション変数を操作できるようになりました。以前は、Apex で定義された非コレクション変数ではすべての演算子がサポートされていましたが、Apex で定義されたコレクション変数では [次の文字列と一致する] 演算子のみがサポートされていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: たとえば、フローで Apex で定義されたコレクション変数を使用して、Salesforce 外のシステムから車両登録のリストを保存する場合、決定要素を使用して、外部システムから車両登録がすでに登録のリストに存在しているかどうかをチェックできるようになりました。



登録が登録のリストにまだ存在していない場合、割り当て要素を使用してリストに追加できます。



Flow Builder を使用したカスタム通知の送信

重要なイベントが発生したときに、カスタマイズした通知を送信します。以前は、カスタム通知はプロセスビルダーでしか完全にサポートされていませんでした。このリリースでは、通知ビルダーで作成した通知種別IDを直接 Flow Builder UI で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。通知は、すべてのエディションの Lightning Experience と

Salesforce Classic のデスクトップユーザと、Database.com を除くすべてのエディションの現在の Salesforce モバイルアプリケーションおよび Essentials と Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションのモバイルユーザに送信できます。有料オプションで Mobile Publisher アプリケーションのユーザに通知を送信することもできます。

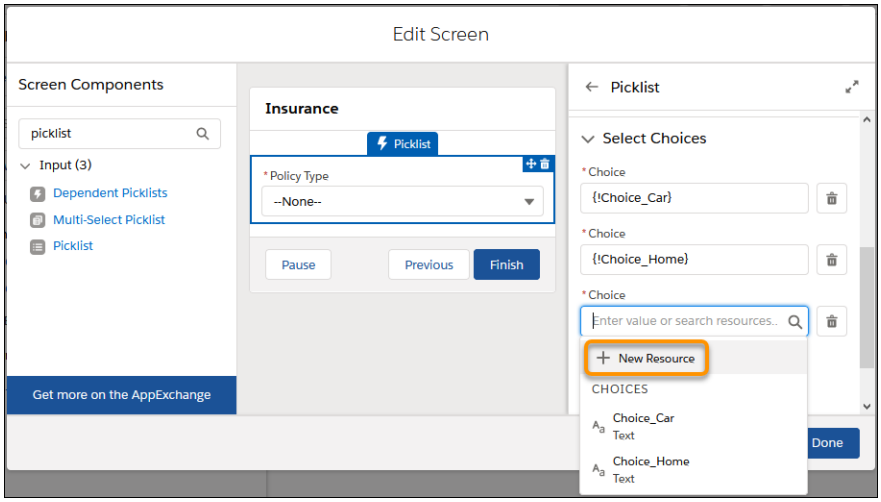
方法: 詳細は、「Flow Builder でのカスタム通知の送信」を参照してください。

Flow Builder でのリソース作成の容易化

[新規リソース] を選択して要素の項目を設定すると、新規リソースを定義するウィンドウが開きます。リソースの作成が終了したら、期待どおりのリソースが要素項目で指定されるようになりました。以前は、要素項目が空白のままになっていたため、新規リソースを手動で入力する必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 簡単なフローでも、要素項目の設定時にリソースをすばやく作成および選択できるため、少ないクリックで済みます。



関連トピック:

IdeaExchange: 新しいクラウドフロー - 変数の関連付け

テキストテンプレートでのリッチテキストの使用

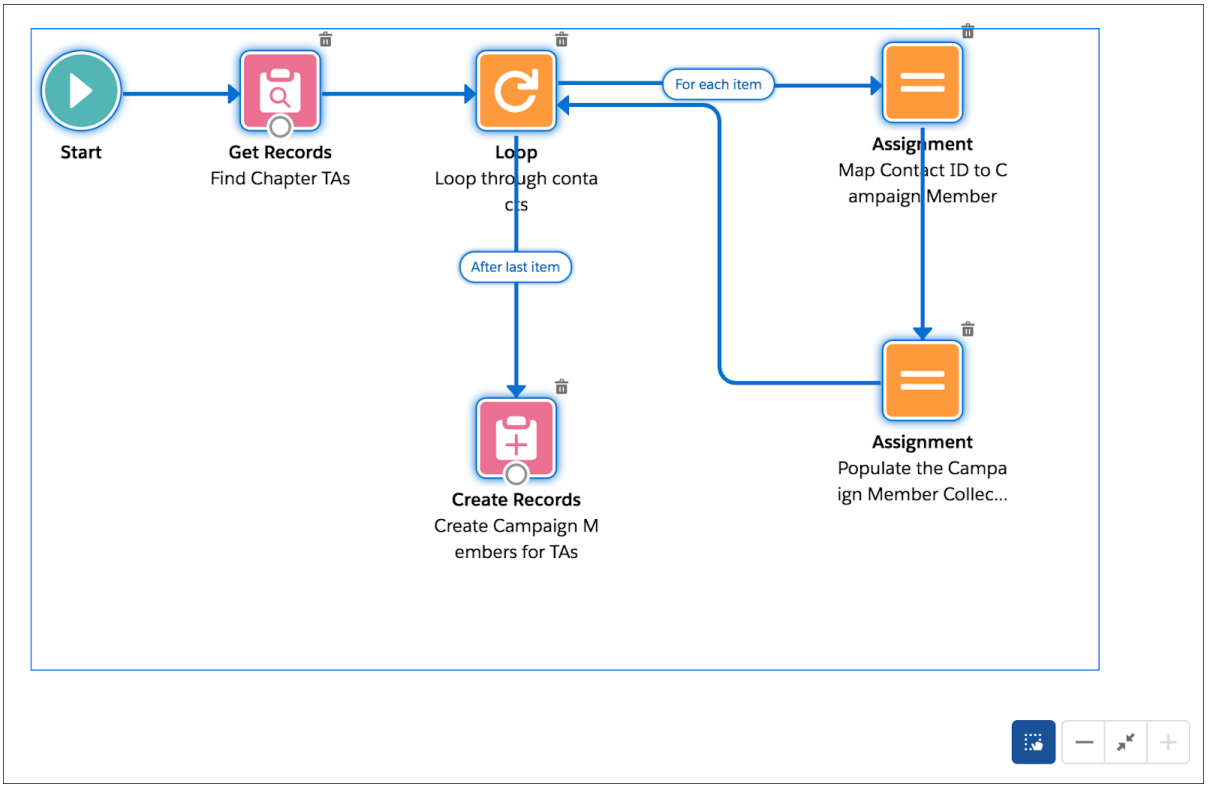
リッチテキストを Flow Builder のテキストテンプレートで使用できるようになりました。[メールを送信] アクションでテキストテンプレートを使用しているときや、プレーンテキストが必要なカスタムアクションを実行するときには、いつでもプレーンテキストに切り替えることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Flow Builder の長くなった要素ラベル、パン機能の改善、ドラッグによる選択

Flow Builder キャンバス上の要素ラベルのスペースを 2 倍に増やしたため、構築している要素をより簡単に識別できるようになりました。パン操作時にボタンをクリックしたりスペースバーを押したままにしたりする必要がなくなります。対象をクリックしてドラッグするだけでキャンバス上をパンできます。[ドラッグ選択] ボタンを使用すると、複数の要素を選択するときの時間を節約できます。一連の要素を囲むボックスをクリックしてドラッグし、一度にすべての要素を移動または削除します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。



関連トピック:

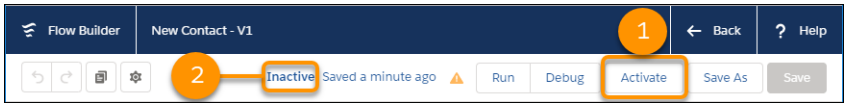
IdeaExchange: Flow Builder での長い要素説明の表示

Flow Builder からのフローの有効化

構築してテストした直後に、Flow Builder で直接フローを有効化できます。これまでどおり、[フローの詳細] ページからもフローのバージョンを有効化および無効化できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ボタンバーの [有効化] ボタン (1) をクリックします。また、開いているフローの有効化状況の場所が新しくなっています (2)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローの有効化または無効化

Salesforce ヘルプ: フローのテスト

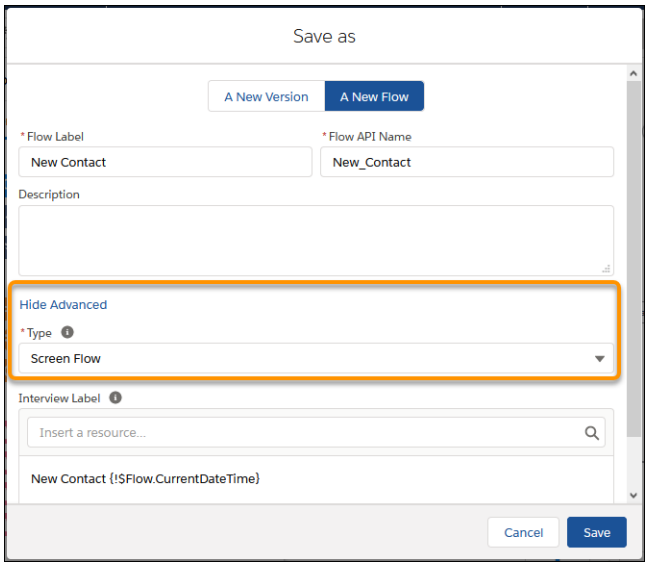
IdeaExchange: Flow Builder からのフローの有効化

[高度な設定] でのフロー種別の検索

各種別のフローは異なるセットのビルディングブロックと機能をサポートするため、フロー種別の変更には注意が必要です。フローを新規フローとして保存する際に種別を間違って変更しないように、[種別] 項目を [高度な設定] に移動しました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローを保存するときやフローバージョンのプロパティを表示するときに、高度な設定の表示と非表示を切り替えることができます。フロー種別を変更する前に、新規フロー種別でサポートされる要素、リソース、機能のみがフローに含まれていることを確認します。新規フローでは、一部(全部ではない)の互換性の問題を修正できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローバージョンプロパティ

デスクトップ Flow Designer の廃止

デスクトップ Flow Designer よるフロー設計が廃止されました。デスクトップ Flow Designer (Swing Flow UI とも呼ばれる) で構築されたフローは実行できなくなり、開こうとするとエラーが返されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Lightning フローの管理: 強化された [フロー] リストビュー、フローエラープラットフォームイベント、およびフローアクセス制御

強化された [フロー] リストビューには、Salesforce が構築する標準フローと、ユーザや他のパートナーが構築するカスタムフローが表示されるようになりました。権限を使用することで、どのユーザがどのフローを実行できるかを制御できます。プロセスやフローでエラーが発生したら、エラーをプラットフォームイベントとしてキャプチャすることで、エラーに対応するように適切なユーザに警告できます。プロセスとフローを有効としてリリースする場合は、最小テストカバー率をデフォルトの 75 % から変更できます。

このセクションの内容:

拡張された [フロー] リストビューでのフローの管理
フローエラーイベント発生時の適切なユーザへの警告
プロファイルと権限セットを使用したユーザの個別フローの実行制御
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新)

拡張された [フロー] リストビューでのフローの管理

Lightning Experience で新たに拡張された [フロー] リストビューでは、同じページに標準フローとカスタムフローの両方が表示されます。標準フローは Salesforce が構築するフローで、カスタムフローはユーザやパートナーが構築するフローです。新しいリストビューでは、メニューオプションも明確化され、フローバージョンが見つけやすくなり、フローの詳細も編集しやすくなっています。新しいメニューオプションでは、フローを実行する権限にすばやくアクセスできます。一時停止中のフローインタビューは、別のページに表示されるようになりました。

フローエラーイベント発生時の適切なユーザへの警告

新しいフロー実行エラーイベント (FlowExecutionErrorEvent) プラットフォームイベントに登録することで、エラーとなったプロセスやフローのトラブルシューティングをスピードアップできます。プロセスビルダーをイベントに登録することで、Chatter への投稿やカスタム通知の送信などのアクションを実行できます。以前は、プロセスやフローでエラーが発生した場合は、フローエラーメールを受信することしかできませんでした。

プロファイルと権限セットを使用したユーザの個別フローの実行制御

以前は、「フローを実行」、「フローの管理」、または「フローユーザ」権限を持つユーザは、すべてのフローを実行できました。このリリースでは、有効にされたプロファイルや権限セットへのアクセスを制限することで、ユーザが実行できるフローを制御できるようになりました。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新)

この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

オートメーションホームでのフローアクティビティグラフへのアクセスの制御 (ベータ)

「設定・定義を参照する」権限を持っているユーザは、オートメーションホームのすべてのグラフをデフォルトで表示できるようになりました。以前は、「すべてのデータの表示」権限と「設定・定義の参照」権限の両方が必要でした。新しいプロセスの自動化設定を使用して、オートメーションホームのすべてのグラフを表示する際に「フローの管理」権限を求めるように設定することができます。この設定が有効化されると、「設定・定義を参照する」権限のみを持っているユーザは、[開始した自動化の総数 (プロセス種別ごと)] グラフしか表示できません。

独自のフローテストカバー率要件の設定

フローのテストカバー率要件は、Apex の 75% のコードカバー率要件から独立しました。新しいプロセスの自動化設定で、独自の最小テストカバー率を設定してください。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新は、Spring '19 でリリースされ、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新は以前は「プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す」と呼ばれていました。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

拡張された [フロー] リストビューでのフローの管理

Lightning Experience で新たに拡張された [フロー] リストビューでは、同じページに標準フローとカスタムフローの両方が表示されます。標準フローは Salesforce が構築するフローで、カスタムフローはユーザやパートナーが構築するフローです。新しいリストビューでは、メニューオプションも明確化され、フローバージョンが見つけやすくなり、フローの詳細も編集しやすくなっています。新しいメニューオプションでは、フローを実行する権限にすばやくアクセスできます。一時停止中のフローインタビューは、別のページに表示されるようになりました。

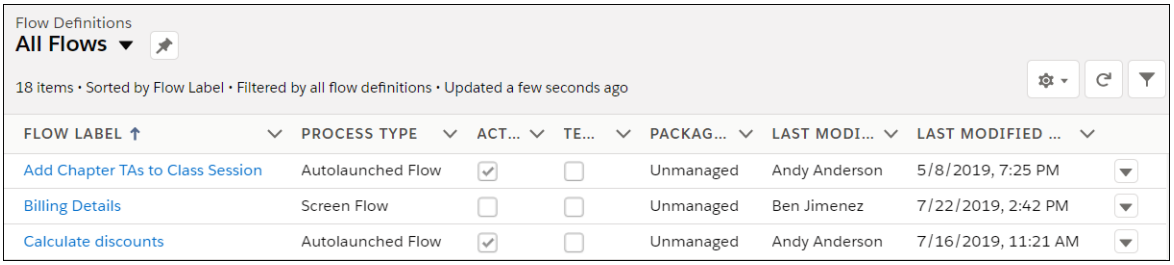
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、Salesforce Classic の [フロー] リストビューには、一時停止中のフローインタビューが同じページに表示されていました。また、標準フローは表示されていませんでした。

方法: Salesforce Classic の [フロー] リストビューに切り替えるには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*プロセスの自動化*」と入力し、[プロセスの自動化設定] を選択します。**[Lightning Experience で、拡張フローページと個別の一時停止中およびスケジュールされたオートメーションページを使用する]** を選択解除します。

重要: フローのカスタムリストビューがある場合は、拡張リストビューで作成し直すか、または Salesforce Classic のリストビューに切り替えて使用してください。Salesforce Classic リストビューで、[開く] をクリックすると、フローが Flow Builder で開きます。

フローを拡張リストビューから開くには、フローの表示ラベルをクリックします。



関連トピック:

メタデータ API で公開される設定

フローエラーイベント発生時の適切なユーザへの警告

新しいフロー実行エラーイベント (FlowExecutionErrorEvent) プラットフォームイベントに登録することで、エラーとなったプロセスやフローのトラブルシューティングをスピードアップできます。プロセスビルダーをイベントに登録することで、Chatterへの投稿やカスタム通知の送信などのアクションを実行できます。以前は、プロセスやフローでエラーが発生した場合は、フローエラーメールを受信することしかできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: プロセスビルダーで、特定のプラットフォームイベントメッセージを受信したときに開始されるプロセスを作成します。フロー実行エラーイベントプラットフォームイベントに登録します。

関連トピック:

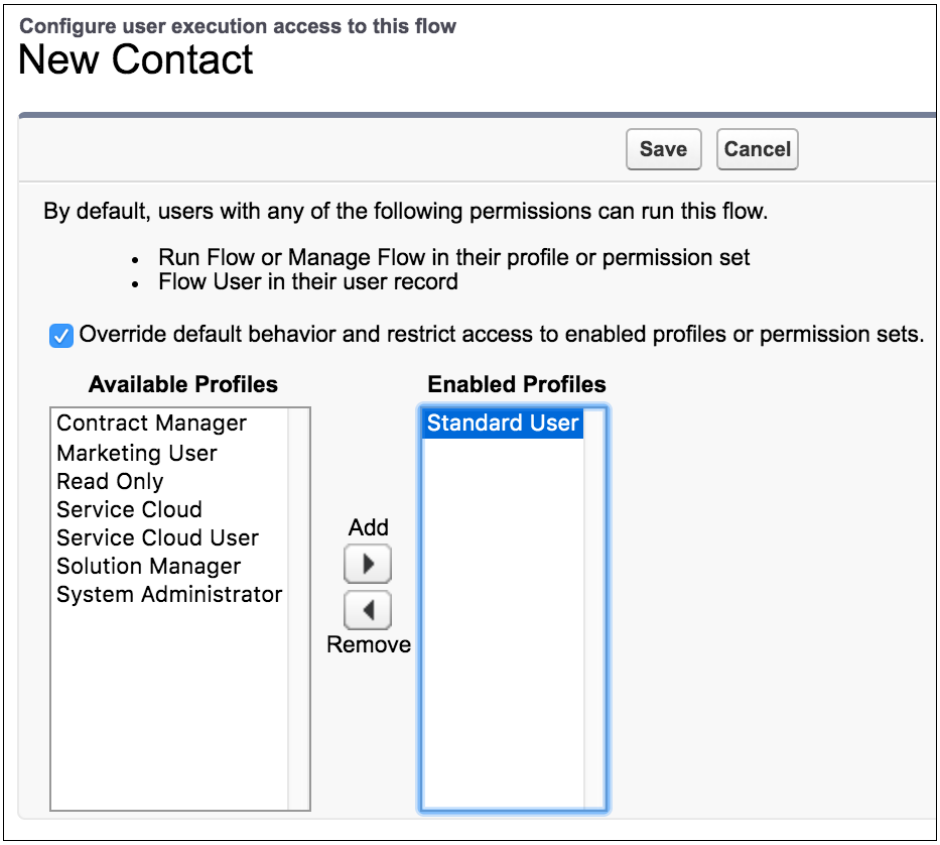
新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

プロファイルと権限セットを使用したユーザの個別フローの実行制御

以前は、「フローを実行」、「フローの管理」、または「フローユーザ」権限を持つユーザは、すべてのフローを実行できました。このリリースでは、有効にされたプロファイルや権限セットへのアクセスを制限することで、ユーザが実行できるフローを制御できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: この機能を有効にしない限り、何も変わりませんので安心してください。[設定] の [フロー] ノードで、フローの横にある をクリックし、新しい [編集アクセス権] リンクをクリックして、各フローのプロファイルを選択します。



単一のプロファイルで複数のフローへのアクセスを有効化したり、権限セットを作成して割り当てたりすることもできます。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新)

この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この重要な更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能なアクションがエラーになると、同じトランザクションの他の呼び出し可能なアクションがロールバックされます。この重要な更新を適用すると、Salesforce は正常に実行された呼び出し可能なアクションの実行を3回試行し、実行に失敗した呼び出し可能なアクションのみをロールバックします。この機能は「部分的保存」と呼ばれます。

REST API で呼び出されるほとんどの呼び出し可能なアクション種別は、この部分的保存機能に対応しています。ただし、この重要な更新を適用しても、以下のアクション種別は部分的保存機能をサポートしません。

- 履行注文をキャンセル
- 解約注文

- 資金をキャプチャ
- コンテンツワークスペース
- 履行注文を作成
- 履行注文から請求書を作成
- サービスレポートを作成
- 外部サービス
- 作業指示を生成
- 呼び出し可能な Apex
- スキルベースのルーティング
- デジタルフォームの回答を登録

部分的保存により、外部コールアウトが複数回発生して、それらの外部コールアウトがロールバックできなくなる場合があります。外部コールアウトが繰り返されるのは、フローがプロセスから開始されるか、または REST API から呼び出され、そのフローが外部コールアウトを伴うアクションを複数回実行しようとしている場合のみです。

部分的保存により、アクションの実行が複数回試行されるため、トランザクションに予想より時間がかかることがあります。これにより、組織が予想より早く制限に達してしまう場合があります。

時期: この重要な更新は、2020 年 4 月 9 日に自動的に有効になります。その日の前、または本番組織でこの重要な更新を有効化する前に、Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストを実行し、お使いの呼び出し可能なアクションが正しく機能することを確認しておくことをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[呼び出し可能なアクションの部分的な保存の有効化] で [有効化] をクリックします。

呼び出し可能なアクションを使用する API インテグレーションが部分的な保存の動作に適切に対応していることを確認します。

オートメーションホームでのフローアクティビティグラフへのアクセスの制御 (ベータ)

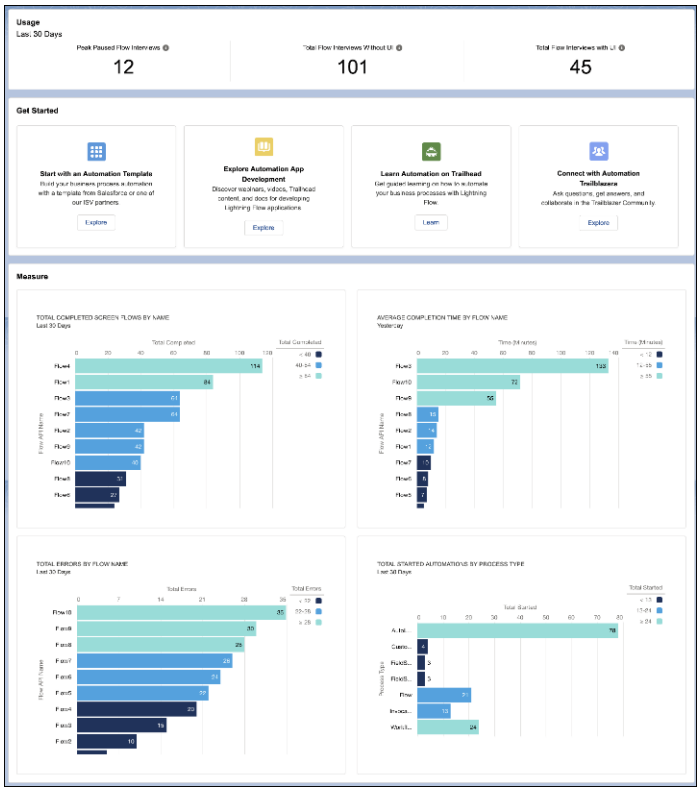
「設定・定義を参照する」権限を持っているユーザは、オートメーションホームのすべてのグラフをデフォルトで表示できるようになりました。以前は、「すべてのデータの表示」権限と「設定・定義の参照」権限の両方が必要でした。新しいプロセスの自動化設定を使用して、オートメーションホームのすべてのグラフを表示する際に「フローの管理」権限を求めるように設定することができます。この設定が有効化されると、「設定・定義を参照する」権限のみを持っているユーザは、[開始した自動化の総数 (プロセス種別ごと)] グラフしか表示できません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

メモ: オートメーションホームはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce は

この機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。オートメーションホームに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

方法: フローアクティビティグラフへのアクセスを制御するには、[設定] の [プロセスの自動化設定] ページで [オートメーションホームのすべてのグラフを表示するにはユーザに「フローの管理」権限が必要] 設定を使用します。



独自のフローテストカバー率要件の設定

フローのテストカバー率要件は、Apex の 75% のコードカバー率要件から独立しました。新しいプロセスの自動化設定で、独自の最小テストカバー率を設定してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。スクラッチ組織、Sandbox 組織、開発者組織などの非本番組織では、新しい有効なバージョンを常にデプロイできるため、この設定は表示されません。

メモ: フローのテスト要件は、プロセスとフローを有効としてリリースする場合にのみ適用されます。

方法: [設定] で [プロセスの自動化設定] ノードに移動します。[プロセスとフローを有効としてリリース] を選択します。これでフローのテストカバー率を設定できます。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新は、Spring '19 でリリースされ、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新は以前は「プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す」と呼ばれていました。

関連トピック:

Spring '19 リリースノート: プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新)
重要な更新とセキュリティの更新

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

関連トピック:

Summer'19 リリースノート: フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化 (重要な更新)
重要な更新とセキュリティの更新

プロセスビルダー: 取引先チームメンバー、アンケートアクション、プラットフォームイベントからの差し込み項目

取引先チームの作成とアンケートへの招待を自動化できます。プラットフォームイベントから差し込み項目を追加できます。

このセクションの内容:

プロセスビルダーによる取引先チームの自動作成
チームメンバーを取引先に追加するためのプロセスアクションを設定します。また、取引先チームメンバーレコードの作成時または編集時に実行するようにプロセスを設定することもできます。

アンケートへの招待メール送信の自動化
[アンケートへの招待をメールで送信] アクションを使用すると、リード、取引先責任者、およびユーザにアンケートへの招待を簡単にメールで送信できます。

プロセスビルダーでのプラットフォームイベントからの差し込み項目の追加
プロセスビルダーアクションで、プラットフォームイベントメッセージからのデータを使用できるようになりました。プロセスをトリガしたプラットフォームイベントメッセージから、差し込み項目を追加できます。以前は、プロセスからアクセスできるオブジェクトから項目を追加していました。

トランザクションが失敗したときでもプロセスがイベントメッセージを公開するかどうかの表示

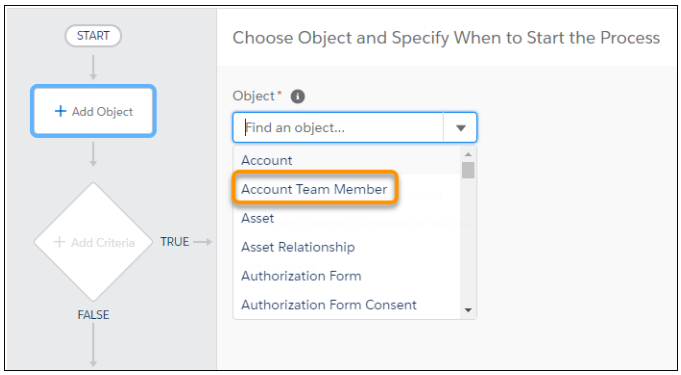
プロセスビルダーで、トランザクションが成功したかどうかには関係なく、直ちにメッセージを公開するように設定されているプラットフォームイベントを選択すると、そのことを示す情報メッセージが表示されるようになりました。これにより、トランザクションが失敗したときにイベントメッセージを公開するようにプロセスが設定されてしまうことを (そのような処理を望む場合を除いて) 回避できます。

プロセスビルダーによる取引先チームの自動作成

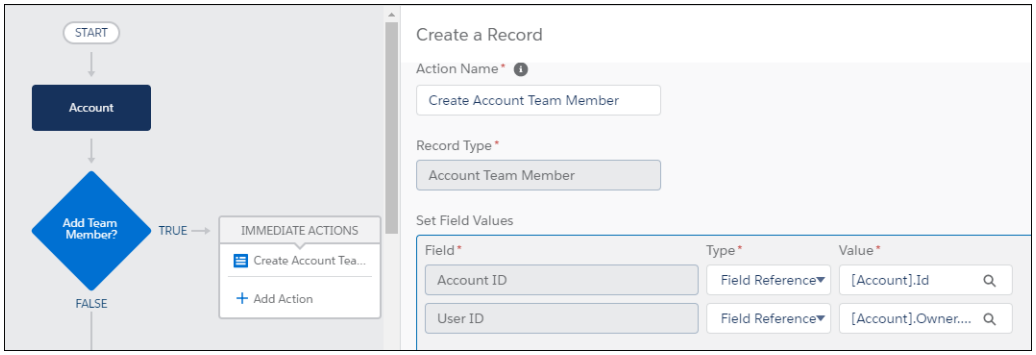
チームメンバーを取引先に追加するためのプロセスアクションを設定します。また、取引先チームメンバーレコードの作成時または編集時に実行するようにプロセスを設定することもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 組織で取引先チームが有効化されている場合、プロセストリガを設定する際に取引先チームメンバーオブジェクトを使用できます。



取引先チームメンバーオブジェクトは、[レコードを作成] アクションと [レコードを更新] アクションでも使用できます。



関連トピック:

取引先: 取引先チームのカスタマイズによるチームセリングのサポート向上

Salesforce ヘルプ: 取引先チームの有効化

アンケートへの招待メール送信の自動化

[アンケートへの招待をメールで送信]アクションを使用すると、リード、取引先責任者、およびユーザにアンケートへの招待を簡単にメールで送信できます。

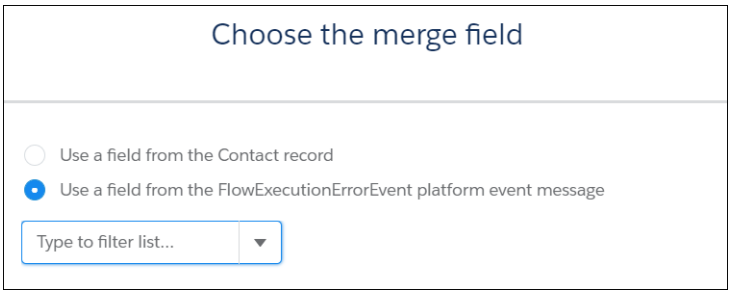
対象: この変更は、Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

プロセスビルダーでのプラットフォームイベントからの差し込み項目の追加

プロセスビルダーアクションで、プラットフォームイベントメッセージからのデータを使用できるようになりました。プロセスをトリガしたプラットフォームイベントメッセージから、差し込み項目を追加できます。以前は、プロセスからアクセスできるオブジェクトから項目を追加していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: たとえば、プラットフォームイベントメッセージから、または [Chatter に投稿] アクションや [カスタム通知を送信] アクションのオブジェクトレコードから差し込み項目を選択します。



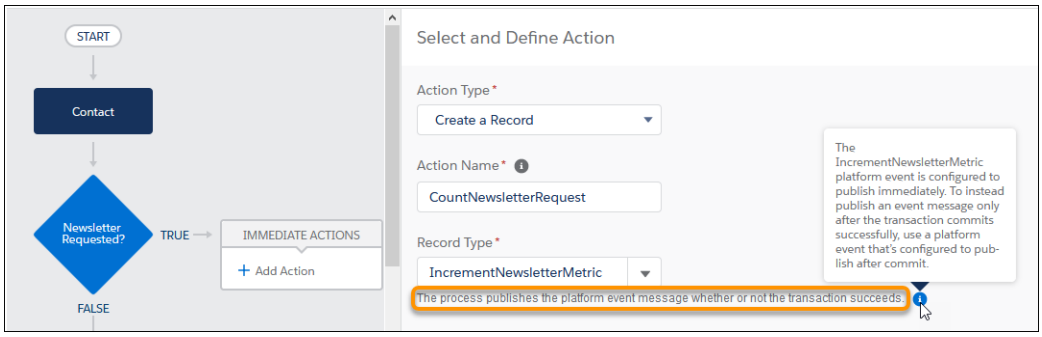
トランザクションが失敗したときでもプロセスがイベントメッセージを公開するかどうかの表示

プロセスビルダーで、トランザクションが成功したかどうかには関係なく、直ちにメッセージを公開するように設定されているプラットフォームイベントを選択すると、そのことを示す情報メッセージが表示されるようになりました。これにより、トランザクションが失敗したときにイベントメッセージを公開するようにプロセスが設定されてしまうことを (そのような処理を望む場合を除いて) 回避できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: メッセージを直ちに公開するように設定されているプラットフォームイベントを選択すると、プロセスは、各イベントメッセージをデータベーストランザクションの外部で公開します。トランザクションが失敗してロールバックしても、イベントメッセージは公開されていまい、ロールバックすることができません。そのため、選択したプラットフォームイベントの下に情報メッセージが表示されたら、トランザクションが正常にコミットされた後にのみイベントメッセージを公開するようにプロセスを設定するかどうかを検討します。

たとえば、プロセスが正常に完了した場合にのみイベントメッセージを公開するとします。メッセージが直ちに公開されるプラットフォームイベントでは、プロセスが失敗してもイベントメッセージが公開されてしまうため、このようなプラットフォームイベントを選択することは避ける必要があります。プラットフォームイベントの下に情報メッセージが表示されたら、そのプラットフォームイベントの公開動作を変更するか、またはコミット後に公開されるよう設定された別のプラットフォームイベントを選択することができます。



関連トピック:

Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド): 分離された公開と登録

Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド): プラットフォームイベント項目

データ保護とプライバシー: Consent オブジェクトのデータ分類の改善と変更イベントのサポート

項目のデータに関連するコンプライアンス法、定義、または規制を記録できます。関連付けられているデータ分類メタデータが格納された項目を表示するレポートを作成できます。また、AuthorizationFormConsent オブジェクト、ContentPointTypeConsent オブジェクト、および個人オブジェクトの変更イベント通知を受け取ることができます。

このセクションの内容:

項目のデータに関連するコンプライアンス分類の記録

コンプライアンス分類メタデータ項目を使用して、項目のデータがコンプライアンス法、定義、または規制に関連しているかどうかを記録できます。項目を確認してコンプライアンス分類値を適用することで、データプライバシー要件の維持に役立ちます。たとえば、一般データ保護規則の対象となるデータや個人識別情報に分類されるデータが格納された項目を監視することで、コンプライアンスを保証できます。組織のニーズに合わせてこれらの値をカスタマイズすることもできます。

データ分類メタデータのレポート作成

カスタムレポートを作成することで、組織が使用しているデータ分類メタデータのスナップショットを入手できます。データ所有者、データ機密度、またはコンプライアンス分類が関連付けられている項目を確認して、この情報をデータ管理ポリシーの適用に役立てることができます。

同意レコードの変更通知の受信

同意に関連したレコードが作成、更新、削除、または復元されたときに通知を受け取ることができます。変更データキャプチャにより、AuthorizationFormConsent オブジェクト、ContactPointTypeConsent オブジェクト、および個人オブジェクトの変更をほぼリアルタイムで受信できます。これにより、顧客との連絡方法や顧客データの処理方法が、現在の顧客の設定と一致していることを確認できます。

項目のデータに関連するコンプライアンス分類の記録

コンプライアンス分類メタデータ項目を使用して、項目のデータがコンプライアンス法、定義、または規制に関連しているかどうかを記録できます。項目を確認してコンプライアンス分類値を適用することで、データプライバシー要件の維持に役立ちます。たとえば、一般データ保護規則の対象となるデータや個人識別情報に分類されるデータが格納された項目を監視することで、コンプライアンスを保証できます。組織のニーズに合わせてこれらの値をカスタマイズすることもできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: データ分類項目の編集や表示を行うには、「アプリケーションのカスタマイズ」または「データ分類の変更」権限が必要です。

方法: オブジェクトマネージャで、編集するオブジェクトを探して、サイドバーの [項目とリレーション] をクリックします。コンプライアンス分類値を適用する項目を選択して [編集] をクリックします。[コンプライアンス分類] で使用可能な値を追加または削除してから [保存] をクリックします。

コンプライアンス分類値を編集するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ分類設定*」と入力し、[データ分類設定] を選択します。[コンプライアンス分類選択リスト値の編集] を選択して、選択リスト値の追加、削除、名前の変更、並び替えを行います。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: データ分類メタデータの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: データ分類メタデータ項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

データ分類メタデータのレポート作成

カスタムレポートを作成することで、組織が使用しているデータ分類メタデータのスナップショットを入手できます。データ所有者、データ機密度、またはコンプライアンス分類が関連付けられている項目を確認して、この情報をデータ管理ポリシーの適用に役立てることができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: データ分類項目の編集や表示を行うには、「アプリケーションのカスタマイズ」または「データ分類の変更」権限が必要です。

方法: エンティティ定義を主オブジェクトとしたカスタムレポートタイプを作成します。[項目定義] を子オブジェクトとして選択します。レポートでは、データ所有者、データ機密度、コンプライアンス分類、および項目の利用状況のメタデータ項目を使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: データ分類メタデータからのレポート作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: カスタムレポートタイプの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

同意レコードの変更通知の受信

同意に関連したレコードが作成、更新、削除、または復元されたときに通知を受け取ることができます。変更データキャプチャにより、AuthorizationFormConsent オブジェクト、ContactPointTypeConsent オブジェクト、および個人オブジェクトの変更をほぼリアルタイムで受信できます。これにより、顧客との連絡方法や顧客データの処理方法が、現在の顧客の設定と一致していることを確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「変更データキャプチャ」と入力し、[変更データキャプチャ] を選択します。[使用可能なエンティティ] で、通知を受け取るオブジェクトを選択してから [保存] をクリックします。

関連トピック:

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャ開発者ガイド: Select Objects for Change Notifications (変更通知のオブジェクトの選択) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

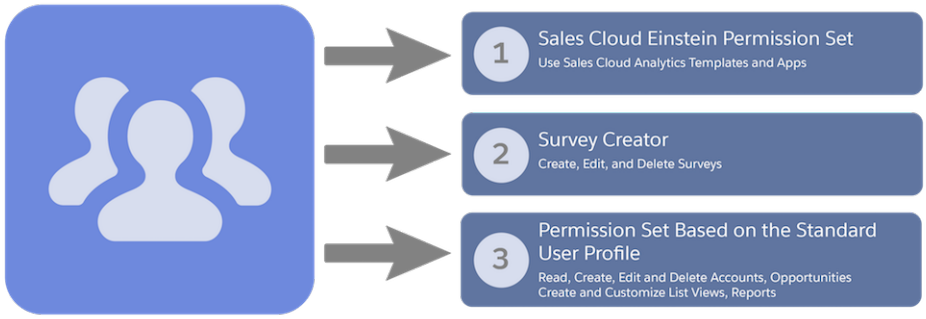
権限セットグループ: ユーザロールに基づく権限セットのグループ化による割り当ての簡略化 (ベータ)

ユーザに複数の権限セットを割り当てるのではなく、単一の権限セットグループを割り当てることができます。権限セットグループは、選択された権限セットを組み合わせることで、ユーザのロールに必要なすべての権限を提供します。ミュート権限セット機能によってグループから個別の権限を削除することで、権限がユーザロールを超えてしまわないように保証できます。権限セットグループは、Salesforce Spring '19 リリースでパイロット機能として登場しました。今回のベータリリースには、権限セットグループを作成して管理するための新しいユーザインターフェースが含まれています。

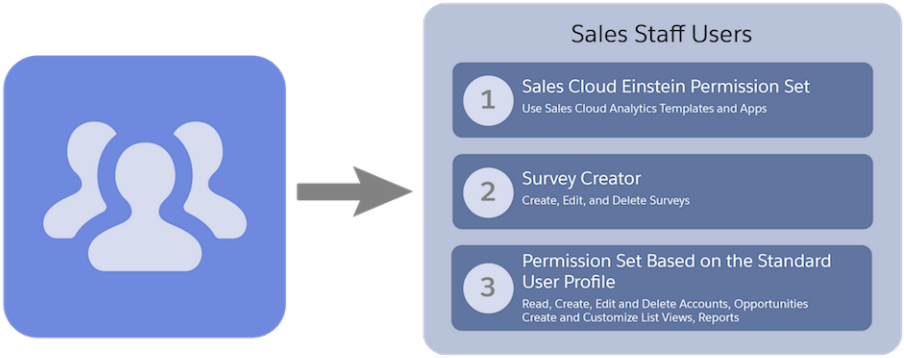
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: 権限セットグループはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

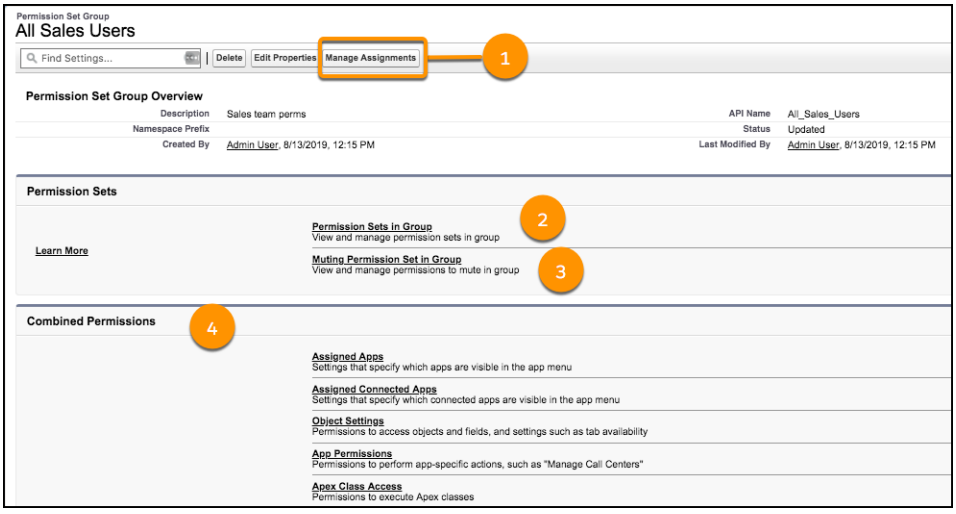
理由: 営業部門の従業員が Sales Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションで作業しているとします。これらの従業員は、アンケートの作成、編集、削除や取引先の参照、作成、編集、削除も行います。必要な権限が含まれる 3 つの権限セット (Sales Cloud Einstein、アンケート作成者、標準ユーザプロファイルに基づく権限セット) があります。これらのユーザに各権限セットを個別に割り当てます。



ただし、権限セットグループを使用すれば、権限セットを組み合わせて、そのグループを営業担当者に割り当てることができます。新しい「Sales Staff Users (営業スタッフユーザ)」権限セットグループには、含めるすべての権限セットの権限がまとめて追加されています。



方法: [設定] から [権限セットグループ] を選択することで、権限セットグループを表示したり、新しいグループを作成したりできます。



権限セットグループの詳細ページで、権限セットグループをユーザに割り当てます (1)。権限セットグループに含める権限セットを選択し (2)、ミュートする権限を選択します (3)。グループで組み合わされた権限を表示します (4)。

オブジェクトおよび項目: インストール済みオブジェクトの増加、および項目の参照

インストールできるカスタムオブジェクトの制限を増加し、レポートや Apex クラスなど、組織内のどこで項目が使用されるかを表示できるようにしました。

このセクションの内容:

- 組織にインストールできるカスタムオブジェクトの増加
  このリリースでも、組織のカスタムオブジェクトの合計ハードリミットを (前リリースの 2,500 個から) 3,000 個に引き上げました。これにより、パッケージからより多くのカスタムオブジェクトをインストールできます。
- 項目の参照の確認とそれを使用したレポートの検索 (正式リリース)
  ボタンをクリックするだけで、数式、レイアウト、Apex クラスの参照などのカスタム項目への参照を編集前に表示できます。カスタム項目の詳細ページで、[使用場所] をクリックして、項目が使用されている場所と項目への変更が表示される場所を表示します。この情報を使用して、数式や他のコンテキストで、項目を使用する他のユーザに変更を知らせます。このリリースでは、レポートのサポートが追加されました。

関連トピック:

- システムの概要でのカスタムオブジェクトの設定カウントの監視

組織にインストールできるカスタムオブジェクトの増加

このリリースでも、組織のカスタムオブジェクトの合計ハードリミットを (前リリースの 2,500 個から) 3,000 個に引き上げました。これにより、パッケージからより多くのカスタムオブジェクトをインストールできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 理由が必要でしょうか? オブジェクトが増えればできることも増えます。各 Salesforce エディションには、組織で作成できるカスタムオブジェクトの数に制限があります。エディションの制限を超えると、AppExchange に公開して投稿したアプリケーションなど、管理パッケージからインストールできるカスタムオブジェクトの数はハードリミットによって管理されます。新しい合計 3,000 個の制限には、組織で作成およびインストールされたカスタムオブジェクトの最大数が含まれます。たとえば、Unlimited Edition では、組織で最大 2,000 個のカスタムオブジェクトを作成できます。この制限を超えても、最大 1,000 個のカスタムオブジェクトを管理パッケージからインストールできます。組織のオブジェクト数が 3,000 個の合計制限に近づいて来たら、不要になったカスタムオブジェクトを物理的に削除または消去することをお勧めします。

関連トピック:

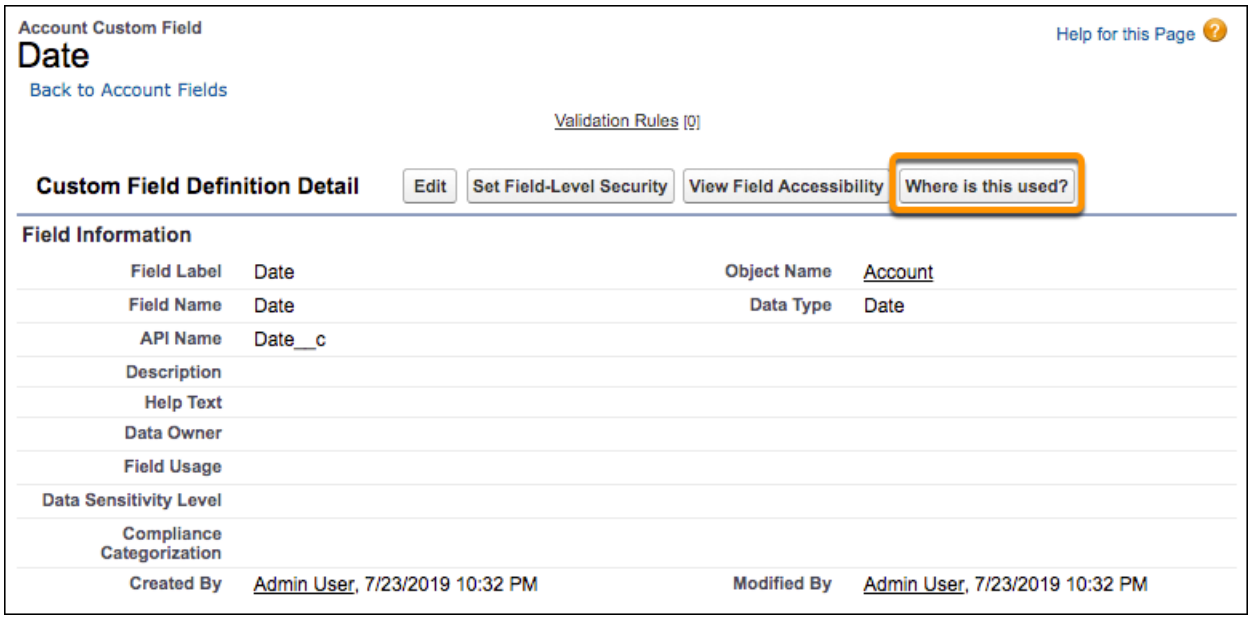
- システムの概要でのカスタムオブジェクトの設定カウントの監視

項目の参照の確認とそれを使用したレポートの検索 (正式リリース)

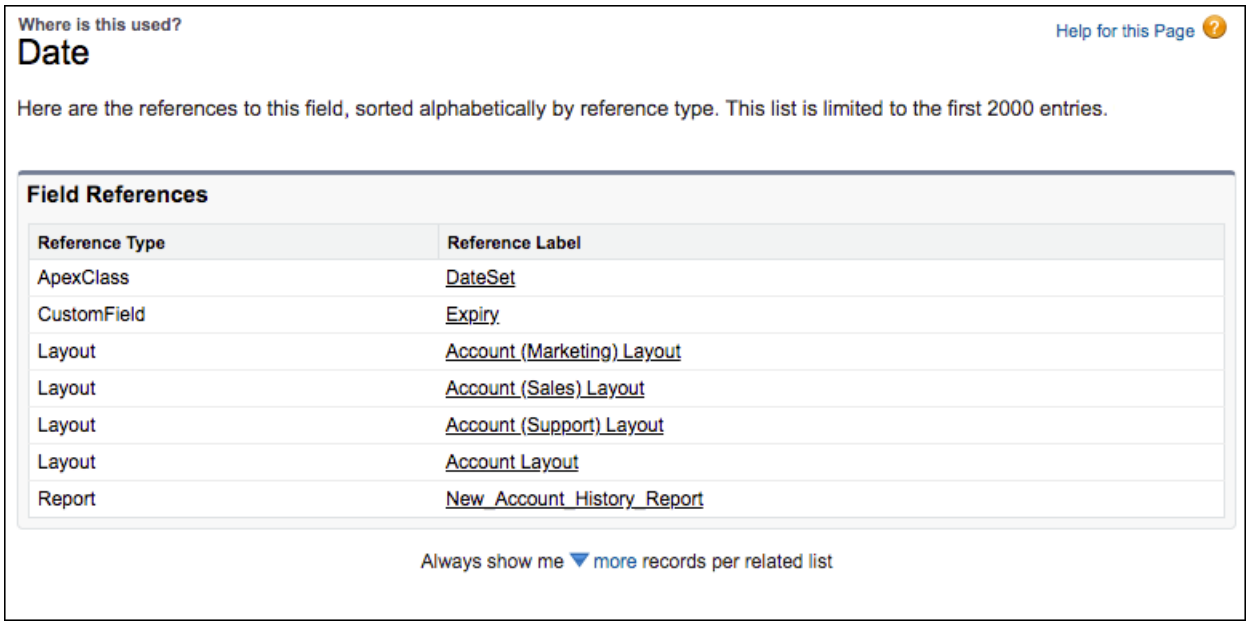
ボタンをクリックするだけで、数式、レイアウト、Apex クラスの参照などのカスタム項目への参照を編集前に表示できます。カスタム項目の詳細ページで、[使用場所]をクリックして、項目が使用されている場所と項目への変更が表示される場所を表示します。この情報を使用して、数式や他のコンテキストで、項目を使用する他のユーザに変更を知らせます。このリリースでは、レポートのサポートが追加されました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「設定の参照」権限を持つシステム管理者がカスタム項目の使用場所を確認できます。



[使用場所]をクリックすると、項目参照の詳細が表示されます。


Where is this used?

Date

Help for this Page

Here are the references to this field, sorted alphabetically by reference type. This list is limited to the first 2000 entries.

Field References

Reference Type	Reference Label
ApexClass	DateSet
CustomField	Expiry
Layout	Account (Marketing) Layout
Layout	Account (Sales) Layout
Layout	Account (Support) Layout
Layout	Account Layout
Report	New_Account_History_Report

Always show me more records per related list

このリストには次の参照が含まれます。

- 入力規則
- レイアウト
- 数式項目
- Visualforce ページ
- Apex クラス
- Apex トリガ
- メールテンプレート (Salesforce Classic、テキストベース)
- 項目セット
- フロー (クエリ)
- Lightning コンポーネントのマークアップ (属性)
- プロセスビルダー (条件)
- URL ボタン (数式)
- Lightning ページ (単一関連リスト)
- ルックアップ検索条件 (ルックアップと主従関係)
- レポート (列)

  メモ: レポートがリストに表示されるようにするには、項目がレポートの列として使用されている必要があります。レポートの検索条件、グルーピング、またはカスタム集計項目への参照は表示されません。

参照表示ラベルをクリックすると、レイアウト、数式、その他の参照の設定が表示されます。参照表示ラベルは、参照の既知の設定ページがある場合にのみ詳細情報にリンクされます。たとえば、レポート名はレポート設定にリンクされます。ただし、フロー内で作成された条件数式はフロー設定にリンクされません。

登録者組織では、管理パッケージ内の参照は結果のリストには含まれません。たとえば、数式で参照されている数値項目があるとします。その項目をパッケージに追加して登録者組織にパッケージをインストールした場合、登録者組織の項目参照の詳細ページには、この数値項目が数式項目で参照されていることが示されません。

ただし、登録者組織に管理パッケージをインストールした後に作成した新しい参照は表示されます。たとえば、管理パッケージをインストールした後にその数値項目を登録者組織の別の数式に追加した場合、その新しい参照が表示されます。

共有: ゲストユーザアクセスの変更および外部組織の共有設定でサポートされるオブジェクトの増加

コミュニティのセキュリティを強化するために、組織のデータに対するゲストユーザのデフォルトのアクセス権を制限する新しい設定が追加されました。より多くの標準オブジェクトで、外部組織の共有設定を指定することもできます。

このセクションの内容:

ゲストユーザの共有設定の保護
[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にする場合、すべてのオブジェクトでゲストユーザの組織の共有設定を [非公開] に設定します。この設定では、ゲストユーザとレコードを共有する手段を制限し、ゲストユーザ用の新しい共有ルールを作成することもできます。

より多くの標準オブジェクトでの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)
より多くの標準オブジェクトに外部アクセスレベルを設定できるようになりました。内部ユーザのデフォルトアクセスレベルを変更することなく、外部ユーザのアクセスをより厳しくすることができます。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、組織のライセンスや他の設定によって異なります。

エンタープライズテリトリー管理に移行する場合の共有レコードの保持
エンタープライズテリトリー管理に移行する場合、元のテリトリー共有レコードを保持できます。そのため、営業チームは作業を継続できます。移行が完了したら、SharingSettings メタデータ API 種別を使用してこれらのレコードを削除します。

ゲストユーザの共有設定の保護

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定を有効にする場合、すべてのオブジェクトでゲストユーザの組織の共有設定を[非公開]に設定します。この設定では、ゲストユーザとレコードを共有する手段を制限し、ゲストユーザ用の新しい共有ルールを作成することもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

関連トピック:

ゲストユーザ: アクセス制限、ゲストユーザの非公開の組織のデフォルト、新しい共有ルール

より多くの標準オブジェクトでの外部アクセスレベルの設定によるデータの保護 (正式リリース)

より多くの標準オブジェクトに外部アクセスレベルを設定できるようになりました。内部ユーザのデフォルトアクセスレベルを変更することなく、外部ユーザのアクセスをより厳しくすることができます。外部組織のデフォルトとして使用できるオブジェクトは、組織のライセンスや他の設定によって異なります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 外部組織のデフォルトを設定するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] で、デフォルトの外部アクセス権を編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部組織の共有設定の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンタープライズテリトリー管理に移行する場合の共有レコードの保持

エンタープライズテリトリー管理に移行する場合、元のテリトリー共有レコードを保持できます。そのため、営業チームは作業を継続できます。移行が完了したら、SharingSettings メタデータ API 種別を使用してこれらのレコードを削除します。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

エンタープライズテリトリー管理への円滑な移行作業

グローバリゼーション: 新しいロケール形式と長い翻訳

重要な更新で、改善された国際的な日時の新しい形式を有効化してください。レポートとダッシュボードで右から左に読み取ったり、トランスレーションワークベンチで各コンポーネントに長い翻訳を書き込んだりできます。

このセクションの内容:

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。

各コンポーネントへの長い翻訳の更新

トランスレーションワークベンチでは、各コンポーネントの翻訳を編集して、40 文字を超える翻訳を使用できるようになりました。[翻訳] ページの項目の長さ制限を緩和して、項目のマスタコンポーネント長と一致させました。従来通り、[インポート] 機能で翻訳を更新することもできます。

レポートとダッシュボードでの右から左への読み取り (ベータ)
ヘブライ語やアラビア語などの右から左へ記述される言語に対応するためにレポートとダッシュボードが再調整されました。

インドの州選択リストへのテランガーナの追加
インドの州選択リストにテランガーナを追加しました。これは組織で[州/国/テリトリー選択リスト]を有効にすると追加されます。また、いくつかの簡単な手順でインドの有効になっている州選択リストに追加することもできます。

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この更新は Winter '20 で有効化できます。この更新は 2022 年 1 月 31 日に自動的に有効化されます。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。

方法: 本番環境でこの更新を有効化する前に、すべてのインストール済みパッケージに ICU 形式との互換性があることをパッケージプロバイダに確認します。次に、組織に対する新しいロケールの影響を評価します。次の SOQL クエリを使用して、組織で使用されているロケールと各ロケールのユーザ数を検索します。

```
SELECT toLabel(LocaleSidKey) LocaleName, LocaleSidKey, Count(id) UserCount FROM User where
 IsActive=true GROUP BY LocaleSidKey
```

テストの推奨領域や、各ロケールの変更についての詳細は、ドキュメントを参照してください。

メモ: 組織のユーザ数が 100,000 人未満の場合、重要な更新の [更新の詳細] ページにクエリの結果が表示されます。

この更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[ICU ロケール形式を有効化] で [確認] をクリックします。[有効化] をクリックします。

英語 (カナダ) ロケール (en_CA) では、個別の有効化が必要です。[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。**[en_CA ロケールの ICU 形式を有効化]** を選択して [保存] をクリックします。

メモ: 重要な更新を有効化すると、UI に新しいロケール形式が表示されます。ICU 形式は API バージョン 45.0 以降で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバルに対応する新しい国際ロケール形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティの更新

各コンポーネントへの長い翻訳の更新

トランスレーションワークベンチでは、各コンポーネントの翻訳を編集して、40文字を超える翻訳を使用できるようになりました。[翻訳]ページの項目の長さ制限を緩和して、項目のマスタコンポーネント長と一致させました。従来通り、[インポート]機能で翻訳を更新することもできます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定]から、[クイック検索]ボックスに「*翻訳*」と入力します。[翻訳]を選択してトランスレーションワークベンチにアクセスします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:用語の翻訳(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レポートとダッシュボードでの右から左への読み取り (ベータ)

ヘブライ語やアラビア語などの右から左へ記述される言語に対応するためにレポートとダッシュボードが再調整されました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

レポートとダッシュボードでの右から左へ記述される言語のサポート (ベータ)

インドの州選択リストへのテランガーナの追加

インドの州選択リストにテランガーナを追加しました。これは組織で [州/国/テリトリー選択リスト] を有効にすると追加されます。また、いくつかの簡単な手順でインドの有効になっている州選択リストに追加することもできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Winter '20 以降で作成された組織では、[州/国/テリトリー選択リスト] を有効にするとテランガーナが追加されます。

[州/国/テリトリー選択リスト] を有効にしている既存の組織では、テランガーナをリストに追加する必要があります。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*州/国/テリトリー選択リスト*」と入力し、[州/国/テリトリー選択リスト] を選択します。
2. [州/国選択リスト] 設定ページで、[都道府県/国を設定] をクリックします。
3. [インド] で、[編集] をクリックします。
4. [新規の州] をクリックします。
5. [州名] に 「テランガーナ」と入力します。[州コード] に 「*TG*」と入力します。[インテグレーション値] に 「テランガーナ」と入力します。[有効] と [参照可能] を選択します。[追加] をクリックします。

6. [保存] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 州選択リストと国選択リストの有効化および無効化

Salesforce ヘルプ: 州選択リストと国選択リストの設定

AppExchange: AppExchange パッケージの使用状況データ、ISV ハンマーテストのオプトアウト、AppExchange Checkout の改善

インストールされた AppExchange パッケージを会社でどのように使用しているかを表示します。AppExchange パートナーが組織のメタデータをのコピーを使用して新しいパッケージバージョンをテストすることを回避します。AppExchange Checkout は、強力なカスタマー認証によって欧州経済圏での支払のセキュリティを向上させています。

このセクションの内容:

会社にインストールされている AppExchange パッケージに関するインサイトの取得

2019年8月の時点で、App Analytics は利用可能です。利用状況概要を参照すると、インストールした AppExchange パッケージを会社がどのように活用しているかを確認できます。利用状況概要は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージで使用できます。

AppExchange Checkout で強力なカスタマー認証をサポート

AppExchange の支払プラットフォームである Checkout は、欧州経済圏での支払で強力なカスタマー認証 (SCA) をサポートするようになりました。SCA は、ID 検証ステップによって支払のセキュリティを強化します。

会社にインストールされている AppExchange パッケージに関するインサイトの取得

2019年8月の時点で、App Analytics は利用可能です。利用状況概要を参照すると、インストールした AppExchange パッケージを会社がどのように活用しているかを確認できます。利用状況概要は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージで使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: App Analytics クエリ要求への「作成」アクセス権を持つユーザは、使用量サマリーを要求できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「パッケージの利用状況」* と入力し、[パッケージの利用状況] を選択します。管理パッケージの利用状況の .csv ファイルを要求するには、[概要を要求] をクリックします。

要求された利用状況概要へのリンクは 15 分後に期限切れになります。

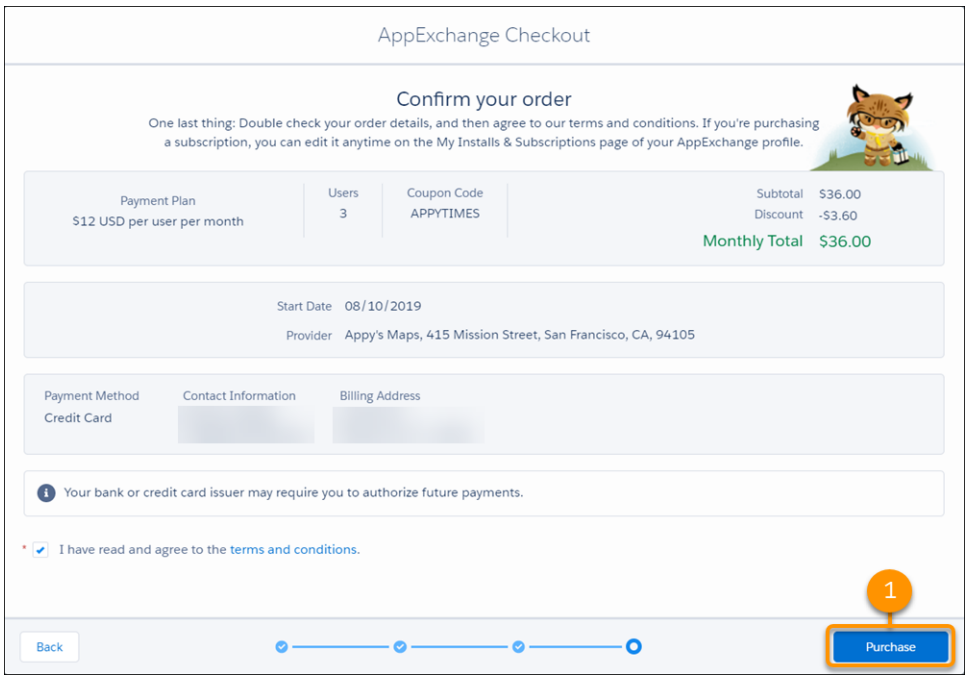
AppExchange Checkout で強力なカスタマー認証をサポート

AppExchange の支払プラットフォームである Checkout は、欧州経済圏での支払で強力なカスタマー認証 (SCA) をサポートするようになりました。SCA は、ID 検証ステップによって支払のセキュリティを強化します。

対象: この変更は AppExchange マーケットプレイスに適用されます。

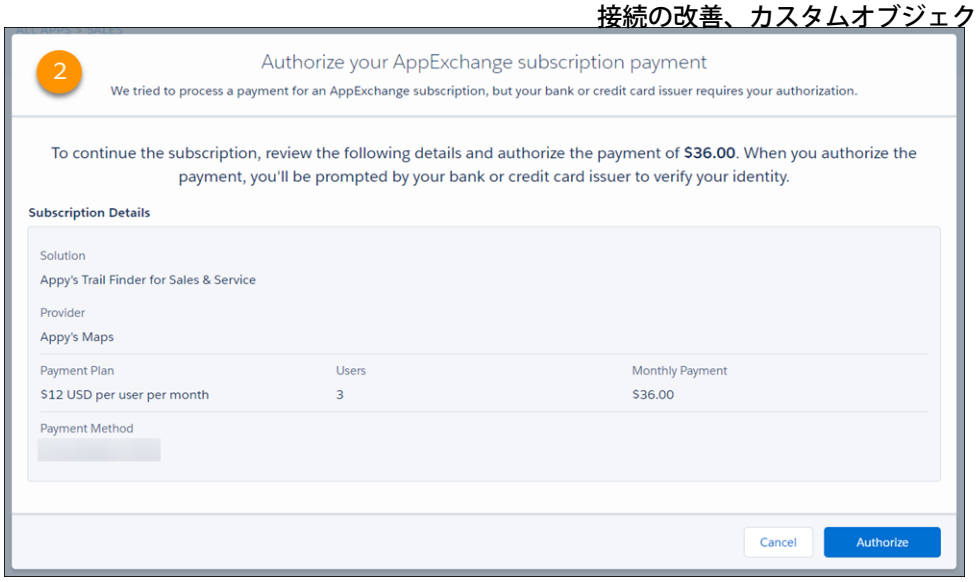
理由: 2019 年 9 月 14 日から、SCA は EU の決済サービス指令 (Second Payment Services Directive: PSD2) の必須要件となります。PSD2 の目的は、オンラインでの販売者と購入者の支払エクスペリエンスを改善することです。

方法: 強力なカスタマー認証を必要とする地域で販売を行う場合、Checkout は自動的に SCA を支払エクスペリエンスに組み込みます。



Checkout 支払ウィザードの最後のステップで [購入] (1) をクリックすると、ID を検証するための応答画面が表示される場合があります。たとえば、支払方式に関連付けられているモバイルデバイスに送信された検証コードの入力が求められます。

サブスクリプションを購入した場合には、銀行やクレジットカード会社から、今後の支払に関する認証が定期的に求められる場合があります。認証が必要な場合は、AppExchange へのログイン応答画面 (2) が表示されます。



一般設定: Lightning アプリケーションでのより多くのフォーム要素のサポート、拡張外部サービスを使用した接続の改善、カスタムオブジェクト数と設定数の監視

デスクトップ、電話、またはその両方をサポートする Lightning アプリケーションを作成します。拡張外部サービスを使用して外部サービスへのより適切な接続を作成します。作成したカスタムオブジェクトと設定の数を、組織の合計と比較します。

このセクションの内容:

デスクトップ、電話、またはその両方をサポートするための Lightning アプリケーションの設定

Lightning アプリケーションを作成または編集するときに、アプリケーションでサポートされ、アプリケーションを表示できるフォーム要素を設定できます。モバイルアプリケーションユーザ専用のアプリケーションを作成している場合は、Lightning アプリケーションを電話用に指定します。

組織全体のアクセスを制限した後でのプロファイルと権限セットに対するカスタム設定へのアクセス権の付与 (重要な更新)

「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Salesforce が提供する API を使用して、カスタム設定を参照できます。このアクセスは、Spring '20 リリース (2020 年 1 月 3 日に開始) でロールアウトが予定されている重要な更新の一貫として禁止になります。Winter '20 リリースでは、カスタム設定への参照アクセスを可能にする新しい権限が登場しています。「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、プロファイルや権限セットで「すべてのカスタム設定の表示」権限を設定することで、Apex コードやシステムモードコンテキストの外部でカスタム設定にアクセスできます。

システムの概要でのカスタムオブジェクトの設定カウントの監視

作成したカスタムオブジェクトと設定の数を組織の合計数(パッケージによってインストールされたカスタムオブジェクトと設定も含む)と比較します。これにより、制限に近づいていることや、制限に達したことが分かります。[システムの概要] には、作成したオブジェクトの数と組織の合計数の両方が表示されるようになりました。これらの値により、制限に達するまであといくつのカスタムオブジェクトを作成またはインストールできるかを把握できます。

Lightning 専用タブの表示または非表示

[カレンダー] や [メールテンプレート] などの Lightning Experience 専用のタブがプロファイルの [タブの設定] セクションに表示されるようになりました。また、これらが必要ないプロファイルでは、[デフォルトで非表示] または [タブを隠す] に設定できるようになりました。

レコードのレイアウト変更が保存後に表示されるまでの遅延

カスタムオブジェクトのレコードページのレイアウトを変更しても、レイアウトの変更はすぐには表示されません。レコードページの変更後のレイアウトは、ページの再読み込みから約 15 分後に表示されます。この変更と引き換えに、レコードページのパフォーマンスが改善されました。

DATEVALUE() による正確な夏時間値の取得

DATAVALUE() 数式オプションにより、回避策を使用せずに夏時間値を正確に計算できます。このオプションは、午後 11 時から午前 1 時までの時間を処理する際に発生している 1 時間のずれを回避します。

OData 追跡を使用した OData 接続のトラブルシューティング

外部データサービスに接続する場合、Salesforce 内で外部データのフローの表示方法や指示方法を制御します。ただし、外部データソースの変更を把握できないことがあります。新しい OData 追跡ツールを使用すると、エンドポイントを検証し、外部データサービスから引き出されたデータを使用するクエリをテストできます。このツールには、すべての未加工の応答が表示されるため、接続をデバッグおよび維持するための詳細を得られます。

不要になった「カスタマイズしたアクションへのアクセスを許可」権限

「カスタマイズしたアクションへのアクセスを許可」権限がなくても、カスタマイズしたアクションにアクセスできるようになりました。

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要(重要な更新、延期)

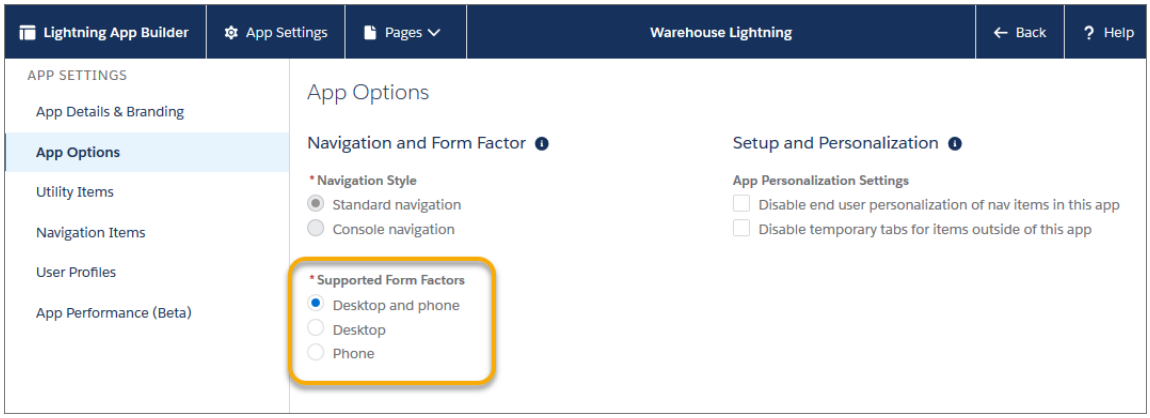
この重要な更新は、2020 年 1 月 3 日から、Spring '20 リリースの一貫として適用されます (元々は 2019 年 9 月 6 日の予定でしたが、延期されました)。

デスクトップ、電話、またはその両方をサポートするための Lightning アプリケーションの設定

Lightning アプリケーションを作成または編集するときに、アプリケーションでサポートされ、アプリケーションを表示できるフォーム要素を設定できます。モバイルアプリケーションユーザ専用のアプリケーションを作成している場合は、Lightning アプリケーションを電話用に指定します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトインした組織では、デスクトップでも利用できます。

方法:[設定] で [アプリケーションマネージャ] に移動して、該当するアプリケーションの行で [編集] を選択してから [アプリケーションオプション] をクリックします。



ヒント: アプリケーションを 1 種類のデバイスに限定した場合は、そのデバイスでアプリケーションを表示しなければアプリケーションにはアクセスできません。たとえば、[電話] を選択した場合、デスクトップユーザのアプリケーションランチャーには、そのアプリケーションは表示されません。そのアプリケーションは、Salesforce モバイルアプリケーションユーザに対してのみ表示されます。

組織全体のアクセスを制限した後でのプロファイルと権限セットに対するカスタム設定へのアクセス権の付与 (重要な更新)

「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Salesforce が提供する API を使用して、カスタム設定を参照できます。このアクセスは、Spring '20 リリース (2020 年 1 月 3 日に開始) でロールアウトが予定されている重要な更新の一貫として禁止になります。Winter '20 リリースでは、カスタム設定への参照アクセスを可能にする新しい権限が登場しています。「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、プロファイルや権限セットで「すべてのカスタム設定の表示」権限を設定することで、Apex コードやシステムモードコンテキストの外部でカスタム設定にアクセスできます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザによる API を使用したカスタム設定への参照アクセスを禁止する重要な更新は、Spring '20 リリースの一貫として 2020 年 1 月 3 日から順次適用されます。Spring '19 以降の重要な更新を有効化できます。組織全体の更新を有効にしてから、プロファイルや権限セットで「すべてのカスタム設定の表示」権限を設定することで、Apex やシステムコンテキストの外部でカスタム設定にアクセスできます。この権限は、Winter '20 リリースで使用できます。

メモ: この変更は、Apex またはシステムモードのコンテキストからのカスタム設定へのアクセスには影響しません。Apex コードを使用して取得したカスタム設定は、この更新後も引き続き機能します。

方法: この更新は、事前に Sandbox 組織でテストしてから本番組織で有効化することをお勧めします。

適用日付前にこの更新をテストする手順は次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。

2. 更新に対して [有効化] をクリックします。「カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要」を参照してください。
3. プロファイルや権限セットで「すべてのカスタム設定の表示」 権限を付与します。「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Apex やシステムコンテキストの外部でカスタム設定への参照アクセスが可能になります。

   プロファイル

   a. [設定] から「プロファイル」を検索します。
   b. プロファイルを選択して [編集] をクリックします。
   c. [システム管理者権限] セクションで、「すべてのカスタム設定の表示」権限を有効化します。
   d. [保存] をクリックします。

   権限セット

   a. [設定] で [権限の設定] を検索します。
   b. 権限セットを選択して [編集] をクリックします。
   c. [表示する項目を選択]セクションで、「すべてのカスタム設定の表示」を探して、この権限を [選択済みの設定] に追加します。
   d. [保存] をクリックします。

メモ: 重要な更新を有効化する前に「すべてのカスタム設定の表示」権限を割り当てることで、ユーザへの影響を最小限に抑えることができます。ただし、「すべてのカスタム設定の表示」 権限による権限の変更を実装するには、重要な更新を有効化する必要があります。

詳細については、「カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新)」を参照してください。

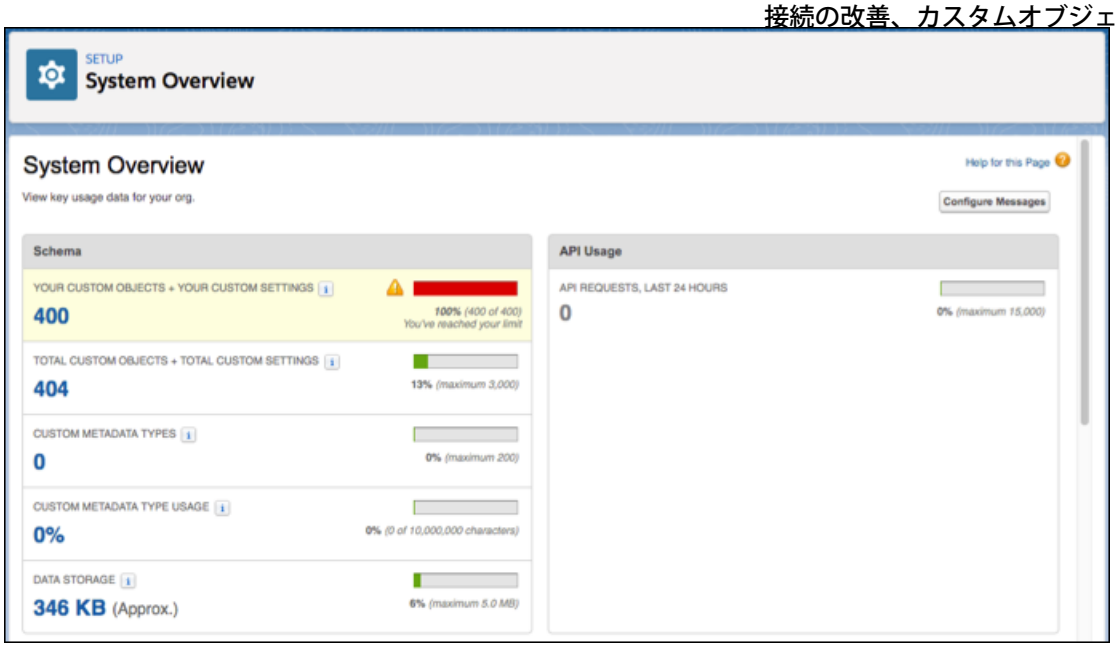
システムの概要でのカスタムオブジェクトの設定カウントの監視

作成したカスタムオブジェクトと設定の数を組織の合計数 (パッケージによってインストールされたカスタムオブジェクトと設定も含む) と比較します。これにより、制限に近づいていることや、制限に達したことが分かります。[システムの概要] には、作成したオブジェクトの数と組織の合計数の両方が表示されるようになりました。これらの値により、制限に達するまであといくつのカスタムオブジェクトを作成またはインストールできるかを把握できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 各 Salesforce エディションには、組織で作成できるカスタムオブジェクトの数に制限があります。エディションの制限を超えると、AppExchange に公開して投稿したアプリケーションなど、管理パッケージからインストールできるカスタムオブジェクトの数はハードリミットによって管理されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「システムの概要」* と入力し、[システムの概要] を選択します。



[カスタムオブジェクト + カスタム設定] は、あなたと組織内のユーザが作成した有効なカスタムオブジェクトと設定の数を示しています。

[総カスタムオブジェクト + 総カスタム設定] は、あなたや組織内のユーザが作成した、またはパッケージからインストールされた有効および無効なオブジェクトの数を示しています。この数には、理論削除された状態で物理削除を待っているカスタムオブジェクトも含まれています。物理削除プロセスの情報については、「カスタムオブジェクトの削除」を参照してください。

関連トピック:

組織にインストールできるカスタムオブジェクトの増加

Lightning 専用タブの表示または非表示

[カレンダー] や [メールテンプレート] などの Lightning Experience 専用のタブがプロファイルの [タブの設定] セクションに表示されるようになりました。また、これらが必要ないプロファイルでは、[デフォルトで非表示] または [タブを隠す] に設定できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

レコードのレイアウト変更が保存後に表示されるまでの遅延

カスタムオブジェクトのレコードページのレイアウトを変更しても、レイアウトの変更はすぐには表示されません。レコードページの変更後のレイアウトは、ページの再読み込みから約 15 分後に表示されます。この変更と引き換えに、レコードページのパフォーマンスが改善されました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Lightning コミュニティのカスタムオブジェクトのレコードページに影響します。Lightning コンソールアプリケーションでアクセスするレコードページには影響しません。

理由: カスタムオブジェクトのレコードページでは、デュラブルキャッシュを使用して永続的にデータを保管するようになりました。新しいページを開くと、キャッシュが自身で更新し、データが利用できるためページの読み込みがスピードアップします。デュラブルキャッシュを無効化するには、Salesforce からログアウトして、ログインし直します。デュラブルキャッシュは、安全なブラウザキャッシュが有効化されている (デフォルト設定) 組織で使用できます。

メモ: 安全で永続的なブラウザキャッシュの無効化はお勧めしません。Sandbox または Developer Edition 組織での作業時のみ無効化することをお勧めします。

方法: レイアウトの変更を直ちに表示するには、一度ログアウトしてからログインし直します。他のユーザに対して変更が表示されるまでには、ページの再読み込みから最大1時間かかります。他のユーザも、一度ログアウトしてからログインし直せば、すぐにレイアウトの変更が反映されます。

また、この変更はページレイアウトエディタ、コンパクトレイアウト、および Lightning ページで更新されたレコードレイアウトにも適用されます。たとえば、カスタムオブジェクトにカスタム項目を追加し、その項目をページレイアウトに追加すると、レイアウトが変更されます。

Lightning アプリケーションビルダーなどを使用して Lightning ページにレイアウトの変更を加えた場合は、ページの再読み込み後に変更が直ちに反映されます。ただし、他のユーザやブラウザに対して変更が表示されるまでには、ページの再読み込みから最大1時間かかります。レイアウトの変更を直ちに反映させるには、一度ログアウトしてからログインし直してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ページレイアウト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

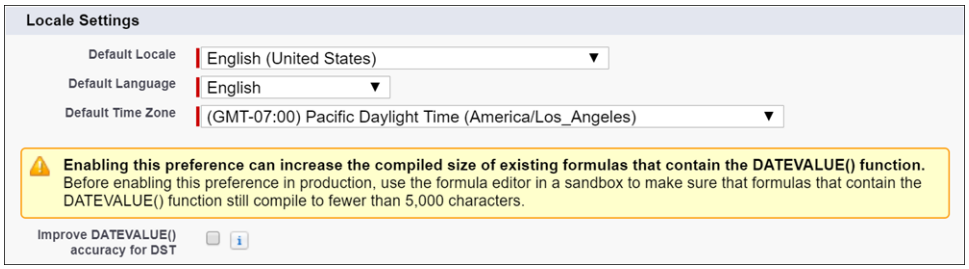
Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: 安全なブラウザキャッシュの有効化

DATEVALUE() による正確な夏時間値の取得

DATAVALUE() 数式オプションにより、回避策を使用せずに夏時間値を正確に計算できます。このオプションは、午後 11 時から午前 1 時までの時間を処理する際に発生している 1 時間のずれを回避します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*組織情報*」と入力します。[地域の設定] で [DST の DATEVALUE() の精度を改善] を選択します。



重要: 組織のカスタム数式に、午後11時と午前1時の間の日付値を調整するための回避策が含まれている場合は、この設定を有効化する前に、その回避策を削除してください。回避策を削除しないと、データ

が不正確になる場合があります。この設定を有効にすると、DATEVALUE() 関数を含む既存の数式のコンパイル後のサイズが増加する可能性もあります。

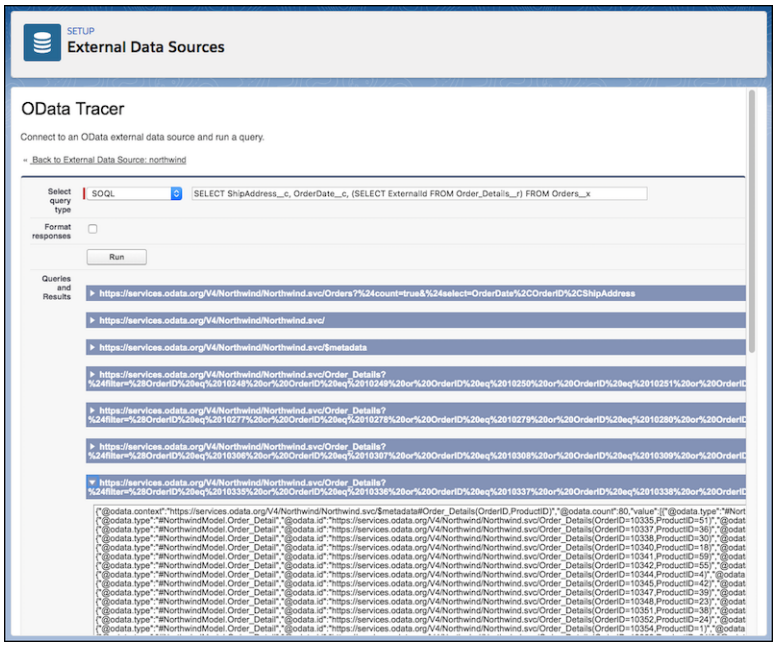
OData 追跡を使用した OData 接続のトラブルシューティング

外部データサービスに接続する場合、Salesforce 内で外部データのフローの表示方法や指示方法を制御します。ただし、外部データソースの変更を把握できないことがあります。新しい OData 追跡ツールを使用すると、エンドポイントを検証し、外部データサービスから引き出されたデータを使用するクエリをテストできます。このツールには、すべての未加工の応答が表示されるため、接続をデバッグおよび維持するための詳細を得られます。

対象: この変更は、Salesforce Connect の一部として Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Salesforce Connect は、Developer Edition では無料、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition では有料オプションで使用できます。

方法: OData 追跡は、Salesforce Connect: OData 2.0 および Salesforce Connect: OData 4.0 外部データソースで使用できます。

[設定]の[外部データソース]ページから、外部データソースを選択し、[OData 追跡を開く]をクリックします。選択リストからクエリ種別を選択し、クエリを入力して[実行]をクリックします。[クエリと結果]領域の結果を確認します。すべてのクエリは実行順に表示されます。



不要になった「カスタマイズしたアクションへのアクセスを許可」権限

「カスタマイズしたアクションへのアクセスを許可」権限がなくても、カスタマイズしたアクションにアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」リース権限が必要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、2020 年 1 月 3 日から、Spring '20 リリースの一貫として適用されます (元々は 2019 年 9 月 6 日の予定でしたが、延期されました)。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザによる API を使用したカスタム設定への参照アクセスを禁止する重要な更新は、Spring '20 リリースの一貫として 2020 年 1 月 3 日から順次適用されます。Spring '19 以降の重要な更新を有効化できます。組織全体の更新を有効にしてから、プロファイルや権限セットで「すべてのカスタム設定の表示」権限を設定することで、Apex やシステムコンテキストの外部でカスタム設定にアクセスできます。この権限は、Winter '20 リリースで使用できます。

関連トピック:

- 組織全体のアクセスを制限した後でのプロファイルと権限セットに対するカスタム設定へのアクセス権の付与 (重要な更新)

セキュリティと ID: Identity Connect 3.0、検証の改善、ドメインの Edge サービス、リアルタイムイベントモニタリング、拡張トランザクションセキュリティの正式リリース

Identity Connect 3.0 にアップグレードすると、Microsoft Active Directory との同期が迅速になり、ユーザ管理が簡単になります。ユーザの検証方法を登録する独自の ID 検証ページを作成できます。Salesforce Edge を使用して Salesforce およびコミュニティドメインを提供することで、接続およびパフォーマンスを改善できます。設定変更履歴とカスタム表示ラベルを使用して接続アプリケーションを管理し、[ドメイン] 設定ページで表示する HTTPS 詳細を増やすことができます。リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティが正式リリースされました。

このセクションの内容:

- 認証と ID: Identity Connect 3.0、接続アプリケーション、ID 検証

  2019 年 10 月にリリースされた時点で Identity Connect 3.0 にアップグレードされます。このバージョンでは、よりすばやく簡単にユーザデータを Microsoft Active Directory と Salesforce 間で同期できます。接続アプリケーションの場合は、ポリシーおよび設定に対する変更を追跡できるようになり、カスタム範囲の説明を再利用できます。また、新しい Trailhead プロジェクトを使用して、接続アプリケーションの作成方法を学習することもできます。ID 検証の場合は、検証方法を登録するための独自の検証ページを作成でき、ユーザがメールアドレスを変更するときに ID を検証するよう要求できます。また、イベントデータを保存するために IdentityVerificationEvent を使用できるようになりました。

Salesforce Shield: 拡張トランザクションセキュリティを使用したリアルタイムイベントモニタリングの正式リリース、暗号化オプションの追加

リアルタイムイベントのストリーミングと保存、およびいくつかの新しいイベントオブジェクトの拡張トランザクションセキュリティポリシーを使用します。新しい条件ビルダーを使用して、Apex の行を 1 行も変更または記述することなくセキュリティポリシーを作成します。Shield Platform Encryption では、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化のスキニーテーブルのサポート (正式リリース)、保険項目の暗号化、より多くの暗号化データの同期サポートが提供されます。

その他のセキュリティ変更: Salesforce Edge、設定の機能強化、TLS 1.2 の適用、インスタンスのない Sandbox

Salesforce は、[私のドメイン] とカスタムドメインを持つユーザを Salesforce Edge に移行しています。[ドメイン] 設定ページに、より詳細な情報が表示されるようになりました。また、新しいセッションセキュリティレベルのポリシーで特定の [設定] ページとオブジェクトへのアクセスが制御されるようになりました。すべての HTTPS 接続で TLS 1.2 が必要になります。また、インスタンス名が [私のドメイン] の Sandbox URL から削除される予定です。

認証と ID: Identity Connect 3.0、接続アプリケーション、ID 検証

2019 年 10 月にリリースされた時点で Identity Connect 3.0 にアップグレードされます。このバージョンでは、よりすばやく簡単にユーザデータを Microsoft Active Directory と Salesforce 間で同期できます。接続アプリケーションの場合は、ポリシーおよび設定に対する変更を追跡できるようになり、カスタム範囲の説明を再利用できます。また、新しい Trailhead プロジェクトを使用して、接続アプリケーションの作成方法を学習することもできます。ID 検証の場合は、検証方法を登録するための独自の検証ページを作成でき、ユーザがメールアドレスを変更するときに ID を検証するよう要求できます。また、イベントデータを保存するために IdentityVerificationEvent を使用できるようになりました。

このセクションの内容:

ユーザの検証方法を登録する独自のページの作成

外部ユーザが電話番号かメールアドレスのいずれかの検証方法を登録すると、Salesforce にはユーザが検証コードを入力するための検証ページが表示されます。デフォルトの検証ページを独自のものに置き換えて、ブランドを反映したり、会社のガイドラインに合わせたりできます。検証ページの作成には、Visualforce ページと 2 つの Apex メソッドを使用します。検証方法を登録するためにこの検証ページを作成するのに加えて、新規ユーザのサインアップ (セルフ登録) や外部ユーザのログイン (パスワードなしのログイン) を行うために独自の検証ページを作成できます。

コミュニティユーザのメールアドレス変更時に確認が必要

コミュニティのメールアドレス変更の確認を外部ユーザに要求してセキュリティを強化します。コミュニティユーザがメールアドレスを変更すると、確認のために新しいアドレスにメールが送信されるようにできます。アドレスの変更は、ユーザがメッセージ内の確認リンクをクリックした後に有効になります。Salesforce では、セキュリティ強化のためにメール確認を有効にすることをお勧めします。新規のコミュニティと新規および既存の内部ユーザには自動的に確認メールの送信が行われます。

カスタム表示ラベルとカスタム範囲の関連付け

各カスタム範囲の一意の説明を作成する代わりに、カスタム表示ラベルを複数のカスタム範囲に関連付けることができます。カスタム表示ラベルのメリットは、再利用可能なテキストを 1 つの場所で管理して、複数の言語に翻訳できることです。一方、カスタム範囲の説明は、適用先のカスタム範囲で個別に管理する必要があります。カスタム範囲の説明とカスタム表示ラベルは、関連付けられた接続アプリケーションをユーザが認証するときに認証ページに表示されます。

接続アプリケーションポリシーおよび設定に対して行われた設定の変更の追跡

設定変更履歴で接続アプリケーションポリシーおよび設定のいくつかの更新が追跡されるようになりました。たとえば、組織に複数のシステム管理者がいる場合、誰が接続アプリケーションのコールバック URL やアクセス権限を更新したのかを確認できます。

Identity Connect の機能強化によるオンプレミス Active Directory ユーザの Salesforce への効率的な同期

改善されたアーキテクチャとユーザ環境を通じて、Identity Connect 3.0 は、Microsoft Active Directory と Salesforce 間の高速かつ簡単で大規模なユーザ同期を提供します。大規模なライブ同期のパフォーマンスにより、Connect 3.0 では権限セットの更新が改善されます。プロファイルがより効率的にユーザに割り当てられるため、ネットワークトラフィックが減少し、パフォーマンスが向上します。Identity Connect 3.0 では、同期中の CPU 使用率の向上につながる新しい改善されたランタイムも提供されます。

API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成方法

新しい「接続アプリケーションを使用してインテグレーションを構築する」トレイルの一環として、「API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成」プロジェクトで API インテグレーション用の接続アプリケーションを作成する方法を学習します。まず、独自の接続アプリケーションを作成します。次に、OAuth 2.0 Web サーバ認証フローの実装方法を学習します。その後、OAuth ポリシーを使用して、接続アプリケーションにアクセスできるユーザと、接続アプリケーションにアクセスできる場所を定義できます。

API 応答に認証プロバイダのコンシューマの秘密を含めない

デフォルトでは、認証プロバイダの暗号化されたコンシューマの秘密は、メタデータ API と SOAP API の応答に表示されます。セキュリティのために、応答からコンシューマの秘密を除外できます。この変更は、設定の取得とリリースに適用されます。認証には適用されません。

ユーザ ID 検証イベントの追跡

IdentityVerificationEvent を使用して、ID 検証に関連するイベントの情報を取得できるようになりました。たとえば、Salesforce へのログイン、接続アプリケーションとの接続、Salesforce Authenticator との接続など、ID 検証を引き起こしたアクティビティを判断できます。ユーザの IP アドレスが物理的に存在する場所とユーザ ID 検証に必要なセキュリティポリシーを判断できます。また、検証プロセスが開始済みかどうか、正常に検証されたかどうか、検証が失敗した場合はその理由など、イベントの状況も判断します。
IdentityVerificationEvent は、リアルタイムイベントモニタリングでイベントデータを保存するために使用されます。

カスタマイズ可能な認証エラーのセキュリティの改善によるメリット

登録ハンドラからの Apex エラーやサードパーティからレポートされるエラーなどのカスタマイズ可能な認証エラーが [ログイン中に問題が発生しました] ページに表示されなくなりました。セキュリティを高めるために、これらのエラーは [ログイン中に問題が発生しました] ページの URL にのみ表示されます。

暗号化に対応する SAML SSO 設定をサポートするために更新されたメタデータ API のログイン URL 項目

暗号化のサポートを改善するパラメータが SamlSsoConfig メタデータ型の `salesforceLoginUrl` 項目に追加されました。`salesforceLoginUrl` は、SAML Web SSO シングルサインオンフローのログインに関連付けられた URL を表します。新しいパラメータ `sc=samlSsoConfigId` は、その ID を表します。この変更は、既存の SAML SSO の動作には影響しません。

ユーザの検証方法を登録する独自のページの作成

外部ユーザが電話番号かメールアドレスのいずれかの検証方法を登録すると、Salesforce にはユーザが検証コードを入力するための検証ページが表示されます。デフォルトの検証ページを独自のものに置き換えて、ブランドを反映したり、会社のガイドラインに合わせたりできます。検証ページの作成には、Visualforce ページと 2 つの Apex メソッドを使用します。検証方法を登録するためにこの検証ページを作成するのに加えて、新規ユーザのサインアップ (セルフ登録) や外部ユーザのログイン (パスワードなしのログイン) を行うために独自の検証ページを作成できます。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

理由: このカスタム検証ページでは、デフォルトの検証ページと異なるフォントとテキストの色が使用されます。また、別のページではなく、ログインページでユーザに確認コードの入力が求められます。

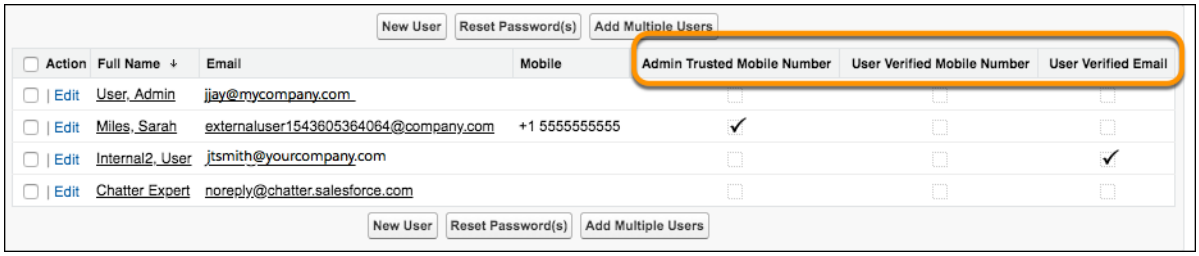
方法: 2 つの Apex メソッドを使用して検証方法登録を実装します。`initRegisterVerificationMethod` メソッドは基本的な検証を実行し、ユーザの登録済み ID 検証方法 (メールまたは SMS) を使用して検証コードをユーザに送信します。その後、`verifyRegisterVerificationMethod` メソッドは、ユーザが正しい確認コードを入力したかどうかをチェックします。確認コードが正しければ、`verifyRegisterVerificationMethod` は次を実行します。

- [ID 検証履歴] ページにアクティビティを記録
- ユーザのレコードを更新してユーザが登録した検証方法を示す (ユーザの検証ビットの設定とも呼ばれる)

コードが正しくない場合は、エラーメッセージが返されます。

ユーザがメールアドレスまたは電話番号を登録してあるかどうかは、[ユーザ] 設定ページで確認できます。リストビューを作成して次の検証方法を含めます。

- ユーザの検証済みメール
- ユーザの検証済み携帯番号
- 管理者の信頼済み携帯番号



メモ: `initRegisterVerificationMethod` と `verifyRegisterVerificationMethod` を使用して、ユーザのメールアドレスまたは電話番号を登録します。すでに登録済みのユーザのメールアドレスを変更するだけの場合は、これらのメソッドを使用しないでください。[ID 検証] 設定ページで [メールアドレスの変更に対してメール確認が必要 (Lightning コミュニティの外部ユーザに適用)] が有効になっていると、ユーザは自動的に確認されます。

関連トピック:

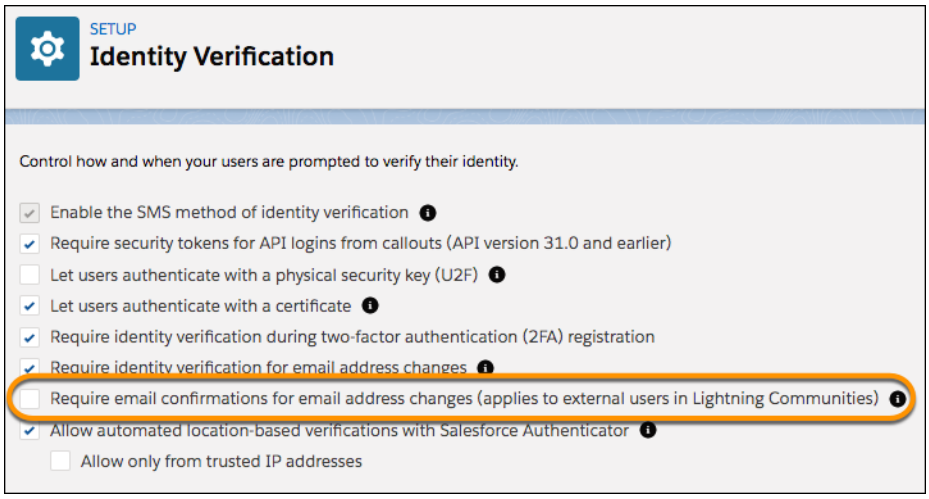
- コミュニティユーザのメールアドレス変更時に確認が必要
- *Salesforce* ヘルプ: ID の検証方法 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ID 検証履歴 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティユーザのメールアドレス変更時に確認が必要

コミュニティのメールアドレス変更の確認を外部ユーザに要求してセキュリティを強化します。コミュニティユーザがメールアドレスを変更すると、確認のために新しいアドレスにメールが送信されるようにできます。アドレスの変更は、ユーザがメッセージ内の確認リンクをクリックした後に有効になります。Salesforce では、セキュリティ強化のためにメール確認を有効にすることをお勧めします。新規のコミュニティと新規および既存の内部ユーザには自動的に確認メールの送信が行われます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティの外部ユーザに適用されます。

方法: メール確認を有効にするには、[ID 検証] 設定ページで [メールアドレスの変更に対してメール確認が必要 (Lightning コミュニティの外部ユーザに適用)] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ユーザに ID 検証を求めるタイミングの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

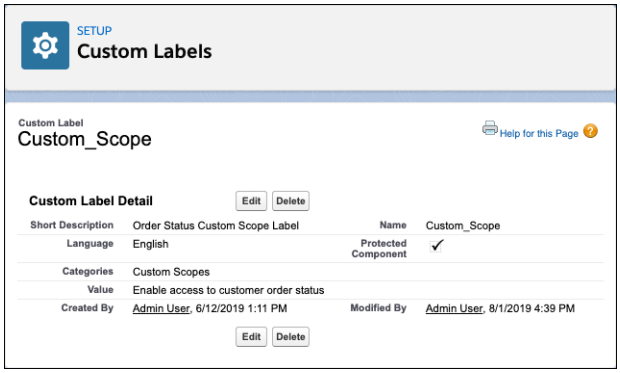
ユーザの検証方法を登録する独自のページの作成

カスタム表示ラベルとカスタム範囲の関連付け

各カスタム範囲の一意の説明を作成する代わりに、カスタム表示ラベルを複数のカスタム範囲に関連付けることができます。カスタム表示ラベルのメリットは、再利用可能なテキストを1つの場所で管理して、複数の言語に翻訳できることです。一方、カスタム範囲の説明は、適用先のカスタム範囲で個別に管理する必要があります。カスタム範囲の説明とカスタム表示ラベルは、関連付けられた接続アプリケーションをユーザが認証するときに認証ページに表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: カスタム表示ラベルの [設定] ページでカスタム範囲のカスタム表示ラベルを作成します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Oauth カスタム範囲の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

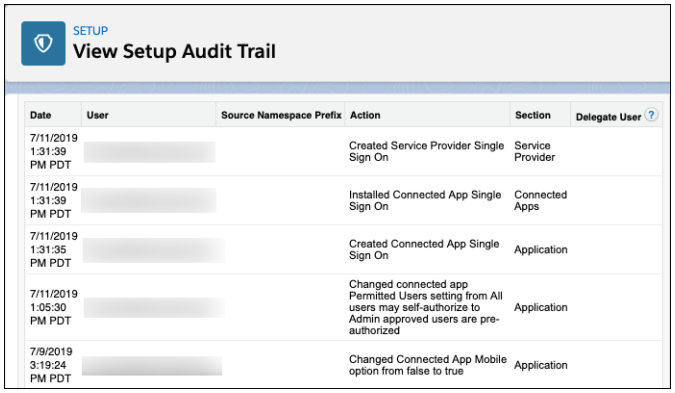
Salesforce ヘルプ: カスタム表示ラベル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

接続アプリケーションポリシーおよび設定に対して行われた設定の変更の追跡

設定変更履歴で接続アプリケーションポリシーおよび設定のいくつかの更新が追跡されるようになりました。たとえば、組織に複数のシステム管理者がいる場合、誰が接続アプリケーションのコールバック URL やアクセス権限を更新したのかを確認できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 使用可能な接続アプリケーションの更新を [設定変更履歴の参照] ページで表示します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: セットアップ変更のモニタリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Identity Connect の機能強化によるオンプレミス Active Directory ユーザの Salesforce への効率的な同期

改善されたアーキテクチャとユーザ環境を通じて、Identity Connect 3.0 は、Microsoft Active Directory と Salesforce 間の高速かつ簡単で大規模なユーザ同期を提供します。大規模なライブ同期のパフォーマンスにより、Connect 3.0 では権限セットの更新が改善されます。プロファイルがより効率的にユーザに割り当てられるため、ネットワークトラフィックが減少し、パフォーマンスが向上します。Identity Connect 3.0 では、同期中の CPU 使用率の向上につながる新しい改善されたランタイムも提供されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。Developer Edition には 10 個の Identity Connect 権限セットライセンスが含まれます。

時期: Identity Connect 3.0 は 2019 年 10 月にリリースされます。ライセンスを購入するには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

理由: デフォルトでは、Identity Connect 3.0 は、埋め込み PostgreSQL リポジトリと共に動作します。これは、以前のリリースで提供された Orient DB リポジトリを置き換えます。外部の PostgreSQL リポジトリを使用するように Identity Connect を設定することもできます。Identity Connect を MySQL リポジトリと共に実行することはサポートされなくなりました。Identity Connect 3.0 では、アクション可能かつ直感的なログと、管理 UI の新しい診断ページを含む、診断中心の環境も導入されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Identity Connect (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成方法

新しい「接続アプリケーションを使用してインテグレーションを構築する」トレイルの一環として、「API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成」プロジェクトで API インテグレーション用の接続アプリケーションを作成する方法を学習します。まず、独自の接続アプリケーションを作成します。次に、OAuth 2.0 Web サーバ認証フローの実装方法を学習します。その後、OAuth ポリシーを使用して、接続アプリケーションにアクセスできるユーザと、接続アプリケーションにアクセスできる場所を定義できます。

対象: この Trailhead プロジェクトおよびトレイルは、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Trailhead プロジェクト: API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

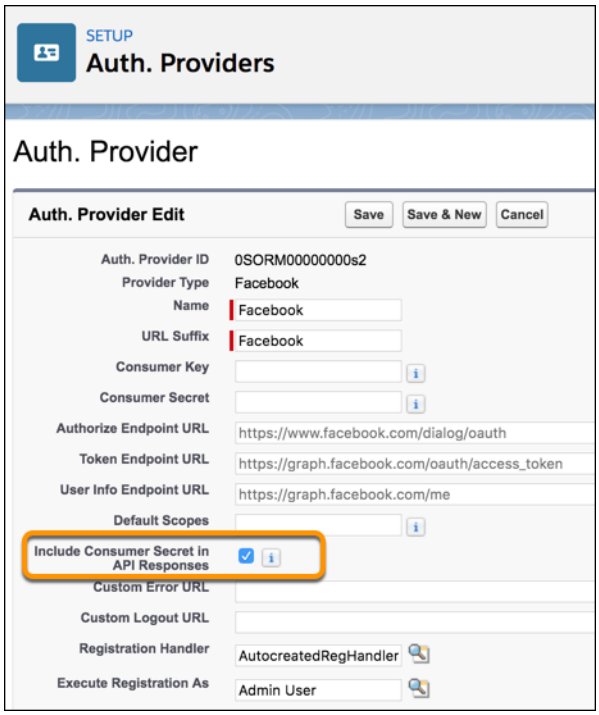
Trailhead トレイル: 接続アプリケーションを使用してインテグレーションを構築する (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

API 応答に認証プロバイダのコンシューマの秘密を含めない

デフォルトでは、認証プロバイダの暗号化されたコンシューマの秘密は、メタデータ API と SOAP API の応答に表示されます。セキュリティのために、応答からコンシューマの秘密を除外できます。この変更は、設定の取得とリリースに適用されます。認証には適用されません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [認証プロバイダ] 設定ページで、認証プロバイダの横にある [編集] をクリックします。[API 応答にコンシューマの秘密を含める] を選択解除します。



メモ: Salesforce が提供するデフォルトの秘密を使用する代わりに、独自のコンシューマ鍵やコンシューマの秘密を使用した場合は、このオプションは無効にしないことを検討してください。秘密を含めないと、コンシューマ鍵ではコンシューマの秘密が期待されているため、変更セットや他の認証プロバイダのメタデータリリースが壊れる可能性があります。この問題はリリース時に鍵を手動で入力することで解決できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:外部認証プロバイダ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザ ID 検証イベントの追跡

IdentityVerificationEvent を使用して、ID 検証に関連するイベントの情報を取得できるようになりました。たとえば、Salesforce へのログイン、接続アプリケーションとの接続、Salesforce Authenticator との接続など、ID 検証を引き起こしたアクティビティを判断できます。ユーザの IP アドレスが物理的に存在する場所とユーザ ID 検証に必要なセキュリティポリシーを判断できます。また、検証プロセスが開始済みかどうか、正常に検証されたかどうか、検証が失敗した場合はその理由など、イベントの状況も判断します。IdentityVerificationEvent は、リアルタイムイベントモニタリングでイベントデータを保存するために使用されます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。イベントを表示または管理するには、「データ漏洩検出イベントを表示」ユーザ権限を有効にします。

方法: イベントマネージャを使用してイベントの表示と管理を行うには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「イベントマネージャ」と入力し、[イベントマネージャ] を選択します。

関連トピック:

Salesforce Platform イベント開発者ガイド: リファレンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタマイズ可能な認証エラーのセキュリティの改善によるメリット

登録ハンドラからの Apex エラーやサードパーティからレポートされるエラーなどのカスタマイズ可能な認証エラーが [ログイン中に問題が発生しました] ページに表示されなくなりました。セキュリティを高めるために、これらのエラーは [ログイン中に問題が発生しました] ページの URL にのみ表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: カスタマイズ可能な認証エラーを [ログイン中に問題が発生しました] ページの URL で表示します。この URL の例では、カスタマイズ可能な認証エラーは `AuthorizationError` から始まります。

```
https://myorg.my.salesforce.com/_nc_external/identity/sso/ui/AuthorizationError?ErrorCode=No_OAuth_Token&ErrorDescription=This+is+a+custom+error
```

暗号化に対応する SAML SSO 設定をサポートするために更新されたメタデータ API のログイン URL 項目

暗号化のサポートを改善するパラメータが SamlSsoConfig メタデータ型の `salesforceLoginUrl` 項目に追加されました。`salesforceLoginUrl` は、SAML Web SSO シングルサインオンフローのログインに関連付けられた URL を表します。新しいパラメータ `sc=`***`samlSsoConfigId`*** は、その ID を表します。この変更は、既存の SAML SSO の動作には影響しません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: このパラメータは、メタデータ API を介して暗号化に対応する SAML SSO 設定をリリースするために使用されます。メタデータ API の SAML SSO ログイン URL が UI と同じになるように変更されました。後方互換性のた

めに、Salesforceでは、このパラメータを使用してもしなくてもリリースが可能です。この動作は、APIバージョン47.0以降に適用されます。

方法: `sc=`***`samlSsoConfigId`*** パラメータが追加されたSAML SSOログインURLは次のとおりです。
`https://mycompany.my.salesforce.com?sc=0LEB0000000CCC`.

関連トピック:

メタデータAPI開発者ガイド: SamlSsoConfig

Salesforce Shield: 拡張トランザクションセキュリティを使用したリアルタイムイベントモニタリングの正式リリース、暗号化オプションの追加

リアルタイムイベントのストリーミングと保存、およびいくつかの新しいイベントオブジェクトの拡張トランザクションセキュリティポリシーを使用します。新しい条件ビルダーを使用して、Apexの行を1行も変更または記述することなくセキュリティポリシーを作成します。Shield Platform Encryptionでは、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化のスキニーテーブルのサポート(正式リリース)、保険項目の暗号化、より多くの暗号化データの同期サポートが提供されます。

このセクションの内容:

プラットフォームの暗号化:保険項目、メタデータAPIを介した設定、確定的暗号化のスキニーテーブル(正式リリース)

Shield Platform Encryptionを使用してより多くのデータを暗号化できるだけでなく。暗号化データと設定をより効率的に管理できます。バックグラウンド暗号化サービスを使用して、保険項目を暗号化し、データをすべての項目およびファイルと同期します。スクラッチ組織のShield Platform Encryption設定をメタデータAPIから直接有効にします。確定的暗号化のスキニーテーブルのサポート(正式リリース)により、暗号化データのより適切な絞り込み結果を取得します。

イベントモニタリング:リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティの正式リリース、従来のトランザクションセキュリティの廃止

正式リリースされたリアルタイムイベントモニタリングにより、組織で何が起きているかを監視することが容易になりました。イベントデータを保存して、後で詳しく調べることができるようにしますか?これを6か月間できるようになりました。拡張トランザクションセキュリティを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してトリガするアクションを作成できます。従来のトランザクションセキュリティフレームワークは今後廃止されるため、この拡張ポリシーの作成をすぐに開始することをお勧めします。ポリシー内での同期のコーディングには、新しいApexインターフェースを使用します。

プラットフォームの暗号化: 保険項目、メタデータ API を介した設定、確定的暗号化のスキニーテーブル (正式リリース)

Shield Platform Encryption を使用してより多くのデータを暗号化できるだけでなく。暗号化データと設定をより効率的に管理できます。バックグラウンド暗号化サービスを使用して、保険項目を暗号化し、データをすべての項目およびファイルと同期します。スクラッチ組織の Shield Platform Encryption 設定をメタデータ API から直接有効にします。確定的暗号化のスキニーテーブルのサポート (正式リリース) により、暗号化データのより適切な絞り込み結果を取得します。

このセクションの内容:

顧客の保険情報の暗号化
顧客が保険補償に関してあなたの会社を信頼すると、顧客は最も個人的ないくつかの機密情報を共有します。Shield Platform Encryption で機密データのセキュリティをもう一段強化します。確率的または確定的暗号化スキームのいずれかを使用して、さまざまなライフイベント、保険契約、請求、および関連する詳細についての情報を暗号化できます。

セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用した、より多くの項目のデータの同期
Shield Platform Encryption を使用すると、Salesforce カスタマーサポートへの問い合わせ回数が 1 回減ります。セルフサービスバックグラウンド暗号化プロセスで、有効な鍵素材が説明項目、ロングテキストエリア項目、およびリッチテキストエリア項目に適用されるようになりました。また、添付コンテンツ本文項目についての統計を表示し、有効な鍵素材を添付データと同期できるようになりました。暗号化ポリシーを最新の状態に維持することが容易になりました。

メタデータ API を使用したプログラムでのプラットフォーム暗号化設定の有効化
プログラムで組織を設定するときに、メタデータ API の新しい Boolean 項目を使用して、Shield Platform Encryption 設定をすばやく有効化します。[設定] の [高度な設定] ページと開発者環境との間を切り替える必要はもうありません。

スキニーテーブルを使用した暗号化データの絞り込みの強化 (正式リリース)
検索条件を維持する、スキニーテーブルの確定的暗号化サポートが正式リリースされ、保存時に暗号化されたデータをより適切に絞り込むことができるようになりました。

ユーザ自身によるチャットトランスクリプトの暗号化の有効化
エージェントと顧客間のテキスト化されたチャットに対して Shield Platform Encryption を有効にするときの余分な手順がなくなりました。これで、Salesforce カスタマーサポートに問い合わせる必要はありません。Shield Platform Encryption は [本文] 項目とチャットの [スーパーバイザトランスクリプト本文] 項目で使用できます。

顧客の保険情報の暗号化

顧客が保険補償に関してあなたの会社を信頼すると、顧客は最も個人的ないくつかの機密情報を共有します。Shield Platform Encryption で機密データのセキュリティをもう一段強化します。確率的または確定的暗号化スキームのいずれかを使用して、さまざまなライフイベント、保険契約、請求、および関連する詳細についての情報を暗号化できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud と Shield Platform Encryption の両方が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Shield Platform Encryption を使用して保険データを暗号化すると、以下の項目の顧客情報に強力な保存時の暗号化が追加されます。

ビジネスマイルストン

- マイルストン名

Claim

- 請求番号
- 事故現場
- レポート番号

顧客資産

- 住所
- 先取特権者名

保険契約

- 保険契約番号
- サービスオフィス
- ユニバーサル保険契約番号

個人ライフイベント

- イベントの名前

証券保有

- Name

方法: [設定] の [暗号化ポリシー] ページで [項目を暗号化] をクリックします。次に [編集] をクリックして、項目を選択します。項目に確率的または確定的のいずれかの暗号化スキームを適用できます。

関連トピック:

保険契約者の機密情報の保護

Financial Services Cloud アップグレードガイド: Financial Services Cloud の保険の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用した、より多くの項目のデータの同期

Shield Platform Encryption を使用すると、Salesforce カスタマーサポートへの問い合わせ回数が 1 回減ります。セルフサービスバックグラウンド暗号化プロセスで、有効な鍵素材が説明項目、ロングテキストエリア項目、およびリッチテキストエリア項目に適用されるようになりました。また、添付コンテンツ本文項目についての統計を表示し、有効な鍵素材を添付データと同期できるようになりました。暗号化ポリシーを最新の状態に維持することが容易になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法:[設定]の[暗号化統計およびデータ同期]ページの左ペインでオブジェクト種別またはカスタムオブジェクトを選択します。次に、[同期]をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:バックグラウンド暗号化サービスによるデータ暗号化の同期(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API を使用したプログラムでのプラットフォーム暗号化設定の有効化

プログラムで組織を設定するときに、メタデータ API の新しい Boolean 項目を使用して、Shield Platform Encryption 設定をすばやく有効化します。[設定]の[高度な設定]ページと開発者環境との間を切り替える必要はもうありません。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法:新しい EncryptionKeySettings と PlatformEncryptionSettings で Boolean 項目を使用して、次のことを行います

- キャッシュのみの鍵サービスを有効化する
- 顧客が指定した鍵での鍵派生プロセスを除外する
- キャッシュのみの鍵コールアウトでのリプレイ検出を有効化する
- インストール済みの管理パッケージのカスタム項目に対する暗号化を有効化する
- 鍵管理タスクに対して 2 つ目の認証方法を要求する
- 暗号化ポリシータスクに対して「暗号化鍵の管理」権限を要求する
- 確定的暗号化スキームを有効化する
- 項目履歴およびフィード追跡の値に対するバックグラウンド暗号化プロセスを有効化する
- 変更データキャプチャイベントに対する Shield Platform Encryption を有効化する

これらの設定の詳細と、これらを `true` に設定した場合の影響についての詳細は、Salesforce の『メタデータ API 開発者ガイド』の PlatformEncryptionSettings メタデータ種別と EncryptionKeySettings メタデータ種別を参照してください。

関連トピック:

メタデータ API で公開される設定

メタデータ API 開発者ガイド: EncryptionKeySettings (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API 開発者ガイド: PlatformEncryptionSettings (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

スキニーテーブルを使用した暗号化データの絞り込みの強化 (正式リリース)

検索条件を維持する、スキニーテーブルの確定的暗号化サポートが正式リリースされ、保存時に暗号化されたデータをより適切に絞り込むことができるようになりました。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [高度な設定] ページで [確定的暗号化] を有効にして、確定的暗号化を標準項目またはカスタム項目に適用します。スキニーテーブルが有効になっていると、必要に応じて自動的に作成されて使用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 確定的暗号化を使用した暗号化データの絞り込み (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザ自身によるチャットトランスクリプトの暗号化の有効化

エージェントと顧客間のテキスト化されたチャットに対して Shield Platform Encryption を有効にするときの余分な手順がなくなりました。これで、Salesforce カスタマーサポートに問い合わせる必要はありません。Shield Platform Encryption は [本文] 項目とチャットの [スーパーバイザトランスクリプト本文] 項目で使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 会話の入力オブジェクトにアクセスするには、Digital Engagement ライセンスが必要です。

方法: 暗号化をチャット項目に適用するには、[スーパーバイザトランスクリプト本文] 項目を LiveChatTranscript レコードホームレイアウトに追加する必要があります。その後、[設定] の [暗号化ポリシー] ページに移動します。[項目を暗号化] をクリックし、[編集] をクリックして、暗号化をチャット項目に適用します。

イベントモニタリング: リアルタイムイベントモニタリングと拡張トランザクションセキュリティの正式リリース、従来のトランザクションセキュリティの廃止

正式リリースされたリアルタイムイベントモニタリングにより、組織で何が起きているかを監視することが容易になりました。イベントデータを保存して、後で詳しく調べることができるようにしますか? これを 6 か月間できるようになりました。拡張トランザクションセキュリティを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してトリガするアクションを作成できます。従来のトランザクションセキュリティフレームワークは今後廃止されるため、この拡張ポリシーの作成をすぐに開始することをお勧めします。ポリシー内での同期のコーディングには、新しい Apex インターフェースを使用します。

このセクションの内容:

イベントデータのほぼリアルタイムのストリーミングおよび保存 (正式リリース)

新しいリアルタイムイベントモニタリング機能を使用すると、イベントデータのストリーミングと保存、および Salesforce のいくつかの新しいイベントのトランザクションセキュリティポリシーの作成をリアルタイムですべて行うことができます。リアルタイムイベントモニタリングを有効化すると、拡張トランザクションセキュリティを自動的に取得します。これは、トランザクションセキュリティポリシーを作成するための、Salesforce の最も優れた最新の機能です。イベントマネージャを使用して、組織のイベントを表示および管理します。

オブジェクトを保護するためのトランザクションセキュリティポリシーの作成 (正式リリース)

Salesforce のトランザクションセキュリティ機能の最新のインカーネーションである拡張トランザクションセキュリティを使用して、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。従来のトランザクションセキュリティフレームワークでは、いくつかの標準オブジェクトに対してのみアクションを実行するポリシーを作成できます。

AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent イベントオブジェクトが使用不可に

AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent イベントオブジェクトは Summer '19 ではベータでした。これらのオブジェクトに関するすべてのドキュメントを削除しました。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行 (重要な更新)

Salesforce の新しい拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、従来のフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。

トランザクションセキュリティポリシーでの非同期 Apex のコード記述

新しい `TxnSecurity.AsyncCondition` Apex インターフェースを使用して、拡張トランザクションセキュリティポリシーに非同期 Apex のコードを記述します。Apex コールアウトは、拡張トランザクションセキュリティフレームワークではサポートされていません。

ベータと正式リリース間の条件ビルダーの機能強化の確認

条件ビルダーでトランザクションセキュリティポリシーを作成するための条件を変更しました。その結果、使用可能な項目は、ポリシーの作成に、より関連するものになります。削除された条件を参照するベータポリシーは GA バージョンで実行できないため、フェイルクローズ動作が発生し、アクセスがブロックされます。円滑なアップグレードを実行するには、このような種類のベータポリシーを削除します。

アドオンサブスクリプションに関係なくトランザクションセキュリティポリシーを ISV パッケージに含める

`TxnSecurity.EventCondition` (拡張フレームワーク)、`TxnSecurity.PolicyCondition` (従来のフレームワーク)、および条件ビルダーで作成されたポリシーの 3 種類のトランザクションセキュリティポリシーの実装が管理パッケージとロック解除済みパッケージで完全にサポートされるようになりました。ISV パートナーは、登録者組織にインストールされたアドオンサブスクリプションに関係なく、管理パッケージにトランザクションセキュリティポリシーを含めることができます。

ユーザが非アクティブの場合に従来のトランザクションセキュリティポリシーが失敗しなくなる

以前は、実行ユーザが非アクティブの場合、従来のトランザクションセキュリティポリシー (`TxnSecurity.PolicyCondition` を使用して実装) はフェイルクローズしていました。自動化プロセスユーザはポリシーを常に実行できるようになりました。これは、より適切な動作です。実行ユーザが非アクティブの場合も、ポリシーは失敗しません。

LoginEventStream オブジェクトでのログイン失敗のキャプチャ

以前のリリースでは、LoginEventStream オブジェクトでは有効なログインのみがキャプチャされました。LoginEventStream オブジェクトでログイン失敗もキャプチャされるようになったため、より多くの LoginEventStream エントリが表示されます。この動作は LoginEvent オブジェクトにも適用され、ログイン履歴との一貫性が維持されます。

EventLogFile での Apex REST イベントに関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい Apex REST API イベント種別は、すべての Apex REST API リクエストに関する情報を取得します。

EventLogFile での Apex 実行イベントデータの粒度の改善

Lightning コンポーネントの Apex 制限は、アクションごとに適用されるようになりました。以前は、要求内で一括処理されるすべてのアクションに Apex の制限が適用されました。この変更は、要求バッチではなくコンポーネントアクションごとに生成されるようになった Apex 実行イベント種別のイベントデータに影響します。

メタデータ API を使用したイベントとストリーミング API の設定

新しい EventSettings メタデータ API 種別を使用して、イベントモニタリングを設定し、たとえば、イベントデータの削除を許可します (`enableDeleteMonitoringData`)。プラットフォームイベントとストリーミング API に関連する設定を定義することもできます。

イベントデータのほぼリアルタイムのストリーミングおよび保存 (正式リリース)

新しいリアルタイムイベントモニタリング機能を使用すると、イベントデータのストリーミングと保存、および Salesforce のいくつかの新しいイベントのトランザクションセキュリティポリシーの作成をリアルタイムですべて行うことができます。リアルタイムイベントモニタリングを有効化すると、拡張トランザクションセキュリティを自動的に取得します。これは、トランザクションセキュリティポリシーを作成するための、Salesforce の最も優れた最新の機能です。イベントマネージャを使用して、組織のイベントを表示および管理します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。イベントを表示または管理するには、「データ漏洩検出イベントを表示」ユーザ権限を有効にします。

理由: リアルタイムイベントモニタリングを使用すると、Salesforce の次のストリーミングイベントに登録できます。

- ApiEventStream
- LightningUriEventStream
- ListViewEventStream
- LoginAsEventStream
- LoginEventStream
- LogoutEventStream
- ReportEventStream
- UriEventStream
- MobileEmailEvent (このリリースで追加)
- MobileEnforcedPolicyEvent (このリリースで追加)
- MobileScreenshotEvent (このリリースで追加)
- MobileTelephonyEvent (このリリースで追加)

このイベントデータを最大 6 か月間保存することもできます。次の Big Object には、それぞれの EventStream オブジェクトのイベントデータが保存されます。

- ApiEvent
- IdentityVerificationEvent (このリリースで追加)
- LightningUriEvent
- ListViewEvent
- LoginAsEvent
- LoginEvent
- LogoutEvent
- ReportEvent
- UriEvent

拡張トランザクションセキュリティを使用して、この新しいイベントオブジェクトのサブセットのトランザクションセキュリティポリシーを作成します。

ベータと正式リリース間でイベントをストリーミングする方法を変更しました。この結果、Salesforceが組織をWinter'20リリースにアップグレードしている間に、ユーザはイベントチャネルから登録解除する必要があります。その後、アップグレードが完了したら再登録します。

リアルタイムイベントモニタリングのアーキテクチャはEventLogFileオブジェクトのアーキテクチャとは異なります。そのため、新しいリアルタイムイベントモニタリング機能はEventLogFile機能に影響せず、引き続き以前と同様に動作します。同様に、EventLogFileデータを視覚化するEvent Monitoring Analyticsアプリケーションも新しいリアルタイムイベントモニタリング機能の影響を受けません。

ベータ以降、リアルタイムイベントモニタリングオブジェクトを使用できる最小APIバージョンを変更しました。新しい最小のAPIバージョンは次のとおりです。

- LoginEvent 36.0
- LogoutEventStream 41.0
- その他のオブジェクト: 46.0

方法:イベントマネージャを使用してイベントの表示と管理を行うには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「イベントマネージャ」と入力し、[イベントマネージャ]を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Real-Time Event Monitoring (リアルタイムイベントモニタリング) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

オブジェクトを保護するためのトランザクションセキュリティポリシーの作成 (正式リリース)

Salesforceのトランザクションセキュリティ機能の最新のインカーネーションである拡張トランザクションセキュリティを使用して、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。従来のトランザクションセキュリティフレームワークでは、いくつかの標準オブジェクトに対してのみアクションを実行するポリシーを作成できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっているEnterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning ExperienceとSalesforce Classicに適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成および管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を有効化します。

理由: 拡張トランザクションセキュリティを使用すると、次のイベントに対してトリガするトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。

- ApiEvent
- ListViewEvent
- LoginEvent
- ReportEvent

コーディングを必要としない新しいポイント&クリック UI ツールである条件ビルダーを使用して、ポリシーを作成することもできます。あるいは、Apex に精通していてプログラミングが得意な場合は、Apex の `TxnSecurity.EventCondition` インターフェースを使用することができます。これを使用すると、拡張セキュリティポリシー内ですべての素晴らしい機能を容易にプログラミングできます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*トランザクションセキュリティ*」と入力し、[トランザクションセキュリティポリシー] を選択します。

トランザクションセキュリティポリシーを作成するには、[新規]をクリックします。ポリシーを宣言的に作成するには、[条件ビルダー] を選択します。Apex でポリシーを作成するには、**[Apex]** > [拡張トランザクションセキュリティ] を選択します。

警告: 従来のトランザクションセキュリティフレームワークで作成されたセキュリティポリシーは、新しい拡張フレームワークで動作するように設計されていません。古いポリシーを使用すると、新しいイベントのキャプチャに悪影響が及ぶ可能性があります。たとえば、イベント種別が[データのエクスポート]または[リソースアクセス]である従来のポリシーが失敗した場合、同じレポート操作でのすべてのリアルタイム ReportEvent キャプチャも失敗します。この理由で従来のトランザクションセキュリティフレームワークは廃止されます。従来のポリシーは新しいフレームワークに移行する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Enhanced Transaction Security Policy Enforcement (拡張トランザクションセキュリティポリシーの適用) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの従来のポリシーの移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent イベントオブジェクトが使用不可に

AdminSetupEventStream と AdminSetupEvent イベントオブジェクトは Summer '19 ではベータでした。これらのオブジェクトに関するすべてのドキュメントを削除しました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行 (重要な更新)

Salesforceの新しい拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、従来のフレームワークはSummer '20リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Summer '20 リリースでは、従来のトランザクションセキュリティポリシーフレームワークは、すべてのSalesforce組織で廃止される予定です。従来のフレームワークが廃止されると、従来のポリシーは完全に無効になり、それらを更新することはできません。Summer '20 リリースまで、従来のポリシーは引き続き正常に機能します。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成および管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの参照」ユーザ権限を有効化します。

方法: セキュリティポリシーが従来のフレームワークを使用しているかどうかを判断するには、それらに関連付けられている Apex クラスを確認します。従来のポリシーは `TxnSecurity.PolicyCondition` インターフェースを実装しています。

従来のポリシーを移行するには、以前の動作を模倣するポリシーを新しい拡張フレームワークで作成します。従来のポリシーは新しいフレームワークでは実行できませんが、引き続き表示されるため、そのロジックを調べて新しいポリシーで再現することができます。

ポイント&クリックツールを使用したい場合、条件ビルダーには、新しいフレームワークでポリシーを作成するためのほとんどの機能が用意されています。コーディングを行う場合や、条件ビルダーで提供されていない機能を必要とする場合は、新しい `TxnSecurity.EventCondition` インターフェースを使用して Apex クラスを実装します。

移行や発生した問題に関するフィードバックをお寄せください。このフィードバックにより、すべてのイベントモニタリングユーザの移行を改善することができます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Official: Shield」グループに投稿してください。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティの更新
- *Salesforce* ヘルプ: 拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの従来のポリシーの移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Enhanced Transaction Security Policy Enforcement (拡張トランザクションセキュリティポリシーの適用) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

トランザクションセキュリティポリシーでの非同期 Apex のコード記述

新しい `TxnSecurity.AsyncCondition` Apex インターフェースを使用して、拡張トランザクションセキュリティポリシーに非同期Apexのコードを記述します。Apexコールアウトは、拡張トランザクションセキュリティフレームワークではサポートされていません。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および新しい拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用する顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成および管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を有効化します。

方法: `TxnSecurity.AsyncCondition` インターフェースにメソッドはありません。これに加えて `TxnSecurity.EventCondition` を使用して、実装コードで非同期 Apex が使用されていることを Salesforce に警告します。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: TxnSecurity 名前空間

Trailhead: 非同期 Apex

ベータと正式リリース間の条件ビルダーの機能強化の確認

条件ビルダーでトランザクションセキュリティポリシーを作成するための条件を変更しました。その結果、使用可能な項目は、ポリシーの作成に、より関連するものになります。削除された条件を参照するベータポリシーは GA バージョンで実行できないため、フェイルクローズ動作が発生し、アクセスがブロックされます。円滑なアップグレードを実行するには、このような種類のベータポリシーを削除します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成および管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を有効化します。

方法: このテーブルには、すべての条件変更が含まれます。

イベント種別	ベータと GA 間の条件の変更
ApiEvent	削除: ブラウザ
LoginEvent	• 追加: 国 • 削除: ログイン地理情報データ ID
ReportEvent	削除: ログイン履歴 ID

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Build a Transaction Security Policy with Condition Builder (条件ビルダーを使用したトランザクションセキュリティポリシーの作成) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アドオンサブスクリプションに関係なくトランザクションセキュリティポリシーを ISV パッケージに含める

`TxnSecurity.EventCondition` (拡張フレームワーク)、`TxnSecurity.PolicyCondition` (従来のフレームワーク)、および条件ビルダーで作成されたポリシーの 3 種類のトランザクションセキュリティポリシーの実装が管理パッケージとロック解除済みパッケージで完全にサポートされるようになりました。ISV パートナーは、登録者組織にインストールされたアドオンサブスクリプションに関係なく、管理パッケージにトランザクションセキュリティポリシーを含めることができます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: 以前は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンのいずれかを持つ組織でのみ、`TxnSecurity.PolicyCondition` インターフェースを実装するクラスを参照できました。結果として、これらのアドオンがない登録者組織にクラスがインストールされている場合、ISV パートナーはクラスを管理パッケージに含めることができませんでした。

ユーザが非アクティブの場合に従来のトランザクションセキュリティポリシーが失敗しなくなる

以前は、実行ユーザが非アクティブの場合、従来のトランザクションセキュリティポリシー (`TxnSecurity.PolicyCondition` を使用して実装) はフェイルクローズしていました。自動化プロセスユーザはポリシーを常に実行できるようになりました。これは、より適切な動作です。実行ユーザが非アクティブの場合も、ポリシーは失敗しません。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

重要: Summer '20 リリースでは、従来のトランザクションセキュリティポリシーフレームワークは、すべての Salesforce 組織で廃止される予定です。従来のフレームワークが廃止されると、従来のポリシーは完全に無効になります。そのため、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行してください。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成および管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を有効化します。

LoginEventStream オブジェクトでのログイン失敗のキャプチャ

以前のリリースでは、LoginEventStream オブジェクトでは有効なログインのみがキャプチャされました。LoginEventStream オブジェクトでログイン失敗もキャプチャされるようになったため、より多くの LoginEventStream エントリが表示されます。この動作は LoginEvent オブジェクトにも適用され、ログイン履歴との一貫性が維持されます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。イベントを表示または管理するには、「データ漏洩検出イベントを表示」権限を有効にします。

関連トピック:

プラットフォームイベント開発者ガイド: LoginEventStream

プラットフォームイベント開発者ガイド: LoginEvent

EventLogFile での Apex REST イベントに関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい Apex REST API イベント種別は、すべての Apex REST API リクエストに関する情報を取得します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: Apex REST API イベント種別

EventLogFile での Apex 実行イベントデータの粒度の改善

Lightning コンポーネントの Apex 制限は、アクションごとに適用されるようになりました。以前は、要求内で一括処理されるすべてのアクションに Apex の制限が適用されました。この変更は、要求バッチではなくコンポーネントアクションごとに生成されるようになった Apex 実行イベント種別のイベントデータに影響します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

サーバ側アクションの Apex 制限到達を予測しやすい

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: Apex 実行イベント種別

メタデータ API を使用したイベントとストリーミング API の設定

新しい EventSettings メタデータ API 種別を使用して、イベントモニタリングを設定し、たとえば、イベントデータの削除を許可します (`enableDeleteMonitoringData`)。プラットフォームイベントとストリーミング API に関連する設定を定義することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリング設定は、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

メタデータ API 開発者ガイド: 設定

その他のセキュリティ変更: Salesforce Edge、設定の機能強化、TLS 1.2 の適用、インスタンスのない Sandbox

Salesforce は、[私のドメイン] とカスタムドメインを持つユーザを Salesforce Edge に移行しています。[ドメイン] 設定ページに、より詳細な情報が表示されるようになりました。また、新しいセッションセキュリティレベルのポリシーで特定の [設定] ページとオブジェクトへのアクセスが制御されるようになりました。すべての HTTPS 接続で TLS 1.2 が必要になります。また、インスタンス名が [私のドメイン] の Sandbox URL から削除される予定です。

このセクションの内容:

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新)

[私のドメイン] に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。

Salesforce Edge を介したカスタムドメイン要求の加速

Salesforce はバックグラウンドでカスタムドメインを Salesforce Edge に移行することで、カスタムドメインの要求を加速しています。この移行では、機械学習によりパフォーマンスが向上します。この移行について、ユーザは何も行う必要はありません。サイトとコミュニティの同じカスタムドメインアドレスを引き続き使用してください。残りは Salesforce が自動的に処理します。

ドメインに関する詳細の取得

[ドメイン] 設定ページが更新され、より具体的な HTTPS オプションと HTTPS オプションの待機中の変更に関する情報が表示されるようになりました。カスタムドメインまたは [私のドメイン] を設定しているユーザは、このページを使用してそれらを管理します。

セッションセキュリティレベルポリシーを使用した権限セット、プロファイル、およびパスワードリセットへのアクセスの管理

ユーザが特定の [設定] ページまたはオブジェクトにアクセスする前に、ユーザに高保証セッションレベルを要求します。機密情報を扱う一部の操作では、ユーザを完全にブロックすることもできます。セッションセキュリティレベルポリシーを変更することによって、権限セット、プロファイル、パスワードリセット、データエクスポート、および状態チェックへのアクセスを管理します。

HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce 組織との間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリース済みの重要な更新)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

ゲストユーザプロファイルの保護

Salesforce の最小アクセスの法則に準拠するためにゲストユーザアクセスが改善されました。ゲストユーザデータアクセスおよび表示に関するストアのすべての変更を確認してください。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新)

[私のドメイン] に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は Winter '20 で承認できます。承認しない場合、この更新は 2020 年 7 月 13 日に自動的に有効化されます。

対象ユーザ: [私のドメイン] またはカスタムドメインを持つ顧客のみを Salesforce Edge に移行できます。現在、Salesforce Government Cloud 組織は Salesforce Edge への移行から除外されています。

方法: この重要な更新を承認するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送] の横にある [承認] をクリックします。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: What is Salesforce Edge? (Salesforce Edge とは?)
- *Salesforce ヘルプ*: [私のドメイン] サブドメインの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 重要な更新とセキュリティの更新

Salesforce Edge を介したカスタムドメイン要求の加速

Salesforce はバックグラウンドでカスタムドメインを Salesforce Edge に移行することで、カスタムドメインの要求を加速しています。この移行では、機械学習によりパフォーマンスが向上します。この移行について、ユーザは何も行う必要はありません。サイトとコミュニティの同じカスタムドメインアドレスを引き続き使用してください。残りは Salesforce が自動的に処理します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Government Cloud 組織向けのカスタムドメインを除き、すべてのカスタムドメインは Salesforce Edge に移動されます。

関連トピック:

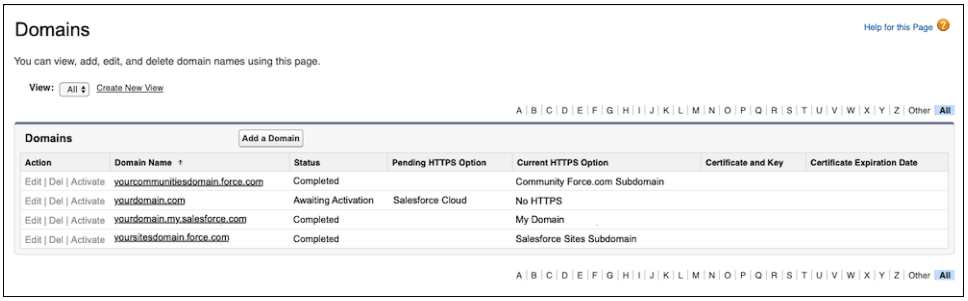
- *ナレッジ記事*: What is Salesforce Edge? (Salesforce Edge とは?)
- *Salesforce ヘルプ*: コミュニティのカスタムドメインの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: カスタム Salesforce サイトドメインの登録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドメインに関する詳細の取得

[ドメイン] 設定ページが更新され、より具体的な HTTPS オプションと HTTPS オプションの待機中の変更に関する情報が表示されるようになりました。カスタムドメインまたは [私のドメイン] を設定しているユーザは、このページを使用してそれらを管理します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: [現在の HTTPS オプション] 列に、各ドメイン ([私のドメイン] や Salesforce サイトのサブドメインなど) のオプションの説明が表示されるようになりました。新しい [待機中の HTTPS オプション] 列には、予定されている変更 (Salesforce Cloud へのカスタムドメインの移行など) が表示されます。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*サイトおよびドメイン*」と入力し、[ドメイン] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: [私のドメイン] サブドメインの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コミュニティのカスタムドメインの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: カスタム Salesforce サイトドメインの登録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

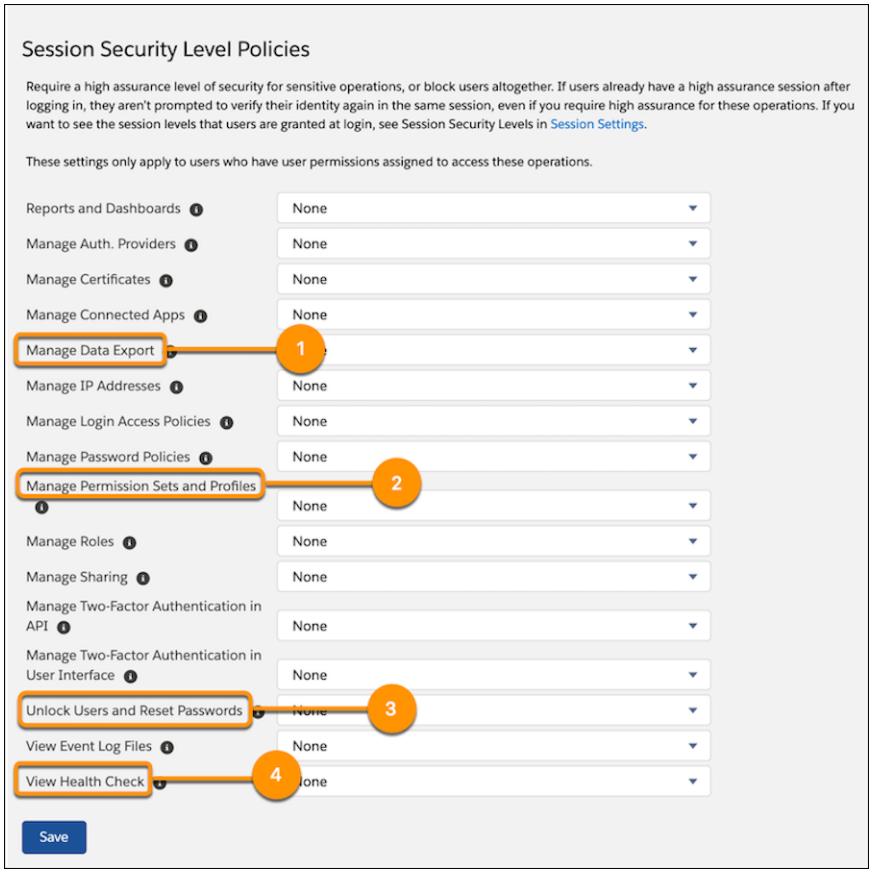
セッションセキュリティレベルポリシーを使用した権限セット、プロファイル、およびパスワードリセットへのアクセスの管理

ユーザが特定の [設定] ページまたはオブジェクトにアクセスする前に、ユーザに高保証セッションレベルを要求します。機密情報を扱う一部の操作では、ユーザを完全にブロックすることもできます。セッションセキュリティレベルポリシーを変更することによって、権限セット、プロファイル、パスワードリセット、データエクスポート、および状態チェックへのアクセスを管理します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 次のセキュリティレベルポリシーが新しく追加されました。

- データのエクスポートを管理 (1) — [データのエクスポート] 設定ページへのアクセスを制御します。
- 権限セットおよびプロファイルを管理 (2) — [権限セット] および [プロファイル] 設定ページと関連オブジェクトへのアクセスを制御します。
- ユーザのロック解除およびパスワードのリセット (3) — [ユーザ] 設定ページでは、パスワードのリセットとユーザのロック解除を行う権限を制御します。
- 状態チェックを表示 (4) — [状態チェック] 設定ページへのアクセスを制御します。



方法:[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*ID 検証*」と入力し、[ID検証]を選択します。[セッションセキュリティレベルポリシー]セクションで設定を更新します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:機密情報の操作への高保証セッションセキュリティの要求(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce 組織との間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、2019 年 10 月 25 日に本番組織で適用されます。この日付以降に作成された組織では、デフォルトで TLS 1.2 が必須になります。他の実装日については、ナレッジ記事「Salesforce による TLS 1.1 の無効化」を参照してください。

方法: この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、エンドツーエンドの互換性を確認してから本番組織で有効にすることをお勧めします。

2019 年 10 月 25 日より前にこの重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。HTTPS 接続に TLS 1.2 を必須にするには、[有効化] をクリックします。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Salesforce による TLS 1.1 の無効化
- *Summer '19 リリースノート*: HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新)
- コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)
- 重要な更新とセキュリティの更新

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になります。

方法: 既存の Sandbox 組織がある場合、それらの Sandbox 組織で重要な更新を有効にします。後で作成された Sandbox 組織や更新された Sandbox 組織でこの更新を有効にするには、この重要な更新を本番組織で有効にします。この重要な更新を本番組織で有効にすると、新しい Sandbox 組織と更新された Sandbox 組織にその更新が適用されます。

この重要な更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の安定化] で [有効化] をクリックします。

関連トピック:

- *Summer '18 リリースノート*: Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 重要な更新とセキュリティの更新

ゲストユーザプロファイルの保護

Salesforce の最小アクセスの法則に準拠するためにゲストユーザアクセスが改善されました。ゲストユーザデータアクセスおよび表示に関するストアのすべての変更を確認してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

関連トピック:

ゲストユーザ: アクセス制限、ゲストユーザの非公開の組織のデフォルト、新しい共有ルール

リリース: 新しい変更セットコンポーネント

新しいコンポーネントを変更セットに使用できます。変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。

CMS カスタムコンテンツタイプ
Salesforce CMS で使用するカスタムコンテンツタイプの定義を表します。カスタムコンテンツタイプは、定義済みの項目を含むフォームとして表示されます。

プラットフォームイベントチャネルメンバー
標準またはカスタムチャネルの変更データキャプチャ通知に選択されたエンティティを表します。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの構築

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネントのオープンソース、カスタムタブとしての Lightning Web コンポーネント

Lightning コンポーネントフレームワークはオープンソースになり、あらゆるプラットフォームでエンタープライズ対応の Web コンポーネントを作成できるようになりました。Salesforce Platform では、Lightning Experience アプリケーションと Salesforce アプリケーションのカスタムタブとして Lightning Web コンポーネントを追加できます。重要な更新もいくつかあります。

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Einstein プラットフォーム: 予測インサイトの詳細

組織内で Einstein 予測ビルダーなどの Einstein AI 機能を使用する方法を拡張する必要がありますか? Einstein プラットフォームは、Einstein 予測ビルダーやその他の多くの Einstein が強力な AI ジョブを実行するために使用する Salesforce レイヤです。新しい Einstein プラットフォーム API を使用して、予測インサイトにアクセスし、独自の AI ソリューションに Einstein 機能を適用します。

Visualforce: Lightning メッセージチャネルの導入 (開発者プレビュー)、URL の変更

Lightning メッセージチャネルを使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。以前のサイトの HTTP のみの URL とコミュニティの Sandbox は廃止され、Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除できます。

Apex

項目レベルのデータ保護の `Security.stripInaccessible` セキュリティ機能はパイロットからベータに移行され、サブクエリをサポートし、本番組織で使用できます。長時間要求の同時実行数制限を計算するときに、コールアウト処理時間は除外されます。Apex には、数式項目を再計算する System メソッド、およびクラスのインスタンス化なしでデータ型の互換性を検出する Type メソッドが導入されています。新しい ApexSettings メタデータ型は Apex テストを増強します。

API

重要な更新「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は Winter '20 で適用されます。SOQL クエリを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間のリレーションを取得します。サービス保護のために必要になった場合、メタデータ API は複数の同時取得ジョブの一部を自動的にキューに追加します。Bulk API 2.0 で一括クエリジョブがサポートされるようになりました。

カスタムメタデータ型: 強化された保護、より詳細なアクセス制御

プロファイルと権限セットを使用して、パッケージ内のカスタムメタデータ型を保護し、それらへのアクセスを制御します。

パッケージ化: 第二世代管理パッケージの正式リリース

第二世代管理パッケージ (2GP) を使用して、新しい 2GP パッケージを AppExchange にリストおよび配布します。より多くのメタデータ型を含めたり、パッケージのパッチバージョンやインストール後スクリプトを作成したりできます。

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

AppExchange パートナー: 管理パッケージおよび AppExchange マーケットプレイスの分析、および ISV ハンマー パッケージアップグレードのテスト (ベータ)

顧客が AppExchange リストをどのように検索し、使用しているかを Marketplace Analytics ダッシュボードで確認します。App Analytics データを調べて、登録者が管理パッケージをどのように使用しているかを確認します。ISV ハンマーを使用して、登録者組織のコピーでパッケージアップグレードのインストールをテストします。登録者によって作成された Apex テストを使用してパッケージの機能をテストします。

変更データキャプチャ: メタデータ API と Tooling API の機能強化、イベント強化、変更された項目

メタデータ API でのチャネルメンバーを詳細に制御し、Tooling API でチャネルとメンバーにアクセスします。外部 ID 項目などの項目を使用してイベントメッセージを強化し、変更された項目を簡単に検出します。

プラットフォームイベント: CometD のイベント検索条件と REST API での公開制限

CometD クライアントで指定したイベント項目値に一致するイベントメッセージを受け取り、REST API でのイベント公開の使用量を監視します。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネントのオープンソース、カスタムタブとしての Lightning Web コンポーネント

Lightning コンポーネントフレームワークはオープンソースになり、あらゆるプラットフォームでエンタープライズ対応の Web コンポーネントを作成できるようになりました。Salesforce Platform では、Lightning Experience アプリケーションと Salesforce アプリケーションのカスタムタブとして Lightning Web コンポーネントを追加できます。重要な更新もいくつかあります。

メモ: 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか?新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。

このセクションの内容:

Lightning Web コンポーネント: オープンソース

Lightning コンポーネントフレームワークはオープンソースになり、Salesforce だけではなくあらゆるプラットフォームでソースコードを調べたり、ニーズに合わせてフレームワークをカスタマイズしたり、エンタープライズ対応の Web コンポーネントを作成したりできるようになりました。

カスタムタブとしての Lightning Web コンポーネントの追加

Lightning Experience アプリケーションと Salesforce アプリケーションのカスタムタブとして Lightning Web コンポーネントを追加します。

DOM API の変更

Shadow DOM は、Web コンポーネントの内部ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) 構造をカプセル化する標準です。内部 DOM 構造は、シャドウツリーと呼ばれます。Winter '20 では、コードで `document` または `document.body` を使用して Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーにアクセスすることはできません。たとえば、テスト内のコードで `document.querySelector()` をコールして Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーのノードを選択することはできません。

Jest を使用したテストの新しいパッケージ名

名前を標準化し、Salesforce DX を使用したコンポーネント開発へのつながりを強調するために、パッケージ `lwc-jest` の名前が `sfdx-lwc-jest` に変更されました。

Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)

Lightning Web コンポーネントでローカル開発が提供されるようになり、コンポーネントモジュールを構築し、コンポーネントを組織に公開せずに変更をライブで表示できるようになりました。新しい Salesforce CLI プラグイン `lwc-dev-server` を使用して、コンピュータで Lightning Web コンポーネント対応のサーバを設定および実行します。

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。

サーバ側アクションの Apex 制限到達を予測しやすい

Lightning コンポーネントの Apex 制限は、アクションごとに適用されるようになりました。これまで、Apex 制限は 1 つの要求 (XHR) でまとめて一括処理される (ボックスカーに入れられた) すべてのアクションに適用されていました。

同じパッケージの公開 Apex メソッドのみにアクセスできる Lightning コンポーネント

両方のパッケージが同じ名前空間にある場合でも、パッケージからインストールされた Lightning コンポーネントは、別のパッケージの Apex クラスから公開 Apex メソッドをコールすることはできません。Lightning コンポーネントから参照される Apex メソッドで `@NamespaceAccessible` Apex アノテーションは使用できません。この変更は、Lightning コンポーネントから参照される Apex クラスの他のアクセス修飾子 (`global` など) の使用方法に影響します。この変更は、名前空間ごとに複数のパッケージが許可される、ロック解除済みの第二世代管理パッケージにのみ影響します。

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

`ui` コンポーネントは、Summer'21 ですべての Salesforce 組織で廃止が予定されています。代わりに、`lightning` 名前空間で類似するコンポーネントを使用してください。従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

RTL 言語の Aura CSS のフリップの上書き

Salesforce の言語設定が右から左へ記述される (RTL) 言語に設定されている場合、フレームワークは `left` や `border-left` などのプロパティ名をそれぞれ `right` や `border-right` にフリップします。必要であれば、カスタム Aura コンポーネントで CSS の自動フリップを変更できます。ただし、ほとんどの場合、デフォルトのフリップが必要であるため、何もする必要はありません。

Lightning Locker の API バージョンの選択

Lightning Locker で使用される API バージョンを選択できます。デフォルトは現在の API バージョンで、これには最新の Locker セキュリティ機能強化が含まれます。カスタムコンポーネントが古いバージョンの Locker にのみ準拠している場合は、古い API バージョンを選択します。コンポーネントが現在のセキュリティ機能強化に準拠するようになったら、設定を現在の API バージョンに変更できます。

ユーザのアプリケーションへの直接移動

ユーザをアプリケーション内の特定のページに移動させる Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントを開発します。

重要な更新: @AuraEnabled Apex クラスをデフォルトで with sharing に設定、@AuraEnabled Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他

重要な更新をいくつか追加し、その他に変更を行いました。

関連トピック:

- Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)
- Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド)

Lightning Web コンポーネント: オープンソース

Lightning コンポーネントフレームワークはオープンソースになり、Salesforce だけではなくあらゆるプラットフォームでソースコードを調べたり、ニーズに合わせてフレームワークをカスタマイズしたり、エンタープライズ対応の Web コンポーネントを作成したりできるようになりました。

理由: 以前は、アプリケーションの異なる側面を作成するために、異なるフレームワークを使用する必要がありました。たとえば、Salesforce のアプリケーションの従業員向けの側面は Aura を使用して作成し、同じアプリケーションの顧客向けの側面は React、Angular、または Vue を使用して作成し、それを Heroku やその他のプラットフォーム上でリリースするなどしていました。今日では、Lightning Web コンポーネントを使用してアプリケーションの両側を作成できます。

これには大きな利点があります。いくつかのフレームワークではなく 1 つのフレームワークについて学習できます。アプリケーション間でコードを共有できます。Web 標準を基盤とし、最新のパターンやベストプラクティスに基づいた最先端のフレームワークを使用できます。

方法: プラットフォーム外の Lightning Web コンポーネントを開発するには、lwc.dev を参照してください。オープンソースコードに貢献するには、Lightning Web コンポーネントの GitHub リポジトリを参照してください。

プラットフォーム上の Lightning Web コンポーネントを開発するには、『Salesforce Lightning Web Components Developer Guide (Salesforce Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)』を参照してください。

カスタムタブとしての Lightning Web コンポーネントの追加

Lightning Experience アプリケーションと Salesforce アプリケーションのカスタムタブとして Lightning Web コンポーネントを追加します。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法:

1. コンポーネントの設定ファイルに `lightning__Tab` 対象を追加します。
   `<component>.js-meta.xml``.js-meta.xml` 設定ファイルは、カスタムタブでの使用を許可する設定も含め、コンポーネントのメタデータ値を定義します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LightningComponentBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
    <targets>
        <target>lightning__Tab</target>
    </targets>
</LightningComponentBundle>
```

2. このコンポーネントのカスタムタブを作成します。
3. カスタムタブにコンポーネントを表示する方法は次のとおりです。
   - Lightning Experience アプリケーションの場合は、コンポーネントをアプリケーションランチャーに追加します。

- Salesforce モバイルアプリケーションの場合は、コンポーネントを Salesforce アプリケーションナビゲーションメニューに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience アプリケーションのカスタムタブとしての Lightning コンポーネントの追加(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Salesforce アプリケーションのカスタムタブとしての Lightning コンポーネントの追加(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

DOM API の変更

Shadow DOM は、Web コンポーネントの内部ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) 構造をカプセル化する標準です。内部 DOM 構造は、シャドウツリーと呼ばれます。Winter '20 では、コードで `document` または `document.body` を使用して Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーにアクセスすることはできません。たとえば、テスト内のコードで `document.querySelector()` をコールして Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーのノードを選択することはできません。

理由: HTML と JavaScript で使用される DOM には基本的な欠陥があります。バックエンド用に使用されるプログラミング言語とは異なり、DOM にはカプセル化がありません。

Shadow DOM Web 標準は、カプセル化を提供するために導入されました。DOM をカプセル化すると、開発者はコンポーネントを共有し、コンポーネントが任意の HTML、CSS、JavaScript によって操作されるのを防ぐことができます。

Shadow DOM の仕様では、シャドウツリーの要素には、従来の DOM クエリ方法ではアクセスできません。Lightning Web コンポーネントは、コンポーネント自体のシャドウツリーにアクセスするために、`this.template.querySelector()` を使用します。

方法: Winter '20 では、Shadow DOM セマンティクスに従うように `Document.prototype` と `HTMLBodyElement.prototype` が更新されました。コンポーネントのシャドウツリーの内部にアクセスするには、次の DOM API を使用するコードを削除する必要があります。

- `Document.prototype.getElementById`
- `Document.prototype.querySelector`
- `Document.prototype.querySelectorAll`
- `Document.prototype.getElementsByClassName`
- `Document.prototype.getElementsByTagName`
- `Document.prototype.getElementsByTagNameNS`
- `Document.prototype.getElementsByName`
- `Document.body.querySelector`
- `Document.body.querySelectorAll`
- `Document.body.getElementsByClassName`
- `Document.body.getElementsByTagName`
- `Document.body.getElementsByTagNameNS`

Lightning Locker では、Lightning Web コンポーネント間の Shadow DOM カプセル化を壊すことはすでに防止されています。ただし、Aura コンポーネントのバージョン 39.0 以前では、Lightning Locker はコンポーネントレベルで無効になっているため、Aura コンポーネントには Winter '20 で失敗するコードを含めることができます。

次のような場合にはコードが破損します。

- Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーにアクセスする DOM API のいずれかを使用しているバージョン 39.0 以前の Aura コンポーネント。
- Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーの内部にアクセスする DOM API のいずれかを使用しているテスト。
- Lightning Web コンポーネントのスタイルを変更したり、イベントリスナを添付したりするために DOM API のいずれかを使用しているサードパーティ JavaScript ライブラリ。

例

```
<!-- lightning:auraParent -->
<aura:component>
    <lightning:lwcParent aura:id="lwcParent"/>
</aura:component>
```

```
<!-- lightning-lwc-parent -->
<template>
    <div class="in-the-shadow"></div>
    <lightning-lwc-child></lightning-lwc-child>
</template>
```

```
<!-- lightning-lwc-child -->
<template>
    <span></span>
</template>
```

`auraBar` コントローラの内部	Locker なし、Winter '20 以前	Winter '20
`document.querySelector('.in-the-shadow')`	`<div>`	`null`
`document.querySelectorAll('.in-the-shadow')`	`[<div>] (NodeList)`	`[] (NodeList)`
`document.body.querySelector('.in-the-shadow')`	`<div>`	`null`

Aura コンポーネントを修正する方法

Lightning Web コンポーネントのシャドウツリーの内部にアクセスするコードを削除します。親コンポーネントは、子コンポーネントの公開 API に依存している必要があります。たとえば、親コンポーネントが子コンポーネント内のチェックボックスの状態を知る必要がある場合、子コンポーネントは `isChecked` という公開 API を公開し、親コンポーネントはそのプロパティを参照します。

Aura コンポーネントテストを修正する方法

コンポーネントは別のコンポーネントのシャドウツリー内部にアクセスできません。これは、カプセル化が壊れるためです。ただし、カプセル化を考慮するようにコンポーネントをリファクタリングするのが不可能で

あったり現実的でないことがあります。そのようなテストケースでは、次の手法を使用することをお勧めします。

Lightning Web コンポーネントのシャドウツリー内の要素にアクセスするには、まず Lightning Web コンポーネントを照会し、次にその `shadowRoot` プロパティから照会します。

次のコードは、「例」セクションの `<lightning-lwc-parent>` コンポーネントのシャドウツリーの `<div>` にアクセスします。

```
var el = cmp.find('lwcParent').getElement();
var div = el.shadowRoot.querySelector('.in-the-shadow');
```

Jest テストを修正する方法

Jest テストコンテキストでは、コードで、テストする要素の `shadowRoot` プロパティを使用してシャドウツリーにアクセスできます。`shadowRoot` プロパティは要素のシャドウツリーをカプセル化します。

次のコードは、「例」セクションの `<lightning-lwc-parent>` コンポーネントのシャドウツリーの `<div>` にアクセスします。

```
const element = createElement('c-lightning-lwc-parent', { is: LightningLwcParent });
document.body.appendChild(element);
const div = element.shadowRoot.querySelector('.in-the-shadow');
```

Selenium WebDriver テストを修正する方法

テストの調整はツールごとに異なり、戦略は急速に進化しています。現時点では、こちらの記事が Selenium WebDriver を使用したシャドウツリーへのアクセスの良い例です。

記事で説明されているように、`WebDriver.findElement()` を使用したグローバルクエリは失敗します。Lightning Web コンポーネントのシャドウツリー内の要素を探すには、クライアント上で JavaScript を実行して、コンポーネントの `shadowRoot` プロパティから照会します。

メモ: 記事には、Chrome デベロッパーツールでの DOM 要素が表示されたスクリーンショットが含まれています。スクリーンショットには、`#shadow-root` ドキュメントフラグメントが表示されています。これは、コンポーネントのシャドウツリーの最上位ノードです。Chrome デベロッパーツールで Lightning Web コンポーネントを表示する場合、LWC は Shadow DOM ポリフィルを使用するため、`#shadow-root` は表示されません。Salesforce は、Shadow DOM Web 標準を実装していない一部のブラウザをサポートしています。これらのブラウザでは、ポリフィルによって Shadow DOM が提供されます。ページ上で Lightning Web コンポーネントを見つけるには、ハイフンを含む要素名を探します。要素を選択し、コンソールで `$0.shadowRoot` を実行します。Lightning Web コンポーネントは `#document-fragment` を返します。

JavaScript ライブラリ

コンポーネントのシャドウツリーにアクセスするサードパーティ JavaScript ライブラリを使用している場合、ライブラリ作成者と協力して問題を登録し、修正します。

関連トピック:

MDN: Web API

MDN: シャドウツリー

MDN: ShadowRoot

Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド): 変更される可能性がある DOM 検査テスト

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Lightning Web コンポーネントの Jest テストの記述

Jest を使用したテストの新しいパッケージ名

名前を標準化し、Salesforce DX を使用したコンポーネント開発へのつながりを強調するために、パッケージ `lwc-jest` の名前が `sfdx-lwc-jest` に変更されました。

理由: Lightning Web コンポーネントの Jest テストを記述するために、`lwc-jest` テストツールがその優れたユーティリティとサポートのために使用されてきました。このツールは、Salesforce DX の機能を利用した全体的な開発環境の一部です。開発環境とのつながりを強調するために、パッケージとリポジトリの名前が `lwc-jest` から `sfdx-lwc-jest` に変更されました。

メモ: 慌てる必要はありません。Winter '20 リリースでは、`lwc-jest` と `sfdx-lwc-jest` の両方が機能します。

方法: 次の方法で新しい名前を使用します。

- Git リポジトリは https://github.com/salesforce/sfdx-lwc-jest になりました。
- 新しいインストールには、`npm install @salesforce/sfdx-lwc-jest --save-dev` を使用します。
- テストにモジュールをインポートするときには、`@salesforce/sfdx-lwc-jest` を使用します。

関連トピック:

Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド): Test Lightning Web Components (Lightning Web コンポーネントのテスト)

Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)

Lightning Web コンポーネントでローカル開発が提供されるようになり、コンポーネントモジュールを構築し、コンポーネントを組織に公開せずに変更をライブで表示できるようになりました。新しい Salesforce CLI プラグイン `lwc-dev-server` を使用して、コンピュータで Lightning Web コンポーネント対応のサーバを設定および実行します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: ローカル開発はベータ版で、フィードバックを収集できるように早期にリリースされています。重要な問題が含まれていたり、大幅な変更が行われたり、廃止されたりする可能性があります。問題が発

生した場合、または機能強化を求める場合は、GitHub の問題を登録してください。この機能の使用は、Salesforce.com Program Agreement (Salesforce.com プログラム契約) に準拠します。

方法: ローカル開発サーバをインストールするには、Salesforce CLI がインストールされていて、開発者ハブ対応の組織と Chrome、Firefox、Safari、Edge Web ブラウザの最新の安定バージョンがあることを確認します。

1. ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドを実行してローカル開発サーバをインストールします。

```
sfdx plugins:install @salesforce/lwc-dev-server
```

2. ローカル開発サーバの更新を確認します。

```
sfdx plugins:update
```

3. SFDX プロジェクトに移動するか、Lightning Web コンポーネントのあるプロジェクトをコピーします。この例では、`lwc-recipes` を使用します。

```
git clone git@github.com:trailheadapps/lwc-recipes.git
```

4. まだ `lwc-recipes` ルートディレクトリに移動していない場合は、`cd` で移動します。

```
cd lwc-recipes
```

5. SFDX プロジェクトの `.localdevserver` フォルダを `.gitignore` ファイルに追加します。このフォルダにはローカル開発設定が含まれます。このフォルダ内のファイルは変更しないでください。
6. 『*Salesforce DX 開発者ガイド*』の「組織での Dev Hub の有効化」の手順を実行して、開発者ハブ (Dev Hub) を承認します。Dev Hub は、あなたとチームがスクラッチ組織 (Salesforce Platform での開発用の一時的な環境) を作成および管理するために使用するメインの Salesforce 組織です。Dev Hub は、後の手順でスクラッチ組織を作成するために必要になります。
7. 『*Salesforce DX 開発者ガイド*』の手順に従って、Dev Hub のログイン情報を使用してログインします。次のコマンドを実行すると、ブラウザでログインウィンドウが開きます。

```
sfdx force:auth:web:login -d -a myhuborg
```

8. ローカル開発で、本番組織に移動する方法と同様に Lightning データサービスおよび Apex に対してスクラッチ組織に移動するように要求します。スクラッチ組織を作成するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
sfdx force:org:create -s -f config/project-scratch-def.json -a "LWC"
```

`"LWC"` は、スクラッチ組織の別名で、他の Salesforce CLI コマンドで使用できます。

> **メモ:** ローカル開発サーバを使用して本番 Salesforce 組織に接続しないでください。ローカル開発では、リアルタイムにデータが使用されます。本番組織に対して認証を行うと、本番環境のデータが変更または上書きされます。

スクラッチ組織を作成するには、スクラッチ組織定義ファイルを指定します。この例では、`lwc-recipes` に含まれているスクラッチ組織定義ファイル `project-scratch-def.json` を使用します。他のプロジェクトでは、独自のスクラッチ組織定義ファイルを作成します。詳細は、『*Salesforce DX 開発者ガイド*』の「スクラッチ組織の作成」の手順を参照してください。

9. コードをスクラッチ組織に転送します。

```
sfdx force:source:push
```

10. サーバを起動します。

```
sfdx force:lightning:lwc:start
```

11. http://localhost:3333/ でサーバを確認します。

ローカル開発コマンドについての詳細は、`sfdx force:lightning:lwc:commandName --help` を実行して、ローカル開発ドキュメントを参照してください。

関連トピック:

Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能: ローカル開発 (ベータ)

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。

Lightning Web コンポーネントは、Lightning メッセージチャネルを使用して Lightning Message Service API にアクセスします。範囲設定されたモジュール `@salesforce/messageChannel` を使用して Lightning メッセージチャネルを参照します。Visualforce では、グローバル変数 `$MessageChannel` を使用します。Aura では、コンポーネント内で `lightning:messageChannel` を使用します。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。

メモ: この機能は、Developer Edition 組織とスクラッチ組織で開発者プレビューとして使用できます。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。

理由: Lightning Experience では、1 ページに複数のコンポーネントが含まれることがよくあります。以前は、Lightning Experience で Visualforce ページが Lightning Web コンポーネントと通信するには、カスタム公開/登録ソリューションを実装する必要がありました。現在は、Lightning Message Service API を使用してその通信を処理できます。

方法: メタデータ API を使用して `SampleMessageChannel__c` というメッセージチャネルを作成したとします。Lightning Web コンポーネントが公開するメッセージチャネルに Visualforce ページを登録する方法は次のとおりです。

`SampleMessageChannel__c` (メッセージチャネルの API 参照名) で公開する `publisherComponent` という Lightning Web コンポーネントを作成します。コンポーネントは、`lightning/messageService` モジュールからメッセージチャネルで公開するメソッドをインポートします。このモジュールは、Lightning Message Service API にアクセスします。次に、`@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c` からメッセージチャネルをインポートし、識別子 `SAMPLEMC` に割り当てます。

`handleClick()` メソッドは、メッセージチャネルで公開されるデータを保持します。ここでは、データは `recordId` (値は "some string") と `recordData` (値はキー-値ペア value: "some data") です。`lightning/messageService` モジュールからインポートされた `publish()` メソッドをコールすることでデータを公開します。

```
// publisherComponent.js
import { LightningElement } from 'lwc';
import { publish,createMessageContext,releaseMessageContext } from
'lightning/messageService';
import SAMPLEMC from "@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c";

export default class MyLwcPublisher extends LightningElement {
    context = createMessageContext();
    constructor() {
        super();
    }
    handleClick() {
        const message = {
            recordId: "some string",
            recordData: {
                value: "some data"
            }
        };
        publish(this.context, SAMPLEMC, message);
    }
    disconnectedCallback() {
        releaseMessageContext(this.context);
    }
}
```

コンポーネントの HTML テンプレートファイルに、`handleClick()` メソッドをコールする [公開] ボタンを含めます。このボタンをクリックすると、レコードデータが `SampleMessageChannel__c` に公開されます。登録している Visualforce ページはそのデータを受信します。

```
<-- publisherComponent.html -->
<template>
    <lightning-card title="MyLwcPublisher" icon-name="custom:custom14">
        <div class="slds-m-around_medium">
            <p>MessageChannel: SampleMessageChannel</p>
            <br>
            <lightning-button label="Publish" onclick={handleClick}></lightning-button>
        </div>
    </lightning-card>
</template>
```

Lightning Web コンポーネントが公開するメッセージチャネル `SampleMessageChannel__c` を Visualforce ページが登録および登録解除する方法は次のとおりです。

```
<apex:page>
    <div>
        <p>Subscribe to SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="subscribeMC()">Subscribe</button>
        <p>Unsubscribe from SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="unsubscribeMC()">Unsubscribe</button>
```

```
        <br/>
        <br/>
        <p>Received message:</p>
        <textarea id="MCMessageTextArea" rows="10"
style="disabled:true;resize:none;width:100%;"/>
    </div>
    <script>
        // Load the MessageChannel token in a variable
        var SAMPLEMC = "{!$MessageChannel.SampleMessageChannel__c}";
        var subscriptionToMC;
        // Display message in the textarea field
        function onMCPublished(message) {
            var textArea = document.querySelector("#MCMessageTextArea");
          textArea.innerHTML = message ? JSON.stringify(message, null, '\t') : 'no message
 payload';
        }

        function subscribeMC() {
            if (!subscriptionToMC) {
                subscriptionToMC = sforce.one.subscribe(SAMPLEMC, onMCPublished);
            }
        }

        function unsubscribeMC() {
            if (subscriptionToMC) {
                sforce.one.unsubscribe(subscriptionToMC);
                subscriptionToMC = null;
            }
        }
    </script>

</apex:page>
```

関連トピック:

- Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Visualforce 開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サーバ側アクションの Apex 制限到達を予測しやすい

Lightning コンポーネントの Apex 制限は、アクションごとに適用されるようになりました。これまで、Apex 制限は 1 つの要求 (XHR) でまとめて一括処理される (ボックスカーに入れられた) すべてのアクションに適用されていました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: Apex 制限をアクションごとに適用すると、コンポーネントが Apex 制限に達する可能性が低くなります。制限は、フレームワークによってボックスカー内で一括処理される予測不可能なアクションセットではなく、1 つのアクションに基づくため、アクションに対する Apex 制限の問題は予測しやすくなります。

この変更には他にもいくつかの利点があります。

- `cacheable=true` または `continuation=true` を使用してアクションが `@AuraEnabled` Apex メソッドをコールするときに適用される制限は、同じボックスカー内の他のアクションには影響しなくなりました。
- Lightning コンポーネントのイベントモニタリングの粒度が改善されました。Apex 実行イベント種別のイベントモニタリングデータは、ボックスカーごとではなく、コンポーネントアクションごとになります。

メモ: 静的な Apex 変数の状態は、同じボックスカーに入れられたアクション間で共有されなくなりました。フレームワークは各ボックスカーにどのアクションが入れられるのかを保証しないので、アクション間で静的変数の状態を共有することは常にアンチパターンでした。これは単純に機能しなくなりました。この変更により、コンポーネントの動作が予測しやすくなります。

関連トピック:

EventLogFile での Apex 実行イベントデータの粒度の改善

Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド): Queueing of Server-Side Actions (サーバ側アクションのキューへの登録)

SOAP API 開発者ガイド: Apex 実行イベント種別

同じパッケージの公開 Apex メソッドのみにアクセスできる Lightning コンポーネント

両方のパッケージが同じ名前空間にある場合でも、パッケージからインストールされた Lightning コンポーネントは、別のパッケージの Apex クラスから公開 Apex メソッドをコールすることはできません。Lightning コンポーネントから参照される Apex メソッドで `@NamespaceAccessible` Apex アノテーションは使用できません。この変更は、Lightning コンポーネントから参照される Apex クラスの他のアクセス修飾子 (`global` など) の使用方法に影響します。この変更は、名前空間ごとに複数のパッケージが許可される、ロック解除済みの第二世代管理パッケージにのみ影響します。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: 次の表に、第二世代管理パッケージの Lightning コンポーネントの public `@AuraEnabled` Apex メソッドのアクセスの違いを示します。

アノテーション	Winter '20 アクセス	Summer '19 アクセス
`public` メソッド (`@NamespaceAccessible` なし)	同じパッケージのみ	同じ名前空間
`public` メソッド (`@NamespaceAccessible` あり)	エラー	同じ名前空間
`global` メソッド	パッケージ	パッケージ

メモ: パッケージ外の Aura または Lightning Web コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。コンポーネントは、別のパッケージからインストールするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のロック解除済みパッケージは未管理パッケージと同様に扱われます。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: NamespaceAccessible アノテーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

ui コンポーネントは、Summer '21 ですべての Salesforce 組織で廃止が予定されています。代わりに、lightning 名前空間で類似するコンポーネントを使用してください。従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce では、Summer '21 で ui 名前空間で Aura コンポーネントのサポートを停止する予定です。Summer '21 以降もこれらのコンポーネントを引き続き使用することはできますが、そのリリース以降、サポートケースは受け付けられなくなります。

方法: 廃止されるコンポーネントを lightning 名前空間の対応するコンポーネントに置き換えます。これらのコンポーネントのほうが高速で効率的であり、Lightning Design System のスタイル設定を標準で使用できます。

メモ: lightning 名前空間のコンポーネントには、Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントの 2 つのバージョンがあります。可能であれば、Lightning Web コンポーネントを使用することをお勧めします。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。詳細は、*『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』* を参照してください。

廃止された Aura コンポーネントには、次の推奨される代替方法を使用します。

ui:actionMenuItem
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:button
lightning:button、lightning:buttonIcon、または lightning:buttonIconStateful に置き換えます。ボタングループの場合、lightning:buttonGroup を使用します。

ui:checkboxMenuItem
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:inputCheckbox
checkbox、toggle、または checkbox-button 型を使用する lightning:input に置き換えます。チェックボックスグループの場合、代わりに lightning:checkboxGroup を使用します。

ui:inputCurrency
number 型および currency フォーマッタを使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputDate
date 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputDateTime
datetime 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputDefaultError
組み込みの項目検証を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputEmail
email 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputNumber
number 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputPhone
phone 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputRadio
radio 型を使用する lightning:input に置き換えます。ラジオグループの場合、代わりに lightning:radioGroup を使用します。

ui:inputRichText
lightning:inputRichText に置き換えます。

ui:inputSecret
password 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputSelect
lightning:select または lightning:combobox に置き換えます。

ui:inputSelectOption
lightning:select または lightning:combobox に置き換えます。

ui:inputText
text 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:inputTextArea
lightning:textarea に置き換えます。

ui:inputURL
url 型を使用する lightning:input に置き換えます。

ui:menu
lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuItem
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuItemSeparator
lightning:menuDivider および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuList
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuTrigger
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuTriggerLink
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:message
lightning:notificationsLibrary に置き換えます。

ui:outputCheckbox
checkbox 型を使用する lightning:input に置き換えて readonly を true に設定します。

ui:outputCurrency
currency に設定された style を使用する lightning:formattedNumber に置き換えます。

ui:outputDate
lightning:formattedDateTime に置き換えます。

ui:outputDateTime
lightning:formattedDateTime または lightning:formattedTime に置き換えます。

ui:outputEmail
lightning:formattedEmail に置き換えます。

ui:outputNumber
lightning:formattedNumber に置き換えます。

ui:outputPhone
lightning:formattedPhone に置き換えます。

ui:outputRichText
lightning:formattedRichText に置き換えます。

ui:outputText
lightning:formattedText に置き換えます。

ui:outputTextArea
lightning:formattedText に置き換えます。

ui:outputURL
lightning:formattedUrl に置き換えます。

ui:radioMenuItem
lightning:menuItem および lightning:buttonMenu に置き換えます。

次のイベントが非推奨になりました。

ui:menuFocusChange
lightning:buttonMenu に置き換えます。

ui:menuSelect
lightning:combobox に置き換えます。

ui:menuTriggerPress
lightning:buttonMenu に置き換えます。

RTL 言語の Aura CSS のフリップの上書き

Salesforce の言語設定が右から左へ記述される (RTL) 言語に設定されている場合、フレームワークは `left` や `border-left` などのプロパティ名をそれぞれ `right` や `border-right` にフリップします。必要であれば、カスタム Aura コンポーネントで CSS の自動フリップを変更できます。ただし、ほとんどの場合、デフォルトのフリップが必要であるため、何もする必要はありません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントに適用されます。

方法: 自動フリップを上書きするには、プロパティの直前のコメントで `/*@noflip*/` アノテーションを追加します。次に例を示します。

```
.THIS.mycontainer {
    /*@noflip*/ direction : rtl;
}
```

関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド): CSS for RTL Languages (RTL 言語用の CSS) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Locker の API バージョンの選択

Lightning Locker で使用される API バージョンを選択できます。デフォルトは現在の API バージョンで、これには最新の Locker セキュリティ機能強化が含まれます。カスタムコンポーネントが古いバージョンの Locker にのみ準拠している場合は、古い API バージョンを選択します。コンポーネントが現在のセキュリティ機能強化に準拠するようになったら、設定を現在の API バージョンに変更できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience と Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 最新のバージョンに準拠するようにカスタムコンポーネントを更新することをお勧めしますが、それには時間がかかる場合もあります。組織がサードパーティの開発者による更新が必要な管理パッケージを使用している場合もあるでしょう。以前の API バージョンを使用するように Lightning Locker を設定し、開発者がカスタム Lightning コンポーネントを更新して Locker の最新のセキュリティの機能強化に準拠する時間を確保します。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「セッション」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[API バージョンでセキュリティの機能強化を使用] で API バージョンを選択します。[保存] をクリックします。

関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide: Select the Locker API Version for an Org (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: 組織用の Locker の API バージョンの選択)

ユーザのアプリケーションへの直接移動

ユーザをアプリケーション内の特定のページに移動させる Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントを開発します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。この変更は、Lightning Out、Lightning コミュニティ、Salesforce モバイルアプリケーションには適用されません。

方法: アプリケーションやアプリケーション内の特定のページに直接リンクするコンポーネントを作成できるようになりました。

`lightning-navigation` Lightning Web コンポーネントまたは `lightning:navigation` Aura コンポーネントを新しい `standard__app` ページ参照種別と共に使用します。

- ユーザをアプリケーションに移動させるには、`appId` または `appDeveloperName` URL パラメータを `appTarget` に渡します。
- ユーザをアプリケーション内の特定のページに移動させるには、`pageRef` 属性を含めます。

関連トピック:

Salesforce リリースノート: アプリケーションへの移動

重要な更新: `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定、`@AuraEnabled` Apex クラスのプロファイルベースのアクセス、その他

重要な更新をいくつか追加し、その他に変更を行いました。

このセクションの内容:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲストまたはポータルユーザを詳細に制御できるようになります。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用方法との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

重要な更新「暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで without sharing を使用」の廃止

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、廃止されました。この重要な更新は、逆の効果がありデフォルトが `with sharing` に設定される重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用」に置き換えられます。

暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで with sharing を使用 (重要な更新)

この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この重要な更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)
セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

重要な更新「管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期
この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲストまたはポータルユーザを詳細に制御できるようになります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Lightning コミュニティ、ポータル、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は、[設定] の [重要な更新] ページに表示されている自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新が有効になると、ゲストユーザまたはポータルユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. 開発したカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントがゲストユーザとポータルユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)
Apex 開発者ガイド: クラスのセキュリティ
重要な更新とセキュリティの更新

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は、[設定] の [重要な更新] ページに表示されている自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この重要な更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 重要な更新「ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. 開発したカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントが認証済みユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

- ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)
- *Apex 開発者ガイド*: クラスのセキュリティ
- 重要な更新とセキュリティの更新

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用方法との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: `counter` クラスプロパティの private getter を含む Apex クラスの例を見てみましょう。

```
public class EnforcePrivateGetter {
    @AuraEnabled

    public Integer counter { private get; set; }

    @AuraEnabled
    public static EnforcePrivateGetter GetRepro2()
    {
        EnforcePrivateGetter result = new EnforcePrivateGetter();
        result.counter = 2;
        return result;
    }
}
```

この重要な更新が有効になると、この Aura コンポーネントは `{!v.apexObject.counter}` 式を使用して `private` getter にアクセスできなくなります。同じ制限が Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

```
<aura:component controller="EnforcePrivateGetter" access="global">
    <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.doInit}"/>

    <aura:attribute type="EnforcePrivateGetter" name="apexObject" />

    counter = {!v.apexObject.counter} <br></br>
</aura:component>
```

JavaScript コントローラを次に示します。

```
({
    doInit : function(cmp, ev) {
        var action = cmp.get("c.GetRepro2");

        action.setCallback(this, function(response) {
          var state = response.getState();
          if (state === "SUCCESS") {
            cmp.set('v.apexObject', response.getReturnValue());
          }
          else if (state === "ERROR") {
            console.log('Error : ' + JSON.stringify(errors));
          }
        });
        $A.enqueueAction(action);
    }
})
```

この重要な更新が有効になった場合、修正方法は、getter の `private` アクセス修飾子を削除して、クラス変数定義を次のように変更することです。

```
public Integer counter { get; set; }
```

Apex プロパティを Apex クラス外で参照可能にするには、プロパティに `private` または `protected` アクセス修飾子を含めないようにします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. **[重要な更新]** を選択します。
3. 重要な更新「Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用」の詳細を確認します。
4. **[有効化]** をクリックします。
5. getter に `private` または `protected` アクセス修飾子を含む Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティの更新

重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の廃止

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、廃止されました。この重要な更新は、逆の効果がありデフォルトが `with sharing` に設定される重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用」に置き換えられます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: この重要な更新は廃止されたため、組織が Winter '20 にアップグレードされると、重要な更新コンソールに表示されなくなります。この重要な更新はどの組織でも自動的に有効化されないため、Summer '19 の設定 UI に表示される自動有効化日付は無視してください。

理由: 廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の目的は、Aura コンポーネントの Apex コントローラをデフォルトで `without sharing` にすることでした。この動作により Apex コントローラが Aura コンポーネントおよび Visualforce ページで一貫するようになりました。

さらに検討した結果、デフォルトで Lightning コンポーネントのセキュリティを確保することに決まり、Aura コンポーネントまたは Lightning Web コンポーネントで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定する重要な更新がその代わりとして作成されました。

関連トピック:

暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで with sharing を使用 (重要な更新)

Spring '18 リリースノート: 暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 (重要な更新)

重要な更新とセキュリティの更新

暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用 (重要な更新)

この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この重要な更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: `with sharing` または `without sharing` を明示的に設定しない `@AuraEnabled` Apex クラスは、デフォルトまたは暗黙的な値として `with sharing` を使用します。廃止された重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の目的は、Aura コンポーネントの Apex コントローラをデフォルトで `without sharing` にすることでした。この動作により Apex コントローラが Aura コンポーネントおよび Visualforce ページで一貫するようになりました。

さらに検討した結果、デフォルトで Lightning コンポーネントのセキュリティを確保することに決まりました。そこで、Aura コンポーネントまたは Lightning Web コンポーネントで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定する新しい重要な更新が作成されました。

Apex クラスは一般にシステムモードで実行されます。したがって、現在のユーザのログイン情報は Apex ロジックの実行に使用されないため、ユーザの権限と項目レベルのセキュリティは自動的に適用されません。

`with sharing` または `without sharing` キーワードを使用することによって、Apex クラスで共有ルールを適用するかどうかを選択できます。`with sharing` キーワードを使用した共有ルールを強制実行しても、ユーザの権限および項目レベルセキュリティは適用されません。CRUD 権限と項目レベルセキュリティは、Apex クラスで手動で別々に適用する必要があります。

方法: この重要な更新に備えるための最良の方法は、すべての `@AuraEnabled` Apex コードで `with sharing` または `without sharing` キーワードを使用して共有動作を明示的に制御することです。すべての `@AuraEnabled` コードで共有動作が明示的に設定されている場合、この重要な更新による影響を受けません。

この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力します。
2. **[重要な更新]** を選択します。
3. 重要な更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用」の詳細を確認します。
4. **[有効化]** をクリックします。

5. `with sharing` または `without sharing` キーワードを含まない Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: 共有ルールの適用
重要な更新「暗黙的な共有のある @AuraEnabled Apex コントローラで without sharing を使用」の廃止
重要な更新とセキュリティの更新

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)

セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この重要な更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce は [設定] の [重要な更新] ページに記載された自動有効化日付にこの重要な更新を自動的に有効化します。

理由: この重要な更新が有効化されると、オブジェクトで `$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値としてキー - 値ペア `{"exprType": "FUNCTION"}` を使用すると、予期しない動作がトリガされるのではなく、エラーが発生します。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 「Prevent Creation of Function Expressions When Using `$A.createComponent()` or `$A.createComponents()` in Aura Components」(Aura コンポーネントで $A.createComponent() または $A.createComponents() を使用する場合の関数式の作成の防止) 重要な更新の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. 開発したカスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide: Dynamically Creating Components (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントの動的な作成)
重要な更新とセキュリティの更新

重要な更新「管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」の延期

この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

理由: `global` が付いた Apex コントローラメソッドのみが、管理パッケージに追加されると、その管理パッケージの名前空間外の Aura コンポーネントによってアクセス可能になります。Apex 定義で `public` が付いたメソッドは、パッケージの名前空間に含まれる Aura コンポーネントでのみアクセス可能です。この重要な更新を有効にすると、これらのルールが適用されます。

この更新の前は、パッケージ名前空間外の Aura コンポーネントから `global` 以外のメソッド (`global` アクセス修飾子が付いていない Apex コントローラメソッド) にアクセスできました。

この更新を有効にすると、管理パッケージの `global` 以外の Apex メソッドに誤って依存するコードを作成していた場合、そのメソッドをコールするサーバアクションは失敗します。パッケージによって `global` メソッドとして提供されるサポート対象 API メソッドのみを使用するように、コードを更新してください。

> **メモ:** パッケージ外の Aura コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。Aura コンポーネントは、別のパッケージからインストールするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のロック解除済みパッケージは未管理パッケージと同様に扱われます。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。
2. [重要な更新] を選択します。
3. 管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (重要な更新) の詳細を確認します。
4. [有効化] をクリックします。
5. カスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティの更新

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

Einstein Vision: 新しい language 項目と algorithm 項目
モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

Einstein Language: 新しい language 項目と algorithm 項目
モデル情報を返す Einstein Language API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

Einstein Vision: 新しい `language` 項目と `algorithm` 項目

モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

このセクションの内容:

API 応答 JSON に新しい language 項目を追加
モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答 JSON に `language` 項目が含まれるようになりました。データセットをトレーニングすると、結果として得られるモデルはデータセットの言語を継承します。Einstein Vision のデータセットとモデルの場合、戻り値は `N/A` です。

Object Detection API 応答 JSON に新しい algorithm 項目を追加
オブジェクト検出モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答 JSON に `algorithm` 項目が含まれるようになりました。デフォルトの戻り値は `object-detection` です。

オブジェクト検出の最大画像サイズが 5 MB に増加
より大きな全体像を取得します。オブジェクト検出データセットに追加できる画像の最大サイズを 1 MB から 5 MB に増やしました。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要)

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

API 応答 JSON に新しい `language` 項目を追加

モデル情報を返す Einstein Vision API **コールの応答** JSON **に** `language` **項目が含まれるようになりました。データセットをトレーニングすると、結果として得られるモデルはデータセットの言語を継承します。**Einstein Vision **のデータセットとモデルの場合、戻り値は** `N/A` **です。**

対象: この変更は、Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および** Contact Manager Edition **の** Lightning Experience**、**Salesforce Classic**、およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

方法: `language` **項目は、次のコールの応答に含まれます。**

- **データセットをトレーニングする** — POST `/v2/vision/train`
- **データセットを再トレーニングする** — POST `/v2/vision/retrain`
- **トレーニング状況を取得する** — GET `/v2/vision/train/<MODEL_ID>`
- **モデル総計値を取得する** — GET `/v2/vision/models/<MODEL_ID>`
- **データセットのすべてのモデルを取得する** — GET `/v2/vision/datasets/<DATASET_ID>/models`

モデル総計値を返すコールは、次の JSON **のようになります。**

```
{
    "id": "ZWUH3K5NVLQNWPWWSKDLBCXQXU",
    "metricsData": {
        "f1": [
            0.8333333333333333,
            0.8333333333333333
        ],
        "labels": [
            "Mountains",
            "Beaches"
        ],
        "testAccuracy": 0.8333,
        "trainingLoss": 0.0521,
        "confusionMatrix": [
            [
                5,
                0
            ],
            [
                2,
                5
            ]
        ],
        "trainingAccuracy": 0.981
    },
    "createdAt": "2019-06-05T18:09:37.000+0000",
    "language": "N/A",
```

```
    "object": "metrics"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Image Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 画像モデル総計値の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get All Models (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: すべてのモデルの取得)

Object Detection API 応答 JSON に新しい `algorithm` 項目を追加

オブジェクト検出モデル情報を返す Einstein Vision API コールの応答 JSON に `algorithm` 項目が含まれるようになりました。デフォルトの戻り値は `object-detection` です。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: `algorithm` 項目は、データセット種別またはモデル種別が `image-detection` の場合に次のコールの応答に含まれます。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/vision/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/vision/retrain`
- トレーニング状況を取得する — POST `/v2/vision/train/<MODEL_ID>`
- モデル総計値を取得する — GET `/v2/vision/models/<MODEL_ID>`
- データセットのすべてのモデルを取得する — GET `/v2/vision/datasets/<DATASET_ID>/models`

トレーニング状況を返すコールは、次の JSON のようになります。簡潔にするため、トレーニング統計データは削除されています。

```
{
  "datasetId": 1003553,
  "datasetVersionId": 14834,
  "name": "Detection Model",
  "status": "SUCCEEDED",
  "progress": 1,
  "createdAt": "2019-06-27T22:04:21.000+0000",
  "updatedAt": "2019-06-27T22:10:34.000+0000",
  "modelId": "WMIFOQTKQYOMNZY5IY673CIWZY",
  "learningRate": 0.001,
  "epochs": 20,
  "modelType": "image-detection",
```

```
  "algorithm": "object-detection",
  "language": "N/A",
  "object": "training",
  "trainParams": null,
  "trainStats": {}
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Image Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 画像モデル総計値の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get All Models (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: すべてのモデルの取得)

オブジェクト検出の最大画像サイズが 5 MB に増加

より大きな全体像を取得します。オブジェクト検出データセットに追加できる画像の最大サイズを 1 MB **から** 5 MB **に増やしました。**

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、**および** Contact Manager Edition **の** Lightning Experience、Salesforce Classic、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

方法: 新しい最大画像サイズは、データセットの型が `image-detection` **である場合に、以下のコールに適用されます。**

- **データセットを** .zip **ファイルから非同期的に作成する** — POST `/v2/vision/datasets/upload`
- **データセットを** .zip **ファイルから同期的に作成する** — POST `/v2/vision/datasets/upload/sync`
- .zip **ファイルから例を作成する** — PUT `/v2/vision/datasets/<DATASET_ID>/upload`
- **例を作成する** — POST `/v2/vision/datasets/<DATASET_ID>/examples`
- **フィードバック例を作成する** — POST `/v2/vision/feedback`

- .zip ファイルからフィードバック例を作成する — PUT `/v2/vision/bulkfeedback`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create Examples from a Zip File (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Zip ファイルから例を作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create an Example (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 例を作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Feedback Example (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: フィードバックの例を作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create Feedback Examples from a Zip File (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Zip ファイルからフィードバックの例を作成する)

Einstein Language: 新しい `language` 項目と `algorithm` 項目

モデル情報を返す Einstein Language API コールの応答に `language` 項目と `algorithm` 項目が含まれるようになりました。

このセクションの内容:

API 応答 JSON に新しい language 項目を追加

モデル情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `language` 項目が含まれるようになりました。データセットをトレーニングすると、結果として得られるモデルはデータセットの言語を継承します。Einstein Language のデータセットとモデルの場合、戻り値は `en_US` です。

Intent API 応答 JSON に新しい algorithm 項目を追加

インテントモデル情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `algorithm` 項目が含まれるようになりました。デフォルトの戻り値は `intent` です。

テキストデータセットが 300 万ワードまで格納可能に

テキストデータセットの最大ワード数が 300 万に増えました。テキストデータセットは、`text-intent` 型または `text-sentiment` 型のデータセットです。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)

Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

API 応答 JSON に新しい `language` 項目を追加

モデル情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `language` 項目が含まれるようになりました。データセットをトレーニングすると、結果として得られるモデルはデータセットの言語を継承します。Einstein Language のデータセットとモデルの場合、戻り値は `en_US` です。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: `language` 項目は、次のコールの応答に含まれます。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/language/retrain`
- トレーニング状況を取得する — GET `/v2/language/train/<MODEL_ID>`
- モデル総計値を取得する — GET `/v2/language/models/<MODEL_ID>`
- データセットのすべてのモデルを取得する — GET `/v2/language/datasets/<DATASET_ID>/models`

モデル総計値を返すコールは、次の JSON のようになります。簡潔にするため、適合率-再現率曲線データは削除されています。

```
{
  "id": "FNYJFZAHRCA7QPYHWCYAAOR264",
  "metricsData": {
    "f1": [
      0.8,
      0.8,
      0.6666666666666666
    ],
    "labels": [
      "hourly-forecast",
      "current-weather",
      "five-day-forecast"
    ],
    "threshold": {
      "current-weather": 0.97089,
      "hourly-forecast": 0.91275,
      "five-day-forecast": 0.16648
    },
    "testAccuracy": 0.7692307829856873,
    "trainingLoss": 0.03367021307349205,
    "confusionMatrix": [
      [
        6,
        0,
        0
      ],
      [
        1,
        2,
        0
      ],
      [
```

```
        2,
        0,
        2
      ]
    ],
    "trainingAccuracy": 1,
    "precisionRecallCurve": {}
  },
  "createdAt": "2019-05-07T22:40:50.000+0000",
  "language": "en_US",
  "algorithm": "intent",
  "object": "metrics"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: モデル総計値の取得)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get All Models (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: すべてのモデルの取得)

Intent API 応答 JSON に新しい `algorithm` 項目を追加

インテントモデル情報を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `algorithm` 項目が含まれるようになりました。デフォルトの戻り値は `intent` です。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: `algorithm` 項目は、データセット種別またはモデル種別が `text-intent` の場合に次のコールの応答に含まれます。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/language/retrain`
- トレーニング状況を取得する — GET `/v2/language/train/<MODEL_ID>`
- モデル総計値を取得する — GET `/v2/language/models/<MODEL_ID>`
- データセットのすべてのモデルを取得する — GET `/v2/language/datasets/<DATASET_ID>/models`

トレーニング状況を返すコールは、次の JSON のようになります。簡潔にするため、トレーニング統計データは削除されています。

```
{
    "datasetId": 1019434,
    "datasetVersionId": 15516,
    "name": "Case Routing Model",
    "status": "SUCCEEDED",
    "progress": 1,
    "createdAt": "2019-07-15T19:10:15.000+0000",
    "updatedAt": "2019-07-15T19:14:38.000+0000",
    "modelId": "X2VPSESX4NX64TEH5IIZ5NOWBI",
    "learningRate": 0.0,
    "epochs": 1000,
    "modelType": "text-intent",
    "algorithm": "intent",
    "language": "en_US",
    "object": "training",
    "trainParams": null,
    "trainStats": {}
}
```

関連トピック:

- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Get Image Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 画像モデル総計値の取得)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Get All Models (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: すべてのモデルの取得)

テキストデータセットが 300 万ワードまで格納可能に

テキストデータセットの最大ワード数が 300 万に増えました。テキストデータセットは、`text-intent` 型または `text-sentiment` 型のデータセットです。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 300 万ワードを超えるテキストデータセットをトレーニングすると、以下のコールでエラーが返されます。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/language/retrain`

このエラーを回避するためには、データセットを作成したりデータセットに例を追加したりするときに、すべての例を含めて合計 300 万ワードを超えないようにしてください。最良の結果を得るには、各例を 100 ワード前後にすることをお勧めします。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Einstein プラットフォーム: 予測インサイトの詳細

組織内で Einstein 予測ビルダーなどの Einstein AI 機能を使用する方法を拡張する必要がありますか? Einstein プラットフォームは、Einstein 予測ビルダーやその他の多くの Einstein が強力な AI ジョブを実行するために使用する Salesforce レイヤです。新しい Einstein プラットフォーム API を使用して、予測インサイトにアクセスし、独自の AI ソリューションに Einstein 機能を適用します。

このセクションの内容:

インサイトを使用した予測構築の改善
インサイトオブジェクトによって Einstein 予測の基盤となるロジックの詳細を取得します。Einstein 予測ビルダーなどの Einstein 機能が予測を行い、結果を保存すると、AIRecordInsight レコードといくつかの関連する子レコードが作成されます。これらのレコードを使用して、Einstein 予測がどのように行われるかを理解し、予測が保存された後にカスタムロジックを適用して、予測の改善やカスタマイズを行うことができます。

インサイトを使用した予測構築の改善

インサイトオブジェクトによって Einstein 予測の基盤となるロジックの詳細を取得します。Einstein 予測ビルダーなどの Einstein 機能が予測を行い、結果を保存すると、AIRecordInsight レコードといくつかの関連する子レコードが作成されます。これらのレコードを使用して、Einstein 予測がどのように行われるかを理解し、予測が保存された後にカスタムロジックを適用して、予測の改善やカスタマイズを行うことができます。

対象: この変更は、予測ビルダーやケース分類などの Einstein 機能が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: たとえば、実際の値と予測値を測定するレポートを使用して、予測への変更によって予測結果がどの程度改善されたかを評価します。また、予測ユーザフィードバックを測定するレポート (ケース分類のおすすめのユーザ受け入れ率の測定など) を作成することもできます。

Einstein インサイトオブジェクトは、予測が行われた後にカスタムロジックを追加する際にも役立ちます。Einstein が AI 予測項目に予測結果を書き込むときには、Apex トリガ、ワークフロールール、割り当てルールなどのカスタムロジックは実行されません。Einstein 予測結果に基づくカスタムロジックを追加するには、プロセスビルダーなどのプラットフォームイベント登録者を使用して、AI インサイトオブジェクトへの参照を含む AIPredictionEvent の通知を取得します。たとえば、AIPredictionEvent によってトリガされるリードのプロセスビルダープロセスを作成し、このプロセスによって参照先の AIRecordInsight を調べ、そのインサイト情報を使用してリードを再割り当てするかどうかを決定することができます。

Einstein インサイトオブジェクトを使用して、より良いユーザエクスペリエンスを構築することもできます。Salesforce UI 内で判断が必要なユーザタスクのために、インサイトを活用して、ユーザに判断の選択肢を推奨するカスタムコンポーネントを作成できます。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス
Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド)
Salesforce Einstein: 四半期ごとの売上予測、ケースルーティング、レコードでのコード不要の予測

Visualforce: Lightning メッセージチャネルの導入 (開発者プレビュー)、URL の変更

Lightning メッセージチャネルを使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。以前のサイトの HTTP のみの URL とコミュニティの Sandbox は廃止され、Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除できます。

これらの機能の変更についての詳細は、『*Visualforce 開発者ガイド*』を参照してください。

このセクションの内容:

Lightning メッセージチャネルを使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。詳細は、Lightning Web コンポーネントのリリースノートを参照してください。

Lightning アプリケーションビルダーでの Visualforce ページのデフォルトの表示ラベルの非表示

これまで、Lightning アプリケーションビルダーで作成された Lightning ページに含まれる Visualforce ページではコンポーネントの上に表示ラベルが表示されていました。コンポーネントの表示ラベルが空白の場合、Visualforce ページのデフォルトの表示ラベルが使用されていました。Lightning アプリケーションビルダーに [表示ラベルの表示] オプションが追加されたため、デフォルトの表示ラベルを非表示にすることもできます。

Salesforce サイトおよびコミュニティの HTTP のみの古い Sandbox ドメイン

Summer '13 リリースで、HTTPS をサポートするように Sandbox 組織内の Salesforce サイトとコミュニティのドメインの形式が変更されました。Winter '20 以降、Summer '13 リリース以前の古い URL 形式は機能しなくなります。新しい URL 形式をすでに使用している可能性もありますが、Summer '13 以前に作成された、Salesforce サイトまたはコミュニティの Sandbox へのブックマークを確認し、必要に応じて更新することをお勧めします。

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

Lightning メッセージチャネルを使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)

Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。詳細は、Lightning Web コンポーネントのリリースノートを参照してください。

Lightning アプリケーションビルダーでの Visualforce ページのデフォルトの表示ラベルの非表示

これまで、Lightning アプリケーションビルダーで作成された Lightning ページに含まれる Visualforce ページではコンポーネントの上に表示ラベルが表示されていました。コンポーネントの表示ラベルが空白の場合、Visualforce ページのデフォルトの表示ラベルが使用されていました。Lightning アプリケーションビルダーに [表示ラベルの表示] オプションが追加されたため、デフォルトの表示ラベルを非表示にすることもできます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーを起動し、Visualforce コンポーネントをページに追加します。Visualforce ページの表示ラベルを非表示にするには、[表示ラベルの表示] を選択解除します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

Salesforce サイトおよびコミュニティの HTTP のみの古い Sandbox ドメイン

Summer '13 リリースで、HTTPS をサポートするように Sandbox 組織内の Salesforce サイトとコミュニティのドメインの形式が変更されました。Winter '20 以降、Summer '13 リリース以前の古い URL 形式は機能しなくなります。新しい URL 形式をすでに使用している可能性もありますが、Summer '13 以前に作成された、Salesforce サイトまたはコミュニティの Sandbox へのブックマークを確認し、必要に応じて更新することをお勧めします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 古い形式の URL を特定するには、URL が Sandbox 名ではなくサブドメインで始まるかどうかを確認します。

サイトおよびコミュニティの現在の Sandbox ドメイン形式は Sandbox 名で始まります (`<sandboxName>-<siteOrCommunitySubdomain>.<Instance>.force.com`)。

Summer '13 より前に使用された HTTP のみの形式はサブドメイン名で始まります (`<siteOrCommunitySubdomain>.<sandboxName>.<instance>.force.com`)。

たとえば、Spring '13 以前の古い Salesforce サイト Sandbox URL は `http://examplesite.uat.cs1.force.com` のようになります。Summer '13 以降の新しい URL は `https://uat-examplesite.cs1.force.com` のようになります。`<sandboxName>-<siteOrCommunitySubdomain>` で始まる新しい URL 形式をブックマークで使用していることを確認します。

関連トピック:

- 重要な更新とセキュリティの更新

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン]がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この重要な更新は、2020 年 7 月 11 日に自動的に有効化されます。この更新により、Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL にアクセスしているユーザがログアウトされる可能性があります。中断を最小限に抑えるため、この重要な更新の有効化はピーク時間外に行うことをお勧めします。

理由: URL からインスタンス名が削除されるときに、ホスト名が変更されます。次に例を示します。

- `mydomain--c.na1.content.force.com` は `mydomain--c.documentforce.com` になります。
- `mydomain--c.na1.visual.force.com` は `mydomain--c.visualforce.com` になります。

すべての *.content.force.com URL は、*.documentforce.com になります。

方法: この更新を Sandbox でテストして、ユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで新しい URL が動作することを確認することをお勧めします。ホスト名で絞り込まれているファイアウォールとプロキシサーバは、次のドメインも信頼する必要があります。

- *.visualforce.com
- *.documentforce.com
- *.salesforce-communities.com

この重要な更新を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除] で [有効化] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce Spring '18 リリースノート: Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除 (重要な更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

重要な更新とセキュリティの更新

Apex

項目レベルのデータ保護の `Security.stripInaccessible` セキュリティ機能はパイロットからベータに移行され、サブクエリをサポートし、本番組織で使用できます。長時間要求の同時実行数制限を計算するときに、コールアウト処理時間は除外されます。Apex には、数式項目を再計算する System メソッド、およびクラスのインスタンス化なしでデータ型の互換性を検出する Type メソッドが導入されています。新しい ApexSettings メタデータ型は Apex テストを増強します。

これらの機能強化についての詳細は *『Apex 開発者ガイド』* を参照してください。

このセクションの内容:

Apex での項目レベルセキュリティの適用 (ベータ)

項目レベルのデータ保護の `stripInaccessible()` セキュリティ機能はパイロットからベータに移行され、本番組織で使用できます。Winter '20 で、サブクエリの機能が拡張され、`System.AccessType` に列挙値 UPSERTABLE が追加されました。この新しい列挙を `stripInaccessible` メソッドと共に使用して、挿入と更新両方の項目およびオブジェクトレベルのチェックを適用します。

長時間要求の制限からコールアウトを除外

すべての組織には、長時間 Apex 要求の同時実行数の制限があります。この制限には、(合計実行時間が) 5 秒を超えて実行されるすべての要求がカウントされます。ただし、HTTP コールアウトの処理時間は 5 秒の制限の計算に含まれなくなりました。コールアウトのタイマーは一時停止され、コールアウトの完了時に再開されます。

ApexSettings メタデータ型を使用した Apex テストの拡張

新しい ApexSettings メタデータ型を使用して、集計値の追跡、逐次実行、および自動採番の欠落発生の防止によって Apex テストを増強します。ApexSettings を使用して、未対応の例外メールでデバッグログの詳細を除外することもできます。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

関連トピック:

Apex: 新規および変更された項目

Apex での項目レベルセキュリティの適用 (ベータ)

項目レベルのデータ保護の `stripInaccessible()` セキュリティ機能はパイロットからベータに移行され、本番組織で使用できます。Winter'20 で、サブクエリの機能が拡張され、`System.AccessType` に列挙値 UPSERTABLE が追加されました。この新しい列挙を `stripInaccessible` メソッドと共に使用して、挿入と更新両方の項目およびオブジェクトレベルのチェックを適用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: ベータ機能である `stripInaccessible` メソッドはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、IdeaExchange の「Security.stripInaccessible」グループに投稿してください。

理由: `stripInaccessible` メソッドを使用して、現在のユーザがクエリおよびサブクエリの結果からアクセスできない項目を削除できます。DML 操作の前に sObject からアクセスできない項目を削除し、例外を回避するために使用できます。また、このメソッドを使用して、信頼されない提供元からの並列化された sObject をサニタイズすることもできます。

方法: `stripInaccesible` メソッドは、ソースレコードに現在のユーザの項目レベルセキュリティチェックに失敗したサブクエリ項目がないか確認します。このメソッドは、現在のユーザがアクセスできる項目のみを含む sObject のリストを返します。ユーザに子から親へのリレーション項目へのアクセス権がない場合、返される sObject のリストにその子リレーションは含まれません。

ユーザに Contacts オブジェクトの `Phone` 項目を参照する権限がない場合、この例のコードはレコードを参照する前にサブクエリを削除します。DML 操作は例外を発生させずに完了します。

```
List<Account> accountsWithContacts =
 [SELECT Id, Name, Phone,
     (SELECT Id, LastName, Phone FROM Account.Contacts)
 FROM Account];

// Strip fields that are not readable
   SObjectAccessDecision decision = Security.stripInaccessible(
                                    AccessType.READABLE,
                                    accountsWithContacts);

// Print stripped records
   for (Integer i = 0; i < accountsWithContacts.size(); i++)
  {
      System.debug('Insecure record access: '+accountsWithContacts[i]);
      System.debug('Secure record access: '+decision.getRecords()[i]);
   }

// Print modified indexes
```

```
   System.debug('Records modified by stripInaccessible: '+decision.getModifiedIndexes());


// Print removed fields
   System.debug('Fields removed by stripInaccessible: '+decision.getRemovedFields());
```

長時間要求の制限からコールアウトを除外

すべての組織には、長時間 Apex 要求の同時実行数の制限があります。この制限には、(合計実行時間が) 5 秒を超えて実行されるすべての要求がカウントされます。ただし、HTTP コールアウトの処理時間は 5 秒の制限の計算に含まれなくなりました。コールアウトのタイマーは一時停止され、コールアウトの完了時に再開されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

この変更は、WSDL2Apex によって生成された SOAP コールアウトを含む、Apex から直接作成されたコールアウトに適用されます。また、外部サービスや外部オブジェクトなど、他のプラットフォーム機能からのコールアウトにも適用されます。

ApexSettings メタデータ型を使用した Apex テストの拡張

新しい ApexSettings メタデータ型を使用して、集計値の追跡、逐次実行、および自動採番の欠落発生の防止によって Apex テストを増強します。ApexSettings を使用して、未対応の例外メールでデバッグログの詳細を除外することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ApexSettings メタデータ型は多数の方法で使用できます。

- Apex テストカバー率データの詳細な合計の代わりに集計の追跡を有効にするには、新しい `enableAggregateCodeCoverageOnly` 項目を使用します。
- Apex テストの逐次実行を有効にするには、新しい `enableDisableParallelApexTesting` 項目を使用します。
- 未対応の例外メールで Apex デバッグログの詳細を除外するには、新しい `enableDoNotEmailDebugLog` 項目を使用します。
- Apex テストの実行でテスト以外のレコードの自動採番項目が増分されて欠落が生じることを防ぐには、新しい `enableGaplessTestAutoNum` 項目を使用します。

メモ: 廃止された OrgPreferenceSettings メタデータ型の `preferences` 項目から、`ApexApprovalLockUnlock` 値が削除されました。代わりに、ApexSettings メタデータ型で新しい `enableApexApprovalLockUnlock` 項目を使用します。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: この重要な更新は、標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、およびそれらの項目を含む組織スキーマを定義してキャッシュする内部システムを改善することで、既知のバグを修正します。ドキュメントに記載された組織のスキーマの動作に変更はありません。この更新では、ドキュメントが既知の動作と一致しないバグが修正されます。また、ドキュメントに記載されていないオブジェクト種別が Apex の Describe Result メソッドに表示されたり、バージョン固有のスキーマの詳細が不適切に再利用されるという、まれに発生する断続的な問題も解決されます。

API

重要な更新「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は Winter '20 で適用されます。SOQL クエリを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間のリレーションを取得します。サービス保護のために必要になった場合、メタデータ API は複数の同時取得ジョブの一部を自動的にキューに追加します。Bulk API 2.0 で一括クエリジョブがサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)
「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Winter '20 で適用されます。この重要な更新により、「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。

MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)
多くの組織には、使用しなくなったカスタムオブジェクトや項目が散乱しています。Tooling API の MetadataComponentDependency オブジェクトを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を表示します。この情報を基に、コンポーネントを削除しても問題ないかどうかを判断することができます。コンポーネント間で連動関係を見つければ、メタデータをパッケージに分割する場合にも役立ちます。単一の組織を操作する代わりにパッケージのセットを操作することで、変更の管理やバージョン管理の使用、継続的インテグレーションシステムの使用が容易になります。

Bulk API 2.0 のクエリ
Bulk API 2.0 で一括クエリジョブがサポートされるようになりました。これらのジョブは、SOQL クエリの非同期処理を可能にし、大量のデータ (10,000 レコード以上) を返すクエリを処理するように設計されています。

取得ジョブの数が多すぎる推測の排除
1 つの組織で複数の同時取得操作を開始すると、サービス保護のために必要になった場合、メタデータ API はそれらのジョブの一部を自動的にキューに追加します。取得ジョブが `Pending` の状況の場合、キューに追加されています。有効な取得ジョブの 1 つが完了すると、メタデータ API はキューから保留中のジョブを取得して有効化します。取得ジョブが `InProgress` の状況の場合、有効です。ジョブキューがクリアされるまでこのプロセスが繰り返されます。

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)

「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Winter '20 で適用されます。この重要な更新により、「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。

対象: この変更は Lightning Out にのみ適用されます。

時期: この重要な更新は、Winter '20 リリースで適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「API 限定ユーザ」権限を持つユーザに影響します。

MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)

多くの組織には、使用しなくなったカスタムオブジェクトや項目が散乱しています。Tooling API の MetadataComponentDependency オブジェクトを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を表示します。この情報を基に、コンポーネントを削除しても問題ないかどうかを判断することができます。コンポーネント間で連動関係を見つければ、メタデータをパッケージに分割する場合にも役立ちます。単一の組織を操作する代わりにパッケージのセットを操作することで、変更の管理やバージョン管理の使用、継続的インテグレーションシステムの使用が容易になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Sandbox のみに適用されます。

メモ: MetadataComponentDependency はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。MetadataComponentDependency に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Dependency API Pilot」グループに投稿してください。

方法: SOQL クエリを使用して、組織内のメタデータコンポーネント間のリレーションを取得します。クエリ結果には、リレーションごとに 1 つの列が含まれます。クエリにつき取得できるレコードは最大 2,000 個までです。このレコード数の範囲内で正確な結果が返されるように、クエリは具体的な内容にしてください。

```
{
  "size" : 132,
  "totalSize" : 132,
  "done" : true,
  "queryLocator" : null,
  "entityTypeName" : "MetadataComponentDependency",
  "records" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "MetadataComponentDependency",
      "url" :
"/services/data/v47.0/tooling/sobjects/MetadataComponentDependency/000000000000000AAA"
```

```
    },
    "RefMetadataComponentId" : "00NXXXXXXXXXXXXXXX",
    "RefMetadataComponentName" : "acctTime",
    "MetadataComponentName" : "acctTimeReport",
    "MetadataComponentType" : "Report"
  },  {
    "attributes" : {
      "type" : "MetadataComponentDependency",
      "url" :
"/services/data/v47.0/tooling/sobjects/MetadataComponentDependency/000000000000000AAA"
    },
    "RefMetadataComponentId" : "00XXXXXXXXXXXXXXXX",
    "RefMetadataComponentName" : "acctTime",
    "MetadataComponentName" : "formulaTime",
    "MetadataComponentType" : "CustomField"
  },...
```

次のクエリはサポートされていません。

- SOQL `ORDER BY` 句
- SOQL `SELECT` 句 — `count()` 関数
- SOQL `queryMore()`
- SOQL `WHERE` 句 — MetadataComponentName を使用した任意の検索条件の種別
- SOQL `WHERE` 句 — RefMetadataComponentName を使用した任意の検索条件の種別
- SOQL `WHERE` 句 — `=`、`!=`、`AND`、`OR` を除く演算子を含む
- SOQL `WHERE` 句 — (`RefMetadataComponentType = 'StandardEntity'`) で絞り込む
- SOQL `WHERE` 句 — `LIKE` 演算子を MetadataComponentType 項目または RefMetadataComponentType 項目と組み合わせて使用
- SOQL `OFFSET` 句

詳細は、「MetadataComponentDependency」を参照してください。

Bulk API 2.0 のクエリ

Bulk API 2.0 で一括クエリジョブがサポートされるようになりました。これらのジョブは、SOQL クエリの非同期処理を可能にし、大量のデータ (10,000 レコード以上) を返すクエリを処理するように設計されています。

理由: 一括クエリは Bulk API (Lightning プラットフォーム API のバージョン 16 で導入された `/services/async/` エンドポイント) でも使用できます。ただし、Bulk API 2.0 の実装にはいくつかの利点があります。

- バッチを処理する必要はありません。すべての結果が 1 セットで返されます。
- 制限が簡略化され、`/limits` エンドポイントを介して使用できます。
- この実装は、他の Salesforce REST API との統合が改善されています。
  - 特殊な X-SFDC-Session ヘッダーは不要。
  - すべての通常の OAuth ワークフローをサポート。
  - 設計上、他の Salesforce API との一貫性が向上している。

取得ジョブの数が多すぎる推測の排除

1 つの組織で複数の同時取得操作を開始すると、サービス保護のために必要になった場合、メタデータ API はそれらのジョブの一部を自動的にキューに追加します。取得ジョブが `Pending` の状況の場合、キューに追加されています。有効な取得ジョブの 1 つが完了すると、メタデータ API はキューから保留中のジョブを取得して有効化します。取得ジョブが `InProgress` の状況の場合、有効です。ジョブキューがクリアされるまでこのプロセスが繰り返されます。

メタデータの制限についての詳細は、*『Salesforce Developer の制限および割り当てクイックリファレンス』* を参照してください。

カスタムメタデータ型: 強化された保護、より詳細なアクセス制御

プロファイルと権限セットを使用して、パッケージ内のカスタムメタデータ型を保護し、それらへのアクセスを制御します。

このセクションの内容:

カスタムメタデータ型への参照アクセス権を取得するユーザの制御

プロファイルと権限セットを使用して、カスタムメタデータ型の参照アクセス権をユーザに割り当てます。Spring'19以降、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザについては、カスタムメタデータ型へのすべてのAPI参照アクセス権をブロックできます。ユーザが「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たない場合も、ユーザとユーザプロファイルに対して、特定のメタデータ型へのAPI参照アクセス権を付与できるようになりました。

第二世代パッケージでのカスタムメタデータ型の保護

第二世代パッケージ化(2GP)の導入により、同じ名前空間内で複数のパッケージを持つことができるようになりました。カスタムメタデータ型では、管理パッケージ内で保護された秘密 (API アクセスキーやトークンなど) に名前空間レベルの保護が提供されます。名前空間内の個々のパッケージを指定して、2GP の世界のセキュリティを詳細に調整できるようになりました。詳細な制御とさまざまなオプションを使用して、パッケージに保存した秘密にパッケージ内のカスタム Apex コードでのみアクセスできるようにすることができます。

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要(重要な更新)

「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Salesforce が提供するさまざまな API を使用して、保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザの「参照」アクセスはこの更新で無効になります。この変更は、カスタムメタデータ型を直接参照する Visualforce ページと Lightning コンポーネントに影響します。カスタムメタデータ型については、システム管理者が特定のプロファイルまたは権限セットにアクセス権を明示的に付与することができます。

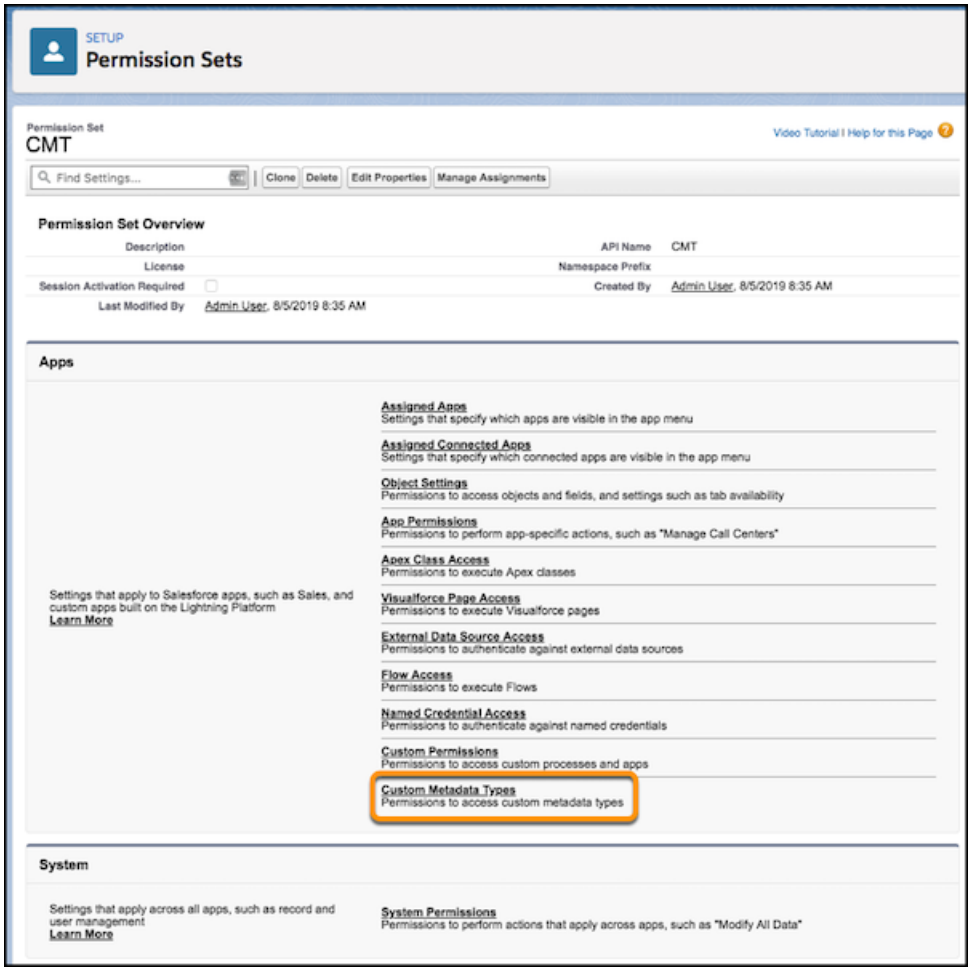
カスタムメタデータ型への参照アクセス権を取得するユーザの制御

プロファイルと権限セットを使用して、カスタムメタデータ型の参照アクセス権をユーザに割り当てます。Spring'19以降、「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たないユーザについては、カスタムメタデータ型へのすべての API 参照アクセス権をブロックできます。ユーザが「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持たない場合も、ユーザとユーザプロファイルに対して、特定のメタデータ型への API 参照アクセス権を付与できるようになりました。

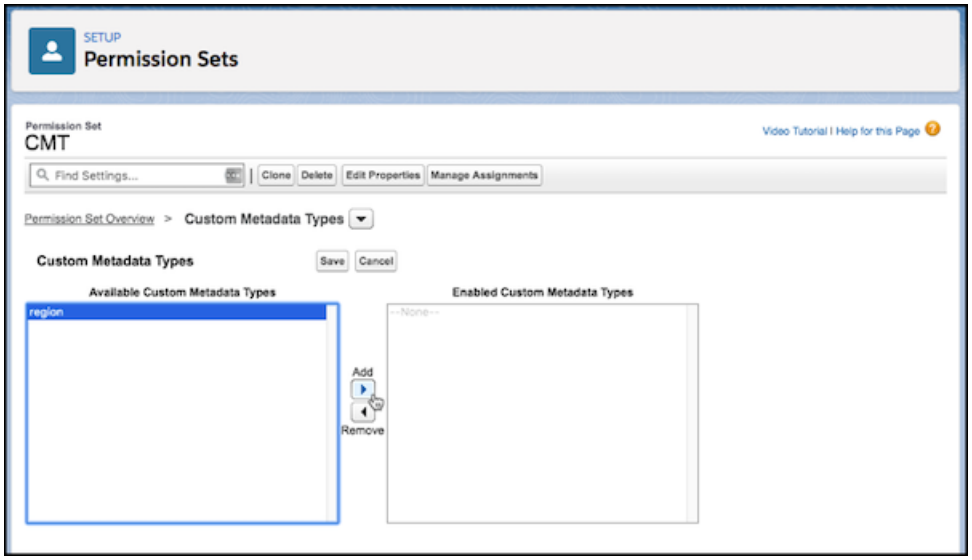
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、特定のカスタムメタデータ型への直接参照 API アクセス権を付与するように権限セットとプロファイルを変更できます。

方法: 特定のプロファイルまたは権限セットにカスタムメタデータ型への参照アクセス権を付与するには、「カスタムメタデータ型」権限に移動します。



目的のカスタムメタデータ型を[有効なカスタムメタデータ型]のリストに追加するようにプロファイルまたは権限セットを編集します。



第二世代パッケージでのカスタムメタデータ型の保護

第二世代パッケージ化 (2GP) の導入により、同じ名前空間内で複数のパッケージを持つことができるようになりました。カスタムメタデータ型では、管理パッケージ内で保護された秘密 (API アクセスキーやトークンなど) に名前空間レベルの保護が提供されます。名前空間内の個々のパッケージを指定して、2GP の世界のセキュリティを詳細に調整できるようになりました。詳細な制御とさまざまなオプションを使用して、パッケージに保存した秘密にパッケージ内のカスタム Apex コードでのみアクセスできるようにすることができます。

対象: この変更は、メタデータ API のみを対象として、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者。

方法: カスタムオブジェクトのメタデータで `visibility` 項目を `PackageProtected` に設定します。

関連トピック:

メタデータ API 開発者ガイド: CustomObject

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新)

「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Salesforce が提供するさまざまな API を使用して、保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザの「参照」アクセスはこの更新で無効になります。この変更は、カスタムメタデータ型を直接参照する Visualforce ページと Lightning コンポーネントに影響します。カスタムメタデータ型については、システム管理者が特定のプロファイルまたは権限セットにアクセス権を明示的に付与することができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**Professional Edition **組織では、インストール済みパッケージの型のみのカスタムメタデータレコードを作成、編集、および削除できます。**

時期: この重要な更新は、Spring '20 **リリースで適用されます。**

方法: プロファイルまたは権限セットにカスタムメタデータ型への参照アクセス権を付与する方法

1. **アクセス権の付与先のプロファイルまたは権限セットに移動します。**
2. **[有効なカスタムメタデータ型アクセス] で、[編集] をクリックします。**
3. **カスタムメタデータ型を [有効なカスタムメタデータ型] のリストに追加します。**

Apex**コードまたはシステムモードのコンテキスト以外でカスタムメタデータへの参照アクセス権を再度有効にする方法**

1. **[設定] で、[スキーマ設定] に移動します。**
2. **[カスタムメタデータへのアクセスを制限] をオフにします。**

この重要な更新は Sandbox **内でテストすることをお勧めします。問題が発生した場合は、**Salesforce **カスタマーサポートまでご連絡ください。**

メモ: **この変更は、**Apex **またはシステムモードのコンテキストからのカスタムメタデータ型のアクセシビリティには影響しません。カスタム** Apex **コードを使用して取得したカスタムメタデータ型は、この更新後も引き続き機能します。**

関連トピック:

- カスタムメタデータ型への参照アクセス権を取得するユーザの制御

パッケージ化: 第二世代管理パッケージの正式リリース

第二世代管理パッケージ (2GP) **を使用して、新しい** 2GP **パッケージを** AppExchange **にリストおよび配布します。より多くのメタデータ型を含めたり、パッケージのパッチバージョンやインストール後スクリプトを作成したりできます。**

このセクションの内容:

- 第二世代管理パッケージ (正式リリース) を使用したアプリケーションの容易な開発
  第二世代管理パッケージ (2GP) **によって、**AppExchange **パートナーがアプリケーションやメタデータを開発、配布、管理する新しい手法が切り開かれます。**2GP **を使用して、ソースを整理し、バージョン管理システムと統合して、カスタム** Apex **コードをさらに活用することができます。信頼できる情報源としてバージョン管理を使用した場合、パッケージ化組織は存在せず、すべてのパッケージ化操作を** Salesforce CLI **を介して行うことができるため、エンドツーエンドのオートメーションが実現します。第二世代管理パッケージをセキュリティレビューのために送信し、**AppExchange **にリストできます。**
- ロック解除済みパッケージのコードカバー率の計算
  コードカバー率の計算は、Apex **コードをテストしたことを確認するのに役立ちます。最小コードカバー率はロック解除済みパッケージを作成するときには適用されませんが、パッケージバージョンを作成するときに** Package2VersionCreateRequest **オブジェクトの** `CalculateCodeCoverage` **項目または** `codecoverage` CLI **パラメータを使用することはできます。**

第二世代管理パッケージ(正式リリース)を使用したアプリケーションの容易な開発

第二世代管理パッケージ (2GP) によって、AppExchange パートナーがアプリケーションやメタデータを開発、配布、管理する新しい手法が切り開かれます。2GP を使用して、ソースを整理し、バージョン管理システムと統合して、カスタム Apex コードをさらに活用することができます。信頼できる情報源としてバージョン管理を使用した場合、パッケージ化組織は存在せず、すべてのパッケージ化操作を Salesforce CLI を介して行うことができるため、エンドツーエンドのオートメーションが実現します。第二世代管理パッケージをセキュリティレビューのために送信し、AppExchange にリストできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: 第二世代管理パッケージは、2019 年 10 月 12 日に正式リリースされます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

理由: Winter '20 の新機能

- 第二世代管理パッケージを AppExchange に配布する
- パッケージのパッチバージョンを作成する
- インストール後スクリプトを作成する
- メタデータカバー率を拡大する

メモ: 2GP を使用して新しい管理パッケージを作成します。現在のところ、第一世代パッケージを第二世代パッケージに変換することはできません。

方法: 第二世代管理パッケージを有効にするには、先に Dev Hub を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Dev Hub`」と入力し、**[Dev Hub]** を選択します。**[Dev Hub を有効化]** を選択し、**[ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージを有効化]** を選択します。

ロック解除済みパッケージのコードカバー率の計算

コードカバー率の計算は、Apex コードをテストしたことを確認するのに役立ちます。最小コードカバー率はロック解除済みパッケージを作成するときには適用されませんが、パッケージバージョンを作成するときに Package2VersionCreateRequest オブジェクトの `CalculateCodeCoverage` 項目または `codecoverage` CLI パラメータを使用することはできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Dev Hub を使用可能なエディション: Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition。

時期: この変更は、2019 年 10 月 12 日に正式リリースされます。

方法: ロック解除済みパッケージを有効にするには、先に Dev Hub を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Dev Hub`」と入力し、**[Dev Hub]** を選択します。**[Dev Hub を有効化]** を選択し、**[ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージを有効化]** を選択します。

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能なSalesforce環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織やDeveloper Edition組織でDev Hubを有効にした場合、またはDev Hubトライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』の「スクラッチ組織」を参照してください。

このセクションの内容:

機能が追加されたスクラッチ組織の作成
スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

スクラッチ組織設定への移行
既存の組織設定は、スクラッチ組織定義ファイルでスクラッチ組織設定に変換することをお勧めします。組織設定はスクラッチ組織設定に置き換えられています。組織設定は、2019年10月12日にWinter '20が正式リリースになるとサポートされなくなります。

機能が追加されたスクラッチ組織の作成

スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional EditionのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのSalesforceアプリケーションに適用されます。

方法: 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

- CaseClassification
- DecisionStudio
- DigitalEngagement
- Division
- DocumentChecklist
- ExperienceBundle
- ExternalAccountHierachy
- FinancialServicesUser
- HighVelocitySales
- LightningScheduler
- Macros
- ObjectLinking
- SalesforceContentUser
- SocialCustomerService
- WorkflowFlowActionFeature

名前変更されるスクラッチ組織の機能

次のスクラッチ組織機能は Winter '20 で名前変更されました。スクラッチ組織定義ファイルでこの機能を指定している場合、新しい機能名を使用してファイルを更新してください。定義ファイルに古い機能名が含まれる場合、スクラッチ組織の作成は失敗します。

- ActionPlans は IndustriesActionPlan に名前変更されました

廃止されるスクラッチ組織の機能

次のスクラッチ組織機能は Winter '20 で廃止されました。スクラッチ組織定義ファイルでこの機能を指定している場合は、ファイルから機能を削除してください。定義ファイルで、廃止された機能が指定されている場合、スクラッチ組織の作成は失敗します。

- Pardot

スクラッチ組織設定への移行

既存の組織設定は、スクラッチ組織定義ファイルでスクラッチ組織設定に変換することをお勧めします。組織設定はスクラッチ組織設定に置き換えられています。組織設定は、2019 年 10 月 12 日に Winter '20 が正式リリースになるとサポートされなくなります。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: プレビュー期間中は警告が表示されます。Winter '20 が正式リリースになると、組織設定を設定に変換しない限り、スクラッチ組織の作成は失敗します。

理由: この方法では、すべてのメタデータ API 設定を使用できるため、スクラッチ組織を最も包括的に設定できます。メタデータ API でサポートされている設定は、スクラッチ組織でもサポートされます。設定では、有効にするか無効にするかだけでなく、設定のすべての項目で値を定義できるため、きめ細かい制御が可能になります。

方法: スクラッチ定義ファイルで組織設定を設定に置き換えます。組織設定を使用してスクラッチ組織を作成すると、組織設定を対応する設定に置き換える方法を示す警告メッセージが表示されます。詳細は、*『Salesforce DX 開発者ガイド』*の「スクラッチ組織設定」を参照してください。次に警告メッセージの例を示します。

```
WARNING: We're deprecating orgPreferences in Summer '19. You can continue to use them
until they are replaced by settings in Winter '20. But why wait? Here's exactly what you
need
to update in the scratch org definition file.

Replace the orgPreferences section:
{
    "orgPreferences" : {
        "enabled": [
          "S1DesktopEnabled"
        ],
        "disabled": [
          "IsActivitiesRemindersEnabled"
        ]
    }
}
```

```
With settings:
{
    "settings": {
        "orgPreferenceSettings": {
            "s1DesktopEnabled": true
        },
        "activitySettings": {
            "enableActivitiesReminder": false
        }
    }
}
```

AppExchange パートナー: 管理パッケージおよび AppExchange マーケットプレイスの分析、および ISV ハンマーパッケージアップグレードのテスト (ベータ)

顧客が AppExchange リストをどのように検索し、使用しているかを Marketplace Analytics ダッシュボードで確認します。App Analytics データを調べて、登録者が管理パッケージをどのように使用しているかを確認します。ISV ハンマーを使用して、登録者組織のコピーでパッケージアップグレードのインストールをテストします。登録者によって作成された Apex テストを使用してパッケージの機能をテストします。

このセクションの内容:

Marketplace Analytics を使用した AppExchange リストの健全性の確認

Marketplace Analytics ダッシュボードには、顧客が AppExchange リストをどのように検索し、使用しているかが表示されます。ダッシュボードの活動の概要でリストの健全性をすばやく確認します。トラフィックの参照元、検索語、リストでの活動間のリレーションをダッシュボードの視覚化でさらに掘り下げます。

管理パッケージの API イベント使用状況の分析

AppExchange の App Analytics では、登録者が第一世代管理パッケージをどのように使用しているかに関するデータが提供されます。App Analytics を使用することで、減少のリスクを特定し、機能開発に情報を提供できます。使用状況ログと概要には、カスタムオブジェクトの API ベースの CRUD イベントのデータも含まれるようになりました。SOAP API で AppAnalyticsQueryRequest オブジェクトを使用して、ログファイルと月間使用状況概要を要求します。

ISV ハンマーを使用したパッケージバージョンのテスト (ベータ)

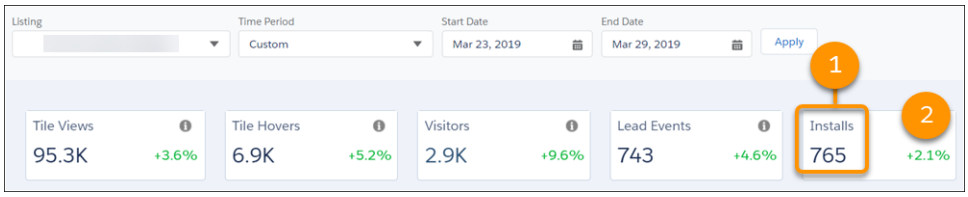
Salesforce は、各メジャーリリースの前にアプリケーションの古いバージョンと新しいバージョンに対してお客様の Apex テストを実行します。このプロセスはハンマーテストと呼ばれ、新しいバージョンをロールアウトするときの破損を回避するのに役立ちます。このハンマーをお客様も実行できるようになりました。パッケージの新しいバージョンをロールアウトする前に、ISV ハンマーを使用して、登録者組織のコピーでパッケージアップグレードのインストールをテストします。これらのメタデータのみの組織のコピーには顧客データは含まれません。また、人がアクセスできる形式ではなく、各 ISV ハンマーの実行の終了時に削除されます。ISV ハンマーテストをベータテストで使用できるようになりました。この機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

Marketplace Analytics を使用した AppExchange リストの健全性の確認

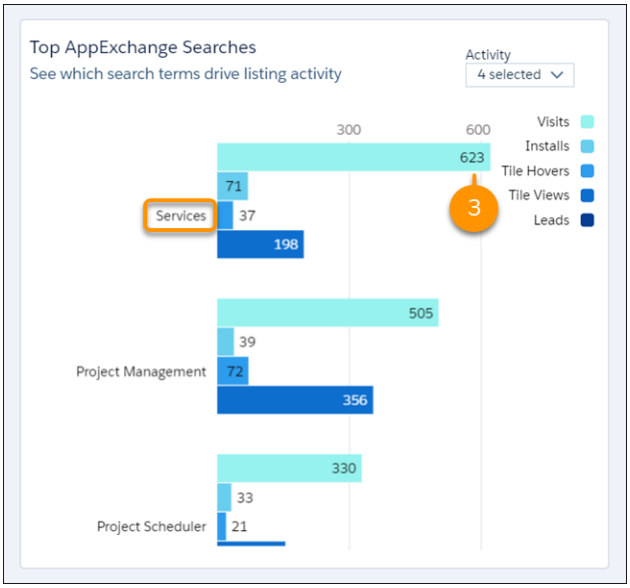
Marketplace Analytics ダッシュボードには、顧客が AppExchange リストをどのように検索し、使用しているかが表示されます。ダッシュボードの活動の概要でリストの健全性をすばやく確認します。トラフィックの参照元、検索語、リストでの活動間のリレーションをダッシュボードの視覚化でさらに掘り下げます。

対象ユーザ: Marketplace Analytics を使用するには、Salesforce パートナーコミュニティの「リストの管理」権限が必要です。

理由: 会社の開発およびマーケティングのリソースをより効率的に適用し、訪問数、インストール数、購入数の増加を図ります。

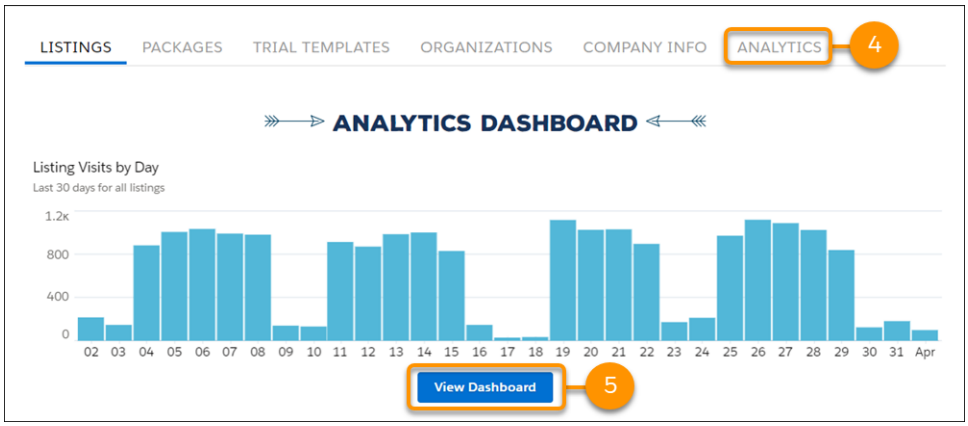


活動の概要では、リストの主要なパフォーマンス総計値 (インストール数など) が 1 か所で示されます (1)。トレンドインジケータでは、前のレポート期間と比較して総計値がどのように変化したかが示されるため、何が成長し、どこに商機があるかが明確になります (2)。



視覚化では、トラフィックの参照元、AppExchange の検索語、リストでの活動間のリレーションが示されます。この形式によりデータ内のパターンを容易に見つけることができるため、そのパターンを使用して質問に答えたり、ビジネスの問題を解決したりできます。たとえば、ソリューションの新機能についての認識を高めたいと考えます。リストへのトラフィックを促進するには、ダッシュボードを参照し、最も多い訪問数を示している検索語を確認して、それに従ってリストのテキストを最適化します (3)。

方法: Salesforce パートナーコミュニティから公開コンソールを開きます。



公開コンソールから [分析] (4) または [ダッシュボードの参照] (5) をクリックします。

管理パッケージの API イベント使用状況の分析

AppExchange の App Analytics では、登録者が第一世代管理パッケージをどのように使用しているかに関するデータが提供されます。App Analytics を使用することで、減少のリスクを特定し、機能開発に情報を提供できます。使用状況ログと概要には、カスタムオブジェクトの API ベースの CRUD イベントのデータも含まれるようになりました。SOAP API で AppAnalyticsQueryRequest オブジェクトを使用して、ログファイルと月間使用状況概要を要求します。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: App Analytics を有効化するには、Salesforce パートナーコミュニティでケースを登録します。App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できます。

ISV ハンマーを使用したパッケージバージョンのテスト (ベータ)

Salesforce は、各メジャーリリースの前にアプリケーションの古いバージョンと新しいバージョンに対してお客様の Apex テストを実行します。このプロセスはハンマーテストと呼ばれ、新しいバージョンをロールアウトするときの破損を回避するのに役立ちます。このハンマーをお客様も実行できるようになりました。パッケージの新しいバージョンをロールアウトする前に、ISV ハンマーを使用して、登録者組織のコピーでパッケージアップグレードのインストールをテストします。これらのメタデータのみの組織のコピーには顧客データは含まれません。また、人がアクセスできる形式ではなく、各 ISV ハンマーの実行の終了時に削除されます。ISV ハンマーテストをベータテストで使用できるようになりました。この機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

このセクションの内容:

パッケージバージョンと登録者組織での ISV ハンマーの実行
ISV ハンマーを使用してパッケージバージョンをテストするには、指定したパッケージバージョンと登録者組織で CLI コマンドを実行します。

登録者によって作成された Apex テストの実行によるパッケージの機能のテスト

Winter '20 では、登録者によって作成された Apex テストを使用してパッケージの機能をテストできます。さらに、このテストはアップグレード後にパッケージが機能することを確認するのに役立ちます。

ISV ハンマーテストからのオプトアウト

ISV ハンマーテストに参加しない場合、ISV パートナーがその決定を尊重しているかどうかを確認できます。[設定] の [ISV ハンマーのオプトアウト] ページを使用してオプトアウトします。

パッケージバージョンと登録者組織での ISV ハンマーの実行

ISV ハンマーを使用してパッケージバージョンをテストするには、指定したパッケージバージョンと登録者組織で CLI コマンドを実行します。

メモ: ISV ハンマーはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「ISV Hammer」グループに投稿してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。また、ISV ハンマーは開発者ハブが有効になっている組織でのみ有効にできます。また、テストするすべてのパッケージの名前空間を名前空間レジストリに追加する必要があります。「名前空間と Dev Hub 組織のリンク」を参照してください。

方法:

ISV ハンマーテストを開始するには、Salesforce CLI コマンド `sfdx force:package:hammertest:run` を実行します。

このコマンドを使用して、指定したパッケージバージョンと登録者組織で ISV ハンマーを実行します。

組織で複数の管理パッケージが有効になっている場合、複数のパッケージバージョンをテストできます。テストするパッケージバージョンの ID を目的の実行順序で指定します。

このコマンドにより、指定された各登録者組織のコピーが作成され、それぞれのパッケージアップグレードがテストされます。

スケジュール日時が指定されている場合、検証と設定はすぐに開始されますが、パッケージアップグレードのテストは指定された日時になるまで開始されません。`--scheduledrundatetime` 値の形式を GMT タイムゾーンの YYYY-MM-DD HH:mm:ss に設定します。この日付は、25 日後より先の日付に設定することはできません。

Salesforce プレビューリリースバージョンに対してテストするには、Salesforce のリリースカレンダーに基づいて、Sandbox プレビュー期間中に `--preview` および `--scheduledrundatetime` の値 (分散リリースの直後) を含めます。

パッケージアップグレードのテストに成功した後に各登録者組織でパッケージバージョンの Apex テストを実行するには、`--apextests` を含めます。

コマンドで要求 ID が返されます。この ID は常に `0TW` で始まります。この ID を使用して `sfdx force:package:hammertest:report -i 0TW...` を実行し、テストの状況を照会します。

例:

```
sfdx force:package:hammertest:run --targetusername you@yourpackagingorg.com \
--packageversionids 04t...a,04t...b \
--subscriberorgs 00D...a,00Dx...b
```

```
sfdx force:package:hammertest:run -u you@yourpackagingorg.com -i 04txxxxxx \
--subscriberfile subscriberOrgs.txt
```

進行中の ISV ハンマーの実行の状況についての詳細や、完了した実行の結果を確認するには、**`sfdx force:package:hammertest:report`** を実行します。

例:

```
sfdx force:package:hammertest:report --targetusername you@yourpackagingorg.com \
--requestid 0TWxxxxxxxx
```

ISV ハンマーの実行をリストするには、**`sfdx force:package:hammertest:list`** を実行します。

例:

```
sfdx force:package:hammertest:list --targetusername you@yourpackagingorg.com \
--packageversionid 04txxxxxxxxx
```

```
sfdx force:package:hammertest:list -u you@yourpackagingorg.com
```

登録者によって作成された Apex テストの実行によるパッケージの機能のテスト

Winter '20 では、登録者によって作成された Apex テストを使用してパッケージの機能をテストできます。さらに、このテストはアップグレード後にパッケージが機能することを確認するのに役立ちます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「Apex 開発」権限を持つユーザは、登録者組織で Apex テストを作成できます。

理由: それぞれの登録者は異なっており、各自のカスタマイズをテストする方法を最もよく知っているのはその登録者です。そのため、登録者と連携して、組織に固有のパッケージの Apex テストカバー率を取得することをお勧めします。ISV ハンマーの実行の一部としてそれらのテストを実行する方法が提供されるようになりました。

方法: 登録者のグローバル Apex インターフェースを含めて、パッケージの Apex テストに実装します。ISV ハンマーテストを実行するときに、次のコマンドを使用して、登録者組織で実行するテストを指定します。

`force:package:hammertest:run --apextestinterface | -n` ***`fully_qualified_interface_name`***

ISV ハンマーテストからのオプトアウト

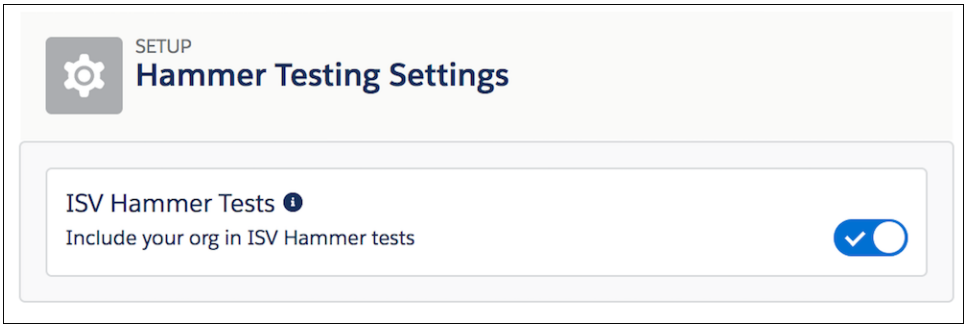
ISV ハンマーテストに参加しない場合、ISV パートナーがその決定を尊重しているかどうかを確認できます。[設定] の [ISV ハンマーのオプトアウト] ページを使用してオプトアウトします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、ISV ハンマーテストからオプトアウトするように選択できます。

理由: Salesforce は、アップグレードを組織にプッシュする前にリリースの品質を確認できるように ISV パートナーをサポートすることを推奨していますが、何らかの理由で参加できない場合があることを理解しています。

方法: [クイック検索] メニューを使用して [ISV ハンマーのオプトアウト] を選択し、[ISV ハンマーテスト] 設定をオフにします。



変更データキャプチャ: メタデータ API と Tooling API の機能強化、イベント強化、変更された項目

メタデータ API でのチャネルメンバーを詳細に制御し、Tooling API でチャネルとメンバーにアクセスします。外部 ID 項目などの項目を使用してイベントメッセージを強化し、変更された項目を簡単に検出します。

このセクションの内容:

メタデータ API と Tooling API を使用した変更データキャプチャチャネルとメンバーの移行
メタデータ API で、チャネルメンバーコンポーネントをチャネルとは別に定義するようになりました。新しい PlatformEventChannelMember メタデータ API 型を使用して、イベントチャネルメンバーに対して詳細にアクセスできます。Tooling API では、新しい PlatformEventChannel オブジェクトと PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用してチャネルとそのメンバーにアクセスできるようになりました。また、パッケージ化がカスタムチャネルとメンバーに加えて、標準チャネルメンバーでもサポートされるようになりました。

常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)
変更イベントメッセージには、新しい項目と変更された項目の値が含まれますが、データの処理や複製のために変更されていない項目の値が必要になる場合があります。たとえば、複製アプリケーションには、外部システムのレコードを照合するための外部 ID が必要です。項目が空でない場合に、CometD クライアントの変更イベントメッセージに常に含める項目を選択できるようになりました。

新しい changedFields ヘッダー項目を使用した変更された項目の特定
`changedFields` ヘッダー項目には、更新操作で変更されたすべての項目の名前が含まれています。このヘッダー項目を使用すると、特に項目が静的に定義される Apex トリガや変更されない項目が含まれる強化されたイベント (パイロット) で、変更された項目を特定しやすくなります。

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、AuthorizationFormConsent、ContentPointTypeConsent、および Individual オブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

メタデータ API と Tooling API を使用した変更データキャプチャチャネルとメンバーの移行

メタデータ API で、チャネルメンバーコンポーネントをチャネルとは別に定義するようになりました。新しい PlatformEventChannelMember メタデータ API 型を使用して、イベントチャネルメンバーに対して詳細にアクセスできます。Tooling API では、新しい PlatformEventChannel オブジェクトと PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用してチャネルとそのメンバーにアクセスできるようになりました。また、パッケージ化がカスタムチャネルとメンバーに加えて、標準チャネルメンバーでもサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: この変更の一環として、PlatformEventChannel の `channelMembers` 項目が削除されました。メタデータ PlatformEventChannel コンポーネントを API バージョン 46.0 または 45.0 からアップグレードする場合は、コンポーネントの `channelMembers` 項目を削除します。そして、各項目を PlatformEventChannelMember コンポーネントに置き換えます。

常に含まれる項目を使用した変更イベントメッセージの強化 (パイロット)

変更イベントメッセージには、新しい項目と変更された項目の値が含まれますが、データの処理や複製のために変更されていない項目の値が必要になる場合があります。たとえば、複製アプリケーションには、外部システムのレコードを照合するための外部 ID が必要です。項目が空でない場合に、CometD クライアントの変更イベントメッセージに常に含める項目を選択できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

メモ: 変更データキャプチャ強化は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。変更データキャプチャ強化は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。変更データキャプチャ強化に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community グループからお寄せください。

方法: 変更イベント強化の項目を選択するには、Tooling API またはメタデータ API の PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用します。

新しい `changedFields` ヘッダー項目を使用した変更された項目の特定

`changedFields` ヘッダー項目には、更新操作で変更されたすべての項目の名前が含まれています。このヘッダー項目を使用すると、特に項目が静的に定義される Apex トリガや変更されない項目が含まれる強化されたイベント (パイロット) で、変更された項目を特定しやすくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法:次の例は、取引先の `Phone` **項目の変更での変更イベントヘッダーの** `changedFields` **項目を示しています。**`changedFields` **項目は、システムによって更新されたため、**`LastModifiedDate` **項目も含まれています。**

```
{
    "LastModifiedDate": "2019-07-22T23:01:50.000Z",
    "Phone": "(415) 555-1212",
    "ChangeEventHeader": {
      . . .
      "entityName": "Account",
      "changeType": "UPDATE",
      "changedFields": [
        "Phone",
        "LastModifiedDate"
      ],
      . . .
    }
  },
  "event": {
    "replayId": 12
  }
}
```

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、AuthorizationFormConsent、ContentPointTypeConsent、**および** Individual **オブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。**

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

方法: Salesforce **組織で定義されたすべてのカスタムオブジェクト、および標準オブジェクトのサブセットで変更イベントを使用できます。[設定] の [変更データキャプチャ] ページで、通知を取得するオブジェクトを選択します。**

関連トピック:

変更データキャプチャ開発者ガイド: 変更イベントオブジェクトのサポート

プラットフォームイベント: CometD のイベント検索条件と REST API での公開制限

CometD **クライアントで指定したイベント項目値に一致するイベントメッセージを受け取り、**REST API **でのイベント公開の使用量を監視します。**

このセクションの内容:

イベント検索条件で CometD サブスクリプションを使用した関連イベントメッセージの受信 (パイロット)
イベント検索条件を使用して、イベント項目値が CometD サブスクリプションと一致するイベントメッセージを受信できます。イベント検索条件でプラットフォームイベントと変更データキャプチャイベントを使用すると、Salesforce は条件と一致するイベントメッセージを配信し、残りのメッセージは配信しません。配信されるメッセージが少なくなるため、クライアントはより効率よく実行できるようになり、イベント配信の割り当て使用量が減ります。

REST API でのプラットフォームイベント公開の使用状況の監視
標準量と大規模のプラットフォームイベント公開の 1 時間あたりの使用状況を REST API で確認できるようになりました。REST リソースの `limits` をアプリケーションで使用することで、割り当てに対するイベント公開の使用状況を監視できます。

メタデータ API を使用したストリーミング API の設定
新しい EventSettings メタデータ API 種別を使用して、ストリーミング API の有効化や動的汎用イベントチャネルの作成などのストリーミング API 設定を定義します。また、イベントモニタリングとプラットフォームイベントに関する設定も定義できます。

イベント検索条件で CometD サブスクリプションを使用した関連イベントメッセージの受信 (パイロット)

イベント検索条件を使用して、イベント項目値が CometD サブスクリプションと一致するイベントメッセージを受信できます。イベント検索条件でプラットフォームイベントと変更データキャプチャイベントを使用すると、Salesforce は条件と一致するイベントメッセージを配信し、残りのメッセージは配信しません。配信されるメッセージが少なくなるため、クライアントはより効率よく実行できるようになり、イベント配信の割り当て使用量が減ります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

メモ: プラットフォームイベント検索条件は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。プラットフォームイベント検索条件は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Trailblazer Community の「プラットフォームイベント検索条件」にフィードバックや提案を投稿できます。

理由: たとえば、請求先の住所がカリフォルニア州である取引先の取引先変更イベントにのみ興味があるとします。以前は、CometD クライアントは 50 州すべての取引先変更イベントを受信しており、大量のイベントが配信される場合は非効率的でした。このリリースでは、受信したいイベントメッセージのサブセットである CometD サブスクリプション検索条件を指定できます。

方法: CometD サブスクリプションにプラットフォームイベントの検索条件を追加するには、検索条件式をサブスクリプションチャネルに追加します。

```
/event/PlatformEventName__e?<filter_expression>
```

変更データキャプチャの場合は、エンティティ特有のチャネルのみが検索条件でサポートされます。検索条件をチャネルに追加します。

```
/data/EntityChangeEvent?<filter_expression>
```

検索条件式には、1つまたは複数の項目/値ペア(*field=value*)が含まれます。検索条件を組み合わせるには、論理演算子の `&&` (AND 条件) と `||` (OR 条件) を使用してください。検索条件でサポートされる項目種別はテキストと数値です。

例: 次の検索条件は、モデル番号とインクレベルの両方の項目値を両方とも含むプラットフォームイベントメッセージを受信します。

```
/event/Low_Ink__e?Model_Number__c='XZO-5'&&Ink_Percentage__c=0.2
```

次の検索条件は、状況カスタム項目値が「シルバー」である取引先変更イベントメッセージのみを受信します。

```
/data/AccountChangeEvent?Status__c='Silver'
```

REST API でのプラットフォームイベント公開の使用状況の監視

標準量と大規模のプラットフォームイベント公開の 1 時間あたりの使用状況を REST API で確認できるようになりました。REST リソースの `limits`をアプリケーションで使用することで、割り当てに対するイベント公開の使用状況を監視できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: `limits` リソースには、以下の新しい値が追加されています。

- `HourlyPublishedPlatformEvents` — 1 時間あたりの公開される大規模プラットフォームイベント通知
- `HourlyPublishedStandardVolumePlatformEvents` — 1 時間あたりの公開される標準量のプラットフォームイベント通知

メタデータ API を使用したストリーミング API の設定

新しい EventSettings メタデータ API 種別を使用して、ストリーミング API の有効化や動的汎用イベントチャネルの作成などのストリーミング API 設定を定義します。また、イベントモニタリングとプラットフォームイベントに関する設定も定義できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

関連トピック:

メタデータ API を使用したイベントとストリーミング API の設定

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目
新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

Apex: 新規および変更された項目
次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

API: 新規および変更された項目
API バージョン 47.0 では、より多くのメタデータ型、データオブジェクト、および標準プラットフォームイベントにアクセスできます。多くの組織設定をメタデータ API で使用できます。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド
Salesforce CLI を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御が容易になります。新規または変更されたコマンドは salesforcedx v47 で使用できます。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

このセクションの内容:

変更された Lightning Web コンポーネント
次のコンポーネントが変更されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール
次の新しいモジュールや変更されたモジュールを使用して、クライアントのフォーム要素に合わせた調整など、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
次のコンポーネントが新規追加または変更されました。

新しい Aura コンポーネントイベント
新しい Aura コンポーネントイベントを使用して、コミュニケーションを促進し、コンポーネント間のインタラクションを増やします。

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning-breadcrumb

次の属性が変更されています。

- `label`—テキストの表示ラベルは、すべての大文字には変換されなくなりました。

lightning-button

`click()` メソッドが追加されました。

`variant` 属性で新しい値がサポートされます。

- `brand-outline` — `brand` バリエーションと同じように、このバリエーションはページのプライマリアクションに注目を集めます。青い色は表示ラベルと境界線のみに使用され、ボタンの色は白になります。このバリエーションは、`brand` バリエーションが環境で邪魔になる場合に使用します。
- `destructive-text` — `destructive` バリエーションと同じように、このバリエーションはデータの永久的な削除など、ユーザにとって破壊的なアクションを示します。赤い色は表示ラベルと境界線のみに使用され、ボタンの色は白になります。このバリエーションは、`destructive` バリエーションが環境で邪魔になる場合に使用します。

lightning-button-icon

`click()` メソッドが追加されました。

lightning-button-menu

`click()` メソッドが追加されました。

lightning-carousel

カルーセル画像のスワイプがモバイルデバイスでサポートされるようになりました。

lightning-combobox

次の属性が新規追加されました。

- `aria-labelledby` — コンボボックスの表示ラベルを提供する要素 ID のスペース区切りのリスト。
- `aria-describedby` — コンボボックスの説明ラベルを提供する要素 ID のスペース区切りのリスト。

lightning-datatable

`columns` 属性の以下のプロパティが変更されています。

- `label` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

`url` 型で次の属性のデフォルトの動作が変更されました。

- `target` — リンクがデフォルトで同じフレームで開くようになりました (フレームを使用していない場合は同じブラウザタブ)。これは、`_self` の対象値に対応します。リンクを新しいタブで開くには、この列の定義を使用します。

```
var columns = [
    {
        label: 'Company Website', fieldName: 'website', type: 'url',
            typeAttributes: { target: _blank }
    },
// other column data
]
```

- `tooltip` — ツールチップの値が指定されない場合、URL 項目にツールチップが表示されなくなりました。URL 値を使用してツールチップを表示するには、この列の定義を使用します。

```
var columns = [
    {
        label: 'Company Website', fieldName: 'website', type: 'url',
            typeAttributes: {
                tooltip: { fieldName: 'website' }
            }
    },
// other column data
]
```

lightning-formatted-number
アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされるようになりました。

lightning-formatted-rich-text
`mark` HTML タグがサポートされるようになりました。

lightning-formatted-url
`click()` メソッドが追加されました。

lightning-record-edit-form
このコンポーネントにより、フォーム全体で `onchange` イベントが発生し、入力規則エラーがある項目を更新したときに入力規則エラーがクリアされます。この変更は `lightning-record-form` にも適用されます。

lightning-input-field
次の属性が新規追加されました。

- `required` — クライアントのみで入力項目を必須にするには、`required` 属性を含めます。フォームを送信する前に項目で値を必須にするにはこの属性を使用します。項目は [設定] で必須とマークされません。項目に値がない場合、フォームデータがサーバに送信される前にコンポーネントのクライアント側の検証でエラーがキャッチされます。

lightning-tab
次の属性が新規追加されました。

- `end-icon-name` — タブの表示ラベルの後に表示するユーティリティアイコンの名前。
- `end-icon-alternative-text` — 終了アイコンの代替テキスト。

lightning-tree
次の属性が変更されています。

- `header` — テキストは太字になり、すべて大文字に変換されなくなりました。

次の属性が新規追加されました。

- `selected-item` — 指定されたツリー項目を選択して強調表示します。ツリー項目名は大文字と小文字を区別します。ツリー項目がネストされている場合、この項目を選択した場合も親の分岐が展開されます。

関連トピック:
コンポーネントライブラリ

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

次の新しいモジュールや変更されたモジュールを使用して、クライアントのフォーム要素に合わせた調整など、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新しいモジュール

次のモジュールを使用できるようになりました。

lightning/flowSupport

フローイベントへのアクセスを提供します。イベントを使用して、フローナビゲーションを制御し、フローランタイムに属性値の変更を通知します。モジュールを使用するには、Lightning Web コンポーネントで Lightning ページの対象 `lightning__FlowScreen` を指定する必要があります。次のイベントがあります。

- `FlowAttributeChangeEvent` — コンポーネントプロパティが変更されたことをフローランタイムに通知します。
- `FlowNavigationBackEvent` — 前の画面への移動を要求します。
- `FlowNavigationNextEvent` — 次の画面への移動を要求します。
- `FlowNavigationPauseEvent` — フローの一時停止をフローランタイムに要求します。
- `FlowNavigationFinishEvent` — フローの終了をフローランタイムに要求します。

```
// Syntax
import {LightningElement, api} from 'lwc';
import {FlowAttributeChangeEvent, FlowNavigationNextEvent} from 'lightning/flowSupport';
export default class MyFlowComponent extends LightningElement {
  @api
  numberOfClicks = 0;
  handleClick() {
    // Notify flow that the number of clicks has increased.
    let newNumClicks = this.numberOfClicks + 1;
    const attributeChangeEvent = new FlowAttributeChangeEvent('numberOfClicks',
newNumClicks);
    this.dispatchEvent(attributeChangeEvent);
  }
  handleGoNext() {
       // Navigate next when user clicks next button.
       const nextNavigationEvent = new FlowNavigationNextEvent();
       this.dispatchEvent(nextNavigationEvent);
  }
}
```

詳細は、「強力でパフォーマンスを高める Lightning Web コンポーネントのフロー画面への追加」を参照してください。

@salesforce/client/formFactor

ブラウザが実行されているハードウェアのフォーム要素を示す文字列。値は次のとおりです。

- `Large` — デスクトップクライアント
- `Medium` — タブレットクライアント
- `Small` — スマートフォンクライアント

この値を `getRecordCreateDefaults` ワイヤアダプタに渡し、レコードを作成するためにデフォルトのレイアウト情報とオブジェクト情報を取得します。

`@salesforce/messageChannel` (開発者プレビュー)

Lightning メッセージチャネルの名前を示す文字列。Lightning Web コンポーネントは、Lightning メッセージチャネルを使用して Lightning Message Service API にアクセスします。Lightning Message Service API を使用して、DOM、Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネントの間で通信を行います。

```
// Syntax
import channelName from '@salesforce/messageChannel/channelReference';
```

```
// Syntax for resources in a managed package
import channelName from '@salesforce/messageChannel/namespace__channelReference';
```

```
// Example
import SAMPLEMC from '@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c';
```

- ***channelName*** — メッセージチャネルを識別するインポートされた記号。
- ***channelReference*** — メッセージチャネルの API 参照名。
- ***namespace*** — メッセージチャネルが管理パッケージ内にある場合は、この値は管理パッケージの名前空間です。メッセージチャネルが管理パッケージ内にない場合は、名前空間を省略します。

詳細は、「Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)」を参照してください。

変更されたモジュール

次のモジュールが変更されています。

`@salesforce/lwc-jest`

パッケージ名 `lwc-jest` は `sfdx-lwc-jest` に変更されます。`@salesforce/sfdx-lwc-jest` の使用を開始してください。

詳細は、「Jest を使用したテストの新しいパッケージ名」を参照してください。

`lightning/uiRecordApi`

`getRecord` ワイヤアダプタの次のパラメータで非配列文字列がサポートされるようになりました。

- `fields`
- `layoutTypes`
- `modes`
- `optionalFields`

`getRecordUi` ワイヤアダプタの次のパラメータで非配列文字列がサポートされるようになりました。

- `optionalFields`

新規追加または変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが新規追加または変更されました。

新しい Aura コンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 47.0 以降が必要です。

force:cardPayment
カード支払情報の収集、支払、または両方のアクションを実行するための支払ページを提供します。Salesforce は、PCI 準拠の標準に基づいて顧客のカード情報を保存および処理します。Lightning Experience またはコミュニティで支払ページを使用できます。詳細は、「Salesforce Billing: コミュニティおよび Lightning ページでのクレジットカードの保存と支払の受け付け」を参照してください。

lightning:messageChannel (開発者プレビュー)
Lightning Message Service API にアクセスできます。Lightning Message Service を使用して、DOM 全体、および Aura コンポーネント、Visualforce ページ、Lightning Web コンポーネント間でメッセージの公開と登録を行います。詳細は、「Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (開発者プレビュー)」を参照してください。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning:breadcrumb
次の属性が変更されています。

- `label`—テキストの表示ラベルは、すべての大文字には変換されなくなりました。

lightning:button
`click()` メソッドが追加されました。

`variant` 属性で新しい値がサポートされます。

- `brand-outline` — `brand` バリエーションと同じように、このバリエーションはページのプライマリアクションに注目を集めます。青い色は表示ラベルと境界線のみに使用され、ボタンの色は白になります。このバリエーションは、`brand` バリエーションが環境で邪魔になる場合に使用します。
- `destructive-text` — `destructive` バリエーションと同じように、このバリエーションはデータの永久的な削除など、ユーザにとって破壊的なアクションを示します。赤い色は表示ラベルと境界線のみに使用され、ボタンの色は白になります。このバリエーションは、`destructive` バリエーションが環境で邪魔になる場合に使用します。

lightning:buttonIcon
`click()` メソッドが追加されました。

lightning:buttonMenu
`click()` メソッドが追加されました。

lightning:carousel
カルーセル画像のスワイプがモバイルデバイスでサポートされるようになりました。

lightning:combobox
次の属性が新規追加されました。

- `ariaLabelledBy` — コンボボックスの表示ラベルを提供する要素 ID のスペース区切りのリスト。
- `ariaDescribedBy` — コンボボックスの説明ラベルを提供する要素 ID のスペース区切りのリスト。

lightning:formattedNumber
アラビア語、ヒンドゥー語、ペルシア語の数値がサポートされるようになりました。

lightning:formattedRichText
`mark` HTML タグがサポートされるようになりました。

lightning:formattedUrl

`click()` メソッドが追加されました。

lightning:datatable

`columns` 属性の以下のプロパティが変更されています。

- `label`—テキストは太字になり、すべての大文字には変換されなくなりました。

`url` 型で次の属性のデフォルトの動作が変更されました。

- `target` — リンクがデフォルトで同じフレームで開くようになりました (フレームを使用していない場合は同じブラウザタブ)。これは、`_self` の対象値に対応します。リンクを新しいタブで開くには、この列の定義を使用します。

```
var columns = [
    {
        label: 'Company Website', fieldName: 'website', type: 'url',
            typeAttributes: { target: _blank }
    },
// other column data
]
```

- `tooltip` — ツールチップの値が指定されない場合、URL 項目にツールチップが表示されなくなりました。URL 値を使用してツールチップを表示するには、この列の定義を使用します。

```
var columns = [
    {
        label: 'Company Website', fieldName: 'website', type: 'url',
            typeAttributes: {
                tooltip: { fieldName: 'website' }
            }
    },
// other column data
]
```

lightning:inputField

次の属性が新規追加されました。

- `required` — 入力項目をクライアントでのみ必須にするには、`required` を true に設定します。フォームを送信する前に項目で値を必須にするにはこの属性を使用します。項目は [設定] で必須とマークされません。項目に値がない場合、フォームデータがサーバに送信される前にコンポーネントのクライアント側の検証でエラーがキャッチされます。

lightning:listView

ToDo オブジェクトがサポートされるようになりました。

lightning:recordEditForm

このコンポーネントにより、フォーム全体で `onchange` イベントが発生し、入力規則エラーがある項目を更新したときに入力規則エラーがクリアされます。この変更は `lightning:recordForm` にも適用されます。

lightning:tab

次の属性が新規追加されました。

- `endIconName` — タブの表示ラベルの後に表示するユーティリティアイコンの名前。

- `endIconAlternativeText` — 終了アイコンの代替テキスト。

`lightning:tree`

次の属性が変更されています。

- `header`—テキストは太字になり、すべての大文字には変換されなくなりました。

次の属性が新規追加されました。

- `selectedItem` — 指定されたツリー項目を選択して強調表示します。ツリー項目名は大文字と小文字を区別します。ツリー項目がネストされている場合、この項目を選択した場合も親の分岐が展開されます。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

新しい Aura コンポーネントイベント

新しい Aura コンポーネントイベントを使用して、コミュニケーションを促進し、コンポーネント間のインタラクションを増やします。

次のイベントが新規追加されました。

forceCommunity:analyticsInteractionGtag

グローバルサイトタグ (gtag.js) 標準を使用して、Lightning コンポーネントによってトリガされたイベントを追跡し、データを Google アナリティクスに送信します。テンプレートベースのコミュニティでのみサポートされます。gtag スタンダードを使用するには、コミュニティビルダーで Google アナリティクスを有効にし、コミュニティを公開します。詳細は、「新しい Google アナリティクス™ 標準を使用した追跡の改善」を参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:コミュニティマネージャのエンゲージメントインサイトの有効化および対応付け (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』を参照してください。

このセクションの内容:

Apex: 新規および変更されたクラスおよびインターフェース

次のクラスおよびインターフェースが新規追加または変更されています。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。コミュニティの管理コンテンツバージョンを取得します。

関連トピック:

Apex: 新機能

Apex: 新規および変更されたクラスおよびインターフェース

次のクラスおよびインターフェースが新規追加または変更されています。

このセクションの内容:

新規 Apex クラス
今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

変更された Apex クラス
次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

新規 Apex インターフェース
このリリースでは、次のインターフェースが導入されました。

新規 Apex クラス

今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

System 名前空間の Formula クラス
新しい `System.Formula` クラスには、入力 sObject のすべての数式項目を更新 (再計算) する `recalculateFormulas` メソッドが含まれます。

System 名前空間の FormulaRecalcFieldError クラス
新しい `System.FormulaRecalcFieldError` クラスは、`FormulaRecalcResult.getErrors method` の戻り値の型です。エラー項目の名前を取得するメソッド、および数式の計算が失敗した理由を説明するメッセージが含まれます。

System 名前空間の FormulaRecalcResult クラス
新しい `System.FormulaRecalcResult` クラスは、`Formula.recalculateFormulas` メソッドの戻り値の型です。再計算された数式、および sObject で数式を再計算中に発生したエラーを含む sObject を返すメソッドが含まれます。

System 名前空間の Packaging クラス
新しい `System.Packaging` クラスには、インストール済みパッケージのコンテキストでコールされると packageID を取得する `getCurrentPackageId` メソッドが含まれています。

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

`Auth.SessionManagement` クラス

新しいメソッド

verifyDeviceFlow(userCode, startUrl)
デバイス認証フロー中に入力されたユーザコードを検証し、ユーザを OAuth 承認ページにリダイレクトします。ユーザがログインしていない場合はログインする必要があります。ログインに成功したら、ユーザはデバイスから Salesforce データへのアクセスを許可するように求められます。

`EventBus.ChangeEventHeader` クラス

新しいプロパティ

`changedfields`
更新操作で変更された項目のリスト(`LastModifiedDate` システム項目を含む)。この項目は、レコード作成などの他の操作では空です。

`System.Type` クラス

新しいメソッド

isAssignableFrom(sourceType)
どちらのオブジェクトもインスタンス化せずに、ある型のオブジェクトを別の型のオブジェクトから割り当てることができるかどうかをチェックします。2 つの型に互換性がある場合、`true` を返します。

`System.UserManagement` クラス

新しいメソッド

initRegisterVerificationMethod(method)
ID 検証方法をカスタム (Visualforce) ページに登録するための検証を呼び出します。ユーザは、メールアドレスまたは電話番号を登録できます。

verifyRegisterVerificationMethod(code, method)
ID 検証プロセスをカスタマイズするときの検証方法として、ユーザのメールアドレスまたは電話番号の登録を完了します。

`System.UserInfo` クラス

新しいメソッド

isCurrentUserLicensedForPackage(packageID)
コンテキストユーザが管理パッケージのライセンスが持っている場合は、`true` を返します。そうでない場合は `false` を返します。

新規 Apex インターフェース

このリリースでは、次のインターフェースが導入されました。

`TxnSecurity.EventCondition` インターフェース
トランザクションセキュリティポリシーに基づいて、特定のイベントの発生時にアクションを実行するかどうかを実装クラスで指定できるようにします。このインターフェースはリアルタイムイベントモニタリングに含まれ、Summer '19 ではベータでした。

`TxnSecurity.AsyncCondition` インターフェース
非同期の Apex コールを実行するためにクラスの実装を許可します。このインターフェースはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。コミュニティの管理コンテンツバージョンを取得します。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データをより簡単に公開できます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、複数のコールではなく 1 回のコールで行うことができます。

メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

新規 Chatter in Apex クラス
次のクラスが新規追加されました。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス
次の出力クラスが新規追加または変更されました。

新規 Chatter in Apex Enum
次の Enum が新規追加されました。

新規 Chatter in Apex クラス

次のクラスが新規追加されました。

管理コンテンツ

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.ManagedContent` クラスに含まれます。

コミュニティのすべての管理コンテンツバージョンの取得

- `getAllManagedContent(communityId, pageParam, pageSize, language, managedContentType)`

ID による管理コンテンツバージョンの取得

- `getManagedContentByIds(communityId, managedContentIds, pageParam, pageSize, language, managedContentType)`

トピック名による管理コンテンツバージョンの取得

- `getManagedContentByTopics(communityId, topics, pageParam, pageSize, language, managedContentType)`

ID とトピック名による管理コンテンツバージョンの取得

- `getManagedContentByTopicsAndIds(communityId, managedContentIds, topics, pageParam, pageSize, language, managedContentType)`

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

Chatter フィード

`ConnectApi.EmailMessageCapability`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `htmlExpandEmailThread` — 前のメールスレッドの開始位置。
- `status` — ケースのメールメッセージの状況。値は次のとおりです。
  - `DraftStatus`
  - `ForwardedStatus`
  - `NewStatus`
  - `ReadStatus`
  - `RepliedStatus`
  - `SentStatus`

コミュニティ

`ConnectApi.Community`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `guestMemberVisibilityEnabled` — ゲストメンバーがコミュニティの他のメンバーを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

管理コンテンツ

`ConnectApi.ManagedContentAssociations`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `topics` — 管理コンテンツに関連付けられたトピックのコレクション。

`ConnectApi.ManagedContentMediaNodeValue`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.ManagedContentNodeValue` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `altText` — 管理コンテンツノードの代替テキスト。
- `altUrl` — 管理コンテンツノードの代替 URL。
- `mediaType` — 管理コンテンツメディアの種別。値は `Image` です。
- `mimeType` — 管理コンテンツノードの MIME タイプ。
- `title` — 管理コンテンツノードのタイトル。
- `url` — 管理コンテンツノードの URL。

ConnectApi.ManagedContentNodeType
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- label — 管理コンテンツノード種別の表示ラベル。
- name — 管理コンテンツノード種別の API 参照名。
- nodeType — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - Media
  - MultilineText
  - NameField
  - RichText
  - Text

ConnectApi.ManagedContentNodeValue
この新しい出力クラスは、ConnectApi.ManagedContentMediaNodeValue および ConnectApi.ManagedContentTextNodeValue のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- nodeType — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - Media
  - MultilineText
  - NameField
  - RichText
  - Text

ConnectApi.ManagedContentTextNodeValue
この新しい出力クラスは ConnectApi.ManagedContentNodeValue のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- value — 管理コンテンツノードのテキスト値。

ConnectApi.ManagedContentType
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- label — 管理コンテンツ種別の表示ラベル。
- name — 管理コンテンツ種別の API 参照名。
- nodeTypes — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - Media
  - MultilineText
  - NameField
  - RichText
  - Text

ConnectApi.ManagedContentVersion
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- associations — 管理コンテンツに関連付けられたコンテンツトピック。
- contentNodes — コンテンツノードのマップ。

- managedContentId — 管理コンテンツの ID。
- publishedDate — 管理コンテンツバージョンが最後に公開された日付。
- title — 管理コンテンツバージョンのタイトル。
- type — 管理コンテンツバージョンの種別。
- typeLabel — 管理コンテンツ種別の種別表示ラベル。

ConnectApi.ManagedContentVersionCollection
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currentPageUrl — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- items — 管理コンテンツバージョンのリスト。
- managedContentTypes — 管理コンテンツ種別のマップ。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Chatter REST API URL。次のページがない場合は null。
- total — 管理コンテンツバージョンの合計数。
- totalTypes — 管理コンテンツ種別の合計数。

ConnectApi.TopicSummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- id — トピックの ID。
- name — トピックの 名前。

Next Best Actions

ConnectApi.NBAFlowAction
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- flowLabel — 推奨フローの表示ラベル。
- flowType — 推奨フローの種別。値は次のとおりです。
  - AutoLaunchedFlow — バックグラウンドで実行される自動起動フロー。
  - Flow — ユーザ入力を受け入れる画面フロー。

新規 Chatter in Apex Enum

次の Enum が新規追加されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

ConnectApi.ManagedContentMediaType
この新しい Enum には次の値があります。

- Image

ConnectApi.ManagedContentNodeType
この新しい Enum には次の値があります。

- Media
- MultilineText
- NameField

- `RichText`
- `Text`

API: 新規および変更された項目

API バージョン 47.0 では、より多くのメタデータ型、データオブジェクト、および標準プラットフォームイベントにアクセスできます。多くの組織設定をメタデータ API で使用できます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

REST API

REST API では、リソースが変更されました。

SOAP API

『*SOAP API 開発者ガイド*』に以前のリリースで導入されたコールが追加されました。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。コミュニティのナビゲーションメニュー項目と管理コンテンツバージョンを取得します。通知設定を管理します。パーソナライズのパイロットに参加して、コミュニティの利用者や対象者を操作します。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API に、項目間の絞り込みとユニーク数を記述する新しいプロパティが追加されました。

ユーザインターフェース API

新しいオブジェクトを使用し、MRU リストビューにレコードを追加し、新しいアプリケーション種別を特定します。

Bulk API 2.0: レポートされた結果でのオーバーフローエラーの回避

Bulk API 2.0 では、1 つのコールが変更されています。`/services/data/v`***`XX.X`***`/jobs/ingest/`***`jobID`*** のレスポンスボディで、`numberRecordsFailed` 項目と `numberRecordsProcessed` 項目の型が int から long に変更されました。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

メタデータ API で公開される設定

一部の設定が メタデータ API でメタデータ型の Boolean 項目として公開されました。

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API では、ユーティリティアイコンの色をカスタマイズするメソッドが更新されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

アクションプラン

アクションプランテンプレートをビジネスマイルストン、請求、保険契約、保険契約補償範囲、個人ライフイベント、または訪問に関連付ける

ActionPlanTemplate オブジェクトの `TargetEntityType` で新しい `BusinessMilestone`、`Claim`、`InsurancePolicy`、`InsurancePolicyCoverage`、`PersonLifeEvent`、または `Visit` 選択リストオプションを使用します。

エージェントの生産性

マクロの利用状況に関する情報を取得

新しい `MacroUsage` オブジェクトを使用します。

クイックテキストの利用状況に関する情報を取得

新しい `QuickTextUsage` オブジェクトを使用します。

チャネルオブジェクトリンク (ベータ)

メモ: ベータ機能であるチャネルオブジェクトリンクはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

チャネルインタラクションをオブジェクト (取引先責任者など) にリンクするルールを管理

新しい `ChannelObjectLinkingRule` オブジェクトを使用します。この機能は、メッセージング用のベータです。

コラボレーション売上予測

商品提供日またはスケジュール日によってロールベースの各商品ファミリの売上予測種別の一意の API 参照名を取得

以前は将来の使用のための予約の対象でしたが、ForecastingType オブジェクトの `DeveloperName` 項目でこれらの値を使用できるようになりました。

- LineItemQuantityProductDate: 商品提供日別商品ファミリ数量
- LineItemQuantityScheduleDate: スケジュール日別商品ファミリ数量
- LineItemRevenueProductDate: 商品提供日別商品ファミリ収益
- LineItemRevenueScheduleDate: スケジュール日別商品ファミリ収益

非推奨: ForecastingType オブジェクトの DeveloperName 項目の *Territory_Model_NameN*_ProductFamily 値を非推奨

ForecastingType オブジェクトの DeveloperName 項目で、***Territory_Model_NameN***_ProductFamily 値が廃止されました。***Territory_Model_NameN*** はすべてのテリトリー売上予測種別を表すようになりました。ここで、*Territory_Model_Name* は API の有効なテリトリーモデルの名前であり、後ろに *N* が続く場合があります。*N* は自動生成される数値で、テリトリー売上予測種別を識別します。

取引先責任者

セールスプロセスとレポートプロセスに合わせて取引先責任者の役割をカスタマイズ

OpportunityContactRole オブジェクトは、カスタム項目、ボタン、ページレイアウトなどのカスタマイズをサポートするようになりました。Apex トリガと入力規則を使用して、自動化の構築とワークフローのチェックを行うこともできます。

データ保護とプライバシー

所有者以外のユーザと AuthorizationFormConsent オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得

新しい AuthorizationFormConsentOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

AuthorizationFormConsent オブジェクトに対するアクセスレベルのリストに関する情報を取得

新しい AuthorizationFormConsentShare オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと ContactPointTypeConsent オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得

ContactPointTypeConsentOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

認証フォームに署名が必要かどうかを示唆

AuthorizationForm オブジェクトで新しい IsSignatureRequired 項目を使用します。

認証フォームに同意している顧客に関連付けられた取引先の所有者を指定

AuthorizationFormConsent オブジェクトで新しい OwnerId 項目を使用します。

認証フォームが参照されたか署名されたかを示唆

AuthorizationFormConsent オブジェクトで新しい Status 項目を使用します。

認証フォームに同意しているユーザを参照

AuthorizationFormConsent オブジェクトで新しい ConsentGiverId 項目を使用します。

削除: AuthorizationFormConsent オブジェクトから PartyId 項目を削除

代わりに ConsentGiverId 項目を使用します。

同意が得られた DocumentVersion オブジェクトを参照

AuthorizationFormConsent オブジェクトで新しい DocumentVersionId 項目を使用します。

認証フォームのテキストのロケールを指定

AuthorizationFormText オブジェクトで新しい LocaleSelection 項目を使用します。

認証フォームのテキストを提供する DocumentVersion オブジェクトを参照
AuthorizationFormText オブジェクトで新しい `ContentDocumentId` 項目を使用します。

ContactPointTypeConsent レコードまたはそのレコードに関連するレコードを最後に参照した時間を表示
ContactPointTypeConsent オブジェクトで新しい `LastViewedDate` および `LastReferencedDate` 項目を使用します。

DataUseLegalBasis レコードまたはそのレコードに関連するレコードを最後に参照した時間を表示
DataUseLegalBasis オブジェクトで新しい `LastViewedDate` および `LastReferencedDate` 項目を使用します。

DataUsePurpose レコードまたはそのレコードに関連するレコードを最後に参照した時間を表示
DataUsePurpose オブジェクトで新しい `LastViewedDate` および `LastReferencedDate` 項目を使用します。

ドメイン管理

ドメインに関するその他の詳細を取得
Domain オブジェクトで新しい `OptionsHstsHeaders` 項目を照会して、HTTP Strict Transport Security (HSTS) 応答ヘッダーが要求に含まれるかどうかを判断します。また、`OptionsExternalHttps` 項目は非推奨になりました。代わりに、現在の HTTPS オプションで新しい `HttpsOption` 項目を照会します。

Einstein プラットフォーム

予測ビルダーなどの Einstein の機能による売上予測の方法を理解
新しい Einstein インサイトオブジェクト `AIRecordInsight`、`AIInsightValue`、`AIInsightAction`、`AIInsightReason`、`AIInsightFeedback` を使用します。

CaseArticle オブジェクトで一括クエリジョブでの主キー (PK) Chunking をサポート
PK Chunking は、大量のレコードを効率的に処理するのに役立ちます。詳細は、「PK Chunking ヘッダー」および「PK Chunking を使用した一括クエリサンプルの説明」を参照してください。

Sales Cloud Einstein

Sales Cloud Einstein がスコアリングモデルの構築に使用するモデル要素を理解
新しい SalesAIScoreCycle および SalesAIScoreModelFactor オブジェクトを使用します。

[OpportunityContactRoleSuggestionInsight] リストビューに対する describe コールで使用する取引先責任者項目の変更
取引先責任者項目の表示方法が変更されました。たとえば、`ContactEmail` 項目は `Contact.Email` に変更されました。

メール

ユーザ

`LocaleSidKey` 項目には、モンテネグロ語 (モンテネグロ) 用の新しい選択リスト値 `sh_ME_USD` があります。

`UserPreferencesNativeEmailClient` 項目がオブジェクトに追加されました。

EmailMessage

状況

`Status` 項目は参照のみではなく、ほぼ参照のみです。状況を *`New`* から *`Read`* に変更することのみ可能です。

Entitlements

WorkOrder オブジェクトと WorkOrderLineItem オブジェクトで一括クエリジョブでの主キー (PK) Chunking をサポート

PK Chunking は、大量のレコードを効率的に処理するのに役立ちます。詳細は、「PK Chunking ヘッダー」および「PK Chunking を使用した一括クエリサンプルの説明」を参照してください。

動作の変更: 契約品目の価格表エントリを更新

ContractLineItem オブジェクトで `PricebookEntryId` 項目を更新できるようになりました。

イベントモニタリング

すべての Apex REST API 要求に関する EventLogFile の情報を取得

新しい Apex REST API イベント種別を使用します。

UI、API、ダッシュボードなどから、レポートが実行されたコンテキストに関する EventLogfile の情報を取得

レポートおよび非同期レポート実行イベント種別の新しい `ORIGIN` 項目を使用します。

Field Service Lightning

ユーザがモバイルデバイスでタイムシートにアクセスできるようにします。

FieldServiceMobileSettings オブジェクトで新しい `IsTimeSheetEnabled` 項目を使用します。この機能は、Field Service Lightning 用のベータです。

所有者以外のユーザとジョブプロファイルオブジェクトを共有するルールに関する情報を取得

新しい JobProfileOwnerSharingRule オブジェクトを使用します。

ジョブプロファイルに対するアクセスレベルのリストに関する情報を取得

新しい JobProfileShare オブジェクトを使用します。

ジョブプロファイルレコードの項目の値への変更に関する情報を取得

新しい JobProfileHistory オブジェクトを使用します。

シフトを使用してサービス予定をスケジュールします。

Shift オブジェクトで新しい `JobProfile` 項目、`ServiceResourceId` 項目、および `ServiceTerritoryId` 項目を使用します。

フロー

動作の変更: サポートされないプロセス種別を指定したときに SOQL クエリでエラーが発生しない

SOQL クエリが FlowDefinitonView オブジェクト、FlowVersionView オブジェクト、FlowVariableView オブジェクトの `ProcessType` 項目でサポートされないプロセス種別を指定したときに、レコードが返されないようになりました。以前は、エラーメッセージが返されていました。

他のプロセス種別に関する詳細を取得
FlowDefinitionView オブジェクトと FlowVersionView オブジェクトの既存の `ProcessType` 項目で新しい `SalesEntryExperienceFlow` 値および `FSCLending` 値を使用します。

フローに関するその他の詳細を取得
既存の FlowDefinitionView オブジェクトで新しい `TriggerType` 項目、`LastModifiedBy` 項目、`LastModifiedDate` 項目、`IsActive` 項目、`IsOutOfDate` 項目、`IsTemplate` 項目、`Builder` 項目、`ManageableState` 項目、`InstalledPackageName` 項目を使用します。

通知種別の作成
新しい `CustomNotificationType` オブジェクトを使用して、カスタム通知の作成とフローからの送信に対するデスクトップまたはモバイル通知種別を作成します。

数式

数式で使用可能な関数を検索
新しい `FormulaFunction` オブジェクトを使用して数式を作成するために使用される関数を照会します。

数式で使用可能な関数のカテゴリを検索
新しい `FormulaFunctionCategory` オブジェクトを使用して数式を作成するために使用される関数のカテゴリを照会します。

Lightning コンポーネントの表示を制御する数式ルールを検索
新しい `UiFormulaRule` オブジェクトを使用して Lightning コンポーネントの表示を制御する数式検索条件を照会します。

Lightning コンポーネントの表示を制御する数式を定義する検索条件を検索
新しい `UiFormulaCriterion` オブジェクトを使用して Lightning コンポーネントの表示を制御する数式の検索条件を照会します。

グローバリゼーション

動作の変更: ユーザの表示言語およびロケールを取得
ユーザの表示言語と使用可能な言語を識別するため、User オブジェクトの既存の `LanguageLocaleKey` 項目の `PicklistEntry active` 値の結果が変更されました。

High Velocity Sales

通話の結果を追跡
新しい `CallDisposition` オブジェクトを使用して、通話を記録するときに結果値を割り当てます。

レポートとセールスケイデンスの分岐条件で通話の結果を使用
新しい `CallDispositionCategory` オブジェクトを使用して、通話の結果値をカテゴリに関連付けます。これらのカテゴリはレポートでセールスケイデンスの分岐条件として使用されます。

サードパーティスコアリングを使用して作業キューをカスタマイズ
新しい SalesWorkQueueSettings オブジェクトを使用します。

ナレッジ

複数の言語または公開状況がある記事の SOQL クエリを絞り込む

`KnowledgeArticleVersion` オブジェクトで `language` および `publishing_status` 項目の複数の値を使用します。`archived` 記事のクエリはアーカイブ済み記事の最新バージョンを返しますが、現在公開されている記事のアーカイブ済みバージョンは返しません。公開状況の検索条件を使用しないクエリは、ドラフト、アーカイブ済み、および公開済みの記事を返します。API バージョン 46.0 以前では、結果はデフォルトで公開済みの記事に制限されます。

Lightning Knowledge API の使用

API 39.0 から、Salesforce Classic のナレッジに加えて、Lightning Knowledge も使用できるようになりました。これには、KnowledgeArticle と KnowledgeArticleVersion の更新も含まれます。以下のオブジェクトを使用できます。Knowledge__Feed、Knowledge__ka、Knowledge__kav、Knowledge__DataCategorySelection

Lightning コミュニティ

コミュニティ内のユーザへの権限セットの割り当てをポータルユーザの代理管理者に許可

新しい `PortalDelegablePermissionSet` オブジェクトにより、ポータルユーザの代理管理者は権限セットを他のポータルユーザに割り当て、より多くのコミュニティ管理を実行できます。

Lightning Dialer

カスタム通話者 ID の使用

`CustomCallerId` 選択リスト値は、`VoiceCall` オブジェクトと `VoiceUserPreferences` オブジェクトの `CallerIdType` 項目で使用できます。また、`IsCustomCallerIdNumber`、`VendorVerifiedCallerIdKey`、および `VoiceVendorInfoId` 項目を `VoiceUserLine` オブジェクトで使用できます。これらの変更により、ユーザが発信する際にカスタム番号を表示していることを通知できます。

Lightning Scheduler

同時スケジュールタイムスロットで使用できる最大予約数を格納します。

`TimeSlot` オブジェクトで新しい `MaxAppointments` 項目を使用します。

同時スケジュールタイムスロットに割り当てられている作業種別グループを格納します。

`TimeSlot` オブジェクトで新しい `WorkTypeGroupId` 項目を使用します。

Salesforce 全体

ユーザが Salesforce Classic に戻った理由についてのフィードバックを取得

`LightningOnboardingConfig` オブジェクトを使用して、「Salesforce Classic に切り替えるユーザのフィードバックフォーム」のコンテンツにアクセスします。

機能の発見と採用のためのアプリケーション内ガイダンスを作成

正式リリースされました。`Prompt`、`PromptAction`、`PromptActionShare`、`PromptActionOwnerSharingRule`、`PromptVersion` オブジェクトを使用します。この応答画面は、組織へのインストール時に公開状況を保持するようになりました。たとえば、パッケージでこれらの応答画面が有効な場合、インストール後にも有効になります。また、アクションボタンの URL の文字数制限が増加しました。

カスタムヘルプメニューセクションでの URL の最大文字数制限を引き上げ
`CustomHelpMenuItem` オブジェクトの `LinkUrl` 項目は、最大文字数制限を 1,000 に引き上げて Group プロパティを削除するように変更されました。

エンティティおよびすべての関連する子エンティティをコピー (将来の使用のために予約)
`deepCloneable` オブジェクトを使用します。

セールスプロセス

価格表エントリの履歴を追跡および表示
`FieldHistoryArchive` オブジェクトで、`FieldHistoryType` 項目の新しい `PricebookEntry` 選択リスト値を使用します。価格表エントリの以前の価格を追跡および監査できるようになりました。

OpportunityLineItem および QuoteLineItem を使用して商品の並び替え順を指定
`OpportunityLineItem` および `QuoteLineItem` オブジェクトで `SortOrder` 項目を作成および更新できるようになりました。それらを使用して、それぞれ商談または見積に商品が表示される順序を指定します。商談と見積がリンクされていて、どちらかのレコードで商品の並び順序を変更すると、同期時に並び順序が更新されます。

取引先チームのカスタム通貨項目を作成
`AccountTeamMember` オブジェクトで新しい `CurrencyIsoCode` 項目を使用します。

営業担当が重要なマイルストンを達成したときにパスに紙吹雪を表示して成功を祝う
`DescribePathAssistant` オブジェクトで新しい `animationRule` 項目を使用します。

Salesforce アンケート

ユーザのレコードの招待または回答への関連付け
SurveySubject オブジェクトの `SubjectEntityType` 項目の新しい `User` 選択リストオプションを使用します。

動作の変更: サポートされるオブジェクトのレコードに関連付けられた招待および回答に関する詳細を取得
`SurveyInvitationID` 項目と `SurveyResponseId` 項目が SurveySubject オブジェクトに追加されました。

動作の変更: テキスト以外のすべての質問種別について計算されるスコア
`CumulativeScore` 項目、`DateResponse` 項目、`QuestionDeveloperName` 項目が SurveyQuestionScore オブジェクトに追加されました。SurveyQuestionScore に日付、多肢選択式、選択リスト、スライダの追加の質問種別のスコアが保存されるようになりました。

Pardot

Pardot メールの再利用可能なコンテンツを作成および管理
新しい Snippet、SnippetAssignment、および SnippetFeed オブジェクトを使用します。

ジョブのスケジュール

CronJobDetail でスケジュール済みフローに対してクエリを実行

`JobType` 選択リストには、スケジュール済みフローも含まれるようになりました。

関連トピック:

住宅ローンフローテンプレートを使用したガイド付き住宅ローン申請フローの作成

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

Salesforce Einstein

Einstein 予測結果に関する通知を受信

AIPredictionEvent は新しい Einstein 予測結果オブジェクトを参照します。`InsightId` 項目は AIRecordInsight を参照するようになりました。`PredictionEntityId` 項目は AIInsightValue を参照するようになりました。予測結果がどのように生成されたかを理解するには、参照されたオブジェクトの情報を使用します。

モバイル

ユーザのモバイルアプリケーション内アクティビティを追跡

MobileEmailEvent、MobileScreenshotEvent、および MobileTelephonyEvent を使用して、アプリケーション内メールアクティビティ、スクリーンショット、通話、テキストメッセージを追跡します。また、MobileEnforcedPolicyEvent を使用して、強化されたモバイルセキュリティポリシーイベントを追跡します。この新しいモバイルイベントはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

カスタマイズ

画面フローの実行中に発生したエラーに関する通知を受信

FlowExecutionErrorEvent に登録して、画面フローのエラーに関連した通知を受信します。

セキュリティと ID

ユーザアクティビティをリアルタイムに監視

リアルタイムイベントモニタリングオブジェクトを使用して、イベントデータをストリーミングおよび保存します。リアルタイムイベントモニタリングは Summer '19 ではベータでしたが、正式リリースされました。

ログインイベントから地理位置情報を取得

LoginEvent イベントオブジェクトと LoginEventStream イベントオブジェクトの新しい項目を使用してユーザログインに関する地理位置情報を取得します。新しい項目は、`City`、`Country`、`LoginLatitude`、`LoginLongitude`、`Subdivision`、`PostalCode` です。LoginEvent イベントオブジェクトと LoginEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

JSON 形式でイベントデータを取得

ApiEvent、ApiEventStream、ListViewEvent、ListViewEventStream、ReportEvent、ReportEventStream の各イベントオブジェクトで新しい `Records` 項目を使用します。この新しい項目には ApiEvent and ApiEventStream の古い `RecordsData` 項目、ListViewEvent および ListViewEventStream の `ListViewData` 項目、および ReportEvent および ReportEventStream の `ReportData` 項目と同じ情報が含まれます。これらのオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

1 つのリストビュー実行でリストビューレコードの複数のチャンクを相関

ListViewEvent イベントオブジェクトと ListViewEventStream イベントオブジェクトの新しい `ExecutionIdentifier` 項目と `Sequence` 項目を使用して複数のレコードを相関させます。これらのイベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

動作の変更: LightningUriEventStream イベントオブジェクトと LightningUriEvent イベントオブジェクトで関連性の高い実効ページ時間を取得

Salesforce が 60 秒より大きい `EffectivePageTime` 項目の値を検出すると、項目値が 0 に設定されるようになりました。異常値を除外することで、Lightning URI イベントデータの有用性と読みやすさが向上します。LightningUriEventStream イベントオブジェクトと LightningUriEvent イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれます。

削除: AdminSetupEvent および AdminSetupEventStream イベントオブジェクトへのアクセス不可

AdminSetupEvent イベントオブジェクトと AdminSetupEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

削除: ApiEvent イベントオブジェクトと ApiEventStream イベントオブジェクトの `Browser` 項目を削除

ApiEvent イベントオブジェクトと ApiEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

削除: ListViewEvent イベントオブジェクトと ListViewEventStream イベントオブジェクトの `ListViewData` 項目を削除

同じデータが含まれる新しい `Records` 項目を使用します。ListViewEvent イベントオブジェクトと ListViewEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

削除: UriEvent イベントオブジェクトと UriEventStream イベントオブジェクトの `Namespace` 項目を削除

UriEvent イベントオブジェクトと UriEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

削除: ApiEvent イベントオブジェクトと ApiEventStream イベントオブジェクトの `RecordData` 項目を削除

同じデータが含まれる新しい `Records` 項目を使用します。ApiEvent イベントオブジェクトと ApiEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

削除: ReportEvent イベントオブジェクトと ReportEventStream イベントオブジェクトの `ReportData` 項目を削除

同じデータが含まれる新しい `Records` 項目を使用します。ReportEvent イベントオブジェクトと ReportEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

サポートの変更: LightningUriEvent および LightningUriEventStream イベントオブジェクトの `SessionLevel` 項目を将来の使用のために予約

LightningUriEvent イベントオブジェクトと LightningUriEventStream イベントオブジェクトはリアルタイムイベントモニタリングに含まれますが、Summer '19 ではベータでした。

関連トピック:

強化されたモバイルセキュリティによる Salesforce アプリケーションの保護
イベントデータのほぼリアルタイムのストリーミングおよび保存 (正式リリース)

REST API

REST API では、リソースが変更されました。

開発

動作の変更: 1 時間ごとのプラットフォームイベント公開割り当てを取得

`limits` リソースは 2 つの新しい割り当てを返すようになりました。これらの値を取得するには、`/services/data/v47.0/limits` に対して GET 要求を実行します。

- `HourlyPublishedPlatformEvents` — 1 時間あたりの公開される大規模プラットフォームイベント通知
- `HourlyPublishedStandardVolumePlatformEvents` — 1 時間あたりの公開される標準量のプラットフォームイベント通知

Bulk API 2.0 のクエリジョブの制限に関する情報を取得

`limits` リソースの応答で新しい `DailyBulkV2QueryFileStorageMB` および `DailyBulkV2QueryJobs` 値を使用します。これらの値を取得するには、`/services/data/v47.0/limits` に対して GET 要求を実行します。

Lightning Scheduler

動作の変更: 同時スケジュールおよびマルチリソーススケジュールの予定の時間枠を取得

これらの値を取得するには、`/services/data/v47.0/scheduling/getAppointmentSlots` に対して GET 要求を実行します。

動作の変更: 同時スケジュールの予定候補を取得

これらの値を取得するには、`/services/data/v47.0/scheduling/getAppointmentCandidates` に対して GET 要求を実行します。

SOAP API

『*SOAP API 開発者ガイド*』に以前のリリースで導入されたコールが追加されました。

新規、変更、および廃止されたコール

新しいコール

`describePathAssistants()`
API バージョン 35.0 で導入されたこのメソッドは、`PathAssistant` オブジェクトのすべてのメタデータを示します。たとえば、`PathAssistant` の項目、URL、および子リレーションを取得するために使用できます。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。コミュニティのナビゲーションメニュー項目と管理コンテンツバージョンを取得します。通知設定を管理します。パーソナライズのパイロットに参加して、コミュニティの利用者や対象者を操作します。

メモ: カスタム Chatter とコミュニティの環境を Salesforce で作成するには、ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum を使用します。

このセクションの内容:

新しい Chatter REST API リソース
次のリソースが新規追加されました。

新しい Chatter REST API リクエストボディ
次のリクエストボディが新規追加されました。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ
新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新しい Chatter REST API リソース

次のリソースが新規追加されました。

コミュニティ

コミュニティのナビゲーションメニュー項目の取得
新規 `/connect/communities/communityId/navigation-menu/navigation-menu-items` リソースに対して GET 要求を実行します。

管理コンテンツ

コミュニティの公開された管理コンテンツバージョンの取得
新規 `/connect/communities/communityId/managed-content/delivery` リソースに対して GET 要求を実行します。必須の `managedContentType` パラメータをコンテンツバージョンの API 参照名に設定します。

通知設定

組織の通知設定の取得

新規 `/connect/notifications/settings/organization` リソースに対して GET 要求を実行します。

通知設定の取得

新規 `/connect/notifications/settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して GET 要求を実行します。

通知設定の指定

新しい Notification Setting Input リクエストボディを使用して、新しい `/connect/notifications/settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して POST 要求を実行します。

デフォルトへの通知設定のリセット

新規 `/connect/notifications/settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

組織の通知アプリケーション設定の取得

新規 `/connect/notifications/app-settings/organization` リソースに対して GET 要求を実行します。

通知アプリケーション設定の取得

新規 `/connect/notifications/app-settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して GET 要求を実行します。

通知アプリケーション設定の指定

新しい Notification App Setting Input リクエストボディを使用して、新しい `/connect/notifications/app-settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して POST 要求を実行します。

デフォルトへの通知アプリケーション設定のリセット

新規 `/connect/notifications/app-settings/organization/notificationTypeOrId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

パーソナライズ (パイロット)

メモ: パーソナライズは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。パーソナライズは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。

Developer Edition がある場合、パイロットに参加せずにパーソナライズ機能を使用するには、Salesforce にお問い合わせください。エディションにかかわらず、パーソナライズは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。すべてのコマンド、パラメータ、およびその他の機能は、通知の有無に関わらずいつでも変更または廃止される可能性があります。

コンテキストユーザが含まれる利用者のリストの取得
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/audiences リソースに対して GET 要求を実行します。

利用者の作成
新しい Audience Input リクエストボディを使用して、新しい /connect/communities/***communityId***/personalization/audiences リソースに対して POST 要求を実行します。

利用者の取得
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/audiences/***audienceId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

利用者の更新
新しい Audience Input リクエストボディを使用して、新しい /connect/communities/***communityId***/personalization/audiences/***audienceId*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

利用者の削除
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/audiences/***audienceId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

コンテキストユーザを含む利用者に基づく、そのユーザに一致する対象のリストの取得
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/targets リソースに対して GET 要求を実行します。

対象の作成
新しい Target Collection Input リクエストボディを使用して、新しい /connect/communities/***communityId***/personalization/targets リソースに対して POST 要求を実行します。

対象の更新
新しい Target Collection Update Input リクエストボディを使用して、新しい /connect/communities/***communityId***/personalization/targets リソースに対して PATCH 要求を実行します。

対象 ID のカンマ区切りリストの対象情報の取得
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/targets/batch/***targetIds*** リソースに対して GET 要求を実行します。

対象の取得
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/targets/***targetId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

対象の削除
新規 /connect/communities/***communityId***/personalization/targets/***targetId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

新しい Chatter REST API リクエストボディ

次のリクエストボディが新規追加されました。

通知設定

Notification App Setting Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `applicationId` — 接続アプリケーションの ID。指定されていない場合、接続アプリケーションからコールされると、デフォルトでセッションからのアプリケーション情報に設定されます。
- `enabled` — 接続アプリケーションの通知種別の配信を有効にするか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

Notification Setting Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `desktopEnabled` — 通知種別のデスクトップ配信を有効にするか (`true`)、否か (`false`) を指定します。指定されていない場合、設定は変更されません。
- `emailEnabled` — 通知種別のメール配信を有効にするか (`true`)、否か (`false`) を指定します。指定されていない場合、設定は変更されません。
- `mobileEnabled` — 通知種別のモバイル配信を有効にするか (`true`)、否か (`false`) を指定します。指定されていない場合、設定は変更されません。

パーソナライズ

Audience Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `criteria` — 更新または追加する利用者の条件のリスト。
- `customFormula` — 利用者の条件のカスタム数式。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。
- `formulaFilterType` — 利用者の数式の条件種別。値は次のとおりです。
  - `AllCriteriaMatch` — すべての利用者の条件が true (AND 操作)。
  - `AnyCriterionMatches` — いずれかの利用者の条件が true (OR 操作)。
  - `CustomLogicMatches` — 利用者の条件はカスタム数式に一致します (たとえば (1 AND 2) OR 3 など)。
- `name` — 利用者の名前。

Audience Criterion Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `criterion` — 利用者の条件と値の対応付けのリスト。
- `criterionNumber` — 数式内の利用者の条件に関連付けられている番号。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。指定しない場合、追加された順序で条件に番号が割り当てられます。
- `criterionOperator` — 利用者の条件で使用される演算子。値は次のとおりです。
  - `Contains`
  - `Equal`
  - `GreaterThan`
  - `GreaterThanOrEqual`
  - `Includes`
  - `LessThan`

  - LessThanOrEqual
  - NotEqual
  - NotIncludes
  - StartsWith
- criterionType — 利用者の条件の種別。値は次のとおりです。
  - Default — 利用者の条件がありません。
  - Domain — 利用者の条件はドメインに基づきます。
  - FieldBased — 利用者の条件はオブジェクト項目に基づきます。
  - GeoLocation — 利用者の条件は場所に基づきます。
  - Permission — 利用者の条件は標準権限またはカスタム権限に基づきます。
  - Profile — 利用者の条件はプロファイルに基づきます。

Target Collection Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- targets — 作成する対象のリスト。

Target Collection Update Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- targets — 更新する対象のリスト。

Target Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- audienceId — 対象に割り当てる利用者の ID。
- groupName — 対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- priority — 対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- publishStatus — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - Draft
  - Live
- targetType — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。API バージョン 47.0 以降では、サポートされる値には ExperienceVariation とカスタムオブジェクト API 名 (***CustomObjectName*__c** など) が含まれます。
- targetValue — 対象の値。targetType が ExperienceVariation の場合、targetValue はエクスペリエンスバリエーションの開発者名です。targetType が ***CustomObjectName*__c** の場合、targetValue はカスタムオブジェクトの ID です。

Target Update Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- audienceId — 対象に割り当てる利用者の ID。
- priority — 対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- targetId — 更新する対象の ID。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Chatter フィード

Email Message Capability

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `htmlExpandEmailThread` — 前のメールスレッドの開始位置。
- `status` — ケースのメールメッセージの状況。値は次のとおりです。
  - `DraftStatus`
  - `ForwardedStatus`
  - `NewStatus`
  - `ReadStatus`
  - `RepliedStatus`
  - `SentStatus`

コミュニティ

コミュニティ

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `guestMemberVisibilityEnabled` — ゲストメンバーがコミュニティの他のメンバーを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

Navigation Menu Item

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `imageUrl` — ナビゲーションメニュー項目の画像の URL。
- `label` — ナビゲーションメニュー項目の表示ラベル。
- `subMenu` — ナビゲーションメニュー項目のサブメニュー。
- `target` — ナビゲーションメニュー項目の対象。値は次のとおりです。
  - `CurrentWindow` — ナビゲーションメニュー項目は現在のウィンドウで開きます。
  - `NewWindow` — ナビゲーションメニュー項目は新しいウィンドウで開きます。
- `url` — ナビゲーションメニュー項目の URL。
- `urlType` — ナビゲーションメニュー項目の URL の種別。値は次のとおりです。
  - `ExternalLink` — コミュニティ外の URL。
  - `InternalLink` — コミュニティ内の相対 URL。

Navigation Menu Item Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `menuItems` — ナビゲーションメニュー項目のリスト。

管理コンテンツ

Managed Content Associations

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `topics` — 管理コンテンツに関連付けられたトピックのコレクション。

Managed Content Media Node Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `altText` — 管理コンテンツノードの代替テキスト。
- `altUrl` — 管理コンテンツノードの代替 URL。
- `mediaType` — 管理コンテンツメディアの種別。値は `Image` です。
- `mimeType` — 管理コンテンツノードの MIME タイプ。
- `nodeType` — 管理コンテンツノードの種別。 値は `Media` です。
- `title` — 管理コンテンツノードのタイトル。
- `url` — 管理コンテンツノードの URL。

ManagedContent Node Type

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `label` — 管理コンテンツノード種別の表示ラベル。
- `name` — 管理コンテンツノード種別の API 参照名。
- `nodeType` — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - `Media`
  - `MultilineText`
  - `NameField`
  - `RichText`
  - `Text`

Managed Content Text Node Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `nodeType` — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - `MultilineText`
  - `NameField`
  - `RichText`
  - `Text`
- `value` — 管理コンテンツノードのテキスト値。

Managed Content Type

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `label` — 管理コンテンツ種別の表示ラベル。
- `name` — 管理コンテンツ種別の API 参照名。
- `nodeTypes` — 管理コンテンツノードの種別。値は次のとおりです。
  - `Media`

  - MultilineText
  - NameField
  - RichText
  - Text

Managed Content Version

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- associations — 管理コンテンツに関連付けられたコンテンツトピック。
- contentNodes — コンテンツノードのマップ。
- managedContentId — 管理コンテンツの ID。
- publishedDate — 管理コンテンツバージョンが最後に公開された日付。
- title — 管理コンテンツバージョンのタイトル。
- type — 管理コンテンツバージョンの種別。
- typeLabel — 管理コンテンツ種別の種別表示ラベル。

Managed Content Version Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- currentPageUrl — 現在のページを識別する Chatter REST API URL。
- items — 管理コンテンツバージョンのリスト。
- managedContentTypes — 管理コンテンツ種別のマップ。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Chatter REST API URL。次のページがない場合は null。
- total — 管理コンテンツバージョンの合計数。
- totalTypes — 管理コンテンツ種別の合計数。

Topic Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- id — トピックの ID。
- name — トピックの 名前。

Next Best Actions

Next Best Action Flow Action

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- flowLabel — 推奨フローの表示ラベル。
- flowType — 推奨フローの種別。値は次のとおりです。
  - AutoLaunchedFlow — バックグラウンドで実行される自動起動フロー。
  - Flow — ユーザ入力を受け入れる画面フロー。

通知設定

Notification App Setting

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- applicationDevName — 接続アプリケーションの API 参照名。
- applicationId — 接続アプリケーションの ID。
- applicationName — 接続アプリケーションの名前。
- applicationNamespace — 接続アプリケーションが管理パッケージと共にインストールされている場合、その名前空間。
- enabled — 接続アプリケーションの通知種別が有効か (true)、否か (false) を示します。
- notificationLabel — 通知の表示ラベル。
- notificationTypeName — カスタム通知種別の API 参照名。
- notificationTypeNamespace — カスタム通知種別が管理パッケージと共にインストールされている場合、その名前空間。
- notificationTypeOrId — カスタム通知種別の通知種別または ID。
- pushEnabled — 接続アプリケーションで通知種別のプッシュが有効か (true)、否か (false) を示します。

Notification App Settings Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- notificationAppSettings — 通知アプリケーション設定のコレクション。

Notification Setting

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- desktopEnabled — 通知種別のデスクトップ配信が有効か (true)、否か (false) を示します。
- emailEnabled — 通知種別のメール配信が有効か (true)、否か (false) を示します。
- mobileEnabled — 通知種別のモバイル配信が有効か (true)、否か (false) を示します。
- notificationLabel — 通知の表示ラベル。
- notificationTypeName — カスタム通知種別の API 参照名。
- notificationTypeNamespace — カスタム通知種別が管理パッケージと共にインストールされている場合、その名前空間。
- notificationTypeOrId — カスタム通知種別の通知種別または ID。

Notification Settings Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- notificationSettings — 通知設定のコレクション。

パーソナライズ

Audience

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- criteria — 利用者の条件の詳細。
- customFormula — 利用者の条件のカスタム数式。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。
- formulaFilterType — 利用者の数式の条件種別。値は次のとおりです。
  - AllCriteriaMatch — すべての利用者の条件が true (AND 操作)。
  - AnyCriterionMatches — いずれかの利用者の条件が true (OR 操作)。

  - CustomLogicMatches — 利用者の条件はカスタム数式に一致します (たとえば (1 AND 2) OR 3 など)。
- id — 利用者の ID。
- name — 利用者の名前。
- targets — 利用者への対象の割り当て。
- url — この利用者への URL。

Audience Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- audiences — 利用者のコレクション。

Audience Criteria Details

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- criterion — 利用者の条件と値の対応付けのリスト。
- criterionNumber — 数式内の利用者の条件に関連付けられている番号。たとえば、(1 AND 2) OR 3 などです。指定しない場合、追加された順序で条件に番号が割り当てられます。
- crierionOperator — 利用者の条件で使用される演算子。値は次のとおりです。
  - Contains
  - Equal
  - GreaterThan
  - GreaterThanOrEqual
  - Includes
  - LessThan
  - LessThanOrEqual
  - NotEqual
  - NotIncludes
  - StartsWith
- criterionType — 利用者の条件の種別。値は次のとおりです。
  - Default — 利用者の条件がありません。
  - Domain — 利用者の条件はドメインに基づきます。
  - FieldBased — 利用者の条件はオブジェクト項目に基づきます。
  - GeoLocation — 利用者の条件は場所に基づきます。
  - Permission — 利用者の条件は標準権限またはカスタム権限に基づきます。
  - Profile — 利用者の条件はプロファイルに基づきます。

Audience Target

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- audienceName — 対象に割り当てられた利用者の名前。
- id — 対象に割り当てられた利用者の ID。
- url — 対象に割り当てられた利用者への URL。

Audience Target Assignment
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `groupName` —対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- `isMatch` — 対象が現在のコンテキストに一致するか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `targetType` — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。
- `targetValue` — 対象の値。

Scope
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `name` — 対象の範囲の名前。
- `value` — 対象の範囲の値。

Target
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `audience` — 対象に割り当てられた利用者。
- `groupName` —対象のグループ名。グループによって、関連する対象と利用者のペアがまとめられます。
- `id` — 対象の ID。
- `priority` —対象の優先度。グループ内で、優先度によって、ユーザが複数の利用者に一致する場合にどの対象が返されるかが決まります。
- `publishStatus` — 対象の公開状況。値は次のとおりです。
  - `Draft`
  - `Live`
- `scope` — 対象の範囲のリスト。
- `targetType` — 対象の種別。対象となるデータの性質を示します。
- `targetValue` — 対象の値。
- `url` — 対象への URL。

Target Collection
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `targets` — パーソナライズの対象のリスト。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API に、項目間の絞り込みとユニーク数を記述する新しいプロパティが追加されました。

変更されたリソース

`reports/{report_id}/` および `reports/{report_id}/describe/` リソースで、行レベルの数式、項目間の絞り込み、およびユニーク数を記述するプロパティが新規追加および変更されました。

レポート (/services/data/v47.0/analytics/reports/*{report_id}*/ および /services/data/v47.0/analytics/reports/*{report_id}*/describe/)

reportMetadata オブジェクトで、新規プロパティ filterType が追加され、プロパティ aggregates が変更されました。

プロパティ	型	説明

filterType	String	レポートデータの絞り込みに使用する値の型を記述します。有効な値は、次のとおりです。
		• fieldToField — ある項目の値を別の項目の値と比較してレポートデータを絞り込みます。
		• fieldValue — ある項目の値を定義された値と比較してレポートデータを絞り込みます。
		• null — null の場合、filterType はデフォルトの fieldValue に設定されます。
		次の例では、最初の検索条件は、Amount (金額) 項目を Projected Amount (予想金額) 項目と比較する、項目間の絞り込みです。2 つ目の検索条件は、行レベルの数式が 0 より大きい値を返したレコードを返す、項目の絞り込みです。
		`"reportFilters" : [ {`
		`"column" : "AMOUNT",`
		`**"filterType" : "fieldToField",**`
		`"isRunPageEditable" : true,`
		`"operator" : "notEqual",`
		`"value" : "PROJECTED_AMOUNT"`
		`}, {`
		`"column" : "CDF1",`
		`**"filterType" : "fieldValue",**`
		`"isRunPageEditable" : true,`
		`"operator" : "greaterThan",`
		`"value" : "0"`
		`} ]`

aggregates	String の配列	aggregates プロパティでは、新しい集計種別 u!*{column_name}* がサポートされます。 u!*{column_name}* は、指定された *{column_name}* の値のユニーク数を表します。たとえば、u!*AccountName* は、AccountName 項目に含まれる取引先名の値のユニーク数を返します。

reportTypeMetadata オブジェクトに次の 2 つの新規プロパティが追加されました。

プロパティ	型	説明
`fieldToFieldFilterable`	Boolean	項目間の絞り込みで項目を参照できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
`uniqueCountable`	Boolean	項目がユニーク数をサポートするか(`true`)、否か(`false`)を示します。

関連トピック:

Reports and Dashboards REST API Developer Guide (Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザインターフェース API

新しいオブジェクトを使用し、MRU リストビューにレコードを追加し、新しいアプリケーション種別を特定します。

最後に使用した (MRU) リストビューにレコードを追加

MRU リストビューにレコードを追加するには、これらのリソースで新しい `updateMru` パラメータを `true` に設定します。

- `/ui-api/records/batch/{recordIds}`
- `/ui-api/records/{recordId}`
- `/ui-api/record-ui/{recordIds}`

新しいアプリケーション種別を特定

アプリケーション応答の新しい `appType` プロパティにより、Classic、Community、Connected、Lightning の 4 つの異なるアプリケーションの種別が特定されます。

さらに、`uiType` プロパティは非推奨です。代わりに、`appType` を使用してください。

アプリケーション応答を返すリソースのリストを表示するには、『User Interface API Developer Guide (ユーザインターフェース API 開発者ガイド)』の「Manage Apps (アプリケーションの管理)」を参照してください。

電話で接続アプリケーションをサポート

接続アプリケーションが `Small` フォーム要素でサポートされるようになりました。そのため、アプリケーション応答に `formFactor=Small` の要求の接続アプリケーションが含まれ、アプリケーション応答の `formFactors` プロパティに接続アプリケーションの `Small` 値が含まれます。

オブジェクト情報プロパティ

オブジェクト情報ディレクトリエントリ応答に 2 つの新しいプロパティが追加されました。

- `keyPrefix` — オブジェクトのキープレフィックス。
- `nameFields` — オブジェクトの名前項目の API 参照名のリスト。ほとんどのオブジェクトには 1 つの名前項目があります。たとえば、注文オブジェクトには 1 つの名前項目 `OrderNumber` があります。ただし、名と姓を使用するオブジェクトには複数の名前項目があります。たとえば、取引先責任者オブジェクトには次の名前項目があります: `FirstName`、`LastName`、`Name`。

グローバルナビゲーション項目を並び替え

アプリケーションのグローバルナビゲーション項目の順序を並び替えたり、ナビゲーション項目を追加したりするには、新しい `PUT /ui-api/apps/{appId}/user-nav-items` リソースを要求します。更新された順序は、デスクトップ環境とモバイル環境で保持されます。

サポートされるオブジェクト

ユーザインターフェース API で次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- BusinessMilestone
- BusinessProfile
- CareProgram
- CareProgramEnrollee
- Claim
- ClaimCase
- ClaimItem
- ClaimParticipant
- CoverageType
- CustomerProperty
- DataStreamDefinition
- ElectronicMediaGroup
- InsuranceClaimAsset
- InsurancePolicy
- InsurancePolicyAsset
- InsurancePolicyCoverage
- InsurancePolicyMemberAsset
- InsurancePolicyParticipant
- InsuranceProfile
- LoanApplicant
- LoanApplicationLiability
- OrderItemSummaryChange
- OrgMetric
- OrgMetricScanResult
- OrgMetricScanSummary
- PersonLifeEvent
- PriceAdjustmentSchedule
- Producer
- ProducerPolicyAssignment
- ProductCoverage
- ProductMedia
- RetailVisitWorkTaskOrder
- SecuritiesHolding
- WebStoreSearchProdSettings

- WorkerCompCoverageClass

リストビューリソースと MRU **リソースでは、次の新しいオブジェクトを含めて、サポートされるオブジェクトのサブセットがサポートされます。**

- BusinessMilestone
- BusinessProfile
- Claim
- ClaimCase
- ClaimItem
- ClaimParticipant
- CoverageType
- CustomerProperty
- DataStreamDefinition
- InsuranceClaimAsset
- InsurancePolicy
- InsurancePolicyAsset
- InsurancePolicyCoverage
- InsurancePolicyMemberAsset
- InsurancePolicyParticipant
- InsuranceProfile
- LoanApplicant
- LoanApplicationLiability
- PersonLifeEvent
- Producer
- ProducerPolicyAssignment
- ProductCoverage
- RetailVisitWorkTaskOrder
- SecuritiesHolding
- WorkerCompCoverageClass

Bulk API 2.0: レポートされた結果でのオーバーフローエラーの回避

Bulk API 2.0 **では、**1 **つのコールが変更されています。**`/services/data/v`***`XX.X`***`/jobs/ingest/`***`jobID`*** **のレスポンスボディで、**`numberRecordsFailed` **項目と** `numberRecordsProcessed` **項目の型が** int **から** long **に変更されました。**

理由: この変更により、レポートされた結果の項目数が多い場合でもオーバーフローエラーを回避できます。

Tooling API

Tooling API **では、オブジェクトが新規追加および変更されました。**

『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API **リファレンスおよび開発者ガイド)』には、**Tooling API **に関する情報がすべて含まれています。**

このセクションの内容:

Tooling API
Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

Field Service

REST インターフェースを使用したタイムシートテンプレートメタデータの公開
TimeSheetTemplate オブジェクトは、Field Service Lightning でタイムシートを作成するためのテンプレートを表します。

ケース管理

登録者がコピーおよびカスタマイズできる戦略テンプレートを作成
RecommendationStrategy オブジェクトで `IsTemplate` 項目を使用します。この項目は API バージョン 44.0 で導入され、*『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)』* で文書化されました。

コミュニティ

Salesforce CMS コンテンツタイプを照会および管理(カスタムコンテンツタイプは、Salesforce CMS Lightning アプリケーションで定義済み項目を含むフォームとして表示)
新しい ManagedContentType および ManagedContentNodeType オブジェクトを使用します。

開発

変更データキャプチャチャネルおよびそのメンバーを作成、管理、および照会
新しい PlatformEventChannel オブジェクトと PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用して変更データキャプチャチャネルおよびそのメンバーを管理します。カスタムチャネルを作成、削除、照会できます。また、標準およびカスタムチャネルのメンバーを作成、削除、照会することもできます。

メタデータコンポーネントに連動関係があるか削除しても問題ないかを判断
新しい MetadataComponentDependency オブジェクトを使用します。詳細は、「MetadataComponentDependency クエリを使用した連動関係の分離 (ベータ)」を参照してください。

新しいソースメンバー行を生成する変更を発生させたユーザを特定
SourceMember オブジェクトで新しい `ChangedBy` 項目を使用します。

非推奨: SourceMember オブジェクトの `RevisionNum` 項目を非推奨
代わりに、SourceMember で新しい `RevisionCounter` 項目を使用します。`RevisionCounter` は、ソースがスクラッチ組織に転送されたときにカウントをリセットしません。

データ保護とプライバシー

項目のデータに関連するコンプライアンス法、定義、または規制を示す
既存の FieldDefinition オブジェクトで新しい `ComplianceGroup` 項目を使用します。

グローバリゼーション

カスタム表示ラベルを作成、管理、および照会

API バージョン 38.0 以降で使用できる ExternalString オブジェクトは、翻訳可能な UI コンポーネントのカスタム表示ラベルを表します。

パッケージ化

第 2 世代管理パッケージまたはロック解除済みパッケージでコードカバー率を計算

Package2VersionCreateRequest オブジェクトで新しい `CalculateCodeCoverage` 項目を使用します。

第 2 世代管理パッケージまたはロック解除済みパッケージでコードカバー率の計算を確認

Package2Version オブジェクトで `HasPassedCodeCoverageCheck` 項目と `CodeCoverage` 項目を使用します。

コンポーネントがロック解除済みパッケージのものであるかどうかを特定

`ManageableState` 項目で新しい `installedEditable` 列挙と `deprecatedEditable` 列挙を使用します。

Salesforce 全体

動作の変更: API バージョン 44.0 以前では、Tooling API を使用してゲストユーザモードで User オブジェクトの項目をクエリできます。API バージョン 45.0 以降では、SOAP API を使用してゲストユーザモードでこのデータを取得します。

User 項目は、SOAP API バージョン 45.0 以降で公開されます。User は、引き続き Tooling API で「設定を参照」権限のあるユーザプロファイルに公開されます。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

一部の設定は、新規および既存のメタデータ型の Boolean 項目としても公開されました。詳細は、「メタデータ API で公開される設定」を参照してください。

Salesforce 全体

機能の発見と採用のためのアプリケーション内の案内応答画面の作成

正式リリースされました。新しい `customApplication` 項目を含む `Prompt` メタデータ型を使用します。また、アクションボタンの URL の文字数制限が増加しました。この応答画面は、組織へのインストール時に公開状況を保持するようになりました。たとえば、パッケージでこれらの応答画面が有効な場合、インストール後にも有効になります。

コラボレーション売上予測

商品提供日またはスケジュール日によってロールベースの各商品ファミリの売上予測種別の一意の API 参照名を取得

以前は将来の使用のための予約の対象でしたが、ForecastingSettings 型の `Name` 項目でこれらの値を使用できるようになりました。

- `LineItemQuantityProductDate`: 商品提供日別商品ファミリ数量

- LineItemQuantityScheduleDate: スケジュール日別商品ファミリ数量
- LineItemRevenueProductDate: 商品提供日別商品ファミリ収益
- LineItemRevenueScheduleDate: スケジュール日別商品ファミリ収益

非推奨: ForecastingSettings 型の Name 項目の *Territory_Model_NameN*_ProductFamily 値を非推奨
ForecastingSettings 型の Name 項目で、*Territory_Model_NameN*_ProductFamily 値が廃止されました。*Territory_Model_NameN* はすべてのテリトリー売上予測種別を表すようになりました。ここで、*Territory_Model_Name* は API の有効なテリトリーモデルの名前であり、後ろに *N* が続く場合があります。*N* は自動生成される数値で、テリトリー売上予測種別を識別します。

削除: ForecastingSettings 型の displayCurrency 項目を削除
ForecastingSettings 型の displayCurrency 項目は削除されました。代わりに、defaultsToPersonalCurrency を使用します。defaultsToPersonalCurrency は Boolean 項目であるため、こちらのほうがスクラッチ組織での実装が簡単です。

コミュニティ

ホワイトリストに登録されたサイトをプログラムでコミュニティに追加 (パイロット)
ExperienceBundle 型で新しい ScriptSrcTrustedSite ファイルと [パーソナライズ活動] ファイルを使用します。

Salesforce CMS コンテンツの独自のカスタムコンテンツ構造を作成
新しい ManagedContentType メタデータ型を使用します。

廃止: ネットワークの NavigationLinkSet サブタイプは、新しい NavigationMenu 型に置き換えられます。
API バージョン 47.0 以降では、NavigationMenu を使用してください。

カスタマイズ

フォーム要素でレコードページのコンポーネントの表示ルールを設定
FlexiPage 型の UiFormulaCriterion サブタイプの leftValue 項目で、レコードページのコンポーネントの {!$Client.FormFactor} 式がサポートされるようになりました。

Lightning アプリケーションをモバイルでサポート
CustomApplication 型の formFactors 項目で、Lightning アプリケーションの Small 列挙値がサポートされるようになりました。

カスタムタブ

Lightning Web コンポーネントをカスタムタブに追加
既存の CustomTab 型で新しい lwcComponent 項目を使用します。

開発

変更データキャプチャチャネルメンバーを追加および削除
イベントチャネルメンバーに詳細にアクセスするために新しい PlatformEventChannelMember 型を使用します。以前は、チャネルメンバーは PlatformEventChannel 定義に含まれていました。

削除: PlatformEventChannel の `channelMembers` 項目を削除
PlatformEventChannel の `channelMembers` 項目は API バージョン 47.0 で削除されました。代わりに、新しい PlatformEventChannelMember 型を使用します。

パッケージ内の Apex コードのみがカスタムメタデータ型にアクセスできるようにすることでカスタムメタデータ値を保護
CustomObject 型で `visibility` 項目の新しい `PackageProtected` 値を使用します。

権限セットを使用した特定のカスタムメタデータ型へのアクセス権の付与
PermissionSet 型で新しい `customMetadataTypeAccesses` 項目を使用します。

プロファイルを使用した特定のカスタムメタデータ型へのアクセス権の付与
Profile 型で新しい `customMetadataTypeAccesses` 項目を使用します。

非推奨: OrgPreferenceSettings を非推奨
代わりに、有効または無効にする機能に適した Settings 型を使用します。多数の設定がメタデータ API で新規および既存のメタデータ型の Boolean 項目として公開されました。詳細は、「メタデータ API で公開される設定」を参照してください。

削除: GlobalPicklistValue メタデータ型を削除
代わりに、PicklistValue メタデータ型を使用します。以前に GlobalPicklistValue から継承された PicklistValue 項目は、PicklistValue に移行されました。

選択リストで使用される値を定義
PicklistValue 型で新しい `color`、`default`、`description`、`isActive` 項目を使用します。

データ保護とプライバシー

項目のデータに関連するコンプライアンス法、定義、または規制を示す
既存の CustomField 型で新しい `ComplianceGroup` 項目を使用します。

削除: CustomObject 型から `dataStewardGroup` 項目を削除
`dataStewardGroup` 項目は使用されなくなりました。

削除: CustomObject 型から `dataStewardUser` 項目を削除
`dataStewardUser` 項目は使用されなくなりました。

Einstein Next Best Action

戦略をテンプレート化
RecommendationStrategy メタデータ型で `isTemplate` 項目を使用します。

フロー

フローへのアクセスが有効化されたプロファイルまたは権限セットに制限されていることを示唆
Flow メタデータ型で新しい `isAdditionalPermissionRequiredToRun` 項目を使用します。

フロー画面項目の条件付き表示ルールをリスト、説明、取得、挿入
Flow の FlowScreenField サブタイプの新しい `visibilityRule` 項目を使用します。

変数と出力が自動的に処理されることを示唆
Flow の FlowRecordLookup サブタイプと FlowScreenField サブタイプで新しい `storeOutputAutomatically` 項目を使用します。

最初のレコードのみが返されて [レコードを取得] 要素に保存されることを示唆
Flow の FlowRecordLookup サブタイプで新しい `getFirstRecordOnly` 項目を使用します。

フローの開始時にスケジュール
Flow メタデータ型で新しい `start` 項目を使用します。

モバイル接続アプリケーション

モバイル接続アプリケーションのパッケージ化属性を管理
新しい MobileApplicationDetail 型を使用します。

ネットワーク

認証されていないゲストユーザにコミュニティの表示を許可
Network 型で新しい `enableGuestMemberVisibility` 項目を使用します。

パッケージ化

コンポーネントがロック解除済みパッケージのものであることを特定
RetrieveResult 型の `manageableState` 項目で新しい `installedEditable` および `deprecatedEditable` 列挙を使用します。

パーソナライズ

利用者の条件の追加、更新、および削除
Audience メタデータ型で新しい `criteria` 項目を使用します。

削除: Audience メタデータ型の `criterion` 項目
代わりに、Audience メタデータ型で新しい `criteria` 項目を使用します。

利用者の対象の追加、更新、および削除 (パイロット)
Audience メタデータ型で新しい `targets` 項目を使用します。

セキュリティと ID

API 応答にコンシューマの秘密を含める
AuthProvider メタデータ型で新しい `sendSecretInApis` 項目を使用します。

レポートとダッシュボード

行レベルの数式をレポートに適用
Report メタデータ型で `ReportCustomDetailFormula` 項目を使用します。

サービス

フィールドサービス技術者の予定を作成および管理
メタデータ API で新しい EmbeddedServiceAppointmentSettings 型を使用します。

EmbeddedServiceFieldService 型を廃止
EmbeddedServiceFieldService 型の代わりに、メタデータ API で新しい EmbeddedServiceAppointmentSettings 型を使用します。

ナレッジ記事を共有するためのより多くのチャネル種別を有効化
ChannelLayout の `enabledChannels` 項目で新しい `Chat`、`Messaging`、および `Social` 値を使用します。これらの追加の値は、Lightning Knowledge が有効になっている場合に使用できます。

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) 信頼済みサイトの Field Service Lightning モバイル拡張情報を指定
新しい `mobileExtension` 項目と `FieldServiceMobileExtension` 列挙を CspTrustedSite 型と一緒に使用します。

共有

認証されていないユーザにレコードアクセスを許可するゲストユーザ共有ルールを作成
新しい SharingGuestRule 型を使用します。

ゲストユーザとレコードを共有
SharedTo 型で新しい `guestUser` 項目を使用します。この項目は、SharingGuestRule 型を使用する場合にのみ使用できます。

メタデータ API で公開される設定

一部の設定が メタデータ API でメタデータ型の Boolean 項目として公開されました。

セールス

取引先の項目履歴管理を有効化または無効化
AccountSettings メタデータ型で新しい `enableAccountHistoryTracking` 項目を使用します。

取引先責任者を複数の取引先に関連付けることをユーザに許可または禁止
AccountSettings メタデータ型で新しい `enableContactToMultipleAccounts` 項目を使用します。

売上予測でカスタム会計期間を使用
CompanySettings メタデータ型で新しい `enableCustomFiscalYear` 項目を使用します。

売上予測で売上予測所有者の個人設定の通貨を使用
ForecastingSettings メタデータ型で新しい `defaultToPersonalCurrency` 項目を使用します。

エンタープライズテリトリー管理を有効化または無効化
Territory2Settings メタデータ型で新しい `enableTerritoryManagement2` 項目を使用します。

メール送信、セキュリティコンプライアンス、リレー設定、システム通知を設定
新しい EmailAdministrationSettings メタデータ型を使用します。

Engage for Outlook、Outlook インテグレーション、Gmail インテグレーション、Salesforce Inbox を設定
新しい EmailIntegrationSettings メタデータ型を使用します。

商談商品と商談商品スケジュールの標準の入力規則とトリガを適用
OpportunitySettings メタデータ型で新しい `doesEnforceStandardOpportunitySaveLogic` 項目を使用します。

商談項目の項目履歴管理を有効化または無効化
OpportunitySettings メタデータ型で新しい `enableOpportunityFieldHistoryTracking` 項目を使用します。

ユーザが商談分割を編集したときにメンバーを自動的に商談チームに追加するかどうかを設定
OpportunitySettings メタデータ型で新しい `doesAutoAddSplitOwnerAsOpportunityTeamMember` 項目を使用します。

ユーザのパスが折りたたまれるまで展開されたままにするかどうかを設定
PathAssistantSettings メタデータ型で新しい `canOverrideAutoPathCollapseWithUserPref` 項目を使用します。

ボイスメールおよび Voice コール機能を設定
新しい VoiceSettings メタデータ型を使用します。

拡張されたメモを有効化し、ユーザがメモから ToDo を作成できるかどうかを設定
新しい EnhancedNotesSettings メタデータ型を使用します。

ユーザがメールテンプレートのフォルダを作成および管理できるかどうかを設定
新しい EmailTemplateSettings メタデータ型を使用します。

どの項目を保持してどの機能を有効にするかなど、リードが商談に変換される方法を設定
新しい LeadConfigSettings メタデータ型を使用します。

ユーザがモバイルデバイスで Einstein 取引先インサイトにアクセスできるかどうかを設定
AccountSettings メタデータ型で新しい `enableAccountInsightsInMobile` 項目を使用します。

ソーシャル CRM で使用可能なソーシャルメディアの種別を設定
新しい SocialProfileSettings メタデータ型を使用します。

関連付けられた商談のない見積の作成をユーザに許可
QuoteSettings メタデータ型で新しい `enableQuotesWithoutOppEnabled` 項目を使用します。

インサイドセールスチームをサポートして生産性が向上するように High Velocity Sales を設定
新しい `HighVelocitySalesSettings` メタデータ型を使用します。

Lightning Experience でのユーザリストビューカレンダーの作成と表示をユーザに許可
ActivitiesSettings メタデータ型で新しい `enableUserListViewCalendars` 項目を使用します。

Pardot でマーケティングオートメーションを設定
新しい PardotSettings メタデータ型を使用します。

取引先責任者の活動をロールアップして、取引先責任者の主取引先に表示
新しい `enableRollUpActivToContactsAcct` メタデータ型を使用します。

コマース

Lightning 注文管理を有効化 (終了したパイロット)
新しい OrderManagementSettings メタデータ型を使用します。

サービス

ナレッジ検索でキーワードのオートコンプリートを有効化
KnowledgeSettings メタデータ型で新しい `enableKnowledgeKeywordAutoComplete` 項目を使用します。

ナレッジ検索で記事タイトルのオートコンプリートを有効化
KnowledgeSettings メタデータ型で新しい `enableKnowledgeTitleAutoComplete` 項目を使用します。

テキストを強調表示するようにナレッジ記事の検索結果を設定
KnowledgeSettings メタデータ型で新しい `enableKnowledgeArticleTextHighlights` 項目を使用します。

ユーザがナレッジ記事を編集するときにリッチテキスト項目エディタが自動的に読み込むかどうかを設定
KnowledgeSettings メタデータ型で新しい `enableLightningKbAutoLoadRichTextField` 項目を使用します。

作業指示を有効化
FieldServiceSettings メタデータ型で新しい `enableWorkOrders` 項目を使用します。

フィールドサービスエージェントのロケーション追跡を有効化
FieldServiceSettings メタデータ型で新しい `isLocationHistoryEnabled` 項目を使用します。

サービスリソースと在庫のロケーションを有効化
FieldServiceSettings メタデータ型で新しい `isGeoCodeSyncEnabled` 項目を使用します。

納入商品の共有を有効化
新しい SharingSettings メタデータ型を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスのソーシャル投稿の承認を有効化
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialApprovals` 項目を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスのケースの割り当てルールを有効化
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialCaseAssignmentRules` 項目を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスの有効化
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialCustomerService` 項目を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスのソーシャル人格の履歴管理を有効化
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialPersonaHistoryTracking` 項目を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスのソーシャル投稿の履歴管理を有効化
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialPostHistoryTracking` 項目を使用します。

ソーシャルカスタマーサービスの元のソーシャル投稿を親レコードとして追加
SocialCustomerServiceSettings メタデータ型で新しい `enableSocialReceiveParentPost` 項目を使用します。

Einstein ケース分類を有効にする
新しい CaseClassificationsSettings メタデータ型を使用します。

オムニチャネルのセカンダリルーティング優先度を有効化
OmniChannelSettings メタデータ型で新しい `enableOmniSecondaryRoutingPriority` 項目を使用します。

オムニチャネルを含むコンソールの読み込み時にログイン確認を表示
OmniChannelSettings メタデータ型で新しい `enableOmniAutoLoginPrompt` 項目を使用します。

メッセージのチャネルオブジェクトリンクを有効化 (ベータ)
ObjectLinkingSettings メタデータ型で新しい `enableObjectLinking` 項目を使用します。

Analytics

ビューの作成と保存を Einstein Analytics ユーザに許可
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `canEnableSavedView` 項目を使用します。

コミュニティ

コミュニティで表示されるフィード投稿を含む、内部ユーザと外部ユーザによるすべてのフィード投稿でフラグやルールなどの機能のモデレートを設定
新しい CommunitiesSettings メタデータ型を使用します。

Chatter

ドラフト投稿の自動保存、テキスト文字の顔文字への変換、適格なユーザがフィード投稿とコメントを編集できるかどうかを含めて Chatter を設定
新しい ChatterSettings メタデータ型を使用します。

モバイル

新しい Salesforce モバイルアプリケーションにオプトイン
MobileSettings メタデータ型で新しい `enableLightningOnMobile` 項目を使用します。

Salesforce for Android/iOS でオフラインのレコードアクセスをユーザに許可
MobileSettings メタデータ型で新しい `enableS1OfflinePref` 項目を使用します。

オフライン時に Salesforce for Android/iOS でレコードの作成、編集、削除を行うことをユーザに許可
MobileSettings メタデータ型で新しい `enableOfflineDraftsEnabled` 項目を使用します。

パフォーマンスを向上させるために Salesforce モバイル Web でブラウザの安全で永続的なキャッシュを有効化
MobileSettings メタデータ型で新しい `enableS1EncryptedStoragePref2` 項目を使用します。

Salesforce モバイルアプリケーションの [Today] ページにユーザ名を表示
MobileSettings メタデータ型で新しい `enablePopulateNameManuallyInToday` 項目を使用します。

カスタマイズ

API を使用して Lightning Experience を有効化できても無効化はできない
OrgPreferenceSettings メタデータ型を使用します。

マルチ通貨のサポート、通貨の有効期間を含めた通貨設定を定義
新しい CurrencySettings メタデータ型を使用します。

エンドユーザの言語選択、ロケール形式、翻訳オプションを設定
新しい LanguageSettings メタデータ型を使用します。

Einstein 予測ビルダーを有効化または無効化し、予測リストビューを表示するかどうかを示唆
新しい PredictionBuilderSettings メタデータ型を使用します。

レコードページのレコードビューと活動ビューをカスタマイズ
新しい RecordPageSettings メタデータ型を使用します。

Salesforce Classic で関連リストの非同期読み込みを有効化または無効化
UserInterfaceSettings メタデータ型で新しい `enableAsyncRelatedLists` 項目を使用します。

個人オブジェクトと同意の有効化に関するオプションを設定
新しい PartyDataModelSettings メタデータ型を使用します。

削除:廃止された OrgPreferenceSettings メタデータ型の `preferences` 項目から `ConsentManagementEnabled` 値を削除
代わりに、`PartyDataModelSettings` メタデータ型で `enableConsentManagementEnabled` 項目を使用します。

デフォルトのクイックアクション、複数ディメンションパブリッシャー、およびサードパーティのクイックアクションの組織アクション設定を管理
新しい ActionsSettings メタデータ型を使用します。

[フローの Lightning ランタイムを有効化] が有効かどうかを含む、フロー設定を定義
新しい FlowSettings メタデータ型を使用します。

部分的保存が可能かどうかを含む、呼び出し可能アクション設定を定義
新しい InvocableActionSettings メタデータ型を使用します。

Lightning Experience のユーザエンゲージメント表示、ユーザインターフェースアクセス、およびモバイルを設定
新しい LightningExperienceSettings メタデータ型を使用します。

オブジェクトのレコードを完全に削除し、空のオブジェクトとそのメタデータは保持
UserInterfaceSettings 型で新しい `enableCustomObjectTruncate` 項目を使用します。

選択リストの API 参照名の変更防止など、選択リスト設定を管理
新しい PicklistSettings 型を使用します。

データのプライバシーと同意管理の設定を定義
新しい PrivacySettings メタデータ型を使用します。

共有、表示、およびデータアクセス設定を定義
新しい SharingSettings メタデータ型を使用します。

Lightning Experience の移行と採用、ユーザエンゲージメントと採用アシスタント、および採用アプリケーション関連の機能設定の管理
新しい UserEngagementSettings メタデータ型を使用します。

[設定] の代わりに [私の設定] でユーザの個人設定を表示し、再編成された [設定] ペインをヘッダーでアクセス可能にする
ProductSettings メタデータ型を使用します。

[設定]サイドバーの検索ボックスを拡張して、カスタム項目、カスタムオブジェクト、およびその他のサポートされている設定項目が返されるようにする
SearchSettings メタデータ型を使用します。

セキュリティと ID

イベントモニタリング、プラットフォームイベント、およびストリーミング API を設定
新しい EventSettings メタデータ型を使用します。

アプリケーション環境設定を定義
新しい AppExperienceSettings メタデータ型を使用します。

接続アプリケーションを設定
新しい ConnectedAppSettings メタデータ型を使用します。

任意のユーザとしてのログインを管理者に許可
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableAdminLoginAsAnyUser` 項目を使用します。

セルフリセットの setPassword() API を有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableSetPasswordInApi` 項目を使用します。

1 日以上のパスワードの有効期限が必要
SecuritySettings メタデータ型で新しい `minimumPasswordlLifetime` 項目を使用します。

ユーザが証明書を使用して認証できるようにする
SecuritySettings メタデータ型で新しい `allowUserAuthenticationByCertificate` 項目を使用します。

メールアドレスの変更に対してメール確認が必要 (Lightning コミュニティの外部ユーザに適用)
SecuritySettings メタデータ型で新しい `canConfirmEmailChangeInLightningCommunities` 項目を使用します。

Lightning Login を許可
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableLightningLogin` 項目を使用します。

Lightning Login ユーザ権限のあるユーザのみ Lightning Login を許可
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableLightningLoginOnlyWithUserPerm` 項目を使用します。

SMS による ID 検証を有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableSMSIdentity` 項目を使用します。

ユーザが物理的なセキュリティキー (U2F) を使用して認証できるようにする
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableU2F` 項目を使用します。

ログアウトするまでログイン情報を保存
SecuritySettings メタデータ型で新しい `hasRetainedLoginHints` 項目を使用します。

ユーザの切り替えを有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `hasUserSwtiching` 項目を使用します。

代理認証コールアウトの強制実行を有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableForceDelegatedCallout` 項目を使用します。

複数の SSO 設定を有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableMultipleSamlConfigs` 項目を使用します。

SAML を使用したジャストインタイムプロビジョニングを有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableSamlJitProvisioning` 項目を使用します。

SAML SSO を有効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableSamlLogin` 項目を使用します。

Salesforce 組織との間のすべての接続で TLS 1.2 の使用を要求
SecuritySettings メタデータ型で新しい `isTLSv12Required` 項目を使用します。

Salesforce のコミュニティ、サイト、およびポータルとの間のすべての接続で TLS 1.2 の使用を要求
SecuritySettings メタデータ型で新しい `isTLSv12RequiredCommunities` 項目を使用します。

非推奨: SecuritySettings 型の `enableRequireHttpsConnection` 項目を非推奨
`enableRequireHttpsConnection` 項目は今後のリリースで削除されます。

項目履歴の削除を有効化または無効化
UserInterfaceSettings 型で新しい `enableDeleteFieldHistory` 項目を使用します。

[ユーザ管理設定] から連絡先のない外部 ID ユーザを作成
UserManagementSettings メタデータ型で新しい `enableContactlessExternalIdentityUsers` 項目を使用します。

特定ユーザのデータをスクランブル
UserManagementSettings メタデータ型で新しい `enableScrambleUserData` 項目を使用します。

項目履歴の削除を有効化または無効化
UserInterfaceSettings 型で新しい `enableDeleteFieldHistory` 項目を使用します。

URL オプションおよびユーザの [私のドメイン] サブドメインの操作を設定
新しい MyDomainSettings メタデータ型を使用します。

サポートにログインアクセス権を付与することをユーザに許可
SecuritySettings 型で新しい `CanUsersGrantLoginAccess` 項目を使用します。

顧客が指定した鍵のオプションや鍵派生設定など、鍵素材設定を指定
新しい EncryptionKeysSettings メタデータ型を使用します。

スキームオプション、アクセス、暗号化可能な項目など、暗号化ポリシー設定を定義
新しい PlatformEncryptionSettings メタデータ型を使用します。

開発

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成を有効化または無効化
SecuritySettings メタデータ型で新しい `enableAuraSecureEvalPref` 項目を使用します。

集計値の追跡と逐次実行を有効化し、Apex テストで自動採番の欠落発生を防ぎ、Apex のメールでデバッグログの詳細を除外、および他の Lightning コンポーネントの Apex 設定
新しい ApexSettings メタデータ型を使用します。

削除: 廃止された OrgPreferenceSettings メタデータ型の `preferences` 項目から `ApexApprovalLockUnlock` 値を削除
代わりに、新しい ApexSettings メタデータ型で新しい `enableApexApprovalLockUnlock` 項目を使用します。

カスタムメタデータとカスタム設定を使用できるかどうかを管理
新しい SchemaSettings メタデータ型を使用します。

組織のリリース動作を有効化または無効化
新しい DeploymentSettings メタデータ型を使用します。

myTrailhead

myTrailhead のアクセスおよび権限管理を有効化
新しい TrailheadSettings メタデータ型を使用します。

関連トピック:

メタデータ API を使用したプログラムでのプラットフォーム暗号化設定の有効化

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API では、ユーティリティアイコンの色をカスタマイズするメソッドが更新されました。

対象: これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

`setUtilityIcon()` メソッドの使用時に、ユーティリティバーで、成功、警告、またはエラーを示すユーティリティの色を変更する
`options` 引数で新しい `iconVariant` 値を使用します。

`setPanelHeaderIcon()` メソッドの使用時に、ユーティリティのパネルヘッダーで、警告、またはエラーを示すユーティリティのアイコンの色を変更する
`options` 引数で新しい `iconVariant` 値を使用します。

`getUtilityInfo()` メソッドの使用時に合、ユーティリティのアイコンとそのパネルアイコンの SLDS アイコンの色のバリエーションを返す
`utilityInfo` オブジェクトで、それぞれ新しい `utilityIconVariant` 項目と `panelHeaderIconVariant` 項目を使用します。

`getAllUtilityInfo()` メソッドの使用時に、すべてのユーティリティアイコンとユーティリティパネルアイコンの SLDS アイコンの色のバリエーションを返す
各 `utilityInfo` オブジェクトで、それぞれ新しい `utilityIconVariant` 項目と `panelHeaderIconVariant` 項目を使用します。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Salesforce CLI を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御が容易になります。新規または変更されたコマンドは `salesforcedx` v47 で使用できます。

このセクションの内容:

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール

`salesforcedx` v47 で利用できる新しいコマンドとパラメータを使用するためにプレリリースバージョンをインストールしている場合、プレリリースバージョンをアンインストールします。

新規または変更された CLI コマンド

Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v47 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

関連トピック:

Salesforce リリースノート: Lightning Web コンポーネントのローカル開発による生産性の向上 (ベータ)

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール

`salesforcedx` v47 で利用できる新しいコマンドとパラメータを使用するためにプレリリースバージョンをインストールしている場合、プレリリースバージョンをアンインストールします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法:

1. プレリリースバージョンをアンインストールします。

```
sfdx plugins:uninstall salesforcedx
sfdx update
```

2. 使用しているバージョン情報を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
sfdx plugins --core
```

3. 出力で、`salesforcedx` プラグインバージョンを探します。バージョン番号は `47.1.x` で始まります。

新規または変更された CLI コマンド

Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v47 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

ベータになった ISV ハンマーコマンド

`force:package:hammertest:list`
実行中および完了した ISV ハンマーテストの状況を一覧表示します。

`force:package:hammertest:report`
実行中の ISV ハンマーテストの状況または完了したハンマーテストの結果を返します。

`force:package:hammertest:run`
指定したパッケージバージョンと登録者組織で ISV ハンマーを実行します。

メモ: ISV ハンマーはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプ

リケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「ISV Hammer」グループに投稿してください。

新しいコマンド

以下の新しいコマンドは `salesforcedx` v47 の毎週のリリースで追加されました。

`force:auth:device:login` (ベータ)
デバイスコードを使用して組織を認証します。つまり、JWT を設定することなく、Salesforce CLI を使用して Docker コンテナまたは任意のヘッドレス環境内で認証を行うことができます。詳細は、Salesforce ヘルプの「OAuth 2.0 デバイス認証フロー」または『*Salesforce Extensions for Visual Studio Code User Guide (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能ユーザガイド)*』の「Remote Development (リモート開発)」を参照してください。

メモ: `force:auth:device:login` コマンドはベータ版で早期にリリースされました。皆さまのフィードバックをお寄せください。重要な問題が含まれていたり、大幅な変更が行われたり、廃止されたりする可能性があります。問題が発生した場合、または機能強化を求める場合は、GitHub の問題を登録してください。この機能の使用は、Salesforce.com Program Agreement (Salesforce.com プログラム契約) に準拠します。

変更されたコマンド

次のコマンドの機能が `salesforcedx` v46 の毎週のリリースまたは v47 のプレリリースで変更されました。

`force:org:delete -u MyDevSandbox`
CLI で作成された Sandbox の削除がサポートされるようになりました。

`force:package:install --securitytype | -s`
デフォルト値を AllUsers から AdminsOnly に変更しました。

`force:source:status, force:source:push, force:source:pull`
ソース追跡がスクラッチ組織の Einstein ボットメタデータでサポートされます。

新しいパラメータ

`salesforcedx` v47 の新しいパラメータは次のとおりです。

`force:package:hammertest:run --apextestinterface | -n` (ベータ)
アップグレードの検証後に、このインターフェースを実装した登録者組織で Apex テストを実行します。

`force:package:version:create`
このコマンドにはいくつかのパラメータが追加されています。

パラメータ	説明
`--codecoverage | -c`	パッケージバージョンに含まれる Apex テストを実行して、コードカバー率のパーセンテージ値を計算して保存します。

パラメータ	説明
	新しい管理パッケージバージョンをリリース済み状態に昇格するには、最小コードカバー率を満たしている必要があります。
`--postinstallscript`	管理パッケージのみの場合は、管理パッケージのインストールまたはアップグレード後に登録者組織で自動的に実行される Apex スクリプトを指定します。
`--postinstallurl`	登録者がインストール後に行う手順への URL を指定します。
`--releasenotesurl`	リリースノートへの URL を指定します。
`--uninstallscript`	管理パッケージのみの場合は、管理パッケージのアンインストール前に登録者組織で自動的に実行される Apex スクリプトを指定します。

Quip: 簡素化された設定、モバイルでの Quip 文書、新しいライブアプリケーション、Einstein Analytics ダッシュボードなど

外出先で Quip 文書を確認できます。Quip で Einstein Analytics ダッシュボードを開くことができます。Salesforce リストビューや Salesforce レポートなどの Salesforce データを Quip に埋め込むことができます。プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、ビジネスを自動化してチームの時間を節約できます。

このセクションの内容:

Salesforce への Quip の迅速な接続

Quip を Salesforce に接続するためのステップが少なくなりました。独自の OAuth プロバイダ、外部データソース、権限セットを設定する必要はもうありません。ユーザは Salesforce ログイン情報を使用して Quip にログインできるようになりました。2 つの異なるログインおよびパスワードを覚えておく必要はありません。

Quip 文書およびスプレッドシートの Salesforce レコードの追加 (正式リリース)

新しい Quip 文書コンポーネントを使用して、Quip 文書、スプレッドシート、チャットルームを Lightning アプリケーションに直接持ち込むことができます。ユーザはリッチテキスト編集、ライブ更新、コメント、@メンションなどの Quip 機能を、Salesforce を離れることなく習得できます。Quip テンプレートを作成してチームのワークフローを合理化できます。

モバイルでの Quip 文書を使用した最新情報の把握

ユーザがどこにいても Quip 文書コンポーネントを使用してその生産性を維持し、最新情報を伝達できます。Lightning アプリケーションビルダーでコンポーネントをページレイアウトに追加し、ユーザがレコードに添付された Quip 文書およびスプレッドシートをすべて Salesforce モバイルアプリケーション内で表示できるようにします。

Quip 文書からの活動の記録

チームメンバーはすべて Quip 内からコラボレーションを行い、Salesforce の活動を記録できます。Quip で会話を続けながら、進行状況を Salesforce にレポートできるようになりました。

Quip からの Salesforce リストビューの更新

Salesforce リストビューライブアプリケーションを使用してリストビューを Salesforce から Quip 文書にシームレスに追加できます。リストを最新に保ち、次のステップを共有し、リストまたは個別のアイテムにメモを追加できるため、チームは常に最新情報を把握してコラボレーションを行うことができます。

Salesforce レポートの Quip 文書への追加

シンプルな @メンションを使用してライブ Salesforce レポートを Quip 文書に挿入できます。レポートは Quip スプレッドシートに埋め込まれており、最新のレポートデータで自動更新されるため、数式を気にする必要はなくなり、ビジネスに集中できます。

同期された権限を使用したレコードに埋め込まれた Quip 文書の自動的な共有 (詳細な権限)

同期された Salesforce レコード共有権限を使用して、Salesforce レコード内の文書共有を簡略化できます。参照のみ、コメント可能、コメントおよび編集可能などの文書に対する権限を組織レベルで設定できます。レコードにアクセスできるユーザは、設定されたレベルで埋め込まれた Quip 文書を簡単に開けるようになりました。手動で各文書へのアクセス権を付与する必要はもうありません。

Quip 文書からのリンクされた Salesforce レコードの確認

Quip 文書と Salesforce のその関連レコード間で簡単に切り替えることができます。ユーザは Quip の関連付けられた文書から Salesforce のレコードにすばやくジャンプできるため、案件とメモを同時に把握できます。

Einstein Analytics ダッシュボードおよびレンズの Quip スライドへの公開

Einstein Analytics レンズ、ウィジェット、ダッシュボード全体のエクスポートした画像を使用して Quip でコラボレーションを行うことができます。Analytics の [共有] ダイアログに [Quip にエクスポート] タブと [Quip に接続] ボタンが追加されました。Quip は各スナップショットの画像を新しい Quip スライドデッキに公開します。Analytics スナップショットを公開すると、ドキュメントアクセス権を持つ Quip ユーザはデータを画像で参照できます。

プロセスとフローを使用した Quip スライドおよびスプレッドシートの自動更新

プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、プレゼンテーションを標準化し、繰り返しのスライドデッキ生成を自動化し、データを最新に保つことができます。スプレッドシートを自動的に更新するプロセスまたはフローを作成して、コンテンツをスライドデッキに追加し、チームの時間を節約できます。

Salesforce への Quip の迅速な接続

Quip を Salesforce に接続するためのステップが少なくなりました。独自の OAuth プロバイダ、外部データソース、権限セットを設定する必要はもうありません。ユーザは Salesforce ログイン情報を使用して Quip にログインできるようになりました。2 つの異なるログインおよびパスワードを覚えておく必要はありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「`Quip`」と入力し、新しいシンプルになった手順に従います。

Quip 文書およびスプレッドシートの Salesforce レコードの追加 (正式リリース)

新しい Quip 文書コンポーネントを使用して、Quip 文書、スプレッドシート、チャットルームを Lightning アプリケーションに直接持ち込むことができます。ユーザはリッチテキスト編集、ライブ更新、コメント、@メンションなどの Quip 機能を、Salesforce を離れることなく習得できます。Quip テンプレートを作成してチームのワークフローを合理化できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: ユーザはアプリケーションを切り替えることなく、作業している場所でドキュメントに対するコラボレーションを行うことができます。Quip 文書コンポーネントから作成されたすべてのドキュメントは、ファイルとして Salesforce レコードに添付されます。

レコードで文書を更新することも、豊富な編集機能を使用するために大きなビューに展開することもできます。ブラウザタブから離れることなくドキュメントの編集履歴を表示したり、会話に貢献したり、ドキュメントを新しいコラボレータと共有したりします。コメント、@メンション、ライブアプリケーション、および Quip の他のインタラクティブ機能の動作は、Quip の Web およびデスクトップアプリケーションでの動作とまったく同じです。

ワークフローをさらにスピードアップして合理化するには、テンプレートを作成します。任意の Quip 文書をテンプレートとして設定すると、チームでそのテンプレートを使用して Salesforce レコードでドキュメントをすばやく作成できます。また、差し込み印刷構文を使用して、レコードから取得した標準項目とカスタム項目を新しいドキュメントに自動的に挿入することもできます。たとえば、情報収集を標準化したり、営業活動を追跡したり、チームのチェックリストを作成したりできます。

方法: ガイド付き Quip 設定ページで Salesforce 組織を Quip サイトに接続します。[設定] で、[クイック検索] ボックスに *「Quip」* と入力し、手順に従います。Lightning アプリケーションビルダーを開いて Quip 文書コンポーネントをレコードページレイアウトにドラッグします。Lightning アプリケーションビルダーで、コンポーネントの設定を完了します。

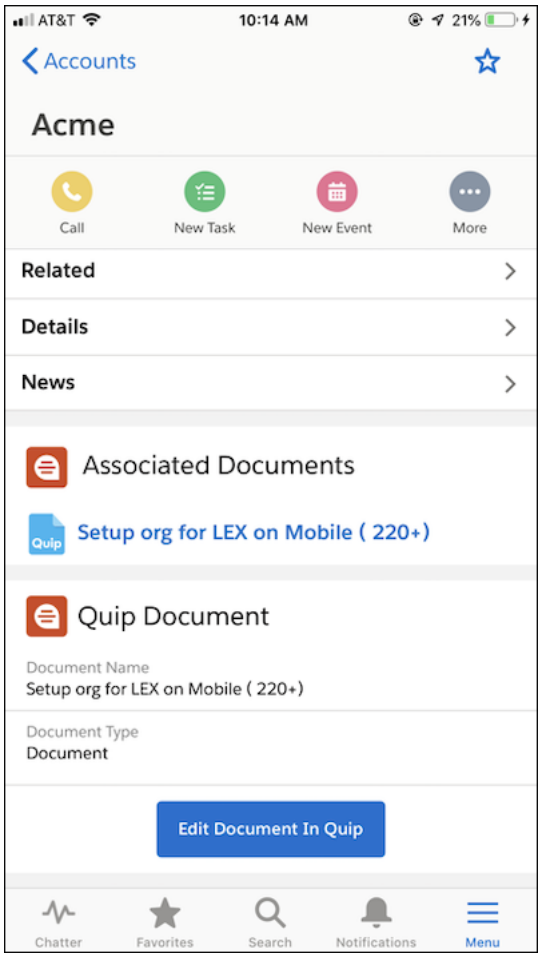
モバイルでの Quip 文書を使用した最新情報の把握

ユーザがどこにいても Quip 文書コンポーネントを使用してその生産性を維持し、最新情報を伝達できます。Lightning アプリケーションビルダーでコンポーネントをページレイアウトに追加し、ユーザがレコードに添付された Quip 文書およびスプレッドシートをすべて Salesforce モバイルアプリケーション内で表示できるようにします。

対象: この変更は、iOS 用の Salesforce Lightning Experience モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

方法: モバイルでの Quip 文書の表示を開始するには、Lightning アプリケーションビルダーを起動して Quip 文書コンポーネントをレコードページに追加します。



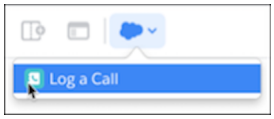
Quip 文書からの活動の記録

チームメンバーはすべて Quip 内からコラボレーションを行い、Salesforce の活動を記録できます。Quip で会話を続けながら、進行状況を Salesforce にレポートできるようになりました。

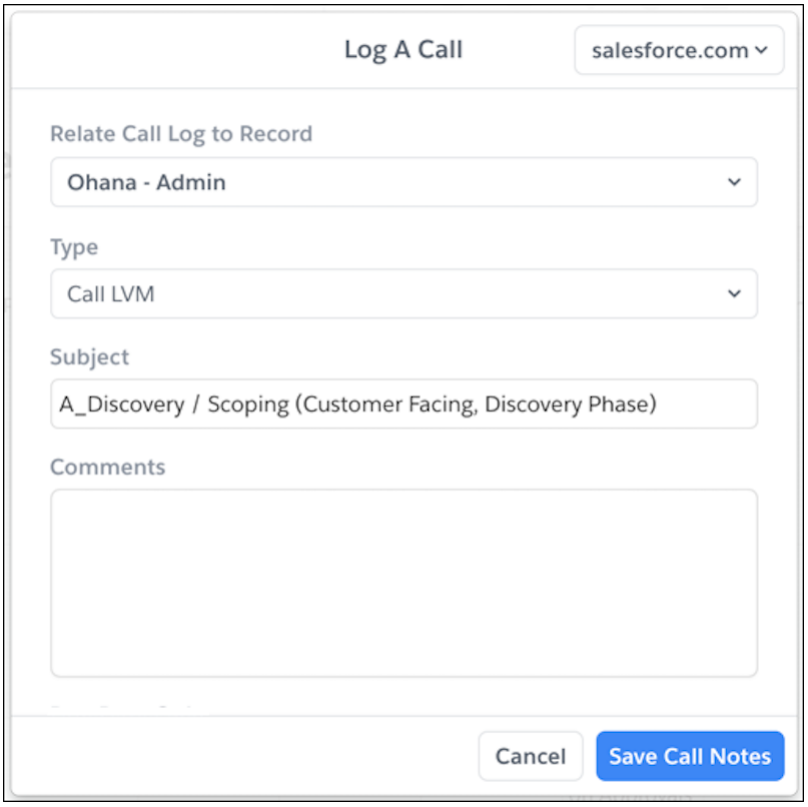
対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: 同じ場所で活動を記録し、通話メモを入力できます。Quip 文書と Salesforce を何度も切り替える必要はもうありません。活動の記録を開始するには、Quip で Salesforce Cloud をクリックします。



活動の特定の Salesforce レコードへのリンク、通話種別の指定、通話メモの追加をすべて Quip を終了せずに行うことができます。



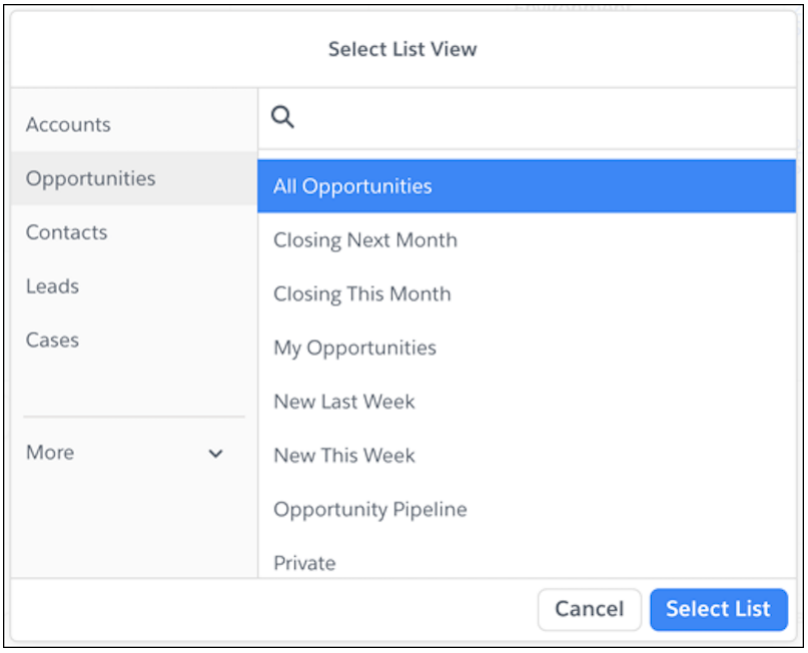
Quip からの Salesforce リストビューの更新

Salesforce リストビューライブアプリケーションを使用してリストビューを Salesforce から Quip 文書にシームレスに追加できます。リストを最新に保ち、次のステップを共有し、リストまたは個別のアイテムにメモを追加できるため、チームは常に最新情報を把握してコラボレーションを行うことができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: 取引先計画を一括更新し、品目を編集し、同僚と商談を成立させるための戦略を練ることができます。何よりも、更新を Salesforce に同期し直すことができるため、アプリケーションを何度も切り替える必要がなくなります。

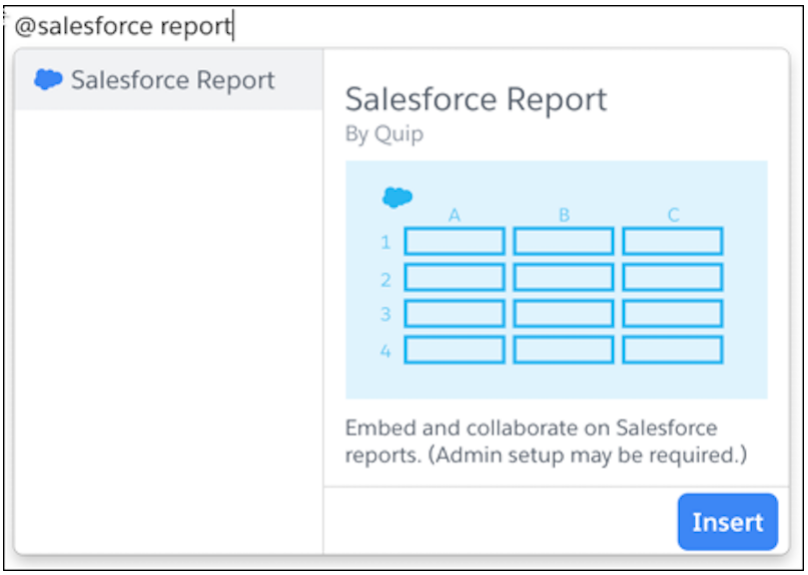


Salesforce レポートの Quip 文書への追加

シンプルな @メンションを使用してライブ Salesforce レポートを Quip 文書に挿入できます。レポートは Quip スプレッドシートに埋め込まれており、最新のレポートデータで自動更新されるため、数式を気にする必要はなくなり、ビジネスに集中できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。



同期された権限を使用したレコードに埋め込まれた Quip 文書の自動的な共有 (詳細な権限)

同期された Salesforce レコード共有権限を使用して、Salesforce レコード内の文書共有を簡略化できます。参照のみ、コメント可能、コメントおよび編集可能などの文書に対する権限を組織レベルで設定できます。レコードにアクセスできるユーザは、設定されたレベルで埋め込まれた Quip 文書を簡単に開けるようになりました。手動で各文書へのアクセス権を付与する必要はもうありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

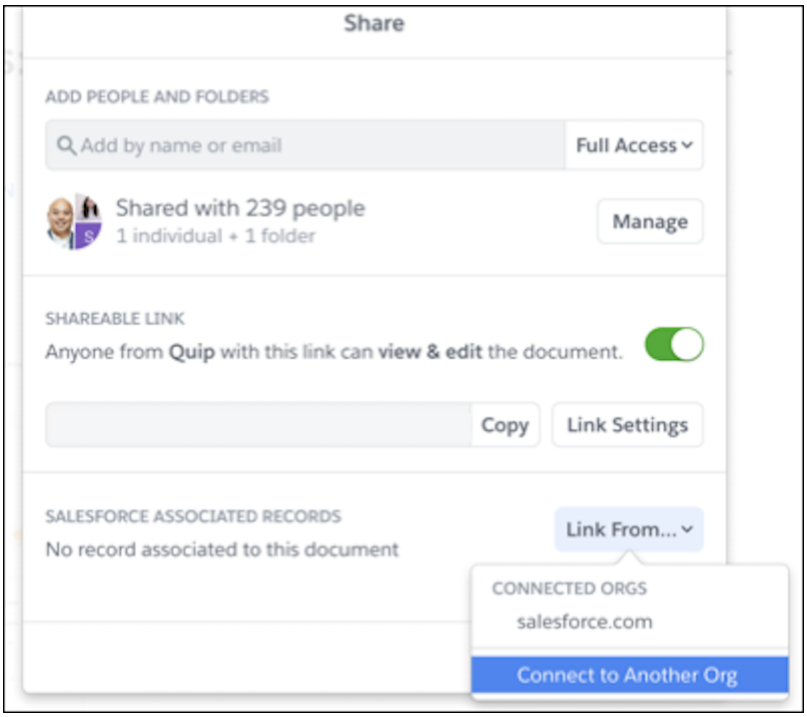
Quip 文書からのリンクされた Salesforce レコードの確認

Quip 文書と Salesforce のその関連レコード間で簡単に切り替えることができます。ユーザは Quip の関連付けられた文書から Salesforce のレコードにすばやくジャンプできるため、案件とメモを同時に把握できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: Quip で文書が Salesforce レコードにリンクされている場合に確認できるため、Quip 文書をどこで共有しているかを常に把握できます。Quip で文書を更新し、関連付けられたレコードの詳細に簡単に戻ることができます。Quip から Salesforce でも Salesforce から Quip でも、独自のワークフローを選択できるようになりました。あなた次第です。



Einstein Analytics ダッシュボードおよびレンズの Quip スライドへの公開

Einstein Analytics レンズ、ウィジェット、ダッシュボード全体のエクスポートした画像を使用して Quip でコラボレーションを行うことができます。Analytics の [共有] ダイアログに [Quip にエクスポート] タブと [Quip に接続] ボタンが追加されました。Quip は各スナップショットの画像を新しい Quip スライドデッキに公開します。Analytics スナップショットを公開すると、ドキュメントアクセス権を持つ Quip ユーザはデータを画像で参照できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

- Quip スライドへのダッシュボードとレンズの公開

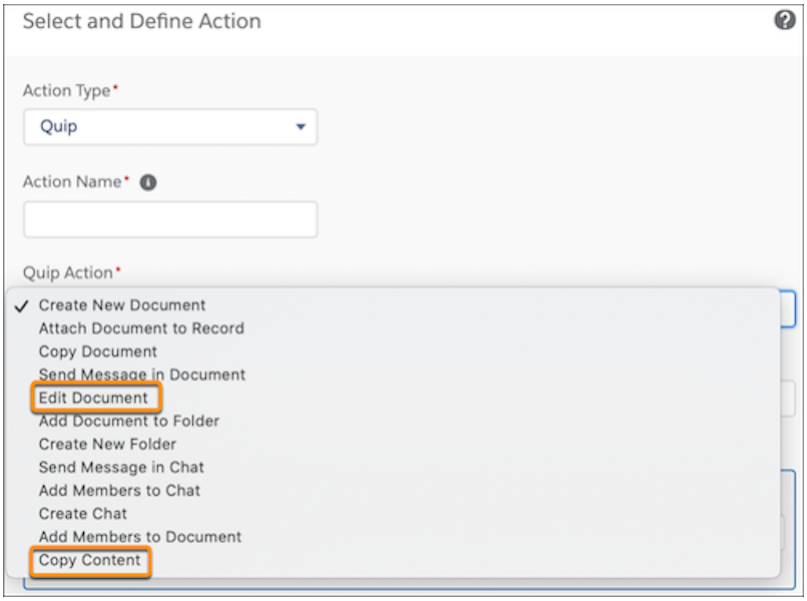
プロセスとフローを使用した Quip スライドおよびスプレッドシートの自動更新

プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、プレゼンテーションを標準化し、繰り返しのスライドデッキ生成を自動化し、データを最新に保つことができます。スプレッドシートを自動的に更新するプロセスまたはフローを作成して、コンテンツをスライドデッキに追加し、チームの時間を節約できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Quip for Salesforce プランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: プロセスビルダーおよび Flow Builder で新しい Quip アクションを使用して、Quip 文書を動的にできます。たとえば、Salesforce で商談の状況を更新するときにスライドをデッキに追加します。コンテンツを Quip 文書からスライドにシームレスにコピーするプロセスを作成すれば、スライドは常に最新に保たれ、プレゼンテーションに対応できます。「文書を編集」Quip アクションを使用して、最新の Salesforce データで Quip スプレッドシートを更新できます。



マーケティング: Audience Studio ID と Personal Social Manager

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- 2019 年 10 月リリース
- 2019 年 8 月リリース
- 2019 年 6 月リリース
- 2019 年 4 月リリース
- 2019 年 1 月リリース

関連トピック:

Marketing Cloud の概要
Marketing Cloud: 以前のリリースノート
Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

重要な更新とセキュリティの更新

このリリースには、ロケールの形式、`@AuraEnabled` Apex メソッド、アクション、およびその他の変更に関する新しい重要な更新があります。[セキュリティの更新]ページの更新と、以前にリリース済みで、新しく適用された重要な更新も確認してください。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、各更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は Salesforce により永久に有効化されます。詳細は、「重要な更新への対応」を参照してください。

[設定] の [セキュリティの更新] ページには、組織に影響するセキュリティの更新のリストがあります。各更新には、組織で実行するアクションに関するステップバイステップの推奨事項が記載されています。

新しい重要な更新

Winter '20 の新しい重要な更新は、次のとおりです。

ICU ロケール形式の有効化 (重要な更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。この新しい形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲストまたはポータルユーザを詳細に制御できるようになります。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (重要な更新)

この重要な更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (重要な更新)

この重要な更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (重要な更新)

この重要な更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用方法との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新)

[私のドメイン] に対するドメイン要求時間が短縮されます。この更新により、[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。お客様がこの更新を承認すると、Salesforce は 2020 年 7 月の自動有効化日付より前にお客様の組織の [私のドメイン] を新しいサービスに移行します。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行 (重要な更新)

Salesforce の新しい拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、従来のフレームワークは Summer '20 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (重要な更新)

この重要な更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部REST APIコールのみになります。この更新を適用すると、1つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

リリースの必須化と適切なアクションの表示 (重要な更新)

この更新により、アクション & おすすめコンポーネントでのリリースの選択が必須になります。サービスのLightningフローを設定する場合、リリースにより、システム管理者は、コンポーネントのToDoリストに表示されていないアクションが必要な場合にエージェントが開始できるアクションを制御できます。

カスタムメタデータ型への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要 (重要な更新)

「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザは、Salesforceが提供するさまざまなAPIを使用して、保護されていないカスタムメタデータ型を参照できます。「デフォルトでセキュア」なアプローチに従い、「アプリケーションのカスタマイズ」権限のないユーザの「参照」アクセスはこの更新で無効になります。この変更は、カスタムメタデータ型を直接参照するVisualforceページとLightningコンポーネントに影響します。カスタムメタデータ型については、システム管理者が特定のプロファイルまたは権限セットにアクセス権を明示的に付与することができます。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (重要な更新)

Lightningコンソールアプリケーションで、UIとのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。この重要な更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。

以前にリリース済みの重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新を依然として利用できます。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (以前にリリース済みの重要な更新)

この更新により、AccountShareレコードの`TerritoryManual`理由コードが`Territory2AssociationManual`に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。この重要な更新はSummer '19で最初に使用可能になりました。

動的に作成されたAuraコンポーネントでの関数式の作成の防止 (以前にリリース済みの重要な更新)

セキュリティと安定性を高めるために、この重要な更新では、`$A.createComponent()`または`$A.createComponents()`に渡される属性値がAura関数式として解釈されないようにします。この重要な更新はSummer '19で最初に使用可能になりました。

Sandboxの[私のドメイン]URLのホスト名の一貫性の確保 (以前にリリーズ済みの重要な更新)

Sandboxの[私のドメイン]URLからインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URLがわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com`が`MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com`に置き換えられます。この重要な更新はSummer'18で最初に使用可能になりました。

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からのインスタンス名の削除 (以前にリリース済みの重要な更新)

Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この重要な更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。この重要な更新は Summer '18 で最初に使用可能になりました。

適用済みの重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新が適用されます。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新) が 2020 年 1 月 7 日からスタート

以前は、この重要な更新が Winter '20 で有効化されると発表しました。入念な検討の結果、この機能の自動有効化を延期することを決定しました。この機能は、2020 年 1 月 7 日から 72 時間以内に有効化されます。

Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新、適用)

Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用の制限は、Summer '18 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から Salesforce にアクセスするときに HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザをお勧めします。

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (重要な更新、適用)

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の重要な更新であり、Winter '20 で適用されます。DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。代わりに、Salesforce によって公開鍵を含む TXT レコードが DNS に公開されます。鍵がサードパーティによって侵害されるリスクを軽減するため、自動的な鍵の循環も追加されます。古い方法で生成された鍵も機能しますが、Winter '20 では、新しい鍵を生成する場合、よりセキュアな方法を使用する必要があります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM 鍵のインポート機能が削除されます。

HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce 組織との間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要 (重要な更新、適用)

「コミュニティとサイトの HTTPS 接続には TLS 1.2 が必要」は、Summer '19 の重要な更新であり、2019 年 10 月 25 日に適用されます。最高レベルのセキュリティ標準を維持し、データの安全性を高めるため、Salesforce では以前のトランスポートレイヤセキュリティ (TLS) 1.1 暗号化プロトコルを無効にします。Salesforce のコミュニティ、サイト、およびポータルとの間の受信接続および送信接続では TLS 1.2 の使用が必須になります。ブラウザアクセス、API インテグレーション、およびその他の Salesforce 機能が TLS 1.2 に準拠していることを確認してください。

API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能 (重要な更新、適用済み)

「API 限定ユーザは Salesforce API のみでアクセス可能」は、Spring '19 では重要な更新で、Winter '20 で適用されます。この重要な更新により、「API 限定ユーザ」権限を持つユーザが、その他の権限に関係なく、API 経由でのみ Salesforce にアクセスできるようになります。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (セキュリティの更新と重要な更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。

セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用の制限(セキュリティの更新と重要な更新、適用済み)

この更新では、セルフ登録、ユーザへの割り当てでの標準外部プロファイルの使用が制限されます。

延期された重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新の自動有効化日付が延期されました。

管理パッケージの非グローバル Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (重要な更新、適用済み)

この重要な更新は、Spring '19 でリリースされ、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新は以前は「プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す」と呼ばれていました。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '20 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '21 に延期されました。この重要な更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

カスタム設定への直接参照アクセスには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要(重要な更新、延期)

この重要な更新は、2020 年 1 月 3 日から、Spring '20 リリースの一貫として適用されます (元々は 2019 年 9 月 6 日の予定でしたが、延期されました)。

廃止された重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新は廃止されました。これらは重要な更新コンソールから削除されており、有効化されません。

暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 (重要な更新、廃止)

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Winter '20 で自動的に有効化される予定でしたが、廃止されました。

新しいセキュリティの更新

Winter '20 の新しいセキュリティの更新は次のとおりです。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (セキュリティの更新) (ページ 392)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (セキュリティの更新) (ページ 391)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

安全なゲストユーザの組織全体のデフォルトと共有モデル (セキュリティの更新)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、非公開の組織全体のデフォルトをゲストユーザに適用します。また、ゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与するための共有メカニズムも制限します。組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織全体のデフォルト、公開グループ、キュー、手動共有を確認することをお勧めします。そして、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティの更新を適用してください。

コンテンツへのスポットライト

Trailheadのモジュール、トレイル、プロジェクトが追加され、手順動画が作成および更新されました。Manufacturing Cloud と Consumer Goods Cloud の新しいガイドを導入しました。

このセクションの内容:

Trailhead で機能を探索
楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

動画を見る (英語のみ)
ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

Consumer Goods Cloud の新しいガイドの導入
Consumer Goods Cloud の新しいガイドを導入します。『Set Up and Maintain Retail Execution (店頭施策の設定および管理)』ガイドは、システム管理者による店頭施策の設定を支援します。『Retail Execution at Your Fingertips (すぐに使える店頭施策)』ガイドは、各フィールド営業担当者が訪問活動を効率的に管理するための支援をします。期待できる主な機能として、1台のモバイルデバイスで、注文の作成を含むすべての訪問活動を計算できます。

Manufacturing Cloud の新しいガイドの導入
Manufacturing Cloud の新しいガイドを導入します。『Set Up and Maintain Manufacturing (Manufacturing の設定および管理)』ガイドは、システム管理者による Manufacturing Cloud の設定を支援します。『Enhance Your Manufacturing Sales Experience (製造販売エクスペリエンスの改善)』ガイドは、各主要取引先マネージャが日々の製造活動を効率的に管理するための支援をします。期待できる主な機能としては、販売契約、コミュニティテンプレート、取引先ベースの予測などがあります。

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュール、トレイル、プロジェクトは次のとおりです。

モジュール

Financial Services Cloud を使用したクライアント管理
世帯を把握し、口座を管理して、顧客との接触を追跡します。

トレイル

接続アプリケーションを使用してインテグレーションを構築する
外部サービスを組織に統合することを可能にする接続アプリケーションを作成、管理、使用します。

myTrailhead を使用した新しい学習エクスペリエンスの創出
ゲーム感覚で取り組めるカスタムのモジュールやトレイルを作成して公開し、社内に学びの文化を育みます。

プロジェクト

API インテグレーション用の接続アプリケーションの作成
組織への安全な API アクセス権をユーザに付与する接続アプリケーションを作成および管理します。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

- 新しい動画「Einstein Opportunity Scoring (Einstein 商談スコアリング)」では、チームが適切な商談に集中するためにスコアがどのように役立つかを示します。
- 新しい動画「Create a Story from a Dataset (データセットからのストーリーの作成)」では、Analytics データセットを使用して Einstein Discovery ストーリーを作成する方法を示します。
- 新しい動画「Explore Einstein Discovery Insights (Einstein Discovery インサイトの探索)」では、Einstein Discovery ストーリーでデータに関するインサイトを探索する方法を示します。
- 新しい動画「Work with Multiple Datasets in Explorer (エクスプローラでの複数のデータセットの操作)」では、さまざまな Einstein Analytics データセットに存在するデータを分析してビジネスの質問への回答を見つける方法を学習します。
- 新しい動画「Customize Dimension Values (ディメンション値のカスタマイズ)」では、Einstein Analytics グラフおよびテーブルのディメンション値の表示ラベルをカスタマイズしてユーザにとってより意味のある表示ラベルにする方法を学習します。
- 新しい動画「Manage Einstein Analytics Notifications (Einstein Analytics 通知の管理)」では、Einstein Analytics ダッシュボードでビジネス総計値用に定義した通知を追跡する方法を示します。
- 新しい動画「Share Analytics Apps, Dashboards, and Lenses (Analytics アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズの共有)」では、Einstein Analytics アプリケーション、ダッシュボード、およびレンズを共有するためのオプションについて学習します。
- 新しい動画「Provide Your Own Onboarding Videos Within Dashboards (ダッシュボード内の独自のオンボーディング動画の提供)」では、各ダッシュボードとそのグラフに関するカスタマイズされた指示を適切なタイミングで提供し、Analytics アプリケーションを最大限活用できるようにユーザをサポートする方法を示します。

Consumer Goods Cloud の新しいガイドの導入

Consumer Goods Cloud の新しいガイドを導入します。『Set Up and Maintain Retail Execution (店頭施策の設定および管理)』ガイドは、システム管理者による店頭施策の設定を支援します。『Retail Execution at Your Fingertips (すぐに使える店頭施策)』ガイドは、各フィールド営業担当者が訪問活動を効率的に管理するための支援をします。期待できる主な機能として、1 台のモバイルデバイスで、注文の作成を含むすべての訪問活動を計算できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Manufacturing Cloud の新しいガイドの導入

Manufacturing Cloud の新しいガイドを導入します。『Set Up and Maintain Manufacturing (Manufacturing の設定および管理)』ガイドは、システム管理者による Manufacturing Cloud の設定を支援します。『Enhance Your Manufacturing Sales Experience (製造販売エクスペリエンスの改善)』ガイドは、各主要取引先マネージャが日々の製造活動を効率的に管理するための支援をします。期待できる主な機能としては、販売契約、コミュニティテンプレート、取引先ベースの予測などがあります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。